

ミドリ ミナ

全村平地にて、西北境を錦川東北に流れ、また錦川は西部を北流し、村の西北境にて錦川に合流す。...

ミドリ 緑

【緑川】 福岡県遠賀郡香月町にあり。錦川一四萬餘坪。金丸渡業会社の稼行に係り、昭和十年には塊炭一七、二五七噸、...

【緑村】 福岡県山門郡にありし村。明治四十年、本村を撤し、大字松田・大廣園を高野町に、大字清水・河原内を山川村に併合す。...

【緑村】 熊本縣肥後國玉名郡の東北部。間に春宮村を挟みて南陽町の東方にあり。東は熊本郡に接し北は福岡縣八女郡に界す。...

筑波町にて標川に入る溪流。水無川とは大貫村の邊にて水は眞砂の下を潜りて川とも見えず、一滴づつ流るるが故なりといふ。...

ミナカタ

伊那郡の南部。飯田市の東北方一六軒、天龍川の東岸にあり。北は中澤村、南は下伊那郡生田村、東は同郡大鹿村、西は天龍川を挟みて片桐村に對す。...

ミナカ

丘に落しその落差を利用せるものなり。村の西境天龍川に峡谷をなし釜蓋峡と言ふ。村内に大草城址あり、中澤城主、中澤重利の墓、重光ここに據り、その子光康故ありて姓を井上と改む。...

ミナカミ 水上

【水上村】 群馬縣上野國利根郡の西北部。利根川上流に沿ひ、北より西は新潟縣北魚沼郡・南魚沼郡と隣す。面積五二・八・八二方軒の廣大なる地を占む。...

西流

西流し網津村に河口を開く。米産多く工業・林産・水産・畜産もあり。省線が中央を横斷し宇土驛は東方約一軒にあり。

ミドリソーズ

福岡縣伊豫國南宇和郡の北部。城邊町の北に位し、北は北宇和郡に隣接す。面積五一・九八方軒。宇和山地の西南部を占む。...

ミドリミ

武郡の東部に位し九十九里濱に臨む。九十九里濱沿岸平地の一部を占め、中部は北隣遠沼村に接し沼田の一部をなす。...

ミトン

朝鮮咸鏡南道高原郡水洞面の里名。總督府鐵道平元東部線の彌屯驛(昭和十二年設置)あり。

ミナ 水無川

茨城縣筑波郡筑波山より發し、男體と女體との間を南下し、

六九郷を産出し水上は銀銅亜鉛鐵一五七噸を産出した。國道は利根川の本支流に沿ひて西南を北走し、山間を曲折して清水峠に至り、これを越えて新潟縣に入る。...

西流

の食鹽泉。發泉向。清水峠の入口にて菅は山越の旅人の骨を休むる處なり。利根の支流湯掛曾川に臨み後方には上越國境の群山連り、空気が清く、盛夏二十七八度を越えぬ冷涼の地なり。...



ミナカ——ミナカ

スキー場あり、谷川温泉には第一スキー場(シヤンツェと休憩小屋あり)と保養野ス...

東部には丘陵間に一宮川流れ、流域には狭き耕地ありて米・麥を産し、また吠・鹿...

井原に近し。村名は荒川の上流に位するより起る。【水上】兵東縣御郡にありし村。昭和八年郡市に編入す。

を南下し南境に出でて之に沿ひつ西南に流れて隣村に出づ。南部には西流する湯山川及び西部を南下する小内川ありて...

ミナカワ

皆川村 樹木鎮下野 國下郡賀郡の西部。樹木市の西隣にして西は安藤郡と隣す。足尾山塊一支脈の東...

ミナキ

皆川庄六十三箇村の領守として登壇せらる。例祭、五月十三日。筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に下座郡三城郷あり、その地今の朝倉郡城村の邊に當る。

ミナキ

倉郡の中部。甘木町の東約二軒にあり。北部及び東部には山地起伏し西南部は筑紫野平東北の一部を占むる低平地なり。

ミナキ

を帯ぶるも地形概して平坦、南部には野洲川が西流し流域に沃野開く。米・茶・桑・栗・菜種・麥等を産し、副業として養蠶行...

ミナカ——ミナカ

ミナキ

ミナキ

ミナキ

ミナキ

ミナキ

ミナキ

ミナキ

ミナキ

ミナキ

ミナキ

ミナキ

ミナキ

ミナキ



ミナコ—ミナト

中村式部少輔一氏、寺城岡山に築城するに方り當堂を水口町の南邊、宇地頭地のに移す。慶長五年、岡山藩城するや享保元年、時の住持寂堂寺地を復し堂宇を再建、爾來水口藩主加藤氏累代の祈願所となり、また水口神社別當職を兼ね、木造千手觀音立像一軀、同阿彌陀如来立像一軀は國寶なり。〔遷那寺(太子堂)〕水口にあり。眞宗高田派。水口山と號し、太子堂の名を以て著る。聖徳太子の開創と傳ふ。當初天台宗、元龜二年兵變に罹り堂宇悉く烏有に歸し、天正五年僧惠林之を中興、現宗に改む、享保九年義海堂宇を再建す。寺寶に後奈良天皇・後柏原天皇の宸翰あり。

ミナコシ

皆越 熊本縣球磨郡にありし村。明地二十八年に上村に合併され村名を失ふ。

ミナシロ

三納代 宮崎縣兒湯郡宮田村の大字。省縣日豊本線の三納代驛。大正九年設置あり。

ミナセ

水無瀬川 ↓瀬瀬川(神奈川縣)

ミナセ

皆瀬村 秋田縣羽後國雄勝郡の東南部。霜庭町の東南に接し、南は宮城縣に接す。面積二一八・一八方軒の大村。南境には山嶺(一〇三四米・須金嶺(二四三米)、東境には北より圓森山(八九六米)・足倉山(一〇八三米)・林嶺(一四二四米)、西境には丸森山(六九九米)・奥宮山(七七七米)・小安嶺(一

二九二米)・高松嶺(一三四九米)等連りて全村概ね山地をなし、皆瀬川は南境に發源して村の中部を西北に流れ、沿岸に耕地拓く。米・蕎麥・煙草・木材を産す。當村に沖玉嶺山あり、鎮區は隣接の霜庭町にも跨りて七二萬餘坪、鎮區は金銀湖にして昭和十年より事業を開始せり。西北方の奥羽本線湯澤驛(約一五軒、増田町(平鹿郡)へは約一六軒あり。人口密度は一方軒につき僅かに一八人なり。この地は近世、富等庄と稱せし地。いま村内に秋田湖後所觀瀾所・皆瀬川水力發電所あり。

ミナセノ

水生野 攝津國(大阪府)の古地名。桓武天皇屢々此の地に狩し給ふ。其の地いま三島郡島本村大字山崎の邊。此の地に水無瀬宮鎮座す。

ミナト

港 三重縣伊勢國飯沼郡の東北部。松阪市の北に接し、北部及び東北部に伊勢海に臨み、西北は一志郡に界す。全村平坦にして一望沃野をなす。米の産多し。蕎麥・粟等も出ず。産物の最も多きは水産物なり。松阪市に接するを以て交通不便ならず。この地は和名抄、飯高郡下牧郷の内とす。

港村

兵庫縣但馬國城崎郡の東北部。朝來川河口に跨りて日本海に臨み、西は城崎町に界し、東部は村城が南に長く延びて京都府熊野郡と境を接し久美濱町に臨む。村境は凡て山脈を以て圍まれ朝來

川は西部を貫きて東北流し河口に津居山港あり、北方僅の沖合に後ヶ島の小島あり。東部には北流する細流ありて四山川河口に合し、沿岸に稍々低地開く。津居山港は朝來川河口の渚没地の灣内にあり、港口は巾廣く、船舶の碇泊地は狭隘にて良港とは云ひ得ざるも、沿岸に良地乏しきと朝來川流域を後背地とする爲め、避難港としてまた漁港として但馬海岸第一と稱す。水産物豊富にて水産養殖も行はる。低地は農産の栽培行はれて食用農産・蕎麥多し。米・蔬菜・花卉・麥類・果實等も産したる。調味料・セメント・瓦等の産もあり。朝來川の左岸に沿ひて南走する縣道あり、また東走して久美濱町へ出づる縣道もあり。朝來川には渡船便及び城崎町へ舟楫の便あり。〔氣比神社〕大字氣比に鎮座。村社。祭神、伊弉沙和氣命。式内社。俗稱、氣比大明神。例祭、九月六日。

ミナト

湊 青森縣三戸郡にありし村。昭和四年に外二町一村と共に廢して八戸市を置く。

湊村

青森縣八戸郡小中野町にあり。昭和四年に外二町一村と共に廢して八戸市を置く。青森縣八戸郡小中野町にあり。

湊村

福島縣岩手郡北會津郡の東部。舊當代湖の西岸に在り、北は河沼郡、南は安積郡及び岩沼郡に接す。面積六九・四四方軒。西境には大高森山(八〇八米)を以て山地を以て東方に傾斜し、南端

ミナト

に會津市引山繁え、北方に傾斜す。赤井川は西境に發して北流し日積川に注ぎ、原川は南境に發源して北方に流れ、村の中部に於て流路を變じて東流し、猪苗代湖に注ぐ。湖岸には山地迫れり。米・蕎麥・大豆・麥等を産す。茨城街道は中部を東より西北に通じ、マスの便あり。人口密度は一方軒につき五八人なり。この地は和名抄、會津郡雙方郡の内にして、舊白河街道の驛所にて、戊辰の役には激戦ありし地なり。大字中田は鶴岡甲斐守の住所にして山中に僧地あり。大字赤井にあり沼澤、赤井谷地は、天然記念物に指定さる。赤井谷地(守屋神社)大字原村に鎮座。郷社。祭神、物部守屋。創立年代詳ならず。神殿・幣殿・拜殿等を具へ、境内幽邃なり。例祭、九月十九日。

湊町

茨城縣常陸國那珂郡の東南隅。那珂川河口の北岸にて、東は太平洋に臨み、南は川を隔てて東茨城郡磯沼町等と相對す。北部は低き臺地をなし、南部は那珂川流域の平地にて水田あり、米・麥を産す。桑港は町の南部に發達し、漁港として名高く、漁業は町の主要にて、鰯・鰒・秋刀魚等の魚類及び鱈・鰻干・鰯味噌等の加工品の産多し。特産物としては絹布・味噌等あり。縣道は北隣平磯町、西方水戸市、南隣磯沼町等に通じ、社線津鐵道は西北より來りて町の南部に入り更に東北に走りて平磯町に入る。町内に那珂湊(大正二年設置)・殿山(昭和

三年設置)の二驛を置く。この地は近世那珂湊の割割として、酒沼を経て北浦に達する運河の計畫あり、初め寛永年中、松並勘十郎、紅葉堀を造りて成らず。後安永五年に江戸幕府の公議にも上りしが果さずして止む。また此の町は古來富庶の名あり、水戸藩は此口を以て海洋の咽喉と爲し、船庫を置き、水師の經營をも此地にてなせりと。天保以後は殊に防備を加へ、砲臺を建造し、また教會所として米市は寛政年中より之を公許したり。

〔淨光寺〕字曾山に在り。眞宗本願寺派。通稱常陸御場又は古田御坊。無量光院と號す。建曆二年創建、四基を唯佛房とし、關東二十四輩の一靈場たり。

〔湊鐵道〕私設鐵道。茨城縣那珂郡にあり。省線常磐線より分岐し、阿字ヶ浦驛(前湊村)に至る一四・三軒。省線と連帶運輸をなし、動力は蒸氣・セリオンを併用し、軌間は一・〇六七米とす。

〔湊町〕千葉縣上總國君津郡の西南部。湊川下流に沿ひ浦賀水道に臨む。大部分丘陵地にして南部を西流する湊川流域の小平地をなす。農業行はれ米を主産し、他に麥・蕎麥を産す。海岸は單調なる砂濱にて風光良く、海水浴場をなす。縣道西部を縱走し、省線房総西線これに沿ひ上總湊驛(大正四年設置)を置く。この地は和名抄、天羽郡長津郷の地なるべく、寛保年間より天神山附近一帯を天神山と稱し、當湊町もその中に數へられしも、海

に入れる湊川の水深く、百石積以上の大船の出入自由にして、上總國第一の良港なりしたため、のち湊と改稱せり。明治維新前は松平氏の所領たり。明治二十二年町制を施行す。大正十二年の大震災の際當地海岸一帯約二・五米の隆起をなし湊川河口は淺瀬となり、爲に發着船の通航困難にして神合港かに貨物の積卸をなす有様となれり。山砂利の産地として知られ、往時は海底なりしものが地殻の變動に依り陸地となれるもの如し。城内に郷社八雲神社あり。

〔湊村〕千葉縣安房郡にありし村。昭和三年に町制を施行し、同時に小湊町と改稱す。

〔湊村〕石川縣加賀國能美郡の西北部。手取川下流に沿ひ北は金澤市に接す。全村平地にして南部を手取川西流し、左岸に砂嘴發達し西北へ河口を開く。水田多く米を主産とし、漁業も亦行はる。河口には夏季風浪少く小船の碇泊に適す。海岸の小舞子は海水浴場として賑はひ、省線北陸本線の小舞子停車場(明治三十二年設置)を置く。

〔湊村〕長野縣信濃國諏訪郡の西部。諏訪湖の西岸に位置し、松本―重野構造線の大斷層崖下にあり。赤石山脈の東北隅に當り、村の西境は一〇〇〇米内外にて東は急に諏訪湖の陥没地となり、西は川岸村・上伊那郡朝日村の緩斜面をなし、赤石の傾動地塊たるを明瞭ならしむ。村

には小坂・小田井・花岡の湖岸部落あり、共に斷層崖下の岩層扇狀地に乘る。耕地極めて少し。村の北方は諏訪湖の落日天龍川の發源地に當り、ここに城山あり。岡谷市の郊外として工業化が花岡部落に及ぶ。城山は高島城と言はれ、諏訪氏三萬石の城山なりしが今は公園となる。花岡・小田井・小坂の部落は諏訪湖の漁業を以て漁村の色彩濃厚なり。まさき船と稱する獨特の漁船を用ひ、風波荒き西岸の漁業には好適す。冬季湖面積氷に際しては屋敷と稱する特殊漁法にて水面を打破き、ムスコ・赤魚・ヒケイを漁獲す。

〔觀音院〕新義眞言宗智山派。龍光山。往古諏訪湖より出現の十一面觀音を安置せしに創る。領主諏訪出雲守の信仰厚く、爾來諏訪家歴代の祈願所たり。本尊十一面觀音は湖中より出現の際、漁夫の竹籠の上に奉安せられたる故傳に從ひ、今尚ほ竹籠上に安置せられたる傳ふ。

〔湊村〕京都府丹波國熊野郡の西北隅。久美濱湖と日本海とを分つ海峽地帯を占め、海峽の幅は狹し所にて僅か數間に過ぎず。此の海峽の東岸に東より展開する砂地は、東方濱田村方面よりの潮流により造延せられし砂洲にて、又北風の堆積せし砂丘なり。久美濱湖一帯を造りし斷層沈降後の堆積による事は明かなり。砂洲の基部には佐野谷川これに衝突し九〇度の廻轉をなし砂洲に並行し西流し、砂丘地形特有の狀態を呈す。久美濱湖西岸

山地は殆ど第三紀層より成る丘陵地、其の谷間には所々に小谷地ありて水田を見る。其の海岸はリヤス式海岸にて出入に富み、沈降海岸の特徴を備へ、海蝕による斷崖を所々に見る。久美濱湖内に長く突出する大明神岬は、高嶺二八米に過ぎざるも、傳説と風説に富み、瀬川の先端に位する湊港にして、近年海水浴場として賑ふ。之に對して東隣の濱田港を夕日港といふ。この間を朝日・夕日の間なるを以て日間松原と稱す。砂洲の部分は白砂青松にて俗に小天橋と稱す。去る大正十四年の但北地震に際しては被害甚大區域にして、葛野附近一帯二三十町歩に亘り陥没せし所あり。今その陥没地域の埋立工事中なり。葛野以東、濱田村に至る一帶の砂山はサンドスキートに利用さるの外、桃の良産地たり。又その砂山地帯の礫石濱は、石器時代遺物の分布地にして史蹟に指定さる。(礫石濱遺物包含地)指定史蹟。礫石濱と呼ぶ日本海に面せる海濱にて、延長二軒。貝塚・古墳等あり。多く新式棺に屬し、礫石なる地名もこれに因れりと。出土する遺物に、石鏡・石鋸・銅生式土器・銅鏡・硬玉勾玉・青瓷・鐵刀等あり。また支那王莽時代の貨泉出土し、その他、貞觀水寶・富壽神寶等我が平安時代の古錢、開元通寶・大觀通寶等支那唐宋の古錢も發見され、また明代の木葉錢も混在し、種類多種多様にて、石

ミナト—ミナト



ミナト——ミナハ

器時代より金石併用時代及び原史時代を  
經、室町期に及ぶ。早くより人類來住し  
朝鮮・支那との接觸交通の跡を示せる考  
古學上貴重なる遺跡なり。(淨光寺) 眞  
宗本願寺派。兼賣山と號す。親鸞二十四  
輩の第二十一吉田唯佛の遺跡なり。數度  
寺基を移して現在の地に至る。

【湊(町)】 大阪府泉北郡にありし町。大  
正九年堺市に編入す。  
【湊(村)】 兵庫縣武庫郡にありし村。明  
治二十九年神戸市に編入す。  
【湊川】 ↓神戸市  
【湊町】 兵庫縣淡路國三原郡の西部。福  
良町の北方約二軒にありて北は播磨灘に  
臨む。西南郡一帯は丘陵地をなし西部に  
湖沼あり。東北郡は平野をなし東北境に  
沿ひて大日川が西北流して海に注ぐ。田  
畑よく拓け米・麥類・食用農産物・蔬菜・  
花卉・果實等の農産物及び醬油・瓦・木  
製品等の工業物を出し、また水産物豊富  
なり。養蠶また行はる。北岸に沿ひて縣  
道走り東部に街村狀の市街地あり。附近  
町村と共に要塞地帯の一部なり。昭和二  
年町制を布く。(湊口神社) 大字湊に鎮  
座。郷社。遠秋津比古命・遠秋津比賣命  
を主神とし、相殿に應神天皇を祀る。式  
内社。例祭、二月二十六日。  
【湊村】 和歌山縣紀伊國海草郡の西北部。  
紀ノ川の河口に跨り、西は紀伊水道に臨  
み、東及び南は和歌山市に界す。北隅に  
岬や丘陵あれども地形概して平坦、中央

を紀ノ川が二條に分れて西南流し、河口  
にて兩者合して海に注ぐ。河口は港をな  
し、南岸に燈臺あり。海岸は平直なる砂  
濱にて新濱と言ふ。産物は水産及び農産  
を主とす。和歌山市に接して交通の便よ  
く、紀ノ川には渡船の便あり。  
【湊(村)】 和歌山縣西牟婁郡にありし村。  
大正十三年田邊町に編入す。  
【湊村】 佐賀縣肥前國東松浦郡の北部。  
東松浦半島の東北端を占め、北及び東は  
海に臨みて唐津湾の西岸を扼し、西北  
は呼子町に接す。村内一帯に丘陵性の山  
地にて、東北郡と東南郡に種々沿岸平野  
開く。海岸は種々風曲に富み、多くは山  
地海に迫り、或は断崖をなし、北部には  
土器崎突出して七ツ釜の奇巒あり。東北  
郡の平野の東には女瀬ノ鼻・日坂鼻の突  
出あり、附近に立神岩(夫婦石)の巨岩横  
たばる。それより東北一新たすの海上  
には神島島の浮ぶあり。東南部の平野の  
東には小丘が半島狀に東に突出して東  
端は相賀崎に終る。米・麥・繭を産し沿岸  
に魚介の利あり。主要道路は唐津市及び  
呼子町へ通じ海上も交通の便開く。大字  
相賀は延喜式の邊野縣の地なり。(風形  
石の七ツ釜(土器崎)) 指定天然記念物。  
風形石神社、一名土器崎の海岸にあり。  
呼子より發着船の便あり。全碑文武岩  
より成り、疊々相倚り累々相迫りて壯觀  
を呈し、海に沿へる巖脚に七箇の海蝕洞  
並列し、龜を並べたるが如し。長さは合

はせて約三六米に及び、中央にあるもの  
最も大にして、洞門の幅約二・七米、高さ  
また二・七米あり。最南にあるもの貫通  
して石門となる。石柱は柱狀節理と共に  
薄き葉片狀節理よく發達し、その横徑は  
上半部一五厘米内外、下半部三〇厘米内外。  
風靜なる時は舟を窟内に入る事を得。  
【神島島】 唐津湾に横ばり、形船に似た  
るより俗に軍艦島とも云ふ。神功皇后三  
韓征伐の時、諸神を祀りて戰捷を祈り、  
船出し給へる處と傳ふ。いま住吉神社あ  
り、弓張山・評議石等の遺蹟あり。石棺  
等の露出し古墳多く存す。また天慶八  
年、吳越の商船、柏島に到れる由、外記  
日記に見ゆ。これ神島島にて、延喜式に肥  
前國柏島半島とあるも此なるべし。  
【湊(村)】 長崎縣南高来郡にありし村。  
大正十三年、島原町・島原村と共に廢し  
て島原町を設く。  
【水門】 延喜式に見ゆる越後國の驛名。  
【水門】 肥後國(熊本縣)の古地名。和名  
抄に飽田郡水門郷あり、その地今の飽田  
郡内ならんも評かならず。  
【水門】 羽後國(新潟縣)の古  
地名。和名抄に羽後郡水門郷あり、美奈止  
と訓す。今の佐渡郡羽後村の邊に當る。  
【水門】 省縣圖西本線の  
一驛(明治二十二年設置)。大阪市浪速區  
東四手町にあり。

ミナト

【南福】 飯塚縣東浅井郡に  
ありし村。明治二十三年大畑村と改稱。  
【皆野町】 埼玉縣武蔵國秩父  
郡の東北郡。荒川と赤平川との合流點の  
東岸にあり。東南隅には箕山(五八三米)  
ありて村内に傾斜し、北部より西部にか  
けては西尾を北流する荒川流域の平地に  
して畑地多く、麥を産す。また桑園あり  
て製蠶行はれ、絹織物の製造も盛なり。  
縣道は川沿ひに走り、南方秩父町に通ず。  
縣道も亦これに沿ひて發達す。社線秩父  
鐵道も縣道に沿ひて南走し北部に觀音  
中部に皆野の二驛(共に大正三年設置)を  
設く。この地は近世大畑郷と稱せし地な  
り。名勝長瀨は本村および國神村・野上  
村・白鳥村の地籍に互る。↓國神村

【水門】 延喜式に見ゆる越後國の驛名。  
【水門】 肥後國(熊本縣)の古地名。和名  
抄に飽田郡水門郷あり、その地今の飽田  
郡内ならんも評かならず。  
【水門】 羽後國(新潟縣)の古  
地名。和名抄に羽後郡水門郷あり、美奈止  
と訓す。今の佐渡郡羽後村の邊に當る。  
【水門】 省縣圖西本線の  
一驛(明治二十二年設置)。大阪市浪速區  
東四手町にあり。

ミナト

【水無川】 佐賀縣(新潟縣)の古地名。和名  
抄に飽田郡水門郷あり、その地今の飽田  
郡内ならんも評かならず。  
【水門】 肥後國(熊本縣)の古地名。和名  
抄に飽田郡水門郷あり、その地今の飽田  
郡内ならんも評かならず。

【御名部之崎】 佐賀縣(新潟縣)の古地名。和名  
抄に飽田郡水門郷あり、その地今の飽田  
郡内ならんも評かならず。

ミナマタ

部の山麓を西南流して海に注ぐ。中央部  
の抜月狀をなせる白砂青松の海岸は美し  
く、今その松林は保安林なり。野水浴  
場をなし、背後に市街地發達せり。附近  
海上に鳥嶼・岩礁散在し、西南約一軒の  
海上に浮ぶ鹿島は遊園地をなし、樹木鬱  
蒼として全島を蔽ひ貸別荘・子供博物館・  
日光東照宮の複製その他、遊覽設備完備  
し、殊に町外れ並木の松原よりの眺望よ  
し。耕地よく拓かれ米の産多く、柑橘の  
特産あり。また養蠶及び漁業盛にして其  
産額多く、綿織物等の工業額も多し。町  
の北部上南郡村との間に日本第一の大梅  
林あり、全国の梅の名所を集むとも尙ほ  
此の一箇所に及ばぬと言はるる日本一の  
梅花郷にて、南部川の清流に臨み、山に  
倚り谷に瀟がれて、花季は二百餘町歩の  
間唯一面の香雲に包まる。生梅また日本  
第一にして産額は一ヶ年一萬五千石と言  
ふ。海岸に沿ひ廣野街道及び省縣紀勢西  
線通過し後者の南部郡(昭和六年設置)あ  
り。また中央低地を東北走する縣道もあ  
り、田邊町及び西北方の印南町にバス通  
ず。明治三十年町制を布く。和名抄の日  
高郡南部郡は本町及び上南郡村に當るも  
の如し。中世は南部郡といふ。  
【南部川】 和歌山縣日高郡東南部に  
あり。三里峯の東南麓、清川村に發源して  
西南流し南部町にて海に入る。下流沿岸  
に僅に平地開くるも、他は概ね峽谷を成  
す。流程約三〇軒。

ミナハ——ミナマ

【水俣町】 熊本縣肥後國葦  
北郡の西南郡。縣の西南端に位し、西は  
八代海に臨み、南と東南は鹿島島嶼出水  
郡および伊佐郡に接す。城内五つある  
に山岳丘陵起伏し、南境西端には秀麗な  
の矢筈岳聳え、標高六八七米。四周に放  
射谷を作り西北部は薩摩の國境をなして  
海に接し、東南部には鬼岳(七三五米)聳  
立す。水俣川は東方の諸水を集めて町を  
貫流し、河口附近に於て東南部より来る  
湯田川を併せて八代海に注ぐ。河口には  
沙洲の發達著しく、これら諸川に沿ひて  
狭長なる低地開け、米・麥・甘蔗・蔬菜・繭  
等の農産物頗る多く、また柑橘の産地と  
して知られ、水産・林産も少からず。海  
岸は山脚直ちに迫りて扇曲多く、且つ海  
崖をなすところ多し。河口北岸に大崎あ  
り。中央には明神崎突出してその南側に  
三年ヶ浦を抱き、附近海上には小路島・  
七ヶ瀬等の小島散在す。三年ヶ浦の南に  
續く一曲浦と稱し、風景絶佳なり。水  
俣港は縣下最南の良港にして、水俣川河  
口に市街地發達す。日本窒素肥料會社の  
工場を始め製糖工場・製材所・印刷工場・機  
織工場等の各種工場多敷あり。新聞社・  
商工會・各種同業組合等多く町勢頗る振  
ふ。人口密度は一平方軒六四九人を算し  
郡中第一位を占む。海岸に沿うて鹿島島  
街道及び省縣鹿島本線通じ、後者に水  
俣・袋の二驛(共に大正十五年設置)を設  
く。また水俣川に沿ひて縣道は東南に通

じ、水俣驛より分岐する省縣山野線ほほ  
これに沿ひて通じ、東水俣・肥後深川・  
深渡瀬の三驛(共に昭和九年設置)あり。  
其他、附近の要地ハパスの往來繁し。水  
俣なる町名は即ち水俣にして、水俣川の  
水流激流をなして海に入りより起りたる  
名稱。中古にはまた水俣に作りしが明治  
初年頃より水俣に復せしもの如し。水  
俣の文書に表はれたるは、和名抄に葦北  
郡水俣郷とあり、延喜兵部省式に水俣驛  
馬五疋、傳馬五疋と見ゆるを初とす。こ  
れ即ち郷にして驛を兼ねしものなり。さ  
れば此の地は夙く九州南部の官道に於け  
る肥後國最南の驛次として、薩摩との間  
の交通の要衝たりしを知るべし。源平時  
代の頃には平家の殘黨この地に匿れたる  
傳説あり。降つて吉野時代の頃は任西將  
軍官に屬す。太平記・三十三・菊池合戦  
の條に源義朝守と見ゆるは此地の人なる  
べし。戰國の頃に至り、此の地は人吉に  
在る相良氏の領内にして、薩摩の島津氏  
との間に争奪戦が展開され、特に天正年  
間に於てその争闘最も甚だかりき。即  
ち相良氏は防禦の第一線を此の地に置き  
水俣城・寶河内城及び内王木・時堂等の  
砦を設け、深木三河守頼方(宗方)をして  
これを監せしむ。水俣城はまた陣内城と  
もいひ、三河守自ら之を守り、天正九年  
島津義久肥後侵入の折にはこれを死守し  
て屈せざりしはよく知らるる所なり。然  
しこれ等の争闘も豊臣秀吉の西征と共に

終息す。三河守はのち大坂に至り、秀吉  
に見えて相良氏の他意なきを遂ぶ。相良  
氏の記、今に存するは一に三河守の力に  
依るといふ。深木氏は連綿として今に至  
る。また明治十年西南役には、この地に  
徵發行はれ川路少將、警備隊を率へて此  
地に據り、米ノ津・大口兩隊に進軍を試  
みたり。此地はもと陣内・濱の兩區に分  
れ、夫々戸長役場を置き、陣内戸長役場  
は陣内外十一箇村を、濱戸長役場は濱外  
六箇村を治めりしが、明治二十二年に  
町村制施行の際、兩行政区を合併して水  
俣村と命名し、同年十月行政區劃を十八  
區に改め、ここに於て始めて現在の水俣  
町の區域の基礎定まる。其後、明治四十  
一年、窒素肥料株式會社の水俣工場の開  
立せらるるや、商工業もこれに伴ひ漸次  
發展の機運に向ひ、人口も二萬を算し、  
大正元年遂に町制を布くに至る。爾來、  
本邦文明の西南と、水俣町の地理的産業  
上の優越とに相俟ちて、近時驚くべき進  
展を遂げ、南肥後の一大都市を形成する  
に至り、今や荒尾・人吉兩町と共に都市  
計畫豫定地に編入せられ、益々將來の發  
展を期待せらる。漢學者徳富一教(通稱、  
太多助・太多七、號洪水)は此地の人なり。  
長ずるや横井小楠の門に入りて學を修め  
業なるや歸郷して郷黨の子弟を獎勵し、  
また民治に功績あり。のち熊本縣典事、  
白川縣七等出仕事に任ぜらる。著書に洪  
水時草あり。蘇米(號一郎)は其長子、盧



ミナマ

花はその次子とす。蓮花は名を蓮太郎と...

【南村】東京府武蔵國南多摩郡の東南隅...

【南】南...

ミナミアキ

宇山北に鎮座。郷社。祭神息長帯命外...

【南】香川縣讃岐國仲多度郡の北部...

【南】和泉國(大阪府)の古郡名...

ミナミアキ

長野縣信濃國佐久郡の東南部...

【南】美並村...

【南】南相木村...

ミナミアイズ

福島縣四十七郡の一。岩代國の西南部...

【南】南會津郡...

【南】南相模國足柄上郡の南部...

ミナミアシカラ

長野縣五市十五郡の一。信濃國の西北部...

【南】南足柄村...

【南】南相模國足柄上郡の南部...

ミナミ

城には米・藁を産し、また冷涼氣候に耐...

ミナミアキ

で本流に合す。沿岸に低地開け耕地発達...

【南】南秋田郡...

【南】南相模國足柄上郡の南部...



ミナミ

中央地溝帯の赤魚川・静岡線の断崖をなす。唐澤山(一三七一米)・淺川山(一七四三米)・鶴冠山(二一九四米)・黒澤山(二〇五一米)等は断崖上の三角山に當る。日本アルプスは二派ありて、前アルプス・後アルプスに分る。...

ミナミアヤセ 南綾瀬

葛飾郡にありし村。昭和三年に町となり昭和七年東京市に入り、他町村と合し葛飾区を建つ。

ミナミアアケ 南有明村

葛飾郡南有明村。有明海の西北岸に臨み、北方約一軒に白石町あり。全村地形極めて低平なり。...

ミナミアリマ 南有馬町

肥前国高来郡、島原半島南端の東側。四境は口ノ津港なり。地質は南島原半島の基盤をなす新第三紀層その大部分を占め、一般に丘陵地なり。...

ミナミ

ミナミアダ 南阿太村

奈良縣大和郡宇智郡の東部。吉野川の左岸に沿ひて野島町の東に接し、東及び南は吉野郡に界す。南境には約四〇〇餘米の山地ありて北斜す。...

ミナミアタチ 南足立

↓足立郡 十二郡の一。豊後國の東南部。東は佐伯郡を隔みて豊後水道に臨み、東南は日向灘に面し、南は宮崎縣東臼杵郡に界す。...

ミナミイケチ 南生口村

廣島縣安藝國豊田郡の南部海上に横はる生口島の西南岸を占め、西及び南は瀬戸内海に面す。東に東生口村、西北に瀬戸内町、北に北生口村が接す。...

ミナミイケタ 南池田村

大阪府和泉國泉北郡の中部。和泉山脈の北麓に位して大津川に跨り、福泉町の南方約一軒にあり。...

ミナミイオ

南硫黄島 東京府小笠原支庁管下の島。もとサンオトガステンと稱し、硫黄列島(或は火山列島)の最高島。中硫黄島の南方三三三哩、横濱を距る七二八哩。...

ミナミイオ

同十二年天草四郎時貞三萬七千の衆を率ゐる薩軍に入り、壘橋を修築し立籠りたり。...

ミナミ



命・天兒屋根命・比咩大神。享保三年六月正一位を授けらるるといふ。例祭、十月五日。〔國分寺〕大字國分にあり。古義眞言宗。舊く安樂寺または福徳寺と號せしことあり。聖武天皇勅建の諸國國分寺の一。

ミナミイコマ 南生駒村

大和國生駒郡の西部。生駒山脈の東斜面に位し生駒町の南に接す。西は山脈を隔てて大阪府中河内郡に界す。西境には生駒山脈が南北に連なり、西北境には生駒山(六四二米)あり。東境に南北に連なる約三〇〇米の丘陵あり。中央兩山地の間を龍田川が南に貫流するも沿岸低地乏し。米・麥・蕎麥を産す。清瀬街道は河谷を南北に通じてバス往來し之と交又して東西に奈良街道山地を越えて走る。社線信貴生駒電線は中央を貫流し、生駒(昭和二年設置)・南生駒(昭和元年設置)と一分線(昭和二年設置)あり。この地は和名抄、平群郡平群郷の内なり。もと今の生駒町と共に軍に生駒と汎稱せしが、明治二十二年南北の二村に分ち、北生駒村は大正十年生駒町となる。〔行基菩薩墓〕指定史蹟。舊竹林寺境内にして文殊山と呼び、いま草叢中に墓址を存し、文殊堂の土壇を遺存す。竹林寺は行基の開基にて天平二十一年普願寺に改するや、遺命によりて遺骨をここに葬りしが、文曆二年發掘され、銀製骨壺を納めたる墓誌刻銘の副製骨壺を發見し、その後土壇を修築して之等の副製骨壺を埋め、上に文殊堂を建つといふ。然るに戰國時代兵火に燒亡し、のち堂は再興せられしが、明治六年廢寺となりて遂に廢滅す。〔往馬坐伊古麻都比古神社〕大字安分字生駒山に鎮座。祭神、伊古麻都比古命・伊古麻都比古命・譽田別天皇・足仲彥天皇・氣長足彥尊等七柱。もと往馬大明神といふ。天平二年、神戶の稻租を以て祭料等に充て、大同元年の産神封三戸を載す。貞觀元年從五位上に昇せられ、延喜の制、二座並に大社に列し、祈年・月次・新嘗の案上の官幣に預り、一座はまた祈雨の幣に預る。古來生駒谷十七郷の氏神と尊崇せられし名社なり。例祭、十月十一日。〔四國寺〕大字有里にあり。眞言宗醍醐派。傳行基建立。沿革不詳。本堂(鎌倉時代建)は國寶。〔寶鏡寺〕織造念佛宗。俗にくづれ堂と稱す。和銅元年、行基の開創と傳へ、文政年間、圓超入りて復興す。傳行基作地蔵菩薩像は愛宕火災罹現の本地にて崇敬篤し。本堂は國寶。

ミナミイサ 南伊佐(郡)

〔鹿兒島縣〕の古郡名。明治二十年四月伊佐郡を南北二郡に分ち本郡を置きしが、同三十年四月、薩摩郡に入りて郡名を失ふ。※伊佐

ミナミイシカ 南石樽

三重縣員辨郡にありし村。明治三十九年北石樽村と合併し石樽村を建つ。

ミナミイリ

南磯村 秋田縣羽後

國南秋田郡の西部。男鹿半島の南端に位し、東北は船川港町に接し、南は太平洋に面す。北境に丸森山(二二七米)・毛黒山聳えて南方に傾斜し、約四段の段丘をなして海に臨む。全村概ね山地をなし、西部は傾斜急にして、海岸は岩石海岸をなし、鹽瀨崎・館山崎・鶴ノ崎等の突出あり。村の生業は漁業及び農業にて、季節により北海道・樺太・カムチャツカ等への出稼あり。鮫・鱈・鰯・烏賊・てんぐさ等の水産物及び米を産す。男鹿石の特産あり。省線船川線の船川驛へ約四軒。バスの便あり。本村はもと南磯分村と稱せしが、明治二十四年現稱に改む。此の地の女川には、後村上天皇の御世に阿部千尋丸あり、大龍寺を建立し菩提寺とせしが、天正年間、藤本城主の滅す所となり、藤本城主阿部親季これを藤本に移し菩提寺とし現存す。大字小濱には寛政年間、藩主が墓所によりて唐船見番所を置き、藩吏をして警衛せしめたるが、安政三年これを廢す。村内の高峯窟と稱する洞窟は急峻なる斷崖が日本海の怒濤の爲に軟弱なる部分のみ削り去られて形成せしもの。入口の幅約六米、深さ約四〇米、半島隨一の奇蹟たり。〔つばき自生地〕指定天然記念物。椿にあり。能登山と稱する海岸の小丘にて、周囲約二〇三米、最高點約一七米、山上に小社あり。つばきは幹の太きもの伐採され、今は日通約八八種のもの一本、約六七種のもの

ミナミイノウエ 南井上村

徳島縣阿波國名東郡の西北部。徳島市の西北約六軒。西は名西郡に隣し、國府町の北に界す。吉野川下流右岸の沖積平野の北を占め、平坦にして肥沃なれど耕地よく開けて農業盛んなり。米作を第一とし、麥・蕎麥の産も少からず。南境を掠めて省線徳島本線通府中驛に隣接す。中央を東西に縣道通りてバスを通す。この地は和名抄、名東郡井上郷の内にして、大字花園は花菟御所のありし所なりと。館址存す。この事、平家物語に見ゆ。〔八幡神社〕大字井上に鎮座。祭神、應神天皇・仲哀天皇・三女神。もと井上八幡神社と稱し、附近六村の氏神として崇敬せらる。例祭、十月十五日。〔井戸寺(妙照寺)〕眞言宗大覺寺派。四國通路

第十七番の札所。本尊として薬師十二神尊像を安置す。寺は弘法大師この地の木實忍きを愛へ、加持して井戸を掘りしに依り清水湧出せしため、こゝを薬師如來有縁の地となし像を刻みて安置せしと傳ふ。天正年間兵燹に罹り、慶長年間に至りて再興されたり。寺寶の十一面觀音立像(木造、國寶)は高さ五尺九寸八分、體軀豐滿、總身に淡彩を施し、端嚴なる面貌を備へ、裳の曲線にも統一綜合の美を示せる平安時代の優秀なる作なり。御詠歌「おもかげなうつして見れば井戸の水むすべば胸の垢やちなん」

ミナミイロ 南伊豫村

愛媛縣伊豫國伊豫郡の北部。郡中町の東にあり、松山市の南方約五軒。村の東南の方向に二百一四米の山脈連なりして西北に緩傾斜をなして下り前面は平坦なる松山平野に傾く。従つて耕地よく拓けて農業盛なり。米作を第一とし、麥・蕎麥の産も少からず。また養蠶業を営み蠶卵を多量産出す。附近と共に綿糸工業を営み伊豫綿の産も少からず。西北境を控めて省線豫讃本線西に走り、郡中町に至る。中央の山麓下を東方土佐街道より分岐せる縣道來りて通り郡中町に至るバスの便あり。豫讃町にあれば、越智の一族、高市は元暦の頃、高市武者所清儀・同五郎友儀なるもの攝津の生田森の戦に名を馳せし勇者なりしが、のち此地にありて氏寺を立て多喜寺と號す、その子孫繁榮し、吾河郷に居住

し吾河氏を姓とせりと。〔伊曾能神社〕宮ノ下に鎮座。郷社。祭神、天照大御神外二神。式内社。俗稱、吹上明神。例祭、十月二十一日。

ミナミイワテ

南岩手 山形縣

ミナミインナイ

南院内村 山形縣

大分縣豊後國宇佐郡の西南部。南は玖珠郡森町の地に接し、西は下毛郡に界す。全村山岳重疊し、東南境に鈴ヶ嶽山・人見岳(九二二米)聳立す。山地は全體に東北部に低下す。群川の支流惠良川は中央を貫きて東北流し沿岸に沖低地あり。米・麥・林産・畜産の産あり。中央に主要里道が通じ森町及び北方の長洲町へ至る。〔大山椒魚棲息地〕指定天然記念物。字岡を流るる群川の上流にあり、途中まで自動車便あり。大山椒魚は本土の西部即ち美濃より中國・九州地方に於ける高地の溪流中に棲息するもの。〔椎屋の瀧〕東西二瀧あり。西椎屋瀧は本村に、東椎屋瀧は津房村に屬す。西椎屋の瀧は深さ六ひ直下約六一米、幅三米、瀧道の廣さ五九五方米、深さ六四米、附近に椎屋神社あり。境内の鎮石は日通約一一米、樹高三六米餘、瀧の大蛇が除かれし記念として、天平年間附近の農民の植ふしものと傳へらる。東椎屋の瀧、即ち雄瀧は雄瀧に比し稍小規模なるが、中段ありて、巖角を怒撃し珠玉を蹴らせ、その壯觀は彼に譲らず。〔惠良神社〕大字

下惠良村に鎮座。郷社。祭神、天照大御神・事代主神・素戔鳴命。例祭、十月二十五日。

ミナミウオヌマ

南魚沼郡 新潟縣

新潟縣西四十六郡の一。越後國の中央南部。東・南・西の三境は三國山脈の中央支脈に圍まれ、信濃川の支流魚野川及び清津川上流の二帯を占むる地にして、東南より南へかけて三國山脈の諸岳二〇〇〇米前後の峻峰を連ねて群馬縣上野國に界し、西南は富嶺山の支脈により長野縣信濃國に、西は其の餘脈を以て中魚沼郡に、北及び北東は北魚沼郡に界す。面積九六二〇方軒の大郡なれど、人口密度は一方軒七〇人に過ぎず。東部・南部は高峻にして山間の水は何れも峡谷を穿ち急流をなし、清野川を除きては概ね西北に流れ西部を東北に流るる魚野川に合流し、下流に大小の扇狀地を洪積す。南部の清津川は日白山・高津倉山に及ぶ一分脈によりて魚野川と分たれ、北流して中魚沼郡に入り信濃川に合す。流域は近時主要なる發電地帯となる。魚野川の平野は諸支流の扇狀地を連ねて郡の西北部に長く横がり西は丘陵を以て信濃川本流との分水界をなす。平野には水田・桑園開け米・蕎麥を産すと共に、往時より家内機業盛なりし所、今尙ほ機業地として榮え六日町・鹽澤町は其の中心地として絹織物・麻織物の高級品を産す。又山間諸村は林業を主とし木材・薪炭の産も少からず。本郡

一帯は冬季深雪地にて南部の湯澤を中心とする温泉地帯に近時スキー客にて賑はふ。省線上越線は魚野川の河谷に沿ひ、東南隅清水隧道を経て上州に至り、清佐、越後中里間に七驛を設く。國道上越街道も殆ど之に並走し清水越により上州に入り、別に湯澤より三國街道を分岐す。本郡は明治十三年魚沼郡を南・北・中の三郡に分ちて置けるもの。↓魚沼(郡)

ミナミウチ

南宇智村 奈良縣

和國宇智郡の南部。吉野川の南岸に沿ひ野原町を挟みて北に五條町あり。東南部一帯は吉野郡に界す。東境には二〇〇米以下の丘陵が西北に連りて村境を劃し、北境の吉野川の谷に終る。東部に三〇〇米程度の丘陵ありて西方及び西北方へ緩斜す。兩山地の間には黒瀧川が西北流し西北境を西流する吉野川に合す。低地は西北部に稍發達す。田畑廣く開墾せられ米・蕎麥の産も出ず。中央の河谷に沿ひて道路走り、五條町へバス通す。この地古くは和名抄、宇智郡阿陀郷の内とす。宇智村・北宇智村と共に宇智と汎稱せし處。〔宇智陵〕本村及び阪合村に跨がる。光仁天皇の皇后井上内親王の御陵。寶龜八年諸葛とし、延暦十九年即位追復と共に御墓を山陵に列し、葛井王を差遣、復位の事を奉告せしめらる。中世發廢せしも、明治十年現地に御治定。ミナミウテツ 南打越村 秋田縣 羽後國由利郡の西部。本莊町の東北に接



す。地勢東部に高く、西方に傾斜し、岩...

ミナミウラ 南浦村

宮崎縣日向 國東白杵郡の東北部。延岡市の東北に接...

ミナミウツ 南宇和郡

愛媛縣伊 豫四市十二郡の一。縣の西南部。北は...

ミナミオイー 南大井村

長野縣信濃國北佐久郡の中部。岩田町...

ミナミオガタ 南緒方

大分 縣大野郡にありし村。昭和七年本村を廢...

ミナミオガワ 南小川村

長野縣信濃國上水内郡の西南部。犀川の...

ミナミオグニ 南小國

山形縣羽前國西置賜郡の西 南部。西南に新潟縣に接す。面積二〇〇...

ミナミオーキタ 南扇田

秋田 縣北秋田郡扇田町にあり。 省線花輪線の一驛(昭和三年設置)。秋田...

ミナミオージ 南王子村

大阪府和泉國泉北郡の西北部。大津町の...

ミナミオーチ 南邑知

石川 縣羽咋郡にありし村。昭和八年に志雄村...

ミナミオーデン 南王田

臺灣總督府鐵道臺中線の一驛(昭和四年...

し、その底面に僅に水田あり。養蠶を村...

ミナミオーノミ 南大春村

石川縣能登國鹿島郡の東南部。鹿島半島...

ミナミオーニ 南大海村

石川縣能登國羽咋郡の南部。大海川に沿...

ミナミオイトマ 南置賜郡

山形 縣四市十一郡の一。羽前國の南部。東及...

ミナミオカワ 南小川村

長野縣信濃國上水内郡の西南部。犀川の...

ミナミオグニ 南小國

山形縣羽前國西置賜郡の西 南部。西南に新潟縣に接す。面積二〇〇...



ミナミ

土等あり。縣道は鹿沼町より来り、村の中央にて二分し、栃木市及び下都賀郡壬生町に通ず。また中央より分岐して東北に走るものは宇都宮市に通ず。鹿沼町・栃木市及び壬生町へはバスの便あり。社線東武鐵道日光線は西部を北走し、栃木驛(昭和四年設置)を設く。

ミナミオタリ 南小谷村

長野縣信濃國北安曇郡の北部。乗鞍嶽(二四三七米)・小蓬山(二七六九米)・白馬嶽(二九三三米)等の謂ゆる北アルプスの峻峯西境に聳え、東境には東山(一八四九米)・八方山(一六六二米)あり。其間に姫川中央を北流す。これと並行して糸魚川街道通じ、北陸より江戸への重要な街道をなせり。村は此の谷底を占め、僅に水田並に桑園あり。山地を利用する薪炭を主とし、牧馬を飼育す。村内千町は松本領口留置所ありし地にて、大町より約三〇軒。糸魚川・松本構造線の通る地にして正徳四年大地震ありて人馬災害を受けたる記録あり。この構造線の活動に起因するものなるべし。耕地面積は四九一町にして全面積に對する耕地率は四・九多なり。山村の特色を示し、田二九四町、畑一九七町、うち桑畑一〇六町にして畑の桑園化著し。往昔、上杉謙信義徳心を以て鹽を甲信地方に輸送せしは此の街道によりしものなり。省線大糸南線の南小谷・中土の二驛(共に昭和十年設置)あり。この地は東鑑、文治二年の

ミナミオタル 南小樽

道小樽市にあり。函館本線の二驛(明治十三年設置)。北海

カナミカスミ 南加積村

山縣越中國中新川郡の東部。上市町の東に接し、上市川右岸に沿ふ。東部は二三百米の丘陵にて次第に西北へ傾斜し、西北部は富山平野の一部に屬す。山裾と平地一帯に互り水田開け米の産多し。其他、製糖、養蠶の副業も行はる。西北部を貫通する縣道あり上市町へ約二軒、之より社線富山電鐵の便あり。「立山寺」大字眼目にあり。曹洞宗。眼目山と號す。開創僧大徹。寺運隆盛に向ひしも天文年間兵燹に罹り、加ふるに大徳居士肥後誠亡して次第に衰微せしむ。寛永十年僧揚山これを再興、爾來堂宇次第に整ひて今日に及べり。

ミナミカタ 南方

【南方村】宮城縣陸前國登米郡の西南部。佐沼町の西南に隣り、西南は遠田郡に隣接す。陸前平野の東部に位し、西北部に丘陵ある外、概して平坦なり。迫川は北方より来り村の東境及び南境をなして南

流し、西南境には蕎麥沼あり、その沿岸は野谷地にして土地低濕なり。米・蕎麥・藪・馬を産す。道路は東北方より来りて西北方に向ふ。社線仙北鐵道の沼崎下驛(昭和九年設置)・西郷驛(大正十一年設置)・高石驛(大正十年設置)板倉驛(昭和九年設置)の四驛を設く。この地は和名抄、新田郡山沼郷(高山寺本には山沼郷とあり)の内にして、南方とは佐沼南方の義なり。村内青島より風文土器を出し、且つ石器時代人骨を發見したるを以て名高し。

【南方村】奥島縣安藝國豊田郡の西南隅。沼田川下流西岸に位す。東北は本郷町に對し、西南は加茂郡竹原町に界し北は上北方村、東は沼田西村に接す。面積二六・二三方軒。西北部及び南部に山地高まり山林に蔽はるも、地勢東北方に傾斜し、川に接するは小部分のみなるも、沼田川流域に近づくにつれて平地を増す。附近に耕地拓け村落集れり。米・蕎麥・木炭・木材・清酒・牛馬等を産す。本郷町より國道及び縣道通じ、省線山陽本線本郷驛(明治二十七年設置)に近く夫ハバスの便あり。「御年代古墳」指定史蹟。大字御年代にあり。御年代山の山尾處くる所にあり、封土は削り去られ原形を失ひしが石標を露出す。後述に續きて前後兩支家あり、兩支ともに花崗岩割技式家形石棺あり。「榮音寺」古義眞言宗。歡喜山と號す。天慶年中藤原倫實の建立と

達し米・蕎麥を産し、黄蘗・綿織物の産も人口密度は一方軒四八八人、最も多きは御所町の四、八三四人なり。中央河谷に沿ひ下街道通じ東北部の御所町よりは東走する縣道、東南走する縣道及び東北に向ふ縣道等あり。省線東山線東部を縱走し、東北方より来る社線大阪電氣鐵道吉野線が東南部吉野日驛に連絡し更に東南方に派出し吉野山に至る。明治廿年四月葛上・忍海二郡を合し本郡を設く。

ミナミカミ 南上村

【南上村】静岡縣伊豆國賀茂郡の西南部。下田町の西約九軒。東は南中村、西は三濱村、南は三坂村、北は岩村村に接す。村の四圍は山岳を以て圍繞せられ、殊に北境に高く、西北境にて五二〇米、東北境にては五四七米を示す。城内も亦山多く僅に東南の一部開けて南中村に通ず。青野川西北より東南の方向に流れ、市野瀬川・上小野川・毛倉野川等の諸川これに注ぐ。夫等沿岸には僅に平地開く。住民は専ら農業に従ひ製炭を副業とす。物産には蕎麥・薪炭・三椏・竹等あり。下田町へバスの便あり。「三島神社」大字下小野宮ノ前に鎮座。郷社。事代主命を主神とし、相殿に應神天皇を祀る。もと門野明神・大宮・三島明神とも稱す。延喜式の阿未都加多比咩神社、國內神名帳の從四位上あめつかた姫の明神に充つる説あり。古來上下小野の總鎮守たり。例祭、十一月二日。

ミナミカモリ 南掃守村

和泉國泉南郡の東北部。岸和田市の東に接し、西北より東南に細長し。東南半は丘陵性の地に灌漑用湖沼散在す。西北半は平坦地をなし、東南部に發する一河川は東部及び北部を西北流し、西北隅より春木町に入る。農産物豊かにして澤庵多し。綿織物の産額も多く、外に水産・畜産・林産あり。西北部に小栗街道・社線阪和鐵道及び社線南海鐵道等通過して後者の春木町所在の春木驛は殆ど北境に接する地點にあり。阪和鐵道土生驛(西南約一軒)へはバスの便あり。この地は和名抄、和泉郡掃守郷の内とす。「兵主神社」郷社。祭神、八千鎰大神・日本武尊。式内社。例祭、十月十日。

ミナミカワロエ 南川副村

佐賀縣肥前國佐賀郡の南部。筑後川の分流早津江川の河口の右岸に位し有明海に臨む。地形極めて平坦にて早津江川は東南境に沿ひて南流す。海岸は遠淺なり。米産額多く蕎麥・藪も産す。桑落は中部・北部に散在す。主要道路佐賀市へ通ず。「渡邊神社」大字大井道に鎮座。郷社。祭神、底津綿津見命・中津綿津見命・表津綿津見命。天文廿二年國司龜造寺隆信、水藤轉除の爲創祀すと傳ふ。例祭十月廿一日。

ミナミカワチ 南河内

【南河内郡】大阪府七郡の内。河内國の東南部。葛城山脈の北斜面より北は大和川の南岸に及び、東は金剛山脈の西斜面

も昭和十年設置)を設く。「行勝山」指定名勝。登行天皇熊襲親征の時、山容の似たるに依り行勝と名づけ給ふと云ふ。標高八三一米にて、砂岩及び粘板岩の互層を貫通する花崗岩より成り、東西の双岳あり東を峰岳或は東岳、西を雄岳又は西岳と稱す。また絶壁相迫りて回字形をなすにより矢筈岳の稱あり。岩脈にて斯くの如き大規模のもの他に比なし。東西兩岳間の凹處に瀑布あり、布引の瀧と稱し高さ約一〇九米、幅約二〇米あり。溪流の左方やや低き所に山脚の柱狀節理を現はせる露頭あり。また山麓に近く行勝神社あり。「南方村天下古墳」天下古墳の丘上にあり。前方面極めて細長く、且つ水平にして、前面恰も柄鏡の如き形式を呈せる謂ゆる柄鏡型古墳にして、全長約七〇米、西面し、封土は三段をなし、河石を以て葺く。大正二年、後圓部の頂上より約三米の深さに砂利にて覆はれたる粘土層を發見す。内部に小砂利を敷き朱に塗られたる内に、頭部の邊より碧玉の管五十二、勾玉三、竹製櫛十四枚を出土しなほ直刀二口・釧二口を發見す。この竹櫛は考古學上の貴重なる遺物にて今、兒湯郡妻町の郷土館に出陳せらる。この古墳と相對し天下上ノ原古野神社の西にも同型の古墳あり。全長約六五米、葺石に覆はれ、墳上に大日堂を建つ。此他、圓形墳約七基存し、石棺を藏するものもあり。玉類・直刀・鐵等を出土したるもあり。

り。南方村には天下の外に吉野・下舞・野大貫・野田・野地等に亘りて約三十基の古墳を算へ、此地方に於ける一中心地をなし、大貫の淨土寺と呼ぶ地にある圓墳は、横穴式石室あり、野田には割技石棺存す。尙ほ大貫淨土寺には石器時代の貝塚も存在す。「行勝神社」大字南方に鎮座。郷社。祭神、伊弉冉命・事彥男命・速玉男命。相殿、而足命・伊弉諾命外二十軒。養老二年の創祀にして鎮西八郎爲朝の行勝を祭ると傳ふ。例祭、十一月十九日。「龜井神社」大字南方に鎮座。郷社。祭神、菅原道眞・内藤家長・内藤元長・倉稻積命。正保三年有馬直純の勳請に係り、もと天滿神社と稱す。元禄五年三浦明政再建し、延岡城内の鎮守とす。内藤家長は舊延岡藩祖にて、元長はその第二子なり。例祭、三月二十五日。

【南葛城郡】奈良縣大和國十郡の一。縣の西部。金剛山脈と葛城山脈との連絡地の東斜面を占め、西は山嶺を隔て大阪府南河内郡に界す。西部には南北に山脈が連なり、西南部には金剛山(一一二二米)聳ゆ。東部の南半は山地をなし、北麓に國見山(二二九米)あり。東北部は奈良盆地西南隅の低地を占む。葛城川は南境に發し金剛山脈の山麓に沿ひて中部を北流し、東北部低地を潤して隣郡に出づ。東北部は耕地よく發

傳ふ。往古山内十八坊、寺領七千貫を有せし古刹にて、應永年間、法持院願春は天台を改めて眞言宗とす。元和年中福島正則入國するや寺領悉く沒收せらる。本章、藥師如來。

【南方村】廣島縣安藝國山縣郡の東南隅。壬生町の南に隣接し、東は高田郡に、南は安佐郡、西は八重町に界す。面積三二・二三方軒。東に堂床山(七四〇米)、南には備前坊山(七八九米)、西南には冠山(七三六米)村界をなして聳え、地勢、東南より西北に稍傾く。中央部より西北にかけて低地存し、耕作行はる。東部と南部は山林に蔽はる。米・蕎麥・木炭・牛・清酒・蠶等を産す。壬生町と安佐郡可部町にバス通ず。



を占め、西北隅は堺市に接す。南は和歌山縣伊都郡に隣り、東は奈良縣宇智郡・南葛城郡・北葛城郡に界す。南境に葛城山脈東々北より西々南に連り三國山(八八六米)岩湯山(八九八米)等聳えて南境を限り、東境には北に金剛山脈連りて郡境を限る。その南部に金剛山(一一二二米)屹立す。兩山脈の山脈は中央にて臺地状の高燥地をなす。北部は大阪平野の一部を占め、地形平坦にて北境の東半には之に沿ひて西流する大和川あり。西

山を越えて奈良縣に出で、西部には東南南走する西高野街道あり。中部にはこれ等の街道を貫きて南北に走るものあり。社線南海線高野線は西部を縦貫し、葛城山脈を過ぎて和歌山縣に入り、長野驛より中央を北走する社線大阪線道ありて道明寺驛に至りて西走し、大阪市へ向ふ。道明寺驛より北走する支線及び其南の古市驛より東走する支線あり。明治廿九年四月交野・奈良・天田の三郡を合して建てし新縣。交野・天田・奈良

間驛ありてバスを通す。西北部より分れて東北に走る縣道は水戸市に通す。此地は和名抄、茨城郡安俣郷の内にて中世は尖戸庄に屬し、延喜式に安俣驛馬三疋とあるは此地なり。いま大字に安居の名存す。大字押延は更科日記に子忍とある地ならんともいふ。

方約四軒の山村。西は石川縣加賀國河北郡に界す。四周は二―三百米の山林に囲まれ、中央を澁江川供き谷を開きて東北に曲流す。粟落概ねこの谷に散在し耕作に従ふ。米・蕎麥を主産とす。薪炭も多少産す。二條の縣道東西に走り、加越兩國を結び、澁江川に沿ひて北に至る道路もあり。省線中越線の福光驛へ約六軒、自動車を通す。

切の間に諸驛を置き、三條市より郡内長澤までは彌彦驛を分岐す。國道・縣道も亦西部平野に發達し、五十嵐川に沿ひて東南走する一條は會津盆地へ通す。其の他、信濃川本流には新潟市・長岡市間に舟楫の便あり。明治十三年蒲原郡を新潟區及び東・西・南・北・中の五郡に分ちて本郡を置く。蒲原(郡)

過ぎず。この臺地の末端は橋脚の陥没により海底下に沈下し、爲に北島原の如く緩傾斜をなす掘野を缺く。從つて丘陵の末端は多く断崖をなして海に臨み、僅に断崖の下に一路を通するのみ多し。而して臺地には其の後の浸蝕發達し、壯年期に開析されし小川其の間に流れ、下流に僅の谷平地を見るのみ。安山岩・玄武岩の臺地の表面は殆ど耕され、水田畑地となる所多く、特に西端國崎半島の基部には積廣き沖積層の耕地あり。海岸は國崎半島を中心として南北や異なる地形を呈す。即ち京泊附近より北西に至る海岸は橋脚東岸の弧狀階層海岸の連續にて、陥没地形の特徴をよく現はし、小入江・灣・岬等複雑なる地形を示す。京泊・白頭・磯子等は入江奥の中漁村の聚落なり。國崎半島以南、加津佐村權田泉に至る間は同層階層海岸なるも、臺地面の開析進まず、從つて海濱・岬を見る事なく一直線の海岸なり。臺地面及び谷川平地、海岸の小耕地は農耕の業進み、米・蕎麥・甘藷を始め養蠶業亦盛なり。全村牛の飼養盛なり。また沿岸は漁業行はれ其の中心地は京泊なるも漁獲高は少し。交通は島原半島に於て北串山と共に鐵道を見ざる村なり。然し海岸環狀道路よく開け又海路交通便にて京泊は良泊地をなし沿岸汽船の寄港地たり。本村はもと北串山と合して一村たり。中世、源爲朝の領土となり、のち有馬氏に歸屬す。後醍醐天皇

宣元四年有馬左衛門尉朝隆、串山郷の事を鎌倉に訴訟する事、東鑑に見ゆるを以て本村の史に現はるる始とす。近世キリスト教の盛なりし所。其の墓碑を今尙ほ遺し俗にりあん石と稱す。

成り、中央稍東偏して龜岡盆地を抱く。東部の山地は丹波の主峰愛宕山・地蔵山の連續する山地にして城内の三郎ヶ嶽・牛松山等何れも六百米を超え、其の西方は龜岡階層断崖にして、北方船井郡より南南東に走り南方老ノ坂峠に至る顯著なる構造線の所在により形成せられしものなり。之に反し西方山地には湯谷ヶ嶽・鴻鹿山・鉦尾山等國境近く六百米以上の山嶺聳え、北方に中國山八百米に近く稍高峻なるも、之等は幾多の地塊に分離せられ、東部の如く一連の山系を示さず。西部山地中には所々花崗岩の噴出地帯あり、郡の北境船井郡及び龜岡の南西等其の主なるものなり。龜岡の南西側天神の礫石は粘板岩が花崗岩の噴出により接觸變質を受けし重晶石なり。また古生層の岩石中には其の質硬石となるものあり、北方宮前村は其の主産地なり。また所々にマンガン礫・タンゲスラン礫等の産あり。龜岡盆地は標式的なる階層湖盆にて南北に帶狀の盆地たり。其の東部の階層湖盆は浸蝕未だ進まず、美しき原形を遺すも盆地の西部は南北の断崖に直交する構造線のため幾つかの地塊に分たれ地形複雑なり。盆地中央は大堰川流れ、之に沿うて兩岸に重要交通線及び聚落を置く。川の南東部は保津の峽谷にて、之より保津川の名あり。川は曲流して急澗奔流をなして下る。此等の沖積層の平地と山地との間、特に龜岡の南より西部にかけて

ミナミ

ミナミ

ミナミ

ミナミ



は洪積層の丘陵地廣く分布し、古墳の他、古集落、古交通路の分布地にてまた主要生産地帯たり。主な交通路は南方老ノ坂峠を越え、龜岡より北方船井郡に至る山陰街道なり。延喜式丹波國大枝郡を置

る迄は桑田の一部にて、その範圍今の船井郡に及ぶといふ。和名抄には久波多と註し十二郷を管したり。式内社に桑田神社を始め桑田郡に於て十九社を數ふ。また國府は本郡龜岡の地とも(船井郡本庄村屋敷が正しきか)稱せられ、國分寺は本郡千歲村大字國分をその遺蹟地とす

ミナミコーチ 南河内村

山口縣周防國玖珂郡の東北部。玖珂町に北接し岩國川の南岸にあり。全村丘陵地をなし四周に高く西南部には蓮華山(五七六米)一帶の山地あり。北端の中央に

ミナミコーリ 南郷里村

滋賀縣近江國坂田郡の北部。長濱町の東約二軒。全村土地平坦にて水田割け米を主産し、麥・粟・野麥の産これにつき、

ミナミコーマ 南高麗村

關西國九郡の一。縣の東部。東に北葛飾郡、南に東京市に、西に北足立郡、北

ミナミコーマ 南高麗村

二の大郡なるも土地高燥にして山林多ク平地に乏しきため人口少く、密度は一平方軒七人にて過ぎず、縣下最小度なり。略南北に長く、西端を二〇〇〇—三〇〇〇

ミナミコーマ 南高麗村

關西國九郡の一。縣の東部。東に北葛飾郡、南に東京市に、西に北足立郡、北

ミナミコーマ 南高麗村

關西國九郡の一。縣の東部。東に北葛飾郡、南に東京市に、西に北足立郡、北

ミナミコーマ 南高麗村

關西國九郡の一。縣の東部。東に北葛飾郡、南に東京市に、西に北足立郡、北

ミナミコーマ 南高麗村

關西國九郡の一。縣の東部。東に北葛飾郡、南に東京市に、西に北足立郡、北

ミナミ

三郡に分ちて本郡を置く。↓(巨摩(郡))

ミナミ

三郡に分ちて本郡を置く。↓(巨摩(郡))

ミナミ

三郡に分ちて本郡を置く。↓(巨摩(郡))

ミナミ

三郡に分ちて本郡を置く。↓(巨摩(郡))

ミナミ

三郡に分ちて本郡を置く。↓(巨摩(郡))

ミナミ

三郡に分ちて本郡を置く。↓(巨摩(郡))



全耕地に對して田は三八%、畑六二%にして、桑畑は耕地面積の四七%を占め、水田より多し。斯くて生産構成に於ても山村地域たるを示す。千曲川の谷の中、東側は比較的よく開墾せられ、桑畑も開け、西側の火山麓には甲州街道通す。これと並行して省線小海線通じ、中央本線の小淵澤驛と信越本線の小諸驛とを結ぶ。中込町と野澤町とはそれより千曲川を挟みて桑畑を形成し、謂ゆる双子町を成す。北部の中込町・野澤町・櫻井村・平賀村は千曲川が佐久平に流出する扇状地に當り、郡の主要農耕地なり。水田も多く、桑畑また卓越し、佐久平の養蠶地帯の一部をなす。水田には養蠶業行はる。これれ製絲より得たる蠶を飼料とするものにて、土地高燥にて紫外線多き事も利すると言はれ、既に京阪地方に輸出さる。内陸盆地たる本郡が外界地方に通ずるには非常なる困難あり、従來は文化的に隔絶せられるなり。東部關東山塊を越すに略々三輪あり。中込町・野澤町より上州下仁田・富岡に通ずる富岡街道は内山峠(一二〇〇米)を白田・下仁田街道は余地峠(一二六八米)を越え、また南方石神峠(一三五六米)を通ずる石神街道、或は武州街道あり。武州街道は石神峠を越え、神流川の溪谷を下り中里村(群馬縣多野郡)より秩父山地を志賀坂峠(八七六米)を越し荒川の上流に達するものにして此街道は古く中山道の東街道として志賀坂

ミナミサクライ 南櫻井村

埼玉縣武蔵國北葛飾郡の中部。江戸川の西岸にて、南埼玉郡柏壁町の東方約二・五軒にあり。東は川を隔てて千葉縣葛飾郡と相對す。關東平野中央の一部を占め、全村平地にて北部・南部は水田多く中部は畑地をなし、農業・養蠶行はれて米・麥および繭の産あり。鐵道よく發達して西は柏壁町に通ず。社鐵武蔵鐵道は南部を西走して南櫻井驛(昭和七年設置)を經す。〔香取神社〕大字西金野井に鎮座。郷社。祭神、經津主命。江戸時代に朱印領十石を有す。一に金井明神とも稱せらる。例祭、二月十九日。

ミナミサバイシ 南鯖石村

新潟縣越後國刈羽郡の東南部。鯖石川上流に沿ふ。東西を低き丘陵に挟まれたる中央低地を鯖石川南より北へ貫流す。流域に田畑開墾農業行はるも、他は概ね山林なり。米を主産とし、副産物の繭また相當の額に及ぶ。其のほか山林には林産物の類に及ぶ。北部には最近温泉湧出す。鐵道は

ミナミシヨウゲン 南省規

朝鮮總督府鐵道京釜本線の一驛(大正二年設置)。慶尙北道清道郡龍淵面にあり。

ミナミシヨウナイ 南庄内

〔南庄内村〕靜岡縣遠江國濱名郡の北部。根本山(一一九米)より濱名湖に西南に突出する半島にあり、東北に北庄内村、南に村瀬村あり。東南及び西北は湖に面す。東南には入江あり、和田・上田・協和・西村の業務發達す。高度二〇〇米以上の丘陵は畑地にて桑園をなし、また西風を栽培す。湖畔低地に水田あり養魚も行はる。村内に館山寺飛行場あり。

ミナミシヨウナ 南庄内

〔南庄内村〕大分縣豐後國大分郡の西部。大分川の右岸に沿ひ、別府市の西南七軒餘にありて南は直入郡に界す。南部は山岳地をなし、東南端には烏帽子嶽(七六一米)、西南部には時山(九五八米)が聳居す。北境に沿ひ大分川が東流し、東部には一支流が東北流し東北隅にて兩者相合す。兩河川の沿岸には斜面耕地發達す。産物に米・麥・繭・林産あり。省線久大本線は村境に近く走り、天神山驛及び庄内驛に近し。

ミナミシリベツ 南尻別村

北海道後志支庁後志郡の東部。尻別川下流。城の廣大なる地を占め磯谷村の東

ミナミシズハタ 南賤機

靜岡縣安倍郡にありし村。明治四十二年本村を廢し、大字安西外新田、ほか三大字を靜岡市に、また鶴上新田ほか五大字を北賤機村に編入し、同時に北賤機村を賤機村と改む。賤機村は昭和七年に靜岡市に編入せらる。

ミナミシタウラ 南下浦村

川縣相模國三浦郡の南端。三浦半島の先端にて三時町の東隣にあり。浦賀水道に臨む。全村丘陵地多く海岸は東部に砂濱をなすも、南岸は磯濱にて出入に當む。丘陵間に農業行はれて、麥・甘藷・馬鈴薯・粟・大豆等を産す。東北方浦賀町より三時町に通ずる縣道は村の北部を西南に走りバスを通す。海岸には沿岸航路の汽船寄港す。東南端の磯崎に燈臺あり、連四線白交光、一六秒半を隔て七秒間に白二閃光、更に一六秒半を隔て四秒光を發す、光達距離一七・五哩。大字金田は三浦系國に見ゆる金田小大夫頼次の居りし所なるべく、頼次は三浦介義澄の女婿にして上總介廣常の弟なり。

ミナミシタラ 南設樂郡

十八郡の一。三河國の東部。北は北設樂郡に、東は八名郡に、南は實飯郡に、西は額田郡・東加茂郡に相接す。大部分は花崗岩・第三紀層・古生層を以て構成する三河山地より成り、西部には僅に豊川の沖積地あり。北部には鞍馬山・宇連山の沖積地あり。北部には鞍馬山・宇連山(九二九米)あり、中部には佛法僧にて有

ミナミシゲヤス 南茂安村

佐賀縣肥前國三養基郡の南部。筑後川の右岸に沿ひ、久留米市の西々南約三軒。南及び東は筑後川を挟みて福岡縣三浦郡に界す。筑後平野中央の一部を占め、地形極めて平坦にて、東端及び南境に沿ひて筑後川が大屈曲しつつ西南流す。米産頗る多く、その他麥・繭をも産す。主要里道久留米市及び佐賀市へ通じ、筑後川には渡船の便あり。此地は和名抄、三根郡葛木郷の内なるべく、大字天建寺に葛木一宮主神社あり、三代實録にその名見ゆ。〔八幡神社〕大字西島に鎮座。郷社。祭神、應神天皇。鎌倉權五郎景政の創祀と傳ふ。例祭、四月十五日。

ミナミシノイ 南酒々井

省線武本線の一驛(大正三年設置)。千葉縣印旛郡酒々井町にあり。

ミナミシノナ 南庄内

〔南庄内村〕靜岡縣遠江國濱名郡の北部。根本山(一一九米)より濱名湖に西南に突出する半島にあり、東北に北庄内村、南に村瀬村あり。東南及び西北は湖に面す。東南には入江あり、和田・上田・協和・西村の業務發達す。高度二〇〇米以上の丘陵は畑地にて桑園をなし、また西風を栽培す。湖畔低地に水田あり養魚も行はる。村内に館山寺飛行場あり。

ミナミシノゲ 南省規

朝鮮總督府鐵道京釜本線の一驛(大正二年設置)。慶尙北道清道郡龍淵面にあり。

ミナミシノナ 南庄内

〔南庄内村〕靜岡縣遠江國濱名郡の北部。根本山(一一九米)より濱名湖に西南に突出する半島にあり、東北に北庄内村、南に村瀬村あり。東南及び西北は湖に面す。東南には入江あり、和田・上田・協和・西村の業務發達す。高度二〇〇米以上の丘陵は畑地にて桑園をなし、また西風を栽培す。湖畔低地に水田あり養魚も行はる。村内に館山寺飛行場あり。

ミナミシノナ 南庄内

〔南庄内村〕靜岡縣遠江國濱名郡の北部。根本山(一一九米)より濱名湖に西南に突出する半島にあり、東北に北庄内村、南に村瀬村あり。東南及び西北は湖に面す。東南には入江あり、和田・上田・協和・西村の業務發達す。高度二〇〇米以上の丘陵は畑地にて桑園をなし、また西風を栽培す。湖畔低地に水田あり養魚も行はる。村内に館山寺飛行場あり。

ミナミシノナ 南庄内

〔南庄内村〕靜岡縣遠江國濱名郡の北部。根本山(一一九米)より濱名湖に西南に突出する半島にあり、東北に北庄内村、南に村瀬村あり。東南及び西北は湖に面す。東南には入江あり、和田・上田・協和・西村の業務發達す。高度二〇〇米以上の丘陵は畑地にて桑園をなし、また西風を栽培す。湖畔低地に水田あり養魚も行はる。村内に館山寺飛行場あり。

ミナミシノナ 南庄内

〔南庄内村〕靜岡縣遠江國濱名郡の北部。根本山(一一九米)より濱名湖に西南に突出する半島にあり、東北に北庄内村、南に村瀬村あり。東南及び西北は湖に面す。東南には入江あり、和田・上田・協和・西村の業務發達す。高度二〇〇米以上の丘陵は畑地にて桑園をなし、また西風を栽培す。湖畔低地に水田あり養魚も行はる。村内に館山寺飛行場あり。

ミナミシノナ 南庄内

〔南庄内村〕靜岡縣遠江國濱名郡の北部。根本山(一一九米)より濱名湖に西南に突出する半島にあり、東北に北庄内村、南に村瀬村あり。東南及び西北は湖に面す。東南には入江あり、和田・上田・協和・西村の業務發達す。高度二〇〇米以上の丘陵は畑地にて桑園をなし、また西風を栽培す。湖畔低地に水田あり養魚も行はる。村内に館山寺飛行場あり。

ミナミシノナ 南庄内

〔南庄内村〕靜岡縣遠江國濱名郡の北部。根本山(一一九米)より濱名湖に西南に突出する半島にあり、東北に北庄内村、南に村瀬村あり。東南及び西北は湖に面す。東南には入江あり、和田・上田・協和・西村の業務發達す。高度二〇〇米以上の丘陵は畑地にて桑園をなし、また西風を栽培す。湖畔低地に水田あり養魚も行はる。村内に館山寺飛行場あり。

ミナミシノナ 南庄内

〔南庄内村〕靜岡縣遠江國濱名郡の北部。根本山(一一九米)より濱名湖に西南に突出する半島にあり、東北に北庄内村、南に村瀬村あり。東南及び西北は湖に面す。東南には入江あり、和田・上田・協和・西村の業務發達す。高度二〇〇米以上の丘陵は畑地にて桑園をなし、また西風を栽培す。湖畔低地に水田あり養魚も行はる。村内に館山寺飛行場あり。

ミナミシノナ 南庄内

〔南庄内村〕靜岡縣遠江國濱名郡の北部。根本山(一一九米)より濱名湖に西南に突出する半島にあり、東北に北庄内村、南に村瀬村あり。東南及び西北は湖に面す。東南には入江あり、和田・上田・協和・西村の業務發達す。高度二〇〇米以上の丘陵は畑地にて桑園をなし、また西風を栽培す。湖畔低地に水田あり養魚も行はる。村内に館山寺飛行場あり。

ミナミシノナ 南庄内

〔南庄内村〕靜岡縣遠江國濱名郡の北部。根本山(一一九米)より濱名湖に西南に突出する半島にあり、東北に北庄内村、南に村瀬村あり。東南及び西北は湖に面す。東南には入江あり、和田・上田・協和・西村の業務發達す。高度二〇〇米以上の丘陵は畑地にて桑園をなし、また西風を栽培す。湖畔低地に水田あり養魚も行はる。村内に館山寺飛行場あり。

名なる風車山(六八四米)・彦陀山・御嶽山、西部には巴山・本宮山連互す。狭狭川は巴山に源を發し、田峯川・政老瀬川を合せ、東境の三輪川と合流して豊川となる。耕地は餘り開けず、ただ養蠶・林業及び作手地方の牧馬(三河馬)や著るのみ。農産物には米・麥・甘藷等あり。此地方は謂ゆる設樂谷の口に當り三河より信州に至る要路にて、天正年中には有名なる長徒合戦あり。伊奈街道は海老町を経て津具方面に入る。豊川の谷に三信・風車寺・豊川の諸鐵道通じ、長野縣南部との交通便なり。明治十三年五月設樂郡を南北二郡に分ちて本郡を置く。

ミナミシヨウ 南條村

長野縣信濃國埴科郡の東南端にあり。上田市を去る西北に凡そ五軒。東境には、大峰山(一三二七米)・太郎山(一一六四米)あり。村は其の西南の斜面をなし西南境には千曲川流る。村内に上田市より長野市に通ずる北國街道があり、ほば之に並行して省線信越本線通す。千曲川沿岸に水田拓け、山麓を上部に次第に桑畑、山林と變化す。耕地面積三三八町にて全面積に對する耕地率二六%、田八〇町、畑二五八町、うち桑畑二四三・五町にて、如何に本村が養蠶を農村經濟の根幹とするかが窺はる。この地は和名抄、埴科郡坂城郷の内にて、鼠宿村・新地村・金井村・横尾村の舊四箇村を合併して本村をなせり。村内に岩鼻の釜、和合城址の名所舊

ミナミセンジュ 南千住

東京都北豊島郡にありし町。昭和七年東京市に入り、外三町と合し荒川區を建つ。省線當勢線の南千住驛(明治二十九年設置)は荒川區南千住町四丁目にあり。

ミナミセタ 南勢多

↓勢多郡(群馬縣) 大阪府東成郡にありし村。大正五年神路村と改稱す。大正十四年大阪市東成區に入る。

ミナミセタ 南勢多

↓勢多郡(群馬縣) 大阪府東成郡にありし村。大正五年神路村と改稱す。大正十四年大阪市東成區に入る。



ミナミ——ミナミ

ミナミソートー 南雙頭山 高嶺中央分水山脈の南部、高嶺州と花連港玉里支那との間に聳ゆる峻峯。新高山の南方。標高三三三八米。

ミナミソーマ 南相馬 下總國(千葉縣)の古郡名。明治十三年五月、相馬郡を南北二郡に分ちて本郡を置きしが、同三十年四月には東葛飾郡に入り郡名を失ふ。↓相馬

ミナミソマ 南柚村 滋賀縣近江國甲賀郡の南部。水口町の西南二軒餘に位置し、南部は三重縣阿山郡に界す。南境に岩尾山(四七一米)あり、それより西北方に約五〇〇米の山地が連なり西境をなす。山地は波状に起伏しつつ東北に下り東北部に平野開く。野洲川の一支流は東北隅を穿て西北流す。農業・林業を主産業とし、主産物には米・麥・粟類、其他、食用農産物、材木、林野産物等あり。特産物としては越瓜(一名杉谷瓜)・干鰯・大麥(一名杉谷麥)・杉材(大字杉谷産)等あり。縣道は東北隅を穿て過ぎ、省線津原線深川驛は東北凡そ一軒にあり。北柚村と共に中世は柚産と呼ばし處。大字杉谷は甲賀武士の一なる杉谷氏の居りし所。杉谷善住坊なる鐵砲の名人は即ちその一族なり。村内には豊野鎮泉・宮乃鎮泉あり、例れもラザラム含有鹽泉にして加熱常用。(新宮神社)大字新治に鎮座。村社、伊弉命・速玉男命・正哉尊・速日天照尊。表門は國寶。

ミナミソマヤマ 南柚山村 福井縣越前國南越前郡のほぼ中央部。北は南日野・王子保・北柚山の三村、東は僅かに今立郡と、南は北柚・湯尾の二村、西はホノケ山を以て何野村と各相接す。東西に長く、日野川中央を流れ地形自ら二分さる。即ち東部は柚山及び是に連る山脈と北柚山・上池田の連山との間に阿久和・中小屋の狭小なる盆地ありて日野川沿岸平野に連なり、其の間を阿久和川西流して日野川に注ぐ。西部はホノケ山及び之に連る山脈に圍まれ、中に奥野々・上別所の小平原をなし日野川沿岸平野に連り其間に奥野川東流す。全村悉く純正なる農村にて、副業として養蠶・養蠶・木炭製造に従事す。林業も極めて盛にて大字阿久和・中小屋入會地百三十二町歩強は縣有模範林とし、特に杉楠等多く、阿久和杉は有名なり。工業品には羽二重・アニー・揚屋・瓦等あり。交通に便ならず。縣道今庄道は南日野村より湯尾村に至る間パスの便あるのみにて東西の交通

例祭、五月五日。(正福寺)大字杉谷にあり。臨濟宗妙心寺派。壽龜山と號す。聖徳太子の開創と傳ふ。初め天台宗、元龜天皇の頃、諸堂宇兵燹に罹り、延寶七年實堂の時之を中興して現宗に改む。天和元年徳川綱吉佛恩報謝のため本堂を再建す。本堂木造十一面觀音立像一軀(弘仁期作)及び木造釋迦如來坐像一軀(藤原期作)は國寶。

機關なく、北陸本線は村の中央を今庄道に沿ひて南北に通ずれど驛なし。村名は村内に聳ゆる柚山より生ず。昔は伊部郡の一部にて、源平争鬪戦に巖城の敗軍は鷹尾を打つて茶臼山城に入りしもの如く、吉野時代には瓜生保が柚山城にありて越前官軍の根據地となり、一時足利高麗之に據りしも此に死し、朝倉時代には其區の居城として威勢を振へり。大字鮎波の石倉義太郎宅は明治天皇が明治十一年十月八日御小休遊ばされし所なり。いま舊規よく保存せられ、明治天皇御謁御小休所、附御膳水として史蹟に指定せらる。大字阿久和に柚山城址あり、一部は湯尾村にも互る。延元元年より同三年迄は瓜生の居城、同三年柚山を本據として武生方面に出動せんとし、九月京畿の敵兵と戦ひ兼京畿せずして落城、後貞治五年八月足利高麗之に據り、同六年七月此地に死す。次で新波氏の家老増甲斐守之によりしが、主家の紛争に際し遂に朝倉敵討と反目し、寛正六年敵討のため一揆衆も亦柚山に據りしことあり。されば本城は府中否な越前の關谷關の感あり。頂上に格跡・西御殿・大屋敷・假屋ヶ原・木戸口等の名稱今に残れり。昭和八年史蹟に指定せらる。また大字鮎波白山神社の地は茶臼山城址にして、一條天皇の御宇、源賴朝の臣、佐藤帶刀の居城地なり。

東境と西境附近は低き臺地を成すも、中部は平地開けて五行川南流し、水田多し。農業を主業となし、米を主産し、臺地には大麥・小麥を産す。蠶桑・栗・西風等の栽培も行はる。南部を横走する縣道は鼠母井町より四方字都宮市に通ずるものにて省管自動車本線これに通ず。その他にも縣道よく發達す。

ミナミタカヤス 南高安村 大阪府河内國中河内郡の東南部。生駒山脈の西斜面に位置し、西北隅は八尾町の東南隅と接す。西南は南河内郡の北隅に界し、東は奈良縣生駒郡に隣る。東境には高安山(四八八米)を中心とする一帯の山地連り、西境は階層を以て終る。西部は大阪平野の一部を占め、地形平坦にて恩智川が北流す。米・麥の農産物、工業・畜産・林産あり。西部山麓に東高野街道が縱走し之より岐れて八尾町に至る街道あり。社殿大阪電氣軌道の信貴山口驛(昭和五年設置)あり、此處より社線信貴山急行電鐵起り高安山驛(昭和五年設置)あり。高安村と共に高安里と云ひし處。吉野朝の忠臣、恩知神社の同官、恩地左近(贈從四位)はこの地の人なり。↓高安

ミナミタカニ 南高根澤村 栃木縣下野國芳賀郡の北部。鼠母井町の北隅にて、北は鹽谷郡と隣す。

ミナミタカネサワ 南高根澤村 栃木縣下野國芳賀郡の北部。鼠母井町の北隅にて、北は鹽谷郡と隣す。

ミナミタニ 南谷村 鳥取縣伯耆國東伯耆郡の西南部。倉吉町の西南方約七軒に位置し、北は北谷村、東は上小鴨村、南は矢野村に接す。面積九・四一方軒。北部と南部とに山地東西に連るも中央を天神川の支流小鴨川東流し山間に廣き谷

産、堂宇を復興す。本堂に聖徳太子作佛勒菩薩を安置す。(神宮寺)大字恩智にあり。古義眞言宗。もと三宅寺と稱し恩知神社の供僧寺なり。沿革不詳。木造十一面觀音立像一軀は國寶。

ミナミタク 南多久村 佐賀縣肥前國小城郡の西南部。六角川の支流牛津川に跨り、小城町南部の西方約二軒に位置し、南は杵島郡大町町に接す。西南境に四六八米の山地あり南部は其の北方傾斜地を占め、東南境には三三八米の兩子山驛居す。北部は西北隅の臺地を除く外は平野をなし牛津川が東流す。北方より一支流が流れ來りて東北部を灌漑し之に合す。米・蕎麥を産す。杵島炭礦の礦區は當村及び多久村、更に杵島郡の北方村・大町町にも跨り、本邦有数の大炭山にて年産六〇萬噸を超え、従業員も三千七八百人あり(北方村参照)。縣道中央を東西に走りて小城町及び武雄町に通ず。省線唐津線の東多久驛(東北約一軒)に近し。此地は和名杵、山城郡高來郡の内なり。(高野神社)大字下多久に鎮座。郷社。祭神、同象女神・間瀬神。建久四年多久太郎宗直の創祀なり。例祭、五月一日。

ミナミ——ミナミ

ミナミ

ミナミダイトー 南大東島 神戶縣島尾郡大東島に屬し、大東諸島の最大島にて、那覇港を距る二二二哩、南北八軒、東西五軒、面積二五平方軒の低平なる陸地珊瑚礁なり。北方八哩の北大東島と共に東洋製糖會社經營の甘蔗園となり、南大東島製糖所あり。

ミナミタカキ 南高來郡 長崎縣肥前國七郡の一。我が國國立公園の一として其の勝景を天下に顯はるる雲仙岳火山の所在地として、或は寛永郡縣改訂の蜂起せる島原半島の地として、昔其の名を天下に知られたる本郡は、有明海と橘瀬との間に僅かに愛野の地畝により半島として存在するも、殆んど一島と見るも差支なし。半島の中央に聳ゆる雲仙岳は高麗僅かに一三六〇米に過ぎざるも、楕圓形の島の上に圓錐形の雄姿を浮べ、九州六ヶ國より之を望む事を得べしといふ。全半島は雲仙岳火山裾野の輪廓がそのまま海岸線となしたる半島・東部と、弧狀陥没せる橘瀬東側階層が雲仙岳西麓を水底下に没せしめ孤狀懸人を見る地域と、他に半島西南部に之に附隨せる第三紀層、之を蔽うて噴出せる玄武岩・安山岩地帯との三地區に分たる。第一の北部東部の山麓地帯に未だ殆ど開析進まざる標式的なる火山性扇狀地をなし、其の緩斜原表面は殆ど畑地にして、北部の幼年期的の小谷には僅少の水田が放射狀に排列せらる。之に反し西部の橘瀬沿岸地帯は

農家の七割は之に従事す。馬の飼育盛にして、我國に於ける牛馬の主要産地たり。其の分布地帯は主に牛馬の北部にして、雲仙岳裾野に放牧に適するも自家飼養のもの其の大部分を占む。總數約一萬頭に近く縣下の過半を占む。かく未だ原始産業を主とするも島原附近には蠶桑業を始め各種工業の勃興を見る。生産地帯は縣下各部中最高にて都市を除き縣下第一の生産地帯なり。交通は北部に島原鐵道、東部より南へ口津鐵道、西部には雲仙鐵道等の諸社線が環狀に全城を圍繞せり。海上交通は島原を中心し口津・長崎・三池・三角方面に通ず。養蠶は火山の裾野、特に海岸地帯に廣く分布す。島原は郡治・生産・文化・交通の中心地、松平氏七萬三千石の舊城下、今其の城址と土族町・町家等とを遺す。西方小嶺は橘瀬岸の溫泉地、その北八軒の千々石は橘中佐出身地たり。本郡は長崎・小濱・雲仙・島原を連絡する一大觀光地帯にて、特に雲仙嶽は國立公園とし、春はつつじ、夏は避暑地、秋は普賢の紅葉、冬は霧水の壯觀と、四季を通じての觀光・遊覽地たり。温泉・旅館・ゴルフ場等の諸設備亦整ひ火山研究と史蹟探訪に興味深く數々のものあり。明治十三年五月高來郡を南北二郡に分ちて本郡を置く。↓高來(郡)

ミナミタカネサワ 南高根澤村 栃木縣下野國芳賀郡の北部。鼠母井町の北隅にて、北は鹽谷郡と隣す。

ミナミタカニ 南谷村 鳥取縣伯耆國東伯耆郡の西南部。倉吉町の西南方約七軒に位置し、北は北谷村、東は上小鴨村、南は矢野村に接す。面積九・四一方軒。北部と南部とに山地東西に連るも中央を天神川の支流小鴨川東流し山間に廣き谷

産、堂宇を復興す。本堂に聖徳太子作佛勒菩薩を安置す。(神宮寺)大字恩智にあり。古義眞言宗。もと三宅寺と稱し恩知神社の供僧寺なり。沿革不詳。木造十一面觀音立像一軀は國寶。

ミナミタク 南多久村 佐賀縣肥前國小城郡の西南部。六角川の支流牛津川に跨り、小城町南部の西方約二軒に位置し、南は杵島郡大町町に接す。西南境に四六八米の山地あり南部は其の北方傾斜地を占め、東南境には三三八米の兩子山驛居す。北部は西北隅の臺地を除く外は平野をなし牛津川が東流す。北方より一支流が流れ來りて東北部を灌漑し之に合す。米・蕎麥を産す。杵島炭礦の礦區は當村及び多久村、更に杵島郡の北方村・大町町にも跨り、本邦有数の大炭山にて年産六〇萬噸を超え、従業員も三千七八百人あり(北方村参照)。縣道中央を東西に走りて小城町及び武雄町に通ず。省線唐津線の東多久驛(東北約一軒)に近し。此地は和名杵、山城郡高來郡の内なり。(高野神社)大字下多久に鎮座。郷社。祭神、同象女神・間瀬神。建久四年多久太郎宗直の創祀なり。例祭、五月一日。

ミナミ——ミナミ



ミナミ

を形成せり。耕地よく拓け米・麥・甘藷・蔬菜及び畜産を産す。縣道東部を貫通し倉吉町にバス通す。

ミナミタニ 南谷

【南谷村】富山縣越中國西礪波郡の西部。石動町の西北に接し、北および西は三國山(三二四米)を境に石川縣能登、加賀兩國に接す。全村二〇〇米前後の丘陵起伏し谷間の小平地に米の耕作行はる。米・薪・薪炭材を産す。南部を省線北陸本線及び國道貫通し、俱利伽羅隧道を経て加賀國に入る。其他、東南に西北に村内を貫通する縣道あり、石動町にも近く交通は便なり。大字安樂寺に長門本平家物語に北黒坂安樂寺とある地なり。また源平盛衰記には「一手は宮崎向田を案内者にて安樂寺を通り、金基坂を打上り、北黒坂を引越し、俱利伽羅峠の西の礪波原へ差遣す」とあり。

【南谷村】兵衛國但馬國美太郎の南部。朝東郡和田町の西方九・五軒に位し、南は穴栗郡に、東南は朝東郡に界す。四周山地を以て囲まれ、東境中央に須留ヶ峰(一〇五四米)、東北境には御殿山(七三三米)聳え、各山地は中央へ傾斜して南境に發する八木川が村を貫流して北流す。その北西部沿岸には狭小の低地拓く。産物の主なるものは米・麥・蔬菜・花卉・食用産物・畜産・果實・高麗芋・製茶・鶏卵・双物等あり。また錫山として名高き明延嶺山あり。縣道は中央の河川に沿ひ

發し、南境の富士野峠を越え三方川沿岸に出づ。北方へバスの便あり。此地は和名抄、美太郎大屋郷の一部とす。(明延嶺山) 鐵區は南谷村及び朝東郡山口村、穴栗郡繁盛村にも跨りて約五二〇萬坪、鐵種は金銀銅鉛錫重石なるも世に錫山として知らる。鐵區は新井野の西方約二〇軒の地點にあり、地質は大部分中古生層にて鐵床は閃綠岩の侵入に伴ひ、その周圍の古生層及び一部は中生層中に生ぜし多数の鐵脈にて、石英・錫石・黄銅鐵・ウオルフラム鐵礦等より成る。三菱鐵業會社の發行にて、昭和十年には第一、九四七、五五五班、金銀銅鐵一〇、〇九三班を産出す。鐵石は神子畑選礦所までを鐵索にて送り、其内の錫鐵は直接當山にて製錬すれども其他は香川縣の直島製錬所に於て合併製錬す。當嶺山は銀山書留方と題する舊記によれば大同元年の創始に係り、また但馬金銀銅山舊記によれば延徳年間の創始なりといふ。何れが眞なるや詳ならず。とまれ明治元年より官營なりしが同廿九年三菱に拂下され、現に三菱鐵業會社の發行たり。今當嶺山は本邦産産の大部分を占め重要鐵山中の重要鐵山として殷盛を極め、従業員は千人を超え、南谷村の大字和田の地名は採殺されて明延を以て通稱せらるるの狀態なり。山元より山口村大字佐藤字神子畑までは鐵索ありて、其處には選礦所其他存す。更に神子畑より生野鐵山までは軌

線あり。生野鐵山よりは錫鐵が明延鐵山に送致せられて、明延産の錫鐵と共に合併製錬せらる。

ミナミタネ 南種子村 鹿兒島縣大隅國龍郷郡種子島の南端。北部を除く他の三面は海に開かれ、西方海上に種子島海峡を隔て屋久島を望む。全村丘陵山地の起伏し、南岸に南平野開け、那川その他二、三の河川が南流して海に注ぐ。海岸は岩石海岸をなす所多く、西北部に島間峯突出し、其北に廣地あり。西南端に門倉岬あり。それより海岸は東方へ傾き砂濱をなし、東南端は稍東南方へ突出して附近に竹崎・小島・立瀬等の島嶼あり。東岸中央に吉信岬あり。東北部は山地が南東方海上へ擴がりて、北に萬野浦の灣を作る。米・麥・薪の産多く、また林産・工業・水産・畜産等あり。人口密度は一方軒七三人なり。東部及び中部に縣道通じ、また近海に航路ひらく。

ミナミタネヤマ 南種山 萬本縣八代郡にありし村。大正十二年北種山村・小浦村と共に廢せられ種山村を新設す。

ミナミタビラ 南田平村 長崎縣肥前國北松浦郡の北西端。北は玄海灘、西は平戸瀬戸、南は江迎浦と、三方は海に圍繞され、ただ東部の北松浦半島に續く。沿岸一帯は第三紀層發達し、其の中央山地一帯は玄武岩の熔岩臺地より成る。従つて平地少く、ただ丘陵地の谷間に多少の平地あり。水田の分布地域たり。

大日影山(八二三米)・萬左衛門山(七〇二米)・孫佐衛門山(八九一米)・三ツ森(九四九米)等聳え、郡の東部及び南部は山地をなし西方及び北方に傾斜し、西北部は津輕平野の東南部を占めて平坦なり。平川は南境に發源して西北に流れ、東方より津南川・大落前川・南方より虹貝川・日内川を合し、平野に出でて郡の西境をなして北流し、岩木川に合す。淺瀬石川は東南境に發して西北に流れ、東方より中野川を合し、西北に流れて平川に合し、次いで岩木川に合す。岩木川は西北境を西北に流る。平野の東縁は大館山階層崖(三四七米)西北に走り、山麓には苹果地帯發育狀に並びて苹果の産多く、縣下の約七五%の産額を占む。平野には水田拓けて米を産し、東部及び南部の山地には木材・木炭の産あり。羽州街道は西南部を西北に向ひ中津輕郡に入り、次いで西北部を東北に向ふ。又中西部を南北に通ずる道路あり。羽州街道に並行して省線奥羽本線通じ、北より大野通・浪岡・北常磐・川部・豊前・石川・陸奥森山・大崎・碓ヶ關等の驛あり。川部驛よりは東方に黒石嶺、西北方に五能嶺を分岐す。明治十三年五月津輕郡を東西南北中の五郡に分ちて本郡を置く。↓津輕(郡)

【南種山】萬本縣八代郡にありし村。大正十二年北種山村・小浦村と共に廢せられ種山村を新設す。

また玄武岩の熔岩臺地はよく耕され畑地比較的多し。故に此等の地は殆ど農耕產落地帯なり。海岸の小嶺地は多くは沿岸漁業の漁舟的墾墾なり。平戸瀬戸は最短一軒内外に過ぎず、従つて干満の漲潮時に際しては大小の渦を巻き小船の通航危故なり。海岸に面する日ノ浦は本土より平戸島へ渡る最捷路たる要津にて、平戸港との間約一哩餘、運船の小汽船往來す。その北方野田の熊野神社境内にピラウ樹二本自生し、雄株は高さ約一八米、幹周二米、樹齡數百年を經しものと傳へられ熱帯樹種限の一地带とし注目し値す。これ沿海暖流の漂流によるものなり。玄海灘に面する釜田浦は北東に開口する入江にて、其の前面に横島横はり河口を塞ぎ風波を凌ぐに過す。田平は中世、松浦黨の一族田平豊後この地に築城して田平氏と稱す。日ノ浦は古代より交通の要地、額葉三代格に載する天平十七年勅符肥前松浦郡彌勒寺に古くより田平にありと傳ふ。(總社神社) 大字小手田に鎮座。郷社。祭神、天御中主神・國之常立神・豊雲野神等十八柱。平戸領主の崇敬篤く、松浦家以後は平戸惣社と號す。一名、惣社大明神。例祭、九月十九日。

【南多摩郡】東京府武蔵國三郡の一。北より西は北多摩郡・西多摩郡、東より南は神奈川縣橋本郡・都筑郡・鎌倉郡・高座郡・津久井郡等と隣す。西部は關東山地の一部なるも、中部以東

留兩郡に隣接す。面積六八六・八二方軒にして縣下第三の大部。郡内山岳重疊し富士山麓に沿ひて南部には山中湖、西北部には河口湖・西側の楊野湖を瀝へ、湖畔一帯は風光明媚にて避暑・保養地帯をなす。桂川は郡の西南部に發し東に流れて、北境の御坂山を切りて大月町に出で東流す。流域に狭き谷平野開け墾墾最も稠密なり。又東部山間の水は道志川となり東流し相模川に合す。郡内山林に富み林産物多く、各谷の諸村及び富士山麓一帯は桑園開け養蠶・製糸業盛なり。又昔より郡内織の家内工業發達し、近時次第に大工業化されつつあるも尙ほ手織機の産少からず。首邑谷村町は其の中心地たり。桂川流域は我國主要なる發電地帯に屬し、東京への送電多し。其他、米・麥の農耕行はるも其の産多からず。縣道は桂川の谷に沿ひて富士山麓吉田に東り南より来る鎌倉往還を合して河口湖畔より御坂山東山麓を越えて甲府盆地に出づ。其他、吉田口富士登山道、富士五湖を結ぶ縣道も通じ自動車の便よし。社線富士山麓電鐵を北都留郡大月町より富士吉田に通す。明治十三年都留郡を南北二郡に分ちて本郡を置く。↓都留(郡)

【南多摩郡】東京府武蔵國三郡の一。北より西は北多摩郡・西多摩郡、東より南は神奈川縣橋本郡・都筑郡・鎌倉郡・高座郡・津久井郡等と隣す。西部は關東山地の一部なるも、中部以東

留兩郡に隣接す。面積六八六・八二方軒にして縣下第三の大部。郡内山岳重疊し富士山麓に沿ひて南部には山中湖、西北部には河口湖・西側の楊野湖を瀝へ、湖畔一帯は風光明媚にて避暑・保養地帯をなす。桂川は郡の西南部に發し東に流れて、北境の御坂山を切りて大月町に出で東流す。流域に狭き谷平野開け墾墾最も稠密なり。又東部山間の水は道志川となり東流し相模川に合す。郡内山林に富み林産物多く、各谷の諸村及び富士山麓一帯は桑園開け養蠶・製糸業盛なり。又昔より郡内織の家内工業發達し、近時次第に大工業化されつつあるも尙ほ手織機の産少からず。首邑谷村町は其の中心地たり。桂川流域は我國主要なる發電地帯に屬し、東京への送電多し。其他、米・麥の農耕行はるも其の産多からず。縣道は桂川の谷に沿ひて富士山麓吉田に東り南より来る鎌倉往還を合して河口湖畔より御坂山東山麓を越えて甲府盆地に出づ。其他、吉田口富士登山道、富士五湖を結ぶ縣道も通じ自動車の便よし。社線富士山麓電鐵を北都留郡大月町より富士吉田に通す。明治十三年都留郡を南北二郡に分ちて本郡を置く。↓都留(郡)

【南多摩郡】東京府武蔵國三郡の一。北より西は北多摩郡・西多摩郡、東より南は神奈川縣橋本郡・都筑郡・鎌倉郡・高座郡・津久井郡等と隣す。西部は關東山地の一部なるも、中部以東

は多摩丘陵の一部にて、北境を東流する多摩川流域には平地あり。淺川は郡の中央を東流し流域に平地を作り、北境にて多摩川に合流す。平地のうち、川沿ひには水田開け、他は畑地にて麥・甘藷・蔬菜等を産し、養蠶も盛にして製糸業・絹織業盛なり。甲州街道は郡の中央を省線に走り、其他にも府道よく發達す。省線中央本線は甲州街道に沿ひて走り、西南境の小佛峠を経て神奈川縣に入る。その他、省線横濱線は南方より來り八王子市に入り、八高線は同市より北走す。京王電氣鐵道は淺川に沿ひて西走し、社線小田原急行鐵道は東南部を掠りて西南に走り、其他社線南武鐵道は多摩川沿ひに東部を過ぎて北多摩郡に入る。明治十三年五月、多摩郡を東西南北の四郡とし本郡を置き、當時西南北の三多摩は之を神奈川縣の管轄とせしが、明治廿六年四月これを東京府の管轄に移し、大正六年九月には八王子市が獨立して今日に至る。↓多摩(郡)

ミナミツガル 南津輕郡 青森縣三市八郡の一。陸奥國の中部。東北は東津輕郡、東は上北郡、南は秋田縣、西は中津輕郡、西北は北津輕郡に隣接す。面積九四四・一三方軒。郡の北境には梵珠山(四六八米)、東境には横岳(一三四〇米)・棚ヶ峰(一五七米)・磨細山(一〇一一米)、南境には榮森山(八七九米)・馬養森(七八六米)・甚吉森山(八〇〇米)。

【南津輕郡】青森縣三市八郡の一。陸奥國の中部。東北は東津輕郡、東は上北郡、南は秋田縣、西は中津輕郡、西北は北津輕郡に隣接す。面積九四四・一三方軒。郡の北境には梵珠山(四六八米)、東境には横岳(一三四〇米)・棚ヶ峰(一五七米)・磨細山(一〇一一米)、南境には榮森山(八七九米)・馬養森(七八六米)・甚吉森山(八〇〇米)。

ミナミツル 南津留村 大分縣豊後國北海部郡の西南部。白杵町の西に接し東南は津久見町に隣る。西北は大分郡に西は大野郡に、東南兩は南海部郡に夫々

【南津留村】大分縣豊後國北海部郡の西南部。白杵町の西に接し東南は津久見町に隣る。西北は大分郡に西は大野郡に、東南兩は南海部郡に夫々

【南津留村】大分縣豊後國北海部郡の西南部。白杵町の西に接し東南は津久見町に隣る。西北は大分郡に西は大野郡に、東南兩は南海部郡に夫々

【南津留村】大分縣豊後國北海部郡の西南部。白杵町の西に接し東南は津久見町に隣る。西北は大分郡に西は大野郡に、東南兩は南海部郡に夫々

【南津留村】大分縣豊後國北海部郡の西南部。白杵町の西に接し東南は津久見町に隣る。西北は大分郡に西は大野郡に、東南兩は南海部郡に夫々

ミナミテシカガ 南弟子屈 省線

ミナミテシマ 南豊島村 大阪府



ミナミ

西は諸名川を隔てて兵庫縣川邊郡に界す。全村地形低平にして西境に沿ひて神崎川の支流諸名川が南流す。米・麥・菜類の産物及び工業・畜産あり。東部に

ミナミトツカワ 南豊島 豊島(郡) 南十津川 本村外五箇村を渡し十津川村を建つ。奈良縣吉野郡にありし村。明治二十三年

ミナミトミナガ 南富永村 近江國伊香郡の南端。木之本町の東南方約五軒。長濱町との略中間にあり。南

ミナミナカ 南中村 靜岡縣伊豆國賀茂郡の南部。下田町の西約六軒。東は

ミナミトヨシナ 南豊科 省縣大 南豊科の一縣(大正十五年設置)。長野縣南安縣郡豊科町にあり。

ミナミトリ 南島島 太平洋上の一 孤島。北緯二四度一四分、東經一五四度

ミナミトシマ 南豊島 豊島(郡) 南十津川 本村外五箇村を渡し十津川村を建つ。奈良縣吉野郡にありし村。明治二十三年

ミナミトミナガ 南富永村 近江國伊香郡の南端。木之本町の東南方約五軒。長濱町との略中間にあり。南

ミナミナカ 南中村 靜岡縣伊豆國賀茂郡の南部。下田町の西約六軒。東は

北に小に彫れ、中部は括れて狭し。北境の稲津村に跨りて塔ノ壇、西方南上村と

ミナミナカ 南那珂郡 宮崎縣八郡 有明灘に臨む。西境南半は鹿兒島縣端

ミナミナカ 南那珂郡 宮崎縣八郡 有明灘に臨む。西境南半は鹿兒島縣端

ミナミナカ 南那珂郡 宮崎縣八郡 有明灘に臨む。西境南半は鹿兒島縣端

ありて中央には小松山(九八九米)・男鈴 山(七八三米)等の高峯を起し、更に延び

ミナミナカ 南那珂郡 宮崎縣八郡 有明灘に臨む。西境南半は鹿兒島縣端

ミナミナカ 南那珂郡 宮崎縣八郡 有明灘に臨む。西境南半は鹿兒島縣端

ミナミナカ 南那珂郡 宮崎縣八郡 有明灘に臨む。西境南半は鹿兒島縣端

ミナミナカ

南部には櫻井川が西流し、東南方約三軒にて之より分る一河川が北部を西北流す。工業は首位を占め大北織物製糸工場等あり。米・麥・玉葱・栗・西瓜等の農産物豊富にて、また畜産もあり。

ミナミナカ

南部には櫻井川が西流し、東南方約三軒にて之より分る一河川が北部を西北流す。工業は首位を占め大北織物製糸工場等あり。米・麥・玉葱・栗・西瓜等の農産物豊富にて、また畜産もあり。

ミナミナカ

南部には櫻井川が西流し、東南方約三軒にて之より分る一河川が北部を西北流す。工業は首位を占め大北織物製糸工場等あり。米・麥・玉葱・栗・西瓜等の農産物豊富にて、また畜産もあり。

ミナミナカ

南部には櫻井川が西流し、東南方約三軒にて之より分る一河川が北部を西北流す。工業は首位を占め大北織物製糸工場等あり。米・麥・玉葱・栗・西瓜等の農産物豊富にて、また畜産もあり。

ミナミ

西は諸名川を隔てて兵庫縣川邊郡に界す。全村地形低平にして西境に沿ひて神崎川の支流諸名川が南流す。米・麥・菜類の産物及び工業・畜産あり。東部に

ミナミ

西は諸名川を隔てて兵庫縣川邊郡に界す。全村地形低平にして西境に沿ひて神崎川の支流諸名川が南流す。米・麥・菜類の産物及び工業・畜産あり。東部に

ミナミ

西は諸名川を隔てて兵庫縣川邊郡に界す。全村地形低平にして西境に沿ひて神崎川の支流諸名川が南流す。米・麥・菜類の産物及び工業・畜産あり。東部に



ミナミ

豪族岡氏の居りし所。後岡氏は大友神宮寺の一族なり。

ミナミニワ 南上神 大阪府泉北郡にありし村。明治二十七年に中上神村と合併し上神谷村を建つ。

ミナミヌマハラ 南沼原村 山形県南陽郡山形市の北部。山形市の西南に接す。面積四・八〇方軒。山形盆地に属し、全村平坦にして、須川は西境を西北に流る。米・蕎麦・蔬菜を産す。羽州街道は東南部を南北に通じ、山形市へはバスあり。また狐越街道は村の中部を東西に通す。本村の大字吉原は野州宇都宮城主松平主殿頭、八千石十備村を支配す。陣屋を置きし所。大字沼水は明和・安永の頃、肥前島原藩主戸田氏の陣屋あり、十六箇村を治めし所。(大鷹神社) 大字沼水に鎮座。郷社。祭神、日本武尊。舊稱白鳥神社。例祭、陰曆三月十五日。

ミナミノガミ 南野上村 和歌山県紀伊郡那賀郡の西南隅。貴志川の左岸に沿ひ、東野上村の西南に接し、西は海草郡に南は有田郡に界す。南境には約五〇〇米の山脈東北より西南に連り、村は其の北斜面を占め、東北境に観音山(二九一米)あり、貴志川は北境に沿ひて西流し、西北隅にて本村を離れて東北折す。米・蕎麦を産し工業・畜産もあり。柑橘の特産あり。社線野上電氣鐵道は北方約一軒を東西に走る。此地は中世の野上荘の南部に當る。

ミナミノジリ 南野尻村 富山縣越中国東礪波郡の西部。福野町の東に接す。土地平坦肥沃、礪波平野の一部を占め水田多し。主産物は米なり。西南部を社線越前鐵道貫通し、省線中越線との交錯する福野に近く、青島・井波兩方面に至る縣道もあり、交通便なり。この地は和名抄、礪波郡高橋郷の内に於て、中世は野尻郷と稱せし地。

ミナミノツ 南野津村 大分縣豊後國大野郡の東部。三重町の東北に接す。全村土地高燥にして南部には四〇〇米餘の東西に連る山地あり、大野川の支流が西北境に沿ひて北流す。林産・農産・畜産あり。中央部を縣道東西に走り三重町及び臼杵町へバス通す。(平川神社) 大字西畑に鎮座。祭神、風長足船命。本多和氣命・比咩大神。例祭、四月十五日。

ミナミノベオカ 南延岡 省線日豊本線の一驛(大正十一年設置)。宮崎縣延岡市にあり。

ミナミハタ 南畑村 福岡縣筑前國筑紫郡の西南隅。福岡市の南約四軒にあり、西部の北半は早良郡に接し、西部の南半及び南部は佐賀縣神埼郡及び三養基郡に界す。西部・東部一帯は山地をなし、西部山地は背振山塊東端の山地にして、一ノ岳(六四四米)聳えて北・東・南に傾斜す。東部には北半に南北に連る山脈ありて中央に権現山(六二六米)を起しそれより南には九千部山(八四八米)・

石谷山(七五四米)一帯の高き山地ありて南部の高峻地形をなし、北半山地と共に中央へ傾斜す。中央には那賀川が北へ貫流し、沿岸に低地やや開く。米・蕎麦を産す。福岡市及び東北方の二日市町へバスの便あり。

ミナミハタ 南端村 大分縣豊後國遠見郡の中部。別府市の西北に隣り、西は宇佐郡に界す。西南方にガラン嶺(磯黄山、一〇四五米)聳え、其の北方傾斜地を占めて全村高原状の山地が重疊し東北部には尾藏嶺(四五九米)あり。西境に沿ひて群川支流の津房川が北流しその東岸は急崖をなす。農産・林産・畜産あり。東隣の豊岡町へバスを通す。

ミナミハタ 南波多村 佐賀縣肥前國西松浦郡の東北部。伊萬里町の東方約一軒にありて、東北部は東松浦郡に界す。西・南・東の三面は山地を以て囲まれ、西境に大野山(四二四米)の圓錐形の秀峰聳え、南境には國見岳(七七七米)・大陣山(二六九米)等の諸山あり。松浦川が陣山に發して中央を北流し沿岸に低地開け、北部にはこれより西南方へ傾く低地あり。米・蕎麦を産す。縣道が中央を縦斷し、伊萬里町及び唐津市へ自動車を通す。この地は往昔、松浦氏の一黨、波多氏の居りし地にて、天正年中、波多三河守守親は唐津に移る。(白山神社) 大字井手野に鎮座。郷社。祭神、伊弉諾命・伊弉冉命・菊理靈命。相殿、素佐男命。

もと鳥居原にありしが元和二年寺澤志摩守現地に遷せり。例祭、十月十五日。

ミナミハタノ 南泰野村 神奈川県相模國中部の西部。秦野町の南隣にて南は足柄上郡と隣す。秦野盆地の東南部を占め、南境附近は低き山地をなす。農産行はれて蕎麦・甘藷・蕎麦・粟等を産し、特産物としては薬草の栽培盛なり。縣道は秦野町及び南方の二宮町に通じ、秦野・二宮間の社線湘南電氣自動車線通じ、また社線小田原急行の大秦野驛(昭和二年設置)あり。和名抄、餘部郡多摩郷の地なり。

ミナミハマ 南濱村 新潟縣越後國北蒲原郡の西北部海岸。南北を加治川と日本海とに挟まれたる砂丘地帯なり。東北・西南に長く、海岸に沿ひ二〇一三〇米の砂丘列連互し、道路・葉落・浦波水路何れも之に並行せる標式的砂丘集落の形をとる。丘上には防風林あり、砂地なれば水田に適せず、畑多し。しかし砂丘内側の低地は灌水路行届き水田開く。米・野菜を産し養蠶行はれ、漁業また盛んにして漁業組合發達せり。東西に走る道路の外、後方諸部落を結ぶ横斷路もあり、加治川には舟楫の便あり。この地はもと八幡嶺と稱し、沼垂演より出羽國に赴く古驛路にして、義經記に「蒲原のたりか越えて、八十八里演など云所行過て」とあるは此の八幡嶺より乙領に到る間を指せるものなりと。

今立郡に北日野村あり好一對をなす。(熊野神社) 大字清水に鎮座。遠玉之男神・伊弉諾大神・事所男之神・須佐之男神を祀る。村社なりと雖も地方の大社にして神體天皇御龍の御時、社後の靈を賞し初音の宮の號、堂の關の名を得たりと傳ふ。(妙泰寺) 大字西大道にあり。縣下日蓮宗妙顯寺派唯一の古刹。永仁二年三月、日像上人が日蓮上人の遺命により留錫して創建す。日像上人四箇聖蹟の第二なり。寛文三年額代與を免許されしほどの大坊なり。因に國內に於て額代與免許は本寺と松平重昌公・羽坂明源寺・老彌寺・善祐の四者のみなり。

ミナミヒバイ 南美根 省線函館本線の貨物驛(昭和六年設置)。北海道石狩國空知郡美唄町にあり。

ミナミヒラタ 南平田村 山形縣羽後國飽海郡の南部。酒田市の東方約八軒。西南は最上川を隔てて東田川郡に對す。庄内平野の東縁をなす。東半部は山地をなすも、之に反し西半部は平坦にして沃野連る。相澤川は東南境を西流し、西南境を西流する最上川に合す。米産に富み、また蕎麦を産す。道路には中部を南北に通ずるもの、及び西南部を略東西に通ずるものあり。省線羽越本線の砂越驛(大正三年設置)を置く。酒田市及び東南方松楳町へバスの便あり。此地は和名抄、飽海郡飽海郷の内に於て、大字砂越は大寶寺(武藏)氏の一族、ここに在りて砂越

入澤温泉と呼べり。泉質土類泉。(吾妻温泉) 吾妻山の北中腹、海拔千米以上にあり、泉質は弱鹽類泉。(諏訪神社) 大字泰山に鎮座。郷社。祭神、健甕名方命。天正十七年上杉景勝會津へ轉封の節信州計見より奉遷せり。例祭、陰曆三月二十七日・七月二十七日。(朝宮寺) 大字園にあり。曹洞宗。岩木山と號す。當初越後國にあり、慶長四年現地に移遷す。

ミナミハンニヤ 南散若村 富山縣越中国東礪波郡の北部。高岡市の西南方に當り、出町の東北方約三軒。土地平坦豊饒にて、庄川の水を引ける灌漑路により水田開く。米を主産し、近時蔬菜・花卉園藝も試みらる。また藥品・麻織物等の工業あり。省線中越線油田驛に近く縣道通す。この地は和名抄、礪波郡小野郷の内なるべく、中世は般若野庄に屬す。(常福寺) 眞宗大谷派。沿革不詳。本尊阿彌陀如来立像(木造)は國寶。

ミナミヒツサ 南比都佐村 滋賀縣近江國蒲生郡の南部。日野町の南に接し、南部は甲賀郡に界す。全村二六〇米以下の丘陵起伏し北部に稍々低地開けて日野川の支流が北境を西流す。全村農業行はれ、米を主とし日野菜(赤菜)の特産あり。日野町より縣道が本村に入りて二條に分れ、一は西南に向ひ一は南定し共に甲賀郡に入りて舊東海道に連絡す。社線近江鐵道は西北部を通過し日野驛は

北約半軒の北比都佐村にあり。もと北比都佐村と共に比都佐と混稱せし處なり。(安樂寺) 古義眞言宗。當寺の木造阿彌陀如来坐像・同宗師如来坐像・同僧長天立像は國寶なり。

ミナミヒノ 南日野村 福井縣越前國南條郡の中部よりや、北方。西北一帯は王子保村に、東は北山山村、南は南山山村に接し、東北隅の日野山を標として今立郡に相對す。西部・東北部は山地にて、西に關越・越前・大谷・上谷等の諸山相連り、清水川溪谷より出で北流し關ノ用水と合す。東には日野山(七九五米)聳え、西部山地との間に日野川北流して流域に沃野をなす。全村農工商業に従事し工業には大字島の鑛物を初め、漆器・木製品・傘等あれど餘り振はず。鑛物は享保年間は約鑛さへ鑛造し林・漆等の鑛産物ありしが今は漸く廢れ、商業は凡そ日用品の賣店に止る。省線北陸本線南方より來り大字西大道の地籍に蒲波驛(明治二十九年設置)を置き北進して武生町に至る。縣道今庄街道はほぼ省線に沿ひて南下しバスの便あり。藤本區の中山兆平宅に三間半に二間半の白木造の別殿あり、天保十五年の建設に於ける。明治天皇北陸御巡幸の御り御小休あらせられし所にして、いま史蹟に指定さる。大字西大道に瓜生一族の居住せし城址あり。本村はもと丹生郡從者郷の一にして、日野山の南方に位するを以て此の名あり。因

に今立郡に北日野村あり好一對をなす。(熊野神社) 大字清水に鎮座。遠玉之男神・伊弉諾大神・事所男之神・須佐之男神を祀る。村社なりと雖も地方の大社にして神體天皇御龍の御時、社後の靈を賞し初音の宮の號、堂の關の名を得たりと傳ふ。(妙泰寺) 大字西大道にあり。縣下日蓮宗妙顯寺派唯一の古刹。永仁二年三月、日像上人が日蓮上人の遺命により留錫して創建す。日像上人四箇聖蹟の第二なり。寛文三年額代與を免許されしほどの大坊なり。因に國內に於て額代與免許は本寺と松平重昌公・羽坂明源寺・老彌寺・善祐の四者のみなり。

本線の貨物驛(昭和六年設置)。北海道石狩國空知郡美唄町にあり。

羽後國飽海郡の南部。酒田市の東方約八軒。西南は最上川を隔てて東田川郡に對す。庄内平野の東縁をなす。東半部は山地をなすも、之に反し西半部は平坦にして沃野連る。相澤川は東南境を西流し、西南境を西流する最上川に合す。米産に富み、また蕎麦を産す。道路には中部を南北に通ずるもの、及び西南部を略東西に通ずるものあり。省線羽越本線の砂越驛(大正三年設置)を置く。酒田市及び東南方松楳町へバスの便あり。此地は和名抄、飽海郡飽海郷の内に於て、大字砂越は大寶寺(武藏)氏の一族、ここに在りて砂越

と鳥居原にありしが元和二年寺澤志摩守現地に遷せり。例祭、十月十五日。

ミナミハタノ 南泰野村 神奈川県相模國中部の西部。秦野町の南隣にて南は足柄上郡と隣す。秦野盆地の東南部を占め、南境附近は低き山地をなす。農産行はれて蕎麦・甘藷・蕎麦・粟等を産し、特産物としては薬草の栽培盛なり。縣道は秦野町及び南方の二宮町に通じ、秦野・二宮間の社線湘南電氣自動車線通じ、また社線小田原急行の大秦野驛(昭和二年設置)あり。和名抄、餘部郡多摩郷の地なり。

ミナミハマ 南濱村 新潟縣越後國北蒲原郡の西北部海岸。南北を加治川と日本海とに挟まれたる砂丘地帯なり。東北・西南に長く、海岸に沿ひ二〇一三〇米の砂丘列連互し、道路・葉落・浦波水路何れも之に並行せる標式的砂丘集落の形をとる。丘上には防風林あり、砂地なれば水田に適せず、畑多し。しかし砂丘内側の低地は灌水路行届き水田開く。米・野菜を産し養蠶行はれ、漁業また盛んにして漁業組合發達せり。東西に走る道路の外、後方諸部落を結ぶ横斷路もあり、加治川には舟楫の便あり。この地はもと八幡嶺と稱し、沼垂演より出羽國に赴く古驛路にして、義經記に「蒲原のたりか越えて、八十八里演など云所行過て」とあるは此の八幡嶺より乙領に到る間を指せるものなりと。

今立郡に北日野村あり好一對をなす。(熊野神社) 大字清水に鎮座。遠玉之男神・伊弉諾大神・事所男之神・須佐之男神を祀る。村社なりと雖も地方の大社にして神體天皇御龍の御時、社後の靈を賞し初音の宮の號、堂の關の名を得たりと傳ふ。(妙泰寺) 大字西大道にあり。縣下日蓮宗妙顯寺派唯一の古刹。永仁二年三月、日像上人が日蓮上人の遺命により留錫して創建す。日像上人四箇聖蹟の第二なり。寛文三年額代與を免許されしほどの大坊なり。因に國內に於て額代與免許は本寺と松平重昌公・羽坂明源寺・老彌寺・善祐の四者のみなり。

本線の貨物驛(昭和六年設置)。北海道石狩國空知郡美唄町にあり。

羽後國飽海郡の南部。酒田市の東方約八軒。西南は最上川を隔てて東田川郡に對す。庄内平野の東縁をなす。東半部は山地をなすも、之に反し西半部は平坦にして沃野連る。相澤川は東南境を西流し、西南境を西流する最上川に合す。米産に富み、また蕎麦を産す。道路には中部を南北に通ずるもの、及び西南部を略東西に通ずるものあり。省線羽越本線の砂越驛(大正三年設置)を置く。酒田市及び東南方松楳町へバスの便あり。此地は和名抄、飽海郡飽海郷の内に於て、大字砂越は大寶寺(武藏)氏の一族、ここに在りて砂越

と鳥居原にありしが元和二年寺澤志摩守現地に遷せり。例祭、十月十五日。

ミナミハタノ 南泰野村 神奈川県相模國中部の西部。秦野町の南隣にて南は足柄上郡と隣す。秦野盆地の東南部を占め、南境附近は低き山地をなす。農産行はれて蕎麦・甘藷・蕎麦・粟等を産し、特産物としては薬草の栽培盛なり。縣道は秦野町及び南方の二宮町に通じ、秦野・二宮間の社線湘南電氣自動車線通じ、また社線小田原急行の大秦野驛(昭和二年設置)あり。和名抄、餘部郡多摩郷の地なり。

ミナミ



氏を稱せり、永正十年、城主故ありて生... 天正年間に至り、尾浦の城主武藏義氏の...

ミナミヒラノ 南平野村

美濃國安八郡の北西部。北は神戶町に、東北は下宮村に、南は中川村を隔てて大垣市に接し、西は不破郡赤坂町及び掛妻郡八幡村に隣る。西濃平野の西縁に位置し、頗る低平にて、標高一〇米内外、古來洪水多く、大垣輪の中にも含まる。米・麥の産多く、特産物には蕎麥あり。社務多宮急行電線が村の中央を南北に通じ、東名坂驛(大正三年設置)を置く。此村は和名抄に見ゆる安八郡服輪郷の地にして、中世は平野庄と呼ばれ、一部分は中川庄に屬す。江戸時代は大垣藩領たり。明治三十年町村設置分合の際に西保・南方・草道島・四成・中澤・加納・前田の區域を以て南平野と改稱せらる。草道島には古街道とて舊中山道たりし小徑残る。南方城址は久瀬民部の住みしところ。また西保の古

城址は土岐家の臣不破河内守光治、其子彦五郎、妹婿稻葉方通ここに居り、方通は天正十八年加茂郡和知に移り、木村重廣代りて之に住みしが慶長五年の役に西軍に屬し自殺す。大字加納は神風抄・東鑑等に「美濃國大井戸加納」と見ゆる地名あり。(諏訪神社) 大字南方に鎮座。郷社。祭神、健甕名方命。もと諏訪大明神と稱せりと傳ふ。例祭、四月十二日。

ミナミヒラヤナギ 南平柳 埼玉

關北足立郡にありし村。昭和八年に川口市に編入さる。

〔八幡神社〕 大字上中野に鎮座。村社。祭神、豊田別命・足仲津彦命外十四神。應神天皇御宮の遺址なりと云ひ欽明天皇御宇の創建と云ふ。本殿、短刀等は國寶。(明王院) 眞言宗山階流。もと同村八幡神社の御宮寺。木造薬師如来像・同阿彌陀如来像は國寶。

ミナミフウラノ 南富良野村

北海 道石狩國上川支庁空知郡の南端。空知川の發源地方を占め、富良野町の南に隣接す。東は十勝國、南は釧路國、西は空知支庁に界す。面積六六五・八八平方町。東西に細長き地形を有し、東北は大雪山山群の南麓より西は夕張山脈分水嶺に達す。村内概ね六〇〇米以上の高嶺なる山嶽地帯をなし、たゞ空知川西北流して沿岸に河谷低地を展げるあり。他は美林に蔽はる。林業最も盛んにして農業は之に次ぐ。丸太・角材・米・銀銅鉛鋅を産す。大盛嶺山あり、鎮座は金銀銅鉛鋅にして昭和十年より事業を開始す。省線根室本線は江川と並行して中部を通じ、落合(明治三十四年設置)・根室(明治三十五年設置)・鹿越(明治三十三年設置)・金山(明治三十三年設置)の諸驛を有す。本村は明治三十年鐵道開通と同時に空知川沿岸に植民地を區別し、金山・鹿越・根室・落合の各驛に市街地帯を爲し、同三十九年、下金山の増設あり、漸く村勢を形成し、同四十一年下富良野村より本村を分離獨立せ

しむ。大正八年本村より占冠村を分村す。本村は大雪山國立公園の内。

ミナミフルヤ 南古谷村

武藏國入間郡の東部。川越市の東南隅にて荒川の西岸にあり。東は北足立郡と隣す。關東平野の一部を占め、全村平地にて水田多く、米を主産し、麥も盛なり。縣道川越市に通ず。また南隣福岡村に社務東武鐵道東上線の上福岡驛ありて驛道を通ず。本村は江戸中期の儒者奥貫五平次(贈從五位)の出身地たり。

ミナミフアンザン 南文山 朝鮮總督府鐵道慶全南郡驛(大正十四年設置)。慶尙南道晉州郡文山面にあり。

ミナミヘイ 南閉伊

信濃國南安曇郡にあり。犀川と高瀬川鳥川の合流點附近に位置し、豊科町と穂高町との間にあり。東は犀川を隔てて東筑摩郡上川手村に接す。村は前記の諸川合流の氾濫原にあり。水田卓越するも水災の幅あり。河畔の砂質の階層部を下部に持つ地域は桑畑に適す。また近年地下水の豊富なるを利用して山葵の栽培行はる。この栽培は穂高町を中心とするものにて、十一月より三月頃迄は水田の開散期なる故、農家の之に従事するもの過半数に達す。穂高町を中心として年約百萬圓に達し、本郡第一位にあり。犀川は此處より峡谷をなして犀川丘陵地を蛇行

す。耕地面積五二三町歩あり、全面積に對する耕地率七八%にして、開拓の進化が見られ、田三二六町、畑一九七町、内桑畑一六四町にして水田の卓越する河岸村なるを示す。(洲波神社) 大字西浦村に鎮座。郷社。祭神、健甕名方命・事代主命。舊稱諏訪社。例祭、九月二十八日。

ミナミホロナイ 南幌内炭礦

北海道石狩國空知郡栗澤村にある石炭山。朝日鐵業會社の採行に係り、昭和十年に操業したるものなるが、同年には塊炭八、八四一噸、粉炭三、三二二噸、切炭一、二四四噸(この總價額六萬六千餘圓)を産出す。同年六月末の礦夫數は七五八。

ミナミマキ 南牧村

長野縣信濃國南佐久郡の西南端。八ヶ嶽(二八九九米)の東斜面に位置し、南は山梨縣北五條郡に接し、村の西境は八ヶ嶽火山より墨科火山(二五三〇米)に連続する山嶽をなす。東部には天狗山(一八八二米)・横尾山(一八一八米)の關東山塊の西部が延び來り、前記兩火山との間に鞍谷を形成し、千曲川は村の中部を北流す。佐久平と甲州盆地とは此の地方を以て連絡路とす。村の東部斜面は森林繁茂するも、西部の斜面は八ヶ嶽火山の裾野をなし、草原多し。東部は林業を營み、木炭の産あり、草原は即ち野邊山原にて牧場に利用され、海口牧場あり。村の中央海ノ口に火山の麓野、千曲川の渓流に臨み海口

温泉湧出す。高瀬鐵道と稱せらるる省線小海線は中央本線小淵澤驛より岐れて本村を通り信越本線小諸驛に至り、本村に野邊山・佐久廣瀬・佐久海ノ口・海尻の四驛(海ノ口・海尻は昭和七年、野邊山・廣瀬は昭和十年設置)を置く。近時、八ヶ嶽火山群麓走のハイカーの訪れあり。谷底は水田及び桑畑に利用せらるるも、村の主要なる産業は林業なり。耕地は三六九町にして耕地率三%に達せず、田一三四町、畑二三五町、内桑畑一七七町にして水田と匹敵し、農家に於ける穀類の重要なことを示す。大字海尻字本澤に本澤鐵山あり、硫黄山にて鑛區約五萬坪。休山の委なりしが昭和十年より日本探礦會社の手により事業開始せらる。この地は中山道の八幡宿のありし地。和名抄、佐久郡青沼郷の内なるべく、昔は牧場なりき。大字海ノ口は千曲川の左岸にあり甲州に通ずる街道に當る。往昔、甲斐の津金氏の族、此地に來り海野口氏を稱す。また海之口城址あり。大字海尻は松原湖の千曲川に落水する所、佐久・甲州街道に沿ひ八ヶ嶽登山路に當る。(海之口城) 大字海ノ口にありし城。初め村上氏に屬し平賀源心の居城なりしも、天文年間、武田信虎に攻められ其有に歸す。(八ヶ嶽黄色石南自生地) 指定天然記念物。黄色石南の花の八重とされる珍種なるものにて、其自生地を表示し、學術研究に資す。(諏訪社) 大字海尻に鎮座。郷社。祭神、

ミナミマツウラ 南松浦郡

長崎縣長崎郡の東部。長崎市の東南隅にて荒川の西岸にあり。東は北足立郡と隣す。關東平野の一部を占め、全村平地にて水田多く、米を主産し、麥も盛なり。縣道川越市に通ず。また南隣福岡村に社務東武鐵道東上線の上福岡驛ありて驛道を通ず。本村は江戸中期の儒者奥貫五平次(贈從五位)の出身地たり。

ミナミマサコ 南眞砂岳

日本北アルプス(飛騨山脈)の一峯。長野縣北安曇郡平村に屬す。野口五郎岳(二九二四米)の南方支嶺にして、中間に眞砂岳時つ。標高二七一〇米。南西方望羽岳(二九二四米)との組合より發するワシモ澤の水は南東流して高瀬川支流湯俣川に落ち、東方には高瀬川本流北流す。

ミナミマツウラ 南松浦郡

長崎縣長崎郡の東部。長崎市の東南隅にて荒川の西岸にあり。東は北足立郡と隣す。關東平野の一部を占め、全村平地にて水田多く、米を主産し、麥も盛なり。縣道川越市に通ず。また南隣福岡村に社務東武鐵道東上線の上福岡驛ありて驛道を通ず。本村は江戸中期の儒者奥貫五平次(贈從五位)の出身地たり。

ミナミマツウラ 南松浦郡

長崎縣長崎郡の東部。長崎市の東南隅にて荒川の西岸にあり。東は北足立郡と隣す。關東平野の一部を占め、全村平地にて水田多く、米を主産し、麥も盛なり。縣道川越市に通ず。また南隣福岡村に社務東武鐵道東上線の上福岡驛ありて驛道を通ず。本村は江戸中期の儒者奥貫五平次(贈從五位)の出身地たり。

ミナミマツウラ 南松浦郡

長崎縣長崎郡の東部。長崎市の東南隅にて荒川の西岸にあり。東は北足立郡と隣す。關東平野の一部を占め、全村平地にて水田多く、米を主産し、麥も盛なり。縣道川越市に通ず。また南隣福岡村に社務東武鐵道東上線の上福岡驛ありて驛道を通ず。本村は江戸中期の儒者奥貫五平次(贈從五位)の出身地たり。



ミナミ

北麓を占め、泉南郡山直町の東南に接す。全村高燥なる丘陵性の地にして南部に高く北部に低し。...

ミナミクワ

蔵王山西麓よりは北より静川・蔵王川、西南麓よりは宮川・源流し、各西北に流れ須川に合す。...

ミナミノワ

蔵王山西麓よりは北より静川・蔵王川、西南麓よりは宮川・源流し、各西北に流れ須川に合す。...

ミナミモロ

蔵王山西麓よりは北より静川・蔵王川、西南麓よりは宮川・源流し、各西北に流れ須川に合す。...

ミナミ

ミナミ

接し天龍川の西岸にあり。村は四方木曾山脈に属する黒澤山(二二七米)・細ヶ岳(二二九六米)等より伊那谷の断崖下に流出する大泉川・小澤川の複合扇状地の上にあり。...

ミナミハラ

安房岡安房郡の東部。和田町の西端にて太平洋に臨む。海岸は平坦にて、北部は磯濱、南部は砂浜をなす。...

ミナミヤシモ

河内国南河内郡の西北部。堺市の東南約二軒。全村地形低平にして沃野全般に拓く。...

ミナミヤシロ

畿内国東八代郡の中部。甲府市の東南方約七軒。信吹川支流なる金川につくる扇状地の西南端を占め、面積二方軒の小村なり。...

ミナミ

ミナミ

て、のち南三原郡と稱し、天文より慶長年間には正木氏の城下たりしことあり、のち江戸幕府の直領地なりしが、町村制施行の際、今の大字を以て村制を布き、以て今日に至る。...

ミナミマキ

信濃国北佐久郡の中部にあり。小諸町の南、岩村町の西、各々七軒にあり。地は葛科火山の北の裾野にあり。...

ミナミケ

畿内国武庫郡の西南部。岐阜市を去ること北方一六軒。東は大矢田村・瀬尻村に、南は山縣郡千疋村に、西は東武蔵村及び山縣郡山縣村に接す。...

ミナミヤシモ

河内国南河内郡の西北部。堺市の東南約二軒。全村地形低平にして沃野全般に拓く。...

ミナミ

ミナミ

水田となり、南部には僅かに桑畑が存す。この武蔵谷には古來稻を産し製紙業盛にして村民の半数は製紙等に従事す。...

ミナミラヤマ

山形市及び東村山郡、東・東南に宮城縣、西・西南に東置賜郡に隣接す。面積四三・〇七方軒。東境は奥羽山脈に屬し、...

ミナミヤマ

「南山村」静岡縣遠江國小笠郡の東南部。榛原郡相良町の西約八軒。村形東北より西南に狭長にて、西約八軒に於て稍々膨る。...

ミナミ

「南山村」静岡縣遠江國小笠郡の東南部。榛原郡相良町の西約八軒。村形東北より西南に狭長にて、西約八軒に於て稍々膨る。...

ミナミ



ミナミヤマウチ 南山内村

東部陸奥西支城郡の南部。笠間町の南端にて、東は尖戸町、南は岩間町に接し、西南の一部は新治郡と隣す。村内丘陵地多く、西南境に吾國山(五一八米)あり。東部の丘陵間を洞沼川東南に流れ、流域は狭き平地にて農業行はれ米・黍・大豆・小豆・雑草・蔬菜・蕎麦を産したる陶器の製造行はる。丘陵地には森林ありて木炭の産あり。縣道は中央を東北に走りて笠間町に通じ、同町に省線水戸線笠間驛を置く。(岩谷寺)大字東端にあり。新養賢宗智山院。雲王山護命院と號す。開基は秀位と傳ふ。寺運一時傾きしも、順徳天皇の御宇、忠圓によりて再興、現に門末三十餘寺あり。本尊は藥師如来、鎌倉時代の作にして國寶なり。

ミナミヤマサキ 南山崎村

縣伊豫國伊豫郡の中部。松山市の南方約十軒。低部町の西に隣接す。四國山脈西部の北斜面の地を占め、高取數百米の山岳重疊して高峻なる山村をなし、平地殆んどなし。西方に一條の溪谷南北に開き交通路をなす。従つて農耕不振にして僅かに河谷・丘陵を耕作して米・黍を作り、蜜柑・栗・枇杷等の果樹栽培をなす。近年は植林・山地開墾等盛に行はる。特産として伊豫砥石を産す。西部の谷には國道走りて南方大洲町・内子町と北方郡中町・松山市を連絡す。郡中町までバス通す。この村は和名抄、伊豫郡石田郡の内。村

内に白瀧城址あり、建武二年中、先代の亂起るや河野通種の水勇通任これに興し本城に據る。

ミナミヤマタ 南山田

【南山田村】 富山縣越中郡東礪波郡の西部。城崎町の西北より西南に接し、西は西礪波郡に界す。略南北に細長く、南半部は山地にて南端の袴腰山は一一六三米の高度を有し北へ傾斜す。北半部は礪波平野に屬し、東北境を山田川北流し城崎町とを界す。山地は森林繁茂し、平野は沃田開け米産多し。聚落は平野に散在す。山裾の緩傾斜地に草原にして陸軍立野原演習場をなす。省線中越線の磐城郡驛(明治三十年設置)は本村にあり、福光町その他に至る縣道通す。

【南山田村】 大分縣豊後國玖珠郡の南部。

玖珠町の東南に接し、東は東飯田村・野上村・飯田村に、西南は熊本縣阿蘇郡小國町に界す。東西一軒、南北一四軒あり、面積は七五平方軒に餘る。九重火山の東の北斜面にして、南境には桶蓋山(一五〇〇米)中嶽等そびえ、西北境には萬年山(一一四〇米)屹立す。城内は一帶の熔岩臺地にして、飯田高原、又は玖珠高原と稱せられ、キャンプ地として著はる。玖珠川は南方高原中に發し、桶蓋山の東麓を流れ、東境を劃して北流し、村の西南部に發する支流を容れ、沿岸の低地に耕地ひろく。村内には製糖・賣泉寺・川底等に温泉湧出し、東南隅の飯田村内の筋

湯・大嶽の諸温泉と共に玖珠七湯(また十湯)と稱せらる。産物は農産・林産を主とし、また、村内に約二五萬坪の鐵礦を有する旭嶽山あり、鐵礦は金銀、暫く休山の委なりしが昭和十年再び事業を開始せり。省線久大本線が東北郡を通過し引治驛(昭和四年設置)あり、その次驛、惠良驛(東飯田村)より發る宮原線は玖珠川支谷に沿うて村内を南走し、町田・賣泉寺の二驛(昭和十二年設置)を設く。道路は宮原線に沿うて玖珠町・小國町(宮原)を結ぶものあり、交通不便ならず。

ミナミヤマミ 南山見村

【南山見村】 富山縣越中郡東礪波郡の中部。井波町の南に隣接す。東南部は七〇〇米餘の山地にして中央へ傾斜し、西北半に平地開く。平地には水田多く聚落は標式的散村をなす。未作を主とし、養蠶・製薬業も行はれ兼行商に出稼ぐもの亦多し。村の東部に温泉湧出す。井波町より城崎町に至る縣道北部を横切りバスの便あり。社神加越嶺道井波驛へ約二軒を隔て、村内に吹上温泉、はつちやうくろ(高三〇〇米、巾三米)・不動湯(高二〇〇米、巾三米)等あり。吹上温泉は無臭無臭清澄の弱鹽類泉にして慢性リウマチス・神經痛・皮膚病に効果あり。

ミナミユサ 南遊佐村

【南遊佐村】 山形縣羽後國飽海郡の西部。酒田市の東北約九軒。面積七・六五方軒。庄内平野の北部に位置し、全村平坦にして、日向川は南部を西

流し、西遊佐村に出て日本海に注ぐ。米・蕎麦・馬を産す。省線羽越本線本宿驛へは南方約二軒。同線遊佐驛へは北方約三軒あり。(白山神社)大字米島村に鎮座。郷社。祭神、伊弉諾命・伊弉冉命。舊理祭命。養老二年の建立と傳ふ。例祭陰曆三月十五日。

ミナミユフ 南由布

【南由布】 大分縣速見郡にありし村。昭和十一年に外一村と共に由布院村となる。

ミナミヨコヤマ 南横山村

【南横山村】 大阪府和泉國泉北郡の南部。葛城山脈の北斜面に位置し、岸和田市の東南約一〇軒にあり。東南は南河内郡に接し、南は和歌山縣伊都郡に界す。南境には大石ノ峯(八六一米)・三國山(八八六米)等の長峯山脈に屬する山峯が西南より東北に連りて村境を劃し、山地は北へ傾斜して西境に岩嶺山(五六四米)あり。大津川は西境に發して中央を北へ流下するも、沿岸低地乏し。林産最も多く農産之に次ぎ工業第三位を占む。外に畜産あり。北部の斜面地には果樹園ありて柑橘を産す。河谷に沿ひて縣道走り南境の嶺谷峠を越えて和歌山縣に入る。西北方の大津町へバスの便あり。横山村と共に中世、横山莊と呼ばし處。

ミナミヨシイ 南吉井村

【南吉井村】 愛媛縣伊豫國温泉郡の西南部。高瀬牛島頭郡にありて高瀬山塊西南山麓下に展開せる松山平野東部の地を占め、南部の村

地を重信川西に流れて灌漑の便よろし。従つて土地平坦肥沃なれば耕地全般に發達し農産盛なり。米・粟・黍・小麦・蕎麦等を産し、また豆・甘藷・西瓜等の野菜類の産も少からず。社神伊豫鐵道電氣線は北部を横斷し田窪驛(明治三十二年設置)を設く。この地は和名抄、淳穴郡拜志郷の内。(磐島神社)牛西に鎮座。縣社。祭神、大山積命外敷神。舊稱三島大明神。例祭、十月十四日。

ミナミヨシトミ 南吉富村

【南吉富村】 福岡縣豊前國築上郡の東部。山國川の左岸に沿ひ、東北は川を挟んで大分縣下毛郡鶴居村と中津市の西南隅に對す。全村概ね地形低平にして、東境に沿ひて山國川が北流す。米・黍等を産す。南部を省線日豊本線が横斷し、中津驛へバスの便あり。(八坂神社)大字壱木に鎮座。郷社。祭神須佐之男命・奇稻田姫命外三神。舊稱牛頭天王。養老年中、播州赤石よりの勳請と傳ふ。例祭、十一月八日。

ミナミヨシノ 南芳野

【南芳野】 奈良縣吉野郡にありし村。明治四十五年に本村を廢し丹生村・黒瀧村の二村となす。

ミナミヨシシ 南吉見村

【南吉見村】 埼玉縣武藏國比企郡の東部。松山町の東南方にて、間に西吉見村を挟む。關東平野の西部にて荒川東方を南流し、南境を市ノ川東流す。全村平地にて水田・畑地開け、農業行はれて米を主産し、他に黍を産す。養蠶また盛にて繭の産額大なり。縣道は

松山町及び東方約六軒の北足立郡鴻巣町

に通過し何れもバスの便あり、松山町の社線東武鐵道東上線武州松山驛、鴻巣町の省線高崎線鴻巣驛に出づるに便なり。大字大車は中古武蔵七郷の一たる横山堂の一洪大車氏居住の地なり、いま大車重親の墓と傳へらるるもの、昆沙門堂の背後に置れり。

ミナミヨネザワ 南米澤

【南米澤】 山形縣米澤市東町にあり。形縣米澤市東町にあり。紀伊國南牟婁郡の東北部。輪内浦の支溝加田浦に臨み、西北隅に北牟婁郡尾鷲町に接す。西境には九〇〇餘米の山脈が南北に連りて、中央にケサ山(九二八米)聳ゆ。北境には此の山脈より東南方へ連る山脈ありて亥ヶ谷山(六八九米)に至りて東方に延び東麓は輪内海澳に沈む。南境には西境山地より東方へ續く連嶺ありて東部にて、北部山地との間に西南方へ突入する輪内浦の支溝加田浦の南を抱きて東に延び、東南端は神領ノ鼻となりて輪内浦口の西南岸を扼す。中央には西北に發する古川ありて東南流し加田海頭に注ぐ。村内の四字の中、最も人口多き賀田は林業労働者・農業者多く、人口第二位の古江は全戸漁業を營み大型漁船によりて三陸方面へ出漁するもの多し。曾根は人口第三位にして農・漁業・山林業等行はれ、梶賀は人口最も少くして全戸漁業

ミナミワケ 南和氣村

【南和氣村】 岡山縣美作國野田郡の西南隅。吉井川上流東岸に沿ひ、西は川を以て久米郡に界す。北は北和氣村、南は飯岡村に接す。面積一六・八七平方軒。河岸を除く三方を山地に圍まれ村内概ね山林なり。河岸に耕地を拓き米・黍を産す。村内一般に養蠶・果樹の栽培行はれ、蕎麦・柿の産あり。縣道南北に貫通し、社神片上鐵道御原驛に近し。北和氣村と共に和名抄、野田郡和氣郷の地なり。(標原嶽山)嶽區は南和氣村・飯岡村及び久米郡吉岡村に跨りて一七二萬坪、津山市より吉井川に沿うて下ること凡そ一六軒の地點にあり、鐵礦は銅鐵硫化鐵。鐵礦の地質は中生層及び之を貫きて噴出せる輝綠岩質火成岩・花崗岩質岩石より成る。鐵床は、輝綠岩質火成岩の噴出後、花崗岩質岩石の噴出ありて、その餘渣によりて生成せられたる單純交代鐵床なり。その産する黃鐵礦は、含有硫黃五〇%以上、鐵四五%内外、砒一・五—二・五%、銅〇・一五%内外、其他の夾雜物は極めて僅少ななり。硫化鐵礦の鐵床としては含銅の少きこと、硫黃分の多きこと、鐵量の多きこと等を綜合すれば、世界に稀に見る佳良のもの云ふべし。

ミナミワタ 南和田村

【南和田村】 長野縣信濃國下伊那郡の南部にある山村。天龍川支流の遠山川は村の中央をほゞ東西に貫流す。村の北境は戸倉山(一六七七米)ありて南斜し、村南には熊伏山(一六五三米)ありて北斜す。村の東南境は即ち熊伏山の山地にして東は急崖を以て八重河内村に下る。此の崖は圓ゆる中央裂線にして、豊川一遠山川構造線なり。村は遠山川の溪谷深く、平地乏し。林業を主業とす。耕地面積五四・八町、全面積に對する耕地率二・九%にして山村の特色を示し、うち田六・六町、畑四八・二町、桑畑四二・八町歩にして耕地の大部分を占め養蠶が農業生産の大部を占む。いま八重河内村・和田村・上村・木澤村と組合村をなし、役場を和田村に置く。

ミナミワラシナ 南薬科村

【南薬科村】 靜岡縣駿河國安倍郡の南端。静岡市の西北に隣接し、西は志太郡と境す。瀧科川西北方より来り北境を劃して東流し、其の沿



ミナモト

岸に狭長なる平地あるも、他の三方は三... 四百米の山岳連立し、村内また諸處に...

ミナモト 源

【源村】千葉縣上總國山武郡の西部。成... 東町の西方にて間に日向村を挟み、西は...

ミナモト 源

【源村】新潟縣越後國中頸城郡の東北部... 黒川の一支出る吉川の源をなす。東北は...

ミナモト 源

【源村】山梨縣甲斐國中五郎郡の中部... 甲府盆地の西邊をなし、北は北五郎郡に...

五六四

より東北へ貫流し、東北部に見事なる扇... 狀地を開く。其他は概ね山地にて森林繁...

ミナリ 三成村

【源村】鳥取縣東伯郡にありし村。明... 治四十四年に本村及び東竹田村・西竹田...

ミナリ 實成

【源村】備中國(岡山縣)の古... 地名。和名抄に小田郡實成郷あり、美奈...

ミナワ 三繩村

【源村】徳島縣河波郡... 三好郡の南部。池田町・辻町の間に位し、...

ミナワ 三繩村

より成る爲め水險により損鉢型・湯斗狀... 等の無数の段穴を有し、岩骨枝々と連...

ミナ 美彌

【美彌】山口縣十一郡の一。長門國の... 中部。山口市・小郡町の西北に接し、北...

ミネ 峯

【源村】長門國(山口縣)の古地名。和名... 抄に美彌郡美彌郷あり、その地今の美彌...

ミネ 蜂村

【源村】長門縣對馬國上縣郡の南... 部。豊原町の北方約三二軒に位し、東部...

五六五

は僅かに湯谷たる西岸三根附近と、其の... 南方吉田附近及び東岸の佐賀附近の頭...

ミネオカ 蜂岡村

【源村】新潟縣越後... 國西蒲原郡の西部。巻町の西に接し、西...

ミナモト

村たる三繩村が現に人口七八千を有する... は當嶺山に負ふところ蓋し少からざるべ...

ミナモト

【源村】新潟縣越後國中頸城郡の東北部... 黒川の一支出る吉川の源をなす。東北は...

ミナモト

【源村】山梨縣甲斐國中五郎郡の中部... 甲府盆地の西邊をなし、北は北五郎郡に...



ミネオ——ミネヤ

また酒製造業等行はる。聚落は中央丘陵により東部・西部の二列に分たれ、縣道は東部を南北に走り、巻町及び海岸へ分岐あり。省線越後線の巻町驛へバスあり。もと岩間藩のありし處。大字竹野町に觀音堂あり、萬福山金仙密寺と號し、源三位頼政の妻萬福前の立願に於てと傳ふ。(岩間藩(三根山)寛政年間、長岡城主牧野忠成の四男完成の地に分封、旗本に列せられ子孫相承けしが文久年間に藩邸に列せられ一萬千石を食む。明治三年十月藩名を時岡と改め翌年七月廢藩、岩間縣を置きしが、十一月再び新潟縣に入る。〔學問所〕萬福閣藩の學校。越後國西蒲原郡岩間に設く。創立年代不詳。維新後、八徳館と改稱す。(萬福閣古墳)指定史蹟。前方後圓型古墳。松林中にあり時南西に面し、前方部五十九尺、後圓部十尺、主軸の長さ約百五十九尺、舊規完存し最も形體整ふ。約百年前、後圓部頂上の經塚を發掘し經筒・古鏡等を發見す。(明治天皇皇岡御小休所)大字竹野町にあり。明治十一年北陸東海鐵道開通の際、九月十六日御小休所となりし處にして、主要部分に舊規模のまま敷地の現地に移しよく保存せらる。

ミネオカ

嶺岡山 房地牛島の中部、千葉縣君津・安房二郡境を南北に縱走する連山の稱にして、愛宕山(四〇三・九米)・嶺岡山(三五九・八米)を主要峯とす。深成岩より成り、岩石硬き

ミネコシ

岩越 陸奥國(岩代)福島縣の古地名。延喜兵部省式に岩越郡々馬十疋・傳馬五疋とあり、和名抄には信夫郡に郡家郷を置きて岩越を擧げず。されどこれは延喜式によりて察するに、信夫郡の郡家の所在地にて郷を以て郡を兼ねたるものなるべし。岩越の地は不明なるも岩とは或は信夫山を稱せしもの、岩越は即ち峰巒にして信夫山麓の地を稱せしものか。然れば其地は今の信夫郡清水村・野田村より福島市の一部を含める地ならん。而して清水村にて阿武隈川に入る川に松川あり、松は馬津の義ならんといふ。

ミネタ

峰田村 廣島縣後國比婆郡の南端。南は甲奴郡に界し、北と西は數信村、東北は本村に接す。面積一六・七二方軒。北部・南部を夫々山脈東西に連りて村界をなすも、中央に傾斜す。中央部は山脈に沿うて東西に細長き平地ひろげ、耕作行はる。南北山地は美林繁茂し林産豐かなり。米・麥・粟・牛・木材・薪炭・清酒等の産あり。縣道は峠を越え

ミネノサワ

峰ノ澤鑛山 靜岡縣磐田郡龍山村にある金銀銅硫化鐵山。鑛區九萬餘坪、地質は綠泥片岩及び石層片岩より成り、鑛床は綠泥片岩を母岩とする層狀鑛床なり。昭和十年の産額は金銀銅鐵一、八九一噸(價額三萬九千餘圓)にして、鑛石は山元より天龍川畔まで

ミネモト

嶺基 續紀、天平實字三年紀に見ゆる陸奥國の驛家。嶺基ニヤマ 峰山町 京都府丹波國中郡の西北部。丹後半島の主要河たる竹野川上流の斷層谷盆地の中央西部に位し、丹後の主道なる宮津・網野街道に沿ひ北北西—南南東に發達せる町にて北丹三郡の主邑とす。中央は竹野川の支流に沿ふ谷地なるも、南北兩端は、花崗岩より成る丘陵地なり。町は其の谷地を中心にして南北兩丘陵上に街村式に立地す。然して中央部は主街道に並行して一二條の街路を形成す。面積極めて小なりと雖も街衢を形成し、人口密度大なり。町は謂ゆる丹後鑛山の中心部也、機業地なれども機織數は多からず、附近の町村にて織出せるもの集散地なり。丹後鑛山の年産額數千萬圓、其の大部分は本町と網野にて取引さる。故に鑛物検査所・同業組合事務所あり。南方與郡の加悦谷八村を始め丹後半島に於ける鑛物の検査を此地にて

要六

て村心を南北に貫き庄原町・上下町に自動車を通す。もと岩・春日の二村なりしが明治二十二年合併して本村を建つ。ミネチ 峰地炭鑛 福岡縣田川郡にあり。筑紫東田東南部の一大炭山。鑛區は大任村と添田町とに跨りて一三〇萬餘坪、英彦山の南約十二軒の地點にあり。鑛區内を彦山川北流し、地の標高は凡そ八〇米なれど、平坦にて所々に小丘あるのみ。地質は第三紀層にして變質・砂岩・頁岩の互層より成り、折々玄武岩が之を貫通して有煙炭の一部を變質せしむ。昭和十年の産額は塊炭一九、〇三三噸、粉炭九三、四九一噸、切込炭四七、二〇二噸、粗炭七二、二〇〇噸、燧石三九、〇二一噸(この總價額一七三萬餘圓)にして同年六月末の鑛夫數は一、〇六八人なり。現に重要鑛山に列す。顧るに明治維新前後には土地の人々は、燃ゆる土塊として野りつゝ、自家用に供し居たるが如し。近代的發展の曙光は明治二十二年、藏内家の經營下に置かれて後のことにして、今や鑛夫一千元を超え、現在、藏内鑛業會社の採行に係る。

ミネノサワ

伸びて續り高峻なる地形をなす。南は東流する吉野川左岸の地を占め、山麓下に發達せる廣き扇狀地と段丘及び河谷とより成り、比較的平坦にして農耕行はる。米・麥を作るほか最近に養蠶盛となり、従つて蠶繭は次第に減少しつつあり。主要市街は河岸に開けし芝生にして南部を走る淺葉街道に沿ひ、西方池田町へバス便あり。大正十三年、町制を布く。この地は三庄村・加茂村・足代村と共に和名抄、三好郡三野郷(美乃と調子)の地なり。(下加茂神社)大字加茂野宮に鎮座。神社。祭神、玉依姫命。例祭、十月九日。(龍寺)古義眞言宗。仁和寺末。源長經の草創。のち兵燹にて堂宇焼亡。聖觀音像(木造)は國寶たり。

ミネノサワ

即ち本城を指す。【三野】筑紫の古地名。續紀、文武天皇の三年十二月、大宰府をして三野・稻積の二城を修めしむとあり。その位置は詳かならざるも、或は宮崎縣日向國兒湯郡三納村の邊ならんか。

ミネノ

三野村 岐阜縣美濃國惠那郡の南端。瀬戸市の東方二五軒。北は吉田村・明知町に、東は串原村に、南は愛知縣東加茂郡旭村に、西は同縣西加茂郡小原村にそれぞれ隣る。木曾地邊に續く花崗岩山地中において、四百米程の高度を有し割合平坦なり。南境に矢作川が流れて向流をなし小き河岸の低地を作る。産業は概して農耕地少く、山地は草地多し。交通は川の谷が唯一の交通路にて、明知街道が山越に北上す。鐵道の便も感しく、明知町に出づるを便とす。もと野原・淺谷・横通の三村なりしが、合併して三野村と名づく。中世には大字安主は安主名と見え、江戸時代は遠山氏の所領たり。(白山神社)大字野原に鎮座。神社。祭神、伊弉冉命。正長元年に鈴木越中守の家士飯時義光の創祀と傳ふ。古くより附近十八箇村の總領守たりき。例祭九月二十四日。

ミネノ

美濃 相模國(神奈川縣)の古地名。和名抄に高座郡美濃郷あり、その地今の高座郡大野村の邊に當る。【美濃國】東山道十三箇國の一。國內被

ミネノ

豆・馬鈴薯・蕎麥・木炭・木材等を産す。嶺岡山の鑛區は當村と荒川村とに跨る。同嶺山は金銀山にして重要鑛山なり(嶺岡山参照)。羽州街道は村の略中部を西北に貫通し、刈野町へは自動車便あり。省線奥羽本線峰岡川驛(昭和五年設置)を設く。本村は明治二十三年刈野町より分離獨立せるも、明治十四年、明治天皇、山形・秋田及び北海道行幸の際、この地に御小休ありせらる。(高善寺)新義眞言宗智山派。高善山と號す。養老二年の開創と傳へ、延暦十六年に坂上田村麿が堂宇を興すと云ふ。

ミネノ

【三野】越中國(富山縣)の古地名。和名抄に磯波郡三野郷あり、美乃と調子。その地今の西磯波郡福岡町の邊に當る。【三野(郷)】↓美濃國 播磨國(大阪府)の古地名。和名抄に西成郡三野郷あり、その地今の大阪府西成川區御幣島の邊なるべし。【三野】播磨國(兵庫縣)の古地名。和名抄に飾磨郡三野郷あり、美乃と調子。その地今の飾磨郡四郷村の邊に當り、大字見野はその遺稱なるべし。【三野町】徳島縣阿波國三好郡の東北部。西は妻岡町・足代村に、東は美馬郡に界し、南は吉野川を隔てて加茂・三庄の二村に對し、北は香川縣に隣りす。面積四三・一平方軒。北境に一千米餘の大川山鑛立してその山脚は本町の北部一帯に

ミネノ

【三野町】徳島縣阿波國三好郡の東北部。西は妻岡町・足代村に、東は美馬郡に界し、南は吉野川を隔てて加茂・三庄の二村に對し、北は香川縣に隣りす。面積四三・一平方軒。北境に一千米餘の大川山鑛立してその山脚は本町の北部一帯に

ミネノ

【三野町】徳島縣阿波國三好郡の東北部。西は妻岡町・足代村に、東は美馬郡に界し、南は吉野川を隔てて加茂・三庄の二村に對し、北は香川縣に隣りす。面積四三・一平方軒。北境に一千米餘の大川山鑛立してその山脚は本町の北部一帯に

ミネヨシカワ

峯吉川村 秋田縣羽後國仙北郡の西部。刈野町の西北に接す。東北境に畑山(二七六米)あり、北境には山地連りて南方に傾斜し、雄物川は南境を西流し沿岸に木田拓く。農業戸數は全戸數の七割を占め、米・大豆等を産す。

ミネヨシカワ

要六



阜・大坂の二市及び稻葉・羽島・海津・妻老・不破・安八・掛兼・本里・山縣・武儀・郡上・加茂・可兒・土岐・惠那の十五郡を含み、岐阜縣の管轄に属す。この國は往昔は三野または御野に作りしが奈良時代の初めに美名をとりて美濃に書き改めしものと傳ふ。本國の西南國境は木曾川下流の右岸の地にあたり、河道の變易あるを以て各時代に於て多少の變更ありしを免れず。この國の國史に現はれば既に神武紀にあり、また古事記には三野の本里國の名出で、國造本紀には三野南國造・三野後國造・本義國造を定めたまひしこと見ゆ。のち國郡制定の際にはこれ等は郡となり、三野前國は本里郡、本義國は武儀郡となりしもの如く、相共に美濃の内に入る。而して大府を不破郡の内に置く。今の府中村大府中の地が即ちそれなりといふ。この國は東山道の要衝に當るを以て古くは不破關を置かる。鎌倉時代の初め梶原景時・大内惟義が交代して守護となるに及びて子孫相承く。後醍醐天皇の正中元年天皇の密旨を奉じて上洛し遂に正中の變を醸したる多治見國長、土岐頼兼は、この子孫なり。吉野時代の頃、土岐氏の裔に頼康あり足利尊氏・義隆に屬し本國の外に伊勢・尾張の守護を兼ね、厚見郡の平手(川手)城(いま稻葉郡厚見村下川手)に居る。孫頼康に至り郭を若軍足利義滿に得て出奔す。ここに於て頼康の姪頼益代りて守護

となり、のち五世を経て頼益に至りて大坂城(山縣郡大桑村)に治す。天文年間に入り、その臣齋藤道三これを逐うて自立し、稻葉山城に居りて自ら守護と稱し威を遠近に振ふ。永祿七年尾張の織田信長を遠征して來り侵すや、城主齋藤龍興は敗れて越前に走る。信長即ち清洲より稻葉山に移り、改めて岐阜城と號す。天正四年信長は近畿經略の歩を進め更に城を近江の安土に築くに及びて子信忠をして岐阜城を守らしむ。天正十年信長が京都本能寺に於て明智光秀のために害に遭ふや信忠の弟信孝これを守る。天正十一年信孝の兄信雄は羽柴秀吉と謀り、信孝を攻めてこれを尾張に走らせ自殺せしむ。秀吉は即ち池田信輝をして大坂城に鎮せしめ、森長可を金山城(可兒郡金山町)に置く。翌十二年の長久手の戦には長可・信輝共に秀吉に黨して徳川軍と戦ひ、いづれも戦死せしを以て、信輝の子輝政を岐阜城に移す。天正十八年に至り輝政を三河の吉田に移し、信長の嫡孫秀信をして岐阜城にありて本國を鎮せしむ。既にして慶長三年秀吉薨じ、同五年關ヶ原役起るや秀信は西軍に與せしが城陷るに及び出奔して高野に入る。此に於て徳川家康岐阜城を廢して翌年石川康通を大坂に、徳永壽昌を高須に、奥平信胤を加納に置き、其他、國內に諸侯の封を受くるもの凡そ十。爾後諸藩の廢置轉行はれ、幕末に至れば加納に永井氏(三萬二千石)、

高須に松平氏(尾張の支流、三萬石)、大坂に戸田氏(十萬石)、野村に戸田氏(一萬三千石)、岩村に松平氏(大給氏、三萬石)、苗木に遠山氏(一萬餘石)、高宮に本庄氏(一萬石)、郡上に青山氏(四萬八千石)の八藩あり、これに明治元年今尾の竹腰氏(三萬石)が藩屏に列せしを以て九藩を數ふ。明治三年十二月高須藩を廢してその地を名古屋藩に合す。明治四年七月廢藩置縣の時、上記の八藩は悉く縣と稱す。同年十一月十五日には以上の八縣は幕府の領地に置かれたる笠松縣と共に廢せられ、更に岐阜縣を岐阜に置きて美濃一國を管す。美濃國は、維新の初め二十一郡を算せしが、明治十三年に石津郡を分けて上下二郡とせしを以て二十二郡の多数となる。同二十二年市制施行の時岐阜市が厚見郡の中より獨立す。明治三十年四月に至れば郡の大併合行はる。即ち、厚見・各務二郡及び方藤郡の大部を併せて稻葉郡とし、席田・本里二郡と大野郡の一部、方藤郡の一部とを以て本里郡とし、池田郡と大野郡の大部とを以て掛兼郡とし、多霧・上石津二郡を併せて妻老郡とし、下霧・海西二郡に安八郡の一部を加へて海津郡とし、羽栗郡と中島郡とを併せて羽島郡とす。大正七年四月大坂市が不破郡より獨立し、ここに二市十五郡を以て今日に至る。

【美濃國】 岐阜縣美濃國武儀郡の中郡。【美濃町】 岐阜縣美濃國武儀郡の中郡。岐阜市の東北方約一五軒。大部分は美濃の間に河谷あり、即ち北部には美濃川が西南流し中央を西流する支流を合し、南部には西に流るる淡河川ありて東南方より来る山田川の水を合して志染川となり更に西流し、西南部にて美濃川と合して西に向ひ村地を出でて加古川に合す。沿岸に低地開け殊に西南部は廣し。田畑よく發達し米・麥・蕎麥・蔬菜・果實その他、双物・醬油・墨製品・木製品等を産し、また林産・畜産もあり。郡内は三木町外他十ヶ村を含み、人口密度は一方軒につき一九六八にして三木町が最も多く一四九八八を算す。縣道は西部の三木町を中心として四通八達し、自動車往來繁くして交通の便頗るよく、社線播磨丹鐵道の支線は西南部に入り東三木町に達す。三代實錄貞觀八年の條に郡名はじめて見ゆ。和名抄は美奈岐と註し、志深・高野・平野・古川・高野の五郷を置く。太平記は三木郡に作り、近世に至り享保年間、美濃の郡名を復せしが、ミナギをミノと訓み以て今日に至る。

【美濃國】 美濃國を通る街道。近江路より來り南に尾張に出で東海道に通じ、東は岐阜路に出で中山道に通ず。のち東海道は近江より直に東海道に通ずるに至り美濃路は専ら中山道の街道となる。【美濃】 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に本里郡美濃郡あり、その地今の本里郡一色村の邊なるべく、大字見延はその遺稱なるべし。【美濃相生】 省縣越美南線の一驛(昭和四年設置)。岐阜縣郡上郡相生村にあり。【美濃赤坂】 省縣東海道本線の一驛(大正八年設置)にして社線西濃鐵道の接續點。岐阜縣不破郡赤坂町にあり。【美濃太田】 省縣高山本線の一驛(大正十年設置)にして、越美南線及び太多線の接續點。岐阜縣加茂郡太田町にあり。【美濃下川】 省縣越美南線の一驛(昭和二年設置)。岐阜縣郡上郡下川村にあり。【美濃白鳥】 省縣越美南線の一驛(昭和八年設置)。岐阜縣郡上郡白鳥町にあり。【美濃洲原】 省縣越美南線の一驛(昭和二年設置)。岐阜縣郡上郡富田村にあり。【美濃關】 省縣越美南線の一驛(大正十二年設置)。岐阜縣武儀郡關町にあり。【美濃彌富】 省縣越美南線の一驛(昭和七年設置)。岐阜縣郡上郡彌富村にあり。【美濃山田】 省縣越美南線の一驛(昭和七年設置)。岐阜縣郡上郡山田村にあり。

【美濃郡】 鳥根縣十六郡の一。石見國に屬す。縣の西北隅に位し、北は日本海に面す。西は山口縣阿武郡、東南は廣島縣に界し、東北は那賀郡、西南は鹿足郡に接す。面積七三・四・四九方軒。郡内益田町・高津町・吉田町、他十八ヶ村を含む。北を除く三方に山脈に圍繞せられ、東南端には冠山(一三三九米)・安藏寺山(一二六三米)等の高峰重疊して高峻を極む。地勢は稍々海岸に向ひ傾斜す。高津川は東部山地に發して郡内を西北に貫流し日本海に注ぐ。山間に豁谷を展き、下流は廣大なるデルタを形成す。益田川中部山中より西流して日本海に注ぎ、河口平野を海岸に合成す。デルタ上に益田・吉田・高津の三郡邑發達し、古來郡内及び山陰の商業・交通上の要地をなせり。流域を除く地方は概ね山林に蔽はれ交通不便なる山村なり。郡内、米・麥・蕎麥・木村・木炭・蠶糸・桑魚・鯛・鱈・鰻・家畜・酒・醬油等を産す。省縣山陰本線北部を東西に貫通し山口線は益田驛より分岐南走し、鎌手驛・石見津田驛・石見益田驛・飯浦驛(山陰本線)・石見横田驛(山口線)等の諸驛を有す。益田・高津二港よりは近海に發動汽船の便あり。山陰街道をパス通す。續紀神護景雲二年の條に郡名

見ゆ。續日本後紀承和十年の條に美濃郡の二郷を割きて鹿足郡を置くとあり。和名抄は那茂・岑氣・山田・山前・大農・美濃・小野・益田の八郷を管し爾後大變化なし。【美濃村】 鳥根縣石見國美濃郡の西端。益田町の西南約二〇軒に位し、西は山口縣に界す。北に小野村、東に中西村、南に二條村が接す。面積一七・七九方軒。四境に山脈繞りて、村内地勢概ね土地高峻なれども中央に地勢稍々傾き東西に細長き平地を有す。附近は地味肥沃にして耕地拓け、四周の山地は山林に蔽はる。米・木材・木炭・酒類・牛・馬等を産す。省縣山陰本線戸田小濱驛・飯浦驛に近し。古くは美濃郷に作り、和名抄に美濃郡美濃郷と見ゆ。(八幡宮) 大字美濃地に鎮座。神社。祭神、磐田別命・息長足姫命外九神。安貞二年村人中尾幸松といふ者の創祀なり。

【御野(郡)】 備前國(岡山縣)の古郡名。また三野にも作る。應神の朝に置かれし三野國が郡となりしもの。和名抄は美乃と註し、枚石・廣瀨・出石・御野・伊福・津島の六郷を管す。明治三十三年に津高郡と合して御津郡と稱す。【御野】 備前國(岡山縣)の古地名。和名抄に御野郡御野郷ありて、美乃と訓す。



ミノウ

その地今の御津郡牧石村の邊に當る。
【御野】 岡山縣御津郡にありし村。大正十年に本村を廢し、一部を岡山市に、一部を牧石村に編入す。

【御野村】 廣島縣備後國深安郡の中部東偏。神邊町の東北に接し、東北は岡山縣に界す。面積一・四方軒。地南北に延び、東西に短く、北部山地、中央平地、南部山地より成り、南部には権現山(二三二米)聳ゆるも、山地は何れも高峻ならず。中央平地を荒田川の支流貫流し灌漑の便良く、耕地大いに拓く。山陽街道に沿ひ古くより開け商工業盛んなり。米・麥・蕎麥・粟・牛及び蠶糸・木炭・清酒・茶葉等の産多し。社線神高線通過し、兩備國分寺・御領・兩備金光の三驛(大正十一年設置)を設く。もと上御領・下御領・平野の三村に分れしが、明治二十二年に合併して御野村と名づく。(國分寺)大字下御領にあり。古義貫貫宗。唐尾山と號す。天平年中、行基の開創に係る。古來、尼寺・前寺の差別を傳へず。福島正則の時、寺領を悉く沒收、加ふるに延寶元年洪水の爲め僅かに草堂一字を残して諸堂流失す、仍て領主水野勝種木村を寄せ修葺し、同七年落成す。

【三直】 上總國(千葉縣)の古地名。和名抄に周郡三直郡あり。いま君津郡八重原村の大字に三直あり、郡城に蓋しその附近なるべし。
【三納村】 宮崎縣日向國

村の大字。省線豫本線の箕浦驛(大正五年設置)あり。
【箕面村】 大阪府攝津國豐能郡の中部。豊中市の北に接し、西は池田町に界す。北部は山地をなし、西境には六箇山(三九五米)聳ゆる。山地を箕面山といひ、いま箕面公園と稱し大阪近郊第一の山水郷にて風と温とにて名高し。箕面湖は高さ一〇〇尺、深さは二軒、綠樹鬱蒼として幽邃を極め、殊に風の大きなと敷の多きとは阪神地方にてこの右に出づるものなし。山地は断層を以て中部に移り、南半は平野開けて河川は西南に向ひ池田町を過ぎて猪名川に合す。總戸數の十分の五は銀行會社員・公吏・教員等の俸給生活者、十分の二は農家にて米・花卉・庭園木・麥等を栽培し、十分の三は商業及び工業、其他、自由業を營み、小賣商・製造業等あり。西國街道は南部を横斷し、社線阪神急行電鐵の支線は南部より中部へ入り來り、バスは村の中央部を縱貫す。大字瀬川は西國街道の要驛なり。延元元年二月、新田義貞、此地に細川和氏と戦ひて敗る。正平六年、高師直・師泰兄弟の害せられし并出も此邊ならんと。(箕面公園)大阪府經營の天然の森林公園。大字平尾にあり。古生層の峽谷を流るる箕面川の兩側を占め、面積約八五ヘクタール。明治三十一年はじめに公園に指定さる。滿山の風樹は箕面川の谷を蔽ひ、秋季には觀楓の勝地として

兒湯郡の南部。妻町の西に接し、西北より東南に稍々長し。西北境には東北より西南に連る連嶺ありて東南方へ次第に傾斜し、その國見山(一〇三六米)より東南へ連る一支脈は次第に高さを減じつゝ西境及び南境をなす。東南部には中央に稍廣潤なる平野開け北部には棚田あり。三財川の一支流は北部に發して低地を灌漑しつゝ東南流し、約一軒先に至りて一ツ瀬川の支流三財川に合す。農産・林産多く畜産・工業にも見るべきものあり。東南部には妻町より南隣の三財村に至るバスあれど西北部一帯は交通不便なり。この地は和名抄、兒湯郡三納郷の内にして建久園田帳に「没官領三納郷四十町」とあるは此地なり。

【水繩・耳納】 福岡縣筑後國浮羽郡の西部。耳納山脈の北斜面より北は巨瀬川の流域に及び、東北の一部は田主丸町の南に接す。西は三井郡に界す。南境には耳納山脈が東西に連り東南境に鷹取(八〇二米)聳ゆる。山脈は北へ急斜して中部にて東西に連る断層を以て終る。北半は筑紫平野の東北に屬する平野が開けて北境の西半に沿ひて巨勢川が西流す。米・麥・蕎麥の産多し。省線久大本線が西北部を東西に走りて西境に接して草野町に筑後草野驛あり。この地は和名抄、竹野郡二田郷の地なるべく、水繩山の下にありしを以て村名となせしものか。大字石垣の石垣山

京都の三尾を渡ぐ。初夏新緑の景もまた頗る佳し。公園の入口にある一ノ橋より道は箕面川の左岸に沿ひ、約半軒にして瀧安寺に至る。寺は修験道の根本道場の一にして辨財天を安んじ、江島・嚴島・竹生島と共に四辨天といふ。なほ曲折したる階段の徑を進むと一軒にして唐人屋敷に到り、大門橋を渡りて經は川の左岸に出で、進むと牛軒にして瀧淵に至る。直下四八米、これを箕面瀧と稱して名高し。なほ川を渡れば瀧淵に到る。この瀧淵瀧の外に廻遊道が数條園内に通じ、森林公園としての設備よく整ふ。(瀧安寺)天台宗寺門派別格本山。一名、箕面寺。白雉元年、役小角の開創。慶長以來久しく廢頽せしも明暦二年再興、塔頭一院を有す。寺境幽邃にして瀑布あり、寒客多し。如意輪觀音像は國寶。

【三川】 下野國(栃木縣)の古地名。和名抄に河内郡三川郷あり、その地は今の河内郡上三川町の邊に當る。
【三野郷村】 大阪府河内國中河内郡の中部。布施市の東方約二軒にありて西南部に八尾町に接す。全村地形低平にして思智川は東部を、玉串川は西部をいづれも北に流る。農産物・豚毛・工業・ハンモック・木牛卸等を出す。八尾町へバス通す。

は菊池武重が一色遺骸と對陣し一色氏を撃破したる古戰場たり。(石垣神社)大字石垣に鎮座。祭神、武内宿禰・應神天皇・住吉神。和銅年間開創と傳ふ。例祭、十一月十九日。
【水繩山・耳納山】 福岡縣三井・浮羽・八女の三郡の境上を東西に連する連山の稱。尾根線約一六軒に及び、屏風の如く聳ゆる故に一に屏風山とも呼ばる。最高峯は鷹取(八〇二米)と云ひ、その西方に發心山(六九三米)嶺き、西端に高良山(三二二米)起る。高良山は史實に名高く、また櫻樹にてもその名を知られ、近時西方久留米市方面よりハイキングに來遊する者尠からず。

【美濃庄】 臺灣高雄州旗山郡の東南部。下淡水溪の本流たる老濃溪の北岸に連る。東は六龜庄、西は旗山街に接し、南は老濃溪を隔て、屏東郡下高樹・里港二庄と相對し、北は屏風の如き美濃山脈を以て杉林庄に接す。東北より西南に長き地形にて上端尖り下端は太し。北部及び東部には山岳起伏し、美濃溪は東北隅の山地より出で、西南流し、旗山街に入りて下淡水溪の大支流たる楠梓仙溪に合す。諸溪の流域たる西南一帯は土地平坦にして謂ゆる美濃平野を形成す。この平野は獅子頭水利組合の灌漑地に屬し、水利潤澤、九割以上は二期作の美田にて郡の主要なる富源たると同時に本庄をなして郡下各庄中の富裕部落たりし

り、東は沼隈郡、西南は深田村、北は木ノ庄村に接す。面積一六・一方軒。地形東西に細長く延び、南北に縮む。東中部は一般に地勢平坦なるも西方に漸高す。西北に木頃山聳立す。村民は概れ東中部に墾り、農業及び蠶糸製造に従ふ。この附近は古來備後表の本場として名高く、産物多し。米・麥・蕎麥・酒類・木炭・牛等を産す。尾道市より發する縣道は東部を南北に貫通し、社線尾道鐵道は之と並行して村内に三成(大正十四年設置)・木頃本郷(大正十四年設置)・木梨口(昭和七年設置)・遊龜橋(昭和八年設置)の四驛を設く。

【美乃坂本】 省線中央本線の一驛(大正六年設置)。岐阜縣惠那郡坂本村にあり。
【箕島町】 和歌山縣紀伊國有田郡の西北隅。有田川河口に跨り、西と南は紀伊水道に臨み、北は海草郡に界す。北部は東方より續き來れる長峯山脈西端山地ありて中央にて終り海岸平野に連る。南部には一八〇米の丘陵が西に延びて西端は宮崎ノ鼻にて終り、南麓は崖濱をなす。有田川は中部を西流して海に注ぎ、沿岸に平野開け河中に砂洲多く、西岸は砂濱連る。有田川の中央北岸に本町の市街地ありて河港をなし漁港として知らる。この町は有名な蜜柑の産地にて北部丘陵は悉く蜜柑畑にて蔽はる。有田川流域に産する本場蜜柑はすべて此處

むる主要産物をなす。住民は殆んど全部廣東系本島人にして勤儉力行の風氣に富み、隨所に米作を中心とする純農村を形成し、民心充實して貧民は比較的少し。主要農産物は米を第一とし、山地にては芭蕉・甘蔗・甘藷の栽培行はれ、蔬菜類と共に産物少からず。役場所在地たる美濃は郡役所を東に距ること七軒、戸數一千を越ゆる大部落にして一の小市街を形成し、商家軒を連れ、公學校・派出所の外に郵便局・信用組合等を有し、また庄の東南隅には竹子門發電所あり。公學校三あり、住民一般に向學心旺盛にして就學歩合は男八八%、女三三%、平均六〇%を越え、また青年團及び國語講習所あり。平野にては交通路四通八達し、殊に旗山・美濃道路は道路品評會に入選してその完壁を誇り乗合自動車便を有し、また臺灣製糖の社線たる旗山線は西隣旗山街より來り美濃を經由して竹頭角に至る。管内にもと總て港西上里に屬し、當初は平埔蕃族マカッサオ部族の逐鹿場たりしが、清領後は漢人の移住に多きを加へ、乾隆年間には美濃を中心とし諸々隨所に部落を建設せられ、以て今日の基礎を爲せり。

【養生】 筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に宗像郡養生郷あり、美乃布と關す。その地今の宗像郡上四郷村の邊なるべし。
【箕浦】 香川縣三豊郡和田

に集められ、箕島柑同業組合が選果・荷造・取引などを統制し内地の重要都市をはじめ遠くは北米合衆國・カナダ・露領アラスカ、南は南緯印度、近くは支那・滿洲へも出荷する盛況なり。本郷下の栽培面積は五、六〇〇町歩、産額五百萬圓に近く、米・蕎麥に次ぎて縣下第三位の重要産物なり。本町に於ては工業産物も多く農産物は第二位なり。水産物は第三位を占め、鰻産・林産も多く、また畜産もあり。北方より來る縣道は北部山麓を西に繞りて有田川の岸に出で、これを渡り南岸に沿ひて東走す。省線紀勢西線は川の北部を東西に走りて箕島驛(大正十三年設置)あり。もと宮崎村といひしが明治卅四年箕島町とす。江戸時代の燻燻製造家として知られたる田中善吉(號從五位)は本町の人。(立神社)大字野に鎮座。祭神、祭神大屋彦神。相殿、國常立神・伊弉諾神・伊弉冉神。例祭十月十六日。(淨妙寺) 臨濟宗。大同元年、平城天皇の御母乙牟婁皇太后が飢疾の厄難滅除のために勅して建立せしめ給ひしものと云ふ。徳川領宣中興す。

【養島村】 福岡縣豊前國京都郡の東部。行橋町・今川村の間に横はる孤島にして、今川・小波瀬川の兩河口に位す。附近一帯に海岸砂洲發達し、風景佳なり。丘陵性にして西岸に部落あり。農産・水産あり。行橋町へ渡船の便あり。古くより和歌の名所。夫木・鳥む

ミノオ

村の大字。省線豫本線の箕浦驛(大正五年設置)あり。
【箕面村】 大阪府攝津國豐能郡の中部。豊中市の北に接し、西は池田町に界す。北部は山地をなし、西境には六箇山(三九五米)聳ゆる。山地を箕面山といひ、いま箕面公園と稱し大阪近郊第一の山水郷にて風と温とにて名高し。箕面湖は高さ一〇〇尺、深さは二軒、綠樹鬱蒼として幽邃を極め、殊に風の大きなと敷の多きとは阪神地方にてこの右に出づるものなし。山地は断層を以て中部に移り、南半は平野開けて河川は西南に向ひ池田町を過ぎて猪名川に合す。總戸數の十分の五は銀行會社員・公吏・教員等の俸給生活者、十分の二は農家にて米・花卉・庭園木・麥等を栽培し、十分の三は商業及び工業、其他、自由業を營み、小賣商・製造業等あり。西國街道は南部を横斷し、社線阪神急行電鐵の支線は南部より中部へ入り來り、バスは村の中央部を縱貫す。大字瀬川は西國街道の要驛なり。延元元年二月、新田義貞、此地に細川和氏と戦ひて敗る。正平六年、高師直・師泰兄弟の害せられし并出も此邊ならんと。(箕面公園)大阪府經營の天然の森林公園。大字平尾にあり。古生層の峽谷を流るる箕面川の兩側を占め、面積約八五ヘクタール。明治三十一年はじめに公園に指定さる。滿山の風樹は箕面川の谷を蔽ひ、秋季には觀楓の勝地として

は菊池武重が一色遺骸と對陣し一色氏を撃破したる古戰場たり。(石垣神社)大字石垣に鎮座。祭神、武内宿禰・應神天皇・住吉神。和銅年間開創と傳ふ。例祭、十一月十九日。
【水繩山・耳納山】 福岡縣三井・浮羽・八女の三郡の境上を東西に連する連山の稱。尾根線約一六軒に及び、屏風の如く聳ゆる故に一に屏風山とも呼ばる。最高峯は鷹取(八〇二米)と云ひ、その西方に發心山(六九三米)嶺き、西端に高良山(三二二米)起る。高良山は史實に名高く、また櫻樹にてもその名を知られ、近時西方久留米市方面よりハイキングに來遊する者尠からず。

むる主要産物をなす。住民は殆んど全部廣東系本島人にして勤儉力行の風氣に富み、隨所に米作を中心とする純農村を形成し、民心充實して貧民は比較的少し。主要農産物は米を第一とし、山地にては芭蕉・甘蔗・甘藷の栽培行はれ、蔬菜類と共に産物少からず。役場所在地たる美濃は郡役所を東に距ること七軒、戸數一千を越ゆる大部落にして一の小市街を形成し、商家軒を連れ、公學校・派出所の外に郵便局・信用組合等を有し、また庄の東南隅には竹子門發電所あり。公學校三あり、住民一般に向學心旺盛にして就學歩合は男八八%、女三三%、平均六〇%を越え、また青年團及び國語講習所あり。平野にては交通路四通八達し、殊に旗山・美濃道路は道路品評會に入選してその完壁を誇り乗合自動車便を有し、また臺灣製糖の社線たる旗山線は西隣旗山街より來り美濃を經由して竹頭角に至る。管内にもと總て港西上里に屬し、當初は平埔蕃族マカッサオ部族の逐鹿場たりしが、清領後は漢人の移住に多きを加へ、乾隆年間には美濃を中心とし諸々隨所に部落を建設せられ、以て今日の基礎を爲せり。



ミノセー—ミノチ

ら雨に濡るる衣のあやしきにならなみのし  
まの名をやからし。重之

ミノセ 三野瀬村

三重縣紀伊國北  
牟婁郡の東部。長島町の西南に接し熊野  
灘に臨む。東北より西南に連る約四〇〇  
米の山脈が北境を限り、それより東南方  
へ延ぶる一脈は西南境を劃して尖端は斷  
崖を以て海に終る。海岸は屈曲多く崖濱  
をなし前面海上に赤野島・丸山島・鈴島・  
大エスキ島等浮ぶ。平野は僅に沿岸に狭  
狭大の低地が点在せるのみ。水産・林産  
及び養蚕・米等の農産あり。海岸に沿  
ひて熊野街道及び省線紀勢東線通過し三  
野瀬驛(昭和七年設置)あり。明治二十二  
年、三浦・海野浦・道瀬浦を合併し、各  
一字を取りて現村名に就く。

ミノタ 民太

伊勢國(三重縣)の古  
地名。和名抄に壹志郡民太郷あり、三万  
多と訓す。その地は今の一志郡阿坂村・  
米之庄村の邊に當る。

ミノタ 箕田

【箕田村】埼玉縣武蔵國北足立郡の北部。  
鴻巣町の西北隅にある小村にして、元荒  
川の西南岸にあり。東北は北埼玉郡と隣  
る。全村平地にして水田多く、米を主産  
し、藪の産も多し。また瓦・草蓆等の製  
造行はる。中山道は鴻巣町より來り、村  
の西部を西北に走りて西北方の吹上町に  
通ず。省線高崎線またこれに沿ふも村内  
に穿なく、鴻巣町に鴻巣驛ありてバス通  
ず。この地はもと足立郡箕田郷と稱せし  
んか。

ミノタニ 養谷村

富山縣越中國東  
礪波郡の中部。城崎町の東方一・二軒。  
東南には白山山脈の末端をなす高清水山  
(一四七米)屹立し、西北へ傾斜す。西  
北部は礪波平野の一部に属し耕地開く。  
農業を主とし米を産する外、養蠶・製炭  
の副業行はる。城崎町へ縣道通じ此處より  
省線中越線の便あり。杉尾峠を越えて  
庄川上流に至る里道あり。明治卅一年本  
郡能美村を分割し、その一部を以て本村  
を設く。村内に不動瀧(高さ一八米・幅  
三米)・夫婦瀧(高さ一八米・幅四米)・明  
神瀧(高さ五五米・幅二米)あり。

ミノチ 水内

【水内(郡)】信濃國(長野縣)の古郡名。  
郡の東方を千曲川が流れ越後に至る。ま  
れば郡名は水内川の義か。續紀神護景雲二  
年の條に郡名見ゆ。和名抄は美乃知と註  
し乎井・大田・芥田・尾張・大島・吉野・  
赤生・中島の八郷を擧ぐ。明治十三年五  
月、上・下二部に分つ。

【水内村】

長野縣信濃國上水内郡の東南  
端。犀川の左岸にありてその蛇行部にあ  
たり南東北の三方を圍まれ、西は津和村  
に接す。犀川丘陵地の連続をなす養谷地が  
村の大部分を占む。犀川の谷底には僅に  
平地あり、平の部落は此處に位置し、水  
田・桑畑あり。多くは丘陵の中に孤立村  
落を形成す。新町は犀川の谷底にありて  
最大部落をなす。耕地面積は三三八町に  
して全面積に對する率は三八%に達し養

ミノチ 水内

地にして、水川八幡の後に古塚あり、往  
年土人この塚を穿ち古鏡・太刀を得たり  
と。また社邊に屋敷跡あり、之を六孫王  
經基の陣所とも、源頼義の陣所とも、源  
氏の居なりとも稱す。源氏は大納言昇の  
子にして武藏守に任じ、その子箕田源次  
充は六孫王經基の臣にして、充の子源五  
綱も當村に住し箕田を名乗りしが、のち  
源頼光に仕へ、攝津渡邊に移りしより渡  
邊綱と稱せりといふ。(今城青坂稻實池  
上神社)大字忍保に鎮座。縣社。伊吹戸  
主命を主神とし、豊受姫命を合祀す。延  
喜式内社に充つる説あり。忍保庄の總社  
にて一時稻荷神社とも稱せらる。領主の  
崇敬あり。例祭、九月廿九日。(水川八  
幡神社)大字箕田に鎮座。郷社。祭神、  
須佐能男命・譽田別命外二柱。水川神社  
は承平元年に源經基の勸請に係ると云ひ  
明治元年に八幡神社に合せらる。例祭、  
陰曆八月十五日。

ミノタケ 蛟高

【蛟高】肥後國(熊本縣)の  
古地名。延喜兵部省式に肥後國蛟高郡  
馬五元と見ゆ。その地は詳かならざるも  
鹿本郡に米野原村あり、或はこの地なら  
んか。

ミノバヤシ 見能林村

徳島縣阿  
波國伊賀郡の東部。紀伊水道に臨む所に  
あり。北は富岡町、西は寶田・長生・桑野  
三村と界し、南は橋岡に接す。西部には  
一〇〇—二〇〇米餘の小丘陵起伏して東  
に傾斜す。その裾には低平なる沖積平  
野廣く發達して地味肥沃なり。平地中央  
を小河南流して灌漑の便よきため耕地多  
く拓げ農業盛なり。米作を始め蕎麥・藪の  
産多し。西部海岸は鹽田をなし製鹽業も  
盛なり。東南海岸の各島は良好なる漁港  
をなし汽船の碇泊に便なり。鯛・鮪・鰯  
等の漁獲多し。縣道は富岡町と橋岡とを  
連絡す。省線牟岐線はこれに並行して南  
走し、見能林驛・阿波橋驛(共に昭和十  
一年設置)あり。また各島港輪、富岡港  
線等の航路も開け海陸共に交通は至つて  
便なり。

ミノフ 身延

【身延町】山梨縣甲斐國南巨摩郡の東部。  
富士川の西岸。東は富士川を隔てて西八  
代郡と界す。身延山の南麓を占め、西南  
部には鷹取山麓を内流し高嶺にして山  
林に富む。東南部を流るる一小川は東流  
して村境を南下する富士川に合す。河岸  
に狭き平地あり米・蕎麥の耕作行はるも  
産額少し。日蓮開闢の遺地またその墓所  
として名高き久遠寺の門前町として發達  
したるもの。電車・縣道・バスにより宗

【身延山】

赤石山系白根山脈の南東方に  
當り、富士川右岸沿ひに南北に連るる  
身延山脈の中部に峙し、その主峯をなす  
山。山梨縣南巨摩郡身延町と下山・本建  
の二村との境に峙つ。標高一四三三米。  
山體御坂層及び第三紀頁岩層より成る。  
北方に栗倉山(七〇四米)、南方に鷹取山  
嶺。富士川はこの山地の東方を圍鑿し  
山腹に河岸段丘を種々の高度に作り、富  
士川の一支流木井川はこの山を深く浸蝕  
す。山腹河岸段丘上の小平地に日蓮宗總  
本山の身延山久遠寺あり、山麓河岸に身  
延の聖蹟發達す。信仰登山者多く、この  
山より更に西方の七面山(久遠寺の鎮守)  
にも登る者少からず。※身延町

ミノマチ 美濃町

省線越美南線の  
一驛(大正十二年設置)。社名古風鐵道  
の接續點。岐阜縣武儀郡美濃町にあり。  
【水呑村】廣島縣備後國沼隈  
郡の東南部。廣田川河口西岸に位し、川  
を挟みて東北に福山市と界す。西は瀬戸  
村・熊野村に接す。面積一・七三平方軒。  
川に沿ひて地形南北に長く西境を山脈連  
りて彦山(四五〇米)・無ヶ峯(四三八米)  
が村界を壓し東方に傾斜す。東部は河口  
三角洲展げ、東岸の其島は築堤にて陸地  
と續き本村に属す。沿岸に耕地開け米・  
蕎麥・藪・酒類・漆等の産多きも、  
織物工業最も盛なり。新橋鐵道貫  
通し葛城驛・牛坂驛・妙見驛・水呑驛  
驛・水呑驛あり。また縣道を以て福山市・

ミノハタ 美濃波多村

三重縣伊  
賀國名賀郡の中部。阿保町の西約一軒に  
あり、西南約二軒には名張町あり。西部  
及び南部には臺地狀の丘陵あれど地形概  
して平坦なり。米・藪の産多く工業・畜  
産・養蠶等もあり。西部には名張街道が  
縱貫し、東南部には名張町より阿保町に  
至る縣道が通過す。社線參宮急行電鐵伊  
賀線通じ美旗新田驛・西原驛(共に大正  
十一年設置)あり。

ミノハタ 眞橋

常陸國(茨城縣)の  
古地名。和名抄に河内郡眞橋郷あり、今  
の筑波郡谷原村・十和村の邊に當るか。

ミノチ—ミノミ

ミノチ 水内

【水内(郡)】信濃國(長野縣)の古郡名。  
郡の東方を千曲川が流れ越後に至る。ま  
れば郡名は水内川の義か。續紀神護景雲二  
年の條に郡名見ゆ。和名抄は美乃知と註  
し乎井・大田・芥田・尾張・大島・吉野・  
赤生・中島の八郷を擧ぐ。明治十三年五  
月、上・下二部に分つ。

【水内村】

長野縣信濃國上水内郡の東南  
端。犀川の左岸にありてその蛇行部にあ  
たり南東北の三方を圍まれ、西は津和村  
に接す。犀川丘陵地の連続をなす養谷地が  
村の大部分を占む。犀川の谷底には僅に  
平地あり、平の部落は此處に位置し、水  
田・桑畑あり。多くは丘陵の中に孤立村  
落を形成す。新町は犀川の谷底にありて  
最大部落をなす。耕地面積は三三八町に  
して全面積に對する率は三八%に達し養

【身延山】

赤石山系白根山脈の南東方に  
當り、富士川右岸沿ひに南北に連るる  
身延山脈の中部に峙し、その主峯をなす  
山。山梨縣南巨摩郡身延町と下山・本建  
の二村との境に峙つ。標高一四三三米。  
山體御坂層及び第三紀頁岩層より成る。  
北方に栗倉山(七〇四米)、南方に鷹取山  
嶺。富士川はこの山地の東方を圍鑿し  
山腹に河岸段丘を種々の高度に作り、富  
士川の一支流木井川はこの山を深く浸蝕  
す。山腹河岸段丘上の小平地に日蓮宗總  
本山の身延山久遠寺あり、山麓河岸に身  
延の聖蹟發達す。信仰登山者多く、この  
山より更に西方の七面山(久遠寺の鎮守)  
にも登る者少からず。※身延町

ミノマチ 美濃町

省線越美南線の  
一驛(大正十二年設置)。社名古風鐵道  
の接續點。岐阜縣武儀郡美濃町にあり。  
【水呑村】廣島縣備後國沼隈  
郡の東南部。廣田川河口西岸に位し、川  
を挟みて東北に福山市と界す。西は瀬戸  
村・熊野村に接す。面積一・七三平方軒。  
川に沿ひて地形南北に長く西境を山脈連  
りて彦山(四五〇米)・無ヶ峯(四三八米)  
が村界を壓し東方に傾斜す。東部は河口  
三角洲展げ、東岸の其島は築堤にて陸地  
と續き本村に属す。沿岸に耕地開け米・  
蕎麥・藪・酒類・漆等の産多きも、  
織物工業最も盛なり。新橋鐵道貫  
通し葛城驛・牛坂驛・妙見驛・水呑驛  
驛・水呑驛あり。また縣道を以て福山市・

ミノハタ 美濃波多村

三重縣伊  
賀國名賀郡の中部。阿保町の西約一軒に  
あり、西南約二軒には名張町あり。西部  
及び南部には臺地狀の丘陵あれど地形概  
して平坦なり。米・藪の産多く工業・畜  
産・養蠶等もあり。西部には名張街道が  
縱貫し、東南部には名張町より阿保町に  
至る縣道が通過す。社線參宮急行電鐵伊  
賀線通じ美旗新田驛・西原驛(共に大正  
十一年設置)あり。

ミノハタ 眞橋

常陸國(茨城縣)の  
古地名。和名抄に河内郡眞橋郷あり、今  
の筑波郡谷原村・十和村の邊に當るか。

ミノチ—ミノミ



ミノヤ—ミノワ

新町へバスの便あり。水野氏が福山城を開くまではこの邊一帯は蘆田川の河口廣がりて舟着場をなせりと。(妙福寺)日蓮宗。西龍華妙性山。延文元年、當村の創工三原一乘入道妙性の開創。堂宇中、客殿並に靈殿は昭和三年の重建なり。寺寶中に日蓮・日像の眞蹟を藏す。

ミノヤ 三野谷村

群馬縣上野國邑樂郡の南部。曾林町の西南方約三軒にある小村なり。關東平野の一部を占め、全村平地にて、科根川は南方約二軒の所を東流す。南半は水田多く、北半には如地あり。農業行はれて米を主産し、他に麥の産あり。縣道は中央を東走し、東隣の六郷村より北に折れて曾林町に通じ、バスの便あり。六郷村内には社線東武鐵道伊勢崎線茂林寺前驛を置く。

ミノワ 箕曲

【箕曲村】三重縣伊賀國名賀郡の西南南部。名張川の右岸に位し名張町の南に接す。南部は奈良縣宇陀郡と界す。南部には略巨東南より西北に連る數條の山脈ありて北方へ次第に高さを減じ、北部には低地あり。青蓮寺川が中央を西北流し、南部には南伊賀の景勝を以て開ける香落溪あり。兩岸は急斜して峡谷をなし、延長八軒に亘りて深さ十數尋に及ぶ巖窟の洞あり。北部に於ては流れ緩やかとなり西流する長瀬川に合す。名張川は長瀬川の水を入れて西北隅を北流す。米・蕎麥・麥を産し他に林産・畜産・工業・水産あり。

三原

一二五、四七七路にて重要嶺山なり。王城炭礦(第一坑に該當す)は餘り掘ばず、僅に重要嶺山たるに止る。本村はいま水戸村と組合村をなし、役場を水戸村に置く。大字高野に高野温泉あり。無色透明のアルカリ性炭酸泉、加熱浴用。【箕曲】 福島縣安積郡にありし村。明治二十五年、三代・中野の二箇村に分離獨立せり。

【箕曲山】 郡須火山脈に属する沼尻火山群の一峯。福島縣信夫郡土湯村と耶麻郡吾妻村との境に跨る。標高一七一・九米。北東面に堆積火口の跡あり。南段は鐵山(一七一〇米)を経て安達太良山(一七〇〇米)に連り、北西段は鬼面山(一四八二米)・土湯峠最高點(一二七一・一米)に續く。西側は釧路川、東側は荒川の源流地たり。北東側の荒川に沿ひて土湯温泉湧く。

【箕曲町】 群馬縣上野國群馬郡の南部。高崎市の西北約七軒にて、榛名山の東南斜面を占む。西北隅に三ツ峠(一三三七米)・鷹ノ巣山(九五五米)あり。これより次第に東南に傾斜し一帯に森林あり。東部の山裾には桑園多く、また田地・如地ありて蕎麥・米・麥を産す。聚落は東南部に發達し、縣道はこれより四方に通じ、いづれもバスの便あり。また西北に走るものは赤城山頂附近に通ず。大正十年に町制を布く。この地は和名抄、群馬縣井出郷の内なるべし。(箕曲) 大字西明屋に

三原

ある城址。大永年間この國の豪族長野氏の築くところ。山上上杉氏に属す。永祿八年武田信玄來り攻めてこれを滅す。武田氏の亡ぶや織田信長の併すところとなり、瀧川一益、一時この城に居る。次で信長の執せらるるや一益は西上し城は北條氏の有となる。天正十八年小田原落城後は徳川家康の手に屬し井伊直政をしてこれを守らしむ。慶長三年直政高崎城に移るに及びて城廢す。

【箕曲】 三輪とも書く。新吉原の北、日本堤の北端にあり、江戸時代、妓樓の寮が存し、多くの創作・戯曲・演劇などの背景に取材せらる。今は下谷區三輪町、また荒川區南千住町に編入さる。南門風「根岸三の輪の隠居所」とはまた異なり、爰に南遊と云へる者ありけるが、商家に生れながら其道にうとく、進哥俳諧に心をゆたれ、赤羽根の邊りに別荘をなすつらへし里見八犬傳・三ノ三・思ひ絶てぞたつ鳥の、黒鴨を左邊に見かへれど、跡は濁さめ石神井の、流に添ふて四ヶ原、田畑を通る夏の雨に、追れて箕曲の笠やどり、石濱村に舟まちて、稍うち渡る隅田河云々。

【箕曲】 和名國(神奈川縣)の古地名。延喜長部省式に藤名見え、藤馬十二疋とあり。箕曲は水の曲にして、花水川上流の鈴川に沿へるよりその名起る。和名抄には大住郡に藤家郷あり、蓋しこの地を指せるものなるべし。今その地を中郡比々山元より珍内海岸まで一五軒の運炭軌道を敷設して以來道々發展しつつあり。

多村の邊に擬定す。【箕輪村】 長野縣信濃國伊那郡にあり、高遠町の西北約一〇軒、天龍川の左岸にありて、赤石山脈の西斜西かなす。村の東部に不動ヶ峯(二〇〇米)聳え、村は天龍川の溪谷をなし殆ど平地なし。西は赤石山脈の西端が斷崖をなし、其下部に數段の河成段丘あり。上層・福興は最上段に位置す。最下部段丘は水田に利用され中段に三日市の部ありて桑園卓越す。福興には舊城址ありて箕輪城とも田中城とも稱し、天文年間藤澤氏の居城たり。慶長年間これを壊し陣屋を對岸の木下に移す。耕地面積二七八町、全面積に對する率は二〇%、田一五四町、畑一四四町にて田多く、桑畑一二一町にして畑の大部を占め養蠶地域たるを示す。この地は和名抄、諏訪郡且良郷の内なるべく、舊箕輪六郷の稱ありしが今は五箇村あり、大字福興に箕輪城址あり、田中城とも稱し藤澤氏の故城なり。天正十年、藤澤次郎頼親が立籠り、北條方に屬せし時、徳川方の保科正三ここに押寄せて之を抜き、徳川氏の有となる。慶長年間、小笠原秀政の郡主たりし時、その家士をして守らしめしが、同十七年陣屋を木下に移す。寛文年間には幕府の代官この陣屋に來り治せしが、天和三年より元禄十二年までは板倉越中守重宣二萬石を食み此に治す。のち徳川幕府の代官再び來任せしが元禄年中に玉り遂に廢す。

【箕輪】 愛知縣碧海郡にありし村。明治廿九年他の七箇村と共に廢し、長崎村の大字藤目を以て安城町を置く。【ミハシ 三階】 鳥根縣那賀郡にありし見村を置く。【ミハシ 三橋】 埼玉縣武蔵國北足立郡の西部。大宮町の西隅にある小村にして、南は奥野町と隣す。全村平地にて中央に運沼あり。沼の周囲は水田にて、他は如地をなし米・麥を産し、養蠶盛にて繭・生糸の産多し。縣道大宮町に通じ縣道には西武鐵道の自動車通す。

【三橋】 ↓平和村(奈良縣) 【三橋村】 福岡縣筑後國山門郡の西北部。西部は柳河町の北及び東を圍み、東部は瀬高町に界す。北は三瀬郡に、東北部は八女郡に隣る。地形低平にして矢部川は瀬高町を流れて本村の東南端に出で之に沿ひて西南流す。東方一軒餘の地點にて之より分るる支流が本村の北部を西流して沖ノ端川といひ、之より西南に一河川分れて中央を測し之を豊原川といふ。米産多し。縣道及び省線佐賀線が中央を横斷し、筑後柳河(昭和六年設置)・百町(昭和十二年設置)・三橋(昭和六年設置)あり。柳河町・瀬高町に接まれ交通の便よし。本村は明治四十三年、川北・川邊・宮ノ内・垂見の四村を廢して置けるもの。(三柱神社) 縣社。祭神、戸次

鐵達・立花宗茂・室茂實。始め柳河城内に藩祖を祀り、文化九年立花鐵實が現地に遷祀す。【ミハナ 三花村】 大分縣豊後國日田郡の北部。西南隅は日田町の北部を一點に於て接す。村形は胡蝶の如き形をなし東北翼の面積廣く、其東北一帯は下毛郡に界す。東北翼の部分は北に大勢降山(九一〇米)・國見山等ありて南方へ山地重疊しつつ傾斜す。西南翼は丘陵性の地にして東及び東南に低し。花月川は北方より流下し來りて西南翼の東部を南流し沿岸にやや低地あり。米・麥・繭の産あり。縣道は南部を横斷し森町・日田町間を通ずるバスの便あり。(天満社) 大字三和に鎮座。祭神、菅原道真・大田主神。延長五年道真の經光靈夢によりて創祀せり。例祭、九月二十五日。

【三原村】 樟太泊居支應久春内郡の北半部。南は久春内村に、北は勸修寺村に、東は元泊支應元泊村・帆寄村に隣り西は間宮海岸に面す。東境には樟太山脈の珍内山(七五八米)・留久志山(六七五米)等連りて土地西方に下り、珍内川・小田洲川・留久志川・野津川等この斜面を並行西流し、その川筋に小平地あり、耕地次第に開墾せらる。山地には木村・バルブ材、沿岸には鱈・鰯・鰯その他の魚族に富む。留久志・珍内は夏季定期船の寄港あり。(珍内炭礦) 大字珍内にあり。昭和十年

山元より珍内海岸まで一五軒の運炭軌道を敷設して以來道々發展しつつあり。【三原村】 靜岡縣伊豆國賀茂郡の西南南部。西は遠州灘に面し、北に岩村、東に南上村、東南には三坂村あり。村城は海岸に沿ふ狭長なる地にして東側部の村境は四一五米に達せざるも、西方海岸の海蝕大にして海岸平野の發達遅るく、且つ後背地との連絡惡し。伊濱・落居・子浦・妻良等の漁村聚落あり。西方波濤時は天城山餘脈の西盡頭にして航海者の目標たり。同時は野嶺群の棲息所として有名な郷と稱せし地にして、慶長三年の檢地帳には豆州四浦湯濱とあり。大字妻良は東鑑、元暦二年三月の條に、伊豆國名奥と妻良津に於て兵糧米を納められし由見ゆ。いま附近の海岸は伊豆西南海岸として名勝に指定さる。※松崎町

【三原村】 靜岡縣遠江國小笠原郡の南部。北に大坂村・三俣村、東に千濱村、西に大瀨村あり。南は遠江灘に面す。菊川の右岸河口近くにあり、村の大部分は沖積地にして米を産し、また野菜の促成栽培も行はる。南半は砂丘地にして海風のために丘頂は南に並ぶ。この地は和名抄、城側郡新井郷の内にして、海岸を大新井濱と稱す。いま三俣村と組合村をなし、役場を本村に置く。【三原山】 ↓大島元村(東京府)



【三原郡】兵庫縣二十五郡の一。淡路國の南部。淡路島の西南半を占め、西は播磨灘に南は紀伊水道に臨み、西南部は鳴門海峡を隔てて四國徳島縣に對す。南部に淡路島山脈海岸に沿ひて東北より西南に連り尖端は潮岬となり、南は紀伊水道に急傾斜し北は緩傾斜をなす。北隅に山地が東西に横がりて幅り、中央東偏に一段低く南へ延びて南部山地の北麓を連続す。北部にも丘陵群ありて西方海上へや突出し、その西南部には針狀に西南方へ延ぶる門崎ありて四國の孫崎と相對し、鳴門海峡を挟む。門崎の東に福良町の灣入ありて好儲地をなす。低地は中部に廣く開けて西北部は播磨灘海岸に接す。三原川が平野の西部を北流して海に注ぐ。東北にもやや廣き低地あり。南方海上に沼島の孤島あり。田畑よく拓けて米・麥類・繭・蔬菜・花卉・食用農産物・果實・鶏卵及び木製品・瓦・醬油陶磁器等の工産品を出す。又水産豊かにして水産製造物多し。郡内は海村・福良町・阿萬町の三町外十六箇村を含み人口密度は二五六人にて、最も多きは沼島町の八四四人なり。西國街道が中央を東北より西南に走りて福良町に達し、北部に之と交叉して東西に通ずる縣道ありて西岸に至る。又中部には南北に貫通して南岸の阿萬町に達する縣道あり。社線淡路鐵道は中央を東北より西南に貫き福良町に至る。書紀には御原とあり禁野の意なる

べし。上世車駕屢々淡路に狩獵を催されし事見ゆ。和名抄は美波良と註し、倭文・福田・美宜・櫻列・神稻・阿萬・賀集の七郷を擧ぐ。【三原村】島根縣石見國邑智郡の西北部。川本町の四方約五軒に位置し、北は通摩郡、東は三谷・川下二村に接し、西は谷住郷村に接す。面積二四・七八平方軒。地形略ぼ圓形にして村内概ね山地に蔽はる。南部に圓山(四八二米)存し、その東北麓に耕地拓け部落は附近に集る。米・木炭・家畜等を少額産す。省線山陰本線黒松驛にバス通じ、温泉津驛へ定期自動車連絡す。(境八幡宮)大字南佐木に熊座。郷社。祭神、應神天皇・神功皇后。比賣大神。例祭、十月十二日。【三原村】岡山縣備中國後月郡の西北隅。西は廣島縣に界し、東北に川上郡、南に共和村に接す。面積一九・一平方軒。四圍は悉く山地にして村内は海拔五〇〇—七〇〇米の高度を有す。平地を缺き、山間凹地の處々にやや耕作行はる。村の周圍を山林に覆す。米・麥・繭・木炭・柿・薄荷等を少額産し、酒類の製造盛なり。縣道南北に通じ、井原町にバスの便を有す。この地は和名抄、後月郡是次郷の内なり。【三原市】廣島縣の中部にあり、昭和十一年市制施行の市。開港場余時を合し、更に西野・山中・豊田郡須波の諸村を併せ三二、四三七(昭和十年)の人口を持つに

村・西野村・豊田郡田野浦村・須波村を合し三原市と稱するに至る。明治年間國學者にして神道家たりし松野勇雄(贈従五位)は此地の人とす。(三原城)市の東端標山上にあり。當城は天正年間小早川隆景の築城にかり、文祿四年領國筑前を義子秀秋に譲りてここに退き、慶長二年この城に死去す。のち福島正則の安藝の廣島に封ぜらるるや、その領有となり、福島丹波を置きて之を守らしむ。元和五年淺野氏の正則に代るに及び、城代として老臣淺野氏を置き、世襲して以て明治維新に至る。(糸崎神社)縣社。祭神、帶中津日子命・品陀和氣命・息長帶日賣命。天平元年豊前國宇佐郡宇佐八幡宮より御分靈として應神天皇の御産靈を勧請せるに創るといふ。故に式年奉幣使の宇佐宮へ御下向あるや、必ず當社にも奉幣ありき。例祭、十月十九日。(觀音寺)時宗。海南山道場院と號す。康平年中、宗祖一福徳化の益次本寺を建立す。本尊十一面觀音(行基作)。(松壽寺)曹洞宗。萬年山と號し往古三原町河原谷にあり。本尊は釋迦如來坐像にて腹中に康徳作の小像を安置す。(正法寺)三原にあり。古義眞言宗。魚甲山延命尊院と號す。初め蘇州高山にありしが天正年中現地に移る。本尊千手觀世音(安阿彌作)。寺寶多し。(宗光寺)曹洞宗。天正五年に小早川隆景その居城内に創建し巨寶寺と號す。のち現地に移りて現號に改む。

【妙正寺】日蓮宗。無量山正壽院と號す。延寶二年、日忠の開創。本尊、題目寶塔釋迦多寶二如來、脇立は四菩薩・二大士・二明王・四天王。寺寶多く境域勝景に富み、古來詞人文儒の來遊多く其奇蹟詠詩の遺せるもの多し。【三原村】高知縣土佐國幡多郡の南部。東は八束・伊豆田二村に、北は東中筋・中筋・平田三村、南は三崎・下川口二村に、西は小笠原村に界す。面積八四・四方軒の大山村なり。幡多山地の中央を占め周邊は數百米の山岳圍繞して中央に傾斜し盆地狀をなす。東南部には原川流れて東南部下加茂江川に注ぐ。中央平地は耕地拓けて米・麥・繭の産あり。又牧畜を行ひ牛の飼育盛なり。山地よりは三椏・楮等の林産多し。交通はよく四方に發達し幡多地方の中樞をなしバスの便あり。人口密度非常に稀薄なる村なり。この地は往時、三原郷と稱せし地にして、延喜式に見ゆる沼山村牧は此か。(五社神社)大字宮ノ川に鎮座。郷社。舊稱、五社大明神。祭神、第一熱田神社、天照皇大神外四柱、第二廣田神社、高御產靈命、第三氣多神社、大穴牟遲命、第四鹿島神社、武甕槌命、第五加茂神社、別雷命。古來より三原郷十三箇村の總領守たり。【美原村】群馬縣上野國多野郡の東南部。神流川の北岸にして、東北は鬼石町、西

五る。前面は瀬戸内海の一灣三原灣にして佐木島・因ノ島その出口を扼す。市は沼田川の河口に南北に跨り、三原灣を取巻く。市の北端に龍王山(六六五米)・大峯山(六二〇米)あり。糸崎港の東にある鉢ヶ峯(四三〇米)の南は急崖にして東北東に尾道に連続し瀬戸内海をなす構造線にして、西南西の連続は三原灣によりて切斷され、須波の南岸に上陸して其以西の海岸線をなす。三原の舊町より山中・深田村の深田への小谷の連絡亦斷層線にて前記糸崎・尾道の斷層線と同一方向を示し、鉢ヶ峯山塊は從つて一種の地壘をなす。三原灣はこれ等瀬戸内海盆形成構造の斷層によりて幼年期沈降海岸の比較的大なるものを示す。其の瀬谷の奥なる沼田川の沖積三角洲に三原市あり。從つて沼田川以外に急に背後に斷層崖あり、前面は急に沈降して海深し。糸崎・尾道には殆ど平地の餘裕を存せざるの状況なり。然れども全面には沈降を免れし島は自然の防波堤をなし、海岸には中國街道の重要交通路あり、交通連絡上より糸崎・尾道が開港場となりしものなり。三原は小早川隆景の城下町にして、三原城と稱せし城址が市街の背後の標山にあり、いま公園に利用さる。小早川氏は豊臣麾下の水軍の將として名あり。本城に水城の稱あるは蓋し海岸に據れる意ならん。糸崎は風に開港として知られ支那・

印度方面よりの糖の移入港として、附近紡績・製糸工業地を背景とせしが人口僅に七、五〇一(昭和十年)に過ぎざりき。三原町と合併し既に市を形成せし基因をなせしものは實に三原町に帝國人絹工場が二つ新設され、沼田川の北岸三角洲に建設されしことなり。職工約四〇〇〇人に達し工業町として登場せしことなり。三原町自體も築港を完成せしが、糸崎と合併せしによりて共に一體の關係をなし將來を期待するに至れり。市は古くより清酒の産を以て名あるは即ち附近の高燥なる海岸地域の良質の産米と花崗地域の良水によるものなり。魚港としても阪神への一供給地たり。交通は山陽本線、内陸を廣島に向ひ糸崎(明治二十五年設置)・三原(明治二十七年設置)の二驛を置くに過ぎざりしも、近年更に南方海岸線に沿ふ吳線完成して忠海・竹原・吳等と連絡して廣島に達するに至り、謂ゆる三交通路の要衝となり將來の發達を豫想さるるに至れり。和名抄に御調郡者度郷(彦度郷の誤)とあるは當市邊を稱せしものなべし。一に梓原郷を以て充つる説あるも果して如何にや。小早川系國に建久中、備後國三原庄とあるは即ち此地なるべし、その名稱の源を知るべし。中世より長崎街道の一宿驛として榮え、天正年間小早川隆景の城を築くや、城下町として市街を整へ漸次發展したり。昭和十一年に至り、三原町及び糸崎町・山中

【美原村】群馬縣上野國多野郡の東南部。神流川の北岸にして、東北は鬼石町、西

は方場町と隣し、南より東は川を隔てて埼玉縣秩父郡・兒玉郡と相對す。關東山脈一支脈の東部を占め、北端に雨降山(一〇一三米)あり。山地は稍急に南方に傾斜し、南端を東流する神流川の谷に迫る。山地一帯森林多し、川沿ひの狭き耕地には麥を産す。また地質學上重要な三波石の産地として名高し。十石峠街道は神流川に沿ひて西走し、葉落も殆どこれに沿ひて發達す。この縣道にはバスの便ありて東北方の藤岡町に通ず。山間は交通不便なり。この地は和名抄、藤野郷竹茂郷の内なるべし。【美原】岡山縣眞庭郡にありし村。明治三十七年、關川村と合併して美川村を建つ。【御原】安房國千葉縣の古地名。和名抄に朝夷郡御原郷あり、美波良と訓す。その地は今の安房郡南三原村・北三原村の邊に當る。【御原(郡)】筑後國(福岡縣)の舊郡名。名稱の御原は眞原にして平野多きを以て名づくといふ。和名抄は三波良と註し長柄・日方・板井・川口の四郷を擧ぐ。明治十九年四月、御井・山本二郷を合して三井郡を建て郡名を失ふ。【御原村】福岡縣筑後國三井郡の西北部。寶滿川の東岸に沿ひ、久留米市の東北四軒餘。全村の地形は低平にして寶滿川は西端に沿ひて西南流す。米産多く麥も産す。縣道が中央を縦貫し久留米市へバスの便あり。

ミハラ 美原

ミハラ 御原

ミハル 三春町



翌年明利當國二本松に移るや、松下長綱同所より移り三萬石を食む。正保元年長綱所領を没収せられ、翌年秋田使季常陸穴戸より移封五萬五千石を食み、子孫承けて明治に至る。四年七月廢藩して縣を置きしが再び廢して平縣に入る。(三春大神宮)馬場に鎮座。縣社。祭神、天照大神・豐受大神。永正年間、田村大膳大夫顯利大元帥明王を勸請せしに創る。天文年中社殿を新たに建てたり。例祭、十月一日・二日・三日。(三春田村氏墓)町内の福聚寺本堂後方の山頂にあり、田村氏の祖田村莊司輝定及び永正以來領主たりし義顯・清顯の墓あり。輝定の墓は五輪塔の空輪のみにて、義顯の墓は石像、清顯の墓は角形の石柱、皆江戸時代の再建なり。(秋田氏廟)荒町高乾院境内にあり。廟は本堂の右山腹にあり。秋田俊季以下累代の墓所にて初三代は方形の墳丘、その他は石塔なり。靈屋供養塔等を設く。

ミフ 三峰川

長野縣上伊那郡にあり。天龍川の一支出。源を赤石山脈の仙丈ヶ岳附近に發し高遠町に至り藤澤川を併せ鑿持の棧道をその右崖に作りて西に流れ、伊那町に於て天龍川に入る。流程約七〇軒。

ミフ 壬生

【壬生町】栃木縣下野郡下都賀郡の東北部。栃木市の東北約六・五軒。全町平地にて中部を黒川南流し、一部に水田あり。

も殆ど畑地をなし農業盛にて米・麥を産し、特産物には干瓢・大麻・南瓜等あり。干瓢は全国各地及び遠く布哇にも輸出し、大麻は近藤郡市及び關西地方へ、また南瓜は近藤郡市へ移出す。なほ商業も盛なり。町は宇都宮市より栃木市に通ずる街道に沿ひバス通じ、主要集落は西部に發達す。また南方の小山町、東方の石橋町にも街道を通じ何れもバスの便あり。社線東武鐵道日光線は中央を東北に走り壬生・國谷の二驛(共に昭和六年設置)を置く。此地は和名抄、都賀郡田後郷の内なるべく、舊名を上野原と稱し、寛正年中、京都の壬生官符の庶子、彦五郎胤業の來住したるより専ら壬生と稱せりと。(壬生城)寛正三年、京都の官符家壬生氏の族、彦五郎胤業、城を築きて住し、宇都宮正朝に従ひ、鹿沼城をも併せ領せしといふ。天正十八年、義隆に至りて斷絶し、慶長七年、日根野吉明信濃高島より治す。寛永十一年、豊後府内に移り、松平(大河内)輝貞大坂城より移り來り、八年東に上野高崎に移り、加藤明英近江水口より來り、子嘉矩、正徳二年再び舊領水口に轉じ、更に島居忠突同所より來り治し三萬石を食み、以て明治維新に至る。四年七月藩を廢して縣を置きしが、十一月再び廢して栃木縣に入る。(學習館)舊壬生藩の學校。壬生城内にあり。正徳三年創立、明治四年廢す。(愛宕塚古墳)指定史蹟。塚内にあり。

ミフ トベ

三太 越前國(福井縣)の古地名。和名抄に丹生郡三太郷あり、その地は詳かならざるも、いま丹生郡三方村の邊なるべし。

ミフ ネ

御船 出羽國(秋田縣、羽後國)の古地名。和名抄に山本郡御船郷あり、その地の仙北郡内ならんも詳かならざる。

田別

田別命外二神を祀記す。【御船町】熊本縣肥後國上益城郡の西部。熊本平野の東南端に位し、熊本市の東南方約五軒に在り、緑川の一支出流御船川の沿岸にあり。面積五・二平方軒の小村なり。全村臺地狀をなし、東北境を御船川西北流し其の左岸に沿ひて市街地發達せり。附近一帯は耕地なり。米・麥等を産し市街地には商業をなすもの多し。一方軒人口密度は一、一九一人を算し郡中に頭角を抜き第一位を占む。市街地を貫きて縣道走り四方町村を結ぶ。社線熊延鐵道は東南部を極めて過ぎ御船驛(大正五年設置)・邊田見驛(大正十二年設置)あり。もと郡役所の所在地にて、いま區裁判所・熊本供託局出張所・警察署・税務署等あり。大正七年本町と澁川村を廢し新たに御船町を置く。御船城址は町の傍らにあり、初めは御船阿波守行房の居城にして、のち甲斐氏の爲めに滅ぼされ、その後代々甲斐氏の居城となれり。西南の役には此地に激戦あり、妙見谷は最も甚しかりし處にて、いま陣軍死者の墓あり、附近一帯には吉野櫻が植みられ行樂地たり。(邊田見若宮神社)邊田見に鎮座。祭神、阿蘇健甕尊神・同比咩神外二神。相殿、豐饗神・櫻葉神外二十九神。成務天皇十三年阿蘇惟人創祀す。例祭、九月九日。

ミフ 壬生野村

三重縣伊賀國阿山郡の中部。上野町の東北約四軒に位し。

壬生

生に鎮座。祭神、天照大神・天武天皇外二柱。嘉保二年、清原武則の三男保定の創建にて、もと雄尊大神と稱す。同町は勿論、附近の崇敬厚し。例祭、十月二十九日。【壬生】 遠江國(靜岡縣)の古地名。和名抄に磐田郡壬生郷あり、その地は今の磐田郡磐田村の邊なるべし。【壬生】 平安京の左京の南北に通ずる大路の一。朱雀大路と大宮大路の間。大内裏の南面に開く美福門に通ず。幅十丈。いま京都市中京區の西部の三條通と四條通の間にその名稱を存す。四條の南に壬生寺あり、毎年陰曆三月に土著の人々によりて行はるる狂言を世に壬生狂言といふ。その起りは文化十年と傳へ、現在のものは慶長年間再興、元禄年間改められしものなり。演技者は面をつけ、科白を用ひず、手眞似にて終始するを定めとす。幕末までは十日間の興行なりしも、今は四月二十日より二十日間興行す。所作は道化て見物を笑はせ、古雅なる趣あり。見物せば厄病に罹らずと傳ふ。文久二年冬、幕府、浪士を江戸に集めて一團となし新徴組と稱す、後に上京し壬生寺に屯す。これ壬生浪士なり。後に京都守護職松平容保これを用ひ、西國浪士の舉動を探察せしむ。留後新選組といひ、近藤勇これが長たり。【壬生町】 廣島縣安藝國山縣郡の東部。東は高田郡に接し、西は八重町、北は川

追村、南は南方村に界す。面積三二・五方軒。東に津々良山(八九九米)、西北に平家ヶ城山(六二〇米)の山間に位し、東部、西部共に山地に占めらるも、中央を可受川南流して支流を集め、山間に平地を展く。諸川合流地に市街附附近に耕地多し。山麓地には牧畜盛なり。米・麥・蕎麥・木炭・清酒・牛・馬・蠶等を産す。村内道路四通し可都町・吉田町に至る近道をなす。縣道は西方一軒に通ず。古くは壬生郷に作り、和名抄は山縣郡壬生郷に作る。中世は壬生莊と云ひ、嘉應三年の文書に壬生莊と見え、嚴島社領たり。明治三十七年町制を布く。

ミフ 味生村

愛媛縣伊豫國温泉郡の西部。松山市と三津濱町との間に介在し、西は伊豫灘に臨む。南には一三〇米餘の辨天山聳え、東北部に小丘起伏する外は全村平坦なる松山平野の地を占め廣く農耕行はる。米・麥・蕎麥の産あり。松山市と三津濱町を連絡する縣道及び省線豫讃本線は東北隅を掠めて通りバスの便あり。また村内に社線伊豫鐵道電氣の山西驛(昭和二年設置)あり。この地は和名抄、温泉郡味生郷の内なるべし。吉野朝の頃細川氏の將、完草出羽入道この地の岩子山城に居りしが、のち河野道隆に攻滅せるといふ。

ミフ 美夫

三河國(愛知縣)の古地名。和名抄に八名郡美夫郷あり、その地今詳かならざるも八名郡大野町の邊か。

ミフ トベ

三太 越前國(福井縣)の古地名。和名抄に丹生郡三太郷あり、その地は詳かならざるも、いま丹生郡三方村の邊なるべし。

ミフ ネ

御船 出羽國(秋田縣、羽後國)の古地名。和名抄に山本郡御船郷あり、その地の仙北郡内ならんも詳かならざる。

田別

田別命外二神を祀記す。【御船町】熊本縣肥後國上益城郡の西部。熊本平野の東南端に位し、熊本市の東南方約五軒に在り、緑川の一支出流御船川の沿岸にあり。面積五・二平方軒の小村なり。全村臺地狀をなし、東北境を御船川西北流し其の左岸に沿ひて市街地發達せり。附近一帯は耕地なり。米・麥等を産し市街地には商業をなすもの多し。一方軒人口密度は一、一九一人を算し郡中に頭角を抜き第一位を占む。市街地を貫きて縣道走り四方町村を結ぶ。社線熊延鐵道は東南部を極めて過ぎ御船驛(大正五年設置)・邊田見驛(大正十二年設置)あり。もと郡役所の所在地にて、いま區裁判所・熊本供託局出張所・警察署・税務署等あり。大正七年本町と澁川村を廢し新たに御船町を置く。御船城址は町の傍らにあり、初めは御船阿波守行房の居城にして、のち甲斐氏の爲めに滅ぼされ、その後代々甲斐氏の居城となれり。西南の役には此地に激戦あり、妙見谷は最も甚しかりし處にて、いま陣軍死者の墓あり、附近一帯には吉野櫻が植みられ行樂地たり。(邊田見若宮神社)邊田見に鎮座。祭神、阿蘇健甕尊神・同比咩神外二神。相殿、豐饗神・櫻葉神外二十九神。成務天皇十三年阿蘇惟人創祀す。例祭、九月九日。

ミフ 壬生野村

三重縣伊賀國阿山郡の中部。上野町の東北約四軒に位し。

壬生

生に鎮座。祭神、天照大神・天武天皇外二柱。嘉保二年、清原武則の三男保定の創建にて、もと雄尊大神と稱す。同町は勿論、附近の崇敬厚し。例祭、十月二十九日。【壬生】 遠江國(靜岡縣)の古地名。和名抄に磐田郡壬生郷あり、その地は今の磐田郡磐田村の邊なるべし。【壬生】 平安京の左京の南北に通ずる大路の一。朱雀大路と大宮大路の間。大内裏の南面に開く美福門に通ず。幅十丈。いま京都市中京區の西部の三條通と四條通の間にその名稱を存す。四條の南に壬生寺あり、毎年陰曆三月に土著の人々によりて行はるる狂言を世に壬生狂言といふ。その起りは文化十年と傳へ、現在のものは慶長年間再興、元禄年間改められしものなり。演技者は面をつけ、科白を用ひず、手眞似にて終始するを定めとす。幕末までは十日間の興行なりしも、今は四月二十日より二十日間興行す。所作は道化て見物を笑はせ、古雅なる趣あり。見物せば厄病に罹らずと傳ふ。文久二年冬、幕府、浪士を江戸に集めて一團となし新徴組と稱す、後に上京し壬生寺に屯す。これ壬生浪士なり。後に京都守護職松平容保これを用ひ、西國浪士の舉動を探察せしむ。留後新選組といひ、近藤勇これが長たり。【壬生町】 廣島縣安藝國山縣郡の東部。東は高田郡に接し、西は八重町、北は川

壬生

生に鎮座。祭神、天照大神・天武天皇外二柱。嘉保二年、清原武則の三男保定の創建にて、もと雄尊大神と稱す。同町は勿論、附近の崇敬厚し。例祭、十月二十九日。【壬生】 遠江國(靜岡縣)の古地名。和名抄に磐田郡壬生郷あり、その地は今の磐田郡磐田村の邊なるべし。【壬生】 平安京の左京の南北に通ずる大路の一。朱雀大路と大宮大路の間。大内裏の南面に開く美福門に通ず。幅十丈。いま京都市中京區の西部の三條通と四條通の間にその名稱を存す。四條の南に壬生寺あり、毎年陰曆三月に土著の人々によりて行はるる狂言を世に壬生狂言といふ。その起りは文化十年と傳へ、現在のものは慶長年間再興、元禄年間改められしものなり。演技者は面をつけ、科白を用ひず、手眞似にて終始するを定めとす。幕末までは十日間の興行なりしも、今は四月二十日より二十日間興行す。所作は道化て見物を笑はせ、古雅なる趣あり。見物せば厄病に罹らずと傳ふ。文久二年冬、幕府、浪士を江戸に集めて一團となし新徴組と稱す、後に上京し壬生寺に屯す。これ壬生浪士なり。後に京都守護職松平容保これを用ひ、西國浪士の舉動を探察せしむ。留後新選組といひ、近藤勇これが長たり。【壬生町】 廣島縣安藝國山縣郡の東部。東は高田郡に接し、西は八重町、北は川

壬生

生に鎮座。祭神、天照大神・天武天皇外二柱。嘉保二年、清原武則の三男保定の創建にて、もと雄尊大神と稱す。同町は勿論、附近の崇敬厚し。例祭、十月二十九日。【壬生】 遠江國(靜岡縣)の古地名。和名抄に磐田郡壬生郷あり、その地は今の磐田郡磐田村の邊なるべし。【壬生】 平安京の左京の南北に通ずる大路の一。朱雀大路と大宮大路の間。大内裏の南面に開く美福門に通ず。幅十丈。いま京都市中京區の西部の三條通と四條通の間にその名稱を存す。四條の南に壬生寺あり、毎年陰曆三月に土著の人々によりて行はるる狂言を世に壬生狂言といふ。その起りは文化十年と傳へ、現在のものは慶長年間再興、元禄年間改められしものなり。演技者は面をつけ、科白を用ひず、手眞似にて終始するを定めとす。幕末までは十日間の興行なりしも、今は四月二十日より二十日間興行す。所作は道化て見物を笑はせ、古雅なる趣あり。見物せば厄病に罹らずと傳ふ。文久二年冬、幕府、浪士を江戸に集めて一團となし新徴組と稱す、後に上京し壬生寺に屯す。これ壬生浪士なり。後に京都守護職松平容保これを用ひ、西國浪士の舉動を探察せしむ。留後新選組といひ、近藤勇これが長たり。【壬生町】 廣島縣安藝國山縣郡の東部。東は高田郡に接し、西は八重町、北は川

壬生

生に鎮座。祭神、天照大神・天武天皇外二柱。嘉保二年、清原武則の三男保定の創建にて、もと雄尊大神と稱す。同町は勿論、附近の崇敬厚し。例祭、十月二十九日。【壬生】 遠江國(靜岡縣)の古地名。和名抄に磐田郡壬生郷あり、その地は今の磐田郡磐田村の邊なるべし。【壬生】 平安京の左京の南北に通ずる大路の一。朱雀大路と大宮大路の間。大内裏の南面に開く美福門に通ず。幅十丈。いま京都市中京區の西部の三條通と四條通の間にその名稱を存す。四條の南に壬生寺あり、毎年陰曆三月に土著の人々によりて行はるる狂言を世に壬生狂言といふ。その起りは文化十年と傳へ、現在のものは慶長年間再興、元禄年間改められしものなり。演技者は面をつけ、科白を用ひず、手眞似にて終始するを定めとす。幕末までは十日間の興行なりしも、今は四月二十日より二十日間興行す。所作は道化て見物を笑はせ、古雅なる趣あり。見物せば厄病に罹らずと傳ふ。文久二年冬、幕府、浪士を江戸に集めて一團となし新徴組と稱す、後に上京し壬生寺に屯す。これ壬生浪士なり。後に京都守護職松平容保これを用ひ、西國浪士の舉動を探察せしむ。留後新選組といひ、近藤勇これが長たり。【壬生町】 廣島縣安藝國山縣郡の東部。東は高田郡に接し、西は八重町、北は川



は川沿ひに南定するもの一條あるのみにて交通便ならず。山間には数條の村道ありのみなり。村内に葦砂と呼ぶ砂の古樹あり、日通幹園一〇米、直幹乾立の瓦樹として有数のものにて、いま指定天然記念物たり。また中川温泉あり、弱アルカリ性泉にて加熱浴用に供す。

【三保】 静岡縣安東郡にありし村。大正十三年に本村ほか不二見村・入江町・清水町を廢し新に清水市を置く。

【三保松原】 清水市

【三保】 鳥取縣八頭郡にありし村。明治二十六年に久長村と合併して河原村（大正十五年町制を布く）を建つ。

【三保村】 鳥取縣石見郡那賀郡の西北海岸。三保町の西北に隣接し、西は日本海に面す。北は大森村に接し、南は同見村を隔てて美濃郡に對す。面積六・六方軒。海岸に沿うて地形南北に細長く、村内處々に丘陵起伏するも平地多し。三保川内を西流して海に注ぎ沿岸に耕地兼養殖多し。海岸は小出入あり、南部に漁業兼落拓く。漁業最も盛にて鰯・鰯・鰯・鰯及び米・蕎麥・生絲・酒等を産す。省線山陰本線は三保町境を走り三保三保驛（大正十一年設置）あり。明治四十三年西浜村・古市場村を併せ三保村と名づく。（八幡宮）大字清浦に鎮座。神社。田心新命・淵津鳥船命外五神。三保城主能登守信兼社領を寄す。例祭、九月二十一日。

【三保村】 岡山縣美作國久米郡の北部。

津山市の西南約五軒。北は吉井川を隔てて吉田郡に對し、東は佐山山村、西は久米村・倭文東村に隣接す。面積八・四五平方軒。地南北に細長く、南部に低き山地形存すれども地勢大いに北方に傾く。村内を吉井川の一支流東流し、北境を吉井川また東流し灌漑の便に富み耕地多し。米・蕎麥・柿等を産す。社線中國鐵道龜甲驛に約四軒にして自動車の便あり。この地は和名抄、久米郡餘部郷に屬し大字餘部郷の遺稱とす。仁徳天皇の朝三韓の歸化人の地にありて機械の業に従ふ故に郷名を餘部といふ。

【三保村】 大分縣豊前國下毛郡の東北部。中津市の東南方二軒餘に位し、東南部に宇佐郡に界す。東南半は丘陵性にして、西北に緩斜す。西北半は地形低平にして中部の丘陵地に沿ひて大丸川が東北へ流る。左岸に水田、右岸に米産多し。蕎麥も出ず。省線日豊本線の大丸驛は北方一軒餘にあり。この地は和名抄、下毛郡野仲郷の内にして、大字福島の長久寺は、天正の末に福島佐佐といへる郷士の開けるものにして、のち本願寺教如に歸依し僧侶となる。福島・如來・大丸は天正十五年、黒田氏が中津に封を受けてし初め、郷士土民の據守したる地にして、梁山大膳利安これを撃破す。（長久寺）大字福島にあり。此本願寺遺蹟。田丸山と號す。開創は地頭福島但馬守祐齋入道正善。

【三保村】 岡山縣美作國久米郡の北部。

同比全郡の東南部。川越市の北方約四軒にあり。荒川と入間川との中間にある小村にて、東境を荒川南流し南境を入間川東流す。全村平地にて水田多し米を主産し養蠶も盛なり。また甘藷の栽培行可。縣道は川越市と東方の北見路郡川町間に通じ何れもバスの便あり。桶川町には省線高崎線桶川驛を置く。村内の高徳寺の裏に塚あり、これ源平の戦の時に悪七兵衛登時と争ひし水尾谷四郎の墓なりと傳ふ。諸曲八島にもこの事見ゆ。

【三保三保】 省線山陰本線の一驛（大正十一年設置）。鳥取縣那賀郡三保村にあり。

【三馬】 加賀國（石川縣）の古地名。和名抄に石川郡三馬郷あり、その地今の石川郡二塚村及び之に接する金澤市の一部に當る。

【三馬】 石川縣石川郡にありし村。昭和十一年金澤市に編入せられ、村名を失ふ。

【三間村】 愛媛縣伊豫國北宇和郡の北部。宇和島の東北約一〇軒。東は二名・好藤二村に、西は成妙村に界し北は東宇和郡に隣接す。幅約二軒、長さ約六軒の長方形の村形をなす。北部には高取八〇米餘の山岳屹立して中央に傾斜す。東南部には泉ヶ森登えて、北境は緩傾斜をなして南部に擴がる。中央部は稍々廣き平地をなして耕地拓かる。米・蕎麥・蕎麥等の産あり。平地を東西に縣道及

名。和名抄に厚狭郡見徳郷あり、その地の今の宇部市の邊なるべし。

【美保】 鳥取・鳥根兩縣境の大驛入。東北に向つて河口を開き、北は美保關半島を以て限られ、西は夜見ヶ濱（夕ヶ濱）によりて中海と相眼て、中海とは中江瀬戸を以て相通す。河口約二五軒、最大水深三米に達す。元來この瀬は中海・穴道湖を連ねる謂ゆる穴道湖地帯の東縁なるが、日野川の流出する土砂が沿岸溜流によりて運ばれ夜見ヶ濱の砂嘴を成せるにより現在の河形を採るに至りしものとす。西北隅、中江瀬戸に臨みて開港場あり。

【美保】 鳥取縣岩美郡にありし村。昭和八年本村を廢し鳥取市に編入す。

【美保】 出雲國（鳥取縣）の古地名。和名抄に鳥根郡美保郷あり、その地今の八東郡美保關町・森山村の邊に當り、風土記の美保郷に當る。

【美穂村】 鳥取縣因幡國氣高郡の東南部。千代川の左岸に沿ひ、東北は川を隔てて鳥取市と相對し、北は大正村、南は大和村、西北は東郷村に接す。面積五・七七平方軒。東部は千代川の沖積平野を以て蔽はれ、灌漑の利よく耕作盛んなり。西境に山地轉る。米の産額は最も多し、蕎麥に之に次ぐ。近時、専ら農業の副業を獎勵せられつつあり。村民は概ね平野の中央に聚落をなし、四周を田畑に圍

が省線宇和島線貫通し務田・伊豫宮下の二驛（大正三年設置）を置く。宇和島市へバスを通す。この地は二名村・成妙村と共に和名抄、宇和郡三間郷の地。

【美馬郡】 徳島縣阿波國一市十郡の一。東北より西南に伸びたる狭長なる形をなす。西は三好郡に、東は阿波・麻植兩郡に界し、北は香川縣に、南は海部郡及び高知縣に隣す。面積七九四・八六方軒。大部は四國山系に屬する劍山・石鎚兩山脈東西に並走し高取一千數百米の峻險なる連峯聳立して地勢高峻なり。主峯劍山西北の山腹を切りて祖谷川發源し深溪をなしつつ西流し名高き祖谷川の別天地をつくる。北部は讃岐山脈の一部を占め一千米餘の秀峯連立して東西に走り南に傾斜す。兩山脈間に隘層によりて生ぜし隘谷をなし吉野川こそ東流し流域に狭長なる平地を造る。北岸には麓下野の一部をなし、栗林草・藪等の産物からず。山地は美林多し林産に富む。鐵道は吉野川に沿うて省線徳島本線通じ東方徳島市に至る。山地には林用軌道よく發達す。三代實録貞觀二年紀に阿波國美馬郡を割きて三好郡を置くと見ゆ。和名抄は美馬と註し栗原・三次・大島・大村の四郷を管す。

【三舞村】 和歌山縣紀伊國西牟婁郡の西南部。日置町の東北に接して日置川に跨る。四周山脈を以て圍

まる。村内に縣道の通するなしと雖も鳥取市へ近く交通不便ならず。

【御火浦】 兵庫縣城崎郡能都村より美方郡濱坂町に至る間の海岸を稱し、いま名勝・天然記念物に指定さる。※濱坂町・能都村（兵庫縣）

【美保關町】 鳥取縣出雲國八東郡の東部。鳥根半島の先端に位し北は日本海、南は美保關に面す。西南は森山町、西は片江町に接す。面積七・七三平方軒。町内概ね丘陵地に蔽はれ、平地乏しきも、海岸は天然の良灣に富み、南部美保關は交通商業上の發達著し。漁業・林業盛んにして、鰯・鰯・鰯・木炭及び米・蕎麥・醬油等を産す。松江市に縣道通じバスの便あり。また鳥取・陸奥島・下關等へ定期航路を有す。半島の先端部地蔵崎に地蔵碑燈臺あり、六三萬燭光の電燈を装置し、光遠距離四四軒の一等燈臺なり。附近に地の御前・神の御前の二岩あり、事代主命釣魚の舊跡と傳ふ。

此地は關の五本松を以て名高き處。山陰道の海驛として古來有名にて、書紀・風土記に三穂之場として著はれ、中世關を置いて往來を監視せしより美保關の名起る。もと三尾ともいふ。大正十三年町制を布く。（美保神社）國幣神社。祭神、事代主命。事代主命は父君に獎めて國土廣敷を決し給ひ、後世常にふびす神と稱され崇敬厚し。式内社。例祭四月七日。當日若葉垣祈事あり。（美保の北浦）指

まれ村内山地重疊し西境に鹽津山（五一七米）、西南境に高嶺山（三四一米）、東境に三舞山（四九一米）、東南隅には善司山（五九二米）等あり。日置川は東北方より入り中部を狭入蛇曲しつづ西南流し流域に稍々耕地あり。東南部には善司山に發して西下し更に南流して周參見川に入る一川あり。米・蕎麥・柑橘を産し林産多く外に工業・水産あり。日置川に沿ひて縣道通じ日置町へバスの便あり。舊國野街道は西部山地を越えて日置川沿岸に出づ。村内に品瀬川（高三〇米、巾五米）、祝瀧（高一七米、巾二米）、觀音瀧（高一五米、巾一米）あり。

【御牧村】 京都府山城國久世郡の西北部。山城盆地の中央、舊五椏池西岸に位する農村。五椏池干拓以前には湖岸聚落にして、山城に於ける漁業の中心たりし所なり。然るに池の干拓に伴ひ今や漁舟的聚落たりし生命を失ひ純農村と化せり。五椏池はもと山城三川の合流場となり洪水調節用に供せられたり。然し年毎の洪水の爲め各聚落は湖岸に堅固なる堤防を築き之を防禦せり。故に村内の聚落中には謂ゆる輪中の形式を存せるものあり。特に興味あるものは、湖岸の漁舟的聚落たりし東一口なり。聚落は湖岸の堤防上に東西凡そ七八町、片側聚落となり狭き道路に沿ひ發達せるものにして、山城に於ける特殊形聚落として注目されたるものなり。御牧とは延喜

【三保谷村】 埼玉縣武藏

【三保谷村】 埼玉縣武藏

【三保谷村】 埼玉縣武藏

【三保谷村】 埼玉縣武藏

【三保谷村】 埼玉縣武藏

【三保谷村】 埼玉縣武藏

【三保谷村】 埼玉縣武藏

【三保谷村】 埼玉縣武藏

【三保谷村】 埼玉縣武藏

【三保谷村】 埼玉縣武藏

【三保谷村】 埼玉縣武藏

【三保谷村】 埼玉縣武藏

【三保谷村】 埼玉縣武藏

【三保谷村】 埼玉縣武藏

【三保谷村】 埼玉縣武藏

【三保谷村】 埼玉縣武藏



式近都牧の地たりしことより名あるものと考へらる。即ち延喜式に「山城國美豆郡、高十一町野地五十町餘、右二寮夏月、簡御馬不肥者遺飼、亦諸祭料馬同令放飼」とあり、當時は美豆の内に、美豆の御牧と稱せし事は古書に明かなり。美豆は綴り分離せし中世の事にして、美豆は綴り分離となり御牧は久世郡に隸屬し以て維新に至る。近世、此地の豪族御牧氏の本據となり、其の舊城址は本村西一口と傳ふ。當時豆粒池の水利權、漁業權は同氏の配下に屬せるものなり。今や豆粒池干拓事業も終了せんとし、池面は干拓せられ、耕地面積七百町歩を見んとす。従つて本村の耕地面積を増加する事大なり。然し東一口は鎌倉時代より海岸の舟着場、又は漁舟の集落として著はれ、淡・伏見・横大路・岡屋等、海岸は勿論、大阪方面との往來自由なりき。豊公豆粒池沿岸大土木工事後、豆粒池は交通の自由を失ひ、ただ漁舟の集落として三百の餘命を保ちしもの、今や其の餘命も断たれ農耕集落へ大轉向を餘儀なくさる。

ミマサカ 御旗村

愛媛縣伊豫國北宇和郡の南部。岩松町の東南方約一〇軒。東は高知縣幡豆郡に、南は南宇和郡に界す。面積約四八平方軒。宇和山地中心部の高峻なる地を占め、南に鎌山・瀬戸黒森等聳立し、東には大黒山、北には鎌ヶ葉森等の峻険峙ちて、何れも中央に傾斜し高原狀の平地を開く。西南より中央を東流する松田川、西北部を西へ流る岩松川の上流ありて兩流域には耕地發達し農耕營まる。米・蕎麥の産あり。山地は森林よく繁茂し木村・木炭を出す。北麓下の平地を縣道走りて岩松町に至る。又バスを過す。人口僅かに一二〇〇人餘を算するに過ぎざる僻村なり。村内に喜作池(高三五米、巾一〇米)・長走池(高一〇〇米、巾一八米)あり。

ミマサカ 深珠村

大分縣豊前國下毛郡の東北部。中津市の東南四軒餘に位置し、東より東南部にかけては宇佐郡に界す。西南境には八面山(六五六米)聳えてそれより東南方に連る連嶺が村境を劃し、山地は東北方及び北方へ傾斜す。大丸川南部に發して八面山の東麓に沿ひ東部より北部を迂回して流れ西北隅より山口村に入り沿岸に低地開く。河川の東岸にも二〇〇米程度の丘陵が連りて東境及び北境を限る。米・蕎麥を産す。中津市へ自動車あり。もと深木・林の二村に分れしが、合併して各一字を取り深林村と名づく。古くは和名抄、下毛郡深山郡の内にして、深木は宇佐大鏡に「深木庄廿五町七反、根元立券定」と見ゆ。

ミマサカ 美作

【美作國】山陽道八箇國の一。中國山脈中にありて海なし國の一なり。國內をいまま津山市と美田・勝田・久米・吉田・眞庭の五郡に分ち、岡山縣の管下に屬す。この國も備前國のうちなりしを、奈良時代の初、和銅六年に備前國の北部六郡を割きて本國を置く。當時國府は吉田郡吉田郷にありしが、その位置いま津山市内に入る。清和天皇の貞觀五年吉田郡を二郡に分けて宮東・宮西とし七郡となる。鎌倉時代の初めに土肥實平と梶原景時この國の守護となる。建武年間足利尊氏の叛の守護となる。建武年間足利尊氏の叛の守護となる。建武年間足利尊氏の叛の守護となる。

の初、和銅六年に備前國の北部六郡を割きて本國を置く。當時國府は吉田郡吉田郷にありしが、その位置いま津山市内に入る。清和天皇の貞觀五年吉田郡を二郡に分けて宮東・宮西とし七郡となる。鎌倉時代の初めに土肥實平と梶原景時この國の守護となる。建武年間足利尊氏の叛の守護となる。建武年間足利尊氏の叛の守護となる。建武年間足利尊氏の叛の守護となる。

ミマサカ 水保

武藏國(埼玉縣)の古地名。和名抄に那珂郡水保郷あり、水保は水保の誤なるべし。その地は今の見玉郡東見玉村の邊なるべし。

ミマサカ 水派

大和國(奈良縣)の古地名。書紀、武烈天皇の三年、城の形を三派邑に作りて城上と云ふと見ゆ。其の地いま北葛城郡見玉村大字大塚の邊ならんといふ。

實曆年中三浦明次三河河原より眞島二萬三千石に封ぜられ、ここに美作國には二萬ありしが、明治元年五月に至り松平武勝が石見後田より美作に移され、鶴田(六萬一千石、久米郡和田南村)にあり、ここに三藩となる。明治四年七月これ等の藩はみな廢となりしが、四年十一月にはこの三藩を廢して北條縣を津山に置き美作一國を管す。明治九年四月に至り北條縣を廢して岡山縣に合併し以て今日に至る。美作國の郡は初め七郡なりしが、漸次増加されて十二郡となり、その稱呼も頗る複雑を極めしを以て、明治三十三年四月大いにこれを併合して、ほゞ舊稱に復す。即ち眞島・大庭二郡を合して眞庭郡とし、西條・西北條・東北條・東南條の四郡を合して勝田郡とし、英田・吉野二郡を合して英田郡とし、久米北條・久米南條二郡を合して久米郡とし、ここに現在の如く五郡となる。而して昭和四年二月に至り、津山市が吉田郡の中より獨立して以て今日に至る。

ミマサカ 美又

鳥根縣那賀郡にありし村。大正十二年本村及び久佐村・伊南村の一部を廢して今福村を建つ。

ミマサカ 任那

朝鮮の古國名。古代朝鮮半島の南部に國を建てし三韓の辰韓が新羅、馬韓が百濟となりし時、弁韓は大加羅又は伽倻・任那となる。その他今の慶尚南道金海に當る。任那の名の起りは、日本書紀に、崇神天皇の御諱を賜ると解す。新羅は常に境域を擴張せんと任那を壓迫す、任那他國の後援を求め對抗せんと、崇神天皇の朝、使者蘇那馬叱知を遣はせしを機嫌とし日本より麗乘津彦命を奉りし駐在せしむ。のち崇神天皇御宇に吉備田狹任那の國司たり、新羅と結び天皇に叛し討伐を蒙り顯宗天皇御宇紀大勢任那に據り高句麗に通じ、三韓の王たらんとし不成功に終る。かく任那動搖ありしが遂に體機天皇御宇百濟王任那

【美作加茂】省級因美縣の一縣(昭和三年設置)。岡山縣吉田郡東加茂村にあり。【美作河井】省級因美縣の一縣(昭和六年設置)。岡山縣吉田郡上加茂村にあり。【美作千代】省級新設の一縣(大正十二年設置)。岡山縣久米郡久米村にあり。【美作瀧尾】省級因美縣の一縣(昭和三年設置)。岡山縣勝田郡瀧尾村にあり。【美作土居】省級新設の一縣(昭和十一年設置)。岡山縣英田郡土居村にあり。【美作三間坂】佐賀縣杵島郡中通村の大字。省級佐世保縣の三間坂(明治三十年設置)あり。

【美作加茂】省級因美縣の一縣(昭和三年設置)。岡山縣吉田郡東加茂村にあり。【美作河井】省級因美縣の一縣(昭和六年設置)。岡山縣吉田郡上加茂村にあり。【美作千代】省級新設の一縣(大正十二年設置)。岡山縣久米郡久米村にあり。【美作瀧尾】省級因美縣の一縣(昭和三年設置)。岡山縣勝田郡瀧尾村にあり。【美作土居】省級新設の一縣(昭和十一年設置)。岡山縣英田郡土居村にあり。【美作三間坂】佐賀縣杵島郡中通村の大字。省級佐世保縣の三間坂(明治三十年設置)あり。

大宮比賣命・飯田彦之命。合祭、大山祇命。元龜二年其内村に創祀し明治三年現地に遷座せり。例祭、十一月三日。【水保】武藏國(埼玉縣)の古地名。和名抄に那珂郡水保郷あり、水保は水保の誤なるべし。その地は今の見玉郡東見玉村の邊なるべし。

四縣の割讓を請ふ。物部麩鹿火等反對せり、遂に勅許せらる。これ日本の中島政策上の大失策にて、かくて任那の西南先づ百濟の力となり、次で新羅は東部を併呑す。これ日本の勢力衰退の結果にしてかくて日本府は有名無實、孤立の状態に陥り、欽明天皇その復興を圖られしも効なし。欽明天皇二十三年に任那の日本府は全く滅亡す。任那に關し「書紀」・「古事記」・朝鮮の「三國史記」・「三國遺事」・「好太王碑」・「東國輿地勝覽」・支那の「宋書」・「南齊書」・「通典」の諸書に見ゆ。



米の山脈が北方へ延びて北麓は海岸平野に移る。中央には耳川が村内の水を集めて北西に貫流し、流域に低地ありて西北部の平野につづく。平野は西境の山脈北麓より西隣の南西郷村の平野に連る。米産地を産し、また林産・水産あり。丹波街道と省線小浜線が西北部を横断し河原市驛に近く、一縣道は耳川に沿ひ南走し中部の新庄に達す。此地は和名抄、三方郡御美郷の内にて、申世以降は耳庄と稱せし地、大字佐梅の岡吉城址は武田氏領國の時に栗屋氏これに居り、一方の邑城たり。越中守勝久の死後は本村常陸介重並邑主となり郷区氏に仕ふ。のち城廢し酒井家の時に關を置きて出入を檢す。近時郡治の置かれしことあり。〔御美郷社〕大字宮代に鎮座。郷社。祭神、室毘古王。式内社。若狭國神階報の正五位耳明神は本社なり。酒井忠勝・京極忠高等武士の崇敬厚かりき。例祭、五月一日。〔耳川〕宮崎縣の川。西臼杵郡の西部、熊本縣境の國見岳・鏡子岳の東斜面に發源し、椎葉村の東にて郡境を東流し左岸に七ツ山川を入れ、これより東南に方向を轉じて東臼杵郡に入り東郷村の中央にて右岸に坪谷川を合せ、更に東南流し美々津町の北にて海に注ぐ。流域約一〇〇軒。一に美々津川といふ。下流は舟運の便あり木材・薪炭等を輸送し、河口の美々津港により海上の運送に連絡さる。またこの川は天正六年島津・大友の兩軍が

新戦せし古戦場として著名なり。〔美々津町〕宮崎縣日向國兒湯郡の東北隅。耳川河口の南岸を占め、東は日向灘に面し、東南の一部のみ兒湯郡都波町と界し、村形は東西に長くのびて北・西・南の三面は東臼杵郡に圍まる。全村丘陵性の斜面地にて中央部に高く北及び南に低し。耳川は北境の東中に沿ひて東流し日向灘に注ぎ、南部には石並川が東流す。東岸に沿ひ長く市街地發達す。主産業は農業・漁業・林業の順にして主産物には米・麥・青果・繭・糖・杉材・松材・木炭・椎茸等あり。又特産として南瓜・胡瓜・小鮎(さし)・鮎・牡蠣・和紙等を出す。東部に日向街道及び省線日豊本線が通過して後者の美々津驛(大正十年設置)あり。此地は延喜式的美禰郡に當り古より官道これを通じ、海陸の小要衝たり。されば神武天皇東征の時、御乘船せられし地と傳へ、また天正六年十一月、大友義興・島津義弘と耳川を挟みて戦ひ、豊後勢大敗す。明治四年、美々津驛を此地に置き、日向國を管せしも、同六年一月、都城縣と合し宮崎縣となる。明治三十一年町制を布く。〔橋口氏庭園〕指定名勝。橋口家の祖が天文年間薩摩より現村社受容神社祠官として移住せし當時築造せるものなりと云ふ。寛文二年及び寶曆八年に庭前に松を移植せし記録を存す。庭園は自然の岩壁を利用して庭の後

半部を構築せしめ岩壁より湧出せる清水を以て小池を設く。岩壁にはマツ、ツツジ、シウカイダウ、ニハヒバ等あり。池は岩盤を加工して作られ池汀に石を組み石橋を架く。池と建築物との間に多数の飛石とツツジの丸物を配す。地方的特色を有する庭園なり。〔立勢神社〕大字美々津町に鎮座。郷社。祭神、底筒男命・中筒男命・上筒男命。古來宮村の産土神たり。例祭、陰曆十一月十四日。〔美々津(縣)〕明治四年十一月、日向國の北部にありし高鍋・延岡・佐土原三縣を廢して本縣を兒湯郡美々津に置き、なほ日向國管下たりし舊宮崎縣の地をも併せ管せしが、明治六年一月廢して宮崎縣に入る。〔美々津川〕耳川(宮崎縣)

と共に女性なる畷傍山を争ひしと云ふ傳説萬葉集に見ゆ。大阪電氣軌道の櫻井線は山の南麓を走る。萬葉・一「香具山は畷火を愛しと 耳梨と 相争ひき 神代より 斯くなるらし 古昔も 然なれこそ 現身も 争ふらしき」曾我會精山・一「昔の昔のつと昔のその古、大和國天の香具山といふは女山、又畷傍山耳無山この二山は男山、香具山山の麓なる春に想ひをかけ、我が妻にせんいや我こそばと、山と山とが妻争ひ、夜毎に谷峰震動す。出雲國におはします阿耨の御神これを扱ひ止めんと、御船を走らせ給ふと聞き、二つの山は中直り、阿耨の神は播州印南野に神止まりました、この三つの山の争ひ、中の大兄の御歌を、萬葉集には載せられたり

【美々津川】耳川(宮崎縣) 耳無山・耳梨山とも書く。奈良縣磯城郡耳成村の南嶺にして、奈良盆地の南部に香久山・畷傍山と三山鼎立す。山は塊状火山の一種にして三山中標高最も低く、僅かに一三九・七米を算するに過ぎざれども平原に立つゆゑ甚だ目立ち、恐らく太古には自然の堡壘として山上より敵を矢にて打ち下ろせしものなるべし。山上より石器時代の遺物多く出で、また山の周圍には石器時代の遺跡多し。山は樹木を以て掩はれ、山中に耳成山神社鎮座する故に一に天神山とも云ふ。また山中梶子多きを以て梶子山ともいふ。香久山

に見ゆる日原の勢余田の地なりといふ。〔耳成山神社〕大字木原に鎮座。郷社。祭神、大山祇神・高皇產靈神。式内社。俗に天神山とも云ふ。例祭、六月二十二日。〔ミムラ 三村〕宮崎縣(天城縣)の古地名。和名抄に筑波郡三村郷あり、その地今の筑波郡小田村の邊に當る。〔ミムラ 御村嶺山〕御溝村(岐阜縣) 三室 三室村 埼玉縣武藏國北足立郡の東南部。浦和市の東北隅にある小村なり。面積六・八六平方軒。全村平地にて、北部には小流ありてその附近は沼田をなし、他は畑地多し。農業行はれて米・麥を産し、また織物の製造行はる。縣道浦和市に通じ自動車の便あり。〔水川女體神社〕大字三室に鎮座。郷社。祭神、稻田姫命。社傳に崇神天皇の御守の創建にして大宮、中川の氷川神社と合して氷川神社と稱せしが各々分離したりと云ふ。古來上下の信仰厚し。例祭、十月八日。〔三室山〕神南嶺山(奈良縣) 三諸山 三室戸 宇治村(京都府) 御裳濯川 五十鈴川

【美々津川】耳川(宮崎縣) 耳無山・耳梨山とも書く。奈良縣磯城郡耳成村の南嶺にして、奈良盆地の南部に香久山・畷傍山と三山鼎立す。山は塊状火山の一種にして三山中標高最も低く、僅かに一三九・七米を算するに過ぎざれども平原に立つゆゑ甚だ目立ち、恐らく太古には自然の堡壘として山上より敵を矢にて打ち下ろせしものなるべし。山上より石器時代の遺物多く出で、また山の周圍には石器時代の遺跡多し。山は樹木を以て掩はれ、山中に耳成山神社鎮座する故に一に天神山とも云ふ。また山中梶子多きを以て梶子山ともいふ。香久山

【美々津川】耳川(宮崎縣) 耳無山・耳梨山とも書く。奈良縣磯城郡耳成村の南嶺にして、奈良盆地の南部に香久山・畷傍山と三山鼎立す。山は塊状火山の一種にして三山中標高最も低く、僅かに一三九・七米を算するに過ぎざれども平原に立つゆゑ甚だ目立ち、恐らく太古には自然の堡壘として山上より敵を矢にて打ち下ろせしものなるべし。山上より石器時代の遺物多く出で、また山の周圍には石器時代の遺跡多し。山は樹木を以て掩はれ、山中に耳成山神社鎮座する故に一に天神山とも云ふ。また山中梶子多きを以て梶子山ともいふ。香久山

【美々津川】耳川(宮崎縣) 耳無山・耳梨山とも書く。奈良縣磯城郡耳成村の南嶺にして、奈良盆地の南部に香久山・畷傍山と三山鼎立す。山は塊状火山の一種にして三山中標高最も低く、僅かに一三九・七米を算するに過ぎざれども平原に立つゆゑ甚だ目立ち、恐らく太古には自然の堡壘として山上より敵を矢にて打ち下ろせしものなるべし。山上より石器時代の遺物多く出で、また山の周圍には石器時代の遺跡多し。山は樹木を以て掩はれ、山中に耳成山神社鎮座する故に一に天神山とも云ふ。また山中梶子多きを以て梶子山ともいふ。香久山

【美々津川】耳川(宮崎縣) 耳無山・耳梨山とも書く。奈良縣磯城郡耳成村の南嶺にして、奈良盆地の南部に香久山・畷傍山と三山鼎立す。山は塊状火山の一種にして三山中標高最も低く、僅かに一三九・七米を算するに過ぎざれども平原に立つゆゑ甚だ目立ち、恐らく太古には自然の堡壘として山上より敵を矢にて打ち下ろせしものなるべし。山上より石器時代の遺物多く出で、また山の周圍には石器時代の遺跡多し。山は樹木を以て掩はれ、山中に耳成山神社鎮座する故に一に天神山とも云ふ。また山中梶子多きを以て梶子山ともいふ。香久山



ミヤウ ミヤカ

のある地にして瓦石文化遺跡ありて、本邦文化の發祥地として民族學的に有名な...

【宮内】 新潟縣古志郡上根村の大字。省線信越本線の宮内驛(明治三十一年設置)あり、省線上越線これに接続す。

【宮内】 石川縣能美郡にありし村。明治四十年山口村と合し山上村を置く。

【宮内】 鳥取縣日野郡にありし村。大正十年設置村と共に撤し日野上村を建つ。

【宮内村】 廣島縣安藝國佐伯郡の中央海岸。廿日市町の西北に連り、東は廣島灣に面す。西は友和村、南は地蔵前村、大野村に接す。面積一四方軒餘。東部海岸地方に平野ひろく、地勢西方に漸高す。村内の大部は丘陵山地に占められ、山林多し。海岸平野に耕地拓け、農業盛んなり。米・麥・蕎麥・木炭・牛・酒類・内海魚類等の産あり。海岸を通ずる國道は縣道に分岐し、村内を西走し友和村に至り、パスの便あり。省線山陽本線廿日市驛に近し。もと能島神社の社領たりしより宮内の名あり。村内に折敷敷と呼ぶ古墳あり、天文十三年毛利元就父子が周防の宮川勢を破りし處と傳ふ。

【宮内村】 愛媛縣伊豫國西宇和郡の西北山町の西南約八軒にありて、南は三重縣阿山郡に界す。西北より東南に傾長し。全村低き丘陵地をなし、中央を一細流が西北流して、沿岸に耕地拓く。農業を主生業とし米・麥・豆・蕎麥・菜種・蔬菜・茶等を産し、養蠶も行はれ其他に畜産物・副産品(養蠶・製鹽)・木産物等あり。西隣には縣道が南北に走り省線草津線の太原山に列す。川之石町に近き交通便ならず。【三島神社】 大字宮内に鎮座。郷社。祭神、大山積神・雷・公神・高靈神。舊稱、中島三島神又は保内入船明神。寶龜五年創祀し保内郷總領守たりと傳ふ。

【宮内村】 熊本縣肥後國上益城郡の西南部。甲佐町の東北に接し東南部一帯は下益城郡に界す。東・北・南は山地に圍まれ東境に甲佐山(七五三米)そびゆ。山地は東西部より中央に傾斜して南に開く狭き谷あり、南部には緑川が屈曲しつつ西流す。南岸も丘陵地をなす。農産・林産あり。河川に沿ひて主要果樹道が走り、社線熊延線の甲佐驛(西方一軒餘)へバス通す。【甲佐神社】 大字上揚石に鎮座。郷社。祭神、八井耳命・健甕能命外四柱。孝元天皇二十六年の創祀にて阿蘇四箇神社の一なりと傳ふ。例祭、十月九日。

【宮浦】 ↓知野村(新潟縣) 【宮浦村】 愛媛縣伊豫國越智郡の北方海上、瀬戸内海の大三島の中西部を占め、西は海に面す。北は鏡村、東は瀬戸崎村、南は岡山村に接し、西方約七軒の海上に大崎上島と對す。面積一三・九一方軒。鷺ヶ頭山(四三七米)の西斜面に位し、東部一帯は山地なるも地勢西方に傾斜す。海岸には廣き平野ひろげ耕地存す。附近に養蠶多し、農・漁業を營む。米・麥・果實・薪炭・酒類・雜穀等の産あり。宮浦港は木江港と相對し波船の便を有す。

ミヤウ ミヤカ

市場驛は東北二軒餘にあり。【伊勢越寺】 大字野川にあり。眞言宗泉涌寺派。鎮足山慈照院。大同元年前の草創と傳ふ。本尊木造十一面觀音・同脇侍立像二軀は國寶。【普濟寺】 大字上馬杉にあり。淨土宗。沿革不詳。藥師如來坐像(木造)一軀は國寶。【福徳寺】 大字下馬杉にあり。淨土宗。當初天台宗なりしが織田氏の時現宗に轉す。觀音堂本尊の十一面觀音立像(木造、藤原朝制作)一軀は國寶。

【宮村】 和歌山縣海南郡にありし村。昭和二年和歌山市に編入す。【宮村】 長崎縣肥前國東彼杵郡の北部。大村町の入口近くに位す。大村港に彼杵半島を抱かるる灣なるも、其の灣口に針尾島横り、其の出入口を縮減し狭小ならしめ、西彼杵半島との間の狭き海峡を伊ノ浦瀬戸、東彼杵郡との間の細長き帯水を早岐瀬戸と稱す。特に前者は干満に際し内外兩水面の落差數十尺に達する故急流を生じ壯麗なり。本村は早岐瀬戸大村灣口にあり。早岐瀬戸は長さ約一六軒、最狭部四百五米に過ぎざるも小舟之を通す。海岸線は右の瀬戸より南方久津ノ浦を経て戸尺鼻に至る間なり。戸尺鼻は村の東北なる二子山より白岳を経て南西に迂回する分水嶺の末端に當る。北西部も山地にして、其の間は低地となり農耕地帯をなす。主要街道はこの低地帯を南北に連結す。省線大村驛は街道と分れ早岐瀬戸に沿うて早岐に至り、村内に南風崎

本村の屬する大三島は、瀬戸崎・盛口・鏡・岡山と本村の五箇村より成り、瀬戸内海中島嶼の最も多く密集せる巖嶺海峡の中央に位し、島中の最高峰たる鷺ヶ頭山上の巖壁は甚だ佳し。山上には奇巖時ち松樹の翠巖また觀るべきものあり。山下には岡野大社大山祇神社の觀音たる神林あり、登時と懐古と相俟ちて一層趣致を深からしむ。【大山祇神社】 岡野大社。祭神、大山積神。延喜式内名神大社。神位、貞觀十七年正二位。伊豫國の一宮。源頼朝以下武家の崇敬社。神像(二十一軀)・殿(五十二間)・兜(十四頭)・太刀(十口)・大袖(八雙)・大前立(三種)等は國寶。本殿は永和四年の建替にて國寶、また木造扁額、額文「日本總領守大山積大明神」も國寶。例祭、四月二十二日。

【宮尾炭礦】 筑紫炭田南東部の石炭山。鎮區は福岡縣田川郡勾金村内に七萬六千餘坪を占む。昭和十年の産額は塊炭一九、〇〇六噸、粉炭二二、三七六噸、粗炭三四、七九七噸(此總價額約五二萬圓)にして、同年六月末の積欠数は七九三人、現に重要鐵山に列す。

【宮生村】 山形縣羽前國南村山郡の南部。上山町の東南に接す。奥羽山脈の西斜面に屬し、東境は海抜約七〇〇米にして、北境には葉山(六八七米)、東南境には香岡山(五九二米)聳え、西方に傾斜す。西境を宮川北流し、沿岸に耕地拓く。米・蕎麥を産し、干柿の特産あり。道路は西部を略ぼ南北に通じ、省線奥羽本線上ノ山驛へはパスの便あり。

【八幡神社】 大字宮脇に鎮座。郷社。祭神、聖田別尊。寛治年間源義家、清原家衡等を征服のため祈願せし誓跡に、その後新設修理大矢兼頼が正平十一年當社を創祀す。領主代々の崇拝厚かりき。例祭、陰曆八月十五日。

【宮ヶ瀬村】 神奈川縣相模國愛甲郡の西部。丹澤山東北方の山村にて、西北は津久井郡と隣す。丹澤山塊の一部を占め、村内に高旗山(八四六米)等の山地重疊し中津川は中央の山間を北流す。山地一帯森林多し林産あり。川沿ひに狭き耕地ありて蕎麥・甘藷を産す。厚木町より津久井郡奥瀬町に通ずる縣道は村の東北部を川沿ひに北走し、パスの便あり。養蠶はこれに沿ひて二、三あるのみなり。他は交通路なく不便なり。いま煤ヶ谷村と組合村をなし、役場を煤ヶ谷村に置く。

【宮ヶ瀬村】 神奈川縣相模國愛甲郡の西部。丹澤山東北方の山村にて、西北は津久井郡と隣す。丹澤山塊の一部を占め、村内に高旗山(八四六米)等の山地重疊し中津川は中央の山間を北流す。山地一帯森林多し林産あり。川沿ひに狭き耕地ありて蕎麥・甘藷を産す。厚木町より津久井郡奥瀬町に通ずる縣道は村の東北部を川沿ひに北走し、パスの便あり。養蠶はこれに沿ひて二、三あるのみなり。他は交通路なく不便なり。いま煤ヶ谷村と組合村をなし、役場を煤ヶ谷村に置く。

【宮ヶ瀬村】 神奈川縣相模國愛甲郡の西部。丹澤山東北方の山村にて、西北は津久井郡と隣す。丹澤山塊の一部を占め、村内に高旗山(八四六米)等の山地重疊し中津川は中央の山間を北流す。山地一帯森林多し林産あり。川沿ひに狭き耕地ありて蕎麥・甘藷を産す。厚木町より津久井郡奥瀬町に通ずる縣道は村の東北部を川沿ひに北走し、パスの便あり。養蠶はこれに沿ひて二、三あるのみなり。他は交通路なく不便なり。いま煤ヶ谷村と組合村をなし、役場を煤ヶ谷村に置く。

【宮ヶ瀬村】 神奈川縣相模國愛甲郡の西部。丹澤山東北方の山村にて、西北は津久井郡と隣す。丹澤山塊の一部を占め、村内に高旗山(八四六米)等の山地重疊し中津川は中央の山間を北流す。山地一帯森林多し林産あり。川沿ひに狭き耕地ありて蕎麥・甘藷を産す。厚木町より津久井郡奥瀬町に通ずる縣道は村の東北部を川沿ひに北走し、パスの便あり。養蠶はこれに沿ひて二、三あるのみなり。他は交通路なく不便なり。いま煤ヶ谷村と組合村をなし、役場を煤ヶ谷村に置く。

【宮ヶ瀬村】 神奈川縣相模國愛甲郡の西部。丹澤山東北方の山村にて、西北は津久井郡と隣す。丹澤山塊の一部を占め、村内に高旗山(八四六米)等の山地重疊し中津川は中央の山間を北流す。山地一帯森林多し林産あり。川沿ひに狭き耕地ありて蕎麥・甘藷を産す。厚木町より津久井郡奥瀬町に通ずる縣道は村の東北部を川沿ひに北走し、パスの便あり。養蠶はこれに沿ひて二、三あるのみなり。他は交通路なく不便なり。いま煤ヶ谷村と組合村をなし、役場を煤ヶ谷村に置く。

【宮ヶ瀬村】 神奈川縣相模國愛甲郡の西部。丹澤山東北方の山村にて、西北は津久井郡と隣す。丹澤山塊の一部を占め、村内に高旗山(八四六米)等の山地重疊し中津川は中央の山間を北流す。山地一帯森林多し林産あり。川沿ひに狭き耕地ありて蕎麥・甘藷を産す。厚木町より津久井郡奥瀬町に通ずる縣道は村の東北部を川沿ひに北走し、パスの便あり。養蠶はこれに沿ひて二、三あるのみなり。他は交通路なく不便なり。いま煤ヶ谷村と組合村をなし、役場を煤ヶ谷村に置く。

【宮ヶ瀬村】 神奈川縣相模國愛甲郡の西部。丹澤山東北方の山村にて、西北は津久井郡と隣す。丹澤山塊の一部を占め、村内に高旗山(八四六米)等の山地重疊し中津川は中央の山間を北流す。山地一帯森林多し林産あり。川沿ひに狭き耕地ありて蕎麥・甘藷を産す。厚木町より津久井郡奥瀬町に通ずる縣道は村の東北部を川沿ひに北走し、パスの便あり。養蠶はこれに沿ひて二、三あるのみなり。他は交通路なく不便なり。いま煤ヶ谷村と組合村をなし、役場を煤ヶ谷村に置く。

【宮ヶ瀬村】 神奈川縣相模國愛甲郡の西部。丹澤山東北方の山村にて、西北は津久井郡と隣す。丹澤山塊の一部を占め、村内に高旗山(八四六米)等の山地重疊し中津川は中央の山間を北流す。山地一帯森林多し林産あり。川沿ひに狭き耕地ありて蕎麥・甘藷を産す。厚木町より津久井郡奥瀬町に通ずる縣道は村の東北部を川沿ひに北走し、パスの便あり。養蠶はこれに沿ひて二、三あるのみなり。他は交通路なく不便なり。いま煤ヶ谷村と組合村をなし、役場を煤ヶ谷村に置く。

INDEX

村。土地は南北に長く約二二軒あり。東南境に八幡平(一六一四米)ありて最も高く、東境には高毛山(八七六米)をばじめ山嶺連りて西方に傾斜し、西境はその南半部には北より大開山(六五六米)・大平(二〇〇五米)・三方高(二二二二米)・三ツ又森(一一一九米)・焼山(一三六六米)等連りて東方に傾斜し、その北半部には熊澤川北流して曙村との境をなし沿岸平垣なり。東北部には五ノ宮嶽(一一一五米)聳ゆ。熊澤川は南境に發源して北流し、ついで西境をなし、東方より来る河川を合して北流し米代川となる。沿岸に水田拓く。米作を主生業とし米を産し、また木炭・蕎麥等を産す。當村内に宮川鐵山あり、硫黄山にして昭和十年より事業を開始す。道路は村の北部を西北方に通じ、花輪町へは自動車の便あり。省線花輪線小豆澤・湯瀨の兩驛(昭和六年設置)を置く。人口密度は一方軒につき三一人に過ぎず。この地は鹿角四姓の隨一なる成田氏の在邑にして、大字長峰は成田氏の一黨、長嶺下總の居りし所。村内に蒸ノ湯温泉・湯瀨温泉及び錢浪湯(高一六米・幅五米)・浦志内湯(高一五米・幅二米)・曹利湯(高二三米・幅五米)あり。【湯瀨温泉】 泉質は硫酸泉。療養向。米代川の溪谷に沿うて湧れば、途中に地蔵岩・劍ヶ岩・磨小松岩・傘松等の奇巖あり。温泉附近殊に勝れて、抱返に劣らぬ溪谷美なりといはる。泉源は五箇所に



上ノ湯・中ノ湯・下ノ湯・川原ノ湯・鹿ノ湯に分る。(蒸ノ湯温泉)泉質は食鹽泉。療養向。赤川の上流海抜一、〇九〇米、葦森山の中腹にあり、旅館の附近にあり、湯氣を噴き、泉量豊富にて蒸湯その特徴なるを以て蒸ノ湯の名あり。旅舎は小屋式にて、十棟に餘る湯小屋ありのみにて、床・畳もなく、地上に藁を敷きその上に起臥す。その下より晝夜の別なく蒸氣噴出す。冬季は積雪のため小屋を閉鎖するも、夏季は遠近より数百人の浴客参集す。

【宮川村】茨城縣宮城郡久慈郡の西北部。大字町の東北隣にして、久慈川に沿ひ、東北は福島縣東白川郡と隣す。八幡山脈中の一帯を占め、東端は約五〇〇米、西端は約二三〇米にて、東西より村内に傾斜し、中央はその都合にて久慈川南流す。山地一帯森林多く木材の産あり。川沿ひに狭き平地ありて農業行はれ米・大豆を産す。縣道は久慈川に沿ひて大字町及び東北方面福島縣に通じ自動車の便あり。省線水郡線これに沿ひ村内に下野宮驛(昭和五年設置)を置く。古くは和名抄、陸奥國白河郡依上郷の内にして、中世は依上保に屬す。(近津神社)神社。祭神、飯長津彦命・面足命・楯根命。慶應年間創立といふ。古くより福島縣の國幣中社都古別神社の下宮。朱印領三十六石餘。例祭、十一月七日。【宮川】神奈川縣橋本郡にありし村。明治四十二年、保土ヶ谷町・矢崎村と合し更に保土ヶ谷町を置き、保土ヶ谷町は昭和二年横濱市に編入せらる。

【宮川村】富山縣越中國婦負郡の東部。神通川中流左岸に沿ひ、西地をなす井田川とに挟まれたる地帯。八尾町の東北約四軒。土地平坦にして水利の便よく水田拓く。米を主産し、養蠶・製菓の副業あり。縣道は南北に走り八尾町・富山市間パス通す。省線高山線千里・蓮屋兩驛いづれへも三十四軒を隔つ。古くは和名抄、婦負郡川合郷の内にして、近世は郷名に呼ばる。

【宮川村】富山縣越中國中新川郡の北部。上市町の西北に接し、上市川の左岸に沿ふ。富山平野の東部を占め、全村土地平坦にして肥沃、水田多し。米を主産し、製菓の副業も盛なり。東部を社線富山電鐵貫通し、新宮川(大正二年設置)・大永田驛・上市日驛(共に昭和六年設置)を置く。上市町より滑川・東水橋・富山市等へ至る縣道村内を通過し交通至便なり。(神度神社)大字義尻に鎮座。郷社。大寶二年に國司佐伯有頼の創建と云ふ。式内社。例祭、三月十二日。【宮川村】長野縣信濃國諏訪郡の中部西長。上諏訪町の東南約六軒。やや東西に長く、面積二〇方軒餘。謂ゆる赤魚川・静岡地溝帯に當る。西端に守屋山(一六五〇米)聳え、山腹東南に延び杖突峠(最高點一二四七米)・金澤峠(最高點一三二五米)を経て入笠山に達し之等山嶺は東に急斜す。また東部は八ヶ岳裾野の西縁にして、極めて緩傾斜を示す。地溝帯に沿ひ宮川・六ヶ川西北流し、八ヶ岳西麓の諸水は上川に集りて村の北端に出て、六ヶ川と並行して諏訪湖に注ぐ。地溝帯以東の緩斜地に水田・桑園ひらけ、米・繭の産多し。村内に鐵道一六七萬餘坪を有する「しづか鐵道」あり、鐵道は金銀湖船着船水給電化鐵道にして昭和十年より事業を開始す。中部を省線中央本線と縣道並走し、前者の茅野驛(永明村地内)に近く、驛附近より西南境杖突峠を踰えて高遠・飯田に通ずる權兵衛街道ありパスを通じ、また八ヶ岳裾野の温泉地に到るものも本村より出づ。この地は和名抄、諏訪郡神戶郷の内。出雲神社、神家族の千野氏の起りし所。諏訪神家の族にして、平安朝の末期、千野六郎光弘なる者見ゆ。明治天皇、明治十三年、山梨・三重・京都行幸の際此地に御小休あらせらる。江戸時代、水路開鑿及び開墾に盡せし坂本市之版(増設五位)の出身地なり。(安國寺)臨濟宗妙心寺派。泰平山と號す。曆應二年(元利)直義所創の諸國安國寺の一。文明年十四年水難に覆た、後次第に復舊、堂宇漸く整備すといふ。

ミヤガワ 宮川

【宮川村】福井縣若狹國越前郡の東北部。小濱町の東方約五軒に位し、北は内外海村を経て約一軒にて日本海に出づ。四周

五米)を経て入笠山に達し之等山嶺は東に急斜す。また東部は八ヶ岳裾野の西縁にして、極めて緩傾斜を示す。地溝帯に沿ひ宮川・六ヶ川西北流し、八ヶ岳西麓の諸水は上川に集りて村の北端に出て、六ヶ川と並行して諏訪湖に注ぐ。地溝帯以東の緩斜地に水田・桑園ひらけ、米・繭の産多し。村内に鐵道一六七萬餘坪を有する「しづか鐵道」あり、鐵道は金銀湖船着船水給電化鐵道にして昭和十年より事業を開始す。中部を省線中央本線と縣道並走し、前者の茅野驛(永明村地内)に近く、驛附近より西南境杖突峠を踰えて高遠・飯田に通ずる權兵衛街道ありパスを通じ、また八ヶ岳裾野の温泉地に到るものも本村より出づ。この地は和名抄、諏訪郡神戶郷の内。出雲神社、神家族の千野氏の起りし所。諏訪神家の族にして、平安朝の末期、千野六郎光弘なる者見ゆ。明治天皇、明治十三年、山梨・三重・京都行幸の際此地に御小休あらせらる。江戸時代、水路開鑿及び開墾に盡せし坂本市之版(増設五位)の出身地なり。(安國寺)臨濟宗妙心寺派。泰平山と號す。曆應二年(元利)直義所創の諸國安國寺の一。文明年十四年水難に覆た、後次第に復舊、堂宇漸く整備すといふ。

ミヤガワチヨ 宮川町

【宮川】省線參宮線の一驛(明治二十六年設置)。三重縣度會郡小俣町にあり。【ミヤガワチヨ 宮川町】宮川町の町名。現今東山區宮川町。葦茂川の東方にそれと並行して南北に通ずる裏町、古來遊里として知らる。好色一代男、五「ひらに若衆狂ひも面白物じやと、世之介を標々勸て、雲山に誘引、藉古能過て人の歸しあはば、暮の松風、あけ鉄の音、精進腹では酒も飲れず、さあ愛が分別所、何と仕やぞ、けふはかばつて玉川伊藤其外四人取まよと、宮川町に早駕籠」長町女腹切。上「アア此の牛七の犬のらめは、帳面も持明けず、今朝から愛へ面出しせぬ、何所へうせた、ま

た戦國狂ひか宮川町か、親手か、朋輩共が知つてをろ」花路色里袂案内「宮川町の品。此所の女郎を本中となづけ、石がけ町と品ほど替り日あり、此所女色よりは男色おおくん」こん宗の開山よりゆるとして、さうくつな所をたのしみとするも尤なる哉：下宮川町、是又格替り女郎の品も少し落ちて相中となづけ直段も定日三奴と種、大方式奴より外はらわす。

ミヤキ 三養基郡 佐賀縣(肥前國)

八郡の一。佐賀縣東部の福岡縣内に突出する部分を占め、筑後川の右岸に沿ひて北・東・南の三面は福岡縣に圍まれ、東南部は川を挟みて久留米市に對す。北端には脊振山脈の東南端を占むる山脈が西南より東北に次第に高さを減じつつ連り石谷山(七五四米)・九千部山(八四八米)・權現山(六二六米)・基山(防住山、四〇五米)等聳えて那城を劃し多くの短き肢脈を東南に延ばす。其他は中央部に小丘陵もあれど地形概して平坦、略ぼ南端に沿ひて筑後川が屈曲しつつ西南流す。土地肥沃にして水利の便よく農耕に適し、米・麥・繭の産多く、また酒の産あり。山地は林産を供給す。郡内は鳥栖町・田代町の二町外九箇村を含み、人口密度三八九人にして最も多きは鳥栖町の一四〇六人を算す。鹿見島街道は東部を縱走し長崎街道が途中より分れて中央を西南に走る。省線鹿見島本線は東部を南北に通過

し中部の鳥栖驛にて省線長崎線が分岐して西南に走る。明治二十九年四月三根・養父・基肆の三郡を合併して本郡を建つ。三根・養父・基肆

ミヤキ 宮來河原 播磨國(兵庫縣)

の古地名。三代實錄陽成天皇の元慶六年十二月に賀茂郡宮來河原・備加支河原を禁獵となすと見ゆ。その地はいま加西郡九會村の内なるべし。同村の大字に上宮木・下宮木あり。

城平野は奥羽山地と北上・阿武隈兩山脈との間に從谷をなせしもの東部の陥没によりて海に開けしものなり。従つて阿武隈川・北上川の兩谷川がここに沖積地を南北より擴張し、更に奥羽山脈に發せる名取川・鳴瀬川・七北田川と共に平野を形成す。海岸線の延長六二二軒、北外は松島灣の陥没によりて變化を見する。著名なる野蒜運河と貞山堀はこの砂丘背後に築造され、海岸に沿ひて北上川と阿武隈川を連絡する舊幕府時代の重要交通路をなす。(氣候)東は太平洋に面し、西は奥羽山脈を隔てて真日本に接する關係上、氣候も亦地勢的に、多少地域的に趣を異にす。概して仙臺灣岸の地域は温暖多雨なるも、山間地域は低温多雨、内陸山麓地域はその中間的氣候を示す。冬季は日本内地一般に於けると同様、北西風卓越して、山間地域は奥羽脊山脈を越えたる降雨あるも平野地域は極めて少し。夏季は南偏風卓越して氣候は概して温暖なり。北より南下する親潮寒流著しき時は梅雨現象を現して冷涼多濕の天候を持續し、所謂東北冷害を招くことあり。田植布子に麥露稗の餌害また意あり。本縣は内地暖帯氣候より温帯に移化する地域に當り種々作物の混合地帯をなす。(産業)本縣に於ける生産總額は一五、六〇五萬圓にてそのうち農産四七・五%、水産一七・六%、工業二六・五%を主とす。農

業は本縣第一の産業にて農業人口は全人口の半数なり。農家副業生産、畜産・林産・養蠶を加ふる時は總生産額の約六〇%に達し農業縣たるを示す。耕地面積は一四六、五〇一町、田は六九%を占む。本縣の米は舊藩政時代より本石米として江戸に移出され其名あり。産額二〇一、六萬石にして縣内のみならず、關東・東北・北海道の諸地方にも移出す。麥は五〇萬石を算し、其他、穀穀として大豆・小豆・甘藷・玉蜀黍あるも馬鈴薯は近年頗る産出を増加し、仙臺馬鈴薯として其名東部に知られ年産一、二、四萬圓に達す。果實に於ては宮城郡地方の利府梨、仙南山村地方の生柿あり。蔬菜園藝作物また近年振ひ、仙臺市の供給、京濱地方への出荷のため、仙臺市近郊並に北部登米地方に行はれ、殊に結球白菜は需要激増す。養蠶業は農家の主要副業なれども、氣候寒に偏し、桑樹・蠶の育成には多少困難を感ずる地域ありて一般に不振なり。牧畜業としては牧馬を挙げ得。玉置郡川渡村には陸軍軍馬育成所あり。近年縣の飼育が盛ならんとし、殊に騎半の飼育も亦盛ならんとするは注目すべく、頭數四、五〇〇頭に達す。本縣東部一帯は外洋に面し、海岸線延長六二二軒、沿海の町村四三を算す。金華山沖は寒流親潮と暖流黒潮の合流地點にして好漁場をなし豊富なる魚獲を見る。水産額は農・工業に次ぎ年二、七四八萬圓に達す。殊に捕鯨は



全国に冠たり。結川港に於ける昭和十一年水揚げ額八三〇に達す。従来本縣漁業は殆ど沿岸漁業に限られしが近年遠洋漁業と兼業が著しく發達せり。漁港として豊前・石巻・氣仙沼・女川等あり、全國各地の漁船出入し主として京濱地域の供給をなす。水産人口は全人口の四〇%なり。漁船は八、八四六隻、内、遠洋漁船五八三隻。沿岸漁獲物は鰯を最高とし、鱈・鮭・鱈にして、遠洋漁獲物は鰯・鮭・鰯なり。鰯は半数は鹽漬に製造せられ、半数は生魚のまま東京に出荷す。鮭は生魚にて移出され罐詰の材料となり、鮫は竹輪・蒲鉾の原料として再製さる。近時遠洋漁業の發展目覚しく、乗組員一〇、一〇七人(昭和十一年)なり。水産委員は、牡蠣と海苔にて、風波靜穏淺なる松島灣・萬石浦・氣仙沼に行ける。工業は一般に未だ家内工業の域を脱せず。織物及び綿糸・酒類・木製品を産す。(交通)古米、仙臺市を中心として、奥州文化の中核をなし來りしため、土木・交通等の施設見るべきものあり。北上川の切替工事には政宗の時川村孫兵衛の手にかかり、品井沼干拓は元禄年中に、東名・貞山・野蒜の各運河は幕政時代に行はれ、北上川・阿武隈川の連絡並に城下町への連絡上重要な貨物輸送路なり。當時北上川口の石巻は奥州第一の海港なり。石巻は鹽港と共に仙臺の外港として榮えしが汽船の建造・鐵道開通の結果衰微

し、漁港として甘するに由なかりき。萩濱・結川が石巻に代り、汽船の寄港、鹽港並に漁港として登場せり。鐵道には東北本線・常磐線・小牛田より分岐して山形縣に向ふ陸羽東線、石巻線、一關・氣仙沼を通ずる大船渡線、鹽釜線、仙臺山形を連絡する仙山線の省線等縣下各地のバスと共に交通至便となれり。(人口)本縣は仙臺・石巻の二市と一六郡、三八町、一六二村、人口一、二三四、八〇一(昭和十年)、人口密度一七〇人なり。縣の中心都市をなすは仙臺市なり。伊達政宗の舊城下として發達し、奥羽文化の淵源となり、現に東北大初め各種専門學校・控訴院等ありて依然として東北日本の中心をなす。城址青葉山は前に廣瀬川を控へ、現に舊蹟を存し、二ノ丸の大手門及び隅櫓は桃山時代の建築にて國寶たり。城址には第二團司令部あり。市の附近は名所舊蹟に富む。市の外港をなすものは鹽港なり。仙臺市より電車通じ、今は金華山沖漁獲物の水揚げ場となり、松島遊覽船の發着地たり。松島の風光は故に評述するまでもなし、青葉山と同様の山地が斷層と沈降と侵蝕によりて生ぜるものなり。本縣の西部には那須火山帯ありて到るところに温泉湧出。仙臺市の西方に秋保温泉ありて飯坂(福島市の西北)、鳴子と並稱し、奥州三名湯といはれ、市より電車にて一六軒、名取川の淡谷にあり。雄先温泉(白石町の西方約八

軒、バスあり)・小原温泉(白石町の西南約一〇軒、バスあり)・遠刈田温泉・青根温泉・鳴子温泉・作並温泉・川渡温泉・鳴子温泉(鳴子驛の所在地)・鬼首間温泉(鳴子温泉の西北一三軒、バスあり)等あり、四時浴客に便す。更に冬季に於けるスキー場として蔵王・鳴子・作並スキー場が最近知られ、温泉と好スロープによりて若開せらるるに至る。斯くて本縣は仙臺・松島を中心として遊覽地帯をなし、温泉・スキー場開けて京濱地方の保養地帯として活氣を呈し來れり。(沿革)明治四年十一月仙臺藩を廢して縣とせる仙臺縣、白石縣を角田に移して改稱せる角田縣、石巻縣を改稱せし登米縣を何れも廢して新に仙臺に置きし仙臺縣に始り、陳前國の九郡と勢城國の四郡とを管す。翌五年正月宮城縣と改稱。明治九年四月青野井縣所管の陸前國の五郡と併せて管す、翌五年陸前氣仙郡を岩手縣の管下に移し大體今日の境域となる。

【宮城郡】宮城縣十六郡の一。陸前國の中南部。東は仙臺灣に面し、北は志田郡・黒川郡・加美郡、西は山形縣、南は名取郡・仙臺市に隣接す。面積六二四・一九方軒。奥羽山脈の東斜面に屬し、西北端に船形山(一五〇〇米)・楠峰(一一二一米)・白雲山(一一〇八米)・寒風山(一一七米)・北城山(三三三米)・(四一八米)・北泉嶽(一一五三米)等々東南方に傾斜し、七北田川は北城に發源して北部を東南に流れ、仙臺灣に注ぐ。大倉川は西北城に發源して東西に流れ、廣瀬川となりて郡の南部を東流す。郡の東南部は仙臺平野にして土地平坦なり。仙臺平野の東北部は七北田丘陵にして松島灣を抱き、侵入、島嶼多くして、南部の平坦なる海岸と對照をなす。仙臺平野及び河川の沿岸には米・麥・白菜等を産し、米は仙臺米と稱し、他に移出せらるる額少からず。白菜は仙臺市附近に産し、近年その産額の増加を見るに至り、その四割は東京へ出荷せらる。西部山地には木炭及び馬を産し、東部海岸には漁業行はる。鹽竈町には鮮魚の外海苔・蒲鉾・鮓・鮓等の産多し。陸羽街道は東部を南北に通じ、作並街道は仙臺市より西方に分岐し、郡の南部を西北に向ひ山形縣を越えて山形縣に入る。また仙臺市より東北に向ひ石巻市に至るものあり。郡の東部に省線東北本線通じ、北より品井沼・松島・利府・岩切等の驛あり。仙臺市より東北に社縣宮城電氣鐵道、北方に社縣仙臺鐵道通す。東北本線岩切驛より北は東北方に省線鹽釜線分岐す。續紀天平神護二年の條に郡名見ゆ。本郡の多賀郡は蝦夷征伐の最初の根據地たる多賀城のありし所。和名抄は美也岐と注し、赤瀬・勢城・科上・丸子・大村・白川・宮城・多賀・栢屋の九郡、餘戸一を擧ぐ。今日の仙臺市は本郡及び名取郡の中より出づ。

【宮城野】宮城縣にある原野。いま宮城

野または宮城野原と稱するは仙臺市の東部市外練兵場附近を指すが、古は荒蕪たる原野にて、また國分原といへり。秋の七草等の草花が生ひ繁り中に萩の名高く、鶴・雲雀等多く落の鶯囀地たりしといふ。古今二〇「みさぶらひ御笠と申せ宮城野の木の下露は雨にまされり」源義經將基親・三「廿八歳宮城野の萩の露とぞきへける……うつたる首と我子の死骸火葬と觀する火爐のやぐら、城にこもつて討死せん、いざや花石いそふれとて、荷ひて分くる宮城野や、露も心も打みだれ、せきくる涙しのぶの前、いさめる足もよろ／＼」

【宮城】陸奥國(宮城縣陸前國)の古地名。和名抄に宮城郡宮城郷あり、その地は今の仙臺市に當る。大江氏の族と稱する宮城氏の居りし所。

【宮城電氣鐵道】私設鐵道。宮城縣にあり。東北本線仙臺驛(仙臺市)より分岐し宮電石巻驛にては省線石巻線に接続す。省線と連帶運輸をなし、動力は電氣、軌間は一・〇六七米とす。

【宮城】出羽國(山形縣羽前國)の古地名。和名抄に置賜郡宮城郷あり、その地は今の南置賜郡窪田村の邊に當る。

【宮城村】福島縣磐城國田村郡の西部。郡山市の東南約七軒。阿武隈山地の西斜面に屬し、東部に國見山(四七二米)、東南城に鶴石山(四五九米)等々西方に傾斜

す。大瀧川は北方より來り、西北部を西流し高瀬川に入りて阿武隈川に合す。米・藁・粟・麥・馬等を産す。道は村の東南より西に通じ、西方郡山市、東方御前村へはバスの便あり。大字赤沼に沼あり、赤沼と呼ぶ。その沼に傳説あり、古今著聞集に評なり。それによれば昔、田村郷の人、馬尤なるもの驚駭をして獲物なく歸る途中、赤沼にて驚駭の堆を射て歸る、夢に女の泣き濡れて「日暮るればさそひしものをあかぬまのまこもがくれの獨寝ぞ愛き」と歌を讀みて去る。日ならずして驚駭の女鳥の死せるあり、これを見し馬尤は發心して出家せりと。文化十二年、藩主秋田勤解出は、この沼の傍に石碑を建つ。

【宮城村】群馬縣上野國勢多郡の中部。赤城山の南斜面を占め、大胡町の北隣にあり。北城に荒山(五七二米)・鍋割山(一三三三米)あり。村の中部までは比較的急傾斜なるも中部以南は次第に緩傾斜となり、南城附近は山裾となる。山地一帯は森林多く、中部以南には畑地あり。また南流する粕川・廣瀬川の流域は田地をなす。農業行はれて米・麥を産し、桑園ありて養蠶も行はる。縣道は大胡町に通じ、バスの便あり。またこれに續く村道ありて赤城山頂に通ず。養蠶は縣道に沿ひ、主として南部の山裾に發達す。この地、古くは和名抄、勢多郡深澤郷の内なるべし。(赤城神社)大字三夜潭に鎮

座。縣社。祭神、大穴牟遲命・豊城入彦命。舊稱、三夜潭赤城明神。式内名神大社。上野國の二ノ宮。分社多し。例祭、五月五日。

【宮城野村】大分縣豊後國直入郡の西部。大野川の上流を占め、竹田町の西方三軒餘。西隣は熊本縣阿蘇郡に界す。阿蘇山の東麓の地にして東方に緩く傾斜をなす。北部には大野川が東流し、南部にはその支流の玉來川が東流して玉來川の北岸に稍急斜す。大野川沿岸と東南部に稍低地あり。藁・麥・米及び林産・畜産あり。主要道路は北部を東西に走り竹田町へバスを通ず。古くは和名抄、直入郡三宅郷の内とす。

【宮城野村】神奈川縣相模國足柄下郡の西部。富士箱根國立公園の内に於て、箱根火山中の一部を占め早川に沿ふ。南半は中央火口丘たる神山の東斜面をなし、北半は外輪山たる明神ヶ嶽・明風ヶ嶽の山裾にして、兩山地の間を早川東南に流る。村内に木質・強羅の温泉ありて純然たる温泉地帯をなす。また西部には元箱根村に跨り大湖谷の硫氣孔ありて名高し。※大湖谷 早川に沿ふ一帯の地は風光佳良なり。小田原町より來る縣道は、川沿ひに西北に走り、富士箱根自動車會社のバスを通ず。社線箱根登山鐵道は小田原町より來り、村内に公園下・公園上・中強羅・早雲山・早雲館・二ノ平・強羅驛を置き、強羅驛より早雲

山へカーブカーを通す。天正十八年、豊臣秀吉、北條氏を征伐の時、此にて北條氏の兵の首級八十餘を打ち取りしと。(強羅温泉)早雲山の東麓。湯は大湖谷及び早雲地獄より引けるもの。海抜約六〇〇米の高所に位し早川の懸谷を見下して眺望よろし。泉質は酸性強硫酸。強羅公園あり、附近は箱根第一の別荘地。※強羅(木質温泉)箱根温泉群の一。早川の懸谷、海抜約三二五米の地點に湧出する鹽泉。佛國の將軍アモン氏が明治初年に我國陸軍の教官として來朝せし頃、特にこの地の風好を好み、先年、明治大帝崩御の時、國使として來朝しこの地に再遊せしが、會遊を追懐し低額額せりと云ふ。土地の有志謀りてその記念碑を建つ。

【ミヤクチ 宮口】愛知縣西加茂郡にありし村。明治三十九年他の一町三箇村と共に廢し翠母町を置く。

【ミヤクボ 宮窪村】愛媛縣伊豫國越智郡の東北海上。今治市の東北約五軒の瀬戸内海上に横はる大島の東北部を占め、東北・東南に海に面す。北に鶴島を挟みて伯方島に對し、西は大山村、南は津倉村に接す。面積一四・八四方軒。念佛山(三八二米)は西端に聳え、南部また東西に連る山地存するも、兩山地の中央に平地存し海岸に向ひて開く。宮窪・友浦・大崎等の海岸集落あり。北部に宮窪驛轉入し、宮窪の良港を抱く。米・麥・



果實・鯛・鱈・鮭・酒類等の産あり。伯方島・今治市に渡船の便あり。村内に能島城址あり。中世河野氏の將村上氏の據る所。村上氏の能島氏を稱し水軍を以て名あり。毛利元就嚴島攻めの際に應じ兵を出す。慶長五年毛利氏討封のとき黒旗周防の屋代島(大島)に移り三田尻の船廠を管理すといふ。(尾形八幡大神社)大字宮座に鎮座。御社。祭神。品陀和氣命・帶日子命・息長帶日賣命。貞觀元年の創祀と傳ふ。河野通有・同通純深く崇敬せり。例祭。九月二十一日。

ミヤケ 三宅

【三宅】常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に鹿島郡三宅郷あり、その地今の鹿島郡鹿島村の邊に當る。  
【三宅】下總國(千葉縣)の古地名。和名抄に印旛郡三宅郷あり、その地今詳かならざるも、印旛郡水沼村の邊に當る。  
【三宅】下總國(千葉縣)の古地名。和名抄に海上郡三宅郷あり、その地今の鏡子市の一部(即ち青海上郡海上村)の邊に當る。  
【三宅】上總國(千葉縣)の古地名。和名抄に天羽郡三宅郷あり、その地今詳かならざるも、君津郡環村の邊に當る。  
【三宅】相模國(神奈川縣)の古地名。和名抄に大住郡三宅郷あり、その地今の中郡内ならんも詳かならず。  
【三宅村】福井縣若狭國越前郡の東部。

北川の左岸を占め、小濱町の東南南方約七軒。南境の中央に六八二米の山峯聳えて南部一帯は山地をなし、北境には北川が西西北流して沿岸低地開く。米・麥・蕎麥・林産あり。縣道及び省線小濱線は北部を東西に走り三宅郷(大正七年設置)あり、また自動車線の往來あり。村内に上船渠及び下船渠あり、夙より文化の開けたる處なるべし。中世庄名と呼ばれ三宅庄と稱す。大字日笠は教養路と近江路の岐分交會に當り、やや宿場の形状をなす。村内に権現瀧あり、高さ一五米、幅三米とす。(上船渠古墳)指定史蹟。日笠山の麓にあり、前方後圓型の古墳にて封土は略三段に築かれ西に面す。長さ約四十二間、後圓部徑約十六間、高さ約三十尺、前方部徑約二十四間、高さ後圓部に等しく封土上は今雜林となれるも、正碁石を存し、墳輪圓筒破片を發見す。また西部及び北部に環状地と認めべき雜林あり。從來若狭國造の墳墓として此地方著名の古墳なり。(下船渠古墳)指定史蹟。上船渠古墳の北にあり、前方後圓型の古墳にして封土は三段に築かれ西に面す。長さ約四十四間、後圓部徑約二十二間、高さ約二十八尺、前方部徑約十八間、高さ約二十六尺あり。環状地は水田及び畑地となりて存し、附近に墳輪圓筒破片を發見す。上船渠同様の傳説ありて此地方著名の古墳なり。

【三宅】遠江國(静岡縣)の古地名。和名抄に龜玉郡三宅郷あり、美也介と調す。その地今の引佐郡龜玉村の邊に當る。  
【三宅】愛知縣中島郡にありし村。明治卅九年他の五箇村と共に廢し千代田村を置く。和名抄の中島郡三宅郷に當る。  
【三宅】尾張國(愛知縣)の古地名。和名抄に海部郡三宅郷あり、その地今詳かならざるも海部郡津島町の邊に當る。  
【三宅】伊勢國(三重縣)の古地名。和名抄に多氣郡三宅郷あり、美也介と調す。その地今の多氣郡佐奈村の邊に當る。  
【三宅】河内國(大阪府)の古地名。和名抄に交野郡三宅郷あり、その地今の北河内郡交野村・弊船村・星田村の邊に當る。  
【三宅】河内國(大阪府)の古地名。和名抄に中河内郡三宅郷あり、その地今の中河内郡南高安村の邊に當る。  
【三宅村】大阪府河内國中河内郡の西南部。大和川の南岸に位し大阪市住吉區の南方一軒餘にあり。全村地形低平にして東南部に灌溉用湖沼あり。大和川はほぼ北境に接して西流す。米・麥等多く水産・工業等あり。大阪市と四方の堺市へバスを通す。古くは三宅郷に作り、和名抄に丹比郡三宅郷と見ゆ。  
【三宅村】大阪府攝津國三島郡の南部。大阪市の東北隅より一軒餘東北にあり。全村地形低平にして神崎川支流の茨木川が南境を掠めて西流す。南部には北方より來りて南下する一河川ありてこれに合す。米を主とする農産と工業・畜産あり。

ミヤケジマ 三宅島

伊豆七島の一島。神津島と御藏島の間の若き火山島。雄山(八二五米)を最高として周圍に緩やかなる裾野を曳き、島の形もほぼ圓形、南北七軒、東西六軒、五〇米以下の海崖にて海に迫る。火口原なる八丁ノ平にはヤシヤアソ等の矮樹が成長して放牧地を提供し、山腹の輻射谷は淺くてシヒ・イヌクス・ユヅリハ・ヒサカキ等の暖帯常綠樹が最も繁茂し、樹間にはオホネノリ等々の熱帯性羊歯が著生す。島は噴火を幾度か繰返し、明治七年に噴出せし熔岩流は神津村の大部分を被覆したるほどにて、耕地は火山灰地にて瘠薄なるを免れず、飲料水も天水によるほどにて田は全くなく、麥・甘藷・里芋等を主要作物とし、椿油・黄樟材が移出され、漁業は餘り重要ならず。行政上は東京府に屬して大島支廳に管轄され、神津・伊豆・伊々谷・阿古・坪田の五箇村に分れ、各村相互の連絡は不便にて、風習も自ら異なるものを保有す。江戸時代には八丈島と同じく御人渡調の地たり。豊家英一艦の地に至り、また竹内式部も八丈島に流調の途にてこの島に渡したり。

ミヤケジマアコ 三宅島阿古村

東京府伊豆國大島支廳三宅島の西南部。中央部に聳ゆる雄山(八一四米)の西南の中腹より海岸に互る地域を占め緩く西南方へ裾野を引きて海に迫る。南部に古池あり。海岸は屈曲に富みて南部に新鼻・

ミヤケジマイガヤ 三宅島伊ヶ谷村

東京府伊豆國大島支廳三宅島の西部。中央に聳ゆる雄山(八一四米)の西部中腹より西岸に互る地域を占め西方へ緩く傾斜面をなす。海岸は僅に屈曲し西北岸に北隣の伊豆村とに跨りて大船戸灣あり。西南岸には温泉湧出す。氣候温暖、地味肥沃にして熱帯植物叢生し米・麥、其他の農産物多し。海岸は水産豊かなり。大島へ便船あり。

ミヤケジマイズ 三宅島伊豆村

東京府伊豆國大島支廳三宅島の西北部。中央に聳ゆるコニテ式火山の雄山(八一四米)の西北部中腹より海岸に互る地域を占むるため東南部は稍急傾斜にして北部と西北部は緩傾斜の裾野をなす。海岸は稍西北方へ廣く突出し、西部に伊豆崎ありて附近燈臺の設備あり、海

ミヤケジマツボタ 三宅島坪田村

東京府伊豆國大島支廳三宅島の東南部。島の中央に聳ゆる雄山(八一四米)の東南斜面を占め東及び南に臨む。西北部はコニテ式火山雄山の中腹にて稍急傾斜し、山麓に下るに従ひ次第に緩やかに裾野を引く。南部に大池あり。海岸は低地乏しく殊に南岸は斷崖が連りタル根崎・横根等あり。東岸にも所々に斷崖を見、ベンケイ根・クワマ根・サマドノ根等あり、東北岸には赤場灣の備地を有す。地味肥沃に氣候また温暖なる

岸所々に斷崖あれども東北岸に大久保部落の鎮地あり。地味肥沃、氣候温暖なるため米・麥・甘藷・甘藷、其他の農産物及び植物の生育よく熱帯植物もあり。椿油を特産とす。附近海上に便船あり。  
【三宅】筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に那珂郡三宅郷あり、その地昭和八年



ミヤコ

開係上農産物・植物の生育よく熱帯植物もあり、梅油等も産す。海岸を里道が通じ隣村と連絡す。近海便船あり。

ミヤコ

千葉縣千葉郡にありし村。昭和十二年千葉市に編入せらる。

【郡村】 奈良縣大和國磯城郡の西部。奈良盆地の中央西偏に位し、田原本町の西に接す。平坦肥沃なる耕地全村に亘り、西隅を掠めて飛鳥川が北流す。米・麥・藁等多量の農産物を出す。縣道が中央を通過し田原本町及び西方の北葛城郡雲尾町へバスを通ず、社線大和鐵道が中央を西北より東南に走りて黒田驛(大正七年設置)あり、また東部には社線大阪電氣軌道奈良線が南北に通ず。大字黒田と大字宮古との間に都森と呼ぶ處あり、これ孝安天皇の皇居鹿戸宮の址にて、天皇、孝安天皇の百二十二年二月此に都を遷す。聖元元年正月、ここに即位せられてより、七十六年二月崩御せらるるまでの皇居とす。記・中「大倭根子日子賦乎魂坐坐黑田鹿戸宮一治」天下「孝安紀」冬十二月癸亥丙寅皇太子遷都於黑田一是謂鹿戸宮也(鏡作坐天照御魂神社) 神社。祭神、天照國照日子火明命・石凝姥命・天兒屋根命。鏡作連の祖神を祀る。式内大社。新年・月次・新嘗の案上官幣に預る。神封は大同年十八戸なり。神位、貞觀元年從五位上を授けらる。例祭、十月二十五日。

ミヤコ

京都郡 福岡縣十九郡の一。豊前國の東部。今川流域に跨り行橋平野を含みて周防灘に臨み、南は細長く延びて南端は大分縣下毛郡に界す。南部は西南方に聳ゆる英彦山(二〇〇米)より延ぶる山脚が北方へ連りて東西の兩端を限り、秋川が南隅に發して中央の橋合谷を北流す。北半は西境及び北境に山脈が走り、西境中央の欽嶽(五七三米)より東方へ小丘陵が延ぶ。その南に南方より來る英彦山脚が丘陵となりて中部にて東方へ連る。其他西部と北部には處々に丘陵起伏す。今川は中央を貫き東北流し小川に注ぐ。西北部に發する小波瀬川は東南流し方向を轉じて東北に向ひ今川の北にて河灣に入る。河口には英彦島の孤島あり。東部には東北流する秋川あり。各河川の流域は廣闊なる平野をなし、秋川・今川・小波瀬川の各下流の潤す郡の東北部は行橋平野にて概ね地形低平なり。海岸は砂灘多し、東北海上に神ノ島・八鹿島等浮ぶ。東北部平野と河原地は田畑よく發達して米・麥・藁を産す。豆類・鵜郡・酒等も産し、山地は林業盛なり。海岸は水産物を出す。郡内に行橋町・菊田町の二町外十九箇村を含み、人口密度は二四六人に於て行橋町は最も多く、一八三二人を算し、最も少きは伊良原村の四六人なり。交通よく發達し、東北部に日向街道が縱貫し、行橋町にて之より分れ北部を西南に貫き田川郡の香春町に至

ミヤコ

る縣道あり、中部には之より分れて東北に、筑上郡に入りて日向街道に連絡する縣道あり。省線日豊本線は東北部を南北に貫き、省線田川線はその行橋驛より分岐して今川に沿ひて中部を西南に貫く。北部は要塞地帯の一部に屬す。名稱は堂行天皇御西狩の時長狭縣に至り行宮を造り給ひしに因み其處を京といふ。後に京都に作る。續紀天平十二年の條に郡名見ゆ。和名抄は美夜古と訓じ諫山・本山・刈田・高來の四郷を置く。明治廿九年四月仲津郡を合せ今日に至る。

ミヤコ

宮古 岩手縣東南部の磐入。河口を東北に開き、東南の閉伊崎と、西北の姉ヶ崎との間より西南に深く侵入す。河口約四軒、磐入約一〇軒。閉伊川中央西岸より注ぎ、その河口に良港宮古港あるも、他は概ね平直にして良港に乏し。

【宮古町】 岩手縣陸中郡下閉伊郡の東部。郡の主邑にして、東は宮古河に臨み、良港宮古港を控ふ。その他は北上山脈の本梢山地を以て圍まれたる盆地状の地域なり。平地は第四紀沖積層にして地質新し。北西山地は花崗岩層なれど可なり。磐梯山。白木山・浮土ヶ濱方面は大部分石灰岩層より成り、白色砂岩にして板状節理をなす。この外に鐵ヶ崎西崖湖候所より北方、湖の濱・日出島沿岸にかけ斷續的に中生層白堊紀の礫層層見られ、化石の出づる所あり。港は宮古河を隔て

對岸に閉伊崎の突出あり、北には館ヶ崎の突出ありて風波を避け、太平洋岸に於ける良港をなす。近海は所謂三陸漁場に於て、寒暖二流交流するため魚介介藻類頗る豊富、従つて本町の産業は水産業を主とし本町經濟の根幹をなし、林業工業之に次ぎ農業は極めて微々たり。水産物の主なるもの鱈・鯉・柔魚・鰯・鮭・鰺・海鰻類及び同加工品の水産物多し。背部に廣大なる山地を有すれば木炭・枕木・桐材等木材製品は總て富町を集散地とし、松・杉・樹の製材、造船の建造業等盛なり。また下閉伊郡内貨物集散の中心都邑として商業も盛なるも近年の凶作不漁による農山漁村の窮乏は當町の經濟上にも多大の打撃を受けた。町は宮古街道の終點にして西方盛岡市へはバスの便あり。省線山田線宮古驛(昭和九年設置)を置く。三陸汽船會社の定期船あり、水陸の交通に恵まる。人口は稠密にして密度は一方軒につき三、二一人。町の東端に浮土ヶ濱の小磐入あり、現世の浮土を思はしむるほどの風景を有し沿岸一帯の勝地として知らる。もと郡役所を置き、いま下閉伊支廳・警察署・調候所・警察署・區裁判所・警察署・水産學校・高等女學校等あり。町名の基因及び古の事蹟は詳かならざれど建久年間閉伊親其孫命により閉伊を領してより一大部落となり南部氏の治下慶長十六年に三閉伊郡代宮古村に置く、同十九年大海嘯のため殆ど全滅

氏或は北條氏の治下に歸し慶長六年既橋城主の領地となる。(倭文神社) 大字東上ノ宮に鎮座。神社。祭神天羽彥彥命。式内社。例祭四月十六日。機織始の神事ありて賑ふ。(連取の笠松) 大字連取の菅原神社の社頭あり。幹は甚だ矮短にして青苔に覆はれ高さ僅に丈餘、枝は數龍の鱗約如く南北に及ぶ。東西二十間、其の面積約二百坪に上り。形狀宛も青龍を象るが如く世人之を呼びて笠松と謂ひ又天神松と稱す。享保年間栽植せるものなりと。此の老松を詩文和歌を以て讚するもの多し。

黒田のみ僅かに残る。聖元和元年藩主利直親しく巡回町割をなしてより漸次に都會化す。明治維新の改革にて領内朝廷の直轄地となり松代藩の支配を受け、明治二年江刺縣に歸屬するに及びて、黒田村と宮古村合併し宮古村と稱す。同四年盛岡縣の管轄となり(聖五年岩手縣と改稱)、同十二年住民三等開墾伊川埋立工事となし十五年完成、市街一新さる。同二十二年市町村制實施により宮古町と稱す。大正十三年町制改訂時町と合併し現在の宮古町となる。(横山八幡宮) 神社。祭神品牟陀和氣命・天照大神。例祭九月十五日。當日神輿大船に載せ各船争うて曳き甚だ壯觀なりと云ふ。「浮土ヶ濱」宮古河内景勝の地にして、石夾粗面岩より成り、白色の奇岩峭立して小半島をなし、海蝕と板狀節理の交錯せる所に青松茂り海水澄みて波程かに風光頗る明麗なり。

【御臺場】 文政八年六月英艦打擲の幕命により白木山の東側裾ヶ崎に砲臺場を築造せり。昭和十一年十月廿六日長くも終父宮・同妃殿下ここに御休憩あらせられ、四邊の美景を御觀賞あらせ給へり。【官軍墓所】 舊館夏保村にあり、明治二年三月廿五日宮古海戦にて名譽の戦死を遂げし官軍の士四名の墓にて、對面に於ける宮古海戦蹟碑と共に當町の海戦を永遠に傳ふるものなり。【宮古郡】 神尾縣琉球國五郡の一。先島諸島(群島)の東部なる宮古諸島の地にし

て、平良町・下地・城邊(以上宮古島)・伊良部・多良間の四村に分かる。面積二五〇方軒。諸島いづれも隆起珊瑚礁より成り、最高處は宮古島中央部の野原岳にて約百米に過ぎず、一般に低平にして耕地は全面積の五三%に達するも、灌漑水に乏しく田地はその四分の一にも達せず。甘蔗・甘蔗を主とし、麥・大豆・米等の農産あり。沿海は鰯・鰯・鮪の漁業行はれ、宮古島には海綿を採集す。平良町には宮古支廳を以て區裁判所・稅務署・專賣支店等を置かれ、その前面の張水港は先島・臺灣航路に當り毎週一回那覇・基隆への定期汽船の發着あり。那覇を距る一六三哩、基隆へは約一七〇哩。明治二十九年四月、宮古諸島の平良間切・砂川間切・下地間切及び多良間島を以て本郡を建つ。

【宮古諸島(群島)】 琉球羣島列島の南西部にして、神尾諸島と八重山諸島の中間に位し、宮古島(宮古本島)を主島とし、その西方四軒の伊良部島、これに近き下地島・宮古島の西南岸に近き來間島、北西端に近き地間島、その東の大神島、更に南西方に浮ぶ多良間島・木納島の八島を含む、全面積二五〇方軒餘。いづれも隆起珊瑚礁にして概ね平坦なるも水利不便にして飲料水は多くは天水或は宮古島に於ける穴川の如くドレームの底部に集溜する水を汲上げて使用す。耕地比較的に多く甘蔗・甘蔗・米・麥・豆等の農産あり、沿岸漁業行はる。いま行政上宮古郡に屬す。

【宮古島】 神尾縣西南部の宮古諸島の主島。底邊は東北に向けたる截頭三角形をなし、その東南端を東平安名岬、西北角を西平安名岬といふ。面積約一七〇方軒。隆起珊瑚礁の地に於て概ね平坦、中央部の野原岳も海抜百米に達せず。殆ど石灰岩より成るも西南端には沖積地あり。西岸は南部に與那覇郡、中部に張水港、北部に大浦灣等あるもいづれも珊瑚礁ありて良港地をなさず。島内には耕地比較的多きも用水に乏しく米作に過ぎず。甘蔗・甘蔗等を主農産とす。いま西北部は平良町、南西部は下地村、南東部は城邊村となり、宮古郡に屬す。

【宮古郡】 群馬縣上野國佐波郡の中部。伊勢町の西隣にて、北は勢多郡と隣す。關東平野西北隅の一部を占め、利根川は南境をかすめて東南に流れ村内にもその支流東南に流る。川沿ひには水田多く、他は畑地をなし、農業行はれて米・麥を産し、一部には桑園ありて養蠶も行はる。二條の縣道は伊勢崎町に通じバスの便あり。また西北に走りて前橋市に通ず。古くは和名抄、那波郡委文郡の内とす。大江廣元の義子政廣那波ノ庄を賜はり、子孫相繼いで此地を領す。政廣八世の孫宗俊は今村城(大字今村)にあり、居せし上杉氏に破られ、のち一且新田氏の領地となる。のち長尾

【宮古島】 琉球羣島列島の南西部にして、神尾諸島と八重山諸島の中間に位し、宮古島(宮古本島)を主島とし、その西方四軒の伊良部島、これに近き下地島・宮古島の西南岸に近き來間島、北西端に近き地間島、その東の大神島、更に南西方に浮ぶ多良間島・木納島の八島を含む、全面積二五〇方軒餘。いづれも隆起珊瑚礁にして概ね平坦なるも水利不便にして飲料水は多くは天水或は宮古島に於ける穴川の如くドレームの底部に集溜する水を汲上げて使用す。耕地比較的に多く甘蔗・甘蔗・米・麥・豆等の農産あり、沿岸漁業行はる。いま行政上宮古郡に屬す。

【宮古島】 琉球羣島列島の南西部にして、神尾諸島と八重山諸島の中間に位し、宮古島(宮古本島)を主島とし、その西方四軒の伊良部島、これに近き下地島・宮古島の西南岸に近き來間島、北西端に近き地間島、その東の大神島、更に南西方に浮ぶ多良間島・木納島の八島を含む、全面積二五〇方軒餘。いづれも隆起珊瑚礁にして概ね平坦なるも水利不便にして飲料水は多くは天水或は宮古島に於ける穴川の如くドレームの底部に集溜する水を汲上げて使用す。耕地比較的に多く甘蔗・甘蔗・米・麥・豆等の農産あり、沿岸漁業行はる。いま行政上宮古郡に屬す。

ミヤコ



に傾座。都社、祭神。豊田別命・大己貴命。平城天皇の御宇京都の人來り山城國より日吉社を移して祀れりと傳ふ。

ミヤコジ 都路村

國田村の東北隅。常葉町の東方約一里。北・東・南の三境は雙葉郡に接す。面積一・二五〇一方軒。阿武隈山地の主副分水嶺の間に位し、西境には北より鎌倉岳(九六七米)・鳴子山(七六五米)・楡山(九九三米)聳え東方に傾斜し、東境には三郎森(六九五米)をはじめ約七百里の山地連りて西方に傾斜す。中央部は盆地状をなし、古道川は西北部に發源し、村の中部に於て西方・南方・東南方より支流を合し東北方に流れ高瀬川となる。米・藁・木炭を産す。道路は西北より東南に通じ西方省縣警署東線船引驛へはバスの便あり。人口密度は一方軒につき三三人なり。

ミヤコジマ 都島

大阪府東成郡にありし村。明治三十年大阪府北區に編入す。

ミヤコタ 京田

遠江國(静岡縣)の古地名。和名抄に引佐郡京田郷あり、その地今の引佐郡都田村の邊に當る。

ミヤコタ 都田村

静岡縣遠江國引佐郡の東部。北部は四百米以下の山地にして開折谷よく進み壯年期に達し、濶澤附近に二百米以下の開折侵蝕面發達す。南部は三方原臺地の北縁にして幼年期の廣坦なる臺地あり。中央部を都田川が貫

流し、下流域に水田よく發達す。その中央、大字大平の南は舊河床にして、西南一〇一米の高地は貫通丘陵たり。藁草・蜜柑・西瓜等を産す。社稷濱松鐵道は村の西南に通じ、觀田驛(大正三年設置)あり、隣村三方原村に都田驛(大正三年設置)を置く。古くは和名抄、引佐郡吉田郷の内とす。(須倍神社) 郷社。祭神、天手力男命・天照大神外四柱。式内社。舊稱、神明宮。例祭、十月十七日。

ミヤコノ 都野村

大分縣豊後國直入郡の北部。久住町の東北に接し西北部は玖珠郡に界し、西北より東南に長き略々長方形をなす。全村土地高く、西北部は地形高峻にして九重山(一七六四米)・三俣山(一七四五米)・平治山(一六四三米)・黒嶽・大船山(一七八七米)等の高峰聳立し、東南部は丘陵性にて波狀の起伏を呈す。大分川支流の芥川が西に發して中央を東流し沿岸に耕地を見る。河岸耕地に米・麥・藁を産するも東南部は荒地・原野廣し。また九重嶽山あり、硫黄を産す。久住町へバスの便あり。風土記に見ゆる球草郡(一)に朽網(作る)の内なる(一)。日本書紀に景行天皇十二年、熊襲親征の時、速見邑より進み來り速見邑に留まり權に宮室を興し給ふと見ゆ。また風土記に宮野に宮室を起せしより名付けしものとあり。この宮野は蓋しこの地にして、來田見行宮址もこの地に求むべきか。(九重山嶽山) 鎮區は都野村

ミヤコノ 宮崎

呈し、表面に概ね平坦なり。(神社神託) 小松原町年見川畔にあり。縣社。祭神、天照大神・豐受大神、相殿五柱。萬壽年間太宰大監平基神託により創立と傳ふ。例祭、十月九日。(母知神社) 横市にあり。祭神、豐受毘賣命・大年神。俗に石峯稻荷・愛持明神ともいふ。例祭四月二十三日。(攝護寺) 牟田町にあり。眞宗本願寺派。天龍寺。明治十年牟田小路に説教所として開設し、同十五年現地に移りて堂宇を建立し現寺號を公稱。佐々木池照(これ)が開基たり。

と玖珠郡飯田村とに跨りて七萬六千坪、昭和十年には純實四四三區(價額三萬餘圓)を産出し、現に重要嶽山たり。嶽山名は一名九州アルプスの名を以て知らるる九重山に因む。(來田見行宮) 景行天皇筑紫に御親征、豊の國速見邑より進軍來田見邑に屯在し給ひし時の行宮。景行紀「即留于來田見邑、權興宮室、而居之」(宮野神社) 大字佛原に鎮座。郷社。祭神、景行天皇・嵯峨天皇外二柱。景行天皇土蜘蛛征伐の折行宮を置き給ひしが、當地の役人が祠を創祀し、のちその附近に嵯峨天皇の祠を作り後世合して當社となれりと傳ふ。例祭十月十五日。(七里田温泉) 大字七里田、大船山の東麓にあり。泉質炭酸泉。上ノ湯・下ノ湯あり。(法華院温泉) 泉質、硫黄泉・鐵泉・炭酸泉。冬は積雪六〇釐一一米に達し、九州唯一のスキーの適地にして、附近には一本松遊園・菊畑遊園・龍石・五本松・小田野池・山下地等の勝地あり。

ミヤコノ 都城

【宮崎】 神奈川縣橋本郡にありし村。昭和十三年川崎市に編入す。

ミヤコノ 宮崎

【宮崎】 和歌山縣海草郡にありし村。昭和八年和歌山市に編入す。

ミヤサキ 宮崎

【宮崎】 肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に飽田郡宮前郷あり、その地今の熊本市内、熊本城の西郊に當る。

ミヤサキ 宮崎

【宮崎】 宮崎縣陸奥國加美郡の北部。中新田町の西北約一軒。北は玉造郡、西は山形縣に接す。面積一五四・三六方軒。奥羽山脈の東斜面に屬し、西境に翁峠(一〇七五米)・吹越山(九三九米)、北部に國見山(六五四米)、西部に檜嶺山(七五六米)ありて東南方に傾斜し、田川は西南境に發源し南部を東流す。沿岸に耕地拓く。米・木炭・馬を産す。道路は南部を東西に通じ、省線陸羽東線中新田驛へは約一三軒。社稷仙臺鐵道加美中新田驛へは約一軒あり。人口密度は一方軒につき三四人なり。この地は近世、仙臺藩の公族、石母田氏の邑にして實曆中、石

ミヤサキ 宮崎

母田氏が栗原郡高清水に移り、佐沼の古内氏これに代り來り住せり。往時、宮崎古城あり、大崎家臣、宮崎民部の居りし館なりと。村内に黒瀧(高さ一五米、幅五米)・寒風潭(高さ二〇米、幅八米)あり。(魚取沼の鐵魚) 指定天然記念物。田代岳の山奥にあり。尾花澤まで汽車により、それより徒歩本村押切を過ぎ藤城吹越峠を越えて到達す。沼に産する鐵魚は形體金魚に類似し、普通煤褐色、全國稀に見る淡水産魚類なり。

ミヤサキ 宮崎

【宮崎】 石川縣珠洲郡にありし村。明治四十年他の二村と廢し木部村を置く。

ミヤサキ 宮崎

【宮崎】 愛知縣幡豆郡にありし村。明治三十九年他の二箇村と共に廢し吉田村を置く。吉田村は大正十三年町制を布く。

都縣に、後者は省縣志有本縣に連絡す。此地は上古都島または霧ノ海と稱し、中古島津或は庄内と云へり。蓋し都島とは上代皇都高千穂宮より出でたるなり。萬壽三年、太宰大監平基この地を開拓し關白賴通に獻じてその莊園とし、島津御莊、略して庄内と稱す。建久八年八月、島津家の始祖忠久十八歳の時來りて備前觀吉に營ふ、正平七年十二月、島津忠宗六男安忠、庄内の内北都三百町の地を領して來往し北都と稱す。天授元年、其子義久、南都都洲に築城して都城と稱し、移りて住す。これ即ち當市地名の起源なり。爾來代々島津氏の所領に屬して維新に至る。明治四年都城縣の設置あり、同六年廢縣となり宮崎・鹿兒島の二縣に轉屬し、同十六年宮崎縣の再置と共に同縣に屬す。同二十二年町村制の實施に當りて都城町となり、大正十三年四月市制を布き、同十五年三月市内町名の改稱を行ひ、昭和十一年五月隣村沖水・五十市兩村を合併して現在に至る。(今町一里塚) 指定史蹟。本市及び中郷村に互り、縣道の兩側約二・七米を隔てて相對し、高さ二・七米、基礎徑七・三米弱、殆ど完形を保つ。(軍神山) 都城町にあり。市の中央に近き小丘にて丘上に旭丘神社鎮座す。伊邪那美命、その他約十柱を祀る。(都城飛行場) 和田原にあり。市の經營にかかり公共用陸上飛行場にして、面積約三〇萬方米あり。滑走區域は十字形を

呈し、表面に概ね平坦なり。(神社神託) 小松原町年見川畔にあり。縣社。祭神、天照大神・豐受大神、相殿五柱。萬壽年間太宰大監平基神託により創立と傳ふ。例祭、十月九日。(母知神社) 横市にあり。祭神、豐受毘賣命・大年神。俗に石峯稻荷・愛持明神ともいふ。例祭四月二十三日。(攝護寺) 牟田町にあり。眞宗本願寺派。天龍寺。明治十年牟田小路に説教所として開設し、同十五年現地に移りて堂宇を建立し現寺號を公稱。佐々木池照(これ)が開基たり。

【宮崎】 和歌山縣海草郡にありし村。昭和八年和歌山市に編入す。

母田氏が栗原郡高清水に移り、佐沼の古内氏これに代り來り住せり。往時、宮崎古城あり、大崎家臣、宮崎民部の居りし館なりと。村内に黒瀧(高さ一五米、幅五米)・寒風潭(高さ二〇米、幅八米)あり。(魚取沼の鐵魚) 指定天然記念物。田代岳の山奥にあり。尾花澤まで汽車により、それより徒歩本村押切を過ぎ藤城吹越峠を越えて到達す。沼に産する鐵魚は形體金魚に類似し、普通煤褐色、全國稀に見る淡水産魚類なり。



仲、この地に御所を造りて宮を御ふといふ。當國の豪族宮崎氏ここに居し宮崎城と稱す。天正十三年十月秀吉の佐々成政征伐の時、成政の將三輪權平等當城にあり。上杉登時東り攻めて陥れ、權平を捕ふ。のち城廢す。村内に七重瀧あり。高さ二〇米、幅一米とす。(宮崎鹿島樹園)指定天然記念物。城山の日本海に臨める突端にあり、シヒ・タテ・シロガモ・カラスザンセウ・ヒサカキ等吸地性樹木多く、樹下にはシロヤマシダ・カモアブヒ・ミヤマフユイチオ等發生す。北陸地方の樹叢として著しきものなり。

【宮崎村】福井縣越前國丹生郡のやや中央。東は吉川・豊・吉野、西は城崎・織田、南は白山・大興、北は常盤・朝日の九箇村に接す。三面山に包まれ北方朝日村と接する所に平原あり。農業を生業とし米・野菜・繭・薪炭を産し小曾原には盛に陶器即ち土管・甕類を産す。村内に古谷・熊谷・小曾原・増谷・江波・廣野・櫻津・般若・寺・舟場・野・上野・宇須野・八田新保・八田・圓満・大谷の十八區あり。社線船浦電線は朝日村西山中より南下し途中佐々生を經て本村に入り陶ノ谷・櫻津・江波の三驛(何れも昭和三年設置)を置きて鐵道に至る。太古本村の中央に流して舟場區は昔の府中今の武生町より鐵道へ行く舟渡場より名づけられしといふ。大字江波も亦其の頃の名稱と云ふ。それを備後天皇の御治水

の時當縣村上戸の鏡子口を開き給ひしを以て沼本は此の日より天玉川に流出し耕地を得たりと傳ふ。大字小曾原の金刀比羅神社も昔は山上にあり、其の遺蹟ならん。大字野口に輝丸の墓と稱する五輪塔三基あり。大字八田は昔八奈岐田と稱せし所にて蛇谷に大蛇棲み百姓を苦しめしが親右衛門なるものこれを平定せりと云ふ。俗説に出雲神話に出づる八岐蛇を是なりと稱すれども取るに足らず。大字江波に周圍六尺高さ二十尺の神籬あり。大字寺に寺山あり、奉燈大師創建の寺十一箇寺ありし由、字名も之に據ると。(八幡神社)大字宇須野に鎮座す。相殿に式内長岡神社(天御中主神を祀る)及び天御布須麻神社(高御産日神・神産日神を合祀す)あり。共に東鑑によれば二位禰尼の勳過(承久三年八月)として有名なり。

【宮崎村】愛知縣三河國額田郡の東南隅。同時市の東方約二〇軒。三河山地の中部を占め、全村花崗岩山地より成り、東部には巴山・本宮山(七八九米)等あり。男川は村の中部を西に屈曲して流る。山地なれば農耕地少く、僅に川の流域にのみ桑園分布し、養蠶はやや見るべきものあり。山地より木材を出し、工業としては調子のガラ坊として三河木綿を産出す。この地方は花崗岩地帯のため石材を出し、紅柱石の産あり。交通は男川の谷には東作手に至る道あり。鐵道の便悪し。明治

三十九年本村を廢し榮枝村大字千萬・木下を以て新たに本村を置く。古くは和名抄の額田郡麻津郷の地にして、大字龜穴には龜穴城址ありて、奥平美作守貞能之を築きて居住し、其子信昌も亦此地に住し、天正元年武田勝五千と戦ひ、のち武田氏押領して山家三方衆なる作手の奥平美作守・田原の菅沼新三郎・長住の菅沼伊豆守交互に在番す。また瀧山城とも稱せらる。宮崎城址は今如となり、里人稻荷屋敷と稱し、奥平駿物貞昌ここに築城し、のち曲淵甲斐守城主となる。田代城址は奥平次郎左衛門貞久の居城にして、明見城址は奥平十郎左衛門の居城たり。黒谷城址は黒谷牛九郎住み、南山城は奥平駿物貞勝の守りし營たり。

太平洋地域と共に熱帯性植物の見らるる地方にして、宮崎市附近には無雪・無霜地さへあり。平均温度は宮崎に於て一月六・九度、七月二六・〇度、年平均一六・五度を示す。降水量は二、六〇〇mmに達し、瀬戸内海に面する大分・福岡の諸縣地方の約二倍なり。従つて此地方の一部には年二回の米の收穫するところあり。田の耕地面積四、八三〇町に對し五〇、九六八町の作付面積を示す。宮崎市の南方青島は蒲葦の自生を以て名あり。大隅に接する海岸には樟樹・蘇鐵の熱帯植物繁茂す。黒潮の北流する影響なり。

【産業】天孫民族發祥地たるこの日向は開化古きに拘らず陸上は山地にて包まれ他地方と隔絶し、海面また交通幹線より外れ九州の北海道と言はれ未開の開拓地面積は北海道に匹敵す。然れども氣候的好條件に恵まれ縣下生産物總額一〇、九三三萬圓に達す。農産五一%、工業二八%、林産一三%、水産四%、畜産三%、雑産一%の生産構成なり。米は九〇三、七〇〇石を示し、日向米として名あり。麥は二六萬石にして降雨多き關係上振はす。甘藷・大豆・粟・蕎麥等の雜穀あり、菜種の産亦多し。氣候上工藝作物の特色をなすものに甘蔗あり。果實には柑橘・柿・梨あり、蔬菜園藝作物は近時非常なる發展を示し、宮崎附近砂丘地帯が生産地域の核心を示し南風のみにて宮崎に集中するもの二〇萬圓に達す。養蠶も各地

に行はれ繭産額一八五萬圓に達す。各時代の爲政者が畜産を重視し、殊に馬産奨励の結果縣内四牧場あり。山林原野は本縣地積の約八割を占め、林業は九州第一位なり。丸及び角材・木炭・挽材・薪・椎茸が主なるものにて、世に知らるる日向椎茸の産は全國第一位にあり。杉・松・榊の巨木あり、樺も大材多く、玉杵、如輪木の巨板は日向を措きて他に類を見ず、樺の巨材にて作る葦壁は棋士の飛騨するところなり。水産額は三〇〇萬圓に上り、鰯は他の府縣に比して特色なきも漁業者一人當漁獲高は九州第一位にあり。鮪・鰯・鮪・鰯等有名なり。工業方面は未だ未開にして振はず、地方色のあるものとして、本庄・妻附近の和紙製造、宮崎・兒湯・東諸縣地方の菜種油製造、兒湯・東白杵・宮崎三郡の檳榔製造あり。都城附近のハム製造も近來目覺しき發展をなしつつあり。(人口)人口八二四、四三一(昭和十年)、人口密度一〇七人(方軒)、宮崎・都城・延岡の三市と一九町七八箇町村あり。人口密度は全國有数の小密度を示し、其の開墾の遅々たるを示す。日向の歴史的登場は天孫降臨地として高千穂にして、縣下到處に古墳あり、石器・土器の考古學的資料に富む。交通的の隔絶が此地方を内地に於ける北海道たらしめ、縣内山地間には尙古代風の習俗を存し、社會學的に興味ある山村あり。五ヶ瀬川上流の高千穂、一

とまた一連の山塊なるべし。縣の西南境には霧島山(一七〇〇米)・高千穂峯(一五七四米)の火山ありて南方櫻島、間間岳・屋久島に延長する霧島火山の起點をなす。地形的に略三分され、北西部の山地、南北山地、宮崎平野の三區となる。宮崎平野と北西部山地との境界は美々津に起り、高岡町西部に達する一線を劃し階層崖をなす。階層崖に依りて知倉山(八四九米)・岡見山(一〇三六米)・七熊山(九一九米)が東部の平野に臨む。宮崎平野は美々津を頂點とし宮崎・高岡を結ぶ三角形にして南方を底邊として展開す。これは縣の南部が前記階層崖により海底に沈降後隆起し、美々津以北は沈降する斜面運動による。従つて延岡より大分縣大分に至る九州山地は沈降による階層崖を生じ、所謂リアス海岸を示し豊後海峡となる。西側山より五箇瀬川・美々津川・高鍋川・一瀬川・大淀川が東流し、後三者は沖積の宮崎平野を作るも、前二者は沈降大なりしたため僅に川口に小三角洲を出すのみなり。此處に延岡・細島・美々津の都市あり。宮崎平野は更に洪積臺地が山麓にあり、その東部には沖積平野ありて海岸の砂丘に續く。宮崎を中心とする一市七町あり。縣の南西隅、大淀川の上流に小林・都城の二盆地ありて、各々其の中心都市をなす。(氣候)本縣は九州地方にても殊に氣候溫暖にして鹿兒島縣と共に一地域を形成し、土佐・紀伊の

起により形成せらる。平野の西中は洪積臺地の平原にて一〇〇米内外の高度を示す。本市は平野の中にて最も經濟的地域をなす南部に位置することが現今の發展の基因をなす。本市は大淀川の三角洲上にあり、又河口の土砂による砂丘上にあり。今も川口に砂洲が一ツ葉公園より南にありて離陸砂洲の形式をなす。市内にも海岸より二條の砂丘を遺跡し得。市街は大淀川を挟みて南北にあり。南岸は舊大淀町のありし地にて北岸宮崎町と合併し更に大宮村・櫻村の併合によりて今の市域をなせり。今は縣廳の所在地として、宮崎高農・師範學校・中等學校あり政治・學問の中心たるも、縣廳設置前は微々たる町に過ぎざりき。省線日豊本線通過し宮崎・花ヶ島の二驛(共に大正二年設置)あり。鐵道開通前は城ヶ崎の東西軒、大淀川口の南岸赤江港を外港とせしが今や若年期に入り人家一軒に衰微せり。市の北部には競馬場を持ち、南九州牧馬地域の刺戟をなす。海岸に面する市ながら港を持たざることは本市の一特色にして、大淀川の三角洲土砂の堆積による。市の北郊砂丘上の村は近時蔬菜の栽培に著しき躍進を示す。これは南日向の氣候溫暖と砂丘のためなり。本市より出資する促成南風のみにて二〇萬圓に達す。京阪神より遠く東京にも出荷す。本市附近の氣候は亞熱帯性を帯ぶ。市の南方一〇軒の海岸に近く青島あり。蒲葦の自生する地



ミヤサ

として名あり。南日向はまた、候が竹の生育に適し、宮崎の特産竹細工はこれを用ひ盆・菓子皿が製産する。〔沿革〕本市は大正十三年宮崎郡宮崎町・大淀町・大宮村の三箇町村を合併して市制を布けるものにして、昭和七年、宮崎郡植村を併し本市に編入し、以て今日に至る。本市は舊幕時代は元大宮村の全部及び宮崎町・大淀町の大部は延岡藩、また宮崎・大淀町の一部は佐土原藩に属し、統轄せられたるものなるが、明治四年廢藩置縣後は延岡・英々津・宮崎・鹿兒島の諸縣に隸屬し、同十六年、宮崎縣の再設に伴ひ、その治下に屬し、縣廳の所在地となり、故に發展の曙光を認めらる。今や交通機關は完備し、文化産業の發達、各種設備事業殆ど整ひ、新興都市として面目を一新するに至れり。大淀町には古墳の群集あり、殊に古城の一前方後圓墳よりば鏡と共に支那錢の貨泉が発見されしといふ。支那の墳墓より錢貨の發見の例は多きも、日本内地の古墳副葬品には珍しき例といふべし。〔宮崎城〕宮崎縣の西北五軒。池内と上北方とに跨りし丘陵の一部を劃して築かれし城。池内城ともいひ、宮崎附近を一時に收むる勝地あり。建武二年、關西諸國及びその子孫、關東諸國、勤王軍を授けしことあり。天正年間、高橋氏の屬城にして、その將權藤原成これを守りしが、慶長五年、伊東

祐兵、急に攻めてこれを取りしを、豊臣氏命じて舊主に返さしむといふ。明治十年の役に、五月以後、陸軍ここに本營を置き、桐野利秋軍務を掌理せしが、七月三十日官軍進み大野川の右岸に至れり。敵舟を撃ひて之を拒む。官軍倉岡・城崎の二渡口より游泳して進み、宮崎市街に入る。敵抗争せずして過る。〔皇宮屋敷城〕宮崎縣の西北約四軒。市内下北町上水道水源附近にあり。神武天皇の宮居し給ひし舊蹟と傳へられ、宮崎神宮編纂皇宮神社遺址し、前方後圓型の古墳。池・古刹寺あり。池畔に神武天皇涼宮の傳説地あり。又この地には皇宮家の外、内裏跡・古都・王路坂等の地名存し、到るところに古土器の破片を散布せしことあり。〔一ツ葉遺蹟〕宮崎縣の東北約四軒。花ヶ島より東南約五軒。市内新別府町にあり。伊弉諾尊、筑紫日向の小戸の橋の阿波岐原に渡り給ひしといふ古傳説地なり。日向の一名勝にして、白砂青松の汀は南北一二軒に及び、遙か東方の海上に土佐の群山が望まれ風光雄大なり。夏季は海水浴場となる。松林中に古社稻荷神社あり、松の孤塚多きより濱の名となる。〔天神山〕宮崎縣の西約一軒半。市内大田町にあり。丘上の展望開闊、本市街悉く眼底に落ち、遙に大洋の渺茫、白帆の祖棟を望み得。縣立農事試験園藝部があり、果樹草花、四季美觀を呈す。〔宮崎神宮〕神宮町にあり。官幣大社。

祭神、神武天皇。社傳に健甕龍命の創建にかかるといふ。舊稱、神武天皇宮・神武天皇御廟・宮崎神社・宮崎宮。建久年間、地頭土持太郎信綱宮殿を造營し、文明八年伊東祐國社領を獻じ、寛永二十一年延岡城主、有馬氏の宮殿の重修あり、元禄二年、有馬水鏡社領を寄せ、文化十年延岡城主内藤氏の宮殿修造あり。例祭十月二十六日。〔江田神社〕江田に鎮座。祭神、伊弉諾尊・伊弉那尊・伊弉册尊。俗に産母神社とも稱し、境内老樹蒼蒼鬱鬱たり。式内社。例祭十一月二十二日。〔小戸神社〕市内下水流町にあり。景行天皇、熊襲御親征の時、動輒によりて創建せられしと傳へ、諸冊二神を祀る。往古は大淀河口、舊の江村下別府にありしが、のち上野町に遷祀し、更に昭和八年現地に移建する。〔帝釋寺〕下北方町にあり。曹洞宗。寺傳に推古朝創建、聖德太子帝跡寺の號を賜ふ。一時廢絶し、明治初年再興成る。〔景清廟〕市内下北町にあり。日向に流されし悪七兵衛景清居住の跡と傳へられ、生日神社と共に、眼疾に靈驗ありとて參詣者多し。境内にある丸塚は景清の假人丸を祀りしものなりといふ。〔宮崎郡〕宮崎縣八郡の一。日向國の東南部。中央に宮崎市を圍みて日向灘に臨む。南部は鶴ノ塚山地が連亘して高峻なる地形をなし、西南部には山地の間に低平なる盆地發達す。西部は一帯に丘陵が

西10

起伏するも東部は縣下第一の平野にして河川多く中央には大淀川が都を貫きて東南流し宮崎市を流れて日向灘に注ぐ。北境には之に沿ひて東南流する一ツ瀬川あり、南部には清武川、その南に加江田川ありて共に東流し、河口附近にて合し南部山地の北麓にて海に注ぐ。海岸は極めて平直なる海岸線を呈し砂丘の發達著しく所々に潟湖を見る。南部は山地海に没して戸崎鼻となり附近に内海の小鎮地をつくるも屈曲乏し。海上に青島浮ぶ。地味肥沃にして低地は水利よく氣候溫暖と相俟ちて農耕に適し米・麥・蕎麥・西風其他各種の農産物を出し、森林よく繁茂して熱帯植物もあり木材の産多し。また糖蜜を産し糖芋の栽培も盛なり。海岸は水産漁獲物に富む。郡内は佐土原町・赤江町の二町外九箇村を含み、人口密度は一六一人にて木花村の七八一人が最も多し。宮崎市を中心に交通よく發達す。北方より来る日向街道は東部を走りて宮崎市に入り、それより西北に向ひ本郡の中部を横切りて東諸郡に入り省營バス往來す。他に宮崎市より西北走するもの、南走するもの等が本郡を通過す。北部に日向街道より分れて西北に走り佐土原町を経て兒湯郡に入るものあり。省線日豊本線は南走して宮崎市に入りそれより南部を西南に通過す。北部の寶満線より省線妻籠が分岐して西北走し兒湯郡に至りて移安郡に達す。中部の大淀線よりば社

線宮崎輕便鐵道が派出し東岸を南走して内海線に接す。此地は天孫瓊杵尊以後神武天皇に至る皇居のありし所。名勝は皇居の前、即ち宮前の意ならんといふ。續紀神護景雲二年郡名見ゆ。和名抄は宮城に作り三也佐城と註し飯肥・田邊・島江・江田の四郷を舉ぐ。大正十三年宮崎市が本郡より獨立す。〔宮崎鐵道〕私設鐵道。宮崎縣宮崎市にあり。省線日豊本線大淀線より分岐し、内海線(青島村)に至る二〇・一軒。省線と連帶運輸をなす。動力は蒸氣・カトリオンを併用し軌間は一・〇六七米。

ミヤサク

宮谷(縣) ミヤサクともいふ。明治の初め上總國に置きし縣。明治二年二月千葉縣山武郡大淵町に置きて附近にありし諸藩領の飛地を管す。宮谷植林の稱ある法華宗の本國寺を以て假縣とす。故に此名あり。明治四年十一月これを廢して水更津縣に入る。

ミヤサク

宮前(茨城縣)の古地名。和名抄に鹿島郡宮前郷あり、その地今の鹿島郡波野村の邊に當る。

ミヤサワ

宮澤(山形縣) 山形縣羽前國北村山郡の東北郡。尾花澤町の東北に隣り、東北は最上方郡。東は宮城縣に接す。面積六五・四三方軒。奥羽山脈の西斜面に屬し、東境に翁峠(一〇七五米)・吹越山(九三九米)・北境に金山(七六三米)あり、西南方に傾斜す。赤井川は東北部に發源し村の中部

を西南に流れ、丹生川に合す。丹生川は村の南境を西流し、龜井田村に入りて最上川に合す。東南部は平坦にして耕地拓く。米・蕎麥を産す。省線奥羽本線大石田驛へは西南方約一〇軒。宮村には金・金銀銅或は金銀銅鉛などの礦山あれど何れも振はず、其中にて山形鐵山(金銀銅山)は重要礦山に列せられども之とて名のみなり。但し深澤鐵山は昭和十年には金銀銅鐵二、八八一一を産出して重要礦山たるの名を恥かしめず。同鐵山の礦區は宮澤村・尾花澤町及び最上郡の東小國村・西小國村に跨れども本據は東小國村大字深澤にあり。もと宮原・横澤の二村なりしが之を合併して各一字を取りて宮澤村と名づく。口碑に順徳天皇佐渡よりこの地に御潛幸ありしと傳へ、いま天皇を祀る御所神社及び天皇の御陵と稱し奉る天子塚あり。〔御所神社〕郷社。祭神、順徳天皇。舊二十四箇村の郷民の尊崇篤し。例祭、陰曆七月十九日。〔宮澤〕東京府北多摩郡にありし村。昭和二年外七村と合し昭和村を置く。

ミヤサワ

宮澤(山形縣) 宮城縣陸前國栗原郡の東南部。西は玉造郡、南は志田郡古川町に接す。陸前平野の略中部に位し、西北部及び東北部に丘陵ある外全村概ね平坦なり。荒堆川は南境を東南に流れ、その支流中部を東流す。米・蕎麥・馬を産す。省線東北本線浪峰驛へは東約一二軒。省線陸

ミヤサ

羽東線陸前古川驛へは南六軒。此地は和名抄、長岡郡長岡郷の内なり。中世伊藤正宗と浦生氏郷の戦ひし處。古壘あり、大崎氏の家臣岩崎謙成美久の居りし處にして、のち藩士長沼氏の居りし所なり。〔志波御神社〕大字豊岡に鎮座。郷社。祭神、天白女命・健甕龍命。式内名神大社。例祭、陰曆八月十日。〔宮澤〕↓鬼首村(宮城縣)

羽東線陸前古川驛へは南六軒。此地は和名抄、長岡郡長岡郷の内なり。中世伊藤正宗と浦生氏郷の戦ひし處。古壘あり、大崎氏の家臣岩崎謙成美久の居りし處にして、のち藩士長沼氏の居りし所なり。〔志波御神社〕大字豊岡に鎮座。郷社。祭神、天白女命・健甕龍命。式内名神大社。例祭、陰曆八月十日。〔宮澤〕↓鬼首村(宮城縣)

ミヤサ

宮澤(山形縣) 宮城縣陸前國栗原郡の東南部。西は玉造郡、南は志田郡古川町に接す。陸前平野の略中部に位し、西北部及び東北部に丘陵ある外全村概ね平坦なり。荒堆川は南境を東南に流れ、その支流中部を東流す。米・蕎麥・馬を産す。省線東北本線浪峰驛へは東約一二軒。省線陸

ミヤサ

羽東線陸前古川驛へは南六軒。此地は和名抄、長岡郡長岡郷の内なり。中世伊藤正宗と浦生氏郷の戦ひし處。古壘あり、大崎氏の家臣岩崎謙成美久の居りし處にして、のち藩士長沼氏の居りし所なり。〔志波御神社〕大字豊岡に鎮座。郷社。祭神、天白女命・健甕龍命。式内名神大社。例祭、陰曆八月十日。〔宮澤〕↓鬼首村(宮城縣)

羽東線陸前古川驛へは南六軒。此地は和名抄、長岡郡長岡郷の内なり。中世伊藤正宗と浦生氏郷の戦ひし處。古壘あり、大崎氏の家臣岩崎謙成美久の居りし處にして、のち藩士長沼氏の居りし所なり。〔志波御神社〕大字豊岡に鎮座。郷社。祭神、天白女命・健甕龍命。式内名神大社。例祭、陰曆八月十日。〔宮澤〕↓鬼首村(宮城縣)

ミヤサ

宮澤(山形縣) 宮城縣陸前國栗原郡の東南部。西は玉造郡、南は志田郡古川町に接す。陸前平野の略中部に位し、西北部及び東北部に丘陵ある外全村概ね平坦なり。荒堆川は南境を東南に流れ、その支流中部を東流す。米・蕎麥・馬を産す。省線東北本線浪峰驛へは東約一二軒。省線陸

ミヤサ

羽東線陸前古川驛へは南六軒。此地は和名抄、長岡郡長岡郷の内なり。中世伊藤正宗と浦生氏郷の戦ひし處。古壘あり、大崎氏の家臣岩崎謙成美久の居りし處にして、のち藩士長沼氏の居りし所なり。〔志波御神社〕大字豊岡に鎮座。郷社。祭神、天白女命・健甕龍命。式内名神大社。例祭、陰曆八月十日。〔宮澤〕↓鬼首村(宮城縣)

西11

羽東線陸前古川驛へは南六軒。此地は和名抄、長岡郡長岡郷の内なり。中世伊藤正宗と浦生氏郷の戦ひし處。古壘あり、大崎氏の家臣岩崎謙成美久の居りし處にして、のち藩士長沼氏の居りし所なり。〔志波御神社〕大字豊岡に鎮座。郷社。祭神、天白女命・健甕龍命。式内名神大社。例祭、陰曆八月十日。〔宮澤〕↓鬼首村(宮城縣)

羽東線陸前古川驛へは南六軒。此地は和名抄、長岡郡長岡郷の内なり。中世伊藤正宗と浦生氏郷の戦ひし處。古壘あり、大崎氏の家臣岩崎謙成美久の居りし處にして、のち藩士長沼氏の居りし所なり。〔志波御神社〕大字豊岡に鎮座。郷社。祭神、天白女命・健甕龍命。式内名神大社。例祭、陰曆八月十日。〔宮澤〕↓鬼首村(宮城縣)



ミヤシ

見島本編福間驛の北に近く、最近福間市より電車通じ、参拜に便となる。

【宮地町】熊本縣肥後國阿蘇郡の中部。阿蘇中央火口丘の高嶽の北斜面より北方へ長く延びて火口原阿蘇谷の東邊に互る地帯を占む。南境に高嶽(一五九二米)が聳えて北へ急斜し中腹より次第に緩傾斜となる。北部は阿蘇谷の東部を占むる爲低平なる地形なり。低地は田畑よく拓け米・玉蜀黍・里芋・大豆・茶・蕎麥等の農産物を出し、山麓は牧場に利用され畜産も多く、また酒・果實の外に水産・林産あり。縣道は四方に通じ、北部の低地に市街地發達す。中部の山裾には省線登肥線が横断して宮地驛(大正七年設置)あり。普通旅客のほか阿蘇山に登る者當に絶えず、バスの便もよし。阿蘇神宮の鎮座地として夙に著はれ、町名宮地もこれに因みしもの。嘗ては郡役所の所在地にして、明治三十三年町制を布く。いま城内の全部は阿蘇國立公園の内とす。阿蘇神宮の大宮司或は其一族にて、何れも建武中興に足利勢と戦ひて功ありし阿蘇惟直(贈正四位)・惟登(贈正四位)・惟武(贈從三位)・惟成(贈從四位)は此地の人とす。【阿蘇神社】官幣大社。祭神、阿蘇十二神。式内社。肥後國一宮。舊稱、阿蘇神宮・健甕命神社。また十二柱の神を祀るが故に阿蘇十二社、阿蘇十二明神ともいふ。豊行天皇の御宇創建。攝社末社多し。牡丹造短刀・絲巻太刀等は國寶。例祭七月二十八日。また田作・火焚・節分祭等の神事あり。

【宮地村】熊本縣肥後國八代郡の西部。球磨川の右岸に沿ひ八代町の東方約一・五軒にあり。西北は太田郷町に隣る。中部と東部には山岳諸處に聳え、北境には龍峰山(五一七米)・東南境に七一四米の山峯、南境中央に八峰山(五七四米)・西南部に八丁山(三七六米)等が聳立す。西北部は低地をなし東北より西南に走る八代斷層によりて山地と界す。球磨川は西境を北流し村境を離れて西折す。農業が主産業にして米・麥・柑橘類を主産物とす。特産物には七島蕎麥あり。鹿兒島街道が西境を通過し省線鹿兒島本線及び省線肥後線は此地にて分岐し八代驛(西北約一軒)に近し。古くは和名抄、八代郡高田郷の内にや。村名は八代神社あるに因り起ると。【八代神社】縣社。祭神、天御中主尊。古來白木社・妙見宮・白木山と號す。初め護國寺と稱して天台宗に屬し隣傍の妙見宮の供僧院たりしが、延元年間、菊池武朝、征西將軍長良親王退善のため御堂を再建、大原平芳を請じて開山となし親王の法號悟眞を以て寺號とす。應永十年曹洞宗、永平寺に屬す。天正年間領主小西行長のため殿堂悉く破却されしも、慶長年中再建、爾來舊觀に復するを得たり。本尊、釋迦如來。

【宮地村】熊本縣肥後國天草郡天草下島の東部。本波町の南方約五軒にありて、南部は八代海に臨む。東北部には北方より深き灣入りあり。西半は山岳地をなす。即ち北境には東西に連る低き丘陵あり。その南麓を東流して灣入に注ぐ河川の沿岸低地を挟みて南に三百米程度の丘陵廣く東西に連り、更に南麓の低地を距てて南に山岳地あり、南方に突出し觀音崎となる。中央部は東北より西南に連る低地をなしその中央南偏に小分水嶺ありて南北兩低地を分つため北部低地廣し。低地に沿ひて南北兩部より中央へ向ひ深き灣入りあり。東部は中央低地より東に半島狀に續く處の東北より西南に長き丘陵地の西斜面を占めて中央の低地の南北兩端の東を圍み東境に鶴羽山(二三三米)・屏風山等連る。中央部に耕地よく發達し米・麥、また水産・林産も多し。本波町へバスを通じ、沿岸航路の便あり。

【宮地村】富山縣越中國西瀨波郡の西北部。石動町の西北に接し、西北は寶達山脈の一部を以て石川縣能登國に界す。全村丘陵地帯にして東より東に南東に流る小矢部川の一支あり、流域に狭き耕地あり墾務之に沿ひ、農畜・林業を主産業とするもその産何れも多からず。東南より西北へ一條の縣道貫通し、省線北陸本線石動驛へ約四軒を隔つ。古く保名に呼ばれ、近世は宮島郷といひ四十七箇村を統べたり。村内に二ノ瀧あり。高さ一五米、幅二五米とす。

ミヤシ

て交通を阻害すること大なり。此の山地を越える所に南に海老坂、北東部に九鬼ヶ坂あり。川は由良川の上流大野川と其の支流たる細野川が北方の鶴ヶ岡より流れ、村の中央なる名泉附近にて合流す。本村は山間の僻地なりと雖も交通は地形上よく發達し、西方は和知に、北東方は若狭小濱へ、北は同じく高濱へ、南は周山・殿田方面に通じ、古くは若狭方面より京都へ魚類を運ぶ道路に當りし所、いま京都・周山間の省營バスは本村を経て北隣の鶴ヶ岡村に通ず。古生層の地質と兩景豊富に依り杉櫨の生育に好適し、林業を主とす。山麓の傾斜面には多少の變質も行はれ、河川の流域は米を産す。此地は平安初期の弓削郷の一部にて、熊襲御料地たりし如く、中世細川氏の所領たりし事あり。江戸時代に於ては國郡藩領たり。【道真谷鐵山】鐵區は富村と船井郡五ヶ莊村とに跨り、殿田驛より約一三軒の地點にあり。同鐵山は滿徳山にて昭和十年滿徳鐵一、三一〇路を出して重要鐵山に列す。【彦谷鐵山】富村と平屋村とに跨り重要鐵山。極く近年事業を開始したるもの、昭和十年には滿徳五二八路を出す。【大宮鐵山】富村と大野村とに跨り重要鐵山。昭和十年には滿徳五〇三路を出す。此等の外に本村内に試験してや、成績を挙げたる滿徳鐵山に丹波(富村、平屋村)・宮島(原・小安谷・板橋)以上富村等あり。【道相神社】大字宮

【宮代村】熊本縣美濃國不破郡の南部。大垣市の西方約五軒。北は兼井町に、東は表佐村に、南は美濃郡牧田村に隣る。南半は古生層より成れる南宮山塊の北斜面を占め、南境には主峯南宮山(四一九米)あり。この山地は西瀨波平野に斷層崖を向け、その下には西瀨波平野が續く。北部は凡そ相川の扇狀地狀アルメに屬す。平野の地は水田多く、米・麥を産し、山麓地帯は桑園多く、繭の産多く茶の産多からず。山地には松茸の特産あり、用材も伐り出され、清酒の醸造も盛なり。交通は北兼井町に近く、東海道本線、中

山道に近し、乗落は集村をなし、美濃國一宮國幣大社南宮神社は門前町をなす。村名の起原は南宮神社に由来し、當社は元不破郡府中村(美濃國府所在地)に鎮座せしが、崇神天皇の五年十一月に此地に移座され、御社が宮代と轉化せるものといふ。古くは和名抄に載する不破郡新居郷の地にして、中世は新井郷と稱せられ、江戸時代は南宮神社の社領たり。南宮山は美濃の中山と稱せられ、不破の中山とも不破の山とも歌によりり。八角郷抄にも「ふは山美の」と見え、萬葉集には「眞木立不破山」と記さる。之は南宮神社あり中山道に近き爲め、風流人に多く詠まれしものなり。【南宮神社】國幣大社。祭神金山彦命。相殿に彦火々出見命・見野命を祀る。古く仲山金山彦神社と稱し、延喜の御名神大社に列し、古來美濃國一ノ宮として朝野の尊崇厚かりき。神武天皇の長儲彦御征討の御、金山彦命、八咫鳥を藉けて歴次神諭を顯はし皇軍を助け給ふ。茲に於て天皇即位ののち當國不破郡府中に金山彦命を鎮座せしめ給ひ、東山道要路の鎮守として、遂に皇都の鎮護を祈禱し給へるを當社創建の緣由とす。崇神天皇の五年現社地に遷座す。即ち府中の舊宮より正南に當るを以てのち南宮と稱す。慶長五年關ヶ原役の際に西軍の兵火に罹りて社殿寶物等概ね烏有に歸す。因りて同十六年徳川氏一時假殿を造營し、次で寛永十九年三代將

軍家光は四田將監を奉行として本殿以下數十棟を再興す。社寶中、太刀(熊家光)一口・鉾(無銘)一口は現に國寶たり。例祭、五月五日。【大領神社】式内社。祭神不破大領宮野木實神外三神。式内社。例祭、十月二日。【正行院】天台宗。大日山兩界寺と號し最澄の開創と傳ふ。關ヶ原役に兵燹に罹り一山焦土に歸す。寛永十九年再建し現在に至る。のち本堂藥師如來を別堂に安置、阿彌陀如來を本堂とす。明治維新の際藥師堂を廢す。

ミヤシ

【宮代村】熊本縣美濃國不破郡の南部。大垣市の西方約五軒。北は兼井町に、東は表佐村に、南は美濃郡牧田村に隣る。南半は古生層より成れる南宮山塊の北斜面を占め、南境には主峯南宮山(四一九米)あり。この山地は西瀨波平野に斷層崖を向け、その下には西瀨波平野が續く。北部は凡そ相川の扇狀地狀アルメに屬す。平野の地は水田多く、米・麥を産し、山麓地帯は桑園多く、繭の産多く茶の産多からず。山地には松茸の特産あり、用材も伐り出され、清酒の醸造も盛なり。交通は北兼井町に近く、東海道本線、中

【宮代村】熊本縣美濃國不破郡の南部。大垣市の西方約五軒。北は兼井町に、東は表佐村に、南は美濃郡牧田村に隣る。南半は古生層より成れる南宮山塊の北斜面を占め、南境には主峯南宮山(四一九米)あり。この山地は西瀨波平野に斷層崖を向け、その下には西瀨波平野が續く。北部は凡そ相川の扇狀地狀アルメに屬す。平野の地は水田多く、米・麥を産し、山麓地帯は桑園多く、繭の産多く茶の産多からず。山地には松茸の特産あり、用材も伐り出され、清酒の醸造も盛なり。交通は北兼井町に近く、東海道本線、中

【宮代村】熊本縣美濃國不破郡の南部。大垣市の西方約五軒。北は兼井町に、東は表佐村に、南は美濃郡牧田村に隣る。南半は古生層より成れる南宮山塊の北斜面を占め、南境には主峯南宮山(四一九米)あり。この山地は西瀨波平野に斷層崖を向け、その下には西瀨波平野が續く。北部は凡そ相川の扇狀地狀アルメに屬す。平野の地は水田多く、米・麥を産し、山麓地帯は桑園多く、繭の産多く茶の産多からず。山地には松茸の特産あり、用材も伐り出され、清酒の醸造も盛なり。交通は北兼井町に近く、東海道本線、中

【宮代村】熊本縣美濃國不破郡の南部。大垣市の西方約五軒。北は兼井町に、東は表佐村に、南は美濃郡牧田村に隣る。南半は古生層より成れる南宮山塊の北斜面を占め、南境には主峯南宮山(四一九米)あり。この山地は西瀨波平野に斷層崖を向け、その下には西瀨波平野が續く。北部は凡そ相川の扇狀地狀アルメに屬す。平野の地は水田多く、米・麥を産し、山麓地帯は桑園多く、繭の産多く茶の産多からず。山地には松茸の特産あり、用材も伐り出され、清酒の醸造も盛なり。交通は北兼井町に近く、東海道本線、中



十月七日。

ミヤス 宮津

【宮津】 京都府丹波郡の東部。若狭湾の西の丹波半島と黒崎の間に抱かれし長き灣にて、斷層によつて生ぜしもの。中部に天ノ橋立の砂嘴が聳立して奥内海とに隔分る。灣口は約二六軒、奥には宮津港及び岩瀬港あり。なほ宮津港にては盆の十六日の夜に行はるる燈籠流しは名高し。

【宮津線】 省線山陰線の一部。主として京都府北邊日本海岸に沿ふ。省線舞鶴線舞鶴より分れ、西北方の宮津・峰山・細野・久美濱等の諸驛を経て山陰本線豊岡驛に至る。全長八四・〇軒。途中、丹波山田驛(奥郡山田村)にて社線加悦鐵道に接続す。

【宮津町】 京都府丹波郡奥郡の中部。「丹後の宮津でびんと出した」といふ俗語にて名高き宮津町は部の主邑にして、古來丹後の重鎮たり。宮津灣奥に位し、名勝、天の橋立は其の北方に展開す。東部と西部とは花崗岩質の山地にて、宮津灣頭より南南西に河守に連続する低地帯あり、其の中央を大手川流れて流瀆す。周邊に山岳・岬ありて風濤を蔽防す。近年防波堤完成し、敦賀以西日本海に於ける舞鶴に次ぐ貿易港にして、大連・北鮮方面との定期航路開け、米・大豆・水産物等の取引あり。省線宮津線大正十三年開通し宮津驛を置くに及び、海陸交通の

要地となる。宮津は生産都邑としての特色少くも、丹後節籠及び生絲・海産物の集散取引地として著る。北丹の機業地たる峰山等は生産と其の取引に限らるゝも宮津は生地を京都にて染色加工する悉皆業者の發展は、注目すべき事象なり。また沿岸漁獲物の集散あるも、沖漁業の中心陸揚地は殆ど舞鶴にして本町の集散少し。但し此地に京都府水産講習所ありて新業の指導に當る。阿蘇海より捕獲する金太郎鱈は其の名産なり。本町の特徵は一に遊覽的都邑たるに在り。宮津灣一帯の風光、特に天の橋立によつて、其の名天下に著る。従つて古く遊覽設備よく整ひ、「橋の財布が空となる」と歌はれたる所なり。本町は細川幽齋築城以來城下町として發展し、其の舊城址は町の北西の八幡山上にあり、北丹の重鎮として成を四隣に振ひし所、維新前まで松平氏七萬石の城下りの地、其の城址は町内に存す。大手川筋より河守・福知山を経て京都へ出づる街道は古くより開け、舊幕時代參觀交路たり。いま宮津驛北の街道に沿ふ松並木は其の舊影を偲ばしむものなり。宮津の精華流しは有名なり。盆の十六日の晩、精華船を製作し幾多の燈籠海に浮動する様は威観なり。町には、警察署・税務署の官公舎を始め、中学校・高等女学校の文化機關、銀行・會社等の金融・産業機關もまた備はり。好色一代男、二「我等が下屋敷、川原町に小間物やの

源介と申て、丹後宮津へ通ひ商するものあり」大經師骨牌・下「この銀を腰につけ、丹後の宮津に兄弟同然の者がある、そこまでどうぞのきませう」(宮津城) 天正八年、細川藤孝丹後を領し此地に築き子忠興を置く。關ヶ原役後、京極忠知の來り、元和八年次子高三を田邊(今の舞鶴)に、義子高直を峰山に分封す。寛永六年宮津除封。同九年に永井尙征、天和元年阿部正泰、元祿十年奥平昌春、享保二年青山幸秀を経て、寶曆八年に本莊(松平)表昌來り明治維新に至り城廢す。明治四年藩を廢して縣を置きしが間もなく廢して豊岡縣に入る。(日吉神社) 宇宮に鎮座。郷社。祭神、大山咋命・大己貴命。一に宮津明神といふ。古來宮津一圓の産土神にして、例祭を宮津祭また國祭と稱し、宮津城主歴代御禮米を食し、神馬を進めたり。例祭、五月十五日。

ミヤタ

【宮田町】 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に鹿島郡宮田郷あり、その地今の東茨城郡磯原町の邊なりべし。

【宮田村】 宮田縣越中水見郡の東部海岸。水見町と伏木町との略中間にあり。東南端海老坂岬を越ゆれば高岡市なり。全村殆ど低丘陵地をなし、東北部海岸に近く平地ありて桑園田地を見る。米を主物産として、養蠶の副業及び漁業も行はる。海岸は有磯地の一部に臨み、白砂青松、富山河の静波に映じ夏季節好の海水

郡郡古知野町に、西は淺井町に接す。北端は木曾川が流れその西岸に位して、尾北扇狀地の一部をなし、扇面は砂地にして西部には新敷若用水南北に通ず。此地は砂地の故に水田には適せず、桑畑となり、細流の附近にのみ細長く水田地帯が見らる。畑には大根其他の野菜が栽培せられ、名古屋方面に出さる。交通路として見通し街道が通過し、鐵道は古知野に出づるを便とす。此地は和名抄の栗栗郡村岡郷の地にして、のち村久野庄と呼ばる。古くより幾輩が行はれ、天和年中より信州種を飼ひしこと名所國史に見ゆ。明治三十九年木村及び濱保村を廢し宮田村を置き、大正十三年町制を布く。

一部にて幾多の炭礦あり、其内、當町が關聯する炭礦は別表の如し(産額は昭和十年の年産、重は重要炭山、準は準重要炭山。當町が三萬前後の人口を有するは實に炭礦に因るものと云ふべし。東北部には東方の省線筑豊線の勝野驛より分れる省線宮田線ありて磯光驛(明治四十五年設置)及び終點筑前宮田驛(もと桐野驛と云ひ明治三十五年の設置なるが昭和十二年改稱)あり。大正十五年町制を布き、昭和二年香井田村を編入す。古くは和名抄、鞍手郡生見郷の内なるべし。中世には朝田庄内たり。

る三角形をなし、面積五・三方軒あり。北端に尖塔岳(約六〇〇米)聳え、やや急傾斜を以て海に迫り、海岸線に低地ひらけ、耕田・聚落は何れも此處にあり。海岸は稍々扇面するも良泊を缺き、僅かに

南東角を堂崎といひ石巻灣の西角なり。島の北側は滑浦水道と稱して石巻灣より松島灣に通ずる通路にて、島の西方寒風澤との間は狭長なる編舟水道なり。石巻より運河を通り、野蒜に出る小汽船はここを經由して鹽釜に往來す。島の住民は一三五五人。米・麥・魚類を産す。西方松島町・鹽釜町へは汽船の便あり。

ミヤタ

【宮田町】 福岡縣筑前國鞍手郡の南部。直方市の西に接し南は嘉穂郡中津町・二瀬町に界す。村内には山地窪地に起伏し西南境に笠置山(四二五米)の秀峯聳ゆ。北部には遠河川支流の大鳴川が東流し、中央には東北流する八木山川ありて之に合す。沿岸に稍々低地發達し肥沃にして田畑拓げ米麥を産す。當町は筑豊炭田の

【宮田村】 熊本縣鹿後國天草郡天草上島の南部。東は細底村、西北は橋本村に接し、南は八代海に臨む。北端を頂點とす

【宮田村】 宮田縣筑前國鞍手郡の西南海上宮戸島の地を占む。松島群島中の最大島にて、群島の最東に位し周囲は約二四軒。島の中央に大鷹峯(約一〇〇米)の高峯あり。陸境に富む。島形極めて不整、南北に並ぶ三列の尾根の融合したるものにて、南北より狭長なる灣入りあり。島の

【宮田村】 宮田縣筑前國鞍手郡の西南境に接す。面積五二・一五方軒。奥羽山脈の東斜面に屬し、西部に健倉山(五〇七米)、南境に堂庭山(二五二米)、北



ミヤト—ミヤノ

部に松倉山(二九一米)聳え、全村山地多  
くして、吉田川の二支流は西部と中部を  
東北に流れ、村の東北は積平垣なり。

ミヤトコロ 宮所

【宮所】 延喜式に見ゆる信濃國の牧名。  
伊那郡宮村(長野縣)  
【宮所】 讚岐國(香川縣)の古地名。和名  
抄に山田郡宮所あり、美也止古路と訓  
す。今の木田郡南田村の邊に當る。

ミヤノ 宮野

【宮野村】 宮城縣陸奥國原郡の東部。  
築館町の北に接す。面積八・六七方軒。  
陸奥平野の北部に位し西北半部は丘陵を  
すなも、東南部は平坦なり。一迫川は東  
北に流る。

ミヤノカワチ 宮野河内村

【宮野河内村】 熊本縣肥後國天草郡天草下島の東南部。  
八代海に臨む。西境には大杉山・杜岳(四  
三二米)等の山岳連る。東岸は沿岸に狭  
小なる低地がつゞき北半は稍々風曲して  
親崎・野崎の突出あり。中央には陸地が  
半島状に東方へ延び、その中央に瀬木岳  
(二五四米)聳ゆ。半島の南に八幡ノ瀬戸  
を取って産島の秀島浮ぶ。産島の約一軒  
東南の海上なる上の島に燈臺あり。都落  
は海岸に點散して漁港をなす。農産・林  
産もあり。島内各地に自動車道、近海  
に汽船便あり。

ミヤノコシ 宮ノ越

【宮ノ越】 長野縣西筑  
摩郡日義村の大字。省線中央本線の宮ノ  
越驛(明治四十三年設置)を置く。

ミヤノシタ 宮ノ下

【宮ノ下】 ↓温泉村(神奈川縣)  
【宮ノ下】 臺灣總督府鐵道淡水線の一驛  
(大正四年設置)。臺北市大宮町にあり。

ミヤノジョー 宮ノ城

【宮ノ城町】 鹿兒島縣薩摩國薩摩郡の北  
部。川内町の東北約五軒にありて川内川  
に跨り、東南より西北に長く西北部は出

ミヤノ—ミヤノ

境を東北に流る。米・黍・粟を産す。陸羽  
街道は東北より南に東に接し、築館  
町へパスの便あり。安寧天皇の皇子この  
地に落ち來まし、その所を一宮といふ。  
天皇崩御の後、皇子陵を此地に築きて之  
を守る。宮野の地名は之に出づと。舊奥  
州街道の宮野宿のありし所。

ミヤノ村

【宮野村】 山口縣周防國吉敷郡の北部。  
山口市の東に連り、北は阿武郡、東は仁  
保村、南は大内村に界す。面積三七・七  
六平方軒。北部と東部に山脈連りて龍門  
嶽(六八八米)郡界をなし、木戸山(五四  
七米)は仁保村界に聳ゆ。西南部に地勢  
傾きて横野川流域に山口市に連る平地開  
け、耕地多し。北部と南部は山林なり。  
米・黍・粟・木炭・用材・酒・醤油等を産す。  
省線山口線は平地を東西に貫通し宮野驛  
(大正六年設置)を置く。また國道山口市  
より來りて仁保村に通じ、途中に縣道を  
分岐北走せしめ萩市に連る。各々パスの  
便あり。中世は宮野莊に作り、東大寺領  
たり。(常樂寺庭園)指定史蹟・名勝。  
寺は初め妙喜寺と稱せられ、文明年間の  
創建にかり、開基大内政弘の子大内政  
弘がその母妙喜尼のため雪舟に命じて築  
庭せしむといふ。東・西・北の三方は岡  
を以て圍まれ、南面開けて小谷地とな  
りし所に設けられ、中央に心字池あり。  
池中に舟形岩・魚籠岩及び靈鷲鳥等の出  
(寺内文庫)この地は故元帥寺内伯の  
生地にして、文庫はその遺品を蒐めたる

水郡出水町に界す。東南部にて北の一部  
が川内川の左岸に沿ひて東北に長く突出  
す。北隣の鶴田村内に當所所屬の飛地あり。  
西北隅に紫尾山(主峯上宮山一〇六  
七米)一帶の山地聳えて東南方へ傾斜し、  
中部にて臺地状の丘陵となる。東南部に  
も三―四百米の山地あり。川内川は突出  
部の西岸に沿ひて西南流し更に中央東南  
偏を貫きて西南に流る。西北より來る一  
支流これに合す。川内川に沿ひて湯ノ元  
温泉あり。米・黍の産多し粟も産す。工  
産・畜産共に多く林産も豊富なり。縣道  
が西北より東南に貫通して出水町及び南  
隣の山崎村に出で、東南部にて分れて東  
北に向ひ伊佐郡大日町に出づる縣道あり。  
その分岐點に市街地あり。省線宮之  
城線は東南部を貫通し船木驛(昭和十一  
年設置)・宮之城驛(大正十五年設置)・薩  
摩湯田驛(昭和九年設置)あり。大正八年  
町制を布く。古くは都答院の内にして近  
世は南伊佐郡に屬せしも、のち薩摩郡に  
入る。大字虎居に虎居城址あり。虎居城  
は往古大前氏の居りて宮之城と稱す。舊  
記に據れば康治年中、都答院又太郎大前  
道助、また建久年中、都答院又太郎大前  
道秀、共に都答院の郡司たり。また建永  
の頃に斑目六郎出羽より入都ありて地頭  
となる。寶治二年益谷重直鎌倉より來り  
て地頭となり代々當城に住せしが永祿の  
頃高麗へ、秀吉九州征伐のち島津忠永  
に宮之城郷を給はる。(宮之城温泉)川

ものにて、別に朝鮮時代の伯を徳ぶ朝鮮  
館あり。(仁聖神社)大字宮野下に鎮座。  
縣社。祭神、表筒男命・中筒男命外三神。  
式内社。古く仁戸宮と云ひ土俗専ら三  
宮と呼べり。例祭、十月二十八日。(初瀬  
觀音堂)古義眞言宗。當初堂塔伽藍壯麗  
を極めしも文祿十二年大内輝弘の亂に一  
山焼亡、後ち現寺に移り再建さる。明  
治初年獨立佛堂となり現に山口市八幡馬  
場町古義眞言宗高野末神福寺の管理に係  
る。木尊十一面觀音立像(木造)一軀は國  
寶。(雲谷寺)舊址。兼管雪舟居士の寺。  
雲谷庵ともいひ、正しくは雲ヶ谷澄濟寺  
と云ふ。

ミヤノ村

【宮野村】 福岡縣筑前國嘉穂郡の東南隅。  
大隈町の東南に接し北は山田町に接す。  
東は田川郡に南は朝倉郡に界す。東境に  
は戸谷ヶ岳を中心として山脈が東南より  
西北に連る。南部と西南部に山脈が續  
き、西南隅に馬見山(九七八米)ありて北  
方へ廣く傾斜して西境をなす。西北部に  
はやや平野開け東南境に發する嘉麻川は  
中央を貫きて西北流す。米・黍を産す。大  
隈町へパスを通す。古くは和名抄、嘉麻  
郡馬見郷の内とす。宇佐大鏡に嘉麻郡宮  
吉、名田百町を朝別新庄と號すとあるは  
即ち此地にして、いま大字に宮吉あり。  
(高木神社) 縣社。祭神、高皇產靈命。  
黒田長政を始め、累代國主の崇敬社。例  
祭、十月九日。

ミヤノ村

【宮野村】 福岡縣筑後國朝倉郡の中央南  
内川の上流に沿ひて紫尾山を西に望む。食  
鹽含有硫黄泉及び単純泉とありて、皮膚  
病・ロイマチス・麻痺・婦人病に効あり  
と云はる。(瀧ノ瀬) 大字虎居にあり。  
永野金山より流下する金山川の合流點に  
して、その高さ約四米に過ぎざるも幅は  
二百米にも上り奇巖怪石散在し瀧津浪狂  
奔して壯觀なり。(松尾神社) 大字屋地  
に鎮座。祭神、大山咋神。慶長の  
頃、島津國書頭忠長の臣宿富掃部長之の  
創祀と傳ふ。例祭、十一月十五日。

ミヤノ城

【宮之城郷】 省線鹿兒島線の一。鹿兒島  
縣薩摩・伊佐郡内を走る。鹿兒島本線  
川内町驛より分岐し宮之城・針持等の諸  
驛を経て省線山野線薩摩大日驛(伊佐郡  
大日町)に至る。全長七・七七軒。

ミヤノジン 宮ノ陣村

【宮ノ陣村】 福岡縣筑後國三井郡の西部。筑後川の右岸に  
位し、川を挟んで久留米市の東北に接す。  
西北は佐賀縣三養基郡に界す。全村地形  
低平にして筑後川は南境を西流し、西南  
隅に至りて一軒餘北流し西境は是に沿ひ  
更に村境を離れて久留米市の北を繞りて  
西流す。寶滿川は北方より來りて西北境  
に沿ひて西南流し筑後川に合す。米・黍を  
産す。東部には縣道が縱斷して久留米市  
及び甘木町にパスを通す。村内の筑後川  
の流を宮地ノ渡といふ。傳ふるところに  
據れば、正平年間の山隈合戦に、菊池勢  
はここを横絶して敵を襲へり。古書に大  
杜ノ渡といふ。いま大字に大杜あり。村

西天

部。甘木町の東東南方約六軒に位し、南  
方約一軒に筑後川が西流す。東部より北  
部にかけては山地をなして西方と南方へ  
傾斜す。西南部は筑紫平野東北の一部を  
占むるため地形低平なり。米・黍・粟を産  
す。西南部を縣道及び社線朝倉軌道西北  
より東南に通じ比良松驛あり。村内に  
齊明天皇朝倉行宮址あり。齊明天皇の六  
年、天皇自ら新羅より百濟を征討し給は  
んとして、朝倉に行宮を營み之を橋原庭  
宮と名付けて駐蹕の地と定め給ひしが、  
聖七年終に此地に崩御あらせらる。住僧  
はこゝより礎石など多く掘出せし事あり  
といふ。また瓦虎といふ處には今も餘ほ  
古瓦の破片を發掘す。(南津寺) 古義眞  
言宗。大同元年に僧最澄の開創。もと上  
座部長圓に在り、貞和二年現地に移る。  
藥師如来(木造)は國寶なり。

ミヤノウチ 宮ノ内

【宮ノ内】 福岡縣山門  
郡にありし村。明治四十年に外三箇村と  
共に廢され、新たに三橋村を置く。

ミヤノウラ 宮ノ浦

【宮ノ浦】 薩摩國島、  
屋久島の中央部に聳立する山にして、九  
州第一の高峯たり。鹿兒島縣鹿毛郡上屋  
久・下屋久の二村境上に跨り、標高一九  
三五米を算す。大津中に位するを以て年  
雨量三〇〇〇―八〇〇〇に達し、森  
林繁茂し、美林をなし、特に屋久杉は名  
高し。山頂部はヤクシマヤサが密生し、  
また數種の珍奇なる高山植物生育し、殊  
にヤクシマヤサがヤクシマヤサ

ミヤノマエ 宮ノ前

【宮ノ前】 省線油  
津線の一驛(大正三年設置)。宮崎縣南那  
賀郡吾田村にあり。

ミヤノハラ 宮原町

【宮原町】 熊本縣肥後  
國八代郡の西部。八代平野の中央東邊  
を占め、八代町の東北約六軒にあり。東  
半は山地をなし南境に五四二米の山峯あり。  
これ等の山地は中央に於て東北より  
西南に走れる八代斷層に跨る。西半は八  
代平野の一部にて地形低平にして沃野連  
る。北部に水川ありて北西方へ貫流す。  
生業を戸數別に見れば農業は三四九戸・  
商業は一五九戸・工業は七六戸・交通業  
は一九戸・公務自由業は三一戸・無職八  
戸なり。山麓に沿ひて鹿兒島街道が通過  
してパスの往來盛なり。西北境近くに省  
線鹿兒島本線の有佐驛(有佐村)あり。古  
くは和名抄、八代郡肥後郡の内なるべし。  
細川家藩政の初め、奉行を置きし處にし  
て、もと火村と稱せりといふ。村名は三  
宮妙見菩薩の神祠ありより起るといふ。  
明應年中、宮原左兵衛尉公廣といふ郷  
士ありて、大いに妙見の靈符を信ずと。

西田



蓋し在名を負ひしものならん。明治十年西南役に賊軍この地に城壘を築きしも官軍の爲に一掃せられたり。〔立神岩〕水川上流の右岸に聳ゆる懸崖にして白岳とも稱し、絶壁高さ八五米、横二三七米、直下深淵なり。磐面に白き巖ありて恰も瀑布の如く、白濁の名あり。岩上に小堂あり熊野神を祀る。〔宮原三神宮〕大字宮原に鎮座。郷社。祭神、國宮立尊、天照皇大神、神日本磐余彦尊。應保元年小松内府の勅請にして、舊稱三宮妙見。例祭、十月二十九日。

ミヤノメ 宮野目村

岩手縣陸中 國科貫郡の中部。花巻町の東北に接す。北上平野のほぼ中部に位し、全村概ね平坦にして北上川は東境を東方に迂回して南流し、瀬川は南部を東南に流れ、北上川に合す。村の生産は農を主とし、米・蕎麦を産し、また蕨を産す。陸羽街道は村の西部を南北に通じ、花巻町へは自動車便あり。省線東北本線花巻線へは南約三軒あり。〔花輪地花菰餅落〕指定天然記念物。大字西宮野目花輪地にあり。本州北部に於ける花菰餅落の代表的密生地にて、花色の變異に富めると時鐘の出現するとは共に學術上有益なるものなり。花色の種々なるは即ち淡紫色、濃紫色、珊瑚紫色に至る紫色群に屬するものと、濃赤紫色より淡赤紫色に至る赤紫色に屬するものとあり。此の中最も多きは赤色花にして、住々色彩の濃艶なるものあり。

ミヤハハ 宮濱村

徳島縣阿波國那賀郡の中部。西は坂州木頭村に、北は福原村に、東は相生・日野谷二村に界し、南は海部郡に隣す。四國山脈中にある山村にして、北端には龍崎岬立して南にその山脚を伸し、東南方には八郎山とその連嶺北に伸び山岳重疊して峻險なる山岳地をなす。中央部を那賀川貫入蛇行しつつ東に貫流す。流域には僅かに河谷開けて米・麥・蕎麦を産す。川に沿うて縣道中米ヤハラに通過しバスの便あり。

ミヤハラ 宮原

〔宮原村〕埼玉縣武蔵國北足立郡の中部。大宮町の北隣にて東北は原市町、北は上尾町と隣す。關東平野内の一部を占め、全村平地にて麥・米を産し、養蠶も行はれて繭の産あり。中山道は大宮町より來り北走して上尾町に入り、省線高崎線これに沿ふも村内に驛なく大宮驛・上尾驛へバスの通す。

ミヤハラ 宮原

〔宮原村〕山梨縣甲斐國西八代郡の西部。富士川左岸の山裾を占むる面積僅か一・二五方軒の山村。村は東より西へ傾斜し西方一・二軒の地を富士川は南流す。農耕・養蠶を主とす。鐵道省借入富士身延鐵道貫通し甲斐岩間・久那土兩驛の中間にありて何れへも一軒前後の距離なり。いま鴨持津向村・高龍澤村と組合村となし、役場を本村に置く。〔後間神社〕宇御領土に鎮座。郷社。祭神、木花咲耶姫命・天照皇大神。天日高彦火々出見尊。例祭、陰曆四月十三日・九月二十日・六月十五日。

ミヤホ 宮保村

石川縣加賀國石川郡の西部。西北の一部は日本海に面す。松任町の西北方約三軒。全村土地平低にして豊潤、殆んど水田をなす。米を主産し海岸には漁業も稍行はる。東南部を縣道と省線北陸本線が共にかすめ過ぎ、後者の加賀笠間驛に最も近し。もと笠島村と稱せしが、明治三十二年宮保村と改稱す。大字小川を舊名小川嶺といひ、壽永二年源平の戦に、平家方大敗、この地に走り、暗夜暴風に遇ひて溺死する者多かりしといふ。〔宮保八幡宮〕大字宮保に鎮座。郷社。祭神、天照皇大神・豐受姫命・八幡大神。舊稱八幡社。もと笠間神社の攝社。例祭、十一月十五日。

ミヤマ 三山村

徳島縣阿波國麻植郡の西部。山瀬村・川田町の南にて、東は學島・東山の二村に、南は中枝村に界し、西は美馬郡に隣す。西南隅には一千米餘の奥野山、西には高越山を聳立して東北に傾斜し、その前方には山岳重疊して高峻なる山村をなす。吉野川上支流は南部の山腹より溪水を集めて北流し、途中にて東方より來る支流を合して西北方に流下す。流域の河谷には少しの耕地

拓かれて農耕をなす外平地なし。産物に米・麥・蕎麦あり。西部に高越山あり。山間の僻村なるため交通は不便、省線徳島本線立派・山瀬驛へ各四軒にして達す。此の地は忌部氏の拓きたる山村なりと云ふ。村名は種野山・川田山・栢山の三村を合せし故に起ると云ふ。〔高越山〕村内に約二八萬坪の鐵區を有し、奥之井川の西岸に位す。鐵區の地質は結晶片岩系に屬する藍閃石・紅燧・綠泥等の片岩の互層狀にある變質岩にして、鐵體は多く綠泥片岩を交代礦化せしめたる變質交代床なれば、綠泥片岩中に脈助す。走向またこの變質岩のそれに隨ふ。昭和十年の産額は含銅硫化鐵一・二、九二五噸、銅鐵八、七六六噸、沈澱銅二噸にして、銅鐵及び含銅硫化鐵鐵の銅分は佐賀關製鐵所に送致して合併製鍊す。當鐵山は明治初年の發見なれども振はず、大正の中頃に富鐵部に達着して發展の曙光を見る。現在日本鐵業會社發行。

ミヤマ 見山村

大阪府攝津國三島郡の北部。茨木町の北方六軒餘に位し、西は豊能郡に、北は京都府南桑田郡に界す。全村低山性の山岳丘陵到處に起伏し、南部には龍王山(五一〇米)の孤峯あり。東境には地獄谷(四二二米)聳ゆ。東部は茨木川が村を貫きて南下す。農産・林産・産畜等を産し工産額最も多し。西南部には縣道通じて茨木町方面へ出でバスの便あり。この地は和名抄、島下郡安

ミヤマ 美山

成郡の内なり。〔美山村〕福島縣磐城國田村郡の北部。三春町の東方約九軒。東南は常葉町に接す。阿武隈山地の西斜面に屬し、東境に移長(九九五米)、南境に愛宕山(五五一米)聳え、西方に傾斜し全村概ね山地をなす。米・蕎麦・粟・粟稗・馬・木炭等を産す。道路は西南部を南北に通じ、南方の片倉根村、東北方の移村へバスの便あり。〔美山村〕岡山縣備中國小田郡の中部。矢掛町の西北に連り、北は川上郡に境界す。東に宇戸村・美川村、西に界村に接す。面積一五・六四平方軒。龍王山(五〇五米)の南麓を占め、村内概ね山地なれども高からず。中央部より西南部にかけて一般に地勢低下す。龍王山麓に耕作行はる。南部山地に鐵葉樹林繁茂す。米・蕎麦の産多く、麥・木炭これに次ぐ。柿・薄荷等を少額産出す。矢掛町へ里道によりバスの便あり。

ミヤマエ 宮前

〔宮前村〕埼玉縣武蔵國比企郡の中部。松山町の西隣にあり。北半は丘陵地にて西北部に二ノ宮山(一三二米)あり。東北境を滑川東南に流れ、南部を市ノ川東流し、兩川の流域一帯には平地開けて關東平野の西の一部をなし、川沿ひに水田多く他は畑地をなす。農産行はれて米・麥を産し、養蠶も盛にて繭の産額多し。縣道は松山町と西南隣の菅谷村に通じ、松

ミヤマギ 三山水村

京都府山城國綴喜郡の西南部。木津川西岸なる純農村。地形西部は生駒山脈の北の連続たる洪積層の丘陵地にて、漸次東方木津川筋に傾斜し、東半平地は肥沃なる山城平野

ミヤマギ 三山水村

の一部分なり。舊奈良街道は府下八幡・淀方より來り、本村の中央を南北に縦貫し、これに併行に鐵道片町線、奈良電と三種の交通線並び通じ交通至便なり。また西方河内方面より、舊鶴城宮の所在地たりし善賢寺村を経て、本村山本より玉水橋を渡り橋氏の故地にして山吹の名所たる對岸井手に至り東國に通ずる東西の通路も早く發達せり。本村は和名抄、綴喜郡山本郷の地、いま大字山本は蓋しその遺稱を傳ふるもの。山本郷は其の發生極めて古く、既に續日本紀に記載する和朝四年始めて設置せし藤原山城國綴喜郡山本郷は實に之なり。奈良の都より那羅山を越えて岡田驛(相樂郡木津町)を過ぎ、三山水村を越え、河内國楠葉驛に至るものにして、當時この方向第一の官道として開け居たるを知るべし。また三代實錄に貞觀十二年綴喜郡山本郷山崩陥の事を記するも本村山本の事なり。單に山本のみならず葉落の發生も極めて古く、山本の南方江津は、古事記開化段に云、山代之名江津比賣は江津の産と言はれ、式内佐牙乃神社は又江津に鎮座す。此等古葉落は何れも條里式村藩にして地割整然たり。〔佐牙神社〕大字宮津に鎮座。村社。祭神、佐牙彌豆男尊(右殿)・佐牙彌豆女神(左殿)。式内社。延暦十三年の創建と云ふ。本殿は國寶なり。例祭、十月十七日。〔善賢寺〕大字三山水にあり。古義真言宗。同蓮山と號す。消草不詳。



ミヤモト ミユキ

もと寺屋敷なる地に在りしも、木津川の  
水害を避けて現在の地に移れりと云ふ。  
千手觀音立像一軀(木像、一に厄除觀音)  
は藤原時代の作にて國寶。

ミヤモト 宮本

【宮本村】 福島縣磐城國東白川郡の東北  
部。石川町の東南約一三軒。東及び東南  
は石城郡、北は石川郡に隣接す。面積一  
四〇・三〇八方軒。阿武隈山地に屬し、東  
北端に芝山(八一九米)・大黒山(七八七  
米)・西北端に入道山(六八七米)、南部  
に三株山(八四二米)聳え、中部にも又山  
頂ありて全村高原状をなし、鮫川は西方  
より來りて北部より支流を合し東南に流  
る。米・藁・馬・木炭等を産す。道路は  
鮫川に沿ひて西より東南に通じ、西北方  
の石川町、東南方の湯本町へはバスの便  
あり。本村の廣覺寺には竹貫氏歴代十二  
基の碑あり、竹貫重光の子に水野尙忠あ  
り、水野氏の子孫今も大字大久田に残る  
と云ふ。(八幡神社) 郷社。祭神、豊田  
別命。康平年中に源頼義の創建といふ。  
竹貫三河守廣光の崇敬厚し。別稱、古殿  
神社。例祭、十月十五日。

ミユキ 幸行

【行幸村】 埼玉縣武蔵國北葛飾郡の北部。  
幸手町の西北端にある小村にて面積僅か  
に三・六九平方方軒なり。北境を榎見堂川  
東流す。關東平野の一部を占め、全村平  
地にて畑地多く農業・養蠶行はれ米・藁・  
麥を産す。縣道幸手町に通じ町にて陸  
羽街道に合す。バスの便あり。幸手町に  
社線東武鐵道日光線幸手驛を置く。(高  
須賀沼) 村内高須賀部落の西方、烏川の  
堤防南側にある沼。幸手町の北三軒。天  
明六年の大洪水の際に榎見堂川遡流して  
堤防を決壊せし時、水波により生じたる  
小窪地に湛水せるものにして、落堀の一  
例なり。海拔九米、面積〇・〇三平方方軒、  
湖岸線〇・九軒、深度六米。

ミユキ ミユキ

【御幸村】 神奈川縣橋本郡にありし村。大  
正十三年川崎町・大野町と合し川崎市を  
置く。

【御幸村】 石川縣加賀國能美郡の西部。  
西北は日本海に臨み、南は江沼郡に界す。  
海岸には二〇―三〇米の砂丘連なり内側  
に今江・柴山の兩湖沼の一部を抱き、東部  
に低き丘陵ありて更に内側の木場沼とな  
り。中央湖沼に平地ありて水田開け、  
砂丘上は森林・如多し。海岸・兩湖沼に  
は漁業行はれ、養蠶を副業とす。國道北  
陸道東部を貫通し柴山沼を圍繞する縣道  
の一部は南部を走り、其他は概ね村道に  
よる。省線北陸本線は東部を控り栗津驛  
に近し。明治四十年、串・佐美・今江の  
三村を合して本村を建つ。村内の御幸塚  
は一に三湖臺ともいふ。如中の小丘に過

ミユキ 御幸

多く發生し、六月二十日頃より七月十五  
日頃までは夜々美觀を呈す。(裏山)  
大字長船にあり。古義前音宗。寶城山西  
方寺と號す。天平勝寶年中鐵匠の開創。  
中古衰微せしを小笠原左近將監長光之を  
再興、住山四方寺慈眼院と號し、近世  
現山院に改む。本尊彌陀三尊。(妙興寺)  
大字福岡にあり。日蓮宗の教團と號す。  
應永十年、日修亡父のため之を創建す。  
爾來寺運隆盛なりしも寛文・延寶の交、  
國守池田氏のため廢刹に歸す。元禄六年  
再興、安永三年現本堂を重建、以て現在  
に及ぶ。本尊三寶。

ミユキ 美谷本村

【御幸】 愛媛縣温泉郡にありし村。大正  
十五年松山市に編入す。

【御幸村】 福岡縣筑後國浮羽郡の東部。  
吉井町の南に接す。南部には耳納山脈の  
東部に屬する山脈が東西に連り北に傾斜  
して中部に斷層を以て移る。北部は筑紫  
平野の東北隅を占むる低平地なり。米・  
麥等を産す。北部には東西に省線久大本  
線の筑後千足驛(昭和六年設置)あり。古  
くは和名抄、生業郡物部郷の内なるべし。  
昭和四年榊子村・浮羽村を合して新たに  
御幸村を建つ。大字流川は間津所氏の舊  
邑とす。大字浮羽は景行天皇筑紫御巡幸  
の際の生業行宮のありし處ならんと云  
ひ、豊後風土記日田郡の條に「昔者日向  
日代宮御宇大足彦景行天皇征伐玖磨嶋  
嶋・凱旋之時幾・筑後國生業行宮・幸於此  
郡」と見ゆ。久留米小史に據れば大字流  
川に井上城あり。三善清行の遠商間注所  
康行、正和二年鎌倉より下向し、當郡を  
領す。其裔孫加賀守親照、大永年中當城  
及び立石城を築く(立石城は井上城の支  
城にして相去ること數町)。親照の子重道  
は大友氏に屬し、其弟阿野重景は秋月權  
實に屬し兄弟相攻撃す。のち共に敗滅し  
城廢す。(楠名重定古墳) 指定史蹟。宇  
朝田に在り。間墳二基小徑を距りて東西  
に相並び、各々後道を入りて前室・奥室  
の兩室より成る石室を有す。東墳に奥室  
より水平に突出せる石室あれど、奥室は

ミヤモト 美谷本村

【御幸】 神奈川縣橋本郡にありし村。大  
正十三年川崎町・大野町と合し川崎市を  
置く。

ミヤモト 美谷本村

【御幸】 神奈川縣橋本郡にありし村。大  
正十三年川崎町・大野町と合し川崎市を  
置く。

本平方向に著しき柱狀節理發達す。ズサ  
川が崩坂の北端にて岩脈を横ざる部分に  
於て殊に偉觀を呈す。(黒平鏡泉) 金櫻  
神社の北六軒、神社より崩坂を越えて行  
く。單純硫黄泉にて加熱浴用。(金櫻神  
社) 大字御嶽組に御座。郷社。俗稱、藏  
王權現。祭神、少彦名神・素戔鳴尊・大  
己貴尊。式内社。日本武尊東夷征伐の途  
次に首領を納めたりと傳ふ。徳川氏十石  
餘の朱印領を寄す。中宮本殿・東宮本殿  
等は國寶にして吉野朝時代の建造と推定  
さる。例祭、三月十一日―十五日・六月  
十五日・十月十一日。

ミヤモト 美谷本村

【宮本村】 三重縣伊勢國度會郡の東部。  
宮川の右岸に沿ひ、北及び東は宇治山田  
市に隣る。東南部は山地の西北斜面をな  
し、東南端に鶯ヶ嶺(五二九米)聳ゆ。山  
麓は中部各所に臺地をなし、其間に低  
地をつくる。宮川は西端に沿ひて東北流  
し沿岸に平野發達せり。生業は純農業に  
して果樹(蜜柑等)の原産地なり。西部  
低地を走る道路にバス通じて宇治山田市  
に至る。省線參宮線山田驛は北方約一五  
軒にあり。往古、一半は神領に他半は紀  
州領なりといふ。(國和神社) 皇大神  
宮。祭神、曾奈比古命。式内社。  
造替使造替六社の一。例祭、二月十二日・  
十一月十二日。

ミヤモト 美谷本村

關東平野内の一部を占め全村低地にて灌  
漑の便よく、水田多し。農業行はれて、  
米を主産し、東部には畑地ありて麥の産  
あり。養蠶また盛にて繭の産多し。縣道  
は北走して浦和市に通じバスの便あり。  
また横走するものは、東は蕨町、西は志  
木町方面に通ず。蕨町には省線東北本線  
蕨驛を置く。

ミヤモト 美谷本村

【御幸】 神奈川縣橋本郡にありし村。大  
正十三年川崎町・大野町と合し川崎市を  
置く。

ミヤモト 美谷本村

【御幸】 神奈川縣橋本郡にありし村。大  
正十三年川崎町・大野町と合し川崎市を  
置く。



殊に顯著なるものなり。即ち奥室右壁に朱にて上下二段に觀の圓象並列して描かる。西墳石壁は一面朱を塗抹せるのみにて圓象等は見られず。(塚花塚古墳) 指定史蹟。宇朝田家花にあり。圓墳にして後道は西に開口し石室は二室に別る。玄室の奥壁は全面に互りて朱と藍の二色を以て巖形を美化せし模様を上部に描き、下に大小の重圓及び三角形等を配列し、また楕圓の如き圓象をも加へて描きたるものなり。前室入口の柱状の石材に扉の設備ありし痕跡を示す。

【御幸村】 熊本縣肥後國鹿野郡の東南部。東南隅は熊本市の南隅に接す。全村地形平坦にして数條の細流が村を流して西に流る。南方〇・五軒たらずの地を緑川が西流す。農業を主産業とし米・麥其他野菜を産し養蠶亦盛なり。養の特産あり。社線唐橋道の田邊驛(東北約〇・五軒)及び中ノ瀬驛(東方一軒たらず)に近し。明治廿五年特別大演習の際、明治天皇この地に行幸御幸御立所として指定史蹟たり。村民は之を永く記念せんがため、同廿六年郡町村を改めて御幸村と稱す。

【三ノ代村】 福島縣岩代國安積郡の西部。北は月形村、東は中野村、西は福良村に、南は岩瀬郡長沼町に接す。南北に長く約八軒、東西三十四軒あり。四境殆ど山に圍まれ南境に勢至堂(七四一米)・西南境に高井原山(九八一米)等あり。

妙義町より山頂迄約五軒、金鶏山は同じく妙義町より山頂迄約六軒にして連す。妙義三山廻りを完了するには二日乃至四日を要すれども、各峯は夜行列車を利用すれば日歸り可能なり。釜ヶ淵山・金鶏山(群馬縣) 【妙義町】 群馬縣上野國北甘樂郡の北部。妙義山東麓にて、北は碓氷郡白井町・松井田町等と隣す。西境には妙義山(一一〇四米)・白雲山(一〇八一米)等聳え、町の西半はその東斜面をなし、南境には大折山(八三六米)ありて東境はこれに續く山地をなし、町の東半はその西斜面を占む。中央部はこれ等兩山地の揚合にて傾川東北に流る。川沿ひに狭き耕地ありて米・麥を産す。縣道また揚合を南北に走り、北は松井田町に通じ、同町に省線信越本線の松井田驛ありてバスを通ず。また南は約六軒の下仁田町に通じ、東は傾川に沿ひて富岡町方面に至る。町は妙義神社の門前町、妙義山への登山口として發達す。(妙義神社) 妙義に鎮座。郷社。祭神、備前命。相殿、權大納言長親外二柱。飲明天皇御宇の創建と云ふ。或は長親または法性房草堂を開創者に據する説あり。例祭、十月九日。(妙義神社の大杉) 指定天然記念物。一株。日通幹圍約一〇米、直幹屹立、樹勢旺盛、杉の五樹として有数のものなり。

【妙見山】 大阪市の北方一九軒前後に當り、北方猪苗代湖に向ひて低夷するも、なほ北境に高森山(七五七米)あり。南部山地の水は北流し舟津川となりて湖に注ぎ、下流沿岸に耕地ひろく。米・麥・蕎麥の産あるも、養蠶盛かならず。茨城街道は中部谷沿ひに走り北西は三王坂を登りて若松市方面に、南は勢至堂峠を経て白河方面に通ず。勢至堂峠は戊辰の役に會津軍が官軍を迎へて苦戦したる地として名高し。この地は和名抄、會津郡菱方郷の内にして、明治廿五年、箕輪村を三代・中野の二村に分けて置けるもの。 【三ノ代村】 名荷村 廣島縣安藝國豊田郡の南海上、三原市の南方瀬戸内海上の生口島の東北部に位し、北は海に面し、東は水道を隔てて因ノ島に對す。西は御調郡中庄村、南は同郡三庄町に接す。面積四・八九方軒。地形略ぼ方形、傾斜す。村内概ね山地にて沿岸に小平野を有するのみ。水田少く畑地稍多く、果樹を多く栽培す。農産物と水産物の産額略ぼ相等しく、米・麥・果實・蠶・鮭等を産し木炭・清酒之に次ぐ。尾道市へ定期航路あり、中庄村へ渡船の便あり。

り、大阪府豊能郡東部・東龍勢の二村と兵庫縣川邊郡東谷村との境上に位する山。南方に川尻山(六四〇米)續く。標高六六二米。山頂に妙見堂ありて妙見菩薩を安置す。いま西口はケーブルカー、東口はバス頂上迄通じ、阪急電鐵のハイキングコースの一とせらる。 【妙見山】 白山火山脈の一峯。兵庫縣城崎郡豊岡町の南西方二軒前後に當り、養父郡關宮村・八咫町と美方郡見島村との境上に位す。標高一四二二米。山體は第三紀層より成り、山頂部には山毛櫨及び老杉茂る。北方は金山最高點を経て蘇夫岳(二〇七五米)に續き、南西方は鉢伏山(一一二二米)に達す。北東麓に名草神社鎮座す。近時、中國地方に於けるスキーゲレンデとしてその名を知られ、好キロープアは興隆深し。

【妙見洞】 私設鐵道。兵庫縣川邊郡東谷村にあり。瀬谷驛に發し中間驛を経て妙見山驛に至る。一四軒。省線と非連帯にして動力は電氣、軌間は一・四三五米とす。 【妙見洞】 無本縣天草郡の指定名勝。地城は高濱村・小田村・下田村の三村に互る。天草西日海岸の代表的風景地にして石崖片岩より成れる南部十三佛附近の外は、第三紀始新統の砂岩・礫岩の層層より成る。海岸には高さ二〇米より八〇米に及ぶ斷崖相接し、妙見崎と蓬萊島附近に

一支流東流す。山地一帯森林多く、川沿ひに水田、東部に畑地ありて農業行はれ米・麥を産し養蠶も盛なり。又、絹織物の製造行はる。縣道四方に通じ、北は小川町、南は越生町に至り、共にバスを通ず。省線八高線は東部を縱走し、明覺驛(昭和九年設置)を置く。この地は往時、妙覺郷と稱せし地なり。

【妙義山】 那須火山帯淺間火山群に屬する一峯。群馬縣北甘樂郡の西北部に起り北方は碓氷郡の西南部に達し、北甘樂郡妙義町・小坂町・西牧村と碓氷郡白井町・松井田町の五箇町村に互る。古より権名山・赤城山と共に上毛三山のひととして數へられ、山勢秀拔、巖々たる奇峯天表に聳え、神奔鬼墜を極めたる尖峯は昔く人口に膾炙し、信越鐵道部・松井田・横川驛附近西方の車窓近くその山姿を窺見し得らる。妙義山は三聯の山峯より成り、東南部を金鶏山、東北部を白雲山、西部を金洞山と呼ぶ。金洞山は東方より望むと、金鶏・白雲の中間に見ゆるにより中ノ岳ともいふ。この山第三紀層に屬する凝灰岩と凝灰質泥岩とを基底とし、その上は集塊岩(西南方笠船山を構成すると同種のもの)にて被る。凝灰岩はその獨特の岩質と東西に走る垂直の割れ目に應じて時々、輕弱部は崩壊し、終に今日見る奇峯を形成するに至れり。又一説に妙義は一箇の獨立せる火山體にして、

は大小の島嶼岸に接して聳布するあり。島上・崖頭には老松參差として風趣を添へ、崖下には到る處陸起海岸の高き三米に及ぶ低段丘を成りて相連るを見る。暗黒なる石崖片岩より成る部殊に異彩を放つ。妙見崎には妙見洞門及び妙見洞窟あり。前者は高さ二〇米、幅八・五一二〇米、長さ五〇米に及ぶ大洞門にして容易に小舟を通ずべく、又交せる三條の斷層に沿ひて生じたる波瀾洞門なり。後者は交又せる三條の斷層に沿ひて生じたる狭長なる三箇の波瀾洞窟が内部にて相通じ一洞窟を成せるものにて其の形甚だ奇なり。兩者とも斷層と波瀾との關係を明瞭且つ巧妙に示せる點に於て罕に觀る所とす。また妙見窟は砂岩の厚層中に生じたものなるも、洞内には大小の鐘乳石懸垂して甚だ奇觀なり。蓋し砂岩中に石灰分を含める部分あるに由るならん。

【妙義山】 朝鮮の北部に於て略ぼ平安南・北兩道の境界線上を走る山脈。狼林山脈の南縁に起り狼林山(二〇一四米)より西南方へ走りて舞臺峯(一七六二米)・妙香山(一九〇九米)等を聳立せしめて清川江畔に達するものを主脈となし、餘勢更に西南に延びて龍門山(一一八〇米)・

【妙香山】 朝鮮の北部に聳ゆる名山。古くは太白山と稱し、朝鮮四大名山の一。平安北道熙川郡眞面・南面及び寧邊郡北新觀面・百嶺面と平安南道寧邊郡太極面等に跨る一大山體にして、最高峯は思慮峰と稱し南面・眞面・北新觀面の境上に位し標高一九〇九米あり。山脈南に走りて七尾峰(一八九四米)・降仙峰(一六一三米)等を境界に連れ、これより二股に岐れ西走するものは虎狼嶺を経て兄弟峰(一二二九米)に達す。思慮峰より西走する山脈は香爐峰(一六〇〇米)・法主峰(一三九一米)となり、以上諸峰を以て謂ゆる妙香山となし、之等は北新觀面の東部を圍みて馬蹄狀を呈す。なほ思慮峰の北段は芙蓉峰(一四三二米)・東段は仁遠山(一六九四米)・白崖山(一五二四米)に達し、諸峰いづれも峻嶒を極む。此山にまた西北の清川江、東南の大回江の兩水系を分つ分水嶺あり。法主峰南麓に名刹普賢寺あり、現存の堂塔數十棟、末寺八十箇所に及び法燈を守る僧侶凡そ二百名、大雄殿・冥府殿・如来塔・萬歲樓等は何れも由緒ある歴史を有する半島稀に見る珍寶とす。寺の背面に龍潭・天神瀑等

【妙香山】 朝鮮の北部に聳ゆる名山。古くは太白山と稱し、朝鮮四大名山の一。平安北道熙川郡眞面・南面及び寧邊郡北新觀面・百嶺面と平安南道寧邊郡太極面等に跨る一大山體にして、最高峯は思慮峰と稱し南面・眞面・北新觀面の境上に位し標高一九〇九米あり。山脈南に走りて七尾峰(一八九四米)・降仙峰(一六一三米)等を境界に連れ、これより二股に岐れ西走するものは虎狼嶺を経て兄弟峰(一二二九米)に達す。思慮峰より西走する山脈は香爐峰(一六〇〇米)・法主峰(一三九一米)となり、以上諸峰を以て謂ゆる妙香山となし、之等は北新觀面の東部を圍みて馬蹄狀を呈す。なほ思慮峰の北段は芙蓉峰(一四三二米)・東段は仁遠山(一六九四米)・白崖山(一五二四米)に達し、諸峰いづれも峻嶒を極む。此山にまた西北の清川江、東南の大回江の兩水系を分つ分水嶺あり。法主峰南麓に名刹普賢寺あり、現存の堂塔數十棟、末寺八十箇所に及び法燈を守る僧侶凡そ二百名、大雄殿・冥府殿・如来塔・萬歲樓等は何れも由緒ある歴史を有する半島稀に見る珍寶とす。寺の背面に龍潭・天神瀑等



あり。其の水は東方虎嶺下に發する香  
山川に入りて清川江に合す。香嶺の西  
南段には檀君宮あり。太古檀君の降誕せ  
る靈地なりと傳ふ。登山は清川江左岸の  
滿浦本線妙香山驛にて下車、これより香  
山川を渡る。六軒にして普賢寺に達す  
るを便とす。

ミヨコ 妙高山

富士火山  
帯に属する一峯。新潟縣中頸城郡の南西  
部。關山・杉野澤・名香山の三村境上に  
峙つ二重式消火山。南方に黒嶺(二〇五  
三米)・飯綱(一九一七米)の二火山、北方  
に火打火山群噴起し、相連りて一火山圓  
を形成す。基底は新第三系、外輪山なる  
神奈山(一九〇九米)・大蔵山・尾岳・赤  
倉山(二四一四米)・前山(一九三四米)は  
輝石安山岩と斑岩安山岩より成り、成  
層火山を形成し、直徑約三軒の圓形カル  
デラを圍み、内に中央火口丘妙高山(一  
に心岳とも稱し、標高二四四六米)を峙  
たしむ。通常妙高山と呼ぶはこの中央火  
口丘にして輝石角閃石安山岩及び合角閃  
石斑岩輝石安山岩より成り、鐘狀丘を  
なし、山頂部に東向の爆裂火口を有す。  
この山形富士に似たるを以て一に越後富  
士とも稱せられ、外斜面は自然の傾斜を  
なせど内側は懸崖絶壁をなし、底部には  
盛夏も尙積雪を留む。山頂部には奇峯怪  
石突起し、其間に美しき高山植物の繁茂  
を見る。火口原は環狀の谷を形成するも  
廣からず、この谷の水は集りて東方に二

箇の火口湖を作り、大田切川・白田切川  
となりて東方に下り、いづれも北流する  
關川に入る。中央火口丘より的小溪は集  
りて稱名湖となりて大田切川に落つ。中  
央火口丘と尾岳との間は礫研狀の深谷を  
なし、一小火口原湖を湛へ、その水は上  
ノ總温・下ノ總温となり、その下流は稱  
名湖の餘流を合せ外輪山を成り、裾野に  
下るところに不動の大瀧を懸け、遂に東  
流して關川に下る。裾野は廣大にして特  
に南方より北東方に向けて最も良く發達  
し、草原渺茫たり。南東方は袴岳(一一  
三五米)との裾合に連り、その間に關川  
流れ、北東方は燧火山群の裾に續き、そ  
の間に關川支流小田切・郷田切・大田切・  
湯川等の諸川放射狀に走る。西方は燒山  
(二四〇〇米)の餘脈に連られ面積は廣か  
らず、北西方に少しく隆起するは黒澤岳  
(二二二二米)にしてその東側に黒澤の池  
を湛ふ。山中諸處に噴氣洞と温泉あり。  
外輪山の南側なる赤倉山の内側なる噴氣  
洞を南地獄と稱し、北方なるを北地獄と  
いふ。池ノ平・赤倉・燕・關・妙高等は  
西方山脈・山麓に散在する温泉にして、  
夏季は避暑に適し、冬季はこの附近著名  
なる豪雪地のことと積雪三米以上に達  
し我國有数のスキー地となり、以上温泉  
はその良き根據地をなす。登山路は東方  
信越本線口驛下車、池ノ平温泉を経て  
登るもの、又同じく口驛下車、赤倉温  
泉に至り、ついで登頂するもの、同じく

關山驛下車、關温泉・燕温泉を経て連頂  
するもの三あり。山頂よりは展望雄大  
にして北方は外輪山神奈山より次第に低  
夷する山波のうねり、その彼方に高田市  
と日本海を窺み、遠く海上に浮ぶ佐渡ヶ  
島をも眺め、東方は野尻湖より袴岳・斑  
尾山(一三八二米)を眼下に指呼し、南東  
方には、富士山・淺間山・八ヶ岳等を遠  
望し、東方より北方にかけては白根山・  
岩菅山・苗場山等の連綿するを見、南方  
間近に戸隠連山の諸峯に接し、西方は白  
馬岳より立山・槍ヶ岳北アルプス一帯を見  
渡す。尙この山は古の越の中山にして、  
中山を名香山と書き之を音讀しミヨコ  
トとなれりと云ふ。今も山麓に名香山村  
の名稱残る。

ミヨコサン 妙香山

朝  
鮮總督府鐵道滿浦本線の驛(昭和五年  
設置)。平安北道熙川郡北新觀面にあり。  
靈峰妙香山(その項参照)には此處より五  
里。

ミヨコジ 妙興寺

愛知  
縣中島郡にありし村。明治三十九年他の  
五箇村と共に廢し新安賀村を設く。のち  
新安賀村は大和村と改む。

ミヨサイ 名西郡

徳島縣  
(阿波國)一市十郡の一。東は名東郡、西  
は麻植郡、北は板野郡に界し、南は野田・  
海部二郡に隣接す。面積二二・五九方  
軒。南は劍山山脈の地を占め一千米餘の  
山岳重疊して聳立し、秀嶺連互して高峻

なる山地をなし中央に下る。結城川の  
下流、南部山地より源を發し東北方に流下  
して宋は吉野川に注ぐ。北部は吉野川右  
岸の沖積地を占め、低平にして地味肥沃  
なれば耕地よく拓けて農業行はる。山地  
よりは林産物を出す。省線徳島本線は北  
部平野を横斷し之に並行して伊豫街道通  
る。本郡は古の名方郡の西部に當る。名  
方の名稱は諏訪明神なる健甕名方官命の  
名方より起れりといふ。續紀、神護景雲  
元年三月の條に始めて名方郡の名見ゆ。  
寛平八年分けて名東・名西の二郡とす。  
名西郡は和名妙に填土・高足・土師・櫻  
間の四郷を擧ぐ。而して古くはナカヨシ  
と呼びしものならんも、今はミヨサイ  
と改む。

ミヨサン 妙山面

朝鮮慶  
尙南道臨川郡の北部。臨川面に北接し、  
東は慶尙北道高靈郡双林面、北西は居昌  
郡加神面と界す。東西約九軒、南北は平  
均七軒あり。四境山を以て繞らし、西北  
部郡界に斗雲山(一〇三九米)・普道山(一  
一三〇四米)・雙々、南境には萬代山(六八  
八米)・南境には馬嶺(五一二米)あり、城  
内の諸水は東北に流れて安林川となり、  
萬代山西麓の流域に平地の見るべきもの  
あり、田畑ひろく。米・麥・大豆・蕎麥  
を産す。中部を淡谷に沿ひて臨川・居昌  
間二道道路通じ、中央の山脈より東北  
方に高靈街道を岐ち、いづれもバスの便  
あり。

ミヨジ 妙寺町

和歌山縣紀  
伊國伊都郡の西北部。葛城山脈の南斜面  
に位して紀ノ川の北岸に沿ひ高野町町の  
西に接す。北は山嶺を隔てて大阪府南河  
内郡に界す。北境には葛城山脈連り南に  
傾斜す。紀ノ川は南境に沿ひて西流し沿  
岸に平野發達す。北部は山林に掩はれ南  
部の平野は地味肥沃にして米・蕎麥を産し  
繭桑・水産・畜産もあり。村内には製絲  
工場等ありて工業頗多し特産には柑柿あ  
り。南部には伊勢街道及び省線和歌山線  
が東西に走り後者の妙寺驛(明治卅三年  
設置)あり。明治四十三年町制を布く。  
本町出身の歴史的人物に菅文三(正五位)  
あり、陸軍歩兵中尉にして、明治三十三年  
北清事變に出征し戦死す。

ミヨジ 明星

箱根火山東部外輪山の一峯。  
【明星ヶ岳】箱根火山東部外輪山の一峯。  
東側は神奈川縣足柄上郡足柄村外八箇村  
入會地に、西側は宮城野村外七箇村入會  
地に屬す。標高八二四米。北西方に同じ  
く外輪山の一峯、明神ヶ岳(一一六六米)  
連り、西麓は早川流域をなす。  
【明星村】三浦縣伊勢國多氣郡の東北部。  
宇治山田市の西北三軒餘に位し、東及び  
南は度會郡に圍まる。南隅に五〇米程度  
の丘陵の北麓が僅にある丘が概して地  
形低平なり。米・麥・粟・稗・林産等を出  
す。社線多氣急行電鐵伊勢線の南明星驛  
(昭和五年設置)を置く。この地は和名抄  
多氣郡有武郡の地なり。※有武 また伊

勢多宮の街道にあり、明星が茶屋と呼  
ぶ茶屋のありし處なり。西朝職留・四つ  
野が原明星が茶屋こそおかしけれ、いつ  
とも振袖の女赤根染のうら付たる木綿  
着物を、黒茶にちらし形付ねばひとりも  
なし、扱日本に愛の女程白粉を付る所又  
もなし、同じ出茶屋の女の風俗佳吉とは  
是各別の事也、所によりて伊勢灘波の替  
りあり、愛に心を留るにもあらず旅のし  
ばしの慰みぞかし、伊勢講并參宮儀式・  
三・明星が茶屋。參宮の人に清めの茶を  
すすむる也、所のいひ傳へには、明星あ  
まくだり愛の水を清め與へたる故、清め  
の水にて茶を煎じすすむといへり。

ミヨジ 大神

若松市の南西方約一六軒、  
【明神ヶ岳】若松市の南西方約一六軒、  
福島縣大沼郡尾坂・東川の二村境上に峙  
つ。標高一〇七四米。山體輝石安山岩よ  
り成る。北方に高尾嶺(八六九米)、南方  
に大向山(一〇四四米)連る。山中伊佐領  
美明神の鎮座ありしに因り山名出づ。農  
民は旱天にはこの山に登り雨乞ふと云  
ふ。  
【明神ヶ岳】箱根火山北東部外輪山の一峯。

ミヨジ 明神

神奈川縣足柄上郡四本村外六箇村入會地  
と宮城野村外七箇村入會地との境界に跨  
る。標高一一六六米。頂上に秩父宮殿全  
御登山の記念碑建つ。山上よりは箱根金  
山・富岳・相模灘の展望佳なり。山頂に明  
神祠あるに因り山名出で、また湧泉あり  
てキヤンプに適す。南東方に同じく外輪  
山の一峯明星ヶ岳(九二四米)連る。北東  
斜面南足柄村字最乗寺より登高、南麓早  
川の流域宮城野村に下降す。※箱根山  
【明神ヶ岳】穂高岳(岐阜・長野縣境)の一  
峯。  
【明神山】愛知縣北設楽郡三輪村の北嶺  
にして、本郷・御殿の二村にも延ぶ。標  
高一〇一六米。山體石英粗面岩より成り  
山中に奇石多く、乳岩・胎内滑・石橋等  
あり。別所街道は北・東南麓を廻り、風  
來寺鐵道は南麓より別所街道と南西方に  
並び通じて豊橋市方面に至る。  
【明神村】和歌山縣紀伊國東牟婁郡の南  
部。古座川に跨り東は高池町・西向町に  
接し、南は西牟婁郡本町に界す。四周  
山岳に圍まれ、北部中央には六郎山(三  
六三米)廣く崎居し、東北隅には鳥居森  
山(四五七米)あり。兩山地の間を小川が  
屈曲しつづ南下し、六郎山の南麓に沿ひ  
て中部を東流する古座川に合す。西南境  
には華ノ山笠伊。米・蕎麥を産し林産・水  
産・畜産あり。特産には柑柿を出す。古  
座川及び小川の河谷に沿ひて通ずる縣道  
あり、東隅の川口より古座町に達するバ

スあり。  
【明神山】四國の南東端、徳島縣海部郡  
阿部村の北嶺にて北南は那賀郡椿村に互  
り標高四四二米、山體秩父古生層より成  
る。南麓は太平洋の波浪に洗はる。  
【明神村】愛媛縣伊豫國上浮穴郡の西北  
部。久万町の北にあり、東は川瀬村、西  
は父二峰村に界し、北は温泉郡に接す。  
東北に聳ゆる鳳嶺の連綿は東部を走り、  
また西部も桂ヶ森を主峯とする山脈は西  
境を走りて何れも中央部に傾斜し狭長な  
る平地を作る。平地は地味肥沃にして耕  
地良く發達す。農業よく行はれ米・麥・  
蕎麥の産多し。中央平地を南北に土佐街道  
通り西北方松山市と久万町を經て高知市  
とを連絡す。久万町・松山市へバスの便  
あり。村内に大除城址あり。天文・天正  
の頃、大野山城守直昌これに據り、阿野  
氏のために土佐の軍を拒みたり。

ミヨト 名東

【名東】明治の初め阿波國に置きし縣。  
徳島藩を廢して縣とせる徳島縣を明治四  
年十一月廢して徳島に本縣を置き淡路・  
阿波二國を管す。明治六年二月に至り本  
縣は香川縣を併せ讃岐國をも管せしが八  
年九月には香川縣を復活す。明治九年八  
月本縣を廢し阿波一國は高知縣に移管し  
淡路國は兵庫縣に移管す。  
【名東郡】徳島縣(阿波國)一市十郡の一。  
縣の東部にあり、徳島市を圍み、北は板  
野郡に、西は名西郡に、南と東の一部は



勝浦郡に昇し、他は紀伊水道に面す。面積一七・九一方軒。南部は剣山山脈の東部に位し、数百米餘の山岳を呈して高峻なる地形をなし中央に下る。北部は徳島平野の一部にして吉野川下流の地を占め、平坦且つ肥沃なれば農産物多し。省線徳島本線は北部平地を横断し之に並行して伊豫街道走る。省線牟岐線は国道土佐街道と並行して東部を南走す。本郡は古の名方郡の東部に當る。名方の名稱は諏訪明神なる健御名方富命の名方より起れりといふ。續紀、神護景雲元年三月の條に始めて名方郡の名見ゆ。寛平八年分けて名東・名西の二郡とす。名東郡は和名抄に名方・新井・賀茂・井上・八萬・殖粟の六郷あり。而して古くはナカマヒガシと呼びしものならんも、今はミヨトトと謂ひ。

**ニホーホー 妙法山** 白山火山群の一峯。白山の北東約一〇軒。東面は岐阜縣大野郡白川村、西面は石川縣石川郡吉野谷村に屬す。標高一七七六米。山麓は石英類面岩より成る。北麓には野谷山(一七九七米)、三方岩(一七一六米)、鷹巣山(一六三七米)連り、東麓は北流する庄川に隔ち、西斜面より發する淡川は西流して手取川支流の尾添川の上游をなす。

**ニミサキ 御代咲村** 山梨縣甲斐國東八代郡の東部。甲府盆地の東南邊を占む。村の東南隅に建彦山(一三六二米)聳えて西北へ次第に傾斜し、金川の扇状地に終る。金川は西南境を西北に流れ笛吹川に合流す。西北部扇状地帯には水田・桑園開け、山地は森林多し。藁・桑を主産し米・麥これに次ぐ。村内諸部落を結ぶ里道あり、西南境に近き縣道に出で省線中央本線石和驛へ約八軒、バスの便あり。本村は石屋村と組合町村をなし役場を本村に置く。(廣嚴寺)大字中澤にあり。曹洞宗にして本尊蓮華作樂觀世音、脇土不動・毘沙門天。妙龜山と號す。開山は雲中宗庵和尚、開基は古風對馬守。文明年中武田信昌、寺領を寄進し、當山は本郡四周の中央にあるを以て中山廣嚴寺と號す。中興開基を武田晴信とす。維新前は古府中の大泉寺と隔年に甲斐曹洞宗八百餘寺の管轄司たり。(樂音寺)大字鹽田にあり。臨濟宗。誓王山と號す。開基は鹽田の長者(推古朝の人)。妙龜山持音寺と號す。嵯峨天皇の朝歌樂の功により誓王山の勲額を賜ふ。中興開基は大覺禪師。本堂は慶長年中風爛のために倒潰す。境内に神代宮あり。

**ニミヤ 三次** 東西の水を兼ね合して西北流し梓川に入る双子河状の一支流。この流域に狭き平地あり、粟落散在す。山裾の傾斜面には概ね桑園、河岸には米・麥の耕作地あり。藁を主産し、郡内織の家内工業も行はる。社線富士山麓電鐵の谷村町驛へ約二軒。

**【三吉】** 廣島縣深安郡にありし村。大正二年福山町(大正五年市制を布く)に合併す。

**【三次町】** 廣島縣備後國雙三郡の中西部。可愛川・馬洗川・西城川の合流點に位し、西に可愛川を以て高田郡に界す。南及び東は十日市町、北は河内村と接す。面積六・二三方軒。可愛川は西境を南流し、西條川は北より、馬洗川は東より之に合す。三次盆地は沿岸に展げ、市街地は西條・可愛川の間に發展す。盆地の四方は山脈に圍繞され、濃霧多く霧ノ海の名あり。水利に富み耕種地長く拓けたるも古來商業に榮えし城下町にして、現在製絲業最も盛なり。米・麥・藁・木炭・木材・家畜類・川魚等の産又多し。省線備後線の三次(大正四年設置)・備後十日市(昭和五年設置)の二驛は共に對岸十日市町にあり。縣道を以て三良坂・吉田・庄原等へは自動車の便良し。また河川には舟楫の便もあり、町の名物に霧の海あり、夏秋の頃、快晴の日ば夜半より朝十時頃まで濃霧が盆地一帯を蔽ひ、波浪狀

にうれる丘陵の頭のみ雲海の上に黒く残り、極めて壯觀を呈す。古く天正の頃三吉氏が今の三次町上里の比羅山に居城を構築せしが、のちこれを廢す。福島正則が安藝・備後を領せし頃は其の家臣尾關正勝をして守らしむ。その居館は今に公園となる。その後は淺野氏の邸が此地を治めて維新に至る。夏は江川に鴨飼が行はれ、六月一日より九月末日が遊覧の好時期とす。尾關山は標の名所なり。また町内に赤穂淺野氏遺臣菅谷半之丞の寓居甲斐庵、頼春坪の住宅運地庵存す。

**【社會建造物】** 頼春坪が朱子の社會法に倣ひ備後備前のために設けし倉庫にて、江戸時代後期には藩内刻る處に設けられしが、現存するものとしては全園唯一にて建物は今相當に腐朽す。(照林坊)眞宗本願寺。明鏡山と號す。元應二年明光房了圓が沼隈郡山南村に光照・照林の二寺を建立せしに創り、のち福島氏領主となるに及び寺領沒收の事ありしも、慶長七年祐明により現地に再興さる。

**【三次盆地】** 中國山脈中の一盆地。廣島縣雙三郡の中央西部に位す。盆地の西邊に於て西條・馬洗・可愛の三川合して江川となりて西流す。盆地の中心を流はる三次町にして、江川に依りて石見に出づる舟楫の便を有し、生糸・酒・木炭を主産す。また當盆地は高原上の盆地なるため気温低く夏より秋にかけて濃霧多し。通常夜半より午前十時頃にかけて霧起り、

盆地一面白波々、遠近の山頂のみ窺も鳥翔の如く浮ぶ。これを霧の海と稱し遠近より見物に来る者多し。

**【三次川】** 山陰の大河南なる江川の上流をなすもの。廣島縣東部山地の甲奴郡矢野村附近に發し、西北に流れて三次盆地に注入し、三次町附近に於て西條川・吉田川と合し江川となる。延長約三〇軒。下流部は尾道より三次を経て石見に出づる石州街道通じ、吉令・三良坂等の町が發達す。

**【三次郡】** 備後國(廣島縣)の古郡名。和名抄は美與之と註し、上次・下次・播次・布勢の四郡を擧ぐ。拾芥抄に三美とあるは誤なるべし。三次は後世、三善・三好・三吉等に作り、寛文以後また三次を用ふるに至る。明治三十一年廢郡、三好郡と合し雙三郡となる。

**ニミヤ 三好** **【三好村】** 青森縣陸奥國北津輕郡の西部。五所川原町の西北約六軒。西は岩木川を隔て西津輕郡に接す。津輕平野の北部に位し、岩木川は西境を、その支流十川は東境を各北流し北端部に於て合す。村の四周は東南境を除く外概ね兩川によりて圍繞せらる。土地平坦なり。村の生業は農を主とし、米を産す。省線五能線五所川原驛へは約六軒。また岩木川に舟運の便あり。

**【三好村】** 栃木縣下野國安蘇郡の中部。田沼町の北隣にて、東は葛生町と隣す。

尾尾山塊一支脈の南部を占め、西境には約三五〇米、東境には約二〇〇米の山地連り東西より村内に傾斜し、中央はその幅合にて野上川南流す。川沿ひに細き平地ありて農業を主業とし、米・麥を主産す。特産物として、百合・藁・大麻・石灰・砂利等あり。縣道は川沿ひに南流して田沼町に通じ、同町に社線東武鐵道佐野線田沼驛を置く。主なる産物はこの縣道に沿ひて發達す。古くは和名抄、安蘇郡麻績郡の内とす。尊徳の志士にして筑波山の義舉に應じて奮戦せし龜田徳三郎・龜山勇右衛門(共に贈從五位)はこの地の人とす。

**【三好村】** 愛知縣三河國西加茂郡の西南隅。岡崎市の西北一五軒。北は保見村、東は津島町、南は碧海郡高岡村・富士松村、西は愛知郡東郷村・日進村に接す。村は洪積層より成りて、西部には境川流れ、尾張・三河の境をなす。また逢妻川も此地に發し高岡村方面へ南流す。本村には保田ヶ池・大池・曲り池などあり。保田ヶ池は補助池に新池あり、曲り池には下の池・中池・新池の三補助池あり、何れも洪積層の臺地上的の灌漑に便す。産業は溜池灌漑による水田と洪積臺地には桑園多し。其他、竹材・耐火粘土等を産す。交通はさして發達せず、鐵道は津島町に出づるを便とす。本村附近は和名抄に見ゆる碧海郡十五郷の一、藤野郷の地にして大字葛生町、古墳ありてあざぶ

塚と云ふ。その邊を葛生谷と稱す。東北方面の細谷には石炭露出され、大字福田の域には天文・永祿の頃、精屋宗則居住し、のち原田氏重代り、數度織田・徳川の爲に攻めらるると云ふ。大字三好には佐久間大膳亮の居城といふ古城址あり、大字明知には原田親種住あり。

**【三好郡】** 徳島縣阿波國一市十郡の一。縣の西端にあり、郡形は扇面狀をなす。北は香川縣に、西は愛媛縣に、南は高知縣に隣し、東は美馬郡に界す。面積五一〇・三五方軒。南は四國山系の諸山脈東西に走り、峻險なる山岳地帯をなし、北部にも讃岐山脈之に並行して走り高峻なる連峰聳立す。兩山脈の間は斷層して樹形の谷を開き所謂徳島平野の西部尖端を形成す。屈曲しつつ北流する吉野川は四國山脈を横斷する際、大步危・小歩危の奇勝をつくり、西方より来る伊豫川、東方より来る祖谷川を合せて北西部池田町附近にて九十度轉回して東に折れ、全く山地を離れて、一路從谷平野を流れその左岸に段丘を造る。流域の平地及び山麓下に發達せる扇状地には農耕行はれ粟・麥・藁等を産す。山地は林産を出す。鐵道は吉野川南岸に並行し省線徳島本線通じ、池田町に至りて北方より来る省線土讃本線に連絡す。本線は更に吉野川に並行して南走し高知市に至る。之に並行して國道通り、池田町にて吉野川南岸の伊豫街道と交叉し又北岸を走る撫養街道と連絡

す。三代實録貞觀二年の條に阿波國美馬郡を割きて三好郡を置くと見ゆ。和名抄は美與之と註し、三美・三津・三野の三郷を擧ぐ。

**【三好山】** ↓三庄村(徳島縣)

**ニミヤ 三芳** **【三芳村】** 埼玉縣武藏國入間郡の東南部。川越市の南方約九軒にて、東南は北足立郡大和町と隣る。武蔵野臺地の一部を占め、全村平地にて畑地多く、所々に林を交ふ。甘藷・米・麥を産し、西部には茶畑も多し。養蠶も行はれて藁の産多し。縣道川越市に通じ自動車の便あり、また西南に走るものは所澤町に通ず。東北隣鶴瀬村に社線東武鐵道東上線鶴瀬驛あり。

**【三芳村】** 愛媛縣伊豫國周桑郡の北部。東は鹽津に面す。壬生川町の西北方約三軒、高尾半島頭部の東麓下に展開せる低平なる沖積平地の一部を占む。従つて土地平坦にして耕地よく拓け米・麥・藁等の産あり。西部に縣道走りて南方壬生川・丹原二町及び北方櫻井町と連絡す。丹原町にバスの便あり。村落は西部に聚る。その東側を省線豫讃本線通過して伊豫三芳驛(大正十二年設置)を置く。

**【三芳村】** 大分縣豊後國日田郡の中部。玖珠川の右岸に沿ひて日田町の東南に接す。中部・東部は丘陵山地起伏して低地乏しきも西部は日田盆地の東南部を占めて平坦なる地形なり。玖珠川は南境に沿ひて西北流す。米・麥・藁・木材等を産



縣道は中央を東西に横断し日田町・森町間を通ずるバスあり、途中にて之より分れ西北に走るものあり、また久大本線は村内を走り豊後三芳驛（昭和九年設置）を置く。古くは和名抄、日高郡日田郷の内とす。〔大波羅社〕縣社。祭神、息長足姫命・聖田別命・比賣大神。大友氏の崇敬社。例祭九月十六日。

三善村 愛媛縣伊豫國喜多郡の中部。大洲町の北にあり。四國山脈の西部山地に位し、東部及び西部には數百米の山岳錯居して中央部に緩傾斜し、川その中央部を西北に貫流す。その流域は平地よく開けて耕作行はる。米・蕎麥の産多し。山地は森林よく繁りて木炭・用材等の林産多し。平地の東岸には縣道貫通し大洲町及び西北方の長濱町に至りバス通す。この地、古くは和名抄、喜多郡新屋郷の地にして、新谷降屋の支配に屬したり。

三義村 長野縣信濃國上伊那郡の東部。赤石山脈の西斜面に位す。高遠町の東に接し天龍川の上流三善川支流の山室川が赤石山を侵蝕せし麓谷の村なり。東境には赤石の主峯入笠山（一九五五米）聳え、諏訪郡富士見村・金澤村に接す。村の西北は藤澤川の溪谷にて藤澤村・長藤村に接し、東南は小黒川の溪谷にて美和村に接す。これら一帯の山地には準平原の残片を留め、一七〇〇米前後の平坦面を見る。川は急斜面にて八・

九百米に下る。従つて深き刻みを持つ山村にして、耕地は谷底を僅に利用し、水田・畑地あり。山地は森林に富み附近有数の木炭の産地なり。山村の特色たる焼畑も亦諸所にあり。

見好村 和歌山縣紀伊國伊都郡の西部。紀ノ川の南岸に位し川を隔てて西北は笠田町に、東北は妙寺町に界す。南部に約五・六百米の山脈ありて西境に北山（五八七米）・東境に南引山（五〇四米）聳ゆ。山地の西部には谷が開けて紀ノ川支流の一河川が北流す。紀ノ川は北境に沿ひて西流し流域に平野發達せり。米・蕎麥・林産・工業・畜産等あり、また柑橘の産多し。西部には南北に縣道走りて省線と歌山線の笠田驛（北方一五軒）へ自動車通す。

美穀村 岡山縣備中國阿賀郡の東南部。新見町の東南に連り、高梁川の上流に沿ふ。北は熊谷村、南は石壁郷村、西南は本郷村に接す。面積一・六・九八方軒。黒雲山（六四八米）の東南麓に位し、村内は概ね山地なるも地勢東南にやや傾斜す。西境に高梁川東流し支流小坂部川は村心を南流して之に合流す。中央部より西部にかけて沿岸平地拓げ、地味肥沃、灌漑の便よく、耕作盛なり。北部山地は山林繁茂す。米・蕎麥・蕎麥・柿・木炭・酒類等を産す。西境を省線伯備線貫通し石壁驛に近し。この地は和名抄、美賀郷村社郷の内なりといふ。

三芳野村 埼玉縣武蔵國入間郡の東北部。川越市の西北方約四軒にて越邊川の西南岸にあり。東北は比企郡と隣す。關東平野の一部を占め、全村平地にて川沿ひに水田多く、他は畑地をなす。農業行はれて米・蕎麥を産し蕎麥も盛にて蕎麥多産す。また甘藷の栽培盛なり。縣道川越市に通じ自動車の便あり。この地は和名抄、入間郡安刀郷の内なるべし。伊勢物語「三芳野の田の原もひたぶるに君が方にぞよるとなくなる」

御代田町 長野縣信濃國北佐久郡の中部。小諸町の東八軒、岩村町の東北に接す。淺間火山（二五四二米）の南麓に位置し、東南に笠船火山（一四二二米）群あり、其の裾合の村なり。村の西南境には湯川ありて輕井澤より岩村田町に流る。村は淺間火山泥流原の一部をなして桑園卓越し、佐久平に於ける主要なる養蠶地帯をなす。村は舊中山道がかり岩村田町に連せしが、信越本線は村の北部を通じて御代田驛（明治廿一年設置）を置く。村内の小田井は舊中山道並分と岩村田間の小驛なりしが、御代田驛の設置以來、追分發着し、御代田驛の耕地面積三九一・五町、その率は三九％に達し、田一五一町、畑二四〇町、内、桑畑一八七町。

三依村 栃木縣下野國鹽谷郡の北部。鹽原町の西北隣にて南は鹽原町、北は福島縣南会津郡の一部と隣る。

面積一五九・七一方軒。赤野山脈の東部を占め全村山地にて北境に荒海山（一五八〇米）・安ヶ森山（一三五四米）、東境に男鹿嶺（一七七七米）、鹿ノ又嶺（一八一七米）、白倉山（一四六〇米）、西境にも持丸山（一三六五米）・高瀬山（一二七六米）等あり。これ等の諸山は三方より村内に傾斜し、村内にもこれに續く諸山重疊す。鬼怒川支流の男鹿川は村の東北隅に發源し、多くの支流を集めて西南に流れ、村の中央より南折す。山地一帯森林多く木炭の年産額約百萬貫、縣下第一なり。川沿ひには僅に平地ありて農業行はれ蕎麥を産す。會津西街道は鹽原町より來り、川沿ひに東北に走りて福島縣に入る。粟番もこれに沿ひて發達し、他は交通便ならず。當村には種々なる金屬鑛區あれどいづれも振はず、僅に大鹽澤鑛山（鑛區は三依村・鹽原町・鹽原町に跨る）が昭和十年に事業を開始して同年に金銀鑛二一區を産出せるに過ぎず、また三依鑛山（鑛種は鐵）は昭和十年より事業を開始せり。明治二十六年鹽原村のうち大字三依外五字を分割して本村を新設す。明治戊辰の役にはその戰場となる。

三良坂町 廣島縣備後國三郡の東南部。三次町の東南約一軒にあり、吉舎町の西北隣。北は比婆郡、西は和田村・田幸村に接す。面積三八・二八方軒。中央を馬洗川が北流し、北境に於て上下川を合す。流域には肥沃なる

平地を展くも周囲は山地に蔽はる。山麓に牧畜行はれ、東部・西部山地は山林地帯なり。工業最も盛にして製糖工場二つを有す。沿岸に耕地拓く。米・蕎麥・蕎麥・川魚・牛・馬・豚・鶏等を産す。中央を縣道通じ三次町・吉舎町にバスの便あり。また省線福鹽北線三良坂驛（昭和八年設置）を置く。もと見羅坂に作る。大正十年町制施行。昭和七年萩原村を本村に編入。（知夜夜古神社）大字高杉に鎮座。郷社。日子穗穗出見命・豊玉見賣命を主神とし、相殿に通々萬命等六柱を祀る。式内社。もと千早彦大明神と云ひ、二宮の稱もあり、領主三吉・大江・武田氏崇敬す。例祭、十月五日。

彌理 安藝國（廣島縣）の古地名。和名抄に安藝郡彌理郷あり美理と訓す。その地今の安佐郡三入村・龜山村・大林村の邊なるべし。

彌栗面 朝鮮黄海道海州郡の西北部。海州邑の西北約二〇軒。北西西―東東南に長く約一五軒、幅は平均五軒にて、中央にて極れたる處は二軒半あり。北境は指南山の餘脈なる三―四百米の山連り、南境には首陽山の西肢延びて望祖山（三五六米）聳え、中部以西は百米臺の丘陵起伏する處多く馬耳峰（二二二米）やや著はる。中央地帯は高取二―三百米の分水嶺をなし、以東の水は石灘川となりて黃浦に入り、以西の水は廣瀨川上支をなし、流域に平地開く、蕎麥・米・

豆類・棉花・蕎麥等を産す。西北―東南に海州・松木間の道路通じバスの便あり。

彌力面 朝鮮全羅南道寶城郡の中部西側。寶城面の東北に隣る。南北に長く約一〇軒、東西は平均四軒前後あり。北・西の三面は山を以て繞らし、東境には天馬山の山肢のびて三―四百米の嶺を連れ石虎山（四二五米）・雁崎（一九二米）あり南境に至つて約四二〇米の山を起し、西境には桂雲山の山肢延びて二―三百米の高度を示し、北境に於て兩山地の中間に彌勒嶺（一九〇）の鞍部あり。中部以南は低平にて寶城江は東西に蛇曲流し、流域に水田開く。米・蕎麥・棉花・蕎麥等を産す。南端部を鐵道慶全西部線と順天・寶城間道路とが並走し、西南部には寶城・光州間道路貫き、また寶城江支谷に沿うて北方の福内場に至る道路あり、いづれもバス通じ、交通不便ならず。

美林 朝鮮總督府鐵道平壤炭礦部の一驛（大正七年設置）。平安南道大同郡秋乙美面にあり。

美流渡 北海道石狩國空知郡栗澤村の字。恐らくアイヌ語の "Mittuvana nait" の後半を省略し、前半は轉訛せしものなるべし。蓋しヒラウトロマーナイは崖間川の義。此地に萬字驛の美流渡坑あり、石炭山にして重要鑛山たり（栗澤村参照）。省編萬字驛の美流渡驛（大正三年設置）も此處にあり。

見前村 岩手縣陸中國常陸郡の北端。盛岡市の南約四軒。東北上川を隔て、乙部村に、南は徳田川を以て煙山村に、西は奥羽の山麓線なる飯岡村に接す。全村殆ど低平にして等高線は西部に於て一二二米、漸次東夷し、東部にては一〇六米を示す。地質は第四系に屬し、北上のテラセなる沖積地層は米産・蕎麥産に好條件の土性にして、全村よく農耕地として惠まらる。北上川が東部を南流し、これに磐石川の分流なる鹿妻・高橋・徳田の諸川が東流して注ぎ、村内平野を灌溉す。其他、北上河床湖の大沼ありて湧水を湛へ、東部平野の灌漑を助く。純農村にして農家戸数は全戸数の九五％を占め、耕地面積は全面積の七七％に及び、全國の一五％に比すれば實に五倍餘となる。隨つて其産額は本村總産額の九三％を占め、米産に至りては本縣の二％を示す。農産は其首位を占むるものは米産なるも、消費都市なる盛岡を間近に控ふるを以て、日々供給する蔬菜類の栽培も年々増加の狀強なり。また冬季農閑期利用としての藁工品も相當見べきもの多し。東北本線は村の北西部を走り、その驛を置かざるも、國道奥州街道（コンクリート舗装）は村の中央を北に走り、また北西部を縣道走り、この二者は本縣主要の自動車道路にして、前者に定期乗合自動車の通ずる外、本縣道路網

の交通機關種々往復するを以て甚だ便なり。續日本紀によれば光仁帝の時、志和村の賦の事見え、又のち桓武帝延暦二十二年志和築城より王化に遊し、漸次村落を成すに至るといふ。のち冷泉天皇永承年中は安部氏・清原氏・藤原氏などの領となり、後醍醐帝延元二年足利義満の家領となる。（見前城址）大字西見前にあり。南部古實記によれば當家の御分日の古城にして、天正二十年六月十一日書上に見前平城信直報、代官日内膳也とあり。即ち四十八城の一なり。現在には畑宅地などになれるも舊規なほ見るべく、東西七十間、南北百二十間あり。（一里屋）大字西見前の國道側あり。高さ十五尺、圓形。慶長九年徳川幕府が諸街道を修築せし時に築きしものにて塚上に大規模あり。この塚は明暦三年修築のもの。

末老面 朝鮮江原道三陟郡の北部。三陟面の西に隣り、東西・南北各約一軒あり。大白山脈の東斜面にて、西境に頭陀山（一三五二米）・竹崎嶺（八八六米）等連り、中部以西は緩傾斜して臺地狀地帯を呈し、東境にも餘脈走りて近山（五〇四米）やや著はる。五十川は南より來り東部を北流し、西部山地の溪水を容れ、三陟面を經て日本海に注ぐ。住民は五十川流域および山地斜面に畑作農業に従ふ者多し。蕎麥・鐵穀・米・棉花



ミロク—ミワ

花等を産す。河沿ひに里道通ずるのみにて交通不便なれど、近時南方の三峰炭田開發に伴ひ交通また漸く便ならんとす。北部、須陀山東麓に古刹天恩寺あり。

ミロク 彌勒島

朝鮮慶尙南道統營郡山陽面の主島。いま統營運河によりて統營邑と相連りて、海底隧道によりて彼此相通す。※山陽面

ミロス 見老津

和歌山縣西牟婁郡江住村の大字。省線紀勢西線の見老津驛(昭和十三年設置)あり。

ミワ 三和

【三和村】 福島縣岩代國安積郡の南部。郡山市の西南約一三軒。西南及び南は岩代郡に接す。奥羽山脈の東斜面に屬し、西北境に高嶺山(九六八米)、西南境に妙見山(七七〇米)聳え、東方に傾斜す。村の西半部は山地をなすも東部は稍平坦なり。笹原川は西部に發源し東流す。米・麥・大豆・蕎麥を産す。道路は東部を西南より東北に通じ郡山市へハスの便あり。

【三和村】 下守屋字飯森山に鎮座。〔飯森和氣神社〕下守屋字飯森山に鎮座。村社。祭神、御饗津命。式内社。日本紀略、飯野別神正五位上。例祭、五月五日。十一月二日。〔宮岡村阿彌陀三尊來迎佛供養碑〕里にあり、一本杉の下なる石造の小堂に安置されし阿彌陀三尊來迎佛の牛肉彫供養碑なり。碑の後に「文永二年八月〇日第一番右志者爲過去慈母往生佛國也」の銘あり。

三和

足利市の北方にて間に三重村を挟み、西に南は栗鹿町と隣す。北は安藤郡と隣す。足尾山脈一支脈の南部を占め、北境に赤雪山(六二二米)ありて、これより東境にかけて約三五〇米の山地連り、西境もまた仙人ヶ嶽(六六三米)・深高山(五〇六米)・湯殿山等連り互す。これ等の山地は東西より村内に傾斜して森林多し。村の中央は兩山地の標合にて、狭き平地あり。米・麥・蕎麥を産す。織物業盛にて、人絹・錦紗・兵児帯及び蒲・支・印度向けの人絹織物を産す。平地を縣道西南に走りて栗鹿町に入り、更に東南に折れて足利市に通じハスの便あり。葉落またこれに沿ひて發達す。山間には村道通ずるのみならず。足利泰氏の五男義顯は大字板倉の地に居して板倉氏を稱す。義顯はまた湯川氏とも稱せり。同地内に小侯城址あり。即ち湯川氏累代の居城にして、太平記・大草紙等に見ゆる湯川氏皆これより出でしものとす。

【三和村】 下野國(栃木縣)の古地名。和名抄に那須郡三和郷あり、その地今の那須郡小川町の邊に當る。

【三和村】 岐阜縣美濃國加茂郡の東部。岐阜市の東北約二五軒。北は武儀郡中之保村・同郡神岡村に、東は川邊町に、南は山之上新に、西は伊深村に各接す。古生層より成る美濃山中にありて、北部には御殿山峯。川浦川は南部を南へと流る。山間部なれば農耕地は少く、僅かに農産物まれ蕎麥・米・麥を産し、山地より木炭・松茸・蜜等を産す。交通は概して便ならず、六本松峠よりは益田川谷に出づることが出来、鐵道は高山本線下麻生驛に近し。明治三十年四月に川浦村外二箇村と組合役場を廢して、川浦村・鹿嶋村・甘屋村を合併して、和合村といふ意味にて三和村と名づく。江戸時代は名古屋藩と幕領とに屬す。

ミワ 三輪

七月二十二日・十月十八日。【三輪村】 秋田縣羽後國雄勝郡の北部。西馬音内町の東に隣り、北は平鹿郡に接す。積手盆地の西南部に位し全村概ね平坦にして堆積物は東境を北流す。米・蕎麥を産す。道路は中部を略東西へハスの便あり。湯澤町と西馬音内町にハスの便あり。社線雄勝鐵道の具津・羽後三輪・あぐりこ(いづれも昭和三年設置)の三驛を設く。〔三輪神社〕大字移宮に鎮座。祭神、大物主神・倉稻魂神。垂老二年に僧行基の建立と云ふ。例祭、陰曆四月八日。

【三輪村】 長野縣上水内郡にありし村。大正十二年に長野市に編入さる。【三輪村】 愛知縣三河國北設樂郡の南端。豊橋市の東北約三五軒。北は御殿村・本郷町・下川村及び岡村に、東は靜岡縣磐田郡蒲川町に、南は八名郡七郷村に、西は南設樂郡風車寺村・振草村に相隣る。三河山地の中央部に位し、高度は六一七〇米にて、北境には明神山(一〇一六米)が聳立す。西部よりは宇連川が流れ七郷村との境にて大島川を合せ三輪川となり末は豊川と呼ばれる。産物は見るべきものなく、川の流域にのみ耕地認められ、山地よりは薪炭を産す。また磁石を産し、世に三河白または名倉磁とも稱し、凝灰岩なり。交通路は三輪川の谷より東北へ進み更に北折し、奥良木峠を越えて本郷

三輪

かに農産物まれ蕎麥・米・麥を産し、山地より木炭・松茸・蜜等を産す。交通は概して便ならず、六本松峠よりは益田川谷に出づることが出来、鐵道は高山本線下麻生驛に近し。明治三十年四月に川浦村外二箇村と組合役場を廢して、川浦村・鹿嶋村・甘屋村を合併して、和合村といふ意味にて三和村と名づく。江戸時代は名古屋藩と幕領とに屬す。

【三和村】 愛知縣三河國幡豆郡の北部。岡崎市の西南方約七軒にあり。北は矢作川を隔てて碧海郡櫻井村・同郡六ツ美村に、東は豊坂村に、南は室場村に、西は福地村・西尾町に接す。東南部には古生層山地續き、北部には矢作川西南流し、その沖積地廣く開く。中部には安藤川が西南へ流れ西部にて南折し、また庄田川は東南境を流れ、南端にて兩川合流す。なほ矢作川岸には古生層山地の分離丘陵大塚山(四三三米)あり。沖積地には水田多く用水もよく整ひ米・麥の産多し。南部には桑畑多く養蠶盛なり。なほ桑葉の移出も多し。交通路としては南部に東西に平坂街道通じ、また西尾鐵道が東西に通過し、岡崎・西尾間に位するため概ね便利なり。此地は和名抄の幡豆郡大川郷の一部と思はるるも不詳。大字小島には小島岩ありて、荒川氏の將靈部屋持之助の居りしが、松平清康の爲に奪はる。江原岩は江原利常の居りしが、その孫利全は遠州に移り、其後、荒川氏の臣江原太郎

村に至る別所街道あり。社線風車寺鐵道の三河川合驛(大正十二年設置)あり、これに接續する社線三信鐵道は三信三輪驛(昭和八年設置)を設く。此地は昔は川合と稱せられし處。〔乳岩及び乳岩峽〕指定名勝。三輪川の支流なる乳岩川の峽谷にして、その上流に於ける乳岩(洞窟)・通天橋(一名神樂門、天然石橋)及び地蔵洞門(天然隧道)の三者は風化及び水蝕現象の最も奇なるものなり。乳岩には大小多数の鍾乳石の懸垂せるあり。石灰岩以外の岩石に生じたる鍾乳石の例として珍奇のものとする。峽谷の長さ約四軒、其間は總て緻密なる流紋岩質の凝灰岩より成り岩質節理に乏しきが爲に河床は一枚岩の觀を呈し、兩岸は概ね懸崖を成し蓬萊岩・翠岩等の巨巖その間に峙ち、藪ふに鬱蒼たる美林を以てす。溪流また清淺にして土砂を流下堆積することなく、一帯に景致明麗、乳岩と相峙ちて幽邃閑雅なる一勝區を形成す。

【三輪】 愛知縣中島郡にありし村。明治三十九年、他の五箇村と共に廢され河安賀村を設く。のち大和村と改む。【三輪】 愛知縣八名郡にありし村。明治二十五年に美米村より獨立して本村をなし、同三十九年に外四箇村と共に廢され新に石巻村を設く。【三輪町】 兵庫縣淡路國有馬郡の中部。武庫川の左岸に位し對岸は三田町なり。東は川邊郡に界す。全村低山地の山岳丘

三輪

左衛門その跡に入りしが永祿三年捕狹間の戦に討死す。本村は明治三十九年、御嶽村・川崎村・吹羽良村を廢して置けるもの。〔神明社の大椎〕指定天念記念物。一株、日通幹圍八米餘、主幹の上部は朽ちたるも数本の太き枝横り出て鬱蒼たる樹形をなす。椎の巨樹として有数のものなり。〔神明社〕大字上永良に鎮座。祭神、天照大御神。春日神・八幡神を合祀す。寛永二年の再建。例祭、八月廿九日。〔正光寺〕大字東淺井にあり。眞宗大谷派。蓮如上人が當國行化の御當地に草庵を結べるに創まる。

【三和村】 愛知縣尾張國知多郡の中部。北は旭村に、東は中田町に、南は常滑町に、西は鬼崎村・大野町に相隣る。伊勢海に突出する如多半島の中部に位し、全村第三紀層の丘陵性臺地より成り、高度は東部分水嶺にて八〇米を示す。この臺地に細流が浸蝕し天井川をなして伊勢海に注ぐ。臺地は小松が茂るのみにて、それを刻む細谷に沿うては水田が見られ、臺地面には溜池の数が多く、これにより灌漑せらる。大野町に隣接するため交通の便よく、分水嶺を横断して半田市にも近し。此地一帯は和名抄の智多郡香賀郷にして、三和とは明治廿九年、矢田村・久米村・金田村を合併して命名せし名稱とす。

【三和】 三重縣志摩郡にありし村。明治二十七年に廢されて町名・志島・名田の陵起伏し東北境に羽東山、西北境には有馬富士(三七三米)等聳ゆ。武庫川は西南境に沿ひて東南流し、沿岸に平野開く。中央には南下する支流ありて南部にてこれと合す。流域にはやや低地ありて米・麥・蕎麥・林産・花弁・食用産産・果實・茶種・皮革製品・木製品・紙製品・蠶・瓦・陶磁器等の産物あり。西南部の武庫河岸に市街地發達し、三田町と連続して雙子町をなし殆ど一町をなす。縣道は西南部を通じ東北方へ向ふ一道もあり。省線福知山線は河岸に沿ひて通過し、三田驛(明治三十二年設置)あり。同驛に省線有馬線と社線神戸有馬電線が接續す。昭和二年町制を布く。大字下田中は永正十六年十月、細川高國の部下鹽川孫太郎・河原林對馬守正頼は細川澄元の處下たる池田氏を夜襲し、却て敗北せし處といふ。〔有馬ゴルフ場〕大字上野にあり。九ホール、全長約二、二八六米、面積約二、六三〇アル。〔三輪神社〕大字三輪に鎮座。祭神、大己貴命。大國主神の神裔この地に祖神を祀るに創り、後の地は大和國大神社の神封地となり大神郷と稱す。古く鎮主松山・九鬼兩氏の崇敬篤し。例祭十月九日。〔香提寺〕大字尼寺にあり。古義眞言宗。東光山と號す。開基は法道仙人。初め紫雲山觀音寺と稱せしが長保年間現稱に改む。のち花山法皇の皇后落飾入室あり、故に尼寺の

三和村に分つ。

【三和】 岡山縣後口郡にありし村。大正十二年に金光町と改む。

【三和】 廣島縣佐伯郡にありし村。昭和四年本に友厚村と共に廢され、その區域を以て友和村を設く。

【三和村】 高知縣土佐國長岡郡の東南部。後免町の南方に位し、西は稻生・十市二村に、東は香美郡に界し、南は土佐灣に面す。西部には五〇米餘の小丘ある外は全村平坦にて沃野なれば耕地よく拓けて農業盛なり。米・麥・蕎麥の産あり、促成栽培も盛に行はる。また養蠶と豚・牛の牧畜をなす。海岸には鹽田開け製鹽も行はる。海岸に並行して縣道走り西北方の高知市へ通じハスの便あり。また省線土讚本線は北方の後免町を通り本村より驛まで約二軒にてハスを通す。古くは和名抄、長岡郡片山郷の地にして、大字片山は其遺稱とす。〔上官神社〕大字片山に鎮座。祭神、伊弉冉命・速玉男命・兼茂津事解男命。舊稱上官大明神。當郡稻生村の村社熊野神社を下宮と云ふに對し上官と稱すと傳ふ。例祭、十月十九日。〔琴平神社〕大字里改田に鎮座。祭神、大物主大神・崇徳天皇。舊稱、金尾藤大現。餘家の宇川一朝の創祀すと傳ふ。例祭三月十日。〔劍尾神社〕大字里改田に鎮座。祭神は須佐乃男尊なりと傳ふ。もとば劍尾大明神と稱して濱田村境の田中に鎮座せり。例祭、

ミワ—ミワ

ミワ 三輪

【三輪村】 秋田縣羽後國雄勝郡の北部。西馬音内町の東に隣り、北は平鹿郡に接す。積手盆地の西南部に位し全村概ね平坦にして堆積物は東境を北流す。米・蕎麥を産す。道路は中部を略東西へハスの便あり。湯澤町と西馬音内町にハスの便あり。社線雄勝鐵道の具津・羽後三輪・あぐりこ(いづれも昭和三年設置)の三驛を設く。〔三輪神社〕大字移宮に鎮座。祭神、大物主神・倉稻魂神。垂老二年に僧行基の建立と云ふ。例祭、陰曆四月八日。

三輪

村に至る別所街道あり。社線風車寺鐵道の三河川合驛(大正十二年設置)あり、これに接續する社線三信鐵道は三信三輪驛(昭和八年設置)を設く。此地は昔は川合と稱せられし處。〔乳岩及び乳岩峽〕指定名勝。三輪川の支流なる乳岩川の峽谷にして、その上流に於ける乳岩(洞窟)・通天橋(一名神樂門、天然石橋)及び地蔵洞門(天然隧道)の三者は風化及び水蝕現象の最も奇なるものなり。乳岩には大小多数の鍾乳石の懸垂せるあり。石灰岩以外の岩石に生じたる鍾乳石の例として珍奇のものとする。峽谷の長さ約四軒、其間は總て緻密なる流紋岩質の凝灰岩より成り岩質節理に乏しきが爲に河床は一枚岩の觀を呈し、兩岸は概ね懸崖を成し蓬萊岩・翠岩等の巨巖その間に峙ち、藪ふに鬱蒼たる美林を以てす。溪流また清淺にして土砂を流下堆積することなく、一帯に景致明麗、乳岩と相峙ちて幽邃閑雅なる一勝區を形成す。

三和

【三和】 愛知縣中島郡にありし村。明治三十九年、他の五箇村と共に廢され河安賀村を設く。のち大和村と改む。【三輪】 愛知縣八名郡にありし村。明治二十五年に美米村より獨立して本村をなし、同三十九年に外四箇村と共に廢され新に石巻村を設く。【三輪町】 兵庫縣淡路國有馬郡の中部。武庫川の左岸に位し對岸は三田町なり。東は川邊郡に界す。全村低山地の山岳丘



稱起る。弘治元年兵燹に罹り、僅に法皇の尊像・聖御・觀音・不動の諸像を灰燼中に得て一草庵を結び、元祿十年に空堀大に再建に努力す。

【三輪町】奈良縣大和國磯城郡の中郡。奈良盆地の東南部に在り。東部には三輪山(四六七米)が聳ゆ。これは北方へ横く春日斷層が、東西に通ずる初瀬溪谷に切断される處にして端正なる圓錐形をなし古松老杉鬱蒼として神山の感深し。西半は平坦地にして、三輪山の南麓を繞りて流れる初瀬川西北流す。米・蕎麥・麥・粟を産す。古來酒造と茶畑とを名産とす。素戔嗚尊三輪町を中心附近諸村にて製し縣下産額五〇餘萬圓の九割を占め、關西にて素戔嗚尊の一名を三輪といふ程古くより風味を知らる。西部には南北に通ずる上街道に交叉して一街道が西北より東南に走りその交叉點に市街地發達す。省幹線舟橋は中央を南北に通じて三輪驛(明治卅一年設置)あり。バスは四方に走り交通至便なり。此地は太古に大己貴神豐原中洲を經營し、その功成るに及び自らその神魂・奇魂を祀れる處にして、今の官幣大社大神社即ちそれにて日本最初の神社なり。即ち神武天皇御東征以前既に出雲神族の地に據り威を近隣に振ふ。これを三輪君又は大輪君(大神君)といふ。神武天皇大和を平定し給ふや、これと婚約を結ばんとし、歌垣を行はれて五十鈴姫を得て皇后となし給ふ。降つて

な三輪の殿戸をいふ歌あり、また萬葉、卷七には「三波つく三輪山見ればこもりくの初瀬の楡原おほほゆるかも」など見ゆ。

【三輪驛】和歌山縣東本妻郡にありし村。明治四十年町制を布き、昭和八年新宮町と合して新宮市を建つ。省幹線勢中驛の三輪驛(大正元年設置)あり。

【三輪村】山口縣周防國熊毛郡の南部。南は室積町、北は鹽田村、東は城南村、西は岩田村に接す。面積四・六三方軒。千坊山(一九九米)南に墜し、村内地勢山勢なるも高峻ならず。東北部に平地稻拓け耕作を行ふ。山林・耕地各面積略ぼ等し。純農業村にして米・蕎麥を産す。省幹線山陽本線岩田驛に近くバスの便あり。和名抄に熊毛郡美和郷と云ふは本村及び岩田・鹽田・光井・鳥田・淺江の諸村に當るもの如し。

【三輪村】福岡縣筑前國朝倉郡の西部。甘本町の西に接し西南は三井郡に界す。東北部が山地の南斜面をなす外は筑紫平野の北の一部なるため西南隅に城山(花立山、一三一米)の孤丘あれど地形平坦にて中央を草場川が西流す。廣大なる平野一面に耕地發達し米・蕎麥の産多し。二日市町方面と甘本町方面とを結ぶ府道が中央を横断し之より分れて南部を西南方へ走りて佐賀縣三養基郡田代町方面へ至る縣道あり。社線朝倉軌道線は中央を西北より東南に走りて社線朝倉軌道の依井

は本町及び城島村附近一帯を數島(一に磯城島)と呼び、崇神・欽明天皇この地に都し給ふ。いま大字金屋に崇神天皇の磯城瑞籬宮址、欽明天皇の磯城島金刺宮址を傳ふ。數島の名義詳ならずも數に繁きたる城の義、島は稻間の轉呼、即ち粟落の意あり、されば數島は堅き城のある粟落の義にて、二帝の都し給へるより起りし名稱なるべし。實に上代の文化の繁地なり。大字三輪の地はもと三輪市と云ひ譯合たり。金屋の地はまた古へ海拓摺市(栢市)のありし處にて、推古天皇の御代、唐使裴世清を此地に迎へ、また藤原を造營せられし等のことあり。市の名は堂行紀・十二年十月「故時人其作。海石標樞之處曰。海石標樞市。萬葉・一二つづばいちの八十の壽に立ち平らし結びし紐を解かまく情し」と枕草子・一四「市は、辰の市。栢市は、大和にあまたある中に、長谷寺にまうづる人の、必ずそこにどまれば、觀音の御像あるにやと、心珠なるなり」等に見え、況く人の知るところなり。また和名抄に城上郡大神郷とあるは本町を指せるもの。大神郷の鎮座地なるによりこの名起りしものなるべし。中世佛ノ古大夫なる者、城を此地に構ふ。吉野時代この地の入西阿、官軍に應じて此に據る。興國二年、細川顯氏來り攻む。西阿拒戦利あらずし

て奔る。郡で兵を聚めて城を復す。賊軍復來り攻めしも遂に破れ能はず。のち西阿、楠木正行とともに四世に戦死す。永享十二年五月、一色義興、越智氏を攻めて大和に來り、將軍義教に忌まれ、一族三百人と此地に自殺す。而して三輪の名が人口に膾炙するに至りしは、近松の冥途の飛脚「借駕籠に日を送り奈良の旅籠屋三輪の茶屋、五日三日夜をあかし二十日餘りに四十兩、遣ひ果して二歩残る、鐘も霞むや初瀬山」の名文句に依ると云ふも過言ならず。いま忠兵衛の泊りしといふ三輪の茶屋址あり、史蹟の町三輪の一名所たり。(磯城瑞籬宮)崇神天皇の皇居。天皇の三年九月都を磯城島に遷され、これを瑞籬宮といふ。同六十八年天皇崩御に至る迄の皇居たり。その址は大字金屋の地に當るといふ。(磯城島金刺宮)欽明天皇の皇居。欽明天皇の元年七月都を磯城島に遷し、號して金刺宮といひ、同三十二年四月天皇崩御に至るまで、三十二年間の皇居とす。その址は大字金屋の地に當るといふ。(大神神社)三輪山に鎮座。官幣大社。崇神、大物主神。大物主神は大己貴神の和魂にて、太古、大己貴神豐原中洲を經營しその功既に成るに及び自らその神魂・奇魂を後世の青垣東山上に誓き奉る。これ所謂三輪山鎮座の本社にて、世にまた三輪社と稱し、諸社中その創立最も舊しとせらる。延喜の制、名神大社に列し、また二十一

【三輪山】奈良縣大和國磯城郡三輪町の東方の山。標高四六七米。古は三諸山といふ。山麓に大物主神を祭神とする大神社あり。三輪山傳説として古事記崇神天皇の條に次の如き傳説あり。三輪山に近く活玉依姫といふ美人住み、そこへ夜毎に通ふ麗しき男あり、姫の形骸を知れる父母はこれを責むるに、姫は名も知らぬ男が夜な夜な通ひ來るを告ぐ、父母は一計を女に授け女はその歌の如く麻絲を針に通して男の衣服に刺して置き、男方に男の歸れるを見るに麻絲は戸の跡の穴より抜けて三輪山に達し、姫の棲處には麻絲の籠が三勾遣りしと。これによりその男が大物主神なるが知れ、それ以來またこの地を三輪と呼ぶに至るといふ。歌統としては日本書紀崇神天皇の條に、「うま酒三輪の殿の朝戸にも出てて行か

【三輪山】愛知縣尾張國海部郡の北部。名古風市の西方四軒。北は中島郡千代田村・岡部大里村、東は甚良寺町、南は七寶村、西は神守村・佐織村に隣る。濃尾平野の中部を占め木曾川のデルタ上に位置し土壌低平にして、中部には南北に蟹江川流れ、西部には日光川の支流南流す。平野面は水田に利用され諸川により灌漑

【三輪山】愛知縣尾張國海部郡の北部。名古風市の西方四軒。北は中島郡千代田村・岡部大里村、東は甚良寺町、南は七寶村、西は神守村・佐織村に隣る。濃尾平野の中部を占め木曾川のデルタ上に位置し土壌低平にして、中部には南北に蟹江川流れ、西部には日光川の支流南流す。平野面は水田に利用され諸川により灌漑

【三輪山】愛知縣尾張國海部郡の北部。名古風市の西方四軒。北は中島郡千代田村・岡部大里村、東は甚良寺町、南は七寶村、西は神守村・佐織村に隣る。濃尾平野の中部を占め木曾川のデルタ上に位置し土壌低平にして、中部には南北に蟹江川流れ、西部には日光川の支流南流す。平野面は水田に利用され諸川により灌漑

【三輪山】愛知縣尾張國海部郡の北部。名古風市の西方四軒。北は中島郡千代田村・岡部大里村、東は甚良寺町、南は七寶村、西は神守村・佐織村に隣る。濃尾平野の中部を占め木曾川のデルタ上に位置し土壌低平にして、中部には南北に蟹江川流れ、西部には日光川の支流南流す。平野面は水田に利用され諸川により灌漑

【三輪山】愛知縣尾張國海部郡の北部。名古風市の西方四軒。北は中島郡千代田村・岡部大里村、東は甚良寺町、南は七寶村、西は神守村・佐織村に隣る。濃尾平野の中部を占め木曾川のデルタ上に位置し土壌低平にして、中部には南北に蟹江川流れ、西部には日光川の支流南流す。平野面は水田に利用され諸川により灌漑

【三輪山】愛知縣尾張國海部郡の北部。名古風市の西方四軒。北は中島郡千代田村・岡部大里村、東は甚良寺町、南は七寶村、西は神守村・佐織村に隣る。濃尾平野の中部を占め木曾川のデルタ上に位置し土壌低平にして、中部には南北に蟹江川流れ、西部には日光川の支流南流す。平野面は水田に利用され諸川により灌漑

【三輪山】愛知縣尾張國海部郡の北部。名古風市の西方四軒。北は中島郡千代田村・岡部大里村、東は甚良寺町、南は七寶村、西は神守村・佐織村に隣る。濃尾平野の中部を占め木曾川のデルタ上に位置し土壌低平にして、中部には南北に蟹江川流れ、西部には日光川の支流南流す。平野面は水田に利用され諸川により灌漑

【三輪山】愛知縣尾張國海部郡の北部。名古風市の西方四軒。北は中島郡千代田村・岡部大里村、東は甚良寺町、南は七寶村、西は神守村・佐織村に隣る。濃尾平野の中部を占め木曾川のデルタ上に位置し土壌低平にして、中部には南北に蟹江川流れ、西部には日光川の支流南流す。平野面は水田に利用され諸川により灌漑

【三輪山】愛知縣尾張國海部郡の北部。名古風市の西方四軒。北は中島郡千代田村・岡部大里村、東は甚良寺町、南は七寶村、西は神守村・佐織村に隣る。濃尾平野の中部を占め木曾川のデルタ上に位置し土壌低平にして、中部には南北に蟹江川流れ、西部には日光川の支流南流す。平野面は水田に利用され諸川により灌漑

【三輪山】愛知縣尾張國海部郡の北部。名古風市の西方四軒。北は中島郡千代田村・岡部大里村、東は甚良寺町、南は七寶村、西は神守村・佐織村に隣る。濃尾平野の中部を占め木曾川のデルタ上に位置し土壌低平にして、中部には南北に蟹江川流れ、西部には日光川の支流南流す。平野面は水田に利用され諸川により灌漑

【三輪山】愛知縣尾張國海部郡の北部。名古風市の西方四軒。北は中島郡千代田村・岡部大里村、東は甚良寺町、南は七寶村、西は神守村・佐織村に隣る。濃尾平野の中部を占め木曾川のデルタ上に位置し土壌低平にして、中部には南北に蟹江川流れ、西部には日光川の支流南流す。平野面は水田に利用され諸川により灌漑

【三輪山】愛知縣尾張國海部郡の北部。名古風市の西方四軒。北は中島郡千代田村・岡部大里村、東は甚良寺町、南は七寶村、西は神守村・佐織村に隣る。濃尾平野の中部を占め木曾川のデルタ上に位置し土壌低平にして、中部には南北に蟹江川流れ、西部には日光川の支流南流す。平野面は水田に利用され諸川により灌漑



さる。また桑畑も多く養蠶盛なり。殊に大根は方領大根を産し、主として名古屋に供給す。交通は津島街道中部を東西に通じ、之と並行して名古屋電線津島線走り、交通は便利なり。明治三十九年正副村・蜂須賀村・笹田村を合し本村を置く。大字蜂須賀は蜂須賀氏發祥の地。蜂須賀氏は足利斯波氏の族にして、新波高經七世孫正昭、此の地を領して家號とす。その孫小六正勝武名あり、その後徳川氏に屬して阿波徳島城に治し、子孫相承け明治に至り侯爵を授けらる。大字二寺は神風抄に「尾張國花正御厨、御封戸三十七町」とある地にして福島正則の生地なりといふ。正則は幼名市松と稱す。尾張名所圖會によれば正則は秀吉に親縁あり、秀吉に隨從して軍功を立て、遂に當國を賜り、左衛門尉正則といふ。慶長五年、東軍を導き、關ヶ原に戦ひ、安藝へ移封、參謀に叙せらるるとあり、大字乙之子は豊臣秀吉の姉婿藤助(後、三位法印古房)の居りし所なりといふ。

中部より東部にかけては中央に低地開け東境には竹田川が北流す。米・藁の産多し。藁類・蘆荻・花卉・食用産物・果實・製茶等の産物及び硝石・薬製品等を産す。東部には縣道及び省線福知山線が南北に通じ東北境の近くに市島驛あり。和名抄に米上郡美和郷と云ふは本村及び吉見村・鴨庄村に當る。

抄に菅東郡美和郷あり、その地今の菅田郡西加茂村の邊なるべし。

抄に熊毛郡美和郷あり、その地今の熊毛郡三輪村に當る。

三輪

して土地平坦、農耕行はる。多良間村

指呼し得べく種なる大觀なり。附近に岸

抄に菅東郡美和郷あり、その地今の菅田郡西加茂村の邊なるべし。

抄に熊毛郡美和郷あり、その地今の熊毛郡三輪村に當る。



ムイカ

ム

ム 鵝川 北海道釧路支庁釧路郡の最大河。北見山地北部の西麓に源を發する雙珠別川とトムム川が占冠にて合流し鵝川と

ムアン 務安

【務安郡】朝鮮全羅南道二府二十一部一島の一。道の西部に位し、務安半島を以て占むる陸地部と、その西方海上に分布する羅州群島の諸島、並にその西南なる黒山諸島を以て構成する。面積一、〇〇九方軒餘、人口二十萬に近く、濟州島を除きては面積、人口ともに道の首位に居る。陸地部は北は咸平郡、東北は羅州郡に接し、東南は梁山江河口のなす入江に臨み、西端に木浦港を擁す。中央に二三百米の丘陵西北に連るも平地に乏しからず、その西北部に於て更に西方海中に臨水(臨瀛)半島を突出せしめ、其他出入屈曲に富む。島嶼数は凡そ二二〇を數(中にて智島・荏子島・押海島・慶泰島・燕恩島・飛禽島・都草島・八島島・笠佐

島・安島島・長山島・荷衣島等の羅州諸島は著るしく、黒山群島にありては大黒山島・梅加島・小黒山島等を主なるものとす。産業は農を第一とし、水産業・商工業これに次ぐ物産は、米・麥・裸麥は最も多く、次に大豆・小麥の順)大豆・棉花・甘藷・莞草・繭・臥等の農家生産の外、水産には石首魚・鰻・鱈・鱈・かんざり・鱈・鰻・海苔の産多く、製鹽、水産製造また盛なり。其他、島嶼部には牧牛普及し、工業には織物・製糸・金屬製品・醸造品・植物油脂・竹製品等あり。また黒山島には磁砂の産多く、近海に捕鯨業も著るし。鐵道湖南本線は務安半島の東端を南走し夢瀾・明山・三徳・任城里の諸驛を経て木浦港に達し、その西方に木浦・京城間一等道路走りて平林・務安等を連ねバス通ず。島嶼部には八口浦を始め良地多く、海上交通また便なり。行政上、二十箇面に分ち、郡廳を木浦府に置く。本郡は古く新羅時代より務安郡と稱し、のち勿良郡と改め、或は羅州に屬せしめられたる事あり。明治三十年十月、木浦を開港すると務安府と改め、同四十二年木浦府と改稱、大正三年府廳廢合に際し、木浦府をば現在の區域に分割獨立せしめ、且つ智島及び島島、莞島郡の各一部を併せて新たに務安郡を建つ。昭和七年十月、二老面の一部を木浦府に譲り、今に至る。

【務安】↓續地圖(朝鮮)

蕪興

にして、小千谷町(北魚沼郡)に至る街道に沿ひ、西は信濃川を以て三島・北魚沼の兩郡に境す。東部に東山丘陵の金倉山(五八一米)聳え、村内西北部へ傾斜す。平地は西北半に開け、信濃川の支流を北へ流す。平地には農業行はれ、米を主産とし蕪を副産す。村内略中央に温泉湧出す。省線上越前線と國道は西部を南北に並走し前者の越後谷驛(大正九年設置)を置く。明治戊辰の役にはその戰場となる。村名は昔、毎月六日に市たちしより起りしものか。

【六日市村】島根縣石見國鹿足郡の東南隅。南は山口縣に接し、東は藏木村、北は七日市村、西は朝倉村に界す。面積四五・一九平方軒。北に築山(一〇〇七米)・城山(八二六米)村界をなして聳ゆ。村内は南北共に地勢高峻なり。稍々中央に傾斜し、吉賀川中央を西北流し沿岸に耕地を拓く。南部山地に原野多く、築山の東北麓に森林繁茂す。村内、米・麥・木炭・醬油・醬油等の産あり。縣道河津に通過し、省線山口線日原驛及び山陽本線岩國驛へバス通ず。古來防州・藝州を運ぶる山中の交通路として發達せり。「新宮神社」大字六日市に鎮座。神社、祭神、宇迦御魂神外五神。天武天皇の御宇、五穀豐饒のため宇迦御魂神外二神を勧請せしを以て當社の濫觴とす。例祭、十月九日。「八幡宮」大字立戸に鎮座。神社、祭神、仲哀天皇・應神天皇外一神。弘安

ムカイ 向

八年に吉見式部四郎頼行、鎌倉鶴岡八幡宮を勧請せしを以て當社の濫觴とす。例祭、九月十五日。

ムイネ 無意根山

札幌市の南西方約二十五軒、定山溪の南西方に位し、東面は石狩支廳豊平町に、西面は後志支廳東川町に属す。標高一四六一米。北段に長尾山(二二〇三米)、南段に喜茂別岳(一七七七米)嶺く。札幌附近の高山にて、二二〇〇米迄はトマツ・エツマツの森林帯、それ以上は無樹帯をなし、山頂より東側は断崖をなす。夏山よりも冬のスキーアに適し、山頂附近には好スロープする所あり。登山は定山溪より一五軒、途中山腹に無意根の山小屋あり、六時間行程、その間に指標あり。西方よりは京線線路方驛下車、三井礦山を経て約一三軒、五時間にて至る。

ムカ 武華

【武華山】石狩山脈の一峯。北海道上川支廳愛別村と網走支廳留邊蘆町との境上に踞る。標高一七五八・六米。北段には武利岳(一八七六米)、南段には三國山(一五四一米)連る。初登山は昭和元年七月、無加川上源イトムカ川を遡りて南側より、また冬季登山は同三年三月それより成功せり。この山の西南方は石狩川の上源地をなす。

ムイネ—ムカイ

【向村】青森縣陸奥國三戸郡の南部。三戸町の東に接す。土地東南より西北に長く、馬淵川は中部を東北に流れ、沿岸平坦なり。その西北部及び東南部は山地をなし、中部に傾斜す。東南端には名久井岳(六一五米)聳ゆ。鐵道川は西方より來り村の中部を東流して馬淵川に合す。産業は農業その八割を占め、水田耕作・果樹栽培・蔬菜栽培を主とし、米・苹果・桃・梨・蔬菜類を産す。陸羽街道は村の中部を南北に通じ、いま省線東北本線の三戸驛(明治二十九年設置)を置く。明治九年、明治天皇皇太子御巡幸のこの地に御小休遊ばさる。「三光寺」大字小向にあり。臨濟宗妙心寺派、正平十六年、三光國濟の開基に係る。

【向島】廣島縣尾道市の前面に横はる大島。行政上は御調郡に屬し、島内は向島東・向島西・立花の三村に分たる。周囲約二八軒、面積約二二方軒。諸處に小山起り最高處は南部の立花村にありて二八九米。西北岸の向島西村地内に鹽田拓く。島は古名を歌島といひ、歌木集に「歌のしま軒の下には音づれて舟にはのりの聲ぞきこゆる」とあるは此處なり。和泉式部等の住みし地と傳へ、また東鑑には文治の頃、歌島家清の所領たりし由を載す。

【向島】山口縣防府市の屬島。市の東南約百米を距て、浮び、三田尻港口を扼す。周囲約一五軒、島頂は鐘山(三五四米)なり。

ムカイ 向井

大阪府泉北郡にありし村。大正九年に堺市に入る。

ムカイ 向日

對馬國(長崎縣)上縣郡の古地名。和名抄に向日郷あり。對馬國の北端にして朝鮮國に向へるを以てかく稱すか。神功皇后御征韓の時、船出し給ひし船浦も本郷の内なり。凡そいま豊崎村の地に當る。

ムカイオカ 向丘

神奈川縣橋本郡にありし村。昭和十三年に川崎市に編入す。

ムカイシマニシ 向島西村

廣島縣後國御調郡の南方海上、尾道市の前面海上に横はる向島の西部を占む。東は向島東村、南は立花村に接す。北、西及び東南は瀬戸内海に面す。面積一三・三三平方軒。高見山(二八九米)南部に聳え、村内概ね台地状をなすも、北方海岸に平地存す。北は尾道市と對し尾道の良港を形成し、西に岩子島を控ふ。耕地面積廣大にして果實・米・麥の産多く、また水産物・繭・蠶・蠶絲等の産あり。尾道港へ渡船の便を有す。廣島文理科大學附屬臨海實驗所あり。

ムカイシマヒガシ 向島東村

廣島縣後國御調郡の南方海上、尾道市の前面海上に横はる向島の東北端を占む。西南は向島西村に接し、他の三方は瀬戸内海に面す。北に尾道港と相對す。面積六・七七方軒。村内概々山地ある

ムカイナダ 向洋

省線山陽本線の一驛(大正九年設置)。廣島縣安藝郡府中町にあり。

ムカイノハル 向之原

省線久大本線の一驛(大正四年設置)。大分縣大分郡挾間村にあり。

ムカイハラ 向原町

廣島縣安藝國高田郡の東部。東は雙三郡・豊田郡に界し、北は小田村、南は有保村と接す。面積六一・九九平方軒。地形東西に伸び、四周に山脈を繞らす。北に大土山(八〇〇米)、南に鷹ノ巣山(九二二米)聳え町界をなし、地勢一般に高峻なるも西に稍々傾く。太田川支流の三篠川東部山中に踞して中央を西南流す。山間より西南界にかけて平地ひらけ良耕地をなす。農産豊かにして米・麥・繭・果實及び酒類・木炭・牛・馬等を産す。省線高橋線南北に貫通し向原驛(大正四年設置)を置く。また鐵道これと並行し既島市に自動車の便あり。昭和四年戸島村・坂村・長田村を廢し、その區域を以て向原村とし、昭和十二年に町制を布く。

ムカイヤマ 向山

【向山】省線東北本線の一驛(昭和十一年

蕪興



ムカイ—ムカツ

設置。青森縣上北郡下田村にあり。
【向山嶺山】 鐵道線にある嶺山。嶺區は南七岳(一二三米)を基點に設定せられ、行政區劃上、甲賀郡向津村と清生郡市原村とに跨る。嶺區の地質は古生層に屬する粘板岩・砂岩・珪岩・シャールスダイク等の累層より成り、黒雲母花崗岩侵入の影響を受け、上記の水成岩類はホルンフェルスに變質す。嶺床は主としてシャールスダイク中に既設せる交代鐵床にして、黃銅鐵及び鉛鐵を主たる礦石とし稍々多量の銀を含有す。昭和十年には銀銅鐵一、〇〇五萬(價額五萬二千餘圓)を産し一躍重要嶺山に列す。大正初年頃より御池嶺山として採行せられたる嶺山あり、その一部分を裏山嶺と稱せしが、この裏山嶺を向山と改稱して昭和九年より採掘に着手したるもの、即ち當嶺山なりとす。

ムカサ 向笠村

靜岡縣遠江國磐田郡の中央部。東に今井村、南に田原村、見付町、西に大野村、北に三川村あり。村域の西部は磐田原の沖積地にて、東部は太田川及び支流敷敷川の沖積平野なり。臺地は原面廣く残り傾地多く、茶・西瓜を産し樹林多し。東部は水田地なり。和名抄にある磐田郡飯賣郷は飯賣郷の誤にして、蓋しこの地ならんといふ。村名向笠は三河物語に無笠に作る。(坂本神社)大字飯原に飯座。郷社。大山吟命を主神とし、鹿津繪津見神等十柱を合祀す。正

和年中近江國坂本なる日吉神社より勧請し、山玉權現と稱すといふ。江戸時代末印領八石を有す。例祭、十月十七日。

ムカサ 穆佐村

宮崎縣日向國東諸郡の東南部。宮崎市の西方約三軒にありて大淀川の右岸に沿ふ。北及び西は高岡町に接し南及び東は宮崎郡に界す。西境の南半は山地にて四五四米の峰あり、山地は東及び東北に傾斜して中部及び東部は斜面地をなせど、東境の南部また稍々高く標高一八〇—二〇〇米を測る。東北部は平野が開け大淀川は村境に沿ひて東流す。農業が主産業にして全戸數の八割は農を營み、他は商・工・山採、其他なれど共に僅かなり。主産物は米・麥、並に養蠶行はれ、また酒類(宮水酒)として名あり。木炭・木材の特産あり。日向街道が東北端を極めて過ぎ省營バス通す。古くは和名抄、諸郡穆佐郷の内にして穆佐郷は後世六笠または向左にも作る。建久園田村には穆佐院三百町と見え、島津御社の寄附たり。大字小山田に六笠城あり。地理考に穆佐の高城は太平記に六笠に作り、島山修理亮直經の據りし所。のち伊東氏これを領す。應永年中、島津元久兵を擧し海江田城を陥る。元久の子久豊穆佐に在り、伊東大和守祐安その女を以て久豊に納れ忠國宮城に生る。應永十八年元久卒す、久豊鹿兒島に歸りて後を嗣ぐ。此後また伊東が所領となりしを、義祐豊後に通れしより永く島津家の

有となるとあり。(穆佐神社)大字小山田に飯座。郷社。祭神、應神天皇・仲哀天皇・神功皇后。應永年間島津久豊字佐神宮を勧請して産土神とし、長祿四年同忠國之れを再興す。例祭、十一月十五日。

ムカタ 向田村

栃木縣下野國那須郡の南部。向田町の南隣にて那珂川の西岸にあり、南は芳賀郡と隣す。西境附近及び南境に一五〇米前後の丘陵地あり。南部には丘陵間を荒川東南に流れ、村の東南境にて那珂川に合す。那珂川及び荒川流域には平地ありて農業行はれ米・麥を産し養蠶業の栽培盛なり。區道は向田町より來り、更に南走して芳賀郡茂木町(約一〇軒)に至り、省營自動車常野木線通す。省營島山線は北部を東北に走るも村内に穿なく、向田町に島山驛を置く。近世この邊を横井庄と稱すといふ。村内に龍門ノ瀧あり、高さ一五米、幅二〇米なり。

ムカタ 向津具村

山口縣長門國能高郡の高砂族の一部。アタル族に屬す。北合歡山の西方に位し、標高約一五〇〇米の地なり。戸數一、人口七四(昭和十二年現在)。區道は長門市より堀里街を経て至るを便とす。

ムカツ 向野

豊前國(大分縣)の古地名。和名抄に宇佐郡向野郷あり。いま宇佐郡北馬城村の邊なるべし。書紀、仲哀紀の八年、天皇筑紫に幸し給ふ。時に國縣主熊荒なるもの、天皇を迎へて、穴門(いま下關市の邊)より向津野大津に至る間を東門とす云々とあり、この向津野大津の地も恐らく向野郷の地にして、北馬城村の海岸の邊ならんといふ。

ムカバキ 行藤

廣島縣廣品郡にありし村。大正二年に桑木村・木野山村と共に敷し大正村を置く。

ムカブール

臺灣臺中州鹿港郡にある高砂族の一部。アタヤル族に屬す。合歡山の西走支脈、北港溪とカムジャウ溪の合流點附近にあり、標高約一五〇〇米。昭和十二年末の戸口は戸數二一、人口一〇〇あり。

ムカワ 武河

甲斐國(山梨縣)北五原郡釜無川右岸の地名。和名抄の武衣餘戸の二郷の地。大武川貫流して釜無川

ムカツ

ムカツ—ムキ

百八

百米の丘陵起伏し北部は海嶺、南岸は砂濱にて、丘陵傾斜地と海岸とに田畑多し。油谷半島は南部に於て最高一四九米に達し、向津具半島とは狭き砂嘴により連結され、その地峽部南岸に大浦港あり。産物は米・麥・蕎麥・牛・柑橘等の農産物の外、鯛・鰯・鰯・和布等の漁獲多く、また煮干・練詰の製造行はる。其他、清酒・醤油等の工業あり。道路は大浦より南岸の葉落を連ねて東方山陰本線の人丸驛(葉落村地内)に至り、また北岸の川尻に通ずるものあれど、交通や不便なり。村に海軍記念館、郷社八幡宮あり。川尻は捕鯨根拠地とし、大浦津海女を以て名高し。油谷半島の伊島海岸に化石多く天然記念物に指定せられ、その東南沿時には吉田松陰の築かしたるといふ臺場の址あり。この地は和名抄、大津郡向國郷の地にして、中世は向津具村と云ひ文治二年の記文に見え、初め大僧正昌雲の相傳私領なりしが、國司の收公を恐れて之を新日吉社に寄進し、永曆二年院廳下文によりてまた之を相傳領せり、その後、建久八年、鎌倉よりその地頭職を寄進して、永く一圓止の社領とせり。(伊島) 指定名勝・天然記念物。油谷半島の南面及び西面に於ける柱狀節理を成す玄武岩の奇跡地にして、その地は燈ヶ瀨・荒神山・依懐の三部に分る。燈ヶ瀨は油谷半島南面の懸崖にして、柱狀節理整然として垂直に發達し高さ六五米以

ムカトータ

社 臺灣臺中州能高郡の高砂族の一部。アタル族に屬す。北合歡山の西方に位し、標高約一五〇〇米の地なり。戸數一、人口七四(昭和十二年現在)。區道は長門市より堀里街を経て至るを便とす。

ムカツ 向津具村

山口縣長門國能高郡の高砂族の一部。アタル族に屬す。北合歡山の西方に位し、標高約一五〇〇米の地なり。戸數一、人口七四(昭和十二年現在)。區道は長門市より堀里街を経て至るを便とす。

ムキ 武儀郡

美濃國の中部。北は岐阜縣大野郡及び郡上郡に、東より南へかけては加茂郡・稲葉郡に、西は山縣郡・本巢郡に隣る。北境は屏風山脈に屬し、左門岳(一二二四米)・瀧波山(一四一三米)聳え、その南には古生層の美濃山地が續き、高賀山(一二二四米)・日永岳(一一一六米)・鹽ヶ岳(一一六三米)等。板取川は屏風山脈に發し、斷層線に沿うて流れ北方郡上郡より來る長良川に合流す。東部山地よりは津保川西南へと流れ、關町附近にて西折し、山縣郡保戸島村に於て長良川に合流す。長良川は元これより西流せしが、中世にこの津保川の谷へ流路をかへて今日に至る。東境には益田川が古生層の美濃山地を開析し、流入曲流をなしつゝ南流す。産業は山間部のこととて農耕地少く、米・麥・大豆・粟等を産し、製紙業も盛なり。始め山地には楮・三椏多くこれより抄紙を行ふに至り、此地の産が全國に有名となり美濃紙と呼ばる。現今は牧谷と武儀谷に特に盛にして、和紙多く洋紙も出す。美濃町には製紙工業試験場を置く。林産物には用材・薪炭等あり、工産物には和紙の外、煉瓦・瓦・石灰・清酒・醤油・刃物等あり、殊に刃物は關町に盛にして、關の刀鍛冶は孫六以來有名なり。近年は洋食器・剃刀の刃の産も多し。特産物には富

ムカツ

ムカツ—ムキ



ムキイ—ムコ

有柿ありて多く開闢より出荷さる。交通は早くより開け、濱野街道は小金田村より關町を経て東北へ七宗山(六七八米)の麓を廻り菅田町に至り、更に金山町より益田川の谷を上る。一方、郡上街道は關町より美濃町を経て長良川の谷を八幡町(郡上郡)へと上る。鐵道は東部に備かにか省線高山本線通じ、上麻生・白川に驛あり。一方大田より分岐せる越美南線は加茂村を横断し長良川の谷を郡上街道に並行し、美濃町・板取口・美濃湖原の各驛あり。また南部には小金田より湖尻村・關町を経て美濃町に至る社線名古屋電氣鐵道通じ、武儀谷へは南山縣郡高宮町よりバス通じ岩佐驛を驛點とす。續紀・養老元年紀に務儀郡、大安寺資財帳には武儀郡に作り、文徳實錄にも武儀郡を割きて郡上部を置くと見ゆ。拵芥抄・延喜式みな武儀に作る。和名抄は武儀に作り半介と註し、御氣・勝部・生備・有知・白金・大山・稻朽・菅田・掛可の九郷を管す。東鑑以後は武儀に作り今これに従ふ。釋日本紀に引用したる亦武儀國もまた本部の邊か。

ムキイボ

社 臺灣花港港花運部の舊社。鯉魚池の北方約二軒の地、アタル族タロコ蕃に屬する高砂族の部落にして、戸數六〇、人口二八五(昭和十二年末現在)を有す。

ムギクラ

麥倉 埼玉縣北埼玉郡にあるりし村。明治二十六年利島村と改稱す。

ムキプラタン

社 臺灣花港港花運部の舊社。三枝渡右岸の地方にあり、アタル族タロコ蕃に屬する高砂族の部落。戸數四一、人口二〇一(昭和十二年末現在)。

ムキヨク

無極嶺山 朝鮮忠清北道陰城郡金旺面にある金銀山。昭和十年には金六一、二一二瓦、銀一五一、九五八瓦、金銀鐵一六四萬(この總價約二二萬圓)を産出し、同年六月末の従業員は四五〇人とす。

ムクチ

六口島 岡山縣兒島郡下津井町の屬島。同町の西南海上約二軒に浮ぶ。面積八〇ヘクタールにして見事な黒松林に蔽はれ、海岸は岩礁多く變化に富む。西南の海濱に立つ象の姿をなせる自然石は象石と呼ばれ、花崗岩の巨石にして高さ八米、いま天然記念物に指定せらる。象岩に擬く松の海岸は好海水浴場として夏季避暑を極む。下津井町より船にて二十分。

ムクナシ

榎梨 安藝國(廣島縣)の古地名。和名抄に沙田郡榎梨郷見ゆ。訓を聞くも恐らくはムクナシと訓すべきならん。其の地いま豊田郡榎梨村の邊なるべし。榎梨村

ムクハラ

向原 臺灣花港港花運部にある舊社。木瓜山の東々北にして木瓜渡右岸の山腹にあり。標高約一八〇米の地。高砂族の部落にて、アタル族

ムクムケ

向原 臺灣花港港花運部にある舊社。木瓜山の東々北にして木瓜渡右岸の山腹にあり。標高約一八〇米の地。高砂族の部落にて、アタル族

のタロコ蕃に屬す。戸數一一三、人口五七六を有す。

ムクモト

椋本村 三重縣伊勢國河藝郡の西南部。鈴鹿郡龜山町の南に接し南は安濃郡に界す。全村地形概して平坦にして西部に湖沼あり。南境の西半には之に沿ひて東南流する安濃川あり。全戸數中、農業は六割、商業二割、其他二割にて米・蠶等を産す。鈴鹿郡關町より伊勢別街道が來り、本村を東南に横切りて津市に至り、西部にて一道分れて西走し安濃郡河内村に出で自動車の便よし。社線安濃鐵道が津市より來りて北へ横貫し椋本口(昭和十一年設置)、椋本(大正三年設置)の二驛を置く。(明治天皇椋本御小休所)指定史蹟。明治二年再度東京御幸の際、三月十日神宮に行幸の御及び同十三年山梨・三重兩縣及び京都巡幸の際七月十日の兩回とも御小休所となりたる處にして舊規模よく保存さる。(椋本の大板)指定天然記念物。幹の北側は缺損せるも尚ほ日通幹國七米を超え枝條擁り樹勢旺盛、椋の巨樹として有數のもの。

ムクロギ

無垢路岐山 阿武隈山塊の一峯。福島の東方約一七軒、福島縣相馬郡石橋村と伊達郡月館町との境上に跨る。標高六七二米、山體片麻岩より成る。西麓を阿武隈川支流廣瀬川北流し南東斜面より發する水は南東流して新田川の上流をなす。

ムゲツ

牟義都(國) また見毛津

出濱と言ふ。西部の住吉川及び東部山中央地に發する渡尾川は斜面を下下して海に注ぐ。このあたり川床高き天井川多し。西宮市に東接する地域は西北部が六甲山塊東北端の斜面地をなし、藤葉峯(四八九米)・標山・甲山(三〇九米)等の諸山あり、他の部は大坂平野西端の平坦地にして、西北方より來る武庫川は北境を繞りて東南流し更に中央を横切りて南下し大阪灣に注ぐ。河口附近は土砂堆積多く陸地が大坂灣に突出せり。藤葉峯東麓の武庫川河岸に寶塚の鑛泉あり。本部は土地肥沃にして、殊に東部・中部は北に山を背ひ南は海に臨み氣候溫和、且つ阪神間に位置を占めて交通の發達著しく、各種の産業發達せるも、特に灘の清酒は著名なり。郡内は中部の魚崎町、御影町の二町外十一箇村を含み、一方軒人口密度は九四五、阪神地方の住宅地をなし、特に御影町の如きは八一五四人、魚崎町は七三四五人の多きに達す。交通の發達も目ざましく西國街道を始め京・阪・神間を結ぶ街道が數多横斷し、また省線東海道本線・社線阪神電氣本線及び同國道線・社線阪神急行電車等通じ阪神國道自動車線のバスの往來も繁く頗る活況を呈す。西北部には神戸市より有馬温泉に至る有馬街道が走り、また北方及び西北方へ至る區道も通じ、社線神戸有馬電氣も走る。續紀・天平神護二年の條に郡名見ゆ。和名抄は無古と註し製美、兒屋、武庫、石井、

ムコ

曾國・津門・廣田・雄田の八郷を管す。明治二十九年四月、西に隣れる兎原・八郡二郡を併せて郡域大いに擴張せしが、のち西宮市獨立し、また神戸市の擴張によつて郡域大いに縮小す。

ムコ

【武庫川】 兵庫縣東南部の川。水源は丹波國冬紀郡古市村にして、攝津國有馬郡内の諸水を集め、郡の西北より東南へ斜に貫流し、三田町を過ぐ。次いで右岸に有馬川、左岸に船坂川・朝東川等を容れ、これより老の阪山脈及び六甲山脈に屬する諸山岳の間に入り兩岸大いに迫る間を東流すること二軒、南に折れて生瀬に至り、始めて大阪平野に出で、また武庫郡に入り、始めて武庫川と稱し、郡の東部を南流し、下流は西に枝川を分ちて大阪灣に注ぐ。その運び來る土砂は河口に三角洲を形成す。流域凡そ五〇軒。下

ムコ

流の大阪平野に屬する部分は殆んど伏流をなす。

ムコ

【武庫】 伯耆國(鳥取縣)の古地名。和名抄に日野郡武庫郷あり、いま日野郡神奈川村・根雨町・江尾村の邊なるべし。神奈川村の大字武庫は尾名の遺稱とす。

ムコ

【向日町】 京都府山城國乙訓郡の略々中央。京都市の南西約六軒。山城の大部分は北西の嵐山山地より續く長岡丘陵なり。其の東方は山城盆地の沃野にて、水田廣く連る。長岡丘陵地は洪積層より成り、極めて緩傾斜をなし、京都附近より遠望すれば、恰も火山の裾野の觀を呈す。全城殆んど竹の分布を見、其の末端に向日町の聚落ひらく。丘陵の西方は小畑川の浸蝕面に當り急崖をなす所あり。前記の洪積層は古期のものに屬し多雨期に生ぜし河成層にして高度三五〇米の西方山麓地帯にも存在す。また丘陵の末端に新期の洪積層あり、段丘を作りに平地に臨む。洪積層の丘陵地は乙訓郡の栽培地、竹林の主要分布地にして、竹栽培地は他と異り地目は畑地なり。孟宗畑の地價は時に水田の地價より高く、如何に孟宗竹栽培が農業經營上有利なるかを物語るものなり。交通は東海道本線向日町驛(明治九年設置)の他、之に併行して新京阪電車通じ向日町・西向日町の二驛(昭和三年設置)あり交通至便なり。

ムコ

とも著く。書紀、景行紀に天皇の皇子大魂命を美濃國に封ぜられ、身毛津君の祖となすとあり。國造本紀にも國名見ゆ。牟義都は郡の字を略し牟義ともいへり。いま美濃國の武儀郡は國郡制定の時、牟義國の郡名となれるものならん。

ムコ

【武庫郡】 兵庫縣二十五郡の一。攝津國の西南部。本部は昔ては中に神戸市を包みたるしが、神戸市の最近の發展は漸次その東西の隣接せる町村を合併し、一方、大正十四年四月に西宮市が本部より獨立し漸次附近の町村を合併せし爲、今や本部は西北部の神戸市に北接する山岳地方と、神戸・西宮兩市間、及び西宮市の東隣の尼ヶ崎市に西接する地方との三部に分たる。本部は六甲山塊の斜面地帯を占め、東北より西南に幾多の斷崖あり。西北部は六甲山塊の西北斜面にして、四圍は山岳を以て圍まれ、特に東南部に最も高くして双子山・シャクナゲ山(六五三米)・摩耶山(六九九米)等聳ゆ。北部にも金剛童子山・鹿見山・稚子墳山・常磐山・丹生山等の五〇〇米以上の諸峯が東西に連なる。山田川は東部に發して中央北偏を西流し美濃郡を流れ加古川の一支美濃川に合す。神戸市と西宮市とに挟まれたる中部は六甲山塊の南斜面より大阪灣岸に至る地域にして、北境には六甲山(九三二米)が聳立す。南部には平坦なる海岸平野發達し平直なる海岸の東部は打

ムコ

道路の主なるものは西國街道にして、京都より桂川を渡り、本町を経て攝津に入らる。其の開通は恐らく平安遷都以前ならん。紀貫之の土佐日記に據るに、本街道によつて山崎より京都に上りしものなり。向日町の南入口に鳥坂あり、土佐日記記載の鳥坂の舊址なり。聚落地の狀態を見るに、長岡丘陵の末端に位置するものと、東部平坦地に立地するものとの別あり。前者は向日・鶴冠井・寺戸・物集女・上植野等多くは古聚落にして、本町の大部分の聚落は之に屬す。其の形態は地形に左右さるるものと雖も、東部の條里制の影響と長岡京の京城の地たらし關係上、西方山麓地帯の同種聚落とは多少異り、地割稍々整然たり。東方平坦地の聚落は山城に於ける典型的條里式村落にして其の代表として森本及び東土川あり。向日は本部の首邑、西國街道に沿ふ街村にして、省線向日町驛まで殆ど連續す。本部の主道は本町を中心に放射狀に各村に通ず。新京阪向日町驛附近には近時文化住宅建設され小田園都市的形態をなす。附近は京阪地方の近郊住宅地帯化せんとしつゝあり。本町の主要部をなす長岡丘陵は、附近の山麓地帯と共に先住民の重要分布地たりし所、大小の古墳各所に散在し、我國に於ける古墳分布地帯をなす。桓武天皇皇后は寺戸にあり。また平安京遷都以前の都、長岡京址は即ち本町に在り大字鶴冠井を其の大

ムコ

道路の主なるものは西國街道にして、京都より桂川を渡り、本町を経て攝津に入らる。其の開通は恐らく平安遷都以前ならん。紀貫之の土佐日記に據るに、本街道によつて山崎より京都に上りしものなり。向日町の南入口に鳥坂あり、土佐日記記載の鳥坂の舊址なり。聚落地の狀態を見るに、長岡丘陵の末端に位置するものと、東部平坦地に立地するものとの別あり。前者は向日・鶴冠井・寺戸・物集女・上植野等多くは古聚落にして、本町の大部分の聚落は之に屬す。其の形態は地形に左右さるるものと雖も、東部の條里制の影響と長岡京の京城の地たらし關係上、西方山麓地帯の同種聚落とは多少異り、地割稍々整然たり。東方平坦地の聚落は山城に於ける典型的條里式村落にして其の代表として森本及び東土川あり。向日は本部の首邑、西國街道に沿ふ街村にして、省線向日町驛まで殆ど連續す。本部の主道は本町を中心に放射狀に各村に通ず。新京阪向日町驛附近には近時文化住宅建設され小田園都市的形態をなす。附近は京阪地方の近郊住宅地帯化せんとしつゝあり。本町の主要部をなす長岡丘陵は、附近の山麓地帯と共に先住民の重要分布地たりし所、大小の古墳各所に散在し、我國に於ける古墳分布地帯をなす。桓武天皇皇后は寺戸にあり。また平安京遷都以前の都、長岡京址は即ち本町に在り大字鶴冠井を其の大



絶版の地とし、山階宮の御筆にて長岡宮城大極殿遺址の記念碑を建つ。遷都十年未だ竣工を見ずして平安京に再遷となり...

(神代卷下巻)一册は國寶なり。「泉福寺(三日觀音)」森本にあり。淳宗西山派。星山水山不空宗宗院と號す。延暦十三年に...

食糧の遺實多かりし所なり。現在の向島區は然らず、全く工業地域をなし、本所區内に屬する部分のみ向島公園として河...

淡中流地方にあり、高砂炭アタヤル族中タウヤイ蕃に屬するもの部落。戸數四、人口二三九。順路は花蓮港街より...

の十七年に歸化百濟人を大身地屯倉に置き、高麗人を小身地屯倉に置く見ゆ。

且つことさらに水を乞はしめしかば、勝家その密旨を承けて来たことを悟り、貯ふところの水を盡して與へ、使者還るに及び、勝家、城中既に久し保ち難し...

地名を傳ふるものならん。ムサカエ 六榮村。ムサシ 武藏。【武藏國】 東海道十五箇國の一。關東平野の西部に位す。國内を八市と十五部に...

天慶の節の一因と謂はる。亂後、藤原秀郷源經等の天慶の亂に力ありし功臣この國の守となりしが、地方制度の亂るに及び漸次莊園増加し、豪族各地方に割據するに至り、謂ゆる武藏七黨と稱するものを生ず。七黨とは丹治・私市・見玉・猪股・西野・横山・村山等にして、後世の郷士の源をなす。源朝の鎌倉に起りし頃は江戸氏江戶の地をとり、島山・河越等の諸氏もまた地方に跋扈せしが、いづれも頼朝の麾下に屬し、爾後この國は鎌倉幕府の直屬の國となる。頼朝、天下兵馬の權を握るや平賀義信この國の守護となり、爾後北條氏の族これを襲ひ、これを他氏に與ふることなかりき。元弘三年新田義貞が勤王の軍を上野に起し鎌倉に進みし時、國府附近の分階河原に北條高時の軍を破る。建武中興の時、足利尊氏は功を以て本國の守護を得しが、のち尊氏の叛するや子義隆をして鎌倉にありてこれを管せしむ。のち次子基氏鎌倉の管領たるに及んでもなほ之を繼續す。鎌倉管領の滅後は上杉氏これに代りて關東を鎮めしが、持氏の子成氏管領となるや、山内・扇谷兩上杉氏はこれに叛き成氏古河に走る。よりに將軍親政は澁川義鏡を關東探題とし、本州の亂を鎮せしむ。ここに於て山内上杉の房胤は深谷に據り扇谷上杉の持朝は川越によりて、本州を分領す。既にして扇谷上杉の臣、太田持資(道連)は江戸に築き、鉢形・岩槻等の



諸城を修し、持朝の子定正の時に漸次に本州を併呑す。大永年中、伊豆より起りし後、北條氏の勢力は漸く關東平野を蓋し、北條氏の勢力は漸く關東平野を蓋し、北條氏の勢力は漸く關東平野を蓋し...

は新に埼玉縣を置き、武蔵の北東部を管し、川越縣は郡名によりて入間縣と改稱して武蔵の北西部を管す。明治六年六月八日、入間縣を廢して熊谷縣を置き、これに群馬縣をも併せしが、明治九年八月熊谷縣所管の各郡を埼玉縣の管下に移して今日に至る。而して南・北・西の三多摩郡は明治四年十一月に神奈川縣の管轄となりしが、明治二十六年四月より東京府の管轄に移る。東京府が豊島・荏原・葛飾の各郡の中より獨立せしは明治二十二年自治制施行の時なりき。この時、横濱市もまた久良岐郡の中より獨立す(のち久良岐郡全部横濱市に入り郡名を失ふ)。明治十三年五月、國內の郡を分割して葛飾郡を南・中・北の三郡とし、埼玉郡を南埼玉・北埼玉の二郡とし、足立郡を南足立・北足立の二郡とし、豊島郡を南豊島・北豊島の二郡とししが、明治二十九年四月に至れば郡の大融合を行ひ、東京府管下の東多摩・南豊島二郡を合して豊多摩郡とし、埼玉縣管下の中葛飾郡及び北葛飾郡を合して北葛飾郡とし、北足立・新座郡を合して北足立郡とし、入間・高麗二郡および比企郡の一部を以て入間郡とし、比企郡の大部分と横見郡とを合して比企郡とし、兒玉・真美・那珂の三郡を合して兒玉郡とし、大里・幡豆・梅津・男金四郡を合して大里郡とし。而して大正十一年十一月川越市が入間郡より獨立し、昭和八年四月には川口市が北足立郡より、熊

谷市は大里郡より獨立し、昭和九年二月に浦和市は北足立郡より獨立し、三市九郡となり、東京府管下にては八王子市が大正六年八月南多摩郡より獨立し、昭和七年十月に東京府はその隣接せる荏原・豊多摩・北豊島・南足立・南葛飾の五郡を併合して大東京府を形成し、神奈川縣管下にては大正十三年七月、川崎市が横樹郡より獨立し以て今日の形勢となる。【武蔵野】 ↓ 管谷村(埼玉縣比企郡) 【武蔵嵐山】 ↓ 管谷村(埼玉縣比企郡) 【武蔵小金井】 省線中央本線の驛(大正十五年設置)。東京府北多摩郡小金井にあり。【武蔵境】 省線中央本線の驛にして、社線西武鐵道の接続點。東京府北多摩郡武蔵野町にあり。【武蔵野】 奈良市にある春日野の別名。【武蔵】 ↓ 二日市町(關西縣宇治郡) 【武蔵野】 大分縣豊後國東郡東部の東南部。國東半島の東岸を占めて兩子山の東南麓に位し、東は周防灘に臨む。北部及び南部は略々西北より東南に連る山麓丘陵地にして南境には小城山(二四二米)聳ゆ。南部の山地は海に迫りて行善岬となる。中部は武蔵川が東南流して沿岸に平野開け東岸には低地砂灘をなす。武蔵川河口より北の海岸は平直な砂灘をなす。田畑よく拓けて米・麥を産し又酒造場あり。海岸には水産漁獲物に富む。東部には縣道及び社線國東鐵道が貫通して、武蔵野(昭

和八年設置)あり。明治三十一年町制を布く。古くは和名抄國東郡武蔵野の内とす。中世は田原氏の裔吉弘氏この地を領す。即ち大友氏の屬臣たり。(掃八幡神社)大字三井寺に鎮座。祭祀、祭神、應神天皇・比賣大神外一神。例祭、十月廿五日。(照恩寺如法鏡石塔) 國寶。大字三井寺にあり。もと寺の東隣なる掃八幡神社境内にありて、明治初年、毀釋の際地上に轉倒し、爾來そのまゝなりしを同二十二年に現場に移建す。形體完備せる優秀なる遺作とす。【武蔵】 豊後國(大分縣)の古地名。和名抄に國東郡武蔵野あり。國造本紀に見ゆる國造國造牟佐自命の居りし處。武蔵の名こゝに起る。その地いま東國東郡の武蔵町・中武蔵村・西武蔵村等に互るか。

ムサシノ 武蔵野

【武蔵野】 關東西部盆地にありて其の範圍については區々の説あり。普通には東京の西部盆地即ち荒川と多摩川の間、高麗徑に二五—一五〇米に含まれる地域を指す。東部は荒川を限り、即ち關東山麓の青梅・飯能・松山の諸町、即ち關東山麓の河口集落を境界とする地域を占む。新編武蔵風土記によれば、荒川の支流は志木・所澤を連ね、川越・入間川、飯能を連ね、入間川との中間を指すも、茲には現在多く用ひらるる區域を指す。即ち武蔵國に屬する河津郡の中、今の東京府下野多摩・北多摩の二郡、埼玉縣入間郡

の大部と、比企郡・北足立郡・南足立郡の一部なり。武蔵野は關東山地より東流せる多摩川・入間川・越前川の扇狀地によつて形成されたる洪積期の臺地にして武蔵野臺地と稱へらる。武蔵野臺地の東邊は川越・志木・赤羽・上野の急崖を以て荒川氾濫原に臨み其の高度は約二五米にして一〇—二〇米の高度差の崖をなす。多くは荒川の侵蝕によるものとせらる。東南部は圓ゆる山ノ手の臺地によつて東京灣に没す。西南境は多摩川の流路に沿ひ多摩川斷層により、更にその後の側侵蝕によりて河成段丘をなす。武蔵野臺地には舟形をなす狭山臺地あり。海拔高度約一七〇米に達す。この狭山臺地は舊多摩川の古扇狀地が残留するものにして、南部の多摩丘陵と同一期の成生にかゝる。青梅を頂點とし北東豐岡—入間川の線と東南拜島—立川の線に多摩川の流路のなす三角形の山麓線より東方に各々約五軒の距離にありて、侵蝕による形成説や斷層説等あり。狭山丘陵内にある現在の村山・山口兩貯水池の深き從谷は舊多摩川東流の流路なるやを思はしむ。武蔵野臺地は上部にローム層に覆はれ三—一五米の厚さを有す。其の下底に近き所は粘土質にて小圓礫を含み、東京の山手にては殆ど缺く所あり。斯る事實より武蔵野臺地のローム層は其の下部は水中堆積物と考へらる。ローム層の下部に砂礫層ありて武蔵野砂礫層と呼ばれる。數米より一〇米

に達し山麓部に厚層をなし、臺地西方にては山砂利と呼ぶ。東京山の手にては砂粘土に移化す。武蔵野砂礫層の下部は頁岩質砂岩となる。前述の如き堆積後土地隆起し、多摩川・柳瀬川・入間川・越前川の侵蝕によりて臺地内に深き侵蝕谷を作り武蔵野は三分せられたり。斯る地質と地形によりて變化せる人文景を現出せり。武蔵野臺地の東部と南部の縁邊には貝塚の出土多く、之によりて舊海岸線を略追跡し得る。即ち原始人の居住時代に於ては川越までが海岸にして、この海邊に聚落ありしを知る。奈良時代、關東開墾時代には農耕が行はれ、古墳の分布は朝鮮人の歸化により主として山麓地帯より漸次移進せり。高麗村や野火止の名稱によつて知られ、野火止とは即ち朝鮮民族の農法たる火田が其の起源なりとも言はる。斯くして山麓部は溪谷山地の湧水や用水により、水田桑園の利用、山地の物産と山の幸、野の幸を利用して得る好條件によるものなるべし。更に古代よりの氾濫原縁邊部と聚落は武蔵野の周邊に位置せり。人口の増加と文化の進歩により次第に中央に開拓を進むるも、徳川期までは依然として開墾遅れ調ゆる武蔵野の茅原をなせり。主要街道も多くは山麓部を通じ、殊に鎌倉に幕府開けし事は兩毛地方よりこの線を利用し、今に至る處に鎌倉街道の名残る。深谷・熊谷より松山を経て入間川・所澤・府中を通ずる線は主要

交通路にて盛衰も古くより變遷し、北條足利時代の古戰場多くこの沿道にあり。戰國時代に於ける平城としては川越・志木・豊島・江戸城等が築造され近世は城下町の前身をなせり。多くは大田道灌の築城を以て起る。關東臺地の平城形式は江戸城にして起る。即ち臺地の先端部を利用し、其の臺地は深き堀り、臺地下は氾濫地、或は池沼の自然的防禦地形を遺す。志木・川越・岩槻等皆然り。武蔵野臺地中央部の開拓の遅延せし理由は用水の不足にあり、厚層の砂礫層のため水は伏流となりて地下に深く滲透するに因る。川越南部に不老川あり。トトラズと訓む。即ち冬期潤河となりて年を取らざるに依ると。所澤町の北約三軒に聚落村あり。蓋し井を掘發するに因ると云ふ。此地は三宮と呼び柳澤吉保の開拓により初めて開けたり。斯くの如く武蔵野と著聞せらるる長き未開拓地の開墾第一は用水の利用にあり。玉川上水の疏水は武蔵野臺地の革新期にて、青梅街道に沿ふ新田開墾せらる。此等新田は幕府の保護獎勵により均田制が行はれ、蓋然たる土地の區劃行はれ、今も容易に區別される。次で松平信綱が野火止用水による新田開墾、其他民間の開墾行はる山麓や、河川侵蝕谷底にありし舊村より次第に移住し、新田を開拓し、出身古村の村名を上冠し何々村新田、或は新開と稱し、容易に地名より今も判別し得る。此等新田村の生

活は非常な勞苦を伴ひ經濟的に窮乏し、遷村現象さへあり。多くは麥・甘藷等を栽培し、川越芋の名も茲に起源し、青木昆陽の甘藷栽培法は實に非常な貢獻をなせり。江戸の開墾より、養蠶による絹織物の産地となり、木綿の産地となる。養蠶業の發達は横濱開港以後にあり、川越・飯能・所澤等の機業地の發達も茲にあり。東京市の發達は其の西部地域を住宅化し、省線電車の發達は次第に其の周邊部に延長せり。練馬大根等の名ある蔬菜園圃は次第に之の臺地を經濟的に有利ならしめ、現に郊村園圃は入間川の北岸に及び、東京より四〇軒の遠隔の地に達す。徳川期に備みし自然的地形土質の條件は却て今や反對の好條件となれり。田よりも畑への轉移となり、「田付の畑」の土地賃借買賣さへ行はるゝに至れり。武蔵野に通ずる主要幹線は中央線・八高線・西武鐵道川越線・東武鐵道東上線・武蔵野鐵道にして、東京近郊電車の發達は一々茲に詳述し難し。交通機關の發達は武蔵野をして東京の一大遊覽地變化し、至るところ舊跡は市民の休養地と變化せり。石神井・上井草・井之頭・洗足等は臺地地下水の湧出し、臺地侵蝕河川の谷頭を利用せるものにて、自然的地形を利用する點は興味あり。水と人の關係はこの武蔵野に於て稀むるものと云ふべく、今や東京市六〇〇萬の人口を初めとし、一市八ヶ町數百ヶ村の地となれり。武蔵野の



ムサシ—ムシヤ

區域範圍は頗る明かならず。これを廣義に解釋すれば、武蔵野一圓、苟も原野のあるところ悉く武蔵野ならざるはなしといふものの、狭義に解釋すれば、武蔵國のうち山地と丘陵地と水田地帯を除く洪積層赤土の原野を武蔵野といひ得べし。而して、今もし更に狭義に解釋するならば、川越以南、府中までの間を限る原野をいふともいひ得るなり。即ちこの武蔵野は本州の東部に當り、地勢上西より東に延びたる本州が、此處にて方向を變へ北方に向ふところに當り、古の謂はゆる陸奥と上方との往還の街路に當る。而して我國最大の平野をなせるを以て、夙に上方人士の間にも喧傳せられ、武蔵野原は詩歌にも誦はれたり。武家時代に入りて鎌倉が政治上の一大中心地となるや、隣接せるこの地は、特に重要性を有するに至り、從つて武蔵野の争奪戦は屢々展開せり。徳川氏が對を關東に受け、ついで幕府を江戸に開き、兵馬の糧を握るに及びて、武蔵野は政治上更に一層の重要性を加へるに至れり。武蔵野が謂はゆる武蔵七黨や、關東八平兵等の占據せられて年ごとに開拓せられたることは想像せられるところなるも、古くは奈良朝の初め元正天皇の朝、高麗人千八百人ばかりを宮國に移して、高麗都を置きしとあれば、これ等の移民が早くより開墾業をも起せしものならん。降りて鎌倉幕府開始以來、開墾業は急速に進める如く、東國

によるに、承元三年に武蔵國野野開墾の命あり、また仁治二年水田開墾の命も見ゆ、江戸名所開會に「水應より享保に至り、四度まで新田開墾ありて、轉田亦開となり、往古の風光これなし」とあるは、單に江戸時代のことを記したるに止まるものなり。

【武蔵野町】 東京府武蔵國北多摩郡の東部。東京市の西に接し杉並區・板橋區と隣す。北は田無町に近く、南は三鷹村、西は小金井町と隣す。武蔵野臺地の一部を占め、全町畑地多く黍・甘藷等を産し桑畑多く養蠶盛にて蠶を産す。玉川上水は南部を東流して東京市に入る。府道よく發達し、省線中央本線は中部を西走して吉祥寺(明治三十二年設置)・武蔵野(明治二十二年設置)の二驛を置く。また帝都電鐵線は東南より入り吉祥寺驛に接し、其他、武蔵野驛よりは社線西武鐵道各線線を分岐す。町の東部には井原恩賜公園あり。また町は東京市西郊の住宅地として發達す。昭和三年町制を布く。大字に吉祥寺あり、名稱の起源は明治年間水道橋邊の吉祥寺(今は本郷駒込)の門前町人を移住せしめ開設せしめし吉祥寺新田より起るといふ。並井頭、

【武蔵野鐵道】 私設鐵道。東京・埼玉の一府一縣に亘る。池袋驛(東京市)より發し、江古田・保谷・豊岡町・飯塚等の數驛を経て香野驛(埼玉縣入間郡香野村)に至る五七・九軒、轉馬驛より分岐し豊島

間に至る一〇軒、西所澤驛より分岐し村山貯水池際に至る四・八軒を含む。途中、池袋驛にて省線山手線・社線東武鐵道、所澤驛にて社線西武鐵道、東飯塚驛にて省線八高線に夫々接続す。省線と連帶運轉をなし、動力は電氣、軌間は一〇六七米とす。

【ムシイ】 虫井 鳥取縣八頭郡にありし村。大正八年に大内村と共に廢され山形村を置く。山形村は昭和十年に智頭町に編入す。

【ムシクラ】 虫倉山 富士火山帯戸隠火山群に屬する消火山。長野市の西方約一四軒、長野縣上水内郡日里村の北嶺にして、北斜面は鬼無里村に延び、西方は南小川村に亘る。標高一三七八米。山中奇岩怪石多し。もと北方荒倉山と一體なりしも其間を流るる桐花川のため二分せられしものなり。更に北方の戸隠山とも、初期噴火の際に相連りしものなるも、消滅作用により分離せしものと考へらる。即ち此等の山を形成する岩石は礫灰質凝岩なるため風雨の侵襲侵蝕に遭へば容易に分離するが故なり。

【ムジナガモリ】 絡ヶ森山 越後山系、守門火山群の東部に屬する一峯。北方に日尊山(二二六二米)、御神樂岳(一三九六米)續き、西方に東嶺山(九八七米)、小金井丸(九六一米)連る。東面は福島縣大沼郡本名村と大沼村に、西面は新潟縣東蒲原郡西川村に屬す。標高一三一

五米

五米。山中嶮曲り笹等密生し、夏季登山は困難なれど、四・五月の積雪期はヤ、面白き登高をなし得らる。

【ムシヤ】 霧社 臺灣中州能高郡の一善社。埔里街の東北方約二〇軒。北方合歡山より西南に延びし山稜と、南方水社大山より東北に延びし山稜とが相會する附近にあり、標高約一四八米。東方の閣下に濁水溪の本流一大峽谷をなし濁水洞々と流る。地は能高越嶺道路に沿ひ奥地一帯の善社に對する理事上、交通上の要地にして、アタナル族善社の本據地なり。この善社は頑強を以て開え、明治四十三年南投縣時代の討伐後に漸く歸順せるものにして、爾來官憲の撫育下に専ら狩獵農耕に従事し、公團・善童學校・美豐指導所が設けられ、内地人、本島人の家族約三十戸あり、内地人の宿舍までもありし程なり。然るに昭和五年十月廿七日未明、霧社善社のマヘ、ボアルン、ホーゴ、ロイフ、タロフ、スーラの六社を中心とする壯丁約三百人突如蜂起し、公學校・善社分室・民家等を襲撃、内地人一三四名、本島人二名を殺戮し、その他多數の負傷者を出し、警官・軍隊等出動し、飛行機まで出し、月餘にして漸く鎮定せり。これ謂ゆる霧社事件なり。これを動機とし總督は諭旨を發し、官民を誡め、翌六年三月には議會の協賛を経て善人撫育に視學官、技師等を駐在せしめ、彼等の教育・技師に新

紀元を對するに至れり。 ムシヨ—ムシロ

紀元を對するに至れり。 ムシヨ—ムシロ 長崎縣豐後國豊後郡の西南岸。北は渡良村、柳田村に、東は志原村に、南は初山村に各々隣接し、西の一部は海に臨む。海岸は比較的屈曲に富み西部中央よりは一灣深く東北方に彎入して良港地ノ浦港を形成す。その海岸には低地ありて墾墾帯をなす。然し西を除く三境は何れも山脈連なり、村内また小丘陵ありて概ね山地をなす。この地は豊後第一の繁華街にして、政治交通の中心都邑なるを以て生業は殆ど商業を營み、丘陵間の諸處には耕地拓けて主として大豆等を出す。交通は陸上は東方の石田村、東北方の田河村、北方の藤本町へ各驛道を派出してバスを通じ、海上は福岡・平戸等へ各定期汽船の便あり。域内には支那を始め憲兵分遣隊・憲兵要塞司令部・歩兵第四十六聯隊・風裁判所・稅務署、縣立中女學校等の官衙學校あり。大正十四年に町制を布く。古くは和名抄、石田郡物部郷の内とす。海東諸國記に「無山郡志、鴨打代官主之」と見え、松浦黨の本島を分管せし比は鴨打氏の所知たり。文明中、波多志(松浦黨岸城城主)悉く五氏の代官を逐ひて全島を併せ、此地に龜尾城を築き兵を置く。のち全島悉く松浦氏に屬するや吏員を山地に置きて島事を觀せしむ。庄屋所の號あり。もと郡役所の所在地なり。「華光寺」禪宗。安正三年大圓の創建、寛政五年に松浦氏

再興す。 ムシル 牟知島

再興す。 ムシル 牟知島 北海道千島國占守郡に屬する一島。舍子古丹島の南方新知郡雷公計島との間にあり。また牟知列島ともいひ、舊名をエバイト(餌糸)といふ。元祿帳にはレイアシロタンエバイトとありし村。昭和十三年に町制を布き古賀町と改む。

【ムシロウチ】 席内 關西縣唐津郡にありし村。昭和十三年に町制を布き古賀町と改む。

【ムシロダ】 席田 美濃國(岐阜縣)の古地名。續紀、元明天皇の靈龜元年七月に、尾張人席田君通近及び新羅人七十四家を美濃國に貫し本郡を置く。蓋し本郡郡を割きて本郡を置きしなり。和名抄は美和・磯部・那珂・名太の四郷を置く。中世に藤田莊を置かれしも此地なり。爾後、藤田に作りしも近世は席田に作る。明治二十九年本郡郡に入りて郡名を失ふ。

【席田村】 岐阜縣美濃國本郡郡の中部。岐阜市の西北方八軒。西濃平野の北部、美濃山地南部が濃尾平野に陥没せる地域にして、北境には分離丘陵が聳發す。船木山(一六六米)之にて、南部は桑山と稱せらる。糸貫川は西境を南流し、普通は荒川をなし、降雨の際のみ水を溢す。平野には農業廣く行はれ、米・麥・菜種・野菜等を産し、三橋附近の糸貫川に近き部分には桑園多く西部のみ美濃産なり。特産物として富有柿あり、年産十萬圓を

出す。昭和三年の今上陛下御大典に際しては、大嘗祭祭祀田産物代物として御用命を拜し、なほ大嘗実用果物として御買上の光榮に當す。本村の篤農家松尾藤次郎・松尾松太郎は、夙に富有柿の栽培法を研究して増産を圖り、殊に松尾松太郎は御大典用柿を献上の榮譽を擲へり。富有柿は用柿村が多産と云はれるも、今は本村を本邦に於ける本場となし、席田富有柿協會を組織し東京市場へ出荷す。此地の交通路は西部の北方町よりは根尾街道通じ、南端には社線名古屋電鐵揖斐線が通過し、美濃北方驛(大正三年設置)を置く。また文殊村よりは南下し、根尾金澤バスが北方まで通ず。此地の地名の起原は明かならず、席田の君が建てたるに由来する如く短形の平地なるより起るを述べたるも、本村は昔その區域のみを以て一小郡をなし、席田郡と云はれ、和名抄には美和郷・名太郷・那珂郷・磯部郷の四郷を含めり。中世は大字芝原は芝原庄と見え、他は藤田庄と見え、江戸時代は初め加納藩に屬せしがのち旗本戸田氏の領となる。大字郡府は此郡の主郷にして、始め郡を建てし時より郡司もこゝに居り、また國造等も住みしと云はれ、此名を得たり。續日本紀に「靈龜元年秋七月丙午、尾張國人外從八位上席田君通近及び新羅人七十四家貫、于美濃國・始建、席田郡焉」と見え、同書に「天平寶字二年

十月丁卯美濃國席田郡大領外正七位上子人中衛無位吾志言、子人等六世祖父留和所知自加羅國・慕化來朝、當時未練、風俗不著、姓名不詳、國號不詳、賜姓加羅造」と記し、日本後紀には「弘仁五年八月丙寅化來新羅人加羅布古伊等六人配美濃國」とありて、席田君加羅の造もこの地に土着せるものとす。三代實錄に「元慶元年四月十九日庚寅卜定悠紀美濃國席田郡、主基備中國都字部並卜食」と見え、悠紀田となりし事もあり、その故に糸貫川は有名となり、殊に仙鶴が棲みしと傳へられて古歌多く殘る。また伊那貫川とも書き、枕草子には「ぬき川」と見え、備馬樂には「いつぬき川」とも此地なり。八雲御抄に「いつぬき河美乃」と記し、榮原愚按抄には「貫河は美濃國に伊豆貫河と云ふ所あり、伊豆を略していへり」と載す。大字上久保附近は和名抄の本郡郡船木郷の地にして、山名に船木と稱す。三代實錄には不破郡の國分寺が炎上したるため、席田郡定額尼寺を國分寺代用とせられたる事あり。南部には本郡中學校あり。

【席田(郡)】 筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に席田郡見え、石田・大國・新居の三郷を置く。那珂・精尾・御笠の三郷の間に分する小郡なりしが、明治二十九年廢して筑紫郡に入り郡名を失ふ。 【席田】 福岡縣筑紫郡にありし村。昭和八年に福岡市に編入す。



ムスフ—ムツ

ムスフ

結村 岐阜縣美濃國安八郡の東北端。大垣市東方二軒。北は本郷郡...

ムセー

牟西面 朝鮮慶尙北道尙州郡の西南部。尙州邑の西南一五軒...

ムツ

陸奥 本州東北端の國名。今その二

要入

輕海峽に通ず。灣間中央に南側より突出せる夏泊岬あり...

【陸奥赤石】 省線五能線の二驛。昭和四年設置。青森縣西津輕郡赤石村にあり。

【陸奥岩崎】 省線五能線の二驛。昭和七年設置。青森縣西津輕郡岩崎村にあり。

【陸奥龜田】 省線五能線の二驛。昭和十年設置。青森縣北津輕郡龜田村大字龜田にあり。

【陸奥津邊】 省線五能線の二驛。昭和十一年設置。青森縣西津輕郡岩崎村大字津邊にあり。

【陸奥八戸】 省線八戸線の一驛。大正十五年設置。青森縣八戸市津町にあり。

【陸奥森田】 省線五能線の一驛。大正十五年設置。青森縣西津輕郡森田村にあり。

【陸奥森山】 省線奥羽本線の一驛。昭和十年設置。青森縣南津輕郡石川町大字森山にあり。

【陸奥横濱】 省線大津線の一驛。大正十年設置。青森縣北津輕郡横濱村にあり。

【陸奥六ヶ岳】 省線山嶺の一驛。直方市の西嶺にして、西面は福岡縣唐手郡西

川村に屬す。標高三三九米。山は朝日・天冠・羽衣・高麗・出徳・崎門の六峯より成る。東麓に筑波本線南北に通ず。

ムツアイ

六會村 神奈川縣相模國高座郡の東部。藤澤町の北隣にて、境川の西岸。東は川を隔てて鎌倉郡と相對す。相模野臺地の東の一部を占め、全村畑地多く、境川流域と西部を南流する引地川の流域には水田あり。農業行はれて、甘藷・麥・粟・馬鈴薯・甘藷・切干等を産し、また茶園多く養蠶行はれて繭の産多し。二條の鐵道は南流して藤澤町に通じ、北部を横走するものは東方の鎌倉郡戸塚町に通ず。社線小田原急行鐵道の江ノ島線は中央を南流し新長後驛・六會驛へ共に昭和四年設置を置く。明治二十四年、明治天皇皇孫洋行幸の際この地に演習を天覽遊ばさる。

ムツアイ

陸合村 秋田縣秋田郡平鹿郡の西南部。淺舞町の西南約四軒。南及び西は雄勝郡に接す。横手盆地の西南部に位し、全村概ね平坦にして、皆瀬川は南境を西流し雄物川に合す。雄物川は西部を西北に流る。米・蕎麥を産す。道路には村の西北部を斜斷するもの及び中部を南北に通ずるものあり。北方の社線横濱鐵道新長後見驛、東北方の同線淺舞驛へは各約五軒あり。もと今泉と各地新田の二部落に分れ時に部落感情の對立などありしが、町村制實施の際これを合併して、和合の意より

ムツア—ムツサ

り陸合村と名づく。【陸合村】 福島縣岩代國河沼郡の西北部。桑折町の西に隣接す。地勢は西北部に高く東南方に傾斜し、東部はやや福島盆地に屬す。産ヶ瀬川は北境を東流し村の東部に於て流路を南に變じ、ついで阿武隈川に合す。米・蕎麥・櫻桃等を産す。道路は西南部より東部に通じ桑折町と西方の湯野村へはバスの便あり。村内の高嶺山の頂上に本丸址・西丸址と稱する平坦なる處あり、赤館址(西山城址)と傳ふ。伊達氏の遺蹟、朝宗入道念西の創建にかゝり、のち伊達行朝の據りし處とす。大字萬正寺に伊達朝宗の墓あり。五輪塔にして地輪に滿濟寺毘沙門尊光念西大居士、文政四年辛巳十月建立とあり。その後方に朝宗の墓と傳ふる小塚あり。朝宗は始め中村常陸介と稱し、文治五年、源賴朝奥州征伐の時に軍功ありて伊達郡を賜はりそれより伊達氏を稱したり。

ムツア

【陸合村】 福島縣岩代國河沼郡の中部。野澤町の東方約四軒。南方に飯谷山(七八三米)、東北境に鳥居山(五八一米)聳え、土地は東南部に高くして、西北部に傾斜し、阿賀川の一支流北部を西流し、野澤町に入りて阿賀川に合す。米・蕎麥・木材を産す。越後街道は北部を東西に通じ、省線磐城西線野澤驛へは約四軒あり。尾野木村・登世島村・下谷村と組合村を成し、尾野木村に役場を置く。【陸合村】 山梨縣甲斐國南巨摩郡の南部。

戸部が岩手縣に屬するの外は、國內すべて青森縣に屬す。往時は今の福島縣以北宮城・岩手・青森の三縣、及び秋田縣管下の鹿角郡を併せてすべて陸奥一國の中なり。明き治元年十二月東北地方平定後陸奥を分ちて磐城・岩代・陸前・陸中・陸奥の五國となし、其の最奥の地に依然舊稱なる陸奥の名を存する事となれり。ムツの名義はミチノ國の轉。東北地方の土音。往々にしてイロをウロに轉するよりに起る。ミチノ國、精しくはミチノクの國にして道の奥にある國の義。東海・東山兩道の後を承けて、其の最奥にあるが爲に呼ばる。然るに其のミチノクノクの名元長にして、殊にノクノクの同音重複するが故に、中世略して普通に之をミチノクと稱す。拾遺集平樂盛の歌に、「みちの國名取の郡黒塚といふ所に、重之が妹あまたありと聞きて言ひつかはしける」と同書きしながら、歌には「みちのくの安達が原の黒塚に鬼もれりと言ふはまこと」とあるなど、以て見るべし。古事記傳に、陸の字をミチと讀み、それを數の六に借用するより、ムツと粉れたるならんと解けるは考へ過ぎなり。普通に通じて奥州と云ひ、陸國出羽と共に奥州と稱す。陸奥、陸奥。

ムツア

富士川の右岸。赤石山脈の一分脈なる一七〇米餘の山岳西境に連互し、靜岡縣駿河國安倍郡に界し、西は富士川を境に東八代郡に接す。村内概ね山林にて東へ傾斜し、略中央を戸栗川東流して富士川に會す。流域狭小の小平野ありて多少の耕地開く。農・藁・林の三業を主産業とし米・麥・甘藷・大根の農産物及び蕎麥・木材・木炭等を主産とす。製糸・製材業も盛にして富士峯麓に沿ふ主要林なり。鐵道は東部河岸を走り、大字南部は對岸への渡場として往時より榮え、今は橋によりて對岸の鐵道省借入線富士身延線内船南部驛へ通ず。約二軒あり。中世は南部御牧といへるはこの附近の地名にて、大字南部はその遺稱とす。加賀美次郎遠光の三男、先行は大字南部の地に居して南部氏を稱す。「諏訪神社」大字道平に鎮座。神社。祭神、建御名方命外一神。穴山信友の手書般若經。天文廿四年神領の券書。永祿四年穴山信君神田券書。天正十四年勝千代の朱印狀等を藏す。例祭、四月十五日。

ムツア

【陸合村】 熊本縣肥後國玉名郡の西南部。高瀬町の西方約三軒。西南は二軒餘にて鳥原海岸に達す。北隣には秀麗なる日岳(二〇五米)聳え、北部はその南斜面地をなす。中部・南部は菊池川流域沖積地の一部を占め地形平坦なり。米・麥の産多す。三池街道が中央を東南より西北に通過して自動車の便あり。南隣の大野村に

ムツキ

省線奥羽本線の大野下驛あり。中世以降は大野庄の内なり。【ムツオカ】 陸奥村 千葉縣上總國山武郡の北部。成東町の北隣にて、北は印旛郡と隣す。全村丘陵地にて森林多く、中央を境川南流してその流域のみ狭き低地をなし沼田をなす。農業行はれて米麥を産し、養蠶盛にて繭の産多く養蠶も行はる。鐵道は村の中央より四方に通じ南隣の成東町と日向村、西隣の印旛郡八街町等に通ず。殊に日向村内の省線總武本線日向驛に近くバスの便あり。此地古くは和名抄、武射郡境屋敷の内とす。大字境谷は文祿三年水帳に半谷に作り、天正二十年家忠日記に上總知行はんやの郷、千二百餘石とあるは此地とす。境谷大塚氏と稱するは千葉一門にして、即ちこゝに古居したり。泉郡) 【ムツクラ】 六座 相模國(神奈川縣)の古地名。和名抄に愛甲郡六座郷見ゆ。その地評ならざるもいま愛甲郡高峯村。依知村の邊に當るか。 【ムツサワ】 陸澤村 山梨縣甲斐國中巨摩郡の東北部。甲府市の西北方約六軒の山村。甲府盆地の北邊をなす關東山塊の一部なる金峰山より西南走する一分脈の末端東斜面を占め、西は其の分水嶺を以て北巨摩郡に界し、南は荒川の谷により甲府盆地に傾く。標高は西境の山

要入



ムツシ——ムツミ

阪と東方の羅漢寺山(一〇五八米)の山裾とに築かれたる谷治に發達し、農産・林業を主産とし、米・麥・木炭等の産あり。村道は南北に走り、甲府市へバスの便あり。近世に龜澤郷と稱せしは附近の諸村を總べし名稱にして、大字に龜澤あり。いま吉澤村と組合村を成し本村に役場を置く。(天澤寺)曹洞宗。巨龍山と號す。曹洞檀林七箇寺の一。文明年間、飯富氏の草創、慶長宗俊を請じて開山とす。其後、火災に遭ひ古記録焼失し沿革不詳。本尊、釋迦如来。

ムツシ 六ツ師 愛知縣西春日井郡にありし村。明治三十九年に外三箇村と共に廢され郡界を改む。

ムツジ 六辻町 埼玉縣武蔵國北足立郡の南部。浦和市の南隣にあり。東南は栗町に接す。面積五・五二平方町。小村の關東平野の一部を占め、西南方約四町の所を愛川東南に流る。全村低地にて水田多し。中部は畑地をなす。農業を主とし、米・麥を産し、輸送物の製造も盛なり。中山道は栗町より來り村の中央を北走して浦和市に通じバスの便あり。村内の中山道の驛路に燧米坂といふあり。高峻ならざるも一帯の低野を瞰下し眼界廣し。一名浦和坂ともいひ、浦和市の名もこれに起るといふ。昭和十三年に町制を布く。

ムツシマ 六島村、山口縣長門國阿武郡の北方海上。萩市の北方近海に散在する大島・相島・原島・尾島・肥島・羽

島の六島を含む。面積七・七四平方町。大島最大にして相島これに次ぐ。何れも島内は山地に蔽はれ、海岸に小平地を有す。大島の南岸に耕地拓き米・麥・柑橘類の産多し。また鯛・鰯・鯖・鰯・鰯等の漁獲あり。羽島は磯漁の傳説を有し、相島は大日如來の遺蹟を存す。何れも風光良好し。萩市へ汽船の便あり。(八幡宮)大字大島宇宮の脇に鎮座。郷社。祭神、品陀別命。延暦十一年豊前國宇佐八幡宮より分祀すと社傳に云ふ。例祭、八月十五・十六日。

ムツナ 六名 三河國(三河國、愛知縣)の古地名。和名抄に額田郡六名郷あり。諸本名を譯して石に作る。いま岡崎市及び額田郡の額田町の邊に當る。

ムツノ 陸野村 愛知縣伊豫國温泉郡の西北に横はる額野諸島の東部。陸月島及び野郎島とより成り、西は瀬戸海峡を隔てて中島に對し、北は安藝灘に、東は香灘に對し、南は約島海峡を挟みて興居島と對す。小丘起伏して海に臨み崖下に砂灘地あり。陸月島南部には積廣き平地ありて耕作行はる。農業を主産とし、米・麥を産し、特産として蜜柑・除虫菊を栽培す。南方の三津濱港とは海上七海里、毎日二回發動機船の便あり。明治二十二年に陸月・野郎島の二村を合して本村を立つるの際、各々その一字を取りて陸野村を建つ。

ムツノセ 六瀬村 兵庫縣津浦國川

三十六年に抄山村と共に廢され、新たに抄山村を置く。(六連島) ↓下瀬市

ムツワ 六ツ和 愛知縣海部郡にありし村。明治三十九年に外四箇村と共に廢され立田村を置く。

ムツミ 陸 千葉縣下總國千葉郡の西北部。大和田町の北隣にて、東より北は印旛郡と隣す。概ね丘陵地にて森林多し、東境及び北境には、おのおの北と東に流れて印旛沼に入る小流ありて、その流域の狭き低地は沼田をなす。農業行はれて米・麥を産し、養蠶も行はる。木下街道は大和田町より來りて中央を北走し、村の南部より大和田町を経て西南方の船橋市へバスの便あり。大字桑納は加納の義にて中世の田制名目なるを、文字を誤れるものならん。

【陸村】 愛知縣海部郡にありし村。明治三十九年に外一町一村と共に廢され豊川町を置く。

ムツラノシヨ 六浦莊 北の十一年に横濱市に入る。もと米倉氏の陣屋のありし處。(六浦藩)一に金澤藩。元禄年間以後、米倉氏陣屋を置き一萬二千石を食み子孫相承け、明治維新に至る。同四年に藩を廢して縣とせしが、間もなく廢して神奈川縣に入る。

ムツレ 六連 愛知縣海部郡にありし村。明治

ムツミ——ムナカ

三十六年に抄山村と共に廢され、新たに抄山村を置く。(六連島) ↓下瀬市

ムツワ 六ツ和 愛知縣海部郡にありし村。明治三十九年に外四箇村と共に廢され立田村を置く。

ムツミ 陸 千葉縣下總國千葉郡の西北部。大和田町の北隣にて、東より北は印旛郡と隣す。概ね丘陵地にて森林多し、東境及び北境には、おのおの北と東に流れて印旛沼に入る小流ありて、その流域の狭き低地は沼田をなす。農業行はれて米・麥を産し、養蠶も行はる。木下街道は大和田町より來りて中央を北走し、村の南部より大和田町を経て西南方の船橋市へバスの便あり。大字桑納は加納の義にて中世の田制名目なるを、文字を誤れるものならん。

【陸村】 愛知縣海部郡にありし村。明治三十九年に外一町一村と共に廢され豊川町を置く。

ムツラノシヨ 六浦莊 北の十一年に横濱市に入る。もと米倉氏の陣屋のありし處。(六浦藩)一に金澤藩。元禄年間以後、米倉氏陣屋を置き一萬二千石を食み子孫相承け、明治維新に至る。同四年に藩を廢して縣とせしが、間もなく廢して神奈川縣に入る。

ムツレ 六連 愛知縣海部郡にありし村。明治

ムツミ——ムナカ

三十六年に抄山村と共に廢され、新たに抄山村を置く。(六連島) ↓下瀬市

ムツミ

邊部の北隣。大阪府豊能郡池田町の西北約一〇軒にあり。東・北・西北の三面は他郡に圍まる。即ち西北は有馬郡に、北は多紀郡に、東は大阪府豊能郡の北隣に各々界す。南北に稍長し。周圍は山地を以て圍まれ東南境には三草山(五六四米)そびえ、西境南部には三藏山(四一〇米)あり。村の中央には東境につづく愛宕山(五〇二米)の秀峰あり。舊名川は北部に發し中央を南下し、愛宕山の西麓を廻りて東南流す。沿岸に稍々低地あり。米・麥類・蕎麥・蔬菜・花卉・食用農産・果實、製茶・及び雜物・蠶・木製品・製製品等を産す。中央の河谷に沿ひて葛山街道が貫通し、尼崎市と篠山町(多紀郡)に至るバスの便あり。

ムツビラ 陸平 愛知縣八名郡にありし村。明治二十三年に大野村(今の大野町)より獨立し、同三十九年に外六ヶ村と共に七郷村を建つ。

ムツミ 六ツ美村 愛知縣三河國豊海郡の南部。東北は岡崎市に接す。全村概ね第四紀新層に屬し矢作川の沖積地に於て、三河平野の一部をなす。西部には矢作川西南へ流れ、南境には廣田川が幅豆部三和村へと流れ、また中部には安藤川西南へ流る。矢作川より古部・高橋・高瀬の三用水が貫流し、灌漑の利便を興ふ。平野面には米・麥・大豆等の産多し。安藝も盛にして桑葉の移出も亦多し。安藝町の隣接地として養蠶盛にして其他に

心寺、及び龍泉寺あり。

ムト 霧頭山 臺灣高雄州屏東郡と、臺東廳臺東郡の境界にあり、標高一九一三米。臺灣山脈の一部をなす。

ムトベ 六部 丹波國(京都府)の古地名。和名抄に天田郡六部郷あり。東鑑、元暦元年に八條院御領丹波國六部郷とあるも此地を稱せしものなるべし。いま天田郡に六部村あり上・中・下の三村に分る。六部郷の地は此の邊ならん。

ムナカ 宗像 千葉縣下總國印旛郡の西北部。印旛沼の北岸にあり。南は湖を隔て、白井町・佐倉町と相對す。全村丘陵地にて針葉樹林多し、丘陵間には所々に狭き平地ありて畑地をなし、中部を南流する小流附近と西部には水田あり。農業行はれて米・麥を産し、養蠶も行はれて蠶の産あり。その他養蠶も盛なり。印旛沼沿岸は狭き低地をなし沼地多し。縣道は中央を北走し利根川畔の木下町に通じバスの便あり。同町に省線成田線水戸線と置く。また南は白井町に渡船の便あり。古くは和名抄、印旛郡船橋郷の内なるべし。村名の宗像は宗像の神を鎮守とする故に名付けしものといふ。大字岩戸に千葉氏の族五郎胤安の居せし城址あり。

【宗像郡】 福岡縣十九郡の一。筑前國の北部。直方市の西北方約五軒にありて西北部は支海邊に臨む。東方約九軒には八幡市、西南方約一六軒には福岡市

あり。東北境には孔大寺山脈が東南より西北に連りて郡境を劃し、西北端は鐘ノ岬となり、西北方海上に地ノ島が浮び更に西に大島嶼。中央には低夷なる三郎山塊ありて東南より西北に所々斷續し、西北端は草崎に移り僅か西北海上に勝島が浮ぶ。其他、諸所に丘陵起伏す。釣川は東方より來りて中央北側を西北流し草崎の東にて海に注ぐ。南部には西流する西郷川あり。海岸は草崎を中心としてその東と南の海岸は松林長く續きて狐状の曲流をなし、東は東北に延びて鐘ノ岬に移り、南は西南に續きて草崎に至る。草崎の南に曾根ノ鼻の突出ありて東北方へ深く突入する奴山川の南へ開口する湯の西を抱く。更に南の海岸は同じく狐状の平直なる海濱にして南に續く。海岸は砂濱多けれども奴山川河口の津屋崎港と草崎の東の神津港は鰯地をなす。海岸と河岸に低地發達せり。低地は田畑よく拓けて米・麥・蕎麥を産し酒類も出す。赤間町には炭礦あり。郡内は福間町・津屋崎町・神津町・東郷町・赤間町の五町外十箇村を含み、人口密度は二五〇人にして、福間町は最も多く六六二八なり。鹿兒島街道及び省線鹿兒島本線は中央を東北より西南に横斷し、社線多門線は博多より起つて北走し、西南部の宮地嶽驛に達す。古事記には別形、書紀には宗形、國造本紀は身形に作り、平安時代より宗像とす。和名抄は赤加多と註し安岐・山

田郡)より三和方面に至る土呂街道通す。矢作川には赤蓋・合歡木の渡船ありて、もと此地には浦役場として特殊の役場ありて、之は沿海沼川に設けられ船船の救助・水死・沈木に關する諸般の事務を執りしものなり。今は村長が従来の浦役場事務を管理する事となり、浦役場の名稱も自然消滅せり。鐵道は社線名古屋鐵道南部を通過し、中島驛(明治四十四年設置)を置く。大字青野は開ける鹿島五郎の一にして、合歡木は合歡の大樹ありし爲め此名を得たりといふ。明治三十九年に中島・青野・合歡木・占部・晴海・中井の六村を合して本村を建つ。村内に中島城址あり。永祿の始め板倉重正重定の築城するところとす。重定は織田氏に與力し其一族と共にこれに居りしが、深澤大炊助好景來り攻め時。爾後、好景これに居す。大宇土井に本多彦次郎信重の宅地あり。其子なる豊後守信幸は門徒一擧の時こゝに據り一擧の兵を拒ぐ。また土井大炊頭利勝は水野信元の遺孤にて、此地の人、小左衛門利昌に養はれし事諸書に見ゆ。また大字上和田は大久保藩の故里なり。青野の地は松平氏族、東條氏流青野氏の居りし所。またこの地は大正天皇大嘗祭の時、その悠紀田となる。(精日大頭神社)大字高地に鎮座。郷社。祭神、彦火火出見尊・伊弉諾尊・伊弉冉尊・素戔嗚尊・大瀧靈神。江戸時代末印領四十三石を安

あり。東北境には孔大寺山脈が東南より西北に連りて郡境を劃し、西北端は鐘ノ岬となり、西北方海上に地ノ島が浮び更に西に大島嶼。中央には低夷なる三郎山塊ありて東南より西北に所々斷續し、西北端は草崎に移り僅か西北海上に勝島が浮ぶ。其他、諸所に丘陵起伏す。釣川は東方より來りて中央北側を西北流し草崎の東にて海に注ぐ。南部には西流する西郷川あり。海岸は草崎を中心としてその東と南の海岸は松林長く續きて狐状の曲流をなし、東は東北に延びて鐘ノ岬に移り、南は西南に續きて草崎に至る。草崎の南に曾根ノ鼻の突出ありて東北方へ深く突入する奴山川の南へ開口する湯の西を抱く。更に南の海岸は同じく狐状の平直なる海濱にして南に續く。海岸は砂濱多けれども奴山川河口の津屋崎港と草崎の東の神津港は鰯地をなす。海岸と河岸に低地發達せり。低地は田畑よく拓けて米・麥・蕎麥を産し酒類も出す。赤間町には炭礦あり。郡内は福間町・津屋崎町・神津町・東郷町・赤間町の五町外十箇村を含み、人口密度は二五〇人にして、福間町は最も多く六六二八なり。鹿兒島街道及び省線鹿兒島本線は中央を東北より西南に横斷し、社線多門線は博多より起つて北走し、西南部の宮地嶽驛に達す。古事記には別形、書紀には宗形、國造本紀は身形に作り、平安時代より宗像とす。和名抄は赤加多と註し安岐・山

ムツミ



ムナカ—ムホ—

田・怡土・荒自・野坂・荒木・海部・唐内・深田・養生・辛家・小笠・大笠・津丸の十四郷を管す。後世、穀手・糟屋二郷との間に郡境に多少の出入あり。宗像三神を祀る宗像神社を以て著はる。

【宗像】筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に遠賀郡宗像郷見ゆ。これは和名抄刊本の錯誤にして、當然宗像郡に入るべきものなり。而してまた御領目録に「筑前國宗像郷、寶治二年開東進(後醍醐院)地也。龜山院御寄進(建長寺)」とあり、よつて中世には宗像郷と稱せしなるべし。其の地はいま詳かならざるも、宗像社文書に、宗像郷曲村と見ゆ。曲はいま宗像郡南郷村の大字名なり。されば宗像は此の邊を稱せしものと思はる。

△ナン 夢灘 朝鮮總督府鐵道湖南本線の一驛(大正二年設置)。全羅南道務安郡石谷面にあり。

△ネアゲ 胸上村

岡山縣備前國兒島郡の東端。兒島半島の頭部南岸に位置し、瀬戸内海に南開す。北は針立村、西は甲浦村、西南は山田村に接す。面積僅に六・二八平方軒。東光寺山(二八三米)の東麓に位し、西部に箱山地あれども他は概ね土地平坦なり。山麓に耕地拓け、海岸は鹽田連なる。海岸の風光絶佳にて舟楫・釣魚・海水浴いづれもまたよく、大字胸上は瀬戸内海國立公園の内とす。村内農産を主とし米・麥・蠶・棉・薄荷・酒類等を産す。縣道により近隣に自動車

の便を有す。(八幡宮)大字胸上に鎮座。祭神、足仲彦命外二神。例祭、十月十五日。

△ネオカ 宗岡村

埼玉縣武蔵國入間郡の東南隅。荒川の西岸にて、東より南は北足立郡と隣りし、西南は志木町に接す。面積五・七四平方軒の小村。關東平野の一部を占め、全村低地にて水田多く米を主産し麥の産もあり。また葉蘆行はれて蘆を産す。縣道は南部を横走し、西南隅の志木町及び東方約五軒の浦和市に通じ何れもバスの便あり。志木町には社線東武鐵道東上線志木駅を設く。新高武蔵風土記に據れば、題詞に「夕照あらそふ暮を見せりわが家々の宗岡の樹」とあるは、蓋しこの地なれば、宗岡の稱の相當古くよりあるを知ると見ゆ。

△ネヒ 宗檜村

奈良縣大和國吉野郡の西部北隅。宇智郡五條町の東南約七軒餘にありて西北は賀名生村に接し、西は高和郡山縣伊都郡に界す。地形は四周に高く南境には天狗山・高城山・武士ヶ峯等の一〇〇〇米以上の高峯並び立ち、北境には額ヶ嶽(七八四米)を中心に山脈東西に連なる。中部にも東境の一部より西方へ連る山脈ありて楠野山(八五〇米)が中央へ踞り、南・西・北の三面に河谷開く。東境に接する立川は中央を西に流下し、楠野山の南麓より西麓に出でて殆ど直角に北轉し、楠野山の北麓を西流す

堡に屬せし五庄を五大字に改め、且つ河原郷と改稱し、これを一括して新庄とす。

△マサケ 味酒

伊豫國(愛媛縣)の古地名。和名抄に温泉郡味酒郷見ゆ。其の地いま松山市の北部の地を云ふか。

△マタ 馬田

筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に夜須郡馬田郷あり。其の地いま朝倉郡馬田村の邊に當る。

△マノ 馬野

上總國(千葉縣)の古地名。和名抄に海上郡馬野郷あり。中世置野郷と稱せし地。いま市原郡姉崎町の邊に當る。

△マミ 馬見

筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に嘉麻郡馬見郷見ゆ。其の地いま嘉麻郡足白村・千手・宮野の諸村より大隈町の一部に互る邊を云ふか。足白村の大字に馬見あり、郷名の遺稱とす。

△ミ 武美

上野國(群馬縣)の古地名。和名抄に多胡郡武美郷見ゆ。續紀、和銅四年三月に數野郡の武美郷等の六郷を割きて多胡郡に隸せしむとあり。その地いま多野郡入野村の邊に當るか。

△モ 武茂

栃木縣下野國那須郡の南部。馬頭町の南隣にて烏山町の北方約三・五軒、那珂川の東岸にあり。東は茨城縣那

る黒澤川と合して賀名生村に入る。西北隅にて北方より來る丹生川が黒澤川に合す。低地乏しきも米・麥・蠶を産す。林産豊富なり。五條町及び東北方の大隈町(バスを通ず。(川股鎮山)宗檜村内に鎮座三十萬餘坪を有する洞山。日宗鎮業會社の發行にかかり、昭和十年には銅銀一、二四四萬、硫化鐵八二〇五(この總價約二萬七千圓)を産出し、同年六月末の鐵夫数は一八七人なり。(圓光寺)大字防地にあり。眞宗本願寺派。乘專の開基。建武二年後醍醐天皇の勅願所となす。尙ほ本願寺通記に當寺第四世善秀を以て開創者とす。現在の寺號は慶長八年に西木願寺十二世准如より賜ふ所なり。本尊は何彌陀如來(木造)。

△ネヤマ 宗山

安藝國(廣島縣)の古地名。高山寺本山は安藝郡宇山郷と見ゆ。日本地理資料は宗山を以て延喜式に見ゆる荒山縣に擬し、宗山を以て荒山の謬ならんといふも如何にや。蓋落通志は宗山は廣島市の地名にムネヤマありといへり。或はこれに從ふべきか。

△ベヤマ 宜山村

廣島縣備後國廣品郡の東南隅。廣田川の西岸に位し、南は沼隈郡、東は深安郡に界す。西は福相村に接し、北は川を隔てて藤家村と對す。面積一・三三平方軒。南部は高嶺山(三九九米)の北斜面に屬し山地なるも、北方河岸に向ひ傾斜す。北部を廣田川東流し流域に平地展げ耕地豊存す。村内の山

林及び耕地面積はほぼ相等しく山麓は牧業地をなす。農業・工業盛にして米・麥・蠶・果實・酒類・木炭・家畜等を産す。省線福原南線近田驛(約五軒あり)。

△ホ 霧峰庄

臺灣台中州大屯郡の南端。東は大平庄及び龍高郡國姓庄、西は烏日庄、南は南投郡草屯街、北は大里庄に夫々境を接す。東半は山地帯にして丘陵起伏連綿し、東隣國姓庄との境には有名なる火炭山(七三九米)聳立するも、西半は之に反し、大肚溪上流の幾多の大小分派錯綜して平野及び多くの三角洲を形成す。農耕地は西部に開け、水稻・甘蔗・蔬菜・甘藷を主作とし、丘陵帯また開發せられて芭蕉・鳳梨・柑橘其他の果樹を栽培す。米・甘蔗・芭蕉の産出は特に多く、蔬菜・甘藷・果物類また餘からず。山地には雜木繁茂し、薪・造材を實施して薪炭・竹材等の産出比較的多し。教育方面にては公學校一、分教場二の外に社會教化機關として青年團・國語講習所を設置す。帝國製糖の社線たる中南線(臺中—南投間)は西部平野を南北に貫通し、北は大平を経て臺中に、南は草屯を経て南投に通じ、また之と並行して指定道路あり、乗合自動車の便を有す。此等の外に主要部落間に輕便軌道(手押電車)ありて交通の便は、管内はもととて極優に屬し、當初は平地蕃族アタラン部族の居住地なりしが、清領となりたる後、雍正十年頃粵人により柳樹浦・登臺

河那と稱す。八溝山脈西斜面の一部を占め、北・東・南の三方は約三〇〇米の山地に圍まれ、何れも村内に傾斜し、西境を南流する那珂川流域のみ稍平地をなす。農業行はれて米・麥・粟・粟・甘藷・里芋を産し、養蠶も行はる。山地には林産あり。その他糖草製造等の工業行はる。鐵道省營自動車常野本線本村の北部を通る。横田系團に頼業の三男、讀坂守義、松野郷を賜はり、其子松野右京亮篤業と稱す。松野郷は即ち大字松野の地とす。明治三十八年西武茂村を武茂村と改稱す。

△マ 撫養

徳島縣阿波國板野郡の東部。縣の東北端に位し、鳴門海峡に臨み、瀬戸内海東部の關門を占め、北は瀬戸町及び鳴門村に、西及び南は大津村に、東は里浦村に界す。面積一・三五平方軒。西部は小山起伏して丘陵地をなし、東部は吉野川下流の三角洲東北端の地を占め平坦なれば廣く鹽田展開し、潤ゆる瀬戸内十州鹽田の東端に位す。齊田鹽の名産地にて其の收穫は本縣第一の水産物として重要視さる。この外蛤・若布・鰯等の漁獲あり。市街は東南部吉野川流川の間に開かれ港町をなし、京・阪・神と阿波を結ぶ最短距離にあり、且つ同國の門戸をなす爲、阿波連絡船、撫養商船の阪神高松

△マヤ 撫養

線等の寄港港着業可は繁華なり。又産業の發展目覺しく足袋・清酒及び藥用工業原料としてマゲネウムを産し盛に出さる。人口實に一萬八千人餘を算し、縣下第三の大郡邑にして、小松島港と競争す。省線撫養線は南部を走り撫養(昭和三年設置)・蛭子前・金比羅前(以上大正五年設置)・教會前(大正十三年設置)の各驛を設く。縣道四方に通じ、バスの便頗る發達し、海陸共に交通至便なり。此地古くは和名抄、板野郡餘戶内・津屋郷の二郷に屬せしもの如し。村内に岡崎城址あり、細川・三好氏の時、守護を置き、天正の頃は益田氏これを守備し寛永年中廢毀さる。大字木津に木津城址あり、水津・元龜間、藤原肥前守入道自道これに據る。自道もと三好家譜代の臣なりしがその衰ふるを見て節を變じ、陰かに歌を長曾我部に通す。天正九年三好氏、土佐勢と中富川に戦ひて敗れ主將十河存保潰れて退くに當り、自道もまた城を捨てて淡路へ退く。元龜依つて西方(那賀郡)城主東條綱之兵衛をしてこれを守らしむ。同十三年羽柴秀吉四國征伐に際し、大軍土佐泊に上陸して先づ富城を攻む。關之兵衛防戦八晝夜、終に力盡きて土佐へ退く。妙見山(岡崎城址)の一大古松の下に將軍塚と唱ふる古墳あり、今は僅に其の遺址を存するに過ぎざるも將軍足利義隆の墓なりといふ。また大字木津は住吉木津神浦と稱せし名所にて、後拾遺雜玉に

ムマサ—ムヤ

(丁亥)附近開拓の緒に置き、當時此地は東は山春出沒し、同十三年十月粵人出草して焚殺を行ひし爲、北路開拓新光瀨及び淡水同知趙奇芳は之を討伐し、其後柳樹浦に防番の隘を設けたり。既にして乾隆七八年の頃に及び柳樹浦一帯全く開かれて蕃客漸く薄らぎ潮州府平和の人林江なる者同族を率ゐ、北隣なる今の大里庄大里(もと大里代と稱す)より南下して土着の平地蕃族より地を購得し、阿原郷の村落を建てたり。これ今の霧峰(役場所在地)にして、蕃語地名のアタアゲに充てたる近音譯字なり。乾隆二十九年に成りし臺灣府志(續修)には霧峰新庄と見ゆ。後に霧峰と改稱し、次いで舊名の阿原郷と改められて現行制度實施に及び、三度霧峰と改稱せられたり。乾隆四十七年には閩粵人の分類械闘あり、粵人の多くは今の東勢地方(臺中州東勢郡)に退き同五十年代に柳樹浦の如きは益々膠着發展して、今の北隣大里庄に屬する大里代(今の大里)・内新・涼傘樹三庄と併せて四大庄と稱せられたり。萬斗六は先きに漢人によりて地を侵害せられたる平地蕃族が喜慶二年南方に退きて開きたる移住區に屬す。蕃人は之をバンタウラ(萬斗六)社と稱せしが、道光の末年其の多數は再び移りて埔里社(今の龍高郡埔里街)に入り、漢族其の舊地に集中せり。明治二十八年帝國領臺以來數次行政上の變遷を経、大正九年十月堡を廢して、同

撫養



ムヤ—ムラカ

「阿波守に成りて又おなじ國にかへりなして、下りけるに、こづかみの浦といふ所に浪の立つを見て讀待りける。水津神の浦に年經てよる浪もおなじ所にかへるなりけり。藤原基房」とあるも此地とす。この地の大抵舊は古來撫養の紙高として著名にして、その季節には遠く阪神地方より來觀する者多し。大風は形状圓形、骨は丸竹の儘にて、中央に椀楕圓の尾を附し、縁は船船用の空網を用ふ。岡崎のワラン、水津の菊一等最も大きく且つ有名なり。兩者とも字多紙千五百枚張にて外に四百枚張より千枚張位のものを七八十を算す。ワランは張紙千五百枚の重さ約九疋のものにして直径一六米餘、丸竹の竹骨が二百束、重さ三、〇〇〇疋、縁目一八〇疋、尾七五〇疋、これに空網を入ると實に尅大なる重量なり。これを飛揚する場には七八月の最も南風の強烈なる日を選びて行はる。「宇佐八幡神社」大字黒崎に鎮座。祭神、仲哀天皇外二神。例祭、十月十五日。(金刀比羅神社)大字水津に鎮座。祭神、祭神、大物主命。後陽成天皇長六年八月林崎城主益田八右衛門の創祀なりといはる。明正天皇寛永十九年以來神事として毎年米四石その他の寄進あり。例祭、十一月十五日。

【撫養線】省線高徳線の一部。徳島縣板野郡にあり。高徳本線の池谷驛より分岐し、撫養驛(撫養町)に至る。八・三軒。

地なれば、村上藩の城下町として発達し、村上本町の住宅街なるに對し本町は主として商業街なり。製茶業及び特産地米・堆黒の漆彫刻を以て知られ、三面川を通行し來る船は越後船の中にも美味なる爲め有名なり。其他、米・繭等の農産あり。町は國道及び省線羽越本線に沿ひ後者の村上驛(大正三年設置)を置く。村上本町・瀧波町・岩船町(縣道至りバス通じ、交通上また北部越後の中心をなす。古くは和名抄、勢船郡山家郷の内とす。中世は小泉本庄の内にて本庄氏の城館ありし地なるを以て本庄城といひ、元和中、堀氏のとき城郭及び市街を修理し邑名を村上と改むといふ。舊郡役所の所在地たり。江戸時代末期の關流の算數家本多利明(齋正五位)は此地の人とす。(村上城)始め小泉庄の地頭ここに居りて、戰國の頃は上杉氏に屬す。慶長二年豊臣秀吉、村上義明を此地に封ず。徳川氏に至り元和四年堀直寄を封ず。のち本多忠義・松平直矩・藤原政倫・本多忠孝・松平輝貞、間部詮房等の諸氏を經て、享保五年、内藤式信封ぜられ五萬石を食み、子孫相繼いで明治に至る。戊辰の際、内藤氏幕軍に應ぜしも、七月、城主官軍に降服し、八月、官軍これを收む。城は周圍約四軒、松杉繁茂し要害無双の堅城と稱せらる。(克復館)村上藩の藩費。寛政年間、藩主内藤信教、學問所を興し、安政年間克復館と名づく。明治戊辰後に廢絶す。

米・繭・麥類・蔬菜・花卉・食用農産。果實・羽物・鶏卵・瓦等を産し、また牛の飼育は盛にて、毎年春秋二季に開催せらるる牛の懸賞市には、遠く京都・大阪、和歌山・三重・滋賀の諸府縣より集る牛商數百人に及び、山間に稀なる活況を呈す。山陰道は中部を河川に沿ひて縱斷し省線山陰本線濱坂驛へバスを通ず。中央より東方へ走る一道路は城崎郡に出づ。もと二分村と云ひしが明治二十四年町制を布く。舊郡役所の所在地たり。この地古くは七美莊と云ひ、長壽堂領たり。もとの山名氏の館のありし處にして、この山名氏は時氏の裔にて、先祖は因州布施に居り、出石屋形とは本支の關係にありたり。天正八年豊臣秀吉の山陰道征伐に際し、出石屋形は滅亡せしが、布施の山名豊國がここに封ぜられ、七美一郡を賜はる。徳川氏に至り子孫世襲して明治維新に至る。「黒野神社」大字村岡に鎮座。祭神、天津彦火理瓊杵尊を主神とし、天御中主神・木花開耶麻命を配祀す。一に伊津岐明神と稱され、延喜式内社に充てらる。社殿の拜堂十六尊神像一輛(絹本着色)は巨勢金岡筆と傳へ、國寶に指定せらる。例祭、九月十九日。

【西奈彌羽黒神社】 縣社。祭神、奈津姫命・倉稻魂命・月讀命外二神。舊稱、羽黒山三所禰現。持統天皇元年の創建と傳ふ。例祭、七月七日。

【村上村】 長野縣信濃國更級郡の東南端。千曲川左岸に臨み上田市を去る北西約六軒。坂城町(埴科郡)の西南隅。北西は上山田村、南は小縣郡に接す。村の南西には大林山(一三三三米)・摺鉢山(八八一米)あり。千曲川に沿ひて數段の段丘あり。耕地は主として此の段丘面上にありて面積三四二町歩、村の全面積に對する耕地率は二八%、田は一〇九町、畑は二三三町、うち桑畑二二九町にして、段丘面及び山麓地方に栽培せられ、養蠶は本村經濟の根幹をなす。村は上田盆地と善光寺平との中間に位置し、古くは和名抄、更級郡村上郷の地にして、神風抄に信濃國村上御野小所とあるもこの地とす。當國の族村上氏は當郷に出でしものにして戰國の頃には更級・埴科二郡の内を兼併せしもの如し。大字上平に出浦城址あり。出浦は村上藩の族名に呼ばる。

【村上町】 兵庫縣但馬國美作郡の東南部。矢田川に防がり、東は城崎郡に界し、東北北約一八軒に豐岡町あり。東部及び西部は山脈が連なり、即ち西南隅には瀧川山(一〇三九米)聳え、北(次第に低下しつ)峯を連ねて西境を限る。東境中央に蘇夫嶽(一〇七五米)屹立して高峯並び立ち、北境には之より西に支脈が延びて矢田川河谷に至る。中央部には矢田川が村を貫きて西北流し、沿岸に低地あり。

【村上町】 新潟縣越後國岩船郡の西部。三面川左岸に沿ひ、東は村上本町と接續して一團をなし、西は瀧波町を隔てて日本海なり。三面川下流の平地を占め、しかも四隅を低き丘陵に圍まれたる要害の

【西奈彌羽黒神社】 縣社。祭神、奈津姫命・倉稻魂命・月讀命外二神。舊稱、羽黒山三所禰現。持統天皇元年の創建と傳ふ。例祭、七月七日。

【村上町】 新潟縣越後國岩船郡の西部。三面川左岸に沿ひ、東は村上本町と接續して一團をなし、西は瀧波町を隔てて日本海なり。三面川下流の平地を占め、しかも四隅を低き丘陵に圍まれたる要害の

ムラカ—ムラカ

【西奈彌羽黒神社】 縣社。祭神、奈津姫命・倉稻魂命・月讀命外二神。舊稱、羽黒山三所禰現。持統天皇元年の創建と傳ふ。例祭、七月七日。

【村上村】 長野縣信濃國更級郡の東南端。千曲川左岸に臨み上田市を去る北西約六軒。坂城町(埴科郡)の西南隅。北西は上山田村、南は小縣郡に接す。村の南西には大林山(一三三三米)・摺鉢山(八八一米)あり。千曲川に沿ひて數段の段丘あり。耕地は主として此の段丘面上にありて面積三四二町歩、村の全面積に對する耕地率は二八%、田は一〇九町、畑は二三三町、うち桑畑二二九町にして、段丘面及び山麓地方に栽培せられ、養蠶は本村經濟の根幹をなす。村は上田盆地と善光寺平との中間に位置し、古くは和名抄、更級郡村上郷の地にして、神風抄に信濃國村上御野小所とあるもこの地とす。當國の族村上氏は當郷に出でしものにして戰國の頃には更級・埴科二郡の内を兼併せしもの如し。大字上平に出浦城址あり。出浦は村上藩の族名に呼ばる。

【村上町】 兵庫縣但馬國美作郡の東南部。矢田川に防がり、東は城崎郡に界し、東北北約一八軒に豐岡町あり。東部及び西部は山脈が連なり、即ち西南隅には瀧川山(一〇三九米)聳え、北(次第に低下しつ)峯を連ねて西境を限る。東境中央に蘇夫嶽(一〇七五米)屹立して高峯並び立ち、北境には之より西に支脈が延びて矢田川河谷に至る。中央部には矢田川が村を貫きて西北流し、沿岸に低地あり。

【村上町】 新潟縣越後國岩船郡の西部。三面川左岸に沿ひ、東は村上本町と接續して一團をなし、西は瀧波町を隔てて日本海なり。三面川下流の平地を占め、しかも四隅を低き丘陵に圍まれたる要害の

ムラカ

【村上町】 新潟縣越後國岩船郡の西部。三面川左岸に沿ひ、東は村上本町と接續して一團をなし、西は瀧波町を隔てて日本海なり。三面川下流の平地を占め、しかも四隅を低き丘陵に圍まれたる要害の



ムラク

【村國】尾張國(愛知縣)の古地名。和名抄に...

【村國】大和國(奈良縣)の古地名。和名抄に...

【村國】尾張國(愛知縣)の古地名。和名抄に...

ムラサキ

地は未だ詳かならず。或はいま阿曾郡草間・豊水・美段村の邊に當るか。

【村國】大和國(奈良縣)の古地名。和名抄に...

【村國】尾張國(愛知縣)の古地名。和名抄に...

ムラサキ

くは和名抄、眞壁郡大村郷の内とす。村名はもと庄名に呼ばる。新志に採れば...

【村國】大和國(奈良縣)の古地名。和名抄に...

【村國】尾張國(愛知縣)の古地名。和名抄に...

ムラサキ

れより分れて西走するもの西隣の神村に通じ、同村に省線常磐線石神驛を置く。

【村國】大和國(奈良縣)の古地名。和名抄に...

【村國】尾張國(愛知縣)の古地名。和名抄に...

ムラマ

は城下町として興り、今は郡内主要なる商業町なり。糸織・糸入木綿を産し、村松崎の名産は、北・東・西の三方より...

形にも影響を見る。川は北方の戸根川の他三四の小川流れ、其の海岸近く多少の平地を見る。

【村國】大和國(奈良縣)の古地名。和名抄に...

【村國】尾張國(愛知縣)の古地名。和名抄に...

ムラマ

【村國】大和國(奈良縣)の古地名。和名抄に...



二神、例祭、九月廿五日。(八栗寺)大字半蔵にあり。古義賀言宗、五剣山千手院、延暦年間、空海の草創と傳へ、天正年間兵火に罹り一時廢滅せしも、文祿年中再興成る。四國八十八箇所第八十五番札所。本尊聖觀音像、御詠歌「煩惱を胸の智火にてやくりをば修行者ならで誰か知るべき」(六萬寺)大字半蔵にあり。古義賀言宗、開山は行基と傳ふ。一時伽藍社殿を極めしも天正兵亂の際に悉く燒失、延寶六年舊址に復興せしも遂に舊觀に及ばず。

ムレー 半蔵

長野縣上水内郡にありし村。明治二十三年に中郷村と改稱す。信越本線の半蔵驛(明治二十一年設置)あり。

ムロ 牟呂

愛知縣瀨美郡にありし村。明治三十九年、本村及び吉田方村を廢し牟呂吉田村を建つ。牟呂吉田村は昭和七年豊橋市に編入す。

ムロ 牟婁・武瀨

大和國(奈良縣)の古地名。和名抄に葛上郡牟婁郡あり。住吉、孝安天皇の都し給ひし地にして、いま南葛城郡秋津村の地とす。同村の大字室は古名を襲ひしものなり。

紀伊國の古郡名。成務天皇の朝、國邊を定め給へる熊野國(國造本紀)が國郡制定のとき郡となり牟婁郡と稱し紀伊國に隸せるものか。牟婁の稱は早く舊記新明紀・天武紀にも見ゆるが郡

名は持統天皇の六年紀に初めて見ゆ。和名抄は牟呂と註し、岡田、牟婁、栗栖、三前・神戸の五郷を置く。本郡の東部は明治の初め度會縣の管下たりしが、後に三重縣に入り、西部は和歌山縣の管下たり。同十三年五月和歌山縣に屬する牟婁郡を東西二郡に分ち、三重縣に屬する分を南北二郡に分ちて以て今日に至る。

【牟婁・武瀨】紀伊國(和歌山縣)の古地名。和名抄に牟婁郡牟婁郡あり。郡家の所在地たり。また舊紀に牟婁温泉、續紀に武瀨温泉、また牟瀨山、牟瀨時の名稱見ゆ。今の西牟婁郡田邊町・瀬戸船山村附近を云ひしものなるべし。

ムレー 室生村

奈良縣大和國宇陀郡の中郡。橿原町の東方一軒餘にて、南は吉野郡に界す。地形四周に高く山岳を以て圍まれ、東境には一〇〇米を越える山峯あり。宇陀川の一支流が東南部に發して中央を屈曲しつつ西北流し、部落を沿ひて點在す。林産豊なり。米・麥等の農産あり。南部には縣道東西に横斷

に御手洗とも云ひ往昔は有名なる港にて遊女など多かりといふ。(嶺南山樹林)指定天然記念物。山は數峯より成り、最高點は一一七米に過ぎざるも、常緑樹に富み、落葉樹これに混じり風光よろし。暖性植物に、リンボク・ニガイチゴ・コンテリギ・オホバウマノスズクサ・ジュズネノキ・ウラジロガシ・アラカシ・ヤマモモ・クロガネモチ・ナメノキ・シヤンボク等約三十種あり。(早長八幡宮)大字室積字江口に鎮座。總社。祭神應神天皇・神功皇后三神。豊前國宇佐より靈を分祀すといはる。(普賢寺)臨濟宗建仁寺派。鐵厨山と號す。寺傳によれば一條天皇御宇、僧性空巡錫の初り此地に普賢菩薩の出現に遭ひ之を後世に傳へん爲め一松を植ゑ、後人々に堂宇を營みしに始まると。のち現宗に改む。本尊普賢菩薩は災難除の佛として有名。

【室田町】群馬縣上野國群馬郡の西部。榛名山南斜面の一部を占め、南は碓氷郡、北は吾妻郡と隣す。面積五四・八六平方町あり。北隅には外輪山たる標高一四四八米、及び中央火口丘たる標高富士(一三九一)ありて、その間に榛名湖の火口原湖を挟む。これより南に續きて鏡ヶ山(一〇七五米)、天狗山(一一七九米)等もあるも、次第に南方に傾斜し、南部は山裾にして南境を烏川東流す。山地一帯に森林、草地あり。山裾には桑園ありて養蠶行はれ、川沿ひの狭き

平地には米・麥を産す。高崎市より來る縣道は町の南部を西走し、これより分岐するものは北走して榛名山頂に通じバス等の便あり。栗落はこれ等の縣道に沿ひて南部に發達す。古くは和名抄、群馬郡長野郷の内、明治三十八年に町制を布く。(榛名山神社)榛名山にあり。縣社。祭神火産靈神・埴山姫命、式内社。朱印領五十石。用明天皇の御宇の鎮座なりといふも、創立年代不詳。中世より武家の尊信篤く、満行権現と云ひ、三千百坊の社家社僧を擁し、關東の靈社として上下の崇奉極めて篤かりき。社域は榛名山園邊の境にあり、發跡地として知らる。例祭、五月十五日。(榛名山神社の失立杉)指定天然記念物。一株、地上約九米にして二大支幹となる。目通幹圍約九米半、樹勢旺盛、杉の巨樹として有数のものなり。

【室津村】兵庫縣播磨國揖保郡の西南端。洲崎町の西方約四軒にありて室津港に臨む。西北部より西にかけては赤穂郡相生町に隣る。約三〇〇米の丘陵が東北より西南に連り更に南へ延びて尖端は金ヶ崎となる。その丘陵の峯を境として揖保郡と赤穂郡とを限り東に室津港を圍み西には相生港を抱く。山地は室津港に傾斜して山麓は海に迫り屈曲を示す。東部は東北より西南に延びる小丘陵の斜面地をなし、南に小半島が突出して室津港の東を圍み、附近に稍々低地ありて前面は

の北部。勝山町の北に接し、九頭龍川の一支瀨波川の左岸に沿ふ。東半部は加賀山脈中の法恩寺山(一三五七米)の山裾を占め、なだらかなる傾斜地にして、西南部には瀨波川・九頭龍川の沖積平野が開く。平地には米の産多く、傾斜地には葉煙草の栽培行はる。勝山町に近く絹織物業・醬酒醸造盛にて工場は首位を占め農産額之に次ぐ。西南隅を貫通する勝山街道の外、北及び東北へ走る縣道あり。社線越前電鐵の勝山驛に近く交通は便なり。村の中央に村岡山あり、天正二年平泉寺滅亡の時、一發の籠りし所といふ。此地古くは和名抄、大野郡毛屋郷の内とす。

【室賀村】長野縣信濃國小縣郡の西北隅にあり。上田市の西方八軒。三方山に圍まれ、ただ東南のみに開く。東北には村上・泉田の兩村ありて、大林山(一三三三米)・楢鉢山(八八一米)・城山(九三三米)を以て擁し、西南には子機嶺(一一二三米)・飯籠山(九三二米)等ありて坂井・浦里兩村に接す。村は其の谷底にありて上室賀と下室賀の聚落を中心とす。耕地面積二九八町にして全面積に對する耕地率一四・四、田は八二町、畑二一六町、うち桑畑二〇七町にして桑園卓越し高度の養蠶率を示す。中世に室賀氏あり、大井一族にして、天文十四年、室賀山城守信俊、一門を率ゐて武田家へ屬すといふ。

室津の良港をなす。丘陵の東麓は播磨灘に臨み彌額大の低地を餘す。南方海上には地唐荷島・中唐荷島・神唐荷島等の小島浮ぶ。蔬菜・花卉・食用農産・果實・麥類・米・觀賞植物・繭等の農産物を産し沿岸漁獲物多し。東部の丘陵の周圍を繞りて縣道が通じ洲崎町及び相生町にはバスを通ず。また町内には室津航空燈臺の設けあり。往昔五泊の一たりし樓生泊にして一に室原泊ともいふ。同じく五泊の一なる津泊まで一日の行程と定む。風を防ぐこと室の如くなるより此名起るといふ。早くより遊女をり山陽道の一名称として多く詞藻に入る。近世は四國九州及び中國諸國の諸侯にして江戸に往來する船舶は必ず此處に寄港し頗る繁榮を極め、埠頭は販路の管治に屬せり。現時は大に衰へ往時の雨影なし。室津港の背後に室山あり、嘉永二年十一月、不知庵、重衡等水鳥の戦に勝ち此處に據る。源行家來りて大に此處に戦ひ、行家破れて河内に退く。延元元年、赤松頼資この地にありて足利尊氏に屬す。官軍の將江田行義・大筒氏明等來り攻むるに及び破れて赤穂に退く。のち赤松氏の將浦上則宗この地にあり、爾來子孫この地に據る。永祿九年、景宗の時、龍野城主赤松政秀來り攻め景宗敗死して城廢す。(賀茂神社)縣社。一に室生加茂明神と稱す。祭神、別雷神・速須佐之男命・菅原道眞。賀茂社領に發生せし地方の古社たり。鎌倉時

室津の良港をなす。丘陵の東麓は播磨灘に臨み彌額大の低地を餘す。南方海上には地唐荷島・中唐荷島・神唐荷島等の小島浮ぶ。蔬菜・花卉・食用農産・果實・麥類・米・觀賞植物・繭等の農産物を産し沿岸漁獲物多し。東部の丘陵の周圍を繞りて縣道が通じ洲崎町及び相生町にはバスを通ず。また町内には室津航空燈臺の設けあり。往昔五泊の一たりし樓生泊にして一に室原泊ともいふ。同じく五泊の一なる津泊まで一日の行程と定む。風を防ぐこと室の如くなるより此名起るといふ。早くより遊女をり山陽道の一名称として多く詞藻に入る。近世は四國九州及び中國諸國の諸侯にして江戸に往來する船舶は必ず此處に寄港し頗る繁榮を極め、埠頭は販路の管治に屬せり。現時は大に衰へ往時の雨影なし。室津港の背後に室山あり、嘉永二年十一月、不知庵、重衡等水鳥の戦に勝ち此處に據る。源行家來りて大に此處に戦ひ、行家破れて河内に退く。延元元年、赤松頼資この地にありて足利尊氏に屬す。官軍の將江田行義・大筒氏明等來り攻むるに及び破れて赤穂に退く。のち赤松氏の將浦上則宗この地にあり、爾來子孫この地に據る。永祿九年、景宗の時、龍野城主赤松政秀來り攻め景宗敗死して城廢す。(賀茂神社)縣社。一に室生加茂明神と稱す。祭神、別雷神・速須佐之男命・菅原道眞。賀茂社領に發生せし地方の古社たり。鎌倉時

室津の良港をなす。丘陵の東麓は播磨灘に臨み彌額大の低地を餘す。南方海上には地唐荷島・中唐荷島・神唐荷島等の小島浮ぶ。蔬菜・花卉・食用農産・果實・麥類・米・觀賞植物・繭等の農産物を産し沿岸漁獲物多し。東部の丘陵の周圍を繞りて縣道が通じ洲崎町及び相生町にはバスを通ず。また町内には室津航空燈臺の設けあり。往昔五泊の一たりし樓生泊にして一に室原泊ともいふ。同じく五泊の一なる津泊まで一日の行程と定む。風を防ぐこと室の如くなるより此名起るといふ。早くより遊女をり山陽道の一名称として多く詞藻に入る。近世は四國九州及び中國諸國の諸侯にして江戸に往來する船舶は必ず此處に寄港し頗る繁榮を極め、埠頭は販路の管治に屬せり。現時は大に衰へ往時の雨影なし。室津港の背後に室山あり、嘉永二年十一月、不知庵、重衡等水鳥の戦に勝ち此處に據る。源行家來りて大に此處に戦ひ、行家破れて河内に退く。延元元年、赤松頼資この地にありて足利尊氏に屬す。官軍の將江田行義・大筒氏明等來り攻むるに及び破れて赤穂に退く。のち赤松氏の將浦上則宗この地にあり、爾來子孫この地に據る。永祿九年、景宗の時、龍野城主赤松政秀來り攻め景宗敗死して城廢す。(賀茂神社)縣社。一に室生加茂明神と稱す。祭神、別雷神・速須佐之男命・菅原道眞。賀茂社領に發生せし地方の古社たり。鎌倉時

室津の良港をなす。丘陵の東麓は播磨灘に臨み彌額大の低地を餘す。南方海上には地唐荷島・中唐荷島・神唐荷島等の小島浮ぶ。蔬菜・花卉・食用農産・果實・麥類・米・觀賞植物・繭等の農産物を産し沿岸漁獲物多し。東部の丘陵の周圍を繞りて縣道が通じ洲崎町及び相生町にはバスを通ず。また町内には室津航空燈臺の設けあり。往昔五泊の一たりし樓生泊にして一に室原泊ともいふ。同じく五泊の一なる津泊まで一日の行程と定む。風を防ぐこと室の如くなるより此名起るといふ。早くより遊女をり山陽道の一名称として多く詞藻に入る。近世は四國九州及び中國諸國の諸侯にして江戸に往來する船舶は必ず此處に寄港し頗る繁榮を極め、埠頭は販路の管治に屬せり。現時は大に衰へ往時の雨影なし。室津港の背後に室山あり、嘉永二年十一月、不知庵、重衡等水鳥の戦に勝ち此處に據る。源行家來りて大に此處に戦ひ、行家破れて河内に退く。延元元年、赤松頼資この地にありて足利尊氏に屬す。官軍の將江田行義・大筒氏明等來り攻むるに及び破れて赤穂に退く。のち赤松氏の將浦上則宗この地にあり、爾來子孫この地に據る。永祿九年、景宗の時、龍野城主赤松政秀來り攻め景宗敗死して城廢す。(賀茂神社)縣社。一に室生加茂明神と稱す。祭神、別雷神・速須佐之男命・菅原道眞。賀茂社領に發生せし地方の古社たり。鎌倉時

室生は古く樓生とも書しバスの便あり。室生は古く樓生とも書く。女高野と稱せらるる室生寺あるを以て知らる。(室生山暖地性羊齒群落)指定天然記念物。室生寺境内本堂の後方、燒山の無明谷にあり。主として暖地産のものにて、イオクジャクシダ最も多く、これに次ぎ、イハヤシダ、オホバノハチヤウシダ・キヨスキヒメワラビ・ハカダシダ等あり。イオクジャクシダ・イハヤシダ等は四國・九州の如き暖地に産するものなるが、これを室生山に見るは分布の北限なり。(室生寺(女人高野))大字室生にあり。新義賀言宗登山派。室生山または秘密號一山と號し、女人高野と通稱す。開創は役小角とも賢俊とも傳ふ。天長元年空海、諸堂宇を再興、次いで賢恵の入住に至り興隆す。靈異を高野山に比し而も女人の參詣を許せしを以て女人高野の稱あり。一時道場繁榮せるも次第に衰廢、元祿十四年江戸護國寺末となる。山地自然の地勢に倚りて建つ堂宇中、金堂・本堂・五重塔・御影堂は國寶建造物にして、山内の彌勒堂本尊木造彌勒菩薩像、金堂安置の本尊木造釋迦如來像、同藥師如來像、同文殊菩薩像(以上傳空海作)・木造十一面觀音立像・同地藏菩薩(以上源德太子作)・木造十二神將立像十二(源慶作)・本堂安置の本尊木造如意輪觀音(空海作)は何れも國寶たり。

ムロカ 村岡村

福井縣越中國大野郡

室木線 省線鹿兒島線の

室木線 省線鹿兒島線の

室木線 省線鹿兒島線の

九州の北部にあり、炭坑鐵道線の一。鹿兒島本線遠賀川驛より分れて南方の室木線(鞍手郡西川村にあり、明治四十一年設置)に至る。全長一一・二軒。

室積町 山口縣周防國熊毛郡の南海岸。周防灘に面し、田布施町・麻里府村の南に接す。面積一四・四七平方町。地形海岸に沿うて東西に延び背後に眉山聳ゆ。地勢海岸に傾斜するも概ね山地なり。海岸線は出入を有し、象鼻岬が良港を懷き室積の良港を作る。灣は水深く好適地をなす。市街は港に臨んで發達し、山口市を控へ輸出入盛なり。米・繭を産し漁獲を輸出し、綿糸・石炭等を輸入す。縣道を以て平生町・柳井町にバス通じ、省線山陽本線虹ヶ濱驛・岩田驛に近し。また海上は大坂下關間の定期航路ひらけ、近海に郵船機船の便あり。山口縣女子師範學校の所在地。もと郡役所あり、明治三十九年に町制を布く。古くは無編津・室津海室住とも書けり。一

室田町 群馬縣上野國群馬郡の西部。榛名山南斜面の一部を占め、南は碓氷郡、北は吾妻郡と隣す。面積五四・八六平方町あり。北隅には外輪山たる標高一四四八米、及び中央火口丘たる標高富士(一三九一)ありて、その間に榛名湖の火口原湖を挟む。これより南に續きて鏡ヶ山(一〇七五米)、天狗山(一一七九米)等もあるも、次第に南方に傾斜し、南部は山裾にして南境を烏川東流す。山地一帯に森林、草地あり。山裾には桑園ありて養蠶行はれ、川沿ひの狭き

室津村 兵庫縣播磨國揖保郡の西南端。洲崎町の西方約四軒にありて室津港に臨む。西北部より西にかけては赤穂郡相生町に隣る。約三〇〇米の丘陵が東北より西南に連り更に南へ延びて尖端は金ヶ崎となる。その丘陵の峯を境として揖保郡と赤穂郡とを限り東に室津港を圍み西には相生港を抱く。山地は室津港に傾斜して山麓は海に迫り屈曲を示す。東部は東北より西南に延びる小丘陵の斜面地をなし、南に小半島が突出して室津港の東を圍み、附近に稍々低地ありて前面は

室賀村 長野縣信濃國小縣郡の西北隅にあり。上田市の西方八軒。三方山に圍まれ、ただ東南のみに開く。東北には村上・泉田の兩村ありて、大林山(一三三三米)・楢鉢山(八八一米)・城山(九三三米)を以て擁し、西南には子機嶺(一一二三米)・飯籠山(九三二米)等ありて坂井・浦里兩村に接す。村は其の谷底にありて上室賀と下室賀の聚落を中心とす。耕地面積二九八町にして全面積に對する耕地率一四・四、田は八二町、畑二一六町、うち桑畑二〇七町にして桑園卓越し高度の養蠶率を示す。中世に室賀氏あり、大井一族にして、天文十四年、室賀山城守信俊、一門を率ゐて武田家へ屬すといふ。



代文治三年に源頼朝は安志・林田・室の三領を寄進し、江戸時代は徳川家より果代三十石の朱印領を寄す。神馬額(狩野元信筆)は國寶。例祭、五月一日。[見性寺] 臨濟宗。室津山と號す。同國五大寺の一。往昔室津に花法なる遊女あり。此地の長者の女なりしかば、里人敬して室君と稱す。此君深く佛道を信じ、村内に見性寺・淨名寺・大雲寺・正洞院・正法寺の五箇寺を建立す。本寺は即ちその一にして、開山は玄海龍符和尚、のち在中和尚再建、寺門の隆盛を圖れり。聖徳太子作の毘沙門像は國寶。

【室津村】 山口縣周防國熊毛郡の東南端。西及び東南は瀬戸内海に面し、北は阿月村・佐賀村に接す。面積七・六七方軒。皇座山(五二七米)の南麓に位し、村内は概ね山地に蔽はるるも、西南海岸に小平地あり。海に面して市街地ひろく、背後は山林地に屬す。市街地は前面に上ノ瀬戸を隔て、長島に對し、良港を作る。室津港は輪糸・米等を輸入す。村内に米、麥、甘藷、牛、鶏卵、石材、木炭、生魚等を産す。また造船業行はる。西海岸に縣道通じ、平生町にバスの便あり、また海上交通の便あり。

【室津】 土佐國(高知縣)の古地名。和名抄に安藝郡室津郷あり。土佐日記には、「奈半よりあかつきに船を出してむろつを返ふ」と見ゆ。額日本後紀承和二年三月には土佐國室戸之崎あり、以下今昔物語・元亨釋書等室戸に作る。蓋し室津室戸通言にて同一地方を稱せしものなり。即ち室津郷の地はいま室戸半島の先端をいひ、室戸町・室戸町・吉良川村、羽根村等に互る地をいふ。

ムロト 室戸町 高知縣土佐國安藝郡の南部。室戸町の西岸の地を占め、室戸町の西北に界し、太平洋に面す。町域は四一・七四方軒。高麗數百米の山峯東西に連亘して高峻なる山岳地をなし西に傾斜してその麓下に低平なる沖積地を開く。南部には室津川流れて太平洋に注ぐ。流域及び沿岸の平地は耕作行はる。黒潮の影響を受け氣候温暖なれば農業盛にして米麥の産多く、牧牛及び林産もあり。所々に亞熱帯性植物の密林地あり。水産業は最も盛にして近海は珊瑚の採取場をなし蟹・鮑・鮑・鯿等の漁獲甚だ多し。主要市街は室津川口に開け漁町にして捕鯨の本場たり。室戸港即ち室津の港は小なれども風光明媚にして年産百四十萬圓に及ぶ水産物を持つ漁港なり。初め寛文年間、野中兼山、今の津呂港を開闢せしめ規模小にして船舶の多數泊泊に事足りしを改築に着手し、後のち木橋兵衛政利の苦心經營の結果漸く延寶七年に竣工す。頗る雄工にして櫓長衛は死を以て成就を誓ひ、工成るの日遂に人柱として切腹せり。港は東西二四九米、南北七六米にして満潮二・七米、近時、外港の大

修築が着手せられたり。西岸を傳ひて國道が南走し來り、室戸港より川に並行して東方にゆき室戸町の東岸に至る。西方の安藝町へは頻繁にバス通じ、また北方の甲浦港とは橋岡商船會社の便船あり。土佐沿岸汽船も寄港して海上の交通も便なり。明治四十三年町制を布く。大字浮津は捕鯨を以て名高く、また四國通路札所たる津照寺(津寺)及び金剛頂寺あり。この地古くは和名抄、安藝郡室津郷の内とす。(岩戸神社) 大字元元鎮座。郷社。祭神、天照皇大神外五柱。例祭、九月廿六日。(八幡宮) 大字浮津に鎮座。祭神、應神天皇。例祭、六月・九月十五日。(八王子宮) 大字浮津に鎮座。祭神、祭神不詳。或は云ふ、五男三女神。例祭、五月五日・九月廿八日。(一本神社) 北町津寺の東方にあり、室戸港の築港成致を海神に祈り、身を犠牲にして日双せる延寶七年六月十七日(一本橋兵衛政利)を祀る。これを浦人哀悼し津寺に葬り、歲時香華を忘らざりしが、明治年間境内に小社を建て、近年今の地に社殿を造營せり。(金剛頂寺) 大字元浦行宮町にあり。新義真言宗靈山派。龍頭山光明院と號し、俗に西寺と云ふ。四國通路八十八所第二十六番札所たり。平城天皇大同年間、空海を奉じて最御崎寺と同時に草創せしと云ふ。古くは金剛定寺と稱す。平城天皇金剛頂寺を勸納あり。當時寺領三千五百石を附せられ、嵯峨・淳

和兩天皇の勸願寺たり。寺寶中、阿彌陀如来坐像(木造)一軀・銅鐘一口・板彫説書八祖の像八面は共に國寶たり。御詠歌「任生に望みをかくる繪架は月の傾く西寺の空」(津照寺) 大字室津にあり。新義真言宗靈山派。寶珠山。眞言院と號し、また一に津寺と云ふ。弘法大師の開基にして、本尊に地藏菩薩を安置す。大師の作なりといふ。最御崎寺の末寺にして四國通路八十八所第廿五番の札所なり。御詠歌「法の結いるかいづるか此津でらまよふ我身を棄せてたまへ」

ムロトサキ 室戸町 高知縣土佐國安藝郡の南端。太平洋に突出せる室戸岬三角形の先端を占め、西北は室戸町に北は佐喜濱村に隣接す。海岸に並行して丘陵性山脈縱走し、東西斜面は緩傾斜をなして低下しその先に狭長なる平地を開く。黒潮のため氣候温暖にして、農業盛なり。米・藁の産多し。また好牧場所々に開く。山地は杉その他の美林に富み林産物からず。水産業は盛にして鮭・鯿等の漁獲多く捕鯨は本場をなす。中心市街は土佐海岸にありて津呂と呼び、津呂港あり。國道は中途より西方に走り、分岐せる縣道は南岸を廻りて室戸町に至る。甲浦・高知市へバス通ず。海上は土佐沿岸汽船寄航し、又土曜日曜兩日は土佐商船飯前より又高知より何れも寄港し室津港の便なり。古くは和名抄、安藝郡室津郷の内とす。もと津呂町と稱せしを昭

和四年室戸岬町と改稱す。大字津呂なる津呂港は古の室津港なり。紀貫之が土佐國守の任滿ちて歸京の途次風待ちのため十日餘り船を繋ぎしはことす。寛文年間、賢宰野中兼山が畢世の力を盡して其開墾を試み、人夫三十六萬人、黄金一千九百兩を費して土堤を築きて海水を乾かし、嶋岩を切りて港形を完成せり。享和元年藩に於て再び修理して港口に長堤を築けり。明治四十二年村民兼山創業の偉功を想ひ、新たに碑を作りて兼山の室戸港記を刻し港上に建つ。初めの港出來しも港形狭小なるを以て、更に西方一里に室戸港を開墾す。これより當港を津呂港といひ、西の新港を室戸港と稱せり。岬上に室戸岬燈臺あり。明治三十三年の設置にして、燈質は閃白光、毎十秒一閃光、光達距離は三〇・五哩とす。また室戸岬漁所あり。昭和十年度に於ける氣温は最高極三二度(八月五日)、最低極零下二・五度(二月七日)にして、平均温度は一六・〇度なり。また同年度に於ける降水總量は二、八七二㎜にして最大月量は九月の五三三㎜、最大日量は九月二日の二二〇㎜とす。(室戸岬) 指定名勝。土佐大灣の東端岬角にして、岬勢半島状をなして南海に突出せるを以て俗にこれをお鼻と稱す。太平洋の黒潮が日夜に其前面を流るるを以て氣候温暖、三冬霜雪を見ず、亞熱帯の氣候あり。岩石は斑岩岩に屬し幾千萬年の間海潮の日夜呑噬

汰する所となり、浸蝕電編、種々の奇景を呈し風景絶奇なり。岬端の入口に高麗と稱する三角状の巨巖あり、左は室戸岬の斷崖數百米、崖面に馬目標、松等寄生し青綠の屏風を立てたる如く、右は太平洋の滄波紺碧を染めたる如く、奇麗性極亂立して偉觀を極む。往昔空海の修行悟道せし大巖窟ありて、空海自詠の歌に「法性の室戸といへど我住めば有爲の浪風立たぬ日ぞなき」とあり。岬端の勝風は、南方灌頂の濱・月見ヶ濱・目洗池を過ぎ、龍宮渡を経て傍稱弘法大師一夜建立の岩屋より紅石・水掛地蔵・女人結石の古跡及び左右に鬱蒼たる樹林を過ぎて空海修行の大巖窟に至り、それより俗稱弘法大師行水池を経て毘沙門嶽に達す。蓋し土佐國天然風景中最大の景勝地たり。(室戸岬亞熱帯性樹林及海岸植物群) 指定天然記念物。室戸岬一帯に互る地であり、榕樹・梧桐林及び原生常綠喬木等より成り、各一團地をなし、何れも原始林の状態に於て保存せられ、且つその内外に互りてテウソウシダ・ケホンダ其他大小種々の熱帯植物混生し特異の景観あり。榕樹は熱帯性樹木の著名なるものにてその生育地域は特に生物地理學上重要視せらる。室戸岬端にては沿岸に類例なき大葉生をなし純林として存す。梧桐樹(アツギリ)は普通庭園樹として栽培せらるるものにして、原生地は不詳なるも室戸岬附近には原生樹林の状態をな

して多生し、熱帯性植物分布の研究上重要なり。タチバナは九州南部地方より本縣下に分布せる自生の蜜柑にして、室戸岬森林には諸所に散在せるも現今には餘り大なるものなし。テウソウシダは熱帯性羊歯の一種なり。コウラボシは主として毘沙門嶽附近にあり。熱帯性羊歯にして琉球を経てここに分布す。(たちばな) 指定天然記念物。たちばなは九州南部地方より本縣下に分布せる自生の蜜柑にして、培養柑類の原種と認められ、この地はその原産地なり。(最御崎寺) 室戸岬上にあり。新義真言宗靈山派。室戸山明皇院と號し、俗に東寺と云ひ、岬を東寺岬ともいふ。大同二年、僧空海開基、嵯峨天皇以來歴代勸願所たり。本尊は空海作、靈空藏師佛、四國巡禮第廿四番札所。藥師如来月光菩薩像は國寶。御詠歌「明星の出でぬる方の東でらくらき透ひはなどかあらじな」

ムロトン 武魯頓灣 千島新知島の北端にあり。海拔六七九米の三日山を中央火口丘とする火口原の一部に、半月形に窪へたる湖の北が切れて海と連れるものにして、出口の深さ一・二米、中央は深く二四三米もあり。周圍一七・五七軒にして面積一五・三三平方軒。大圓コ

ムロネ 室根山 奥州、北上山地の一峯。岩手縣本吉郡氣仙沼町の北西方約一三軒、東勢井部折壁・奥玉の二村と大原町との境上に峙つ。標高八九五米、山體閃爍岩より成る。北に小室根山(六八二米)續く。この山もと鬼首山と呼びしを、熊野より室根神社を請じ、のち室根山と改稱す。附近の名山と稱せられ、南麓なる室根神社へは參拜者多し。

ムロノ 室野 但馬國(兵庫縣)の古地名。和名抄に出石郡室野郷見ゆ。中世には實莊と稱せし地なるべし。いま出石郡室墳村の邊が其の地なるべし。

ムロバ 室墳村 愛知縣三河國幡豆郡の北部。岡崎市の西南方約七軒。東北部と南部には古生層より成る山地あり、北境は岡田川西南へ流れ沖積地を作る。此の沖積地は水田多く、桑園之に次ぐ。平坂街道は北部を東西に通じ三和村を経て西尾町に至る。本村は昭和七年花明村、家武村・平原村を編入せり。此地は割合に古くより開けたる處と思はるるも文献の徴すべきものなし。大字室には室野あり、富永氏代々ここに居りて吉良氏に仕ふ。富永半五郎忠元に至り永良・具吹・駒場を合せ領せしが、永祿四年藤波曜にて戦死せり。

ムロハニ 室墳村 兵庫縣但馬國出石郡の西南部。出石町の南に接し、西北



ムロマ

は城崎郡に隣り、西南と南は美父郡に界す。村内山地相重り、東南境に最高峯床ノ尾山(八三九米)聳ゆ。須留喜山(四四九米)は西隅にあり。朝来川支流の出石川は東方より来りて北北西流し、更に北境の中央に沿ひて北北西流し、村境を離れて小坂村に入る。流域に平野あり。米・藁の産多く、蕎麦・蔬菜・花卉・食用農産・果實・製茶・杞柳・葛根及び沿岸漁獲物・石材・土石・鏡水・製製品等あり。縣道は東方・南方又は西南方へ通じ、出石町より派出する道路が本村を横切り交通の便よし。また社線出石鐵道は村内に出石驛(昭和四年設置)を置く。古への室野郷及び埴野郷の西部を合せたる地なり。大字粟木に須留神社あり、俗に菅八幡といふ。昔は古事記にある熊野にして天日槍の齋居色なりといふ。(鶴山郷春城地)指定天然記念物。大字朝見の小丘にあり。蕃殖する鶴は鶴と稱する種類にして、遠く安政年間初めて渡來せしが、農作物を産すため土民の危毒をうけ一時全く姿を見せざりしが、明治三十七年頃より再び渡來せり。鶴山の松は梢が平らにて葉をつくるに過し、果は見送しよき松の梢に木の葉・枝を集めて、直径約一米半の大なる輪形に造らる。凡そ二、三年目毎に他の梢に移り、それがたぬ處々に古果残る。年々飛來する鶴は三十羽にて集籠するは二、三箇所とす。この觀覽の時期は五月下旬より六月中旬

ムロラン

て、午後餘り活動せざれば午前中をよしとす。「須留神社」大字粟木に鎮座。郷社、祭神、由良度美神。本殿、參道殿、拜殿を具ふ。「朝野神社」大字朝野に鎮座。村社、祭神、倉稻魂命。式内社。例祭、十月十八日。
ムロマキ 室牧村 富山縣越中郡負部の南部。室牧川に沿ひ、八尾町の西に隣接す。東西兩部はいづれも二〇〇—五〇〇米前後の丘陵南北に連互し、室牧川は略中央を南より東北へ貫流し八尾町にて井田川に合流す。流域に狭き耕地あり米・藁を産す。畑は概ね山林にして木炭・木材の産あり、八尾町より出荷さる。北部を東西に貫く縣道は八尾町より山田温泉に至るもの、バスの便あり。省線高山本線越中八尾驛(保内村地内)へ約五軒。村内に高熊鐵泉(山吹)あり。泉質は無色透明の単純泉。地は井田川に臨みて遠く夫船山を望み、風光佳なり。附近には城ヶ山公園・同名寺・本法寺などあり。
ムロマチ 室町 東京の町名。今日本橋區室町。日本橋より北方の大通り、一丁目より三丁目に至り本町に接す。辰巳之圖「匂ひ袋のやうなりぬ」は、室町の桐山三了が所からとりぬ。
【室町】↓京都市(二二〇二頁)
ムロヨシタ 牟呂吉田 愛知縣瀬尾郡にありし村、昭和七年豊橋市に編入す。

室蘭

【室蘭市】北海道南西岸の港市。釧路國南岸中央の半島部の先端に當り、北東より南西に宛も下顎の如く突出して内浦灣の北東口を限る輪郭半島とその北岸の地帯を占め、北東は靛別郡靛別村に、北西は有珠郡伊達町に隣接し、南東・南・南西は海に開き、面積七五・九方軒。北境には火山岩より成る靛別山(約九〇〇米)ありて土地南方に傾斜し、輪郭半島は中部に母懸山、南部に洞窟山(一八八米)を戴き、もと一孤島なりしがのち東北部にて本土と連繋せる陸繋島にして、外海に向ふ東と南の岸は斷崖をなし、北岸の中央部には支溝を抱きて水深く室蘭港の要部をなす。港は北・東・南の三方に陸地に圍まれ僅に西北方に開口するのみにて港内波濤に、水深くして大船の碇繋に適する等港としての自然的狀態良好なると、外洋に面し航汽船の寄港に便なると、附近海岸に良港なき等の原因により、早くも夕張・空知等の諸炭坑と鐵道によりて連絡し石炭輸出港として榮ゆるに至れり。即ち大正七年より昭和四年までに工費五百萬圓を投じて、南防波堤(一八三〇尺)、北防波堤(三二〇〇尺)の築設と港内水面三六萬坪の浚渫を行ひ臨港倉庫・上屋等も完備し、埠頭は一時に五千噸級輪船四隻を繋留し得べく、更に鐵道省は七百五十萬圓の巨費を以て石炭荷役専用の岸壁と木造高梁棧橋を設け、北海道炭礦汽船會社はウェルトコングエヤ一を設備し石炭の積込頗る便利なり。港は石炭の外、木材・板類、主として苫小牧より來る洋紙等を輸出し、鐵礦石の輸入多し。市街も始は主として港岸に沿ひて發達せしも、元來平地に乏しく海岸町・大町等の外は測量山・母懸山間の高臺を開きし階段式の町にて坂路多きも眺望に宜しく、特に測量山の東斜面にある八幡神社境内よりは北に有珠山・幸陸山、西南に駒ヶ岳等を望み景色雄大なり。この商業區の東方には山を隔てて日本製鐵所と日本製鐵會社輪西製鐵所の二大工場あり。日本製鐵所は機械・鍛鍊・鑄造等の工場を有し、大規模に大砲・彈丸をはじめ諸種の鐵道及び船舶用品を製造す。輪西製鐵所はもと北海道炭礦汽船會社が紅田・俱知安等噴火灣岸地方の砂鐵を原料とする鐵製製造を目的に事業を開始せるに起り、その後數度の變遷を経て昭和九年大日本製鐵會社に參加合同してその輪西製鐵所となりしもの、熔鑪・鐵石爐・結設備・鑄鐵機・熱炭爐等の設備を有し、製鐵を主とする外、硫酸アモニウム・ペソゾール・タール・硫酸等の製造を行ふ。省線室蘭本線は市の北部を略東西に貫きて本輪西驛(大正十四年設置)、東室蘭驛(明治二十五年設置)を置き、東室蘭驛より支線ありて輪西・御崎二驛(前者は昭和三年、後者は明治三十八年設置)を

ムロラ

て港岸の室蘭驛(明治三十年設置)に達す。また室蘭・青森兩港間には北日本汽船會社の連絡航路ありて毎日二回の發着あり。市内には陸軍支隊・海軍艦政本部監督官事務所・函館稅關支署・鐵道省苗穂工場派出所等の官署あり。この地はもと松前藩の輪郭場所にて運上屋を今の輪郭に置きしが、寛政十一年徳川幕府の東蝦夷を直轄するや蝦夷奉行これを管して運上屋を會所と改め今の元室蘭に移す。文政四年また松前氏の領となり、安政二年再び幕府の直轄に歸し、同六年幕府はこの地を南部藩に賜ふ。明治元年箱館裁判所・箱館府相次ぎて之を管し、同二年室蘭郡に編入、同四年開拓使の所管となり、同五年舊室蘭町には戸長を置き、同九年輪郭村・札幌通・西小路・澤町・幕西町・東小路・菅野町・新堀町・仲町・濱町・本町の一村十箇町を統べ、同三十三年室蘭町となる。大正七年室蘭郡の全地域を室蘭區となし、更に同十一年室蘭市と改めらる。市名は輪郭會所附近の小川のアイヌ名モルランナイ(靜かなる道を下る川)より出づと。(元室蘭南部藩降屋址)指定史蹟。陣屋町にあり。もとベキラウタと呼ばれし地なり。南は室蘭灣に面し、北は低邱を負ひ、略長方形に桑を築き濠を廻らし、背面更に丘陵の一部を掘りて空濠を作り、土壘を設けて外郭となす。安政二年江戸幕府は南部藩に命じて惠山岬より靛別迄を繋ぎせしめ

したため、本陣屋を面館に置き、出雲陣屋をこの地に構へたるものにて遺址は當時の規模をよく保存す。藩兵ここに駐し、また濠を距てて室蘭半島のオйнаウシに見張所を置き砲を備ふ。室蘭灣は天然の良港にて屢々外國船の寄航せしに依る。明治元年、藩兵を撤し廢址となる。陣屋の東北に病歿せる藩士の墓あり。「祝津貝塚」祝津町の輪郭尋常小學校校庭にあり。ホタテガヒ・アサリガヒ等貝類積成せられ魚骨・獸骨・石器・土器破片多く出土す。校庭及び附近一圓は貝塚にして同校には、大形石版丁・石刀・石斧・石匙・土器壺等の遺物保存せらる。貝塚は市内大字輪西村字ボンナイにもあり、祝津町ヘシナウシ岬には岩址があり、その他にも貝塚・岩址はこの地方一帯に存するもの多し。「海濱研究所」舟見町にあり。北海道帝國大學理學部に屬し、主として海産藻類に関する分類學・發生學・生態學・生理學等の研究所にして、研究室・寄宿舎の設備あり、随時同大學關係者並に一般研究者の使用に供す。「測量山」八幡神社の背面數百米にあり。海拔一九一米。明治五年札幌・室蘭間の道路開鑿の際、技師米人メジロウラクがここを基點として測量せし處。樹木は伐採はれ、室蘭半島の景勝一帯の中に萃り、好箇の風景臺なり。「大黒島」室蘭港口に横たはる島。直徑約二〇米の圓形島にして、島周には岩礁多し。住時は辨天の祠ありしより辨天島とも稱せり。島上に室蘭燈臺あり。燈質は明治白光(明二秒、暗二秒)にして光速距離一八・五哩、また無線電信の設備あり四十秒を隔て五秒吹鳴す。「室蘭公園」市街の中央、公園町にあり。面積約二八ヘクタール。大正五年以降年々施設進行はれ眺望よし。「室蘭岳」市の北東嶺。標高九一八米。山體白樺の疎林にて掩はれ、山腹はスキ一の長きグレンデをなす。登山は室蘭本線本輪西驛よりチバイベツ川を遡り、室蘭岳ヒュウテを経て行はる。約一〇軒、四時間行程なり。また東室蘭驛より中島神社前を経て至り得、約一〇軒なり。「輪西ゴルフ場」輪西町インダキ海岸にあり。室蘭ゴルフ倶楽部の經營にかかり丘陵と砂濱を利用して、變化に富む九ホールを設く。長さ二二六〇米。十月より翌年四月まで降雪期には閉鎖さる。「塔守神社」大字元室蘭に鎮座。郷社。祭神、保食神。創祀年代詳かならず。古來當地の鎮守たり。例祭、九月九日。「八幡神社」泉町に鎮座。郷社。祭田別命を主神とし、保食神・琴平神を合祀す。明治六年の創立にして、留來當地の鎮守として崇仰せらる。例祭、八月十五日。麓に、露西亞軍艦ディアナ號の大砲にて後に元室蘭南部陣屋に備付られしもの一門保存せらる。

【室蘭線】國有鐵道の一。室蘭本線、萬字線及び夕張線の總稱。主として北海道西南部海岸より石狩平野に通ず。室蘭本線は内浦灣岸の輪西本線長萬壽驛より海岸に沿うて東進し、東室蘭にて室蘭に至る支線(八・一軒)を分ちて古小牧驛に達し、それより北に向ひ道分・志文等を經て輪西本線岩見澤驛に至る(二〇九・三軒)。萬字線は志文驛より分れて萬字炭山驛に至る(二・三・八軒)。夕張線は道分驛より分れて紅葉山・鹿ノ谷(社線夕張鐵道線に接續)等を經て夕張驛に至る(四三・六軒)及び紅葉山驛より分れて登川驛に至る(七・六軒)。室蘭本線は輪西本線と連絡し稚内行直通急行列車を通じ、北海道縱貫鐵道の一部として重要なり。(主要接續線及び連絡線)。(長萬壽)輪西本線。(紅田)社線洞爺湖電鐵。(古小牧)日高線。(沼ノ端)社線北海道鐵道金山線(道分)夕張線。(栗山)社線夕張鐵道。(志文)萬字線。(岩見澤)輪西本線、靛内線。
【室蘭本線】↓室蘭線

室蘭



メーシ

メーシ

【女坂】 神武紀に見えたる大和國の地名。いま奈良縣宇陀郡内牧村の大字坂の地がそれならんと言はる。神武天皇御東征の折、日を背に負ひて大和國に入り給ひ苦戦を重ね給ふ。天皇宇陀に入り給ひし時、高倉山の嶺に上りて國中を望み給ひしが、賊酋八十島は女坂に女軍を置き、男坂に男軍を置き、墨坂に煽りたる炭火を置きて皇軍を防ぎ、道路閉塞して進むことを得ず。既にして天皇神跡を受け給ひ、遂に賊軍を破りて進軍し給ふ。

メーシ

【女島】 大濱村(長崎縣南松浦郡) 姪島 東京府小笠原島の母島諸島の中の一。西南は姪島瀬戸を隔て、妹島に對し、東西及び南北とも各一・五軒、周圍五軒の小島。全島矮樹密生し、水泉は甚だ乏しく、西北岸に小濱あり、風浪静かなる時は舟を著け得。大正九年には一四人の居住者ありしが、昭和五年には無人島となれり。

メーシ

【メーシ】 北海道にある省線宗谷線の一部。宗谷本線の名寄町の名寄驛に起り、終家は石狩國雨龍郡に到り幌加内驛に接続するもの。現在は初茶志内驛まで七・二軒開通。

メーシ

【メーシ】 朝鮮咸鏡南道文川郡の東北部。西は文川の東北方約六軒、北は永興郡・高原郡、南は徳源郡と界し、東方一帯は松田湖に面す。昭和十一年四月もと明孝面及び龜山面を併合新設せしものにて、東西約一五軒、南北一〇軒餘あり。西南部に二一三米の丘陵起伏するも著しき山嶺なく、北部に錦浦の大湖あり附近は特に廣き平地横はる。北境を前津江東流し徳池江と合して龍興江となり海に注ぐ。海岸は中南部に松田半島東に長く突出し松田湖を北の西側、南の長致串湖等の入江に岐ち、西側の北岸なる龍興江デルタには鹽田發達す。米・麥・大豆・雜穀等の農産ある外、水産には食鹽・牡蠣・海鼠等多し。域内に鐵道又は幹線道路の通ずるなきも、海上交通は比較的便なり。本面の大部分は要塞地帯に編入せらる。東部の元海軍防備隊跡に官設の永興學校あり、少年感化施設にして大正十三年十月の開校に係る。

メーシ

【メーシ】 朝鮮慶尙北道才山面、南は安東郡陶山面ほか二面に接す。東西八一〇軒、南北一〇一三軒あり。東南部に清涼山(八七〇米)聳え山腹は北及び西に連り、西南部には萬里山(七九二米)あり、概して東及び南に高く、北西に低夷して其處に臺地を造る。洛東江中部を南に流るるも峽谷をなす部分多しして灌溉水利の便や乏し。耕地

メーシ

【メーシ】 朝鮮慶尙南道金海郡の東南部。釜山府の西約八軒、洛東江デルタ上に位置し、南北約五軒、東西約三軒の地を占む。田畑極めてよく拓け米・麥・豆類・叭等の産多し。沿海には蛤・海苔を出す。北方金海邑(道路通じまた南部にありては洛東江口を渡船によりて連絡し、東方釜山府、西方熊川方面に通過す。

メーシ

【メーシ】 秋田縣羽後國東部郡の西北部。西馬音内町の西北約四軒。東北は平鹿郡に、西北は由利郡に接す。西北境に三森山(四二二米)、西南境に太平山(四七四米)聳え、村の北・西・南の三境には山地連りて東方に傾斜し、中央部には七高山(三〇四米)聳ゆ。全村山地多しして雑物川

メーシ

は東境を北流す。米・藁を産し、山中には蘆葦草を産す。本莊街道は北部を東西に通じ、湯澤街道は東部を南北に通ず。南方の社線鐵道西馬音内驛へバスの便あり。古くは和名抄、雄勝郡雄勝の内とす。大字大澤は天和元年、本莊、龜田兩藩及び幕府巡見使・目代等の上下の宿驛と定めらる。また大澤の南、天下屋敷と稱する地を古の雄勝城址なりといふ説あり。(金澤神社) 大字大澤字上法寺に鎮座。神社。祭神、金山毘古神・金山毘賣神外數神。江戸時代には藩主佐竹氏の崇敬社。例祭、陰曆四月八日。

メーシ

【メーシ】 山形縣羽前國東村山郡の中部。東北方天童町、東南方山形市へ各六軒、西は長崎町に接す。面積四・七三方軒。山形盆地の中央部に位置し、全村平坦にして、谷川は中部を西流し、白川は南部を西北に流れ、何れも須川に合す。須川は西部を北流す。米・藁の産あり。省線奥羽本線漆山驛へは東方約三軒。

メーシ

【メーシ】 福島縣岩代國伊達郡の西南部。川俣町の西方約七・五軒。西及び南は阿武隈川を隔てて安達郡に接す。阿武隈山地に屬し、全村丘陵性臺地にして、阿武隈川は先行性流路をとりて西北に流る。米・麥・大豆等を産す。道路は村の北部を東西に通じ、東方川俣町及び西方省線東北本線松川驛へは各バスの便あり。省線川俣驛岩代飯野驛にも近し。昭和五年飯野村の一部を以て本村を建つ。

メーシ

【メーシ】 新潟縣越後國中頸城郡の東部。保倉川の右岸に沿ひ、西北は湯沢町を隔てて日本海に、東南は東頸城郡に接す。東半部には低き丘陵ありて中央に傾斜し西部・北部は頸城平野の一部を占め平低にて水田多し。中央の山麓と北部には數個の潟湖を流し低濕なり。農業を主生業とし米を多産す。明治鎮山あり、鎮區は外二箇村に跨り、日本石油會社の稼げに係る石油山にて昭和十年より事業を開始す。縣道西部を南北に貫通し新井町・柿崎町に通じ、南部を社線頸城鐵道東走し明治村驛(大正三年設置)・大池驛(昭和五年設置)の二驛を置く。

メーシ

【メーシ】 北山村(長野縣) 愛知縣にある用水路。三河國の矢作川の右岸なる碧海郡の地は洪積層の乾燥せる荒地にて、數十年前は荒蕪たる山林・原野多し、水利の便なきため耕地の如きは點々散在するに過ぎず。これをみてこの地方の疏水に著目せるは、碧海郡和泉村(いま明治村大字和泉)の都築彌四郎(彌厚)なり。彼は郡の東境を流るる矢作川より分水し、水を西南に導き衣ヶ浦の海面に達せしめんと計畫を立て、幼稚なる當時の測量術を以て、無理解なる農民の反對を排除しつつ、ほど水

メーシ

路を測定し、江戸に上りて幕府の許可を得しが、農民の反對は更に一層の激烈を極め、これが瞭解に努力中に病を得、家産を蕩盡したる上、なほ莫大の負債を殘し、天保四年九月、六十九歳を以て病歿せり。次いで萬延・文久頃、阿彌陀堂村(いま上郷村大字阿彌陀堂)の人伊豫田與八郎、八帖村(いま四時市八帖町)の人木藤八三郎の二人は、相謀つて碧海郡上郷村ほか三箇村(いま何れも上郷村の内)に防る四角輪中と稱する同地の堰水を排除し、且つこれを利用して南方低地に灌溉せんとせしが、これも一部農民の反對のために沙汰止みとなれり。かくて年月も過ぎ、世は皇政維新となれり。碧海郡の城ヶ入村(いま明治村大字城ヶ入)の人岡本兵松が都築彌四郎の地圖を嗣ぎ矢作川疏水事業を再興せんとし出願し、前記の伊豫田與八郎もまた前計畫を復活してその許可を得んと出願せしめたため、時の碧海郡長は兩者の間を斡旋し、兩者を提携せしめ連署を以て出願せしむ。時の愛知縣令安場保和はこれにこの舉を贊し、水路を西加茂郡今村(いま母母町大字今)を起點とし、郡を東北より西南に貫きて高濱村(いま高濱町大字高濱)に於て衣ヶ浦に入ることを以て、工事の許可を與へたり。されどこの工事には少なくとも八萬餘圓の大金を要するため、縣より灌溉用溜池の敷地や官林の無代拂下などを許せしが、なほ不足するため出資者を附近の

メーシ

村の富豪に求めその出資を得、明治十二年一月着手、爾來十四箇月の日子を費し明治十三年三月竣工、幹線の通水を見るに至れり。これを中央の井筋として更に工費十四萬餘圓を投じて西井筋・東井筋を構築せり。用水の取入口は西加茂郡母母町大字今にあり。矢作川を横斷して堰堤を設けて水を取入れ、これより碧海郡上郷村を経て安城町の大宇今に至るまでを本流とし、更に西南に流れ依佐美村を経て高濱町字蛇抜に至りて海に入るを中井筋と稱す。この本流及び中井筋の延長約二八軒、渠幅は本流の頭約一・一米、末約七・三米。支渠は二條あり、一は上郷村大字廣時新郷の東部に於て本流より分れて西に向ひ、安城町・知立町を過ぎて刈谷町に至り、大字元刈谷の海に入るもの、これを西井筋と稱し延長約一四軒、渠幅約三・九米。他の一は安城町大字今の東方より分れ櫻井村に入り大字藤井と明治村大字未津との間より矢作川に連するもの、これを東井筋と稱し延長約一二軒、渠幅約三・九一五・五米なり。以上の幹線の外、更に幾多の小渠・小溝を派出すること縱横、總延長數百軒に達し以て碧海郡の大部分を灌溉す。而してこの東井筋は更に伏越鐵管を以て矢作川の下を通り、藤豆郡に入り西尾・平坂・寺津の三町を灌溉して海に入る。これを西城用水と稱し、延長約八軒、渠幅約二米なり。かくして明治用水の延長は幹流約五四軒

メーシ

メーシ

【明治村】 栃木縣下野國河内郡の南部。上三川町の西隣にて、西は下都賀郡石橋町に接す。關東平野の一部を占め、東部を田川南流し川沿ひには水田多く、西半は畑地をなして所々林を交ふ。農業行はれて米を主産し、麥の産もあり、特産物としては干鰯多し。南部を横走する縣道は上三川町・石橋町に通じ、石橋町には省線東北本線石橋驛ありてバスを通ず。また上三川町より北走し、村の東北部を経て、北方の宇都宮市(約九軒)に通ずる縣道あり。古くは和名抄、都賀郡高栗郷の内なるべし。明治二十四年多功村を改稱す。延喜長部省式に見ゆる田部驛は蓋し此地とす。近世の初めまで磐石驛次にして多功郷と呼ばる。中世は専ら多功に作る。村内に多功城址あり、即ち多功氏の居城とす。多功氏は宇都宮一黨にして石見守宗朝を祖先とす。

メーシ

【明治村】 群馬縣上野國群馬郡の東部。榛名山の東麓にて金古町の北隣にあり。西半は榛名山東斜面の一部をなして、西境に吾妻山(八三二米)あり。東部は利根川に近く平地をなす。一帯に桑園多く養蠶盛なり。平地には農業行はれて米・麥を産す。縣道は東部を縱走し、南は金古町を経て高崎市に通じ、北は澁川町に通じ、何れもバスの便あり。また北隣の古碓村にある省線上越線八木原驛に近く、これにもバスを通ず。

メーシ

【明治】 千葉縣市原郡にありし村。大正十三年に牛久町と改稱す。

メーシ

【明治】 神奈川縣高座郡にありし村。明治四十一年に外一町一村と合して藤澤町を建つ。

メーシ

【明治】 新潟縣越後國中頸城郡の東部。保倉川の右岸に沿ひ、西北は湯沢町を隔てて日本海に、東南は東頸城郡に接す。東半部には低き丘陵ありて中央に傾斜し西部・北部は頸城平野の一部を占め平低にて水田多し。中央の山麓と北部には數個の潟湖を流し低濕なり。農業を主生業とし米を多産す。明治鎮山あり、鎮區は外二箇村に跨り、日本石油會社の稼げに係る石油山にて昭和十年より事業を開始す。縣道西部を南北に貫通し新井町・柿崎町に通じ、南部を社線頸城鐵道東走し明治村驛(大正三年設置)・大池驛(昭和五年設置)の二驛を置く。

メーシ

【明治】 北山村(長野縣) 愛知縣にある用水路。三河國の矢作川の右岸なる碧海郡の地は洪積層の乾燥せる荒地にて、數十年前は荒蕪たる山林・原野多し、水利の便なきため耕地の如きは點々散在するに過ぎず。これをみてこの地方の疏水に著目せるは、碧海郡和泉村(いま明治村大字和泉)の都築彌四郎(彌厚)なり。彼は郡の東境を流るる矢作川より分水し、水を西南に導き衣ヶ浦の海面に達せしめんと計畫を立て、幼稚なる當時の測量術を以て、無理解なる農民の反對を排除しつつ、ほど水



支流、小渠は約三百軒に達し、その灌溉区域は碧海、西加茂、備豆の三郡内十五箇町村に亘り、實に八二八ヘクタールに達し、なほ年々増加の勢なり。かくして往昔の寒村は變じて富邑となり、産業大いに興るに至れり。これ實に都築彌厚その他の先覺者の賜なれば、明治十六年十月朝廷より伊豫田與八郎・岡本兵松の兩名に對して藍綬褒章を賜ひその善行を表彰され、大正二年陸軍大演習が愛知縣下に行はれし時、都築彌厚に對し、また大正天皇即位の大典を擧げさせ給ひし時伊豫田與八郎に對し、何れも從五位を追贈されたり。明治用水は大正十五年五月に至り、矢作川の上流濱野村大字越戸より分水し西加茂郡の南部と碧海郡の北部を灌溉する枝下水普通水利組合を併合せしものにて、今や明治用水の灌溉する所一萬町歩を超え、なほ年々増加の勢なり。汽車によりて東海道を旅行する人は安城驛附近に於て流々として流るる明治用水の水路を眺むることを得。

川の沖積作用に依り埋没されし衣ヶ浦の接續地にして、いま池沼となり、その末は衣ヶ浦に注ぐ。此地の沖積層の丘陵は最高所は一三米位にてその間に多くの用水が南北に貫通し水田地域を潤し、臺地は桑畑多く養蠶盛にて、南部には桃、柑橘の産多し。また養蠶も盛なり。交通の便はよく臺地面には多くの交通路あり、南部には碧海電氣が通じ米津驛を置く。大字東端には重明親王櫓邸と稱する址あり。重明親王は醍醐天皇第四皇子にして、天慶二年故ありて京を去り、三河に來り本村の海邊に流寓し給ひ本地に薨去せられしと傳ふ。根柢は油ヶ淵が海灣たりし頃海灣中に突出し、初め出崎と呼びしを轉訛して根柢となれりといふ。和泉は重明親王の家臣泉次郎の開拓せるため、此名ありと。米津は知多郡大野領主米津道壽なるものが戦艦數隻を幸る中根の海岸に着き、遂に城を米津に築く、故にこの米津の名が地名となれるものと云ふ。大字西端にもと西端藩あり、徳川慶下旗本多忠寛が慶應三年藩屏に列し一萬五百石を食みし所。藩は明治四年廢して縣を置き、間もなく廢して額田縣に入る。

【明治村】 愛知縣尾張國中島郡の中部。一宮市の西南方七軒。北は萩原町に、東は稲澤町に、南は千代田村・平和村に、西は祖父江町に隣る。此地は濃尾平野の中部にあたりて、土地低平なり。西地に

は日光川南流し、東北より來る光雲川を合す。此等の川は沖積地の水田灌溉を行ひ、また桑畑多く植在す。如地には大根其他の野菜栽培せられ、枇杷島市場に出さる。交通は便にして、祖父江街道東西に通じ、鐵道は西隣額田江町を通過する名古屋電氣鐵路西線に出づるを便とす。本村は明治三十九年、西島村・光郷村・片原一色村・國分寺と長谷村の一部を廢して置けるものなり。〔淺井神社〕 大字淺井に鎮座。郷社。祭神は明記なきも天御中主尊ともいふ。延喜式内社にして、國內神名帳に從三位淺井天神と見ゆ。例祭、正月二十日。〔鹽江神社〕 郷社。祭神、鹽土大神。式内社とする説あり。舊稱、白龍明神。例祭、八月十七日。〔國分寺〕 大字矢合にあり。臨濟宗妙心寺派。開山は覺山。聖武天皇勅建に係る諸國國分寺の一。釋迦如來坐像(木造)二尊、佛覺山和尚坐像(木造)一尊、傳熱田大宮司夫妻像(木造)二尊は國寶なり。〔安樂寺〕 臨濟宗妙心寺派。初め天台宗。聖武帝の勸願國分寺の一寺院と傳ふ。もと觀音寺と説す。當寺の十一面觀音立像、釋迦如來坐像は國寶。〔法華寺〕 曹洞宗。聖武天皇の勸建に係る國分寺寺を、のち僧才敏が現宗に改め再興せしもの。もと法花寺に作る。薬師

【明治】 鳥取縣八頭郡にありし村。大正四年五總村と共に廢し西地村を設く。【明治】 鳥取縣鹿野郡にありし村。明治二十四年に廢して馬路村・大國村の二村となる。【明治村】 岡山縣備中國後月郡の東方。吉井町の北に接す。北は川上郡に、東は小田郡に界し、東南は山野上村に、西は共和村に接す。面積二・三・五七平方軒。村内概ね山地に蔽はれ、東北より西南に亘る小山脈中央に横はり、その西北・東南山麓に耕地を有し、南境また山脈連る。村の周圍は山林に圍繞せらる。桑畑耕地附近に存し純農村なり。米・麥・蕎麥・薄荷・柿及び酒類・木炭等を産す。南隣吉井町に出づれば鐵道に自動車あり。村内に花澤あり。高さ二〇米、巾六米。【明治村】 高知縣土佐國香美郡の西南部。山田町の南に位し、東は片地村、南は岩村に界し、西は長岡郡に接す。東南境に物部川南流して本村は廣き平坦な右岸の沖積平地を占む。推新前、野中兼山の治水、開墾によりて土地大いに拓け、麓野平野と稱し國中屈指の農耕地をなす。米の産多し、製糸工業も盛なり。山田町より南方野市町及び南濱村方面をつなぐ鐵道はそれ／＼東西兩部を南北に貫通しバスの便あり。山田町の山田驛までは約一軒、省線土讃本線に連絡す。往昔は山田郷の一部にして野中兼山の治水、開墾によりて開拓大いに進みたる地なり。

大宇中野に野中兼山邸址あり。寛文三年兼山は奉行職辭退の願を提出し、爾來客を謝して讀書に日を費し優遊自適せしが其年の十二月病に罹りて卒す。兼山の没後、藩は藩政として墓をなし、兼山生前に諱ありとなし家族を召毛に遺訓し、遂に其血統を斷絶す。爾來この邸址も荒廢して顯るものなかりしが、近時邑民計數軒の地を劃して邸址を保存し、石を建て、野中兼山先生終焉地と題せり。兼山はのち正四位を贈らる。【明治村】 高知縣土佐國吾川郡の中部。高岡郡越知町の北にあり、東は三瀬・下八川二村に、北は小川村、西は横島村に界し、南は仁淀川を隔てて高岡郡能津・黒岩二村に隣接す。四國山脈南斜面の地を占め南北に數條の連峯縱走して高峻なる山村をなし、北境に五在所・黒森の諸山屹立す。南境に仁淀川屈曲しつゝ、溪谷を東流し狭長なる砂地を造る。その他には平地殆どなし。農業不振にして米・麥等を僅に栽培す。養蠶は相當に行はる。山地は森林よく繁茂し三椏・楢等殊に多く又その他の林産少からず。河岸に沿うて鐵道東西に走り越知町及び東南方伊野町に通じバスの便あり。また仁淀川には舟運の便あり。大字片岡に片岡城址あり一に法嚴城といひ戰國の武將片岡左衛門大夫直綱より累代の城址なり。直綱應永中始めて入國し子孫光綱に及び其業益々隆盛となり、城下は頗る賑賑なる市街を

成したり。天正十三年伊豫金子陣に長曾我部氏に屬して戦死し遺骸をこゝに葬れり。いま城址の東南、妙福寺跡に其墓あり、また一門みな長曾我部氏の忠臣にして、城址の中央に巨大なる記念碑あり。〔天石門別安國玉主天神社〕 黒瀬に鎮座。郷社。祭神、天手力男神。式内社。例祭八月十二日・十一月八日。【明治炭礦】 福岡縣筑後郡田川・直方市・鞍手郡宮田町・同小竹町・田川郡上野村に跨りて約二七萬坪、現在明治炭業會社の發行に係り、昭和十年の産額は塊炭一四、一八八萬、粉炭一七、四八九萬、切炭六六一五萬、粗炭七、九九八萬(この總價額三〇萬餘圓)なり。富炭礦は明治十八年の開坑にして、大正の末年頃は鐵夫千二、三百人、外に女工八百人にも及ぶ大炭礦なりしが、其後衰へて、此頃にては鐵夫三、四百人に過ぎず。いま重要鐵山たり。【明治村】 大分縣豊前國宇佐郡の南部。別府市の西北約一〇軒にあり、南部の東半は連見郡に、西半は玖珠郡に界す。全村山地にして南部に高く北部に低し。即ち南境には立石山(一〇五九米)一帯の山地あり。東境中央には烏帽子山(五七三米)そびゆ。西境には鈴ヶ塚山より東北方へ連る山嶺あり。鈴ヶ塚山の東に發する深見川は東北流して中央を流れ中部より北流し沿岸に稍々低地あり。東北部

は一支流北流して龍王村に入る。米・麥・蕎麥及び林産物を出す。山間なる爲め交通不便なり。古くは和名抄、宇佐郡深見郷の内とす。大字高貴野に龍泉寺瀑布あり雄大ならざるも頗る美觀を呈す。〔三島神社〕 大字元村に鎮座。郷社。祭神、大山咋命。例祭、十一月五日。(鶴見神社) 大字矢畑に鎮座。郷社。祭神、伊弉諾尊外一神。【明治村】 大分縣豊後國大分郡の東北部。乙津川の左岸に沿ひ、大分市の東方約二軒。全村丘陵性を帯び一〇〇米以下の高燥地なり。東南境に沿ひて大野川の分流乙津川が北流す。米・蕎麥の産多し、蕎麥も出す。また葛城酒造場あり。特産には和傘あり。省線日豊本線の高城驛は北方約一軒にあり。【明治村】 大分縣豊後國直入郡の東部。大野川上流の左岸に位し、竹田町の西北一軒餘にあり、北は大野郡に界す。土地高燥にて北部は六・七〇〇米の高度を有す。大野川は西南境に沿ひて東流す。斜面に耕地發達し麥・蕎麥・米を出し林産、畜産も多し。省線豊肥本線の豊後竹田驛は東南約一軒にあり。【明治村】 大分縣豊後國南海部郡の北部。佐伯町の西北二軒餘にあり、北は北海部郡津久見町に界し西は大野郡に接す。全村山岳到るところ起伏して高燥地をなし東北部には彦根、中部には尺間山、西南部には梅山あり。東部を南下する河川と



メーシ—メーセ

西部に發して東南流する河川が東南部に...

メーシ—メーセ

メーシ—メーセ 明治製糖會社...

メーシ—メーセ

メーシ—メーセ 名松線...

メーシ—メーセ

メーシ—メーセ 明盛村...

メーシ—メーセ

メーシ—メーセ 鳴石面...

メーシ—メーセ

メーシ—メーセ 鳴洋渡...

メーシ—メーセ

メーシ—メーセ 明太洞金山...

メーシ—メーセ

メーシ—メーセ 雌阿寒岳...

墨天

地にあり。村の北部は鳥川扇状地と梓川...

メーシ—メーセ

メーシ—メーセ 鳴石面...

メーシ—メーセ

メーシ—メーセ 鳴洋渡...

メーシ—メーセ

メーシ—メーセ 明太洞金山...

メーシ—メーセ

メーシ—メーセ 雌阿寒岳...

メーシ—メーセ

メーシ—メーセ 雌阿寒岳...

西は北部に於て五〇餘軒、南部にて約二...

メーシ—メーセ

メーシ—メーセ 鳴石面...

メーシ—メーセ

メーシ—メーセ 鳴洋渡...

メーシ—メーセ

メーシ—メーセ 明太洞金山...

メーシ—メーセ

メーシ—メーセ 雌阿寒岳...

メーシ—メーセ

メーシ—メーセ 雌阿寒岳...

見の外は殆ど海陸をなし、東南角には海...

メーシ—メーセ

メーシ—メーセ 鳴石面...

メーシ—メーセ

メーシ—メーセ 鳴洋渡...

メーシ—メーセ

メーシ—メーセ 明太洞金山...

メーシ—メーセ

メーシ—メーセ 雌阿寒岳...

メーシ—メーセ

メーシ—メーセ 雌阿寒岳...

墨天



メクロ—メナシ

頗る莊嚴、堂後に大日堂・虚空藏堂・鬼子母神等あり、堂前は一種の門前町をなす。明暦の大火と併稱する明和九年二月二十九日の行人坂の大火の火元なる行人坂は、目黒不動の附近にあり。その他境内には、北部に駒場の第一高等學校、航空研究所、近衛野砲兵訓練場、東部には海軍技術研究所、東京工業試験所第六部、日本獣醫學校、西南部には北里研究所、府立高等學校あり。交通は省線山ノ手線は區の東端部を横断し、北部には省線渋谷線を起點とする玉川電車が横断し、また東京横濱電車が區のほぼ中央を北より西南に縦貫し、目黒蒲田電車は、目黒驛を起點とし區の西南境を走り、なほ電車網の疎密には、乗合自動車ありて交通頗る便なり。

【目黒川】 東京市の西南部を流るる川。目黒川上流は東京市の西境附近に於て、玉川上水より分水して二流をなす。即ち一は烏山用水と稱し、一は北澤用水と呼び、略々並行して世田ヶ谷區内を東流し、その東端池尻町に於て二流は合して目黒區に入り目黒川となり、東南に流路を轉じ、目黒區諏訪山に於て西方より来る蛇崩川を容れて水量を増し、品川區の略々中央を流れ東品川に於て東京灣に注ぐ。この河口は舊て東品川に於て流路を北に轉じ、北濱の東側を流れ品川第四遊場の北に於て東京灣に注ぎしものを、人工的に南に移動せしめしものにて、全流程凡

メナシトマリ

省線奥濱北線の一驛(昭和十一年設置)。北海道北見國枝幸郡枝幸村にあり。

【目黒】 省線山手線の一驛(明治十八年設置)にして社線目黒蒲田電線に接続す。東京市品川區上大崎二丁目にあり。

メドロカマタ

私設鐵道。東京市にあり。省線山手線の目黒驛に發し、東海道本線浦田驛に終る一三・三驛。浦田驛より發し、省線山手線五反田驛に終る一・〇驛。大岡山驛に發し、二子玉川驛に終る五・五驛。以上各線を含む。途中田園調布、多摩川國前、自由ヶ丘の三驛に於て何れも社線東京横濱電線に接続す。省線と運送運轉、動力は電氣、軌間は一・〇六七米とす。

【目黒】 省線山手線の一驛(明治十八年設置)にして社線目黒蒲田電線に接続す。東京市品川區上大崎二丁目にあり。

メシマ

省線山手線の一驛(明治十八年設置)。東京市豊島區目白町一丁目にあり。

【目白】 省線山手線の一驛(明治十八年設置)。東京市豊島區目白町一丁目にあり。

メナシ

省線奥濱北線の一驛(昭和十一年設置)。北海道北見國枝幸郡枝幸村にあり。

【目黒】 省線山手線の一驛(明治十八年設置)にして社線目黒蒲田電線に接続す。東京市品川區上大崎二丁目にあり。

メナシ—メンセ

【目黒川】 東京市の西南部を流るる川。目黒川上流は東京市の西境附近に於て、玉川上水より分水して二流をなす。即ち一は烏山用水と稱し、一は北澤用水と呼び、略々並行して世田ヶ谷區内を東流し、その東端池尻町に於て二流は合して目黒區に入り目黒川となり、東南に流路を轉じ、目黒區諏訪山に於て西方より来る蛇崩川を容れて水量を増し、品川區の略々中央を流れ東品川に於て東京灣に注ぐ。この河口は舊て東品川に於て流路を北に轉じ、北濱の東側を流れ品川第四遊場の北に於て東京灣に注ぎしものを、人工的に南に移動せしめしものにて、全流程凡

【目黒】 省線山手線の一驛(明治十八年設置)にして社線目黒蒲田電線に接続す。東京市品川區上大崎二丁目にあり。

【目白】 省線山手線の一驛(明治十八年設置)。東京市豊島區目白町一丁目にあり。

【目黒】 省線山手線の一驛(明治十八年設置)にして社線目黒蒲田電線に接続す。東京市品川區上大崎二丁目にあり。

【目黒】 省線山手線の一驛(明治十八年設置)にして社線目黒蒲田電線に接続す。東京市品川區上大崎二丁目にあり。

メナシ

【目黒】 省線山手線の一驛(明治十八年設置)にして社線目黒蒲田電線に接続す。東京市品川區上大崎二丁目にあり。



産す。主色河川は雲山南麓に位し、北は郡色唐津、東は雲山、西は瑞山、南は大川里・徳山を経て洪城に何れも自動車道路を出し、實に交通の要衝を占む。大正三年まで河川郡廳ありし地に於て、文廟および市場あり、穀物・織物・牛等の取引活潑なり。

**メンタ** 免田町 熊本縣肥後國球磨郡の中郡。人吉盆地の中央に位し球磨川の左岸にあり。東北部は多良木町に接す。盆地の中央に位する爲め地形概ね低平にして北麓には球磨川が西南流す。米・麥・粟・甘藷、果等の農産を産し林産もあり。縣通及び省線海線が中央を横斷して免田驛(大正十三年設置)あり。古くは和名抄、球磨郡東村郷の内とす。昭和十二年町制を布く。

**メントユ** 社 台湾新竹州東部の蕃社。上坪溪右岸の地、標高約五七〇米の邊にあり、アタナル族に屬する高砂族の部落。昭和十二年末戸數二二、人口一八。新竹市より竹東を経て至るを便とす。

**メントリ** 妻島村 愛媛縣伊豫國宇摩郡の東北部。川之江町の南に接し、三島町の東方約四軒。南方を東西に連亘する讃岐山脈北麓下に展開せる沖積平地の一部を占め、南部に小丘絶る外は平坦にして地味肥沃なれば農業よく行はれ米・藁の産多し。南部山地は林産多く殊に三桠・楠等の産多き爲、製紙非常に盛にて、

伊豫紙の産地として知らる。また燦爛に近きたため沿岸漁業も行はる。中央を東西に縣道通り、北部には國道及び省線讀本線貫通して何れも三島町に至る。上分町にバスを通ず。「愛媛雨影」に據れば、此地の赤宮といふ山の上に赤宮大明神あり。これをトウゲウと謂めるは、もと東宮よりうつりしなるべし、即ち經太子を祭れるものにして、此の山上は其の御墓所なりとあり。「三皇神社」大字妻島に鎮座。郷社。祭神、日本武尊外五神。例祭、十月廿七日。

モ

**モリアン** 望安庄 臺灣澎湖廳一街四庄の一。區域は馬公街の南方海上に點在する八罩島・東吉嶼・西吉嶼・花嶼・東嶼坪・西嶼坪・大嶼・將軍澳その他大小十數箇の島嶼を管轄す。従つて交通至つて不便、産業に於ても殆ど見るべきものなし。僅に陸上に於ては、若干の蔬菜・粟等を産するのみ。故に本庄下の住民は海に於て生活の糧を求めざるべからず。依つて水産業は比較的發達し、相當額の漁獲高を示す。他の文化的施設に於ても、本庄管内には、殆ど見るべきものなく、僅に教育機關に於て、公學校二箇所設置せらるのみ。交通は専ら海によらざるべからず。本庄下の中心をなすは八罩島にして、庄役場は此地に設けらる。島の東部に一小灣を有し古來渡門港と稱し、泊舟に適す。島人の傳ふる所によれば、本島には往時に和蘭人澎湖に據りし時の築ける砲臺ありしと云ふも、いま完く其跡を留めず。本島に漢族の移住せしは、明末の亂を避けて來れる南支金門の許姓の者を最初とすと云ふ。

**モリカ** 眞岡町 福木縣下野國芳賀郡の西南部。鬼怒川の東岸にあり。西は川を隔て、河内郡と相對す。中部は

モリア——モータ

低き窪地をなし、畑地多く、鬼怒川附近及び東部を南流する五行川の流域は平地にて水田あり。農業行はれて米麥を主産し、葉煙草の栽培も行はる。古來、眞岡木綿の産地として名高く、製糸業も盛なり。商業も盛にて郡内の一中心をなす。縣道よく發達し、主要部落はその集合點たる東部に發達す。省線眞岡線は東部を東北に走り眞岡驛(明治四十五年設置)を置く。古くは和名抄、芳賀郡芳賀郷の地にて、宇都宮の舊黨芳賀氏の舊邑とす。慶長年中に芳賀氏の宇都宮氏と共に亡ぶや、幕府の地に代官を置き眞岡代官所と稱したり。戊辰の兵亂に代官山内源七郎、江戸脱走の兵に黨せし嫌疑をうけて官軍に殺さる。近世、郡の首邑にして郡役所を置かれたり。幕末の勤王家横田藤太郎(贈從五位)、同藤三郎(贈從五位)、同藤四郎(贈正五位)、小山藤三郎(贈從五位)、同藤五郎(贈正五位)は共に此地の人とす。(芳賀城)大字御前に城址あり。文治年中芳賀高親始めて築く。天正五年芳賀高嶽の時、眞岡の臺に移す。大字城田と稱する地なり。慶長二年、兄國綱の養子の事に因りて内亂を生ず。秀吉爲に其封を没し城臺に廢す。(大商神社)大字東郷に鎮座。祭神、大己貴命。土俗相傳へてこの地は祭神の靈跡なりといひ、神護景雲年中に社殿の再建ありしと傳ふ。往古より附近三十三郡の總領守にして、城主芳賀氏の尊崇厚かりき。寛永

年間當主稻葉正成の再建あり、また徳川家光より朱印地八石の寄進ありき。例祭十一月九日、同月十日。

**モリキ** 舞木 省線磐城東線の一驛(大正三年設置)。福島縣田村郡腰江村上舞木にあり。

**モリコツ** 孟骨群島 島嶼(朝鮮)。

**モリサン** 孟山 朝鮮平安南道二府十四郡の一。道の東北部に位し、北は寧遠郡、西は徳川郡、西南は順川郡、南は陽徳、成川の二郡に接し、東は咸鏡南道水興郡と界す。東北—西南に長く六〇餘軒、幅は平均約二〇軒、面積一、一〇一方軒。東部に北大峰山脈南北に走り、道界に屏風山(五四九米)、鐵虎山(二〇九五米)等聳え、支脈西北境と東南境に達して北境には藥苔山(九七三米)等あるも、漸次西南に向つて低夷し、中部及び南部には稍々廣き臺地横はる。北部及び東部の諸水は聚りて文音江・東面江・孟山川等となり、合して馬津江となり大同江に注ぎ、本流は徳川郡を流れて後、郡の西境に現はれ之に沿ふこと約六軒にして西流に轉ず。また東南部には海流江發して南流す。之等流域に狭長なる平地ひろくも、水田は九千ヘクタール餘に過ぎず、住民は多く畑作農業に従事す。産物は粟・玉蜀黍等の穀類を第一とし、大小豆・米・麥・蕎麥・大麻・楮・繭等あり。中北部を平

壤・光山間道路は東西に走り、途中に於て徳川・寧遠に至る道路を岐ち、之等の路線にバス通ずるも、交通不便して不便なり。行政上、八箇面に分ち、郡廳を孟山面に置く。全人口四・五萬人、一方軒密度四一人に過ぎず。本郡は高麗時代の鐵器産にして、顯宗王の十年に孟州と改め、李朝初期に鐵城縣となる。のち今の徳川郡と合併し孟徳縣となりし事あり、幾許もなく徳川郡を分割して孟山縣となし、明治二十八年の改革に郡と改め、以て今日に至る。

【孟山面】朝鮮平安南道孟山郡のほぼ中央。東は東面、東南は光山、北は智徳面、西は玉泉面に接し、西北は徳川郡城陽面と界す。南北一六軒餘、東西は平均六軒あり。四面は山を繞らし東境に伏虎徳山(八二七米)、南境に鐵山(九五六米)、北部に彌勒山(八二六米)あり、城内の諸水は聚りて孟山江となりて北流し、流域に狭長なる平地ひろく、畑作農業を主とし、粟・玉蜀黍・麥・大小豆・煙草・繭等を産す。平壤より寧遠方面に通ずる二等道路沿ひに走りバスの便あり。主邑孟山は孟山江下流に臨み、郡廳・平壤地方法院出張所・金融組合・煙草特作組合等あり。その北部なる堂浦里にはマンシエウクロマツの見事なる樹林あり、天然記念物に指定せらる。

**モータ** 望多 陸奥國(磐城、宮城縣)の古地名。和名抄に日理郡望多郡



見ゆ。上國の望多郷の移民の居りし處。其地いま評かならざるも互理部の南部なる坂元・山下二村の邊か。

**モータ** 望陀(郡)は、上總國(千葉縣)の古郡名。郡の起りは成務天皇朝に置かれし馬來田國(國造本紀)にして、横紀、天武天皇壬申紀には馬來田、十一年紀には望多に作り、萬葉集には望陀郡と見ゆ。延喜式に望多郡馬五疋とあり。和名抄は米字多と註し、時治、表可、會戸、飯宮・勢田・河曲・鹿津の七郷を管す。鎌倉時代には分ちて望東、望西二郡とす(東鑑・源平盛衰記)。近世に至り時勢郡を併す。明治三十年四月に望陀・周准・天羽三郡を併せて時勢郡を建て今日に至る。

**モータチヨリ** 孟中里(朝鮮) 朝鮮總督府鐵道京義本線の一驛(大正三年設置)にして博川線の接続點、平安北道博川郡博川にあり。

**モード** 孟洞面(朝鮮) 朝鮮忠清北道陰城郡の西部。陰城面に西隣し、西南は慎川郡徳山面・草坪面に接す。東西約六軒、南北約八軒。東部に小谷嶺山、三十四百メートルの高度にて南北に走り、途中東南に沿ふ二百三十メートルの支脈を出すを以て、東半部は山勢ちなれど、西半部は比高三十五〇メートルの丘陵起伏するのみにて、之を流注する栗川上支の流域に田畑ひらく。また東郡山中には草坪川の一支發す。米・黍・豆・粟・棉花・烟草・蕎麥等を産す。西北境に沿うて椶川・長淵院間の

道路通じバスの便あり。  
**モーフ** 猛扶山 朝鮮の北部、鳳鳴嶺山脈中の一峯。平安北道江界郡千北面と咸鏡南道長津郡郡内面に跨り、標高二、二四米。

**モライ** 望來(朝鮮) 北海道石狩支庁厚田郡にありし村。明治四十年に厚田村と合し新たに厚田村を建てつ。

**モイチ** 茂市村 岩手縣陸中郡下閉伊郡の南部。宮古町の西方約一四軒。北山土地の東斜面に属し、西南境には彌々子(一〇一〇米)、蘆平(一〇一二米)、加呂(九七〇米)等を、北方に傾斜し、西境には前刈山(九一四米)を、東方に傾斜す。西北境は海拔八五四米、東北境は海拔七三三米あり、全村概して山地をなし、閉伊川は村の中部を東方に貫流し、沿岸に耕地あり。村の生業は農業を主とし、ついで林業行はる。黍・大豆・神・米・木炭を産す。道路は村の中部を東西に通じ、宮古町へはバスの便あり。省線山田線(陸奥)・茂市・暮日の三驛(何れも昭和九年設置)を置く。古く閉伊街道の一小驛とす。閉伊の一族に茂氏あり、蓋しこの地の人とす。

**モイウ** 藻岩山(朝鮮) 北海道石狩支庁札幌郡にありし村。昭和十三年に圓山町と改稱す。

**モカケ** 裳掛村 岡山縣備前國邑久郡の東北海岸。東南は瀬戸内海に面し、片上灘に左岸の地を占む。北は鶴山村、

西は玉津村に接す。面積二・三・三八平方町。地形東西に延び北部を東西に亘る山脈あり、村内概ね山地なるも、海岸に平地あり。耕地は山麓より平地に掛けて拓け、米・黍・粟・粟・薄等を生産す。海岸線は出入に富み、陸路多し、絶地をなす。是明港は天然の良港をなし、近隣に舟運の便多し。陸上は上道郡西大寺町に自動車の便を有す。大字虫明は前方に長島を控へ、その左に薄島横はり、その兩島相逼りて潮流甚だ急なり、その瀨を虫明の瀬戸とも裳掛の瀬戸ともいふ。裳掛なる村名は伝衣物語に飛鳥井姫が虫明の追門に身を投ぜし故事に依るといふ。「ながれ」も漁業あるとや身を投て虫明の追門にまこころみむ」とは姫の辭世なりといふ。長島は上古牧場のありしところにして、延喜式に「備前國長島用牛牧」と見え、今は國立顯慶堂所長島愛生園あるを以て知らる。

**モガサキ** 茂ヶ崎 宮城縣名取郡にありし村。大正四年に長町と改稱せしが昭和三年に仙遊市に編入す。

**モガミ** 最上 山形縣下を略全流する河川。上流に於ては米澤盆地(置賜盆地)、中流に於ては山形盆地(村山盆地)および新庄盆地、下流に於ては庄内平野を潤す。米澤盆地附近に於ては、會津との境をなす南邊山地より大樽川・小樽川として流れ、坂谷峠方面は羽黒川、萬世大路方面にて往昔の流域にあらず。

【最上川】 山形縣東村山郡にありし村。明治三十一年に長崎町と改稱す。

【最上】 出羽國(羽前、山形縣)の古地名。和名抄に最上郡最上郡見ゆ。最上郡家の所在地なり。この地はまた延喜長官省式に見ゆる最上郡の地にして、藤原十疋・傳馬五疋を置く。いま南村山郡瀬山村・東澤村の邊をいふ。

【最上高地】 最上川(山形縣) 省線羽越本線の貨物驛(大正四年設置)。山形縣酒田市船場町にあり。

**モギガワ** 最上川(山形縣) 省線羽越本線の貨物驛(大正四年設置)より分岐して部の南部を東方に向ふ。省線奥羽本線は中部を南北に通じ、北より及位・釜淵・眞室川・羽前豊里・泉田・新庄・舟形等の驛あり。新庄驛より西方に陸羽西線、東方に陸羽東線分岐す。續紀、和銅五年紀に陸奥國の最上・置賜二郡を割きて出羽國に隸せしむと見ゆ。平安時代に至り仁和二年に最上郡を分ちて最上・村山の二郡とす。延喜式に最上傳馬五疋とあり。和名抄は毛加美と註し郡可・山方・最上・芳賀・阿蘇・八木・山邊・福間の八郷を管す。室町時代に至りて足利義隆はその族衆を出羽管領とし最上に居らしむ。これを最上氏とす。この時、最上・村山二郡を併せしが文祿年間に至り村山郡復活す。併しその北隅に於て漸に最上郡を假せるもの

浸蝕進まず、小谷地を作る事少し。また山地は直ちに海岸に臨むも灘澳少く良港地を缺く。野母・後村の半島は、沈降海岸特有の耕地を缺き、全域急傾を以て終始するも、此等急斜面も山頂近くまで耕され、有名な茂木枇杷の栽培地となる。其の栽培は本町を主とし、海岸の東または南に面する傾斜地に於て、その栽培反別約二百町歩に近く年額數十萬圓に及ぶ。採取後は長崎に運び同地より日本各地は勿論、鮮・滿・支方面へも送らる。果實の大なる事と美味なるを以て其の名聲内外に高し。町の中心長湫池は三方山に地を圍繞せられ南東に開く、自然の良地、棧橋等の設備も整ひ、島原・天草方面への發着地となり、此等の地と長崎との取引貨物の吞吐港たり。右方小丘に湖見崎あり、展望長く波濤を隔てて天草諸島・島原半島を望み風光に富む。長崎・雲仙觀光の一通路にも富む。また沿岸の漁舟の中心地にして其の取引あり。大正八年に町制を布く。

**モク** 木面 朝鮮忠清南道青陽郡の東端。郡邑青陽の東約一五軒、公州邑の西約一〇軒に在り。南北に長く約八軒、幅は四軒前後なり。北部に二―三百メートルの山地ありて覆嶺山(三七一米)を、西境には鳳凰山(二二一米)あり。南部にも青陽面との境に雲鳳山(三〇六米)の屹立する外、百米臺の丘陵各所に起伏す。錦江は公州郡との境を東北―西南に流れ、數城

は天王川、二井宿峠方面は和田川、宮内町方面は吉野川、小松町方面は犬川等が盆地床に向つて流下し松川となりて長津津方面に向ふ。長津津の南方に於ては字津村方面より白川を合せ、最上川の北方に於ては野川を合せ、最上川の名を得て荒砥町より米澤盆地と村山盆地との境界山地に於て、峽流をなして宮宿を経て左澤町に出づ。山形盆地に於ては上ノ山町方面より來る須川、月山の南谷より來る寒河江川、關東峠方面より來る白水川、新庄盆地より來る丹生川等を合せ、新分水界より發し、金山峠方面より來る宮川、藏王山より發する藏王川、管谷峠・山形方面より來る白川(見尾澤川)、二口峠、天童方面より來る谷川、天童町方面より來る會津川を合流するものにて山形盆地の南半を流域とす。新庄盆地内に於ては陸前との國境の雄勝峠方面より來る小國川、羽後との國境の雄勝峠方面より來る小國川を合せて、古くより出羽丘陵に先行性の峽谷をなして清川に至り、庄内平野に出づ。其間、北岸に浸蝕壁に白糸瀧がかけり、清川に於ては南より來る立谷澤川が合流す。新庄町を流るる形用川は鮭川に合流す。庄内平野に於ては月山方面より鶴岡市を経て來る赤川を合せて酒田に於て海に注ぐ。南北に長き盆地より東西の峽谷を穿ち、海岸平野に流出する點はこの流域の北に隔る雄物川と相似形な

り。この河は富士川・珠磨川と共に日本三急流の一つと数へらるるも、他の兩河に比すればさほど急ならず。されど山國の川として急激を持つ。鐵道開通前これ等諸盆地の人及び物資の交通運輸は、この河の水運に依りしものなり。清川・古口・本合海(新庄の門戸)・大石田・寺津(山形の門戸)・長崎(同上)・左澤等は河港として知られ、左澤より上流は小型の船にて荒砥・長井を経て鶴野目まで運ぶことを得。今は大石田までの下流が利用される程度に過ぎず。上流に米澤、中流に山形・新庄、下流に酒田等の中心地あり。流域二二六軒。

【最上郡】 山形縣十一郡の一。羽前國の北部。北は秋田縣、東は岩手縣、南は北村山郡・西村山郡、西は東田川郡・能海郡に隣接す。面積一八〇四・二一方軒。西境は出羽丘陵に屬し、北より二ツ山(九三七米)・神慶山(八八七米)・大森山(七八一米)・板敷山(六三〇米)・赤砂山(一〇一五米)等連りて東方に傾斜し、東境は奥羽山脈に屬し、北より軍澤山(一一九四米)・大嶺山(一一二〇米)・小嶺山(一一二六米)・小嶺山(一〇五六米)・奥羽山(七六六米)等連りて西方に傾斜す。北境には前二山脈を繋ぎて西北より東南に丁懸(一一四六米)・大森山(一〇七八米)・黒森(一〇五八米)・水晶森(一〇九七米)・神室山(一三六六米)等連りて南方に傾斜す。西南境には葦草森山(一〇二七米)・

モカミ—モク

【最上川】 山形縣下を略全流する河川。上流に於ては米澤盆地(置賜盆地)、中流に於ては山形盆地(村山盆地)および新庄盆地、下流に於ては庄内平野を潤す。米澤盆地附近に於ては、會津との境をなす南邊山地より大樽川・小樽川として流れ、坂谷峠方面は羽黒川、萬世大路方面にて往昔の流域にあらず。

【最上川】 山形縣東村山郡にありし村。明治三十一年に長崎町と改稱す。

【最上】 出羽國(羽前、山形縣)の古地名。和名抄に最上郡最上郡見ゆ。最上郡家の所在地なり。この地はまた延喜長官省式に見ゆる最上郡の地にして、藤原十疋・傳馬五疋を置く。いま南村山郡瀬山村・東澤村の邊をいふ。

【最上高地】 最上川(山形縣) 省線羽越本線の貨物驛(大正四年設置)。山形縣酒田市船場町にあり。

**モギガワ** 最上川(山形縣) 省線羽越本線の貨物驛(大正四年設置)より分岐して部の南部を東方に向ふ。省線奥羽本線は中部を南北に通じ、北より及位・釜淵・眞室川・羽前豊里・泉田・新庄・舟形等の驛あり。新庄驛より西方に陸羽西線、東方に陸羽東線分岐す。續紀、和銅五年紀に陸奥國の最上・置賜二郡を割きて出羽國に隸せしむと見ゆ。平安時代に至り仁和二年に最上郡を分ちて最上・村山の二郡とす。延喜式に最上傳馬五疋とあり。和名抄は毛加美と註し郡可・山方・最上・芳賀・阿蘇・八木・山邊・福間の八郷を管す。室町時代に至りて足利義隆はその族衆を出羽管領とし最上に居らしむ。これを最上氏とす。この時、最上・村山二郡を併せしが文祿年間に至り村山郡復活す。併しその北隅に於て漸に最上郡を假せるもの

浸蝕進まず、小谷地を作る事少し。また山地は直ちに海岸に臨むも灘澳少く良港地を缺く。野母・後村の半島は、沈降海岸特有の耕地を缺き、全域急傾を以て終始するも、此等急斜面も山頂近くまで耕され、有名な茂木枇杷の栽培地となる。其の栽培は本町を主とし、海岸の東または南に面する傾斜地に於て、その栽培反別約二百町歩に近く年額數十萬圓に及ぶ。採取後は長崎に運び同地より日本各地は勿論、鮮・滿・支方面へも送らる。果實の大なる事と美味なるを以て其の名聲内外に高し。町の中心長湫池は三方山に地を圍繞せられ南東に開く、自然の良地、棧橋等の設備も整ひ、島原・天草方面への發着地となり、此等の地と長崎との取引貨物の吞吐港たり。右方小丘に湖見崎あり、展望長く波濤を隔てて天草諸島・島原半島を望み風光に富む。長崎・雲仙觀光の一通路にも富む。また沿岸の漁舟の中心地にして其の取引あり。大正八年に町制を布く。

**モク** 木面 朝鮮忠清南道青陽郡の東端。郡邑青陽の東約一五軒、公州邑の西約一〇軒に在り。南北に長く約八軒、幅は四軒前後なり。北部に二―三百メートルの山地ありて覆嶺山(三七一米)を、西境には鳳凰山(二二一米)あり。南部にも青陽面との境に雲鳳山(三〇六米)の屹立する外、百米臺の丘陵各所に起伏す。錦江は公州郡との境を東北―西南に流れ、數城



モクサン

川その他の支流を穿れ、流域にやや廣き平地ありて田畑開く。米・麥・大豆・棉花・麻・莞草・煙草・金等を産す。鶏鳳山頂に豆陵城址あり、主邑池谷里はその南斜面に發達す。郡邑青陽より來る道路ここを過ぎ東北走して公州邑に達しバスの便あり。

モクサン

木山炭礦 臺灣臺北州にある石炭山。鐵區は基隆市と基隆郡七堵庄に跨る。坑三ありて各々木山一坑・木山二坑・木山三坑と稱せらる。基隆炭礦會社の發行に係り、昭和十年の産額は三、七七四萬餘圓(價格三萬餘圓)なり。

モクセン

木川面 朝鮮忠清南道天安郡の中部。天安邑に東隣し、南は興陵郡全義面と界す。南北に長く約一五軒、幅は五―六軒あり。車嶺山脈域内を南北に走り、北境に碧居山(五七九米)、西境に大觀峰(四二四米)、東境に栖禽峰(四七七米)、南境には高麗山(三〇五米)聳え、中北部には黒城山(五一九米)屹立す。美湖川上支なる山方川、升天川等いづれも南流し、沿岸に平地の見るべきものあり。米・大豆・棉花等の農産ある外、金銀の鐵産あり。西南部に一等道路南北に通じ、これより分れて鐵川へ至る道路は中部を東西に貫き、何れもバスの便あり。主邑木川里は黒城山の東麓、山方川左岸に位置す。大正三年まで木川郡廳のありし地に於て、附近に文廟・普門寺等あり。

モクテン

木田面 朝鮮江原道平康

莫谷

十三年度設置あり。

モサン 茂山

【茂山郡】朝鮮咸鏡北道の西部。道管内二府十一郡の一。東は會寧・富寧・鐵城の各郡に、南は吉州郡に接し、西南は咸鏡南道甲山郡と界し、北は國門江を距て滿洲國開通省和龍縣・安圖縣に對す。小長白山脈、摩天嶺山脈及び國門江に圍まれたる三角形をなし、面積六一六五方軒、一部を以て全道の三割強の面積を占め英城縣より東きこと七四方軒なり。東部に小長白山脈東北―西南の方向に走り坤峰山(一九二七米)、觀嶺(一七二二米)、渡正山(二二〇一米)、冠嶺峰(二五四一米)、机山峰(二二七七米)、史峰(二二三五米)、雪嶺・觀床峰(二二二二米)、掛上峰等聳え、その冠嶺峰を中心とする連峰は朝鮮アルプスと稱せられ世に著はる。西境北端には白頭山(二七四四米)嶺然天を衝き摩天嶺山脈これに發して西境を劃し大鵬嶺・開白山、小白山・虛項嶺、北龍胎山(二二八九米)、白沙峰(二〇五七米)、崔哥嶺・阿武山(一八〇三米)、黃峰・白沙峰(二〇九九米)、雪嶺峰(一八三六米)、高頭山(一九八八米)等を境界に連ね、南境に茂山峰(一七〇一米)あり。また小長白山脈は東北境に沿ひ支脈を出し車輪嶺(九一四米)、車輪峰(二五五九米)を起し、以南の支脈にては劍徳山、雪嶺・太平山等著はる。斯くて城内哈ど山地をなし、南部・西部には廣き熔岩臺

鐵行中のものは南山嶺・鐵馬山一號鐵の二條にて、何れも礮化帯にして自然金を伴ふことあり。昭和八年の開坑にて同十年には金二五、八七六瓦、銀一九、一四四瓦(この總價額八萬餘圓)を産出し重要鐵山に列す。「利仁金山」木洞面にある金山。東洋拓殖會社の發行にて昭和十年には金六、二六二瓦、銀六、〇一五、金銀鐵二二六萬圓(この總價額五萬五千餘圓)を産出す。現に重要鐵山たり。

モクトク

木徳島 鐵嶺面(朝鮮)

モクロー

木郎村 石川縣能登國珠洲郡の東南部。西南は鳳至郡宇出津町に接し、東は富山灣に臨む。北・西・南の三境には一五〇―二〇〇米の山脈嶺峯として東に傾斜し、村内は概ね丘陵性山地を成す。たゞ東岸中央に低地ありて耕地と墾殖發達す。西部山地に發する二小流は何れも此低地を灌漑して、西流し海に注ぐ。主産業は農に於て米・蕎麥を主産し、漁業もたは行はる。赤崎は東岸中央より斗出してその兩側に小灣を形成す。北側の松波港は稍々良港にして定期船の發着あり。鐵道は北方飯田町より來り、一は南方小木村に、一は西北方宇出津町方面に通じバスの便あり。中世は地名に呼ばれたり。明治四十年宮崎・木郎・松波の三村を合して本村を建つ。

モコト

藻琴 北海道網走支廳網走郡にありし村。大正四年網走町に合併す。いま網走町に省線網走線の藻琴驛(大正

郡の西部。郡邑平康の西北約一五軒、西は伊川郡龍浦面と界す。東西約一五軒、南北一〇軒前後あり。四圍は山を繞らし東北境に箕岩山・青龍山(八四九米)・梨山(九二二米)・凡北山、南境に福辰山(八六六米)・廣岩山・鳥徳山(八八二米)、西北境に甘香峰(七一七米)等聳え、城内に餘曠延び、殊に東南半部は臺地性地貌を呈す。古味春川は北部を西に流れ、南部山地に發する諸水これに注ぐも、沿岸平地に乏し。麥・豆・雜穀・棉花・大麻等を産す。谷滑ひに里道通ずるも交通不便なり。青龍山は山水の勝れしを以て開え、黒金剛、又は小金剛の名あり。

モクド

木洞面 朝鮮忠清南道公州郡の西南部。北は公州邑のある州外面に接す。東西六一八軒、南北八一九軒。東・南・西の三面は二―三百米の山を以て圍まれ、西境に箕岩山(二七六米)あり、餘肢域内に丘陵を起伏せしむ。西北境を錦江北―西南に流れ、南部山地に發して中部を北流する支流々域にやや廣き平地ひろく。耕地は丘陵斜面にも頗るよく發達し、米・麥・豆・雜穀・棉花等を産す。また金銀・砂金等の鐵産多し。公州邑より來る道路中部を西南走し、主邑利仁を過ぎて扶餘邑に達しバスの便あり。(香浦嶺山)木洞面にある金山。鐵區の地質は雲母片岩と花崗片麻岩より成り、鐵床は發着を母岩とする合金石英脈にして、既知の鐵脈は六條あり。現在

地境は、國門江は白頭山に發して北境を限り、南部に發する西頭水の長支を始め、小長瀨水・延流水・城川水等何れも之に合し、流域一帯はテウセンカラマツ・テウセンマツ・タウヒ・モミ其他の針葉樹の樹海をなす。耕地は延流水流域その他に稍々拓け、大麥・燕麥・豆・粟・米・馬鈴薯・大麻等の農産あるも、郡の主要資源は五〇萬ヘクタールに餘る林野にして、殆ど國有林に屬し、西頭水流域を中心として盛に伐採し、役に組み又は森林鐵道により搬出せらる。また東北部の茂山・永北東の各面に跨りて鐵鐵嶺の埋藏多く、三菱鐵業により採行せらる。工業には織物・酒類・澱粉等あり。北部に社線成北通じ車輪嶺を跨え、新站・珍貨・茂山鐵山の諸驛を経て茂山邑に達し、西部森林地帯には森林鐵道白茂線通じて資源開發に當る。また北部に會寧・惠山嶺間二等道路は國門江に沿ひて走り、茂山邑より東方富寧方面、南方吉州方面へも各二等道路を出し、茂山・新站、新站、延社、茂山・三上洞等にバス通ず。行政上、十箇面に分ち、郡廳を茂山面に置く。人口約六、六萬人、一方軒密度一人に過ぎず、されど大正十四年の三・九萬人、昭和五年の五・〇萬人に比し著しき増加にして、これ北鮮開拓事業に茂山鐵道開通事業の進歩に伴ふ他地方よりの轉入者逐年多きを加ふるによる。本郡は李朝世宗の頃までは女眞族の勢力範圍

モサン

にして、世宗の時、いま富寧郡古茂山に鎮を設けしを以て富寧の遺稱とし、のち女眞族の撤退に伴ひ、鎮を進めて慶茂山に之を置き、邊境防備に當らしむ。女眞族の勢漸く衰ふるに及び國門江以南の地を討略し、顯宗に至り鎮を三峰坪に進めて茂山と號す。のち鎮を龍潭府と改め、李太王の改革により府を郡に改め今日に及ぶ。

その一部は鐵道によりて清津港その他へ搬出さる。郡廳・普林署・守備隊・地方法院出張所・金融組合等あり。

モジ

文字村 宮城縣陸前國原郡の西北部。岩ヶ崎町の西方約一〇軒。面積八五・三一方軒。奥羽山脈の東斜面に屬し、西北境に大地嶽(一五五米)聳え、それより東南に村の中部を揚石山(八六九米)、鈴ヶ森(五二八米)、楳ヶ森(六一六米)等連り、北境には日影森(五一〇米)、南境には大土ヶ森山(五八〇米)聳ゆ。全村概ね山地をなし、二道川は西北部に發源し、村の北部を東南に流れ、沿岸に耕地拓く。米・麥・蕎麥・木炭を産す。

社線原軌道岩ヶ崎驛へは東方約一〇軒あり。人口密度は一方軒につき二四人あり。(細倉鐵山)鐵區は富村と登津村とに跨る。鐵種は金銀銅鉛鋅鉛安質母尾硫磺。三菱鐵業會社の發行に係り、昭和十年の産額は銀一、六二九兩、銅鉛二、三〇六、二四三兩、カドミウム三、二二六兩、銅銀九、三九九兩、亞鉛五九、九〇二兩(この總價額一三〇萬餘圓)にして現に重要鐵山に列す。なほ同鐵山の鐵床数は十年六月末現在にて六六八人なり。

莫谷

九州第一の港市。福岡縣の北東端、企救半島の北部より西岸の地を占め、北東は別府灣に面し、北西は關門(下關)或は赤間關(海峽)を隔て、下關市と相對し、西南は小倉市に、東南は企救郡松ヶ江村に隣接す。東西八軒餘、南北約九軒、面積四・七方軒を有す。牛島の春築をなす山嶺により東西の二斜面に分かれ、西斜面の北端には門司ヶ崎突出し、關門海峽中の最狭部早瀬瀬戸を扼し最短距離は僅に五四五米に迫る。市街は主としてその南方より西岸に沿ひて發達す。古くは文字ヶ關といひ太宰府に往來する行旅の警戒に備へし處なりしが中世以降防備の制は廢れ、對岸との交通は寧ろ南方の大里・小倉の方面にて行はるるに至れり。明治初年頃には寂莫たる一漁村たりしが明治二十一年九州鐵道會社起り、博多・久留米方面との交通並に筑豊炭田産出の石炭輸送を目的とし、起點



モシチーモシカ

をこゝに定めしより俄然發展の機運に會し、翌年炭の特別輸出港となり、同二十七年門司町と改稱、同三十二年市制を布き、大正十二年には大里町を、昭和四年には東郷村を編入し現在の市域を擁するに至れり。門司港は門司ヶ崎より西南白木崎の沖を經て南方一番橋川口邊に至る市の西北部海面にして、東の瀬戸内海と西の玄界灘を連ぬる海峡の中央部に當り潮流極めて激しく、大潮時約一

貿易額(昭和十年)單位千圓
輸出 62,754
輸入 89,363
計 152,117
外國 360,059
内國 422,813
計 782,872

五軒の時運を示し、且つ海峡中には所々に暗礁淺瀬ありて、航行船舶共に困難なり。されど西日本の門戸たる地の利を占め、また大正八年以降昭和六年に至る前後十三年の日子と五百有餘萬圓の工費を投じて修築せる岸壁は數集の一萬噸級航洋巨船を同時に繋留することを得るため、貿易港としては世界的地位を獲得し、出入船舶數の多き點にて我國諸港中の第一に位す。貿易もまた盛にして外國貿易は明治三十二年には僅に七〇〇萬圓未滿なりしに昭和八年には一億圓を、同十年には一億五千萬圓を突破し

工業産額(昭和十年)單位千圓
工業 94,900
製糖 277
製粉 9,953
製油 5,683
製紙 9,360
製材 6,000
製炭 434
製鉄 6,601
製鋼 54,407
製食料 2,186

十年の工業産額は九、五〇〇萬圓に近く、生

産品はセメント・置物等、輸入品は綿織・織及び織織を主要品とす。これに内國諸港との貿易額を加算すれば總貿易額は内外への輸出、内外國汽船燃料を合して一年一〇〇萬噸以上を輸出す。貿易額に於ては神戸・大阪・横濱に次ぎ我國第四位の貿易港たり。開港としての外、九州より本州及び朝鮮・滿洲・支那方面との交通上の咽喉に當り、對岸下關との間に於ては省線山陽本線及び關釜連絡に接続す。市内には省線鹿兒島本線の起點門司驛(明治二十四年開業)をはじめ、高峯驛(昭和五年開業)・門司港(昭和八年開業)・大里驛(明治二十四年開業)あり。社線九州電氣軌道また市の北部に起りて鹿兒島本線と時並走し、西南に連接する小倉・戸畑・八幡等の工業市を過ぎて遠賀郡折尾町に至る。かく海外よりする原料品の輸入と附近に於ける石炭の産出及び交通上の便宜は市の工業を勃興せしめ、昭和

産總額の九九%を占む。工業品中最も主要なるものはビール及び酒類(二七五〇萬圓)・砂糖(一六〇〇萬圓)・小麦粉(九四四萬圓)・セメント(六一〇萬圓)・電線(四〇〇萬圓)等なり。市内に置かるる主なる官公衙には市役所・鐵道局・運輸事務所・税關・國本通信局海軍部・地方海軍審判所・陸軍運輸部出張所・福岡地方專賣局出張所等あり、また主要工場には淺野セメント・淺野スレート・日本治金・神戸製鋼所伸縮工場・日本製粉・大日本製糖・全聯製糖・會社には山九運輸・日本郵船・大阪商船・合同運送・國際通運・三井物産・三菱商事・東洋倉庫・三菱倉庫等の本支店あり。また社寺・古蹟・名勝には甲宗八幡宮・和布刈神社・西別院・柳の御所・風船山・門司關所・清瀨公園等を數ふべし。(柳の御所)大里町上柳にあり。一に貨船の森といふ。源平時代安徳天皇の平氏に擁せられて暫し御駐蹕せられたれし地と傳へ世人この地を柳の内裏とよびしが何時しか大裏村といひ後に大里と改まりしといふ。(門司城)和布刈神社背後の丘陵古城山にありし。元暦二年平氏九州を御へんとして紀伊通使に築かしむ。室町時代、大内氏臣仁保常陸守當城に據りて豊後の大友氏に對峙せし事あり。慶長三年黒田孝高入關し長門助解由を城代となせしが元和三年徳川氏の命にて廢す。

六八

「門司關所」舊門司の元陸軍兵器製造所構内にあり。約八方米の敷石の中央に楕圓形の小池あり、昔は清水湧出せしと。この邊は中國に渡る最短距離に位し、大宰府關を設けて行旅の人員を檢閲し、船舶を警成すといふ。(清瀨公園)三角山麓にあり。溪流あり池あり、花卉栽培せられ、また關門の山水を指顧し得べし。(風船山)市の中部東側、門司驛の西南約二・五軒。海拔五百米、山上巨岩ありて笠を懸せるが如きよりその名出づ。神功皇后三韓征伐の時この山頂にて海上平安を祈願あらせられたりと傳ふ。山上の展望は關門第一の地なり。(甲宗八幡宮)市の北部筆立山麓に鎮座。神社。神功皇后三韓征伐の時御の甲を神體とせりより社名出づ。城内高嶺、社殿壯麗、港内を俯瞰し眺望に當む。(和布刈神社)古城山北麓に鎮座。神社。祭神彦火火出見尊その他、早瀬瀬戸に臨みて對岸の壇ノ浦に對し、渦まく潮流の壯觀を俯瞰し得べし。舊曆大晦日の夜に古典の面和布刈神事行はる。背後の古城山の西南の一部は和布刈公園なり。(鎮西別院)大里驛の南方二軒にあり。西本願寺の九州別院。境内廣く大里の松原を隔て、警濠を望み警濠の地たり。櫻樹多く別院の標として高し。

モジガセキ 文字關 福岡縣企救郡にありし村。明治二十七年に門司町と改稱し、同三十二年に市制施行す。

モジチクコ

門司築港 門司市にあり。鹿兒島本線外濱驛より分岐し、門家大久保驛に至る一、五軒の貨物専用線。省線と連帶運輸し動力は蒸氣、軌間は一、〇六七米。

モジミナト

門司港 門司市にあり。朝鮮全羅北道二府十四郡の一。道の東北部に位し、北西は鎮山、西は鎮安、西南は長水の各郡に接し、北は忠清北道水原郡、東北は慶尙北道金泉郡、東南は慶尙南道居昌郡と界す。東西は最大約三〇軒、南北二〇一三〇軒、面積六二九方軒餘あり。人口約五・三萬、一方軒密度八四人にて、道内に於て最も疎なり。東境より東南境に亘り小白山脈連りて北より鎮周之山(二二四二米)・大徳山(二一九〇米)・三峰山(二二五四米)等あり、最高處は一五九四米に達し、以西に支脈縱横に走りて東部に白雲山・居七峰、南部に興徳山・七峰、中部に赤雲山等いづれも一千米以上の峻峰を聳立せしむるも漸次北西に向つて低夷す。東部の諸水は聚りて南大川となり東北境に近く山地間を流入蛇曲流し、西北部に同じくメアンダリーを描く鎮江に合するも、沿岸多くは峡谷をなし、西南部の安城場を中心とする鎮江上支流域の外、平地の見るべきものなし。米・麥・大豆・棉花・烟草・大麻・繭等の農産を主産物となし、また製紙・機械等の工業行はる外、林産や

モシチーモセウ

ヤ多く、農産には金銀・砂金等あり。西北部に鎮安・永同間二等道路通じ、其他に鎮山・長水・金泉・居昌等へ至る道路あり、一部にバスを通ずるも交通未だ便ならず。行政上、六箇面に分ち、郡廳を茂朱面に置く。本郡は往昔の茂豊・朱溪の二縣を合併せしものとす。もと茂豊縣は新羅時代の茂山縣、また朱溪縣は百濟の赤川縣にして、新羅に至り丹川縣に改めしものにて、大承王十四年に合併し茂朱縣となし、次でもと鎮山郡の一部を編入し郡廳府に陞し、高宗の時に茂朱郡と改め、今に至る。

【茂朱面】朝鮮全羅北道茂朱郡の最北部。東は雪川面、南は赤雲面、西南は富南面に隣接し、北西は鎮山郡富利面、東北は忠清北道水原郡と界す。東西約一〇軒、南北一〇一三軒あり。小白山脈の支脈中に位し、北境に白雲山(六三四米)・鴨峙(最高點三一三米)・兩角山等聳え、中部に香爐峰(四二〇米)、南部にも五一六百米の山地あり、概ね峻峻なり。鎮江は西境に極めて特色ある流入蛇曲をなし、城内を東西に貫く南大川を合し、北流す。この沿岸緩かに拓けて田畑あり。茂朱邑は香爐峰の南麓、南大川右岸に立地す。邑を中心として道路網や發達し、北は水原、西北は鎮山、南は長水の各色間にバスの便あり、南大川に沿ひては茂豊場を経て金泉または居昌に至る道路通ず。邑は製紙業の一中心をなし、近時産

業組合の設立を見て新築格段の進展を遂ぐ。其他若干の農産ある外、朱溪金礦より砂金、香金山金礦より金を出す。郡廳、全州地方法院出張所等置かる。邑内中央は江に臨みて寒風樓の勝あり。

モシラホ

藻白帆 樺太真岡郡蘭泊村の大字。西海岸線の藻白帆驛(大正十年設置)を置く。

モシリ

茂尻 北海道石狩國空知郡赤平村の字。空知川の左岸に沿ひ、モシリ(ケシノオマナイ(桂川)南流し來りて、此地にて空知川に注ぐ。省線根室本線の茂尻驛(大正七年設置)あり。モシラはアイヌ語にて鳥の義なるが、この地名は、モシリケシノオマナイ(鳥の下)にある川の義)の下略せられたるものなり。この地名を負うて茂尻炭礦あり、礦區は赤平・青別・歌志内の三箇村に跨りて三〇七萬坪、石狩炭田の北部に位す。(茂尻炭礦)礦區の西部は中生層の上部の白堊紀にして東部は第三紀層なり。炭層は之等夾炭層及び砂岩・頁岩・礫岩・泥灰岩中に介在し、炭質は大體に於て粘結性の濃青炭とす。雄別炭鐵道會社の發行に係り、昭和十年の産額は塊炭三〇、五三二萬噸、粉炭一七三、三七〇萬噸、粗炭三三、六四一萬噸(この總産額一、二八萬餘噸)なり。當礦山は大正七年の開坑にて、現在礦夫一千人を擁し重要礦山に列す。

モズ

百舌島村 大阪府和泉國泉北郡の北部。堺市の南に隣り東は南河内郡に

モズメ

物集め 山城國(京都府)の古地名。日本後紀、弘仁六年の條に乙訓郡物集見ゆ。和名抄に乙訓郡物集郷あり。中世には物集女莊といふ。いま向日町の邊をいふ。同町の大字物集女は地名の遺稱なり。

モセウシ

妹背牛村 北海道石狩國空知支庁雨龍郡の西部。石狩川上流右岸雨龍川の合流地に位し、深川町の西に

高入丸



モタイ—モツホ

接續す。北は秩父別村、南は石狩川を以て空知郡に、西は雨龍川を以て雨龍村に界す。面積四六、四万軒。南は石狩、西は雨龍の二川に開かれたる沖積平野上に位置し地勢極めて平坦。北部に荒蕪低濕なる秩父別原野等存するも一般に土地肥沃耕作に適す。米・蕎麥・玉蜀黍・大豆・小豆・馬鈴薯等の産多し。近時工業も勃興しつつあり。省立函館本線南部を貫き、青牛峠(明治三十一年設置)を設き、また北龍・秩父別(バス)の便を有す。大正十二年に一級町村制を施行す。

モタイ 茂理 信濃國(長野縣)の古地名。和名抄に佐久郡茂理郷見ゆ。承久記に見ゆる。或もまた本郷を稱せしもの。此地は古來牧として著はれ、延喜左馬寮式に見ゆる望月牧も本郷の中なり。この郷城はいま北佐久郡本牧村・青田村・南御牧村・北御牧村の邊に當る。本牧村の大宇茂田井は地名の遺稱の轉、大宇望月は望月牧の名の起れるなり。

モチガセ 用瀬町 鳥取縣因幡國八頭郡の中郡。千代川の中流なる智頭川に沿ひ、智頭町の北方約五軒。北及び東は大村、南は社村に接す。面積四、七四平方軒。四周に山地を繞らせど、中央を智頭川北流し、西方佐治村より支流更に注ぎて、北部に廣き谷を形成す。古來、上述の智頭町と共に作州街道の要驛として發達せり。いま智頭街道河岸に通じ鳥取市

點驛木浦(大正二年設置)あり、これより南へ〇・七軒の貨物線を出し木浦海岸驛(大正二年設置)設けられ、木浦驛より大田(二六〇軒、京城へ四二八軒(約十一時間)にて達し、また京城との間に一等道路を通じ光州・望雲等へバス通す。海運にありては大坂商船・尼崎汽船・朝鮮汽船等の寄港地にして、釜山・麗水・蔚山・仁川・新義州・門司・神戸・長崎・名古屋・大阪・東京を始め青島・上海・大連等に定期航路を有し、また近海の鹽岩・珍島・濟州島・黒山島その他多島海中の諸島に發動機船の便あり、對岸三浦面龍塔里との間は府營の自動車渡船により連絡す。市内には府廳・光州地方法院支廳・稅務署・海軍出張所・無線電信局・郵便所・穀物検査所・稅關支署・專賣局出張所・總督府農事試験場棉作支場・水産試験場・刑務所・務安郡廳等の官公署を始め、商工會議所・米穀取引所・農業倉庫・金融組合・東拓支店・鮮銀支店・殖産支店・福田農事會社・朝鮮棉花會社その他の會社銀行、公立商業學校・高等女學校・府立病院等あり。産業は湖南線の終點にして背後に米・棉花を多産する全南の沃野を控へ、前面に海産豐富なる多島海を擁し、之等物資の吞吐港として取引盛に行はれ、殊に棉花の出廻期には埠頭一帯に棉花の山を築き甚だ盛況を呈す。市内には之等の物資を原料とする絹糸・綿糸・棉實油・蠶絲等の諸工場振出

モツホ—モテキ

あり。また佐治方面にバスの便あり、省線因美線用瀬驛(大正八年設置)を設く。米・蕎麥・木炭・川魚・清酒等を産す。大正七年町村制を布く。村に磐石城址あり、吉野朝の頃は赤松氏の所領、天正年中には豊臣氏は磯部某を置きて守らしむ。

モチコシ 持越

野村大字湯ヶ島の字。此處に持越山(嶺種は金銀)あり、面積一〇五萬餘坪、昭和十年の産額は金三六二、七一五瓦、銀七、五二二、五一〇瓦、金銀鐵三七、六五〇瓦(この總價額二七五萬餘圓)、同年六月末の鑛夫數九九〇人、内地にては有数の金銀山にして、重要嶺山に列す。

モチスキ 望月牧

〔持田村〕 埼玉縣北埼玉郡にありし村。昭和十二年に忍町に編入す。

モチムネ 用宗

靜岡市の町名。省線東海道本線の用宗驛(明治四十二年設置)あり。また佐治方面にバスの便あり、省線因美線用瀬驛(大正八年設置)を設く。米・蕎麥・木炭・川魚・清酒等を産す。大正七年町村制を布く。村に磐石城址あり、吉野朝の頃は赤松氏の所領、天正年中には豊臣氏は磯部某を置きて守らしむ。

モチヨ 茂長面

朝鮮全羅北道高靈郡の中部西南偏。郡邑高靈の西方約一二軒。東西約五軒、南北六軒餘。北境と西境とに二百米臺の山連るも、城内の大部分は五〇—六〇米程度の丘陵地にして、北東部の舟津川支流々域には稍廣き平地あり、また處々に灌溉用溜池ありて、水利の便よく、耕地隨處に發達す。米・蕎麥・大豆・棉花・瓜等の産多し、牧牛また盛なり。中部を高靈・法聖浦を結ぶ道路東北—西南に走り、バスの便あり。中央の茂長里より更に北走して海岸に達する道路その他を出し、交通便利なれ。茂長里は大正三年まで茂長郡廳を置かれし地にて、市街地を構成し、金融組合・市場等あり。

モツカン 木甘面

朝鮮黄海道瑞興郡の西部。瑞興郡の西北に隣り、南は龍坪面、西は鳳山郡山水面、龜淵面と界す。東西五—三軒、南北約一三軒あり。北境に道岩(五九〇米)臺え山肢南に延びて城門山(四八九米)を起し、他の一支は東境に羅岩山(六九一米)等を聳立せしむるも漸次南方に低夷し、其間處々に表地狀地を示す。南境に近く瑞興江に方へ蛇曲流し、北より來る興水川等を容れ、其等の流域にやや廣き平地開く。畑作農業を主とし、小麥・大豆・棉花・麻等を産す。西南隅に主邑興水里あり、之より東へ義州街道走り、興水川の對岸、

モツクイ

鳳山郡龜淵面には京義本線興水驛あり。運部の善社。チャカン溪下流左岸、標高約一〇〇米の地にあり、高砂族の部落にてアタル族のタロコ蕃に屬す。戶數三六、人口二一八(昭和十二年末現在)。

モツホ 木浦府

朝鮮全羅南道の港市。務安半島の西南端に位置し、北は務安郡二老面に接し、東南一帯は榮山江河口に臨みて靈岩郡三湖面、及び二老面に屬する高下島と相對し、西方は多島海に於て以つて外洋に逼す。東南の三島海を含み、東西五軒餘、南北約四軒。面積八、四平方軒。人口約六萬。西南部に儒連山(また龜連山、二二八米)臺え比較的急勾配を以て南は榮山江口、西は海に迫り、附近は岩骨を露はせる丘陵地をなし、その東方海岸平地上に木浦臺(三八八米)、松島公園等の小丘あり。中部以北にも低丘陵所に起伏す。西北部にて頂島より東、東部にて長島より北は埋築されて廣き平地となり畑地ひろく。市街は儒連山の東方傾斜地と海岸平地とに互り稍々南北に長く發達す。平均氣温一三・二度にて釜山又は京都と略々相等し、最高八月三〇・四度、最低一月零下二・二度、其他の氣象要素は降水量年一〇六八耗、降水日數一三〇日、快晴四八日、霧二日、暴風八四日等にして、稍々多濕なるも、概して溫和なり。此地は海陸交通の要地に當る。即ち鐵道湖南本線東部を走りて終

し、生産都市として市況も活氣を呈し、特に棉實油・蠶絲・乾海苔・蔴等は特産物として著はる。昭和十年中の産額は織物三七萬圓、イム乾三二萬圓、製油一三五萬圓(白絞油八五萬圓、棉實油四二萬圓、其他)、粗摺粉六〇八萬圓、綿棉四二二萬圓、製材一八萬圓、酒二八萬圓、雜貨四萬圓にして、なほ織物・織工・造船等の金屬工業、サイダー・總子の製造も盛なり。主要工場には朝鮮棉花、南北棉花、全南棉花、日華製油等あり。水産物は鯛等を第一とし、鰻・鮭・鱈・石首魚・ちぬ等多く、海苔・てんぐさ等の海藻回着高も少からず。農産は棉花を筆頭に蔴菜・米・蕎麥・果實等あり、また畜産には牛皮・牛豚肉・牛骨・牛乳等あり。(貿易)明治三十年開港以來、貿易額は逐年増大し、昭和十一年には輸出三二七四萬圓、輸入一九〇四萬圓に達し、一二七〇萬圓の出超を示す。いま昭和十年年度計數により貿易概況を見るに、輸出は米(雜穀類、三四萬圓)、乾海苔(二萬圓)等を主として四〇萬圓、輸入は蔴(八萬圓)、棉花(一六萬圓)、胡椒(一〇萬圓)、麻布・石炭等を主として七二萬圓にして、取引國は滿洲國を第一とし、關東州・中華民國・北米合衆國等これに次ぐ。移出は米(一九七一萬圓)、棉花(一一五萬圓)、蠶絲(六〇三萬圓)の三者斷然多く、其他、海苔・棉實油・乾海苔・乾えび・蠶絲・牛皮等あり、移

入は大麥及蔴麥(一一三萬圓)、米(五〇萬圓)、小麥粉(五七萬圓)、棉織物(一六〇萬圓)、硫安其他肥料(二二五萬圓)、鐵油・粗織物・石炭・鐵及鐵製品・木材等を主たるものとす。(港灣)明治末年に國費を以て荷揚所護岸、棧橋、上屋を建設したるを始め、大正十五年以降五ヶ年に互り海岸地先に一四〇〇方米の埋立をなし延長百米の護岸を築造し、その前面に浮橋棧橋二基を設けず、港勢機微の發揮に力め、現在國營の浮橋棧橋三、棧橋三、埠頭四を有し、また渡津船を常置して鑛地の水深を零下四・五米に維持す。潮位は最大満潮面四・五五米、最大干潮面零下〇・四五米、平均潮望滿潮面四・〇九米とす。潮流は榮山江流域内に於ては靈岩半島に沿ふこと暫くにして務安半島外に移り、秒速一八米を以て高下島の突角に激突し〇・六米を加速し、次で花潭半島に向ひ流轉し港外に出づるも、鑛地は比較的潮流緩慢にして船舶の投錨容易なり。港内南方の夢河島に木浦燈臺(光達一二四選あり)。(沿革)此地は往昔木浦營と稱し水軍の鎮營を置きし所にて、近海は交際役の古戰場たり、現に木浦臺の岩上に存する殘壘は即ち木浦營の遺址とす。もと羅州牧務安郡に屬せしが、明治二十八年羅州と分立して務安郡に屬し、同三十年十月開港と共に務安府と改め居留地を包含せしも、同四十三年八月木浦府を

置き、もと務安府の十九ヶ面を管せり。のち大正三年三月府郡廢合に際しは現存の境域を以て木浦府となし殘餘は務安郡となし、昭和七年十月務安郡二老面の一部を編入し今日に至る。(儒連山)昔は龜連山として知られ、標高二二八米。登山道路及び展望臺の設備あり。山上よりは港内は勿論、遠く多島海の景勝を一眸に收む。山中に八十八箇所の靈場を建て四時參詣者絶えず、南麓水源地附近は櫻樹多し。その北側に儒仙園あり。山の西南麓は儒連ヶ浦と稱し府營海水浴場なり。(木浦臺)市内中央に屹立せる一大岩石の小丘。木浦鎮の舊跡にて現に岩上に城壁の殘址あり。鎮の長官として萬戶を置き、萬戶廳はその山腹に建てられ、今なほ遺れる瓦葺家屋はその一部なり。(松島公園)市街の東北隅にある小丘。園内には松樹茂り、前面は海を隔てて三島島を望み眺望美に富む。丘上に府民の氏神として祀れる松島神社あり。

モツボカイガン 木浦海岸

浦府

モツリ 沒利島

六連島(山口縣)の古名。

モテキ 茂木町

栃木縣下野國芳賀郡の東部。那珂川の支流遊川に沿ひ、東は茨城縣東茨城郡・西茨城郡と隣す。八溝山脈西斜面の一部を占め、東境は三〇〇米前後の高きあり。遊川は西北部の褶合を東流す。山地一帯は森林多く林産は



モト——モトサ

農産に次ぎて年産五萬圓あり。川沿ひには狭き平地ありて農業行はれ米・蕎麥・粟・麥等を合して年産三十萬圓を越す。その他工業・畜産も多し。特産物としては和紙・和傘・扇・漆器・陶器・和紙・和傘・扇・漆器・陶器・和紙・和傘・扇・漆器・陶器

昭和十二年元徳津津と改稱。モトアラ 元荒川 秩父山地に源を發し、東南の方向に關東平野を流下する川。荒川の舊流路にして、その東方をば迂行して流る。上水は熊谷市の南方に於て發し、鴻ノ巣町の東方を過ぎ見沼代用水を合せて岩槻町に出で、越ヶ谷町・大澤町附近の水田中を流れて吉川附近に於て元利根川に合流す。流程約五五五。モトイ 本井 肥後國(熊本縣)の古地名。高山寺本和名抄に山本郡本井郷見抄。その地はいま玉名郡の花振村より鹿本郡の山内村に互る地を稱する。花振村の大字に用木あり、本井の轉訛なるべし。

山の間の豁谷に源を發し、概ね西南流して太平洋に注ぐ。流路延長約四五軒。河口に元浦川の衆流あり。モトオースカ 本大須賀村 千葉縣下總國香取郡の西部。多古町の北隣にて、西は印旛郡の一部と隣す。全村に於ては農業行はれ米・麥を産し、兼置、兼養も盛にて、藪・藪の産多し。村の北部にて三方に分る、縣道は東北方佐原町、西北方清河町、西南方印旛郡成田町に通じ、佐原町・成田町へはバスの便あり。その他南多古町にも縣道を通ず。古くは和名抄、香取郡香取郷の内なるべし。中世は大須賀庄の内とす。

り。南境は低き丘陵地をなすも、他は中央を東流する入間川流域の平地にて一部は水田、他は畑地をなし、麥・米を産し、兼置盛にて藪の産多し。その他レスの産額大なり。縣道は飯沼町・雙岡町及び東方入間川町に通じ、社線武蔵野線は南部を西走して佛子驛(大正四年設置)・元加治驛(大正七年設置)の二驛を置く。モトカリヤ 元刈谷 愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年に外一町三村と共に廢して刈谷町を建つ。モトクルマユ 元車湯 ↓鳴子町(宮城縣) ↓酒々井町(千葉縣) モトサクラ 本佐倉 ↓酒々井町(千葉縣) モトサヤマ 元狭山村 埼玉縣武蔵國入間郡の南部。雙岡町の西南約四・五軒。南は東京府西多摩郡と隣す。面積五・六五方軒の小村なり。東南部は狭山丘陵の西端をなし、他は平地にて畑地多し。茶の栽培盛にして狭山茶の名著は。その他麥・甘藷米等を産し、兼置も盛にて藪の産多し。また織物業榮え村山耕を産し、清酒の醸造も行はる。縣道は雙岡町及び北岡金子村、南隣東京府西多摩郡箱根ヶ崎村に通じ、省線八高線金子驛・箱根ヶ崎驛に自動車道の便あり。モトサワ 本澤村 山形縣羽前國南村山郡の西部。山形市の西南約六軒。南境に鷹取山(四五九米)、西北境に大森山(三八一米)聳え東北方に傾斜し、西南

中部は丘陵をなすも、東北中部は山形盆地に屬して平坦なり。米・藪を産す。道路は村の中部を西南より東北に通じ、山形市へは自動車道の便あり。省線奥羽本線金井驛へは東方約三軒なり。古くは和名抄、最上郡阿蘇郷の内なるべし。大字長谷堂に長谷堂城址あり。最上氏の將士常にこゝに在りて守備す。慶長五年九月、上杉氏の將直江兼續來り攻む。最上義光を伊達政宗に乞ひ、その兵と共に兼續の軍を拒ぐ。既にして關ヶ原の敗報至るに及び兼續兵を撤す。モトシオミ 元鹽見 鳥取縣岩美郡にありし村。大正六年に志保美村と元鹽美村の區域を以て鹽見村を置く。鹽見村は昭和三年四月に廢せられ福部村となる。モトシゲ 本茂 愛知縣豊饒郡にありし村。明治三十九年外一村と共に廢して一宮村を置く。モトジユク 本宿村 愛知縣三河國額田郡の東南隅。岡崎市の東南方約一〇軒。地は三河山地の中部にありて古生層より成り、南部に京ヶ峯(三六五米)あり。南隣寶飯郡長澤村との境附近は分水嶺をなし、西北へは大平川の支流流る。川の流域は水田多し、山麓には桑畑多し兼置行はる。また三河木綿の産あり。山地よりは石材を出し、複葉母花崗岩を主とし時に岩脈として露はるゝものは文理花崗岩にして、この中には電氣石を含有す。

モトイズミ 本泉村 埼玉縣武蔵國児玉郡の西南部。児玉町の西南方約四軒にて、南は秩父郡と隣す。東境に不動山(五四九米)等の山地連り、西境も亦五〇〇米前後の山地をなし、東西より村内に傾斜し、村の中央はその都合にて身馴川は谷をなして北流す。山地一帯森林多し、林産あり。川沿ひには狭き平地ありて畑地をなし麥・米を産し、兼置行はれて藪の産多し。縣道は川沿ひに走り東北方兒玉町に通じて自動車道の便あり。また南は秩父盆地に、西北に分岐せるものは群馬縣多野郡鬼石町に通ず。衆流はこれ等の縣道に沿ひて發達す。モトウラ 元浦川 北海道日高國の一河川。日高山地南部の神威岳と、春別

モトオカ 元岡村 福岡縣筑前國糸島郡の東北部。前原町の東北に接し東北は今津灣の西隅に臨む。西北部がやや丘陵地をなす外は全村地形低平にして中央を貫きて一河川が北流し今津灣に注ぐ。土地肥沃にして米・麥の産多し。東南部には縣道及び省線氣肥本線が横斷し周船寺驛(大正十四年設置)あり。古くは和名抄、志摩郡川邊郷の内か。モトオリ 本折 石川縣能登郡にありし村。明治四十年に外二村と共に廢して苗代村を建つ。モトカジ 元加治村 埼玉縣武蔵國入間郡の西南部。入間川に沿ひ、飯沼町の東方約三軒、雙岡町の西方約二軒にあり。面積四・七八平方軒の小村なり。

分湖は其の西部にありて、本湖の水位上昇する際は連絡す。東岸は青木原岩流及び三島大宮式岩流の末端にして特殊の狀貌をなし、岩岩は開花狀または鐘狀にして湖岸の凹凸甚だし。本湖は全く排水口なき閉塞盆地の湖なり。湖底は單調にして、五〇米等深線が湖岸と並行す。最大深度は一六六米にて湖の中心より少し南方に寄る。水温は逆列の成層を示し、冬季は普通結水せず。透明度は夏季に於て小にして冬季に於て大なり。即ち夏季は水色靑、透明度一メートルを示すも、冬季は一メートルの濃藍色にして透明度も一七・五米に達す。湖はもと西湖に續きしが、貞觀六年の富士大噴火の際、熔岩流によりて閉塞せられて獨立す。モトス 本巢郡 岐阜縣十八郡の一。美濃國の西部。北は福井縣大野郡に、東は武儀郡・山縣郡・稲葉郡に、西は安八郡・揖斐郡と夫々接す。北境には屏風山を主峯とする屏風山脈が白山より分れて西に連り、その前山には美濃山地が續き何れも古生層より成る山地なり。美濃山地は濃尾平野に陥没せる爲め、南部には埋没りの殘丘が急登する地形を認め得。その南には西濃平野廣く。根尾川は屏風山脈に源を發して南流し、揖斐郡との境をなし兼川と呼ばれ、揖斐川に合流し、山添村より分れて糸貫川をなし長良川に合流す。根尾川はもと山添村より東南へ折れ船木山の北より西郷村・稲葉郡黒野

京ヶ峯には雲母を採掘せしこと文書に見え、明治となり土砂流出するを以て廢す。東南より西北へ分水嶺を越えて舊東海道通り、松並木を殘存す。今は之と並行し名古屋電鐵通じ本宿驛(大正十五年設置)を置く。古くは和名抄の額田郡阿蘇郷の地にて近世まで宿場たり、江戸時代は藤川宿の宿場とす。大字本宿古城には山中城址ありていま土塹を存し、松平權兵衛重弘兄弟之に據り天文十六年酒井正親、石川清隆・大久保忠勝等に攻め落さる。大字大膳には大膳城址あり、三河志田く「古城和田兵衛大夫、城伊庵共天正二年甲州より入置」と、また大字鶴里には鶴里城址あり、淺井新右衛門居城せりと傳へらる。「法藏寺」淨土宗西山派。大寶元年、僧行基の草創にして當時勸願寺となると傳ふ。徳川家康幼時、當山七世教諭に就きて學びしといふ。

モトシラネ 元白根嶺山 群馬縣吾妻郡草津町にある硫黄山。元白根山にあり。嶺區二七、八〇坪。昭和硫黄會社の稼行に係り、昭和十年の試掘に於て六二六噸(價格四萬餘圓)を産出して一躍重要嶺山に列す。同年六月末の鑛夫數四十五人とす。↑白根山

モトシ 本新島 茨城縣常陸國稻敷郡の東部。飯ヶ浦と利根川との中間區域にて水郷をなし、南は利根川、東は利根川を隔て千葉縣香取郡佐原町等と相對す。全村

低地にて南部は水田、北部の飯ヶ浦附近は沼田をなし、米を主産す。飯ヶ浦には鰻・鯉等の水産あり。利根川・横利根川、飯ヶ浦共に水運發達し、また新利根川は西方より來り、村の東部に於て飯ヶ浦に入る。佐原町との間に渡船の便あり。香取郡志に據れば、もとの邊一帶帯々として飯ヶ浦に據し古歌に香取ノ海と稱せられし程なりしが、の中流に汀洲を生ず、これを伸ノ島と稱す。天正十八年江戸崎城主土岐氏の家臣、石田駿河守落去のち、更に徳川氏の地方奉行吉田佐太郎に就き洲開拓の事を請ひ、新田を墾闢し一村落を成し名づけて上之島といふとあり。上島はいま大字名に遺る。【本新島】千葉縣香取郡にありし村。明治三十二年本村を廢し、その地城を東大戸村及び茨城縣稻敷郡十倉島村に夫々編入す。

モトシ 本新島 茨城縣常陸國稻敷郡の東部。飯ヶ浦と利根川との中間區域にて水郷をなし、南は利根川、東は利根川を隔て千葉縣香取郡佐原町等と相對す。全村

モトス 本栖湖 富士山の北麓なる五湖の一。五湖の最西部に位し、地は山梨縣西八代郡の内なり。湖面は矩形をなし、湖岸線は頗る短かく延長一四・五軒に過ぎず、面積は四・九六一平方軒あり。南方は龍ヶ岳の山脚湖面に迫りて水際には細長き砂濱を成し其の東端は緩やかなる數多の凹凸ある砂地なり。西岸中央部の長崎鼻は湖中に約五〇〇米突出し、長崎鼻を北に廻れば平地を隔て、松ヶ崎の斷崖あり。北岸は大體に於て緩慢なる気狀變入をなし、湖底に砂濱を作り小海の

モトシ 本新島 茨城縣常陸國稻敷郡の東部。飯ヶ浦と利根川との中間區域にて水郷をなし、南は利根川、東は利根川を隔て千葉縣香取郡佐原町等と相對す。全村

モトシ 本新島 茨城縣常陸國稻敷郡の東部。飯ヶ浦と利根川との中間區域にて水郷をなし、南は利根川、東は利根川を隔て千葉縣香取郡佐原町等と相對す。全村

モトシ——モトス

墨室



モトソ—モトタ

村を経て、合渡にて長良川に合流せし時ありて、合渡附近には根尾川の地名残る。南部西濃平野の地域には黒川、五六川、中川等幅狭し、水害多き低湿地にして、輪中地域をなす。この根尾川は断層線に沿へるものにて、有名なる明治二十四年十月二十八日の濃尾大地震は根尾川附近に震央あり、水鳥の断層はいま天然記念物に指定せらる(根尾川の修養所)。農業は西濃平野に盛んで、米は質よく、文殊米は特に味よく明治年間まで宮中の御用米たり。また麻田村は昔巻紀書田となりし事ある由緒の地なり。裏作には蕎麥・粟・紫雲英多く、殊に紫雲英種子は本邦に於ける主産地たり。外に富有柿の特産あり、之は南部の川崎村居倉の原産と云はれ、麻田村は年産十萬圓にして最も多く、田畑に多く植えられ、最近はその斜面を利用す。穂積より東京・名古屋方面に出荷さる。山地には薪炭の産多く、松茸・栗も産し、朝代村方面には瓦の産多し。工業はあまり盛ならず、僅かに家内工業としての柳行李・バスケット等が南部輪中地域(生津・穂積地方)に見らる。交通は概ね便にして、南部には東西に中山道通ず。省線東海道本線は中山道に略々並行し穂積驛を置く。また大垣驛より分岐する未成線根尾線は南部の牛牧より北上し根尾・樽見に至るものにて一部工事中なり。岐阜よりは社線名古屋電線掛兼線通じ、尾毛橋・尾毛川部・又丸・森町・千代

町・美濃北方・八又・萩原等を置く。穂積驛より南方盛岡へ、北方美江寺へは根尾バスが、大垣より美江寺を経て北方へは大垣バスが、岐阜より黒野村を経て根尾・樽見・長良へは根尾金華バスが夫々通ず。本郡は凡そ古への本郡の地なるべし。本郡は古事記開化天皇の御孫、皇子日子坐王の子八爪入日子命が三野國の本軍國造長嗣部連の祖なりとあり。然るに國造本紀には三野前國造に開化天皇の皇子彦坐王の子八爪命を定めたまふとあり、國名に異同あるも、この二國は同一の地を指すものにて美濃國の西部ならんといはる。即ち國郡制定の時郡となり美濃國に隸せるものならん。和名抄は毛須と註し、眞立・造市・安堵・美濃・穂積・物部・船木・栗田の八郷を置く。明治三十年本郡・麻田の二郷と大野郡・方縣郡の各一部とを合して更に本郡を建てて今日に至る。

モトソ—モトタ 本橋村 山形縣羽後國飽海郡の西部。酒田市の東北約七軒。庄内平野の北部に位し、全村平坦にて、日向川及びその支流荒瀬川は北境を西流す。本村は庄内平野の中心にして米作盛に行はれ、また馬・牛を産し梨の特産あり。省線羽越本線本橋驛(大正八年設置)を置く。村内に城崎橋址・新田日城址あり。新田日城址は往時羽後國留守所の館址にして、いま遺跡存す。留守所の後裔を今井文三郎と稱し久しく此の村に住めり。城崎橋址・指定史蹟。大字城崎宇大野田、上田村大字刈穂に互る地域にし

て、庄内平野の北部、最上川の北八軒の地點にあり。本橋驛の東約三軒、東西七〇〇米、南北八〇〇米、略方形に角材の橋柱を並列せし城崎の遺址にて、地中に埋没せし遺跡跡見さる。橋址の四邊には各々圓柱より成る門址存在し、何れも三間二面の平面を有せし事知られ、また橋址の四隅には角柱と認めらる。礎石跡見せられたり。地域内北邊に近く縣社城見せられたり。また中央の邊には蓮華及び唐草紋の古瓦の出土せる場所あり。昭和六年始めて完全なる學術的發掘を経てその規模明瞭となれり。秋田縣神田橋址と共に上代東北拓殖の際に築造せられし橋の遺址にて、瓦の出土地は或は例々營まれたる出羽國分寺址ならん。出土遺物の一部は本橋村城崎橋遺跡所に保存さる。奈良時代和銅元年に置かれし出羽橋に指定するは早計なりとするも、恐らくこれと密接の關係にありしものなる事想像に難からず。(大物忌神社)大字本橋に萬原。縣社。祭神倉稻魂命。創建年代は堀河天皇寛治年間にして、八幡太郎源義家國幣中社大物忌神社より勧請すといふ。例祭五月十五日。(城崎神社)大字城崎に萬原。縣社。祭神倉稻魂命。地方の古社にして清和天皇貞觀七年從五位下を授けられ、陽成天皇元慶四年從五位上に被せらる。古來富國の二宮といひ國幣中社大物忌神社との關係深く、現に同社の攝社たり。江戸時代には藩主酒井氏の

モトタテ

本建村 山形縣甲斐國南互原郡の中部。身延町の西に接し、富士川の支流早川右岸に沿ふ。西境に七面山(一九八二米)、東境に身延山(一一四八米)聳え全村土地高峻にして山林多く平地に乏しく、早川は北境を東へ峡谷を穿ちて流る。桑畑は概ねこの河岸にあり。農・林業を主産とするも農産物は僅に村内の食料に當つるのみにて主産物は木炭・三桧・木材等の林産物なり。また養蠶及び七面山登山者案内等の副業をなす。北部河岸に沿ふ道路、身延町より来る道路あり。鐵道省借入線富士身延線身延驛(約十二軒)を隔て、交通便ならず。村内に大垂瀧(高さ三〇米、幅五米)、白糸瀧(高さ三〇米、幅五米)あり。

東取取・遠古丹・根保・馬群潭等の諸流西境山地より湧し、略々平行して東南流す。これら河邊の地は農耕に適するも耕地はなほ一千町歩に満たず。山地にはなほ斧鉞を加へざる密林地帯廣く、年々五〇萬立方米内外の木材を伐採しその大部分はパルプ原料に使用せらる。知取町には王子製紙の大工場ありて製紙廠に行はれ、また知取炭礦よりは石炭を出す。沿海は冬季結氷の缺點あるも、鱈・鯽・鰯等の好漁場をなして漁獲多く、昆布も採取せられ、多くは水産製造物となして搬出せらる。道路東岸に沿ひて南北に通じ、社線本線大瀧道また略これに並走し近視・白石瀧・帆寄・馬群潭・元泊・根保・北根保・東濃文・北辰・知取・橋丹・大輪取の諸驛を置き、交通便ならず。人口約二萬六千人、密度はなほ甚だ稀薄なり。

モトニシモナイ 元西馬音内村 秋田縣羽後國雄勝郡の西部。西馬音内町の西に接す。西北境に太平山(四七四米)、

モトノ 本野村 長崎縣肥前國北高來郡の西北部。多良岳火山の南麓裾野の部分を占め、西は東彼杵郡鈴田村、北は同郡堂瀬村に接す。全村殆んど多良岳火山の噴出熔岩たる安山岩の分布地帯にして、北部村境は八百六十米に達し、漸次南方に傾斜す。熔岩の表面には長崎縣に於ける大川たる本明寺川及び其の支流流れ、南北に谷深く浸蝕し、河岸に小耕地

モトヨシ

本鏡子 千葉縣海上郡にありし町。昭和八年鏡子市に入る。

モトマリ

元泊 樺太廳管下七支廳の一、中部東岸に位する元泊郡一圓を管轄す。南は豊榮支廳、西は泊居支廳、北は豊香支廳の地に隣接し、東はオホーツク海に面す。元泊・帆寄の二村と知取町を含み、面積約三二〇方軒、支廳を元泊村に置く。樺太山脈 東斜面にて、西境上には銀岳(一〇八〇米)・美伏山(一八六〇米)・珍内山(七五八米)・留久志山(六七五米)等連りて土地概ね東南に低下す。東橋丹、

モトタ

モトノ 本野村 長崎縣肥前國北高來郡の西北部。多良岳火山の南麓裾野の部分を占め、西は東彼杵郡鈴田村、北は同郡堂瀬村に接す。全村殆んど多良岳火山の噴出熔岩たる安山岩の分布地帯にして、北部村境は八百六十米に達し、漸次南方に傾斜す。熔岩の表面には長崎縣に於ける大川たる本明寺川及び其の支流流れ、南北に谷深く浸蝕し、河岸に小耕地

モトノ

本野村



モトハ——モトフ

を見る。然し火山の原表面は未だ保存せられ山林草地をなす所多く、北部山地は殆んど山林地帯をなす。村の南部には多少第三紀層あり、火山噴出との境界附近を圍道及び鐵道路々東西に通ずるも、北部は殆んど南北の谷に沿ふ道路を見るのみなり。本村は農村にして養蠶業・林業亦行はる。米は品質佳良、世に陳早米と稱するもの一部にて名あり。本村の北方本明寺川の上流富川山は陳早米の上流約十軒、老樹蒼鬱奇巖絶壁兩岸に聳え、高さ百二十尺、長さ千尺の一枚石を川床とし、幾段かの飛瀑かゝり、清涼の佳境、岩壁に三大佛・五百羅漢を彫刻す。これ寶永六年領主陳早茂明主となり、藩中よりの寄附により、南目新田及び本明寺川流域使用者の雨乞祈願の爲めの業蹟たりき。また富川山大雄寺の十一面觀音は由緒と共に名高し。

モトハコネ 元箱根村

相模國足柄下郡の西部。箱根山の中央部を占め、南は箱根町と隣し、西は静岡縣駿東郡と隣す。東中には箱根火山の中央火口丘たる神山(一四三九米)・駒ヶ嶽(一三二七米)・二子山等あり。西半は火口原湖たる蘆ノ湖にて、西境には湖尻時・山伏峠等の外輪山連なり。蘆ノ湖の東南岸二子山麓に發達し、四周の風光美しく純粋なる遊覽地帯として發達す。國道は小田原方面より湯本町・蘆ノ湯村を経て來り、更に南隣箱根町を経て静岡

モトハ

縣に入る。また舊東海道は湯本町より須雲川の谷に沿ひて來り當村にて國道に合す。その他、蘆ノ湖東岸を北走して仙石原村に通ずる縣道あり。國道には富士箱根自動車會社の小田原沼津線通す。その他、駿豆鐵道箱根線のバスは熱海より來り、湖岸を経て上蘆原に通ず。箱根権現あるを以て古來著名なり。いま富士箱根國立公園の内とす。新富風土記に建武元年八月、中先代始起の時に足利尊氏討手として下向、相模次郎時行の兵と箱根大崩にて會戦すと見ゆ。大崩は即ち本村内の地にして、曾我物語にも大崩の手向なる言葉見ゆ。いま箱根町・蘆ノ湯村と共に組合町村を成し箱根町に役場を置く。(姥子温泉)冠嶽の西北麓、大涌谷の西崖の地にして海拔八五〇米、閑寂の地なり。温泉は天然の硫黄を以つて階槽となす。泉質は食鹽泉にして温度四五度、眼疾に特效あり。その他神経系統病・胃腸病等に效あり。(箱根神社)國幣小社。祭神、天津彦火火出見尊・天津瓊瓊杵尊・木原開邪命(箱根大神)。創建に就きては數説ありて詳ならざるも、社記に孝昭天皇御宇、聖占仙人駒ヶ岳の權原を開きて神仙宮とし、崇神天皇御宇、利行丈人勅許を得て創建す。次で孝謙天皇天平寶字元年、萬巻(一に満願に作る)上人夢に三神の靈告を蒙りこれを一祠に祀りて箱根三所権現の基を開き天下泰平を祈願すと。別當は古義眞言宗金剛玉院東福寺た

モトハチオージ 元八王子村

り。古來朝廷武家の尊崇の外篤く、古くは坂上田村麿・源頼義參詣して表矢を獻じ、嵯峨天皇弘仁八年には勅して社領を定め給ふ。源頼朝は平氏一門を討滅し得たるは一に當社の靈應にありしによるとなして社領を寄進す。關東北條氏・徳川氏等度々社殿再建・社領寄進等の事あり。社寶中、赤木柄短刀一口・木造萬巻上人坐像一軀は共に國寶とす。例祭は八月一日。七月三十一日夕刻湖水祭の神事あり。湖岸にて神事執行後、神官・樂人、氏子總代輪に乗り、湖中の湖水守護神に赤飯三升三合三勺三才を納む。且つ地人等湖面に數千の燈籠を流して龍神の供養となす。これを権現の流燈といふ。

モトハラ 本原村

長野縣信濃國小縣郡の北部。上田市を去る北東約六軒。淺間火山の連峰湯ノ丸山・烏帽子岳(二〇六六米)の西斜面にあり。北は長村、南は和村・殿城村に接し、西に神科村あり。村は火山の裾野にあり。火山の伏流の湧水ありて耕地面積二九三町にして全面積に對する耕地率三〇%、田一三二町、畑一六〇町、うち桑畑一五〇町、田は主として千曲川の支流神川の谷底を利用して千曲川の支流神川の谷底に於ける桑園化卓著し養蠶は本村の第一の産業なり。古くは豊里・殿城・傍間、長の諸村と共に山家郷と言はる。也未加とも善し、山村を意味せり。

モトフ

本原村 神縣縣城縣國頭郡の中部。名護川の北を西方に突出する

モトモンベツ 元紋別

省轄市寄本線の一駅(大正十年設置)。北海道北見國紋別郡紋別町にあり。

モトヤス 基安嶺山

↓加茂村(愛媛縣)

モトヤマ 本山

兵庫縣瀨野國武庫郡の中部。住吉村を挟んで神戸市の東にあり、西半は魚崎町に接す。南は本庄村を経て一軒餘にて大阪灣岸に出づ。背後に六甲山(九三二米)を負ひ、南部は大阪灣岸平野の北部を占む。山中に幾多の斷層が東北より西南に横切る。各種産業よく發達し産物は蔬菜・花卉・米・麥類・食用農産・果實・觀賞用植物・蠶糸・スレート瓦・セメント・水産製造物等なり。縣道及び省線東海道本線・社線阪神急行電車等が南部を横斷し最後者の岡本停留所あり。この地は住吉村・精進村と共に文化住宅地・別荘地として知られ、いま甲府高等學校(大正十二年設置)あり。大字岡本の五百山の中間に岡本梅林あり、道路は平坦にして眺望よく、毎年紀元節に山開きをなす。(保久良神社)大字北島に鎮座。祭神、須佐之男命を主神とし、大歲御祖神・大國主命を相殿とす。延喜の制、官幣の小社に列せられ、新年の幣に依り、各一口を加へらる。中世牛頭天王と稱せり。例祭、五月十四日。【本山町】山口縣厚狭郡にある岬角。宇都市の西方、小野田町の南にあり、龍王

モトマチ 元町

神戸市神戸區の町。省線東海道本線の元町驛(昭和九年設置)を置く。【元町】朝鮮京城の西南部、龍山の一町名。總督府鐵道龍山線の元町驛(昭和四年設置)を置く。

モトミ 元三

熊本縣鹿志郡にありし村。明治二十二年日吉村に合併す。

モトミヤ 本宮

岩手縣陸中國岩手郡の南部。北は盛岡市、南は紫波郡に隣接す。北上平野の北部に位し、全村概ね平坦なり。磐石川は北境を東流し、北上川に合し、北上川は東境を南流す。村の産業は農を主とし、米・麥・蘋果・梨・蔬菜等を産し、また養蠶行はる。陸羽街道は村の東部を南北に通じ、交通便なり。省線東北本線の仙北町驛(大正四年設置)を置く。明治天皇、明治十四年山形秋田及び北海道行幸の際この地に御小休遊ばさる。本村出身の歴史的人物に故宰相原敬あり、いまその舊宅を存す。【本宮町】福島縣岩代國安達郡の南部。二本松町の南方約九軒。東北部と西南部に丘陵ある他は概ね平坦にて、安達太良

モトマキ 本牧村

長野縣信濃國北佐久郡の西部。岩村田町を去る西約一〇軒。豊科火山(二五三〇米)の北麓に位置す。村内の中央を千曲川の支流鹿曲川が北流す。北は北御牧村・三郷和村、西に芦田村、南に協和・春日兩村あり、東は南御牧・布施の兩村に接す。耕地面積五三五町にして全面積に對する耕地率三四%、田二三〇町、畑三〇五町、うち桑畑二四八町にして桑畑卓越し、養蠶は本村第一の産業なり。村は舊中仙道の道路に當り岩村田町より下諏訪町に通す。また北國街道へは縣村田中より鹿曲川に沿うて本村望月に達する連絡路あり。古くは和名抄、佐久郡本理郷の地とす。大字望月は古く中仙道の一宿驛にして、紀直藤遊野氏の一述この地に居して望月氏を稱

モトマキ 本牧村

す。騎射を以て名ありし望月氏は即ちこの地の出生とす。天文中、望月信義、武田氏に降り望月六十騎の稱あり。其子甚八郎に至り絶家す。また此地は古の御牧の一にして、望月駒の名著はる。いま菅間原・御牧原などいふ。

モトマ——モトヤ

モトマ



モトヤ—モトヨ

山(一三六米)の東南海中に没するところなり。断崖をもつて海に面するにより有名なり。

【本山炭礦】山口縣厚狭郡小野田町の西部にある炭礦。探測目的炭層は、第三紀層の砂岩・頁岩中に介在する七甲炭層にて、宇部炭田の五段層に相当するものと稱され、本山脚の西海岸に沿ひ海底下に露出す。當炭層は大正の頃、一ノ山炭礦或は本山炭礦と稱して採行され大正十年休山せしも、昭和十年より再び採業するに至る。同年重要鐵山に列す。

【本山村】香川縣讃岐國三豊郡の中部。觀音寺町の東約四軒。東は財田大野村、北は上高野村、西は桑山村、南は一ノ谷村に界す。面積僅に二・四七方軒の小村。三豊平野中央を貫流する財田川中部の北岸沖積地を占め、灌漑至便にして耕地に富む。農業非常に盛にて米・麥の産多く、養蠶業も行はる。また吠の生産多し。西部に國道貫通し、東部に縣道走りて交通便なり。省線讃岐本線は西境を縦貫して本山脚(大正二年設置)を隣村桑山村の地に横に置く。「本山寺」大字寺家あり。古義説書宗。七寶山持寶院と號す。同宗大覺寺末、四國八十八箇所第七番の札所。開創は空海にて自作の馬頭觀音像・脇侍彌陀・藥師如來を安置せしに始まると傳ふ。初め長福寺と號し一村總て寺域内にて寺家の名亦因りて起る。天正年間兵燹の爲め僧堂大部分消失、再興後、享

保年中改めて本山寺と號す。嘉永五年再度炎上し一部焼失せしも再建、現在に至る。本堂(觀音堂)・仁王門は國寶。御詠歌「もと山にたれか植えける花なれや春こそ手折れ手向にぞなる」

【本山】讃岐國(香川縣)の古地名。和名抄に山田郡本山郷あり。東鑑、嘉永二年に讃岐國本山莊、石清水領と見ゆるは本郷の地なるべし。いま木田郡川添村の地ならん。同村の大字に元山あり、古名を襲へるものか。

【本山町】高知縣土佐國長岡郡の西北部。南北約一四軒、東西七軒餘、面積六九・二五方軒の大境域を有す。四國山脈の中央部を占め、北に八町山・白雲山、南に國見山等高距一千餘米の諸峯四圍に聳立し各山脚を南北に伸し山岳重疊して高峻なる山岳地をなす。中央深谷を貫きて吉野川その山下を東に流れ屈曲甚し。流域に平地稍々ありて耕作を營む外は、全町平地殆んどなし。主要農産物に米・麥・繭等あり。山域は密林地にして三椏・楮・杉・檜等の産多く、また河谷は好牧場地をなし牛を飼育す。川の兩岸に並行して國道徳島街道通し高知市及び徳島・香川縣に至り、又バスの便あり。主要市街は西部、吉野川右岸の平地に開け街道に沿ふ。物産の集散地にして山間の都邑をなし、槍笠製造をなす。日本後紀延暦十六年の條に吾禰郡とあるは即ちこの地にして、延喜兵部省式に見ゆる吾禰郡も五は

吾の誤にしてこの地なるべし。中世豪族本山氏ここに居しこれより本山土居の名起る。住時は白我莊河添村なども稱せり。明治二十四年西本山村を本山村と改め、同四十三年町制を布く。「本山城址」宇土居町に在り。本山氏累代の城址。本山氏は清和源氏吉良の庶流にして始祖八木伊典初め此地に起り、孫茂宗、左近大夫と稱し豪邁にして兵を營くし、土佐・吾川の二郡及び高岡郡の一部を領し勢威なりき。のち兼斐、梅溪と號し朝倉城を築きてここに居たり。勇將監親茂、長曾我部氏に屬し豊後戸次の役に戦死せしより本山氏の正統絶滅す。「歸金山」大字本山宇歸金山に在り。本山町の對岸にありて俗に雁山と稱す。國老野中使山この地に封ぜられし時此處に一部を構ふ。のち慶安四年母家秋田氏の卒するに及び、茶屋に附せし上野村開闢撰文の墓碑を土葬せり。墓上に山崎開闢撰文の墓碑を建つ。開闢この山を名づけて歸金山と稱せり。蓋し古經に、父母全うして之を生み、子全うして之を歸すの文義に由りしものなり。本村住昔佛敎流行し、貴賤の別なく火葬を行ひしが、土葬は此を以て嚆矢となす。

【本山】豊前國(福岡縣)の古地名。和名抄に京都郡本山郷見ゆ。高山寺本は本村に作り、何れが是なるかを知らず。従つて其の位置詳かならず。

【本山村】長崎縣肥前國南松浦郡の西南

五島

部。五島列島の最南端江島の東部に位置し、五島の首邑福江町の南西に接續する農村なり。村の南東部は福江塔岩たる玄武岩の臺地、北西部は中世層及び其他の塔岩より成る。又此等中世層を破り花崗岩の噴出を見る所あり。中央は福江より大瀨に至る低地帯なり。玄武岩の臺地上には鬼岳・火房等の諸火山北東に並び地形に變化を興へ、其の山麓及び臺地面はよく耕されて、殆ど畑地となり、甘藷を始め農作物の産に富む。中央低地帯は主に沖積層より成り水田の分布地帯にして特に村の南部中央に多く、墾墾また此處に分布す。村の南部は多少海岸に臨むも塔岩の末端海岸に崖立し、全く平地を缺く。故に自村域内を利用する漁業を見る事少し。交通路は福江より南方大瀨村に至るもの及び、福江より村の北部を経て猪掛坂を越え、玉之浦に至るものを其の幹線路とす。長崎方面に出づるものは、福江に出て、海路による。

【本山】熊本縣鹿野郡にありし村。大正十年熊本市に編入す。

【モトヤワタ】本八幡(はた) 省線徳武本線の一驛(昭和十年設置)。千葉県市川市にあり。

【モトヨシ】本吉 官城縣十六郡の一。陸前國の東北隅。東は太平洋に面し、北は岩手縣、西は岩手縣及び登米郡、南は桃生郡に接す。面積五五九方軒餘。太平洋に沿ひて

西南より東北に長く延び、北部には南方に開口せる氣仙沼灣、中部には東方に開口せる小泉灣、南部には志津川灣の灣入ありて、リヤス式海岸をなす。以上三灣口よりは各西方に向ふ斷層ありて、南部の二地塊、北部の二山地に分たる。南部は桃生地塊の北半部にして、南境に翁倉山(五二二米)をはじめ山地東西に連りて北方に傾斜し、川は谷底を東方および西方に流る。東流するものは志津川灣に注ぎ西流するものは北上川に合す。北上川は西部を南流す。桃生地塊の北は志津川地塊にして、中部に田東山(五一二米)・神行堂山(四五九米)・惣内山(三八〇米)等聳ゆ。小泉川はその北麓を東流して小泉灣に注ぐ。志津川地塊の北は北上山地に屬し、西部より南部にわたりて大田山(六八六米)・大森山(七五六米)・徳仙丈山(七一〇米)・愛宕山(六三三米)・長森山(四九一米)等連り、北麓を大川川に東流し、北方より八瀬川を合して氣仙沼灣に注ぐ。郡の北境には西より君ヶ鼻山(六七二米)・八森平山(五六九米)。(登長根山(五二〇米)連りて南方に傾斜せり。東部海岸は魚鱗盛にして、鮮魚・鱒・鮎・浦針・竹輪等を産し、氣仙沼町・志津川町等の中心地あり。また米・繭・麥・木炭等を産す。道路には東部海岸を南北に通ずるもの、及び北・中・南の斷層谷を東西に通ずるものあり。北を氣仙沼街道、中を西部街道、南を本吉街道と稱す。各

モトヨシ—モトヨシ

バスの便あり。郡の北部に省線大瀨渡線通し新月・氣仙沼・真折・上野折等の驛あり。陸上交通便ならざるも、海上は舟運の便あり。本郡名は延喜式・和名抄にも見えず。中世、藤原秀衡の子商衡これを領し本吉四郎と稱し後に郡名を私に稱せしものか。地は凡そ桃生地塊の地にて永祿年中氣仙郡の一部を本郡に入る。

【本吉】官城縣本吉郡にありし村。明治二十八年に志津川町と改稱す。

【モトヨシワ】元吉原(いはい) 許可せる遊女町のありし所。其地は日本橋の吾禰町の附近の高砂町・住吉町・難波町の邊に當る。此處は霞などが生え茂り居りしより霞原と稱し、のち美名の吉原に改む。これが明暦三年淺草の今の地に移りて新吉原と稱し、舊地を元吉原と稱す。好色二代男・七・江戸の遊興町本吉原の時、三浦に人置が申て、遠州濱松の片里より、むかしは名もありし人の息女を、ふつくり十五の秋の比賣取しに、此親ばせ折ふしの月をも猜み、妻は花を欺く、名を長山と申、撞出しから大夫にして、是沙汰の女良、然もいやしからぬ心ざしにて、かりなる男も捨てたまはぬこそやさしけれ。

【元吉原村】靜岡縣駿河國富士郡の南部。富士川河口の東方にあり、北に須津村・吉永村、西に島田村、東に駿東郡原町あり、南は駿河灣に面す。村は東西に長く

海岸には砂丘・松林あり、北半は水田地域たり。梨・桃・和洋紙の産多し。省線東海道本線は東西に通じ、西部に鈴川驛(明治二十二年設置)を置く。古くは和名抄、駿河郡柏原郷の内なるべし。中世はこの地に聯合ありて吉原と稱せり。寛永十六年に水害を避けて田島へ移り、その廢跡を鈴川(また須津川に作る)といふ。豊とも明治天皇には度々この地に御小休遊ばさる。

【モトリ】没利島(六連島(山口縣)) 一島。大正四年に瀬戸町と改稱す。古くは物理郷に作り、和名抄に物理郷物理郷と見ゆ。

【モトリバシ】辰橋(一) 辰橋(辰橋) 物理 岡山縣赤松郡にありし村。大正四年に瀬戸町と改稱す。古くは物理郷に作り、和名抄に物理郷物理郷と見ゆ。

【モトワケヤ】元湧谷村 官城縣陸奥國遠田郡の中部。南は江合川を隔て湧谷町に接す。陸前平野の東部なる又兵衛坂丘陵の南半部を占め、東部は荒嶽山、西部は又兵衛坂の南麓をなす。全村概ね丘陵をなすも南部に轉地開く。江合川は南境を東南流す。米・繭・麥・木炭・馬を産す。村内に隣村に跨りて金銀或は亞炭の鐵區幾多存するも現在何れも振はず、ただ玉崎鐵山が昭和九年の試掘に亞炭三八路を産出せるに過ぎず。佐沼街道は村の東部を南北に通じ、南方の省線石巻線浦谷驛に至る。古くは和名抄、小田郡小田郷の地なるべし。もとは軍に浦谷村と稱し、其理伊達氏の居邑にて本郡三十餘村

二萬二千石を食む。大正浦谷の宇黄金道は本朝始めて黄金を出せし所と傳ふ。續紀、天正二十一年豊武天皇の御代陸奥國黄金を獻ずとあるは、即ち此地の産なりといふ。いま縣社なる黄金神社あり。また黄金宮ともいふ。社前に日本黄金始出地碑を建つ。「黄金山神社」大字浦谷に鎮座。縣社。祭神、天照大神・金山彦命・猿田彦命。式内社。寶龜元年に按察使參議紀實能の勳請に係る。例祭、三月十五日・九月十五日。

【モトワニシ】本輪西 北海道室蘭市の町。省線室蘭本線の本輪西驛(大正十四年設置)あり。

【モニワ】茂庭(はら) 生田村(官城縣名取郡) 茂庭村 福島縣代國伊達郡の西北部。桑折町の西北約九軒。北は官城縣、南は信夫郡、西は山形縣に接す。面積一七六・二八方軒。西境は奥羽山脈に屬し、北より豪士山(一〇二二米)・栗子山(一一一七米)あり。北境に大頭山(八五七米)、南境に文珠山(八四九米)、三ツ森(八九七米)聳え、全村概ね山地をなし、摺上川は西北境に湧湧して、西南方より島川を合し村の中部を東南に流る。米・繭・薪炭を産し、南部に八百澤山ありて銅を産す。道路は川に沿ひて西北より東南に通ず。人口密度は一方軒につき僅かに一六人なり。

五島



桃生。宮城縣十六郡の一。陸奥國の東部。東は太平洋に面し、北は本吉郡、登米郡、遠田郡、西は宮城郡、東は石巻郡、石巻市に接し、西南は石巻灣に臨む。面積四一四・〇〇方軒。郡の中部を新北上川南流し、之によりて地形上、東部北上隆起帯と西部大谷地低地帯とに分れる。前者の北境には駒倉山(五三二米)をはじめ山地相連りて南方に傾斜し、南境には上品山(四六八米)、石投山(四五七米)、高梨山等連りて北方に傾斜す。北上川より分岐せる追波川はその中部を東流し追波灣に注ぐ、追波灣の南には半島突出し、海岸は鋭角状をなす。半島の南には雄勝灣の灣入あり。西部大谷地低地帯の西縁には丘陵南北に連りて、その南部を鳴瀬川南流に對し、石巻灣に注ぐ。新北上川及び西部丘陵地の間には北上川東南に流れ、石巻市に入りて石巻灣に注ぐ。沿岸は廣き低地をなせり。西部は米産に富みまた藁・藁を産す。東部山地には製炭、海岸には漁業行はれ、また所々に牧畜行はる。東部山地には追波川に沿ひて東西に通ずる道路ある外大なるものなきも、西部は道路四通し交通便なり。省線石巻線は郡の西部を西北より東南に通じ、社線宮城電線は西南部を略東西に通じ、共に石巻市に至る。前者には西北より前谷地、佳景山、鹿又等の驛あり、後者には野蒜、陸前小野、鹿妻、矢木、陸前赤井、蛇田等の驛あり。名稱は蝦夷征伐の際に陸奥國に置かれたる桃生城、即ち桃生櫓に發し、既に寶龜二年紀には地名見ゆ(續紀)。後世、本郡を割きて本吉郡を置き以後これに從ふ。和名抄は毛牟乃不と註し桃生・磐城・船越の三郷、餘戸一を管す。

【桃生村】宮城縣陸奥國桃生郡の西北部。飯野川町の西北に隣り、西北は北上川を隔て登米郡に、東北は本吉郡に接す。村の中央東部を新北上川南流して東西兩地に分たれ、東部には東境に經山(三五九米)聳え、西北に傾斜し、概ね山地をなすも、西部は陸前平野の東南部なる大谷地低地帯の東縁にして、丘陵・平地相半せり。米・藁・藁を産す。道路は西北部を對し、省線石巻線佳景山驛へは西南方約九軒あり。古くは和名抄、桃生郡桃生郷の内にして、村名は蓋しその遺稱とす。(桃生郷)土俗モノノジローといふ。奈良朝時代、奥羽の蝦夷防禦屯田植民の重要な根據地として置かれし城塞なり。その歴史に於ける初見は、續日本紀、天平寶字元年四月四日の條に「其不孝不忠不友不順者、宜配陸奥桃生、出羽國小野、以濟風俗、亦得邊防」と見ゆ。思ふに桃生城創置の議は、この頃を決せしものと思はる。ついで翌二年十月「陸奥國浮浪人(造)桃生城、既而復其調庸、便即占著、又浮浪之徒賣爲、楯戸」とあり。また同十二月「數郡發

東騎兵備兵役夫及勇俘等、造桃生城小野橋五道俱入發號功役」とあり、翌三年九月には「已丑勳造陸奥國桃生城出羽國雄勝城、所役郡司、軍數、佩兵、馬子合八千一百八十人、從去春月一至子秋季、既難地土不願産粟、朕每念、故情深許、宜免今年所負人身舉稅」と見え、この月また「割留相模上總下總常陸上野武藏下野等七國處、送軍士器仗、以貯雄勝桃生二城」とあり。なほこの年、諸國の浮浪一千人を遣して桃生の楯戸に配せし事が、續日本紀、神護景雲三年正月の勅に「又於陸奥國桃生郡、造大河・渡・鐵橋、作桃生櫓、陸前野田」と見ゆるは、恐らく本城築造の功に完成を告げしことを示すものならん。而してこの勅旨によつて當城の位置を考ふるに、大河といふは北上川なるべく、當代の形勢より察すれば東北の經營は雄勝城といひ、志波城といひ概ね北上川の水路を廻りて北進せしもの如く、これを北上川沿岸に求むるは當然の事と思はる。依つてその遺址は既に大槻文彦・喜田貞吉等の主唱してゐる桃生郡桃生村茶臼山を中心とし、東西二十軒ばかり、南北一里ばかりの臺地一帯の地に比定して可なるが如し。その故は、いま北上川はこの地の北端より西を廻りて流るるが、この川筋は元和年間閉塞せし山にて、この地の地形地質の状態よりみるに、古は北上川の水は今の柳津町の邊にて二つに分れ、

一は今の流路を辿り、一はこの地の東にある低地を南に直進し、更にその一部は分れてこの臺地の南を流れて西流し、即ちこの地は全く水流を以て圍まれしことが推定される。しかもこの所こそは桃生村にて、これは古來の遺名なるべきことは明かなり。桃生の名は和名抄に毛牟乃不とあり、アイヌ語の存せる平原丘、濶(る)頂の平たき山(モムタツ)の意なるべく、よくこの地の地形に合致してをり、また前記の「大河に防り鐵橋を造ぐ」とあるに相違なき自然の城郭として全く蕙まれたる險要にて、西方・南方は廣漠たる平野を控へ、拓城の根據地としても好場所たるを失はず。唯さしたる考古學的の確證を得ざるは遺憾なるも、少なくとも桃生城址の第一の候補地たるには恥ぢず。(日高見神社) 郷社。祭神、天照大神・倭姫命・武内宿禰。日本武尊の創建と傳ふ。式内社。神位、從四位下。例祭、陰曆三月十三日・九月十九日。

モノノ 武士

【物部】下總國(千葉縣)の古地名。和名抄に千葉郡物部郷あり。其地詳かならざるも、いま印旛郡に入れる千代田村の邊に當るか。同村の大字物部は郷名の轉訛なるべし。

【物部】越後國(新潟縣)の古地名。和名抄には頸城郡物部郷あり。その地いま中頸城郡若原村の邊なるべし。同村の大字武士は郷名の轉訛なりといふ。近世はまた武士郷ともいふ。

【物部】美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に本巢郡物部郷あり。その地いま美濃郡美濃町に當る。同村の大字武士は郷名の轉訛なりといふ。近世はまた武士郷ともいふ。

【物部】美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に石田郡物部郷あり。その地いま岐阜郡柳田村の邊といふ。同村の大字に物部あり。郷名の遺稱とす。

【物部】美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に石田郡物部郷あり。その地いま岐阜郡柳田村の邊といふ。同村の大字に物部あり。郷名の遺稱とす。

【物部】美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に石田郡物部郷あり。その地いま岐阜郡柳田村の邊といふ。同村の大字に物部あり。郷名の遺稱とす。

【物部】美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に石田郡物部郷あり。その地いま岐阜郡柳田村の邊といふ。同村の大字に物部あり。郷名の遺稱とす。



部部の是製糖工場に送らる。此の地理的好條件は産業発展の要因たり。本村は上代の物部氏と關係あるものならん。和名抄物部郷の故地、いま物部村字物部は其の遺稱、式内須波伎部神社は、字諏訪岐に鎮座あり。須波伎・諏訪岐、蓋し同語ならん。中世に細川氏の所領となり、守護代内藤氏これを治む。近世、明智光秀の領する所となるも、滅亡後、秀吉の治下に歸したり。江戸時代に於ては多数の領主に分領せられ、加ふるに領主の交代頻繁たりき。(須波岐部神社)大字物部に鎮座。祭神、天照大日靈命。大同二年に須波山に鎮りますと傳ふ。貞觀十一年從五位下に敘せられ、延喜の制、國幣の小社に列す。元和九年再建すといふ。例祭、十月十七日。

【物部】兵庫縣津名郡にありし村。明治四十一年に洲本町・洲村と共に廢され洲本町を置く。

【物部川】高知縣香美郡を貫流して土佐灣に注ぐ。水源は徳島縣境四ツ疋堂(一〇一七米)に於て那賀川と分水し、その上流は石立山(一七〇八米)・行者山(一三五五米)・赤城尾山(一四三六米)の西側の水を集むる横山川・杉熊谷と稱し、中流大橋に於て白雲山(一七六九米)より流れ来る久保川を合す。大橋より上流に於ては河底よりの比高約二〇〇米を有する段丘あり、この段斜面に聚落が散在して、伐木・薪炭製造などの林業を行は

か、楢・三椏を栽培して、副業的室内工業として冬季製紙業を行ふ。河流は大橋に於て北に曲流迂迴して、永瀬より西南の方向に流る。吉野・下野尻の間には比高約八〇米を有する見事なる河岸段丘あり。神母木・談議所に於て高知平野に出でここに野中兼山が築堤せる山田堰ありて、河水は遠く浦戸灣に導かれ香美・長岡二郡に跨る高知平野の北部を灌漑す。東流はこれより細流をなして野市の西方を流れ、前濱砂丘列の東端に於て土佐灣に注ぐ。流域約八二軒。昔は舟楫を通ずること約三〇軒に及びたり。

【物部】土佐國(高知縣)の古地名。和名抄に香美郡物部郷あり。中世に物部莊といふ。其地いま三島村の邊なるべし。同村の大字物部は郷名の遺稱なり。

モノミ 物見

【物見山】那須火山帯日光火山群の一峯。東面は栃木縣那須郡栗山村に、西面は群馬縣利根郡片品村に屬す。標高二一七米。北東稜に鬼怒沼山(二二四一米)・黒岩山(二一六三米)續き、南稜には燕巢山(二二二二米)連る。南東斜面は東流する鬼怒川、北斜面は南流する片品川の上源地なり。

【物見山】川越市の西方約一六軒、飯能町の北方に當り、埼玉縣入間郡高麗山・山根の二村境上に位し、標高三七五米。高麗川は南西麓より發して南・東麓を廻流し、北東方に向ひて荒川支流の越流川を

潤す。東京附近の低山ハイキング地として第一に擧ぐべき山にして、山中植林あり、新緑の候は殊に美し。この山の南麓高麗村は元正天皇の御代、關東各地に散在せる高麗人約二千人を集めて集團生活を營ましめたる歴史上名高き地にして、いま高麗神社及び聖天院あり。

モハラ 茂原町

千葉縣上總國長生郡の中郡。九十九里濱沿岸平地の西南隅を占め、一宮川の北岸に沿ひ、東西に長く面積一・三四平方軒。西北は丘陵起伏し、南部・東北部は平坦廣闊にして田畑・桑園相連なり。もと商賣所所在地たりし地に於て諸官衙・學校・工機園多し。附近に著名なる佛蘭多人工場の來往盛にして、商業發達郡内の物資當に輻輳す。なほ毎月六回市場を開き繁華を極む。市街地は町の中央に發達して概ね商業を營み、在郷は一般に農業に従事し、米麥を産し、養蠶・養鶏も行はる。中にも製糸業盛にして、また農家の副業に蠶及び蠶を製出し蔬菜を出す。また最近天然ガスを利用してガラス・電球等の製造盛となす。縣道は中央より放射狀に出で、東南方一宮町、西南方藤原町、北方山武郡大

綱町等に通じ何れもバスの便あり。省線房總東線は東部を縱走し、茂原驛(明治三十年設置)を東隣の東郷村に置く。同驛より社線南總鐵道西走し、村内に本茂原・深原寺・上茂原・上總高岡(以上昭和五年設置)・昌平町・其輪學校前(以上昭和七年設置)の六驛を置く。傳ふところによれば、永祿二年茂原近在、河西の農民十三月創めて此地に移住す。これ茂原市街の濠場なりと。また舊記に、慶長十六年幕吏三浦某本納町に來り本納・一宮・茂原・長南の四部落に毎月六回定期市を免許し之を最寄組合と稱し、主として食鹽を販賣せしめたるより人家頗る殖えたりと。(八幡神社)大字茂原に鎮座。郷社の創立にして、建久二年天羽庄司直風は島居再建、相馬九郎常清は刀劍一口を獻ずと傳ふ。もと平野大神と云ひしがのち八幡大神と改む。明治三年に現地に奉遷す。例祭、九月十九日。(覺山寺)大字覺果にあり。本門法華宗。長岡山と號し、當宗の大本山なり。文永年中、邑主小早川内記の創建なり。日蓮の弟子日辨を請じて開山となすと傳ふ。日蓮は慶長元年に没し、日蓮第二世となる。徳川氏より寺領七石七斗を附せらる。堂宇頗る宏壯にして東隣の深原寺と輪奐の美を觀

モヒキ 百引村

徳島縣大國郡肝屬郡の東北部。高麗山脈の東斜面を占め、

モノヘチ 茂邊地

北海道渡島支庁上磯郡にありし村。明治三十九年茂別村と改稱す。いま茂別村大字茂邊地に省線江差線茂邊地驛(昭和五年設置)あり。

モノヘツ 茂別村

北海道渡島國渡島支庁上磯郡の北部。函館灣に面し函館市の對岸に位す。北は上磯町、西南は木古内村に接す。面積一三・三五方軒。西境檜山支廳を隔てたる山脈は東方に向ひて傾くも村内概ね山地に占められ、茂邊地・當別・大當別川等、山間を東流して沿岸に小平地を開く。海岸は小出入ありて茂邊地、當別の漁業盛ありて鮭・鱒・柔魚等の漁獲をなす。その他木村・馬鈴薯・大豆・乳製品を産するも何れも少額なり。村内に九八萬坪の鰻畑を有する不二嶺山あり、鰻種は金銀鰻、昭和十年より事業を開始す。中央海岸葛登支庁に燈臺あり。省線江差線茂邊地・渡島當別の二驛(共に昭和五年設置)を有す。明治三十三年に一級町村制を施行す。永享中、出羽の秋田牧季は南部氏と戦ひ、敗れて此地に走る。(茂別館址(下函館址)大字茂邊地に在り。茂邊地川東岸の丘陵上に大小二館より成る。何れも自然の地形を利し、且つ土壘・空濠を築りせしものにして、その遺址を存す。津輕十三湊の城主下國安東大盛季、南部氏に追はれ此地に至りてこゝに館せりと云ふ。また享徳三年、下國政季南部より遁れてここに來住し、以來下國氏の居館となりしと

云ふ。(矢不來岩址)大字茂邊地字矢不來にあり。矢不來川と支流館の澤との間に突出せる丘岬にありて、左右急峻なる斷崖にして後方に三重の土壘及び空濠あり。(トラビスト修道院男子部)大字當別に在り。湯ノ川天竺園と共に佛國天主教一派トラビスト團の經營にかゝり、男子修道場にして明治二十八年歸化人岡田善理衛の創設に係る。修道の傍ら開墾牧畜の業に従ひ、その生産する乳酪はトラビストバターと稱せらる。

モノ 茂邊面

朝鮮全羅北道茂朱郡の東部。郡邑茂朱の東東南約二〇軒。東は慶尙北道金泉郡蓋面に界す。東西は平均六軒、南北は一〇—一五軒あり。四境山に圍まれ、東より南にかけて小白山脈の主脈走り大徳山(二九〇米)・三峰山(二二四米)聳え、大徳山の支脈西に延びて中央に望徳山(八七二米)峙る。西南境には興徳山(二七五米)あり。望徳山の北に高麗三百米窓の盆地あり、之を濼流して西北に去る南大川沿岸に田畑ひろく。米・麥・粟・楮等を産し、また金銀の鑛産あり、此地の鑛業は沿革古きもの如く、南大川上流に銀山里・銀車等の里洞名を存す。郡邑茂朱より居昌・金泉に通ずる道路南大川の谷を縫ひ、金泉方面にバスの便あり。主邑茂邊場(縣内里)は盆地の中心に位し、新羅景徳王の時以來置かれたる茂邊郡の主邑とす。

【モノヘチ】茂邊地。北海道渡島支庁上磯郡にありし村。明治三十九年茂別村と改稱す。いま茂別村大字茂邊地に省線江差線茂邊地驛(昭和五年設置)あり。

モノミ 物見

【物見山】那須火山帯日光火山群の一峯。東面は栃木縣那須郡栗山村に、西面は群馬縣利根郡片品村に屬す。標高二一七米。北東稜に鬼怒沼山(二二四一米)・黒岩山(二一六三米)續き、南稜には燕巢山(二二二二米)連る。南東斜面は東流する鬼怒川、北斜面は南流する片品川の上源地なり。

徳島の東方約一〇軒にあり。北と東は輪島郡に界す。西部には高麗山脈連り全村その斜面地を占め極めて緩く東方に傾斜す。瀬戸間伏川は西部に發して中央を東へ南流し、東北部には東南に流れるア支流ありて東境近くに於て兩者相合し輪島郡に入る。主産物は米・甘藷・牛・繭・大豆・粟・小麥・木炭・馬・菜種・裡麥にして、特産物には橘蜜柑と大明竹とあり。橘蜜柑は俗に川蜜柑と稱し縣内の川邊郡加世田町宇川畑より傳來せるものにて、全村各戸庭に植栽せらる。或人は右近橋といふも、果實は橘と比較にならず。大衆向として歡迎さる。大明竹は材は使用價值なきも筒は極めて美味、柔軟にて筒中髓一なり。大名竹・デメダケともいふ。全村山地なれば人口密度少く七七八なり(なほ郡平均密度は一三四人に達す)。縣道は中央を屈曲しつゝ南北に貫通し、途中より一道分れて西北走し鹿兒島灣岸に出づるものあり。自動車・馬車の便あり。建治二年文書に、曾野郡平房六町又百引十三町とあるは此地なり。百引は古文書に百疋に作る。村内に加瀬田城址あり、肝付彦太郎兼隆の居城。建武三年島津貞久當城を攻略し、其後、檢井頼仲當城を陥れ、弟頼重を城主とす。島津氏久また頼重領主に命じて頼重を討たしめ、自ら兵を率ゐて助く。觀應二年當城を圍み、終に頼重は日向に走る。其後の城主評かならず。

【モノヘチ】茂邊地。北海道渡島支庁上磯郡にありし村。明治三十九年茂別村と改稱す。いま茂別村大字茂邊地に省線江差線茂邊地驛(昭和五年設置)あり。

モノミ 物見

【物見山】那須火山帯日光火山群の一峯。東面は栃木縣那須郡栗山村に、西面は群馬縣利根郡片品村に屬す。標高二一七米。北東稜に鬼怒沼山(二二四一米)・黒岩山(二一六三米)續き、南稜には燕巢山(二二二二米)連る。南東斜面は東流する鬼怒川、北斜面は南流する片品川の上源地なり。

モノヘツ 茂別村

北海道渡島國渡島支庁上磯郡の北部。函館灣に面し函館市の對岸に位す。北は上磯町、西南は木古内村に接す。面積一三・三五方軒。西境檜山支廳を隔てたる山脈は東方に向ひて傾くも村内概ね山地に占められ、茂邊地・當別・大當別川等、山間を東流して沿岸に小平地を開く。海岸は小出入ありて茂邊地、當別の漁業盛ありて鮭・鱒・柔魚等の漁獲をなす。その他木村・馬鈴薯・大豆・乳製品を産するも何れも少額なり。村内に九八萬坪の鰻畑を有する不二嶺山あり、鰻種は金銀鰻、昭和十年より事業を開始す。中央海岸葛登支庁に燈臺あり。省線江差線茂邊地・渡島當別の二驛(共に昭和五年設置)を有す。明治三十三年に一級町村制を施行す。永享中、出羽の秋田牧季は南部氏と戦ひ、敗れて此地に走る。(茂別館址(下函館址)大字茂邊地に在り。茂邊地川東岸の丘陵上に大小二館より成る。何れも自然の地形を利し、且つ土壘・空濠を築りせしものにして、その遺址を存す。津輕十三湊の城主下國安東大盛季、南部氏に追はれ此地に至りてこゝに館せりと云ふ。また享徳三年、下國政季南部より遁れてここに來住し、以來下國氏の居館となりしと



モミシ——モモノ

この山は槍ヶ岳より鳥帽子岳への縦走路、並びに槍ヶ岳より薬師岳への縦走路に當り、また大町方面より高瀬川を廻り三俣運河を経て、槍ヶ岳に至る登山路にも當る。

モミシヤマ 紅葉山

石狩國夕張郡夕張町の大字。省線夕張線の紅葉山驛(明治二十五年設置)あり。

モモイ 百島

香川縣香川郡にありし村。明治三十一年に佛生山町と改稱す。

モモイシ 百石町

青森縣陸奥國上北郡の東南部。八戸市の北方約一三軒。南は奥入瀬川を隔て三戸郡に接し、東は太平洋に面す。三本木臺地の東南部を占め、全村概ね臺地をなし、奥入瀬川は南を東流し太平洋に注ぐ。その北岸低平なり。海岸は平直にして灣入なく砂濱をなす。臺地は森林原野をなせる所多し。米・馬鈴薯・蕎麥を産しまた牧馬行はる。道路は町の西部を南北に通ず。西方の省線東北本線下田驛へはバスの便あり。昭和四年に町制施行す。

モモエタ 百枝村

大分縣豊後國大野郡の中部。大野川の右岸に沿ひ東南は三重町に界す。土地丘陵性にして東北境に大辻山(二四九米)あり。大野川は西境に沿ひて屈曲しつゝ東北流す。森林地帯廣く河川に沿ふ農耕地には米・麥の産あり。省線豊肥本線が西南部を横切り三重

町は南方一軒たらずにあり。古くは和名抄、大野郡三重郡の内とす。

モモカワ 百川

栃木縣上野郡水野村大字上水野の字。此地に二五萬餘坪の鐵礦を有する百川鐵山(鐵種は滿鉄)あり。昭和十年の試掘に於て滿鉄六〇〇萬(價額約一萬一千圓)を出し、一躍重要鐵山に列す。

モモシマ 百島村

廣島縣備後國沼隈郡の西南海上。浦崎村の南方約一軒の瀬戸内海上の百島一島を占む。南は海峽を隔てて、横島・田島を隔み西方に向島存す。面積三・一九平方軒。島内概ね海抜二〇〇米の臺地に占められ、北海岸に小平地あり。山麓より海岸に掛けて耕地多し。海岸線は出入多く福田・泊などの部落あり。農・蠶・漁業を營み、果實・米・麥・繭・鮑・鱒・鰻等を産す。近海に渡船の便を有す。俗にも五十島と書きしが、後世、戸數増加せし爲め百島と改むといふ。

モモセ 百瀬村

滋賀縣近江國高島郡の東北部。琵琶湖北岸。今津町の北方凡そ四軒。西北は七〇〇米餘の山脈により福井縣若狹國三方郡に界す。平地は村の東南半湖岸に沖積され、西北部山地より出づる小流を匯流す。山地は概ね森林にして木炭をだし、平地には米麥の耕作行はる。山麓部一帯には桑園ひらけ農の産少からず。高島鐵の案内工業行はれ、最近は大イヤサ地も産出さる。至

落は山麓に多く、之等を経て今津町・海津村へ至る縣道バスの通じ、兩港より湖上船の便あり。(知内湖船場)大字知内にあり。滋賀縣水産試験場の附屬船場にして、琵琶湖に放流すべき幾萬の鱒を孵化養殖す。(大鹿神社)大字森西に鎮座。神社。祭神。大地主神。式内社。例祭。四月二十二日。

モモソノ 桃園

三重縣伊勢國一志郡の東部。雲出川の左岸に位し、久居町の東南に接す。東北約四軒には津市あり。全村地形低平なり。土地肥沃にして水利の便よく米・蠶・麥を産し工業・畜産あり。西部は奈良街道及び社線參宮急行電鐵が通過し、東部は省線參宮線が走りて高茶屋驛(東北約一軒)に近し。大字新家は東國、文治三年の條に、伊勢國新屋莊と見ゆる地なり。大字木造も中世は木造莊と云ひ北高瀬の二男領使の地に榮く。その子を木造俊康と云ひ北朝に屬す。歌枕に五十郎御井といふは、大字新居にありしものならんといふ。夫木・二六「五月雨は雲まのみえす山のへいそしのみゐも水まきりつつ 爲家」

モモタチ 百立炭礦

福岡縣鞍手郡西川村内に、鐵礦七萬餘坪を有する石炭山。昭和十年の産額は塊炭一、三七六萬、粉炭二〇六三萬、切込炭五、九七九萬、粗炭六九七萬(この總價額五萬五千餘圓)にして同年六月末の鐵夫數は八十九人とす。現に重要鐵山に列す。

モモタニ 桃谷

省線城東線の一驛(明治二十八年設置)。大阪市天王寺區堂ヶ芝町にあり。

モモトリ 桃取村

三重縣志摩國志摩郡の北方海上に横はる答志島の西南半を占む。鳥羽町の東北一軒餘の海上に當り、中央に一六七米の丘陵あり。海岸は小風曲に富み、附近海上は小島嶼散在し南方には坂手島、東南には菅島等を望み北方海上には牛島・浮島、西方には辨天島・日向島等浮ぶ。水産業を主生業とし主産物は鱒・鱸・鮎、また米・麥・蠶・繭等も産す。鳥羽(毎日便船あり。明治三十年に答志村の大字桃取を分割して本村を建つ。

モモノ 桃野村

群馬縣上野國利根郡の西南部。利根川の西岸に、沼田町

の西北約四軒 三國山脈中の一部を占め、村の西北隅に大峯山(二二五米)ありて村内に傾き、東境を南流する利根川の谷に迫る。南は村の南部に移り、南境の山地との間を赤谷川東流し利根川に合す。利根川の溪谷に利根温泉(泉質、石膏性苦味泉)湧く。川沿ひに美置行はれて園の産多し。天沼鐵山(金銀銅山)は本據を古馬牧村字天沼に置けど、鐵區は當村と水上村にも跨り、昭和十年の試掘に於て金銀其他七萬餘圓を産出して一躍重要鐵山に列す。村道は赤谷川に沿ひて東走し、東隣の古馬牧村にて縣道に合す。聚落も主にこれに沿ひて發達す。古馬牧村に省線上越後關驛・上牧驛を置く。古くは和名抄、利根郡桃野の内とす。大字、小川に戰國時代沼田の支城あり、武田勝頼これを陥る。大字石倉の地は永正八年上杉顯定、長尾爲景の爲にこの地の長森原の館に殺さるといふ。江戸末期の細世家に於て利根川筋に石堤を築き、天保の飢饉には救恤を施せし小野善兵衛(贈從五位)は此地の人とす。(名胡桃城址)大字下津宇中村の内を城平と呼ぶ地にあり。川に臨める丘陵にして、城は極めて小規模なるが、信州上田眞田氏祖先の墳墓ある地にして、天正十七年、北條氏の沼田城代猪股直直、名胡桃城代鈴木主水を殺し城を奪ひたるを以て、秀吉の遺體に開れ小田原征伐の因をなせしものなり。いま藤原の址を存し公園的施設あり。(茂左

モモノ——モリ

密門地蔵)大字月夜野に在り。茂左衛門は杉本氏を稱へ、月夜野の農民なり。寛文年間藩主眞田信利は租税の請求甚しく領民疲弊の苦を嘗む、茂左衛門これを見り忍びず江戸に出で、上野輪王寺宮に訴願し、將軍綱吉の聽く所となりて信利山形に配流となりしにより、領民始めて安きを得たりしが、茂左衛門越後の罪にて貞享三年妻と共に刑せらる。領民その刑場竹之下河原に地蔵尊を安置し、一字を創して千日の供養をなせり。大正十年現地に改築せらる。

モモノイ 桃井

群馬縣上野國群馬郡の中部。榛名山東斜面の一部を占め、金古町の西北隅に、西北の一部は伊香保町と隣す。西北部に香妻山(八三一米)ありて、これより次第に東方に傾斜し、山地は森林多し、東部の山裾には桑園耕地ありて米・麥を産し養蠶も盛なり。縣道は金古町に通じ、また村道は榛名山中腹を北走して伊香保町に通ず。中世、天野遺書の領邑にして、のち足利義隆の四男遠江守義胤この地に居して桃井氏を稱す。

モモノキ 百引村

群馬縣群馬郡伊香保町・相馬村・清里村の邊に當る。

モモヤマ 桃山

山城國の伏見城址の邊の通稱。伏見城はもと互輔山の一部に營まれしが、元和年間には全く廢城となり、その址には梅や桃が植ゑられしため桃山の稱ありき。明治の頃まではその宇治見臺の邊は梅谷と稱し、觀梅の一名所たり。また城北にありし舊堀内村の邊には切花用の桃多く植ゑられ、陽春の候は美しかりき。明治天皇・明憲皇太后の御陵が相次ぎて此地に設けられ、伏見桃山の名は世界的に有名となる。いま京都市伏見區の一町名となり、省線奈良線(桃山驛)明治二十八年設置)を置く。

モモヤマ 斐山

北海道千島國根室支庁根室郡根室村の字。即ち樺太島の北東端に當る。その沿海は茂世路灣にして、北西沿岸は小リアス海岸をなし人家集り近海漁場多し。夏期には二十噸の發動機船が凡そ隔日に貨物或は旅客を運搬して北海道本島との連絡をとり、外に命令航路の船も來航す。冬ともなれば月三回の定期船も危険のため來航せざること多し。灣の南岸には茂世路山(一九六米)聳ゆ。この山は活火山にて全山火山岩より成り、その一峯硫磺嶽には茂世路鐵山ありて硫磺を産す。(茂世路鐵山)鐵區十萬餘坪、茂世路鐵業會社の採行に係り、昭和十年には硫黃二、五八五萬(一三萬餘

モモヨ 漢寄灣

北海道千島國樺太島の北東端ウツキ岬の南に在る灣。灣口東に向ひ幅約六哩、灣入二哩半。漢寄川・ヤマベツ川・硫黃川これに注ぐ。冬季は淡水の爲に閉さる。

モリ 母里

兵庫縣播磨國加古郡の東端。北より東北にかけては美濃郡に圍まれ、東北一軒餘に美濃郡三木町あり。東より南は明石郡に圍まる。東北部はヤマガカも、其他は地形概して平坦にして中部と西部に濠洲用湖あり。米産多く麥・西瓜・甘藷・吹・酢・清酒・醤油等を産す。縣道は中央を東北より西南に横斷し東部には明石市にも達す。各バスの便よし。この地は古への印南野の一部にして近世に開墾されし處なり。

【母里村】鳥根縣出雲國福壽郡の東端。縣の東端に位し、東部及び南部は鳥取縣に界す。北は安田村に、西は大塚村に接す。面積一三・二二平方軒。東南西の三方に山地を繞らし、地勢北方に展く。伯太川貫流し、中央部より北境に互る廣き平地あり。東岸に水田ひらけ、西岸は牧畜地をなす。村の三周は森林に圍まる。純農村にして米・麥・繭及び副業として

MOBO



モリ—モリ

審丁品、絹、綿等を産す。社稷伯陽電線は村内に母里(昭和五年設置)を置き、以て鳥取縣米子市に連り、また安来町に縣道通じバスの便あり。古くは母里郷と云ひ、和名抄に能義郡母里郷と見え、中世は母里荘に作る。寛文六年、松江藩主松平直政は三男隆政に母里の惣田一萬石を分與す。その子孫世襲し、明治維新に至る。

【望理】三河國(愛知縣)の古地名。和名抄に參河國望理郡あり。その地は凡そ今の寶飯郡の國府町・御油町等の邊に當るか。國府町の大字の森村は地名の遺稱なるべしといふ。

モリ

【森町】北海道渡島國渡島支庁茅部郡の西部。駒ヶ嶽の西麓を占め、内浦灣に北面す。南は檜山・龜田二郡に、西は檜部村に接す。面積三一・三四平方。東部はコニーア火山駒ヶ嶽の斜面に屬し高峻なり。西南界また山脈横りて一千米に近く諸川の源あり。河岸に向ひて傾く。中ノ川・島崎・尾白内川は北流して海に注ぎ、赤井・野野邊川等は東南流して駒ヶ嶽南麓の大沼・小沼に注ぐ。流域平地及び海岸平地を西北に連ねて省線函館本線貫通し赤井川(明治三十七年設置)・駒ヶ嶽・森・石倉(以上明治三十六年設置)の四郷あり。森より社線渡島海岸鐵道分岐東走し東森(昭和五年設置)・尾白内驛(昭和二年設置)を置く。室蘭港に定期航路

モリ

を有す。漁業を主とし鱈・鮭・鰯・昆布及び馬鈴薯・大豆・澱粉・狐等を産す。當町の地域内には石油山あれど掘はず。されど金馬山は下記大盛鑛山を始めとして比較的成績よろし。森鑛山(鑛種は金銀銅)の如き昭和九年の試採に於て金銀鑛一、二五九兩を産出して、一躍重要鑛山に列す。明治三十五年に二級町村制施行、同十年一級町村制施行し、大正十年森村を森町と改稱す。もと茅部・山越二郡役所置かる。明治天皇、明治十四年山形秋田及び北海道行幸の際この地にて御泊遊ばさる。いま明治天皇行在所御泊跡地として指定史蹟たり。「大盛鑛山」森町内に鑛區八十九萬坪を占め、森町の南方、島崎川を遡ること約一五軒の地點にあり。鑛種は金銀。鑛區の地質は安山岩及び凝灰岩にして、鑛床はこれ等の岩石をばね東西に穿通せる裂隙充填合の銀石英脈なり。主要脈は一俵にして幅幅約二二〇米、傾斜七〇度内外、多量の滿飽と少量の硫化鐵を産す。昭和十年の産額は金銀鑛一、二七〇兩(價格四萬六千餘圓)にて、同年六月末の鑛夫数は七〇人とす。當鑛山は昭和五年の發見に係り、同六年より試採をなされるが同十年遂に重要鑛山に列す。現在日本鑛業會社(株)・駒ヶ嶽鑛山(株)が食鹽泉、會社採行(駒ヶ嶽鑛山)泉質は食鹽泉、クローカルシュームを含む。駒ヶ嶽の西麓にありて、その頂上へは九・二軒、登山口へ約二軒にて建す。「瀧川温泉」大

字瀧川にあり。泉質は鹽分を含める硫酸泉。往古、噴火山の破壊時代に、大爆發をなしたる跡の盆地にして、一望廣漠たり。こゝに至る道は瀧川の湍流に沿ひ、秋季飄風の勝地とす。「稻荷神社」宇上臺に鎮座。祭神、倉稻魂命。正徳年間、松前領時代の創建に係るといふ。例祭、七月十日。

【森村】長野縣信濃國埴科郡の北西部。尾代町の東南に接す。村は東西二山脈の間の谷間にあり。東は大峰(八四一米)、鏡臺山(二六九米)にして、其の延長は東南に大峰山(一三二七米)、大郎山(一六四米)にして西南に急崖をなし斷崖崖たるを思はしむ。西は有明山(六四八米)、五里ヶ岳(一〇九四米)ありて前記山地より分離す。耕地面積二五六町にして村の面積に對する耕地率一七％にして山村の性質を有す。田七六・五町、畑一八〇町、桑畑はその中の一二五町にして耕地面積の半に及ぶ。養蠶は村の主要なり。古くは和名抄、埴科郡倉科郷の内とす。【栗正寺】淨土宗。大城山と號す。創建年代詳かならず。天文二十一年に戦火に罹り悉く灰燼に歸し、のち清野村・土口村を経て、天正二年現地に移轉せしむ。天明六年に火災に罹り、寛正年間に再建して現在に至る。

各地には平地稻畑をばらけて耕作行はる。米・麥・粟等の農産あり。南部耕地には稻の二期作を營む所あり。山地は森林よく繁茂し木材・木炭及び三桧・檜等の林産多し。所々の丘陵には牧牛を營む。中部河原に沿うて縣道通じ、東方長岡郡の本山町・大杉村にバスの便あり。瀧川の谷には林用軌道走る。大字和田に翠ノ瀧あり。一に泉見ノ瀧ともいふ。高さ十七間餘、幅一間、瀧一俵林樹蒼蒼の間に瀧下して壯觀快絶を極む。瀧背また小瀧を通じて裏面よりこれを透し見ることを得。謂ゆる泉見ノ瀧の泉は尤も奇觀絶麗なり。「住吉神社」大字印南新に鎮座。祭神、表筒男命・中筒男命・底筒男命・息長足姫命。正徳二年の創立なり。本殿・拜殿を備ふ。

【森町】大分縣豊後國玖珠郡の北部。玖珠高原の小盆地を占め玖珠川上流の右岸に位す。日田町の東方約一六軒にありて西南は玖珠町に隣り、東は遠見郷に接し北は宇佐郡及び下毛郡に界す。全町山岳重疊し特に東部は高く人見岳・福萬山(一二三六米)・カト山・平家山等の高峯屹立し峻嶮なる地形を呈す。西南部には南境に沿ひて西流する玖珠川ありて附近低地開けて盆地をなし主邑こゝに發達す。森林面積廣く低地は米・麥・粟等を産しまた材木工場・酒造場・製絲場等あり。西部には南北に走る縣道ありて新野馬溪に至る。省線久大本線西南部を掠め豊後森

【森町】秋田縣山本郡にありし村。明治二十五年森岳村と改稱す。【森町】愛知縣知多郡にありし村。明治三十九年大字の一部を大府村(現大府町)に編入し、その残部を東浦村に編入す。

モリオカ

【盛岡市】岩手縣の首都。北上川平野の北部、北上川本流と支流中津川及び伊勢川の會流地に位す。東に淺岸、南に中野、本宮、西に厨川、北に玉山等の岩手郡の諸村を繞らし、東西約一十軒、南北九・五軒、面積四九・三方軒餘。東北部は北上山地西側の臺地性山地にてその東境には高森・大倉・明神等の高處六―七百米の諸山あり。地西南に低下し中津川の支流米内川その中部を西南流す。西南部は南流する北上川と、米内川を合せて東より来る中津川、西より来る伊石川の會流部に於て概ね平坦なり。市の主要部はこの平坦部に於て慶長四年南部利直が不來方城を築きて移り盛岡と改めしに始まり、爾來南部氏十萬石(のち二十萬石)の城下町として繁榮せし處なり。大正二年厨川村の一部を、昭和四年米内村を編入し現在

奈良縣吉野郡に界す。紀伊山脈東部の一縱谷を占むる山地にて瀧田川上支の水源地をなし、峯巒重疊の山村なり。南境には瀧ノ木屋山脈が西南より東北に蜿蜒と連りて村境を劃し、西南隅に瀧ノ木屋山(一三九六米)、南境中央に白倉山(一二二六米)、連続(一三〇九米)等の高峯並び立つ。西北境には國見山(一四一九米)聳立す。山麓北境を東方へ連り東端は村の東北部の瀧田川谷によりて一旦切れ、中部にもまた東方へ延びる連嶺あり。西部に發する瀧田川は中央の山脈の南北兩麓を東流して東麓にて兩者相會し更に北部山脈の東麓を繞りて東北流し、西北方より来る河川を入れて川俣村に出づ。川の谷地に狭小の耕地ありて多少の米・粟を産し林産豊かにして良材・薪炭を出す。東北部には河谷に沿ひて和歌山街道が走り東方大石村へ定期バスあれど其他の地方との交通不便を免れず。村内に布引瀧(高一一二米、巾四米)・風折瀧(高一八〇米、巾三米)・高瀧(高一五〇米、巾二米)あり。

【森(郷)】↓海部郡(隱岐國) 【森村】高知縣土佐國土佐郡の東部。東は吉野川を隔てて長岡郡に對す。面積七四方軒。四國山脈の中央に位するをもつて、村内廣く山岳重疊し南に笹ヶ峰、北に岩鷲山・能谷山の諸峯屹立す。西北に瀧戸川、東南には吉野川上支あり、何れも東北流し、東北境をなす吉野川に注

【森(郷)】↓海部郡(隱岐國) 【森村】高知縣土佐國土佐郡の東部。東は吉野川を隔てて長岡郡に對す。面積七四方軒。四國山脈の中央に位するをもつて、村内廣く山岳重疊し南に笹ヶ峰、北に岩鷲山・能谷山の諸峯屹立す。西北に瀧戸川、東南には吉野川上支あり、何れも東北流し、東北境をなす吉野川に注

【森(郷)】↓海部郡(隱岐國) 【森村】高知縣土佐國土佐郡の東部。東は吉野川を隔てて長岡郡に對す。面積七四方軒。四國山脈の中央に位するをもつて、村内廣く山岳重疊し南に笹ヶ峰、北に岩鷲山・能谷山の諸峯屹立す。西北に瀧戸川、東南には吉野川上支あり、何れも東北流し、東北境をなす吉野川に注

モリ—モリ

モリ



の市域となれり。省線東北本線は西南部を走りて盛岡(明治二十三年設置、東京上野驛を距る三五一・七軒)を置き、橋場線・山田線とこより分岐し、前者は西方橋場驛(岩手郡明神村)に達し、後者は東方大館驛(上閉伊郡大館町)に向ひ市内に上盛岡・上米内の二驛(共に大正十二年設置)を設く。陸羽街道また南北に、秋田街道西方に通じ、交通上の要點を占む。岩手縣廳・市役所・地方裁判所・帝室林野局出張所・仙臺地方專賣局出張所・盛岡高等農林學校・岩手縣立專門學校等の官衙・學校あり、また市外野川村には騎兵第三旅團・工兵第八大隊の兵營あり。市の生産額五七八萬圓(うち工業五〇五萬圓)に達し工業品は生絲・清酒・歴史古き南部織物及び湯釜、南部製作品・玩具類等著し。毎年九月中に開催さるゝ馬市は盛観にて賣買額數一千万にも及ぶ。盛岡城址)指定史蹟。中津川下流右岸の小丘に建つ。古くは不來方城といふ。文祿二年南部利直工を起し、慶長四年竣工を告げ紫波郡山城より移り爾來子孫相承けて居城し明治維新に至る。城址にいま本丸・二ノ丸などの石垣、濠等残り規模の雄大なりしを偲ばしむ。いま岩手公園となり毎年五月一日より十日まで觀樹園行はれ美觀壯麗を呈す。園内には南部家の始祖光行、中興信直、利直を祀る櫻山神社あり。「八幡宮」志家八幡山にあり。神社。俗に南部新八幡

あり。巴川の谷は深くして農耕地は少く、山地は薪炭を産す。交通路としては巴川の谷に足助街道が足助町へ通ず。和名抄の賀茂郡山田郷の地は此地一帯を指すものと思はるるも不詳。

モリカワ 護川村

無本縣肥後國菊池郡の中部。阿蘇火山の西麓を占め西南部は大津町の西北に接す。阿蘇外輪山麓西方の緩き傾斜面を占め、土地東北より西南に低下し、如地多し。農業を主とし、米・麥・蕎麥等を産す。西部には護道が横貫し、大津町及び西北方の隈府町へバスを通ず。

モリクチ 盛口村

愛媛縣伊豫國越智郡の北方海上、大三島の東北。西は鏡村に南は宮浦・瀬戸崎二村に界し、他は海を隔てて東は生口・高根二島に、北は廣島縣豊田郡に對す。西には三〇〇米餘の丘陵南北に起伏し南には鷲ヶ頭山聳えて何れも海岸に緩傾斜をなして低下しその先きに砂灘地を開く。東岸中部には稍々廣き平地ありて耕地拓く。山地も耕作よく行はれ農業盛なり。米・麥・柑橘類・甘藷等を産し除虫菊・薬草等の特産あり。忠海(和船の便あり、また各方面へ移動機船の便あり、村名は盛・井口を合して本村を建つの際、その各々一字を取りて盛口村と稱す。

モリグチ 守口町

大阪府河内國北河内郡の西部。淀川の左岸に近く、西は大坂市東淀川區、西南は旭區に接す。而

宮といひ盛岡の總鎮守たり。境内古松老杉繁り櫻樹これに交る。境内は明治九年明治天皇東北御巡幸の御馬西を天覽あらせられし處なり。「大慈寺」東中野にあり。黃檗宗、圓泉山と號す。今の堂は正八年原教の再建せしもの、山門(勅使門)・本堂・經藏・位牌堂等あり。寺内に原教夫妻の墓あり。「本誓寺」三ツ割にあり。眞宗大谷派に屬し、觀覽上人二十四輩の第十輩、和實是心の開基にかゝる。俗に眞佛と稱せらるゝ觀覽上人四十三歳の時の自刻像を安置す。「願教寺」上田北山にあり。眞宗本願寺派。慶安年間是心坊の末裔淨信房が市外淺岸村に創建せしを、寛文中現地に移せしもの。現在の堂宇は弘仁二年南部利濟の再興にかゝる。「羅漢堂」北山の曹洞宗瑞峰山報恩寺境内にあり。堂は七間四圍。本尊盧舍那佛の頭首は弘法大師の作、臨土善哉童子と八才童子との像は朝鮮傳來といはる。本尊の左方には慈母とマルコボーロの像を置き、また左右の壇上に安置せる五百羅漢の像は享保年間丹定英父子の力作なり。「宗廟寺の大石像」東中野松尾神社の境内にあり。五智如来を中央に十六羅漢を配置す。石像すべて二十一體あり、悉く文餘の巨像なり。長壽寺の泰恩和尙の發願により境内有志の募捨を得、天保年間になりしものなり。「馬市場」盛岡驛の東南約二軒、新馬町にあり。馬検査・馬合・備置會合等を設く。毎年九

月に十日間鬻賣を行ふ。附近一帶の村々より集る二、三頭は千頭にも及び盛觀を呈す。駒籠の制は萬治元年馬町に於て行はれしに始りて今に及び南部の馬市としてその名世に著はる。「石割櫻」指定天然記念物。地方裁判所構内、花崗岩の巨岩の割目に生ぜし彼岸櫻にて、石の高き一・七米、樹高は石の表面より約五・二米。「枝垂桂」指定天然記念物。御差小路中島氏所有宅地内にあり。「盛岡杖壺」指定天然記念物。市内三ツ割龍谷寺境内にあり。一株の枝壺壺なり。「山岸のカキツバタ群落」指定天然記念物。市内山岸の温泉に生じ紫の花を著くるもののみ。

モリク 毛里田村

群馬縣上野國山田郡の南部。渡良瀬川の西南岸にて、足利市の西方一・五軒、東北は川を隔てて栃木縣足利市と相對し、西は新田郡太田町等と隣る。西境には金山(二三三米)等の丘陵地あり、大部分は平地にて水田・畑地多し。米・麥を産し、養蠶も行はれて繭の産あり。縣道は足利市及び太田町等に通過し何れもバスの便あり。南隣重川村にある社線東武鐵道伊勢崎線並川驛に近く、縣道を通ず。古くは和名抄、山田郡園田郷の内とす。大字市場に國濟寺址あり。岩松新田氏の家臣、市場繁博これに居すといふ。

モリタ 森田

青森縣陸奥國西津輕郡の東部。木造町の西南に隣り、南端は中津輕郡に接す。村の南半部は岩木山の北麓に屬して山地をなすも、北半部は津輕平野の西部に位して平坦なり。南北兩地の境には秋ヶ館湖・大澤湖その他の湖沼あり。米・苹果を産す。道路は村の中部を略東西に通ず。省線五能線陸奥森田驛(大正十三年設置)あり。「床鋪石器時代遺蹟」秋ヶ館湖池の北岸および東岸の丘上にあリ。純然たる津輕式土器を出す遺蹟にして、土偶その他發見せられたり。掘野村十腰内・十面澤などと共に岩木山北麓に

モリタケ 森田村

秋田縣羽後國山本郡の南部。能代港町の東南約一三軒。西南は八郎湯に面す。東北境に高城山(一一二米)、東南境に石倉山(一四八米)聳え、東北部及び東南部は山地をなすも、他は概ね平坦にして、三種川は東方より來り、西北に流れ村の西北境をなして西南に流る。村の中部には舟助堤をはじめ

モリトミ 守富村

熊本縣肥後國下益城郡の西北部。藤川の左岸に位し、熊本市の南方八軒餘にありて東北は隈ノ庄町に隣る。南は宇土郡に接し西隣は僅かに他郡に界す。東南隅に三一四米の山峯ありて東南部は其斜面地を占め、其他は極めて地形低平なり。清戸川は北境に沿ひて屈曲しつつ西流し西境を僅かに掠めて南流する藤川に合す。農業を主とし、米・麥・蕎麥を産し、商業・工業を營むものも僅かあり。西部を鹿島島街道及び

省線福山線の一驛(昭和十二年設置)。北海道渡島國上磯郡知内村にあり。

モリサキ 社崎

豊前國(福岡縣)の古地名。延喜兵部省式に豊前國社崎驛々馬十五疋と見ゆ。豊前國の最北の驛にして、關門海峡に臨める今の門司市の大里の邊か。

モリサト 盛里村

山梨縣甲斐國南都留郡の東部。谷村町の東方約三軒の山村。北は北都留郡旗本町に接す。關東山塊の一部を占め、全村山林に富み西へ桂川の支流を流す。西部には桑園、畑開け栗産河岸に散在す。養蠶を主産業とし、木材・薪炭等の出荷また多し。村道東西に走り、谷村町・旗本町へ村道により通じ、省線中央本線鳥澤驛へ約五軒、

發一・五平方軒の小町。全町地形極めて平坦にして土地肥沃なる爲め農産物多く産業豊かにて殊に大豆は有名なり。工業額も多く畜産もあり。近年大阪市郊外住宅地となり人口密度は七七八五人を算し郡内第二位なり。新京阪國道中央を經斷し、其他、府道東西、南北に通じ、社線京阪電鐵は南部を通り守口驛ありて、交通至便なり。此地は和名抄、茨田郡高瀬郷の内にして、秋方・大坂間の水驛たり。永祿三年六月、三好範長、島山高政を攻めんとして此地に陣せり。蘇宗寺は明治元年三月明治天皇大坂行幸の際行在所となりし聖蹟なり。

モリコシ 森越

省線福山線の一驛(昭和十二年設置)。北海道渡島國上磯郡知内村にあり。

モリサキ 社崎

豊前國(福岡縣)の古地名。延喜兵部省式に豊前國社崎驛々馬十五疋と見ゆ。豊前國の最北の驛にして、關門海峡に臨める今の門司市の大里の邊か。

モリサト 盛里村

山梨縣甲斐國南都留郡の東部。谷村町の東方約三軒の山村。北は北都留郡旗本町に接す。關東山塊の一部を占め、全村山林に富み西へ桂川の支流を流す。西部には桑園、畑開け栗産河岸に散在す。養蠶を主産業とし、木材・薪炭等の出荷また多し。村道東西に走り、谷村町・旗本町へ村道により通じ、省線中央本線鳥澤驛へ約五軒、



モリノ——モリヤ

省線鹿島本線が縦貫し、南境に後者の宇土線(明治二十八年設置)あり。南部には東走して限ノ庄町に至る縣道ありて自動車の便よし。古くは和名抄、益城郡坂本郷の内なるべし。もと庄名に呼ばれ守富庄と稱す。明治十年西南の役には其の戰場となる。(六殿神社)郷社。祭神、健甕命・大山祇神外十四神。治承年中の創建といふ。例祭十月九日。

モリノ 森野村

山口縣周防國大島郡の東部。尾代島の東部の半島部の中央に位し、北は廣島灣に、南は伊豫灘に臨む。地東西に細長く面積六、九九平方町。村内概ね丘陵起伏し、その間所々に耕地存す。海岸は天然の良灣に富み、森、和佐等の海岸養蚕あり。北岸は浮島をほじり、前面に小島多数散在し、好漁場をなす。米・麥・蕎麥・柑類類・漁獲物等を産出す。縣道を以て久賀町に通じ、抽田村へバス往來す。また近海發動機船の便もあり。

モリノミヤ 森ノ宮

省線城東線の一驛(昭和十年設置)。大府市東區森ノ宮東之町にあり。

モリマチ 森町村

新潟縣越後國南蒲原郡の東南部。信濃川の一支五十嵐川上流に沿ふ。面積二二三・七五方町の大村にて、北・東・南に互る村境は何れも越後山脈の諸峰に圍繞され、東南は福島縣岩代國南會津郡に、南は北魚沼郡、西は古志郡に、東は東蒲原郡、北は中蒲原郡

モリヤ——モリヤ

に界す。全村山岳重疊し、五十嵐川は東境駒形山に發し、山間の諸水を聚め守門川・大谷川等の支流と合し西北流す。上流は概ね峡谷をなすも西北に下ると共に狭き谷平野を開析す。聚落亦此の谷平野に多く、農業、養蠶を主産業とす。米を主とし蕎麥及び木材・薪炭等の林産物を副産す。西北より谷沿に來る縣道は守門川の谷を廻り南境の鞍掛峠を越えて會津盆地に通ず。省線彌生線長澤驛へ約六軒、途中バスの便あり。中世鹿嶋村・長澤村と共に下田郡と稱せらる。大字北五百川に八木ヶ鼻の登あり。五十嵐川の北岸に削り立つ數十丈の懸崖に配するに、老樹繁茂する下をくぐる清流を以てし、景勝地をなす。大字院内に最明寺あり、その觀音堂は當國第三十三番の札所なり。

モリモト 森本村

石川縣加賀國河内郡の中部。加賀平野の北部、森本川に沿ひ金澤市の北側に接す。東・南部に僅かの傾斜地ある外は全村平坦にして殆ど水田をなし、森本川は略中央を南北に灌漑す。農業を主産業とし米を産する外、陶器製瓦の業行はる。國道と省線北陸本線共に西南—東北に貫通し後者の森本驛(明治四十四年設置)あり。また大字吉原より東方の三谷村清水谷へも縣道を分ち金澤—清水谷(バスの便あり。此地は和名抄、加賀郡井家郷の内なるべし。古く森下にも作り井上庄の内たり。村内に龜田大岡の城址あり。大岡は入道して長信

モリヤ 守谷町

茨城縣下總國北相馬郡の中部にあり。小貝川の南岸にて、南は利根川に近く、東北は筑波郡と相對す。大部分低き濠地をなして畑地多く、所々林を交へ、小貝川附近には水田あり。農業行はれて、米・大麥・小麥を産す。縣道は中央を走りて、東南方取手町(約七軒)に通じ、聚落はこの縣道に沿ひて發達す。社線常總線道また之に沿ひ、守谷驛(大正二年設置)を設く。古くは和名抄、相馬郡相馬郷の内とす。大字守谷に守谷城址あり。一に相馬城といふ。村岡忠親は相馬御下司たり。其子千葉忠常その職を相承し、館倉に至り相馬郡を傳領してこの地に移り相馬小次郎と稱す。館倉の子胤胤相馬氏を稱し下總相馬氏の祖となり胤胤ここに居す。永祿以後小田原北條氏に屬す。天正十七年多賀氏の兵來り攻めし事あり。同十八年北條氏と共に相馬氏亡ぶ。徳川氏の領となるに及び菅沼定政を封す。のち其子定義、攝津高槻に移り、三年を経てまたここに遷封す。寛永四年、更に羽州上山へ移封せられ城遊に廢す。世に此城を以て平將門の都の地とし、相馬内裏となすは俗説なり。

モリヤ 守屋山

赤石山系に屬する一峯。諏訪郡の南岸七軒餘、長野縣上伊那郡藤澤村と諏訪郡湖南村との境上に聳ゆ。標高一六五〇米。この山日本南アルプスに於ける唯一の火山系の山にして地質學上注目せらる。山の西側に守屋神社奥社あり物部守屋を祀る。山中物部氏の遺跡と稱するもの多し。登山は北東方中央本線茅野驛より杖突峠(最高點一二四七米)を経て、又は東方青柳驛より金澤峠(最高點一九一五米)を経て行ふ。

モリヤ 守山

石川縣越前國田村郡の西部。郡山市の東南約七軒、西は阿武隈川を隔て安積郡・岩瀬郡に、南は石川郡に接す。町内丘陵多くして西北方に傾斜し、谷田川は東南より西北に流れ、阿武隈川は西境を北流す。町の西北部は稍平坦なり。米・蕎麥・粟類等を産す。道路は東南より西北に通じ、西北方郡山市、西南方岩瀬郡須賀川町へはバスの便あり。省線水郡線は町内に勢城守山驛(昭和四年設置)を設く。明治四十一年町制を布く。元祿十三年松平頼貞、この地に陣屋を設けて二萬石を食む。即ち水戸藩の支封にして子孫相繼いで明治に至りしが、明治三年二月守山藩は常陸松川に移り松川藩と改む。いま大字正直に館址あり、石川板橋土佐守高光の舊孫の居せし所といふ。正直とは蓋し庄司給の訛れるものならん。「大善寺の藤」大字大善寺宇宿、稻荷神

モリヤ 守屋山

赤石山系に屬する一峯。諏訪郡の南岸七軒餘、長野縣上伊那郡藤澤村と諏訪郡湖南村との境上に聳ゆ。標高一六五〇米。この山日本南アルプスに於ける唯一の火山系の山にして地質學上注目せらる。山の西側に守屋神社奥社あり物部守屋を祀る。山中物部氏の遺跡と稱するもの多し。登山は北東方中央本線茅野驛より杖突峠(最高點一二四七米)を経て、又は東方青柳驛より金澤峠(最高點一九一五米)を経て行ふ。

モリヤ 守山

石川縣越前國田村郡の西部。郡山市の東南約七軒、西は阿武隈川を隔て安積郡・岩瀬郡に、南は石川郡に接す。町内丘陵多くして西北方に傾斜し、谷田川は東南より西北に流れ、阿武隈川は西境を北流す。町の西北部は稍平坦なり。米・蕎麥・粟類等を産す。道路は東南より西北に通じ、西北方郡山市、西南方岩瀬郡須賀川町へはバスの便あり。省線水郡線は町内に勢城守山驛(昭和四年設置)を設く。明治四十一年町制を布く。元祿十三年松平頼貞、この地に陣屋を設けて二萬石を食む。即ち水戸藩の支封にして子孫相繼いで明治に至りしが、明治三年二月守山藩は常陸松川に移り松川藩と改む。いま大字正直に館址あり、石川板橋土佐守高光の舊孫の居せし所といふ。正直とは蓋し庄司給の訛れるものならん。「大善寺の藤」大字大善寺宇宿、稻荷神

中部に矢田川西へ流れ、香津川を合せて南境を限る。第三紀層の丘陵地は小幡ヶ原と稱せられ陸軍の演習場たり。この庄内・矢田兩川に挟まれたる低地には田畑よく拓け、米・野菜等の産額多し。中部に東西に瀬戸街道を通じ、街村の市街をなす。東部には下街道南北に通じ、省線中央本線も通ず。社線瀬戸電線は瀬戸街道に並行して敷設を置く。和名抄の山田郡給木郷は此地と思はれるも不詳。大字川村には高保時代第一期の古墳見られ、大字守山には前方後圓の古墳あり。又小幡ヶ原にも古墳ありて土器・刀剣を出土せり。守山城址は大字守山にありて、城郭及び濠の一部を残す。松平三郎清康は岡崎城を取り、後之に據りしが執せらる。天文十七年頃より尾州織田領となり信光以來數代に傳ふ。小城址は大永年中岡田興七郎住み後織田孫三郎居城せり。今騎兵第三聯隊・射撃場等ありて軍事地たり。「高牟神社」大字瀬古に鎮座。郷社。祭神、高皇產靈尊・伊弉諾尊・素戔鳴尊。天照皇大神・大山祇命を合祀す。養老元年の鎮座と傳ふ。もと高見天神又は高見鳥天神と稱す。延喜の制、國幣の小社に列し、奉唱國內神名帳に「從三位高牟天神」と見ゆ。例祭、十月十日。

【守山町】

愛知縣尾張國東春日井郡の西部。名古屋市の東に隣る。北部及び南部には第三紀層の丘陵が起伏し、八〇—九〇米の高度を有す。北境に庄内川西流し

モリヤ——モリヤ

社境内にあり。社域には古來多く藤原朝の稱あり。觀測計をなせる山地にある四株中、二株は紫藤にて天然記念物に指定せらる。「田村神社」大字山中に鎮座。祭神、坂上田村麿。田村麿の裔田村右京大夫輝顯、吉野時代に小祠を居城に替ひて其祠を祀る。即ち本社とす。のち荒廢せしを田村宗顯に至りて再興して社殿を造營す。

【守山村】

富山縣越中府射水郡の西北部。庄川の支流小矢部川左岸に沿ひ、河を隔て、高岡市の西北に接し、北は水見郡に西南は西礪波郡に界す。概ね低き丘陵をなし、南部には小矢部川の沖積平野ありて耕地開く。米・蕎麥を主産し、機業また行はる。東部を南北に水見街道貫通し高岡市へバスの便ありて交通比較的便利なり。大字海老坂に守山城址あり。一に海老坂城ともいふ。建徳二年、桃井直常ここに新設義將を攻め破る。戦國の頃は富山の支城たり。天正四年上杉謙信、富山城を圍むや城主神保氏春走りて此城を保つ。同十三年佐々成政、この城に據りて秀吉に背く、神保氏春亦これに従ふ。秀吉來り攻むるに及び成政退きて富山に入り、尋いで出でて降り、守山城また廢せらる。

【守山町】

滋賀縣近江國野洲郡の南部。野洲町の西南に接し南は栗太郡に界す。全城地形低平にして東北境には之に沿ひて西北流する野洲川あり。米・麥・菜種、

【守山村】

長崎縣肥前國南高來郡の西北

【守山村】

長崎縣肥前國南高來郡の西北

【守山村】



モリヤ—モリヨ

モリヤマ 森山

【森山村】 千葉縣下總國香取郡の東部。利根川の南に西は小見川町、東は使川町に隣り、北は川を隔て、茨城縣鹿島郡と相對す。東南部は丘陵をなすも、他は平地にて水田多く、米を主産し、他に麥、蕎麥を産し、養蠶も盛なり。縣道は川沿ひに走りて小見川町・使川町に通じ、何れもバスの便あり。省線成田線これに沿ふも、村内に線なく、小見川町に小見川驛、使川町に使川驛を置く。利根川は水運の便多し。古くは和名抄、海上郡福玉郷の内とす。中古、この附近三十餘箇村と共に橋庄(東庄ともいふ)に屬せり。大字岡飯田に飯田城址あり。東城とも橋城とも稱せり。即ち千葉常風の六男東風親の築きし城とす。村名森山は飯田城山の一名に外ならず。

【森山村】 鳥根縣出雲國八東郡の東部。鳥根半島先端部の南岸を占め、東は美保關町、北は片江村に接し、南は中江瀬戸を隔て、夜見瀬半島の境港に對す。面積一・二・七方軒、地形海岸に沿ひて東西に延び南北に縮まる。北境を東西に山脈走りて村内概ね山地なるも、海岸に稍々平地を有す。西南部に耕地拓け、海岸の縣道沿ひに街村連る。米・麥・蕎麥・清酒・醤油・木炭及び魚鹽物を産出す。松江市にバス通じ、境港には渡船の便あり。この地は和名抄、鳥根郡美保郷の内なるべし。

【森山村】 徳島縣阿波國高松郡の東部。鴨島町の東に位置し、南は名西郡に接す。南部には高松數百米の山峯東西に連なり、北に緩傾斜し中部に低下す。北部は吉野川右岸の沖積平地を占め平坦且つ肥沃なる平地をなす。農業非常に盛にして米・蕎麥の産多し。麻植郡と名西郡との境に東山登え、そこに東山嶺山(嶺は銅硫化鐵)あり、その嶺頂は森山村・西尾村・東山村及び名西郡の阿野村に跨る。同嶺山は昭和十年には含銅硫化鐵五、九四五、銅三、三二二、沈澱六六七を産出し、現に重要嶺山に列す。北境に徳島街道東西に貫通し東方徳島市と鴨島町をつなぐ。省線徳島本線牛ノ島驛・鴨島驛に近し。

【森山村】 高知縣土佐國吾川郡の東南部。西は仁淀川を隔てて高岡郡に對す。仁淀川下流左岸の沖積平地の一部を占め、東南部に高松の小丘陵の外は全村低平肥沃にて、溫暖の氣候に恵まれ農業盛なり。米・麥・蕎麥等の産多し。東部を南北に縣道貫し交通便なり。高知市へは約一〇軒、東方浦戸港へは八軒、海陸共に交通の便あり。此地古くは和名抄、吾川郡次田郷の内なるべし。

【森山村】 長崎縣肥前國北高來郡の東南部。雲仙國立公園地域に屬し、鳥原半島の基部有明海と橋津との間の地帯を占め、東は南高來郡と愛野川とを以て境となす。この地帯は、自然的なる兩部の境にして、この川を境として大體地形、地質は勿論、言語、風俗、習慣に至るまで劃然と異なるものあり。本村の基礎をなすものは第三紀層にして、其の上に、安山岩の被覆するあり。獅子噴石岳・五穀岳等をはじめ中央に幾つかの山地あり。西方小野村境の連綿石山(二八〇米)は本村内の最高峰なり。村の北部有明海方面は遠淺の泥土地帯として我國に於いて有名な地域にて、近世地立でて優良なる耕地となれり。之に反し南方橋津沿岸一帯は標式的な斷層海岸にして、直線的な海岸線は東西に走り、斷層崖下に殆ど平地を見ず、急崖をなして海に迫る。但し本村の唐比附近は、もと灣入せる濕澤地たり。今大部分干耕されしも尙ほ一部に濕地を遺す。海岸に障害物ありて川は海岸線に並行し流れ幾九十度轉回し海に入る。唐子の葉落は元の灣岸に環繞し海に發達す。西方の川は橋津岸近くのの上井半田より北流して有明海に入る。分水嶺が橋津近くに接近せるは注目すべき事なり。本村は水田の分布廣く、純農村にして縣下に於ける米産地なり。道路の開通見るべきものあり。諺早・鳥原間の有明海沿岸道路、有喜より千々石方面へ向ふ橋津沿岸道路等其の主たるものなり。社線鳥原鐵道は村の北部を東西に貫通し、森山(明治十四年設置)並ノ鼻(昭和五年設置)の二驛を置く。橋津沿岸の唐比は、沿岸汽船の寄港地たり。

モリヨシ 森吉山

阿仁合町・前田村・大河村の境上に跨り、阿仁嶺山の東方地域を占むる尠大な二重式消火山。新第三紀層および種々の火成岩(閃綠岩・花崗岩・流紋岩)を基底とし、外輪山は玄武岩及び複輝石安山岩の各熔岩流、集塊岩流より構成せられ、截頭圓錐形の成層火山をなし、山頂には直徑約三軒の火口址を遺す。この火口址は東側を崩落食岳、西側を前岳の兩外輪壁によりて限らる。前岳はその北端を一ノ腰(一二六五米)、南端を石森(一三〇八米)と稱し、馬背状山峯の體稱にして、北部は缺損し、火口瀆連環流注し、終に小又川に落つ。此山に森吉神社鎮座す。中央火口丘(向岳)は外輪壁南縁近くより噴出せる複輝石安山岩及び橄欖石輝石安山岩の各熔岩流より成り、外輪山火口壁を埋め、外輪山南縁及び外輪山南側外斜面を蔽ふ。この中央火口丘は略々完全なる圓錐形をなすも山頂に森吉神社奥宮の小熔岩丘をなす。山頂に森吉神社奥宮の一四五四米。中央火口丘は最高點一四五四米。中央火口丘は針葉樹の密林を以て掩はれ、その間に發生地散在す。外輪山は中腹以下はブナ、中腹以上はオケシラビソを混ふる密林にて掩はれ、山頂部は傾斜緩徐にして、濕潤地にはヒナゲタラ密生し、花期は美麗を呈す。この斜面は放牧地をなす。登山は西北方、前田村の樹内澤・高知郡落を

越て行はれ、西方、阿仁合町小澤嶺山・阿仁嶺山より急坂を攀ぢても至り得られまた南西方の大阿仁村榎木澤部落より最高點の西形にも取付き得らる。

モリワキ 森脇

【森脇】 廣島縣深安郡にありし村。昭和十三年本村及び中津原村・上岩成村・下岩成村の三村を廢して御幸村を置く。

モロ 毛呂村

【毛呂村】 埼玉縣武藏國入間郡の西北部。越生町の東南隅にて越邊川の南岸にあり。面積五・七一平方軒の小村。西境附近は稍々山地をなすも、大部分は平地にて、畑地多く、北境を東流する越邊川の附近に水田少しあり。農業行はれて、米・麥を産し、養蠶盛にて繭の産多し。縣道は越生町及び東方坂戸町、南方飯能町に通ず。省線八高線は南方より來りて西部を北走し、毛呂驛(昭和八年設置)を置く。また社線越生鐵道は中部を西走し、東毛呂驛(昭和九年設置)を置く。此地は鎌倉時代の始めより既に開け毛呂氏に居りて近村に勢力を振ひて室町末期の頃及びしが、北條氏の勢力關東を壓するに及び、毛呂氏もこれに服屬す。幕末の勤王家榎田直助(贈正五位)はこの地の人とす。(出雲伊波比神社)大字前久保に鎮座。惣社。大名寺廻神を祀る。毛呂大明神とも稱す。延喜式内社に充つる説あるも、他に論社ありて決し難し。地方の名社にして、建久年間鎌倉幕府社殿を造營し、爾來領主藩主の崇敬

篤かりき。例祭、陰曆九月十五日。

モロ 茂呂村

【茂呂村】 群馬縣上野國佐波郡の中部。伊勢崎町の南隅にて、面積六・三四方軒の小村なり。村形扇狀を成し諸處に小丘散るも概して平坦なり。土壤は壤質砂土大部分を占め、僅かに礫質砂土の所あるも地味一般に肥沃なり。西部を廣瀬川南流し、川沿ひは水田にて、他は畑地をなし、農業行はれて米・麥を産す。養蠶も盛にて繭の産あり。縣道は東部を走り、北は伊勢崎町、東部は境町に通ず。社線東武鐵道伊勢崎また之に沿ふも村内に線なく、新伊勢崎驛及び東南隅志村の剛志驛に近し。村内に丘墳二箇所あり。其一は殊に大にして上に神祠あり、これを美茂呂神といふ。村名の由来こゝにあり。

モロカク 諸岡村

【諸岡村】 石川縣能登國鳳至郡の西部。能登半島西海岸に沿ひ東は門前町に接す。村内三〇〇米餘の丘陵起伏し西は斷崖をなして海に迫り、嶺山崎・長谷崎二峰角を突出す。南部を八ヶ川西流し流域に狭き平地ありて農耕行はる。聚落は海岸の兩小灣に臨み漁業を主産業とす。水産類に次いで米・蕎麥の産あり、工業・畜産・林産等も多少あり。南部を縣道走り輪島・富永兩町へバスの便あり。村内に式内石瀨比古神社あり。然らば萬葉集に見ゆる岩瀨波もこゝか。

モロカク 諸縣(郡)日向國(宮崎縣)

の古郡名。書記彙行天皇御西狩の條およ

が應神天皇十一年の條に諸縣郡と見ゆ。この諸縣は大化改新の際郡となりしものか。和名抄は牟良加多と註し財部・藤田・八生・山鹿・德佐・八代・大田・春野の八郷を管す。明治に至り諸縣郡の一部は郡城縣の管下に入りしが明治六年これを宮崎縣の管下に移し、次いで同九年八月には鹿兒島縣に入る。同十七年一月諸縣郡を分ちて東・西・南・北四郡とせしとき南諸縣郡は大隅國に編入さる。

モロキ 諸木村

【諸木村】 高知縣土佐國吾川郡の東南部。長濱町の西に接し、高知市の西南部との間に鴨田村を隔て、南は土佐灣に面す。北に鷲尾・鳥帽子山等の諸山聳えて中部に低下し、西に小丘あるもその他は低平なる沖積地にて海岸に砂丘あり、甲辰川はその内側を西南流し西隣秋山村に出でて海に注ぎ、長濱川切抜によりて東方河川は東流して浦戸灣にも通ず。流域には農作盛に行はれ、米・蕎麥を出し藪草の栽培盛にて、また蔬菜の促成栽培・養蠶・牧牛も行はる。海岸には漁村並び、水産盛にて鰯・鯖・鮪等の漁獲多し。又本村は縣に於ける養蠶の主産地をなす。中央部を東西に貫通せる縣道ありて、東隣長濱町を経て高知市に通じバスの便あり。長濱町に互りて長濱川切抜あり。慶安より承應頃互り野中兼山が長濱川の運河を開鑿するに當りて鑿開せし切抜にして、嶋農部三十間、土部二十間、高さ十五間、幅七間のものにて、兩

岸絶壁而立し恰も屏風を立つるが如く、碧水洋洋として其下を流れ景色甚だ奇なり。昔時火藥の爆發を以て碎岩するの法未だ開けざりし際、鐵鎚を以て穿る峻巖を碎きて大工事を遂行成就せしは、その經營苦心は驚するに足らざるありし。

モロコ 諸古

【諸古】 愛知縣海部郡にありし村。明治三十九年、本村外四村を廢して佐織村を建つ。

モロコシ 諸越原

【諸越原】 神奈川縣中郡大磯町邊より相模川に至る間の平野の稱。奈良時代に東國に配せられたる歸化韓人を置きし所ならんといふ。

モロザキ 師崎町

【師崎町】 愛知縣尾張國知多郡の南端。半田市の幅方約二四軒。知多半島の先端に位置し、北及び東岸は知多灣に臨み、南は伊勢灣に面し、西は豊濱町に接す。本地域は第三紀層の臺地より成り、頁岩中より化石を産す。北端は海田鼻、東岸には高ヶ崎・長谷崎・林崎、羽豆岬等の小突出ありてその間に數箇の小灣を抱く。臺地の最高點は西部にて九七米を示し、聚落は海岸の低地に發達す。此地は三方海に面し、漁業盛にて漁港をなし、夏は海水浴場となる。交通路は北方半田市より東海岸を師崎街道が至り、バス通じ、篠島海水浴場・内海・瀬江(瀧美郡)・武豊には沿岸航路通ず。師崎は森崎にして、羽豆神の神林より出でし名とす。往古此半島に移住し來りしは浪田海部にして、この部族の遺習たる港より出

モリワ—モロサ



モロシ—モンシ

入する船が泊頭に向つて禮をなすの習... 伊豫海と廣島灣とを結ぶ瀬戸。諸島・情...

モロシマ

諸島瀬戸 瀬戸内海中の伊豫海と廣島灣とを結ぶ瀬戸。諸島・情...

モロスカ

諸塚村 宮崎縣日向國西臼杵郡の東部。美々津川中流の左岸...

モロツツミ

諸堤村 大阪府河内國北河内郡の西南部。長尾川の北岸...

モロシ

各その一字を取りて名付けしもの。大字西野内よりは硬質の紙を出し、西野内紙...

モロトミ

諸富 省線佐賀線の一驛(昭和十年設置)。佐賀縣佐賀郡新北村に...

モロハ

諸羽山 また諸葉山にも作る。京都市東山區四宮町の北にある山。...

モロハシ

諸橋村 石川縣能登國鳳至郡の東部。能登半島の東岸にて富山灣...

モロワ

諸和 愛知縣愛知郡にありし村。明治三十九年に本村ほか一村を廢し...

モンガン

門慶金山 昌城郡門靜村にありし村。省線根室本線の一驛(大正六年設置)。北海道釧路國厚...

モンジュ

文珠村 福島縣磐城國田村郡の北部。三春町の東方約五軒。東は...

モンジュ

文殊 福井市の南方約九軒。福井縣足羽郡麻生津村と今立郡片上村との境上...

モンシ

文殊村 岐阜縣美濃國本巢郡の中部。岐阜市の東北方約一二軒。東は朝代村に、...

モンシ—モンテ

に沿ひ、西及び西南は大阪市旭區に圍ま...

モロトノ

諸富野村 茨城縣常陸國久慈郡の中央部。久慈川の東岸にあり。...

モンゼン

門前 豊原町(栃木縣豐原郡)【門前町】石川縣能登國鳳至郡の西部。...

後面と界す。東部、西境共に高さ二—三...

モンゼン

門前 豊原町(栃木縣豐原郡)【門前町】石川縣能登國鳳至郡の西部。...

モンテン

門田村 福島縣磐城國北會津郡の中部。若松市の南に隣り、西の...

モンセン

門前町 門前町 門前町 門前町 門前町...

モンシ

町附近及び高地となれる土地にありしもの。色里三所世帯・江戸巻・木挽町の近...



モンナ—モンハ

モンナイ 門内面 朝鮮全羅南道海... 南部の西北部、海南半島の西北方に突出...

モンベツ 門別村 北海道日高國日... 高支那沙流部の南海岸、太平洋に南面し...

モンボナイ 紋穂内 省線宗谷本線... の一驛(明治四十四年設置)、北海道天鹽...

モンマ 文間村 茨城縣下總國北相... 馬郡の東部、布川町の東北隅にて、利根...

モンマ 百間村 埼玉縣武蔵國南埼玉... 玉郡の東北部、古利根川の西岸にて船壁...

モンホ—モンマ

別記

に界す。面積四三五・五平方軒。村内概... ね一〇〇—四〇〇米の山地に占めらるる...

モンベツ 紋別

【紋別町】北海道北見國網走支廳の西部... 支廳管内四郡の一。オホーツク海に面し...

と呼びて十数箇村を總て、土川に属し... たり。「西光院」大字百間東にあり。新...

別記

滑川、西部の観内川これに次ぐ。沿岸は... 耕地拓けて馬鈴薯・甜菜・亞麻・燕麥・...

【紋別町】

北海道北見國網走支廳紋別郡... の中央。オホーツク海に北面し西は下流...

と併せて十数箇村を總て、土川に属し... たり。「西光院」大字百間東にあり。新...

別記

合して紋別村を建つ。同四十二年紋別村... および雄武村の各一部を割きて興部村を...



ヤ

ヤ八村

福井縣若狭國三方郡の西部。遠敷郡小濱町の東北約一軒に位し三方湖に臨む。北隅は一軒餘にて若狭海岸に達し、西南隅は遠敷郡に接し、東南隅は滋賀縣高島郡に界す。東境には約七七八百米の山脈が南北に連り山麓は中央にて断層を以て終る。西南部にも丘陵ありて東北方へ傾斜す。中央より西部にかけては低平なる平地開け其の北部(本村西北部)に西北隅の西田村との間に跨る三方湖・菅湖及び北隅の南西郷村との間にあり久久子湖等あり。河川は中部の平野を北流して三方湖に注ぐ。この平地は田畑よく拓けて米・麥・藁等を産す。丹後街道及び省線小濱線は山麓に沿ひて縱走し、後者には三方湖(大正六年設置)あり。古くは和名抄、三方郡三方郷の内とす。舊郡役所の所在地。大字藤井に山縣下野守政冬(或は秀政)の要害跡あり。政冬は頼統の子にして、武田氏譜代の臣たり。いまた大字向笠・鳥嶺・三方・生倉・嵐山の地は指定名跡三方五湖の域内とす。(宇波西神社) 大字嵐山に御座。神社。祭神、天津日高日子波彥建甕尊草葺不合尊。延喜の制、大社に列せられ、新年・月次・新嘗の幣帛に預る。堀河天皇康和五年に神事を續せる限りにより社司に申成を料せら

ヤ谷

ヤ矢島

ヤイタ

若狭國神名帳に從二位勳三等於瀨大明神と見ゆるもの之にして、江戸時代には藩主酒井氏累代篤く崇敬す。例祭、四月八日。 山梨縣南都留郡にありし村。明治二十九年谷村町と改稱す。 志太郡の東南部。北に東谷津村、西に廣幡村、南に豊田村・小川村あり。東は駿河灣に面す。大井川下流の沖積地にして瀬戸川の河口にあり。町は漁業盛んにして、遠洋漁業は全國第一と稱せらる。水産製造も亦盛んにして、鰯・鱈・鰯の鱈・鰯の鹽辛等の特産及び荷・蜜柑・梨・蘋果等の産物多し。縣社焼津神社および水産學校あり。古くは和名抄、益頭郡新居郷の地とす。日本武尊、東夷征伐の際土賊に圍まれ給ひしが、寶劍にて草を薙ぎ、辛くも火を免れし古跡は一に此地なりといふ。然し安倍郡有度村大字草薙にもその遺跡を傳へれば如何にや。或は二回ありしを古史の誤りて一事とせしものか。いま町内に焼津神社ありて日本武尊を祀る。この地は新開の地なるも、村は遠く上代に起れり。幕末の勤王家、村松文三(贈正五位)は此地の人にして、その邸址及び墳墓あり。焼津濱は砂白く波靜かにして海水浴に適す。文豪小泉八雲これを受し生前屢々來遊せしを以て、いま其碑を建ててこれを記念す。(焼津神社) 大字焼津に御座。神社。祭神、日本武尊。

ヤイタ

ヤイタ

此地区は景行天皇四十年、日本武尊が賊軍を滅ぼし給ひし處と傳へ、焼津明神ともいひ、また入江大明神とも稱したり。社記に反正天皇四年の創建といふも如何にや。延喜の制小社に列せらる。近世は今川氏眞・徳川家康等社領の寄進ありき。例祭八月十三日。 茨城縣常陸國筑波郡の南端。小貝川の北岸にして南は川を隔て、北相馬郡と相對す。面積五・九方軒の小村。全村低地にして水田多く、川の附近は畑地をなし、農業を主とし米を主産し、大麥・小麥の産もあり。縣道は東部を縱走し北は谷田部町、南は北相馬郡相馬町・取手町等に通ず。谷田部町・相馬町へはバスの便あり。江戸末期の北地探検家間宮林蔵(贈正五位)は此地の人なり。林蔵、資性慧悟、書畫を能くす。文化五年七月幕命を受けて蝦夷探検に従事し、更に樺太島に涉り、冷く島内を巡視し、遂に露領東韃靼の境に達す。言語不通の間を遍歴して備に饑寒を警め、殆んど死に瀕せしも居せず、翌年十一月使命を全うして歸府し、其の實査報告を評述し、且つ東韃記行二巻、其他を著して幕府に報告するを得たり。蓋し本邦人にして此地探検の先驅なりといふ。弘化二年病を以て深川の寓に歿す。年六十五。(正覺寺) 谷田部にあり。淨土宗。成等山稱法院と號し豐岡弘經寺末たり。寛永三年創建、開山を法善善上人とし本尊阿彌陀如來を安す。(專稱寺) 上平

ヤイタ

ヤイタ

柳にあり。淨土宗。金龍山光院と號し豐岡弘經寺末たり。天平中、行基菩薩の草創と傳へ、天文中、専進社稱譽無道上人これを中興す。本尊阿彌陀如來を安置し境内に間宮林蔵倫宗の墓あり。近年大記念碑を建つ。 栃木縣下野國鹽谷郡の東南部。東は那須郡と隣りす。町の西半及び東境附近は低き山地をなして森林あり。中部は稍平地をなして内川の支流南流し、川沿は水田、他は畑地をなす。農業行はれて米を主産し麥・藁の産も多し。また山地には森林ありて木材を産し製材行はる。陳羽街道は中央の平地を東北に走り、日光北街道はこれと交叉して西走す。主要部落はその交叉點たる中央部に發達す。またそれより北走する縣道ありて北方等根村に通じ、省營自動車矢板線通じ、等根村内に於て鹽原本線に連絡す。省線東北本線は陳羽街道に沿ひて走り、矢板驛(明治十九年設置)を置き、同驛より社線下野電氣鐵道分岐して西走し、幸四驛(昭和四年設置)を置く。古くは和名抄、鹽谷郡山上郷の内にして中世は川崎庄の内とす。一八八四年に作り、鹽谷郡の郡役所を置かれたり。明治廿八年町制を布く。大字館之川に鹽谷氏の舊城あり。一に川崎城ともいひ、正治・建仁の間、鹽谷五郎兵衛尉朝業始めて築く。朝業は宇都宮義綱の二男とす。大字幸岡はまた幸實に作る。鹽谷系圖に朝業の三男親時は幸實五郎左衛門と稱すと。

ヤウラ

ヤエ

ヤエ

【本館神社】本館に御座。神社。祭神、正盛菩薩を連日天忍尊耳命外三神。朱印領二百石。神位、明和四年正一位。延喜年間坂上田村麿山城國許波多神社を勧請せしもの。例祭、陰曆九月九日。 島根縣大原郡にありし村。昭和九年本村外一町一村を廢し、合併して加茂町を置く。 廣島縣安藝國山縣郡の中部東偏。壬生町の西に隣接し北は川追村、西は原村、南は本地村に界す。面積四二・一一平方軒。北に平家ヶ城山(六二〇米)、南に猿嶺山(七九六米)が境界をなし、北部及び西南部は七〇〇米近き山地なれども、可愛川の一支流東部を南に流れ、東南部に沿岸平地をなして、流域より山麓にかけて耕地よく拓く。西北部は概し山林地なり。農業を主とし、林業・牧畜等も盛んにして米・麥・藁・清酒・木炭等の産多し。縣道東部を貫通し大朝町・安佐郡可部町に定期自動車の便を有す。古くは和名抄、山縣郡山縣郷の地にして、大字古保利あれば古の郡家の地なりしにや。大正十一年町制を布く。大字有田に稻荷丸城址あり。通志に據れば山縣郡五郎の居所なりと。また除徳太平記には小田信忠・吉川經基・高橋元光等互に攻合し、遂に武田元繁に取られしや。のち毛利家より再び攻め取らるを見ゆ。 長野縣信濃國下伊那郡の南端。天龍川の東邊にありてその支流連山川の谷地なり。村

ヤウラ

ヤエ

ヤエ

は山地に開かれ、略南北に縱谷をなす。此の縱谷は連山川と水窪用のなす縱谷にして、中央裂線の構造をなす。兩川の分水界は青崩峠と稱す。東境に時つ白倉山(一八五二米)は外帶山系に屬する結晶片岩の古生層の山地、また村の西境にある熊伏山(一六五九米)は内帶山系に屬する東邊は急峻をなす。連山川は此の間を深く侵蝕し、平地極めて少く農業振はす。耕地面積七五町、うち田一二町、畑六三町、(内桑畑三六町)にして、全面積に對して二割に達せず。林業を以て主業となす。當村と靜岡縣周知郡水窪町とに渡區の跨る赤石嶺山あり、鐵道は金銀銅ニツケル硫化鐵なるが、昭和十年より事業を開始せり。村に秋葉街道通じ、伊那谷の三州街道の裏街道をなす。いま、南和田村・和田村・木澤村・上村と共に組合村を成し、和村に役場を置く。 山形縣羽前國東田川郡の北部。余目町の南に接す。面積五・六四方軒。庄内平野に屬し、全村平坦にして、京田川は西南境を西北に流る。村の生業は農業を主とし、米作盛なり。道路は村の中部を東西に通ず。省線羽越本線余目驛(は約二軒あり。明治二十三年當萬村の大字田谷・大野・西小野方・吉岡・若沼・柳田・島田・近江新田の八大字を合併して本村を置く。村名は蓋し八里の榮ゆるを看ひて名付けしものならん。 山形縣羽前國

ヤエハタ

ヤエハタ

ヤエハタ

東田川郡の北部。藤島町の北に接す。面積五・〇七方軒。庄内平野に屬し、全村平坦にして、京田川は東境を、その支流藤島川は西境を各西北に流る。村の生業は農業を主とし、米の産多く、また藁を出す。道路は村の中部を南北に通じ、南方省線羽越本線藤島驛(は自動車の便あり。八色・豊榮・小中島の三村を合して本村を建つるの際、各々その一字を取りて八榮島村と稱す。 岩手縣陸中國神宮郡の中部。花巻町の東北方約八軒、東南は和賀郡に接す。北上山地の西斜面にて、東境には櫻現堂山(四七六米)聳え西方に傾斜し、村の東半部は山地なり。西半部は北上川平野に屬して平坦なり。神宮川は北部を西流し北上川に合し、北上川は西境を南流す。村の生業は農業を主とし、米・麥・大豆等を産す。省線東北本線石鳥谷驛(は西北約六軒あり。 千葉縣上總國君津郡の西部。小糸川の北岸にて、木更津町の南方約六軒にあり。東境附近は丘陵地をなすも、他は南境を西流する小糸川流域の平地にて水田多く一部畑地をなし、農業行はれて米を主産し他に養鰻を産す。縣道は北方木更津町、西南方佐貫町等に通じ、省線房總西線は村の西端をかすめて西走す。村内に驛なきも西隣西村内の周西驛に近し。古くは和名抄、周准郡三直郷の地にして、大字三直は蓋しその遺稱とす。

ヤエヤマ

ヤエヤマ

ヤエヤマ

【八重山諸島(群島)】琉球風の南西諸部をなす島群にて、那覇を距る南西約二五〇哩の海上に基布し、東の石垣島、西の西表島の二大島とその中間及び南方にある竹富・黒・新城・波照間諸島及び西表島の西方に當る與那國島等より成る。全面積六三七方軒餘。石垣島は地質複雜にして古生層・新舊の火成岩・陸起珊瑚礁等もあるも西表・與那國島は第三紀層より成り西表には石炭を産す。地形また變化多く石垣島中央部の於茂登山(五一〇米)西表島南部の御座岳(四五〇米)等を最高處とし、海岸また出入・牛島に富むも、暗礁淺瀬ありて良港地に乏し。西表は殆ど山林をなし、石垣島も東北部は山林多きも中部には廣漠たる原野あり。氣候は神宮島に比してや、高温なるも海風吹渡りてこれを緩和す。たゞ屢々颱風の慘害を被ると、西表島をばじめ石垣島の山林地帯がマラリヤの基宿なるとば、開發の二大障害たり。水産物・米・畜産・石炭・林産・上布等の物産あり。行政上、尖閣諸



ヤオ——ヤオツ

鳥の小火山嶽群と共に八重山郡をなす。

ヤオ 八尾町 大阪府河内國中河内郡の中部。布施市の東南に接す。地形低平にして大和川の分流玉串川・長瀬川西北に流れ、田畑よく拓げ米・麦・蔬菜其他の農産物豊かにして工産額は第二位を占め、畜産もあり。西部に市街地発達し、河内街道南北に走り、東西にも府道あり、社線大阪電軌は中央を横走し、山本(大正十四年設置)及び大軌八尾・久寶寺口(大正十四年設置)の四線を置き、省線關西本線八尾(明治二十二年設置)は西隣の龍華町に置かる。古くは和名抄、若江郡弓削郷の地なるべし。中河内郡の大邑にて嘗ては郡役所を置かれたり。明治三十六年町制を布く。大字壹振は康正二年夏島山政長と同族義誠と家督を争ひ戦ひし地とす。時に其の旗印同じくして按我分ち藤きを以て政長、味方の旗に乳をつけて羊にさす。時人みなこれに倣ひ旗の制一變す。即ち後世の乃保利の始なり。(八尾城)その地は大字木戸・莊之内の邊なるらん。延元二年十月南軍の高木道盛・小山忠能等、當城を攻めて焼く。正平二年八月、北軍の細川頼氏、河内に楠木正行を討たんとす。正行即ち八尾城を攻む。頼氏これを救はんとして来るや、正行急に夜襲し頼氏の大家を譽田林に破る。同十五年北軍島山道盛、南軍を此地に破る。大阪夏の役に西軍長官我部盛親・増田盛次等東軍藤堂高虎の軍と此地に戦ひ遂に之を破れり。(先作神社) 大字別宮に鎮座。

ヤオカ 八鹿町

兵庫縣但馬國養父郡の北部。出石町(出石郡)の西南方約九軒にあり、土地東西に長くして北境の中部・西部は城崎郡に接し、西境は美方郡に界す。西境南部に妙見山(一一四二米)聳え其山脈より東方へ延びる二條の連嶺は南北兩端を限り、妙見山より發する河川は中央の谷地を東に流下し、東部にて西々南方より来る八木川に合す。東隅に聳る山地の西麓を北流する圓山川は北隅にて八木川を合し東北に流れ伊佐村に出づ。圓山川と八木川との合流點の南にも小丘の北斜地あり。地理的に物資の集散すべき重要な位置を占め各種の産業発達し、河川流域の低地は田畑よく拓げて米・麥類の産多し、また但馬は古より農家の副業として盛に養蠶を行ひ八鹿町附近は其中心地をなし麻立蠶業學校・蠶業取締所・郡製絲分工場ありて繭・蠶絲の産額多し。其他蔬菜・花卉・食用農産・果實・製茶・高麗芋等の産あり。八鹿町附近の八木川は粘の名産地にして八木太郎と稱し、毎年六月より九月に

ヤカミ 八上

八上(郡) 河内國(大阪府)の古郡名。もと丹比郡の中の八上・八下二郷の地。中世私に是等二郷を八上郡と稱せしものなるべし。爾後ヤカミと調す。明治二十九年古市・安宿・丹南・石川・錦部の五郡及び志紀郡の一部と合して河内内郡を建て郡名を失ふ。【八上村】 兵庫縣丹波國多紀郡の南部。篠山川の南岸に沿ひ、篠山町の東南に接し、南隅に有馬郡に界す。南部には三國ヶ嶽(六四八米)一帶の山地ありて地は北へ傾斜す。北部は篠山盆地の一部を占め北境に沿ひて篠山西麓す。米・麥類・繭・蔬菜・花卉・食用農産物・果實及び木製品・葛製品・現物・鶏卵等を産す。北部には縣道東西に横斷す。古くは和名抄、多紀郡篠原郷の内にして、近世日置村と共に八上と稱せらる。永正年中波多野秀忠、朝路山(日置村)に築城し此地を市邑とす。慶長中に城市を篠山に移し、爾來全く衰退せり。【八上(郡)】 因幡國(鳥取縣)の古郡名。古事記神代卷に大國主神、稻羽八上比賣を入れて記すと見ゆ。この八上が後に郡名となれるもの。續紀實錄五年の條に郡名始て出づ。和名抄は夜加美と註し若櫻・丹比・刑部・日理・日部・私部・土師・大江・散岐・佐井・石田・曳田の十二郷を管す。中世私にその東部六郷を割きて八東郡を建て、拾芥抄これを謬りて八東郡とし、近世これによりて八東郡

ヤオクリ 矢送村

鳥取縣伯耆國東伯耆郡の南部。倉吉町の西南約一〇軒。北は南谷村に對し、南は岡山縣に隣接す。中國山脈北部の山地を占め、南には牛甲山をばじめ高取七〇〇米餘の山岳連互して時北に向つて傾斜す。天神川の上支中央の山地を切つて北流し、北境を流る上支と東北隅にて合し倉吉町の方角に流る。流域には平地稍々開けて耕作行はる。米・麥を産したる地を出す。山地は牧場をなし、牧羊盛なり。古くは和名抄、久米郡久米郷の内なるべし。【關金温泉】 倉吉より作州に通ずる垣道を小鴨川に沿ひて溯りしところ、南に突き當りたる山麓の裾にあり。養老年間の發見にかゝり、のち一時中絶せしを大同年間に弘法これを再興し、のち元弘年間山名某薬師如來の夢告によりて浴槽を設けたりと傳ふ。泉質は鹽類泉及び硫酸泉。ヤオツ 八百津町 岐阜縣美濃國加茂郡の南部。多治見町(土岐郡)の北

ヤカミ

は地上約七米の高さより二分して並立し目通幹圍約一〇米あり。この邊海拔八百米餘、北方遙に久美嶺の海面を窺む。尙ほ妙見山頂まで南へ登路一軒半、山頂は海拔一一四二米に及ぶ高地にて、十一月中旬より四月下旬までは積雪二米前後に及ぶため山中には寒性草木多し。はうちかへで、やまばやし・とちのき・ほほのき・かつら・たらのき・さるなし・またたび・みつばあけび等は普通にして尙山頂近くには更に北方寒性草木生ふ。

鳥の小火山嶽群と共に八重山郡をなす。内部の中部。布施市の東南に接す。地形低平にして大和川の分流玉串川・長瀬川西北に流れ、田畑よく拓げ米・麦・蔬菜其他の農産物豊かにして工産額は第二位を占め、畜産もあり。西部に市街地発達し、河内街道南北に走り、東西にも府道あり、社線大阪電軌は中央を横走し、山本(大正十四年設置)及び大軌八尾・久寶寺口(大正十四年設置)の四線を置き、省線關西本線八尾(明治二十二年設置)は西隣の龍華町に置かる。古くは和名抄、若江郡弓削郷の地なるべし。中河内郡の大邑にて嘗ては郡役所を置かれたり。明治三十六年町制を布く。大字壹振は康正二年夏島山政長と同族義誠と家督を争ひ戦ひし地とす。時に其の旗印同じくして按我分ち藤きを以て政長、味方の旗に乳をつけて羊にさす。時人みなこれに倣ひ旗の制一變す。即ち後世の乃保利の始なり。(八尾城)その地は大字木戸・莊之内の邊なるらん。延元二年十月南軍の高木道盛・小山忠能等、當城を攻めて焼く。正平二年八月、北軍の細川頼氏、河内に楠木正行を討たんとす。正行即ち八尾城を攻む。頼氏これを救はんとして来るや、正行急に夜襲し頼氏の大家を譽田林に破る。同十五年北軍島山道盛、南軍を此地に破る。大阪夏の役に西軍長官我部盛親・増田盛次等東軍藤堂高虎の軍と此地に戦ひ遂に之を破れり。(先作神社) 大字別宮に鎮座。

いまた矢貫町に省線備前線の矢貫驛(昭和四年設置)あり。ヤカイ 谷貝村 茨城縣常陸國常陸郡の東部。眞壁町の西北隅にあり。全村平地にて、中部以東は畑地多し、所々林を交へ、西部は木田をなす。農業行はれて、米・小麥・大豆を産す。縣道は南部を横走し、眞壁町及び西北方約七軒の下館町に通じ何れもバスの便あり。眞壁町の社線筑波鐵道眞壁驛に近し。古くは和名抄、眞壁郡長貫郷の内なるべし。弘安勅文、眞壁郡谷貝十五町、細紫三町と見ゆるは此地とす。

【八上(郡)】 河内國(大阪府)の古郡名。もと丹比郡の中の八上・八下二郷の地。中世私に是等二郷を八上郡と稱せしものなるべし。爾後ヤカミと調す。明治二十九年古市・安宿・丹南・石川・錦部の五郡及び志紀郡の一部と合して河内内郡を建て郡名を失ふ。【八上村】 兵庫縣丹波國多紀郡の南部。篠山川の南岸に沿ひ、篠山町の東南に接し、南隅に有馬郡に界す。南部には三國ヶ嶽(六四八米)一帶の山地ありて地は北へ傾斜す。北部は篠山盆地の一部を占め北境に沿ひて篠山西麓す。米・麥類・繭・蔬菜・花卉・食用農産物・果實及び木製品・葛製品・現物・鶏卵等を産す。北部には縣道東西に横斷す。古くは和名抄、多紀郡篠原郷の内にして、近世日置村と共に八上と稱せらる。永正年中波多野秀忠、朝路山(日置村)に築城し此地を市邑とす。慶長中に城市を篠山に移し、爾來全く衰退せり。【八上(郡)】 因幡國(鳥取縣)の古郡名。古事記神代卷に大國主神、稻羽八上比賣を入れて記すと見ゆ。この八上が後に郡名となれるもの。續紀實錄五年の條に郡名始て出づ。和名抄は夜加美と註し若櫻・丹比・刑部・日理・日部・私部・土師・大江・散岐・佐井・石田・曳田の十二郷を管す。中世私にその東部六郷を割きて八東郡を建て、拾芥抄これを謬りて八東郡とし、近世これによりて八東郡

に改めしが、久しからずして併に復す。明治二十九年、四月八東・智頭二郡を合して八頭郡を建て。【八上村】 鳥取縣因幡國八頭郡の北部。東は千代川を隔て、國英村に、北は河原村に、南は散岐・西郷二村に界し、西は氣高郡に接す。北・南兩部には高取二〇〇米餘の丘陵起伏して中央に向つて低下し稍廣き平地をつくる。西方より来る溪流はこの平地を貫流して東境を北流する智頭川に注ぐ。流域には耕地拓げて農産少からず、米・麥等を産す。山地は牧場をなし牧羊盛なり。智頭川の對岸に縣道南北に走り本村の東北隅を掠めて並走しに通ず。省線因美線も略々縣道に並走しその河原(國中村)・國英(國英村)二郷に近し。もと曳田村といひしが明治四十四年八上村と改稱す。【寶沼神社】 大字曳田に鎮座。郡社。祭神、八上比賣神。式内社。舊稱四日天王。例祭十月十五日。ヤカミ 矢上村 鳥根縣石見國邑智郡の西南部。東北は中野村、西は日貫村、南は田所・市木二村に接す。面積二三・八四方軒。西北に京太郎山(八二七米)、西南に原山(八八八米)聳え、地勢は西部と南部とに高く、東北方に傾斜す。西部山地の中央より東北境にかけて地勢展げて平地をなし、附近に耕地多し。粟落は中部に連り純農村にして米・繭・清酒・醬油等を産し、牧畜また行はる。山間の僻村にして交通不便。省線山陰本線江津驛に約四〇軒あり。川本町に車馬通す。古

方約一六軒。北より東にかけては久田見村に接し、南は木曾川を挟みて可兒郡錦津村に對し、西は和知村に隣る。古生層より成る東麓山地中にありて、南は木曾川の峡谷を以て限り、東境に旗足川峡谷を穿つて木曾川に合流す。木曾川沿岸のみ耕地ありて農業専まれ、養蠶業も行はる。商業も此地方の中心をなし、工業は酒・醬油の醸造盛にして、また絹織物・人絹織物の産出あり。町は木曾川の右岸に発達し、古く木曾街道の一驛にて、今は廣見より来る社線東美鐵道の終點八百津驛(昭和五年開業)あり。中世細目郷と呼ばれ、細目は米田莊に屬せしことあり。大字には黒瀬・渡渡・大迫間・鯉居・油皆波・柳澤・北山あり、柳澤の南丸山に今草城址あり。山上に古井残り五輪石塔もあり。里人の傳ふる所によれば今草氏の居城なりしと。土岐系國には「彈正少弼頼遠の子孫保修理亮氏光於細目討死」と見ゆ。町名は傳説に、文武天皇の大寶年間には坂坂街道を開く時、錦織中納言により八百津と命名されしと。爾後細目郷と稱せられ、明治二十二年町制實施と共に八百津と改名す。惟ふに木曾川に沿ひ、水運の便よき地なれば、かく呼ばれしものならん。

ヤガ 谷ヶ

神奈川縣足柄上郡にありし村。大正十二年、本村外二村を廢し其の地域を以て清水村を置く。

ヤガ 矢賀

廣島縣安藝郡にありし村。昭和四年廣島市に入り、その町名となる。

ヤカミ 八上

八上(郡) 河内國(大阪府)の古郡名。もと丹比郡の中の八上・八下二郷の地。中世私に是等二郷を八上郡と稱せしものなるべし。爾後ヤカミと調す。明治二十九年古市・安宿・丹南・石川・錦部の五郡及び志紀郡の一部と合して河内内郡を建て郡名を失ふ。【八上村】 兵庫縣丹波國多紀郡の南部。篠山川の南岸に沿ひ、篠山町の東南に接し、南隅に有馬郡に界す。南部には三國ヶ嶽(六四八米)一帶の山地ありて地は北へ傾斜す。北部は篠山盆地の一部を占め北境に沿ひて篠山西麓す。米・麥類・繭・蔬菜・花卉・食用農産物・果實及び木製品・葛製品・現物・鶏卵等を産す。北部には縣道東西に横斷す。古くは和名抄、多紀郡篠原郷の内にして、近世日置村と共に八上と稱せらる。永正年中波多野秀忠、朝路山(日置村)に築城し此地を市邑とす。慶長中に城市を篠山に移し、爾來全く衰退せり。【八上(郡)】 因幡國(鳥取縣)の古郡名。古事記神代卷に大國主神、稻羽八上比賣を入れて記すと見ゆ。この八上が後に郡名となれるもの。續紀實錄五年の條に郡名始て出づ。和名抄は夜加美と註し若櫻・丹比・刑部・日理・日部・私部・土師・大江・散岐・佐井・石田・曳田の十二郷を管す。中世私にその東部六郷を割きて八東郡を建て、拾芥抄これを謬りて八東郡とし、近世これによりて八東郡

ヤカミ 矢上村

鳥根縣石見國邑智郡の西南部。東北は中野村、西は日貫村、南は田所・市木二村に接す。面積二三・八四方軒。西北に京太郎山(八二七米)、西南に原山(八八八米)聳え、地勢は西部と南部とに高く、東北方に傾斜す。西部山地の中央より東北境にかけて地勢展げて平地をなし、附近に耕地多し。粟落は中部に連り純農村にして米・繭・清酒・醬油等を産し、牧畜また行はる。山間の僻村にして交通不便。省線山陰本線江津驛に約四〇軒あり。川本町に車馬通す。古

ヤカミ



くは和名抄、邑智郡邑美郷の内なり。〔諏訪神社〕宇金田山に鎮座。郷社。祭神、健甕名方神外一神。承和二年信濃國諏訪神社の祀部、左衛門太郎信連氏の神を勧請せし。例祭九月二十八日。

ヤカミ 矢神村

郡の西部。新見町の西方約一〇軒に位し西は廣島縣に界す。北に神代村、東に新紙村、南に野藤村あり。面積四五・二四方軒。西境に高取七一九百米の山脈南北に連り、東南方に傾斜するも、村内概れ山岳地に属し平地に乏し。高梁川の支流西川は北部山地に發して東南流し、沿岸に河谷をひろく。附近に耕地拓くも、他の大部は山林地なり。米・麥・蕎麥・木炭・柿・酒類等の産あり。省線備後線矢神驛〔昭和五年設置〕あり。古くは和名抄、智多郡神代郷の内なるべし。

ヤカミ 八神

岐阜縣羽島郡にありし村。昭和二年本村外一村を廢しその地域を以て新原村を置く。

ヤカミ 矢上村

長崎縣肥前國西彼杵郡の東南部。長崎市の北東約一二軒。恰も長崎市の背後地に當り南方は橋瀨に臨み、東は北高米郷と接す。地形北・西及び東は山地にして、其の間に東偏して八郎川流れ流城は沖積層の低地帯なり。爾餘の山地は西部の大部分は結晶片岩より成り、所々に玄武岩・安山岩の噴出を見る。西部の黒岳は玄武岩より成る。其の北部には岩の噴出あり。東部の行仙嶽は安山岩なり。中央低地帯と右の火山

噴出岩地帯との間の丘陵地は殆ど第三紀層なり。海岸は肥前半島特有の沈降性海岸なるも、八郎川流域は其の後の隆起あり、堆積平地と、海岸に東望の濱の砂地とを造り、長崎近郊の海水浴場たり。長崎より縣營バス等往來し交通の至便と風光の美とを以て夏季遊覽客雲集す。前面に横ばる牧の島は主に第三紀層より成り風光美なり。交通は長崎より諫早に至る縣營バス・雲仙登山バス等長崎より國道日見峠の大トンネルを抜けて往來す。隣村日見村間の湖場港は近時築港完成により沿岸汽船此地に碇泊し海路また便となる。産業は殆ど農業を主とし、野菜・枇杷等も亦栽培せられ、長崎に送らる。〔矢上神社〕字三番町に鎮座。郷社。祭神、素戔鳴尊・大己貴命・少彦名命。創建年代詳かならず。天正三年今の地に奉遷し、爾來矢上全村の産土神として崇敬せらる。例祭九月廿九日。

ヤカワ 八川村

島根縣出雲國仁多郡の東南部。斐伊川の上流重原川に沿ひ、東は鳥取縣、南は廣島縣に界す。北に鳥上・横田二村、西南に馬木村あり。面積六〇・一三平方軒。郡の中央部より東南隅に延び横ばる大村にして、南半部は三國山(一〇〇四米)の北麓に位し地勢高峻を極む。北部は蕪ヶ瀬山(五六五米)の南斜面に属し、高度概ね五百一七百米の山地に蔽はるも南部には平地あり。重原川は三國山麓に發して北流し山間に河谷を刻み沿岸に耕地拓く。他の

ヤカワ 八川村

山陽電氣鐵道が横走して八家驛・八家貨物驛(共に大正十二年設置)あり。中世に丹波氏流朝倉氏の一族の地に居し八木氏を稱す。大字木庭はまた木場を作り、往昔は木庭の鹽濱・キニハの泊などといひ一泊所なり。

八木村

兵庫縣淡路國三原郡の中部。福良町の東北約一〇軒にあり、地西北より東南へ延びその東南端は論鶴山脈分水嶺に及び、山地を隔てて東は津名郡上灘村に界す。論鶴山山地より西北方へ延びる二條の股脈は東西兩境を限り、中央は西北方へ開く淺き谷をなす。東北部にも小丘陵あり。中部及び西部は三原平野の一部にて平地に開村へ連り山麓に灌漑用の池塘を設く。土地肥沃にして米・麥類・蕎麥・蔬菜・食用農産物・果實・製茶・胡麻等を産し醬油・蠶製品・瓦・刃物・鵜居等も産す。四國街道は中部を東北より西南に通じて洲本・福良兩町間の自動車往來し社線淡路鐵道の市村驛(西方約一軒)へ近し。古くは和名抄、三原郡斐宜郷の地に於て、今も大字に斐宜あり。鎌倉時代、武家この地に國府を置き八木府と稱す。いま國分寺及び國分尼寺址あり。また村内に八木館(斐宜館)の址あり、小山田氏の宅地なりと傳ふ。足利尊氏治世の初め、細川和氏の弟師氏、淡路の守護となりて來り、斐宜の故館に入る。のち此地の細川氏亡び國人みな三好氏に屬し、八木館また亡ぶ。(淡路國道松並木)指定天然記念物。本村斐宜

大部は山林地にして、物産に米・麥・蕎麥・炭あり。河岸に省線木次線通じ坂根・八川の二驛(昭和九年設置)を置く。

ヤカワ 谷川

愛知縣津島郡にありし村。明治三十九年本村外一村二村を廢しその地を以て田原町を置く。

ヤキ 八木

出羽國(羽前・山形縣)の古地名。和名抄に出羽國最上郡八木郷と見ゆ。その地詳かならざるも、或は今の西村山郡の地内なる左澤町・大谷・宮宿町の邊なるべし。

八木村

千葉縣下總國葛飾郡の西部。柏町の西隣にて、西南は流山町、南は小金町と隣りす。全村平地にて地多多く所林を交へ、南部は低地に於て流山町・小金町等に續く沼田の一部をなす。農業行はれて米・麥を産し、養蠶も行はる。縣道は中央を横走して柏町・流山町に通じ、柏町にて陳前濱街道に合す。兩町へパスの便あり。社線總武鐵道は柏町より來りて、村の中央を北走し北部に初石驛(明治四十四年設置)を置く。

八木

近江國(滋賀縣)の古地名。和名抄に愛智郡八木郷とあり。その地はいま愛知郡八木村の邊に當る。

八木

京都府丹波國船井郡の南端。丹波龜岡盆地の北部に位し、町の東は大堰川に隈られ、西・北・南の三面は古生層より成る丘陵性山地にして、高取最高約三八〇米に過ぎざるも傾斜稍々急なり。また南東部には花崗岩の噴出を見る。北東部より町の中央に近く平地ひろく。八木市街地は過半商業、其の他は農業を主とす。省線山陰本線八木驛(明治三十二年設置)ある關係上、近村への貨物集散地たり。また醸造業行はれ、名物燗酒を産す。町内に八木嶺山あり、瀧山にして昭和十年より事業を開始す。國道山陰街道龜岡より來り、本町を過ぎ國部に至る。其の發生古く既に上代にありと言はれ、京都山陰諸國とを繋ぐ主街道たる事古今變りなし。本街道に沿ふ部分には本町の主要なる街衢にして、形態上、街村に屬す。周山に向ふ街道此處より大堰川を渡り盆地東縁の斷層崖を越ゆ。山陰本線八木驛は町の西部にあり。大堰川の舟吉は古より行はれ、桑田郡の物産は舟吉富村島羽等の集散地たりしも鐵道開通後衰へたり。本町の中心地大字八木の街衢は元大堰川の河床なり。元和年間、國郡藩主小出吉親これを改修し、北東に轉じ新地を築き、數十町歩の新田を得て之を免租としければ、小字本郷より堤防下に移轉する者多く、遂に今日の市街を形成せり。故に今日の市街は舊河床に當る。小字本郷は八木町の本郷地なり。本町は和

十四年本村外一村を廢し豊榮村を置く。

八木町

大阪電氣鐵道の大阪八木驛を置く。古くは和名抄、豊郡郡邊郷の内なるべし。江戸末期の教育者にして且つ筆王撰夷論者たりし谷昌平(贈正五位)は此地の人なり。(觀音寺(小房觀音))小房にあり。古義眞言宗。千無量山と號す。本堂十一面觀音(傳説海作)は小房觀音と呼ばれて衆生の信仰厚し。詠歌「ただたのため大慈大悲の觀世音おぶきの里のあらん限りは」(國分寺)八木にあり。淨土宗。釋滿山と號す。謂ゆる大和國分寺の遺址と傳ふ。本堂、彌陀三尊(傳行基作)。本造十一面觀音立像一體(釋文會・釋首勳作)は國寶。新西國三十三所十番、大和靈驗觀音七箇所の一。(金藏寺)八木にあり。眞宗本願寺派。蓮休山と號す。開基は了妙尼。了妙尼の孫堂宇を建立すと。明治維新前迄は吉野飯具の本善寺の帶所にして本善寺御分骨の際に、當寺に寄休するを恒例とす。

八木村

廣島縣安藝國安佐郡の東部。可部町の西南に連り、太田川及び支流三井川の合流地の西南岸に位す。北に龜山村、西に日浦・鎌井の二村あり。面積約九平方軒。西境に阿生山(五八六米)聳え村内の西部は山地なるも、北及び東境を太田川南流し東南にて三井川を合して南流し、流域には稍廣き平地を展く。東南沿岸に耕地拓く。山麓に部落連り、農・牧・工業行はる。米・麥・蕎麥・牛・馬・清酒等を産す。阿生山は原野多く、山麓に



近く森林あり。省管バス廣徳線通じ梅林前・安藤八木・太田川橋の三停留所(共に昭和九年設置)設けられて三次町・廣島市へバスの便よし。また太田川には舟楫の便あり。古くは和名抄、佐伯郡兼井郷の内とす。村内に八木城址あり、即ち香川氏の故郷とす。香川景光初めてこゝに來りて地頭職となり、子孫十一世、美作守吉景まで居住す。のち毛利氏に隨ひて移去す。

【養基村】 飯島縣美濃國掛斐郡の中部。大垣市を去る北方約一八軒。西濃平野の西北縁部を占め、北は伊吹山脈を隔ち横谷を作る。掛川が東流し、西北より来る掛斐川に合流し東境を隔る。村の形は略二等邊三角形をなし、平地には盡く水田をなし、米・麥の産多し。掛川の流域は扇狀地をなし、掛川は荒川をなす。昔は相當土砂を流出せるもの如し。社線參宮急行電線美濃線は村内を走り掛斐(大正八年設置)を設く。此村は和名抄、池田郡春日郷の内にして、大字既永は中世以前より既永庄と見え、或は萩長とも書し、又一書には萩長とも見え

【養基村】 飯島縣美濃國掛斐郡の中部。大垣市を去る北方約一八軒。西濃平野の西北縁部を占め、北は伊吹山脈を隔ち横谷を作る。掛川が東流し、西北より来る掛斐川に合流し東境を隔る。村の形は略二等邊三角形をなし、平地には盡く水田をなし、米・麥の産多し。掛川の流域は扇狀地をなし、掛川は荒川をなす。昔は相當土砂を流出せるもの如し。社線參宮急行電線美濃線は村内を走り掛斐(大正八年設置)を設く。此村は和名抄、池田郡春日郷の内にして、大字既永は中世以前より既永庄と見え、或は萩長とも書し、又一書には萩長とも見え

雲門庄に屬せしことあり。香井・田中も雪門庄なり。大字粕ヶ原の地に扇狀地の開拓地にてもと加須河原新田と呼ばれた。【養基神社】 大字田中に鎮座。郷社。式内社。古來八木ノ宮と稱し一郡の總社と崇めらる。例祭三月十五日。

【ヤギイ】 楊井。武藏國(埼玉縣)の古地名。和名抄に大里郡楊井郷あり。也支爲と註す。その地詳かならざるも、明治四十年に大里郡楊井村ほか一村を廢して新設せる吉岡村及び御正村の邊なるべし。

【ヤキウチ】 焼打灣。鹿兒島縣大島郡大島西南部の灣入。灣口西に開き、南の會津高崎と北のウラキ島との間より深く西に灣入す。灣口約一〇軒、灣入約一二軒。灣口に投手久島浮き、灣岸は金時・長崎・クエン崎・屋崎等平出して頗る屈曲に富む。灣は全く字檢村に包含せられ、灣頭には川内川流入し、諸處に良港あり。

て、村名は蓋しその遺稱とす。【ヤギシマ】 楊島。當國(茨城縣)の古地名。和名抄に久慈郡楊島郷あり。その地いま詳かならず。或は、久慈川の北岸なる久慈郡東小澤村・西小澤村の邊なるべし。

【ヤギシヨ】 八木莊村。畿内縣近江國愛知郡の中部。愛知川の東に隣る。全村地形低平にして一望の沃野をなす。農業を主とし米・麥を産す。縣道が東西南北に貫通して自動車の便よく、西一軒餘に社線近江鐵道の愛知驛あり。【八木神社】 大字宮後小字宮本に鎮座。郷社。祭神、天兒屋根命外一神。天武天皇白鳳十一年大和國春日の祭神を勧請せるものなりと。例祭、四月二十一日。

【ヤギシリ】 燒尻村。北海道天鹽國留萌支廳留萌郡の西部。利根町の西北約二軒の日本海上に横はる燒尻島一島を占め、西は武藏水道を隔てて天賣島に對す。面積五・三三平方軒。地東西に長く、島内高低高さ五〇米内外の平坦なる丘陵性山地にして海岸に墾地あつまる。古く利尻島・禮文島と共に漁場として開けし地にて人口密なり。鯉・昆布・鮑・海鼠・鰺等の漁獲あり。燒尻島燈臺の設けあり。大正二年の初めに、白色八角形混凝土燈、燈質は連四白光、一五秒を隔て一五秒間に四閃光を發し、先達距離一九・五哩に及ぶ。定期汽船により留萌港に交通の便あり。もと専らヤンゲンヤと呼びしが、今はヤギシヨと呼ぶ。明治三十九

年二級町村制を布く。【ヤキノ】 楊野。近江國(滋賀縣)の古地名。和名抄に伊香郡楊野郷あり。その地詳かならざれども、伊香郡古保利村・七郷村の邊ならん。古保利村の大字に東柳野・柳野中・西柳野あり。郷名の遺稱なるべし。

【ヤギハラ】 八木原。群馬縣群馬郡古池村の大字。省線上越線の八木原驛(大正十年設置)を設く。【ヤギノ】 柳生村。奈良縣大和國添上郡の北部。西南部は奈良市の東方約四軒に當る。北は京都府相樂郡笠置町に接す。中央には東に緩斜傾する積々幅廣き丘陵が南北に連り東西兩境も狭き丘陵をなす。東境に連る丘陵は西に繞りて北境をなす。中央山地の兩端には河川が並行して北流し東部の布目川は北部に於て殆ど直角に西折し、更に西部の河道の東方近くに於て再び九〇度北折し笠置町に入り共に木津川に合す。地味肥沃にして農業行はれ、米・麥・蕎麥・粟等の産あり。布目川に沿ひて笠置街道が走り又之より東走する月ヶ瀬街道あり。西北部にては西走する縣道を分つ。各方面へバス通じ交通便利なり。古くは和名抄、添上郡楊生郷の地なり。劍客柳生宗矩はこの地の人にして、徳川家康に仕へ、千石を賜はる。のち加増ありて一萬二千石となり、此地に陣屋を設く。正保三年分封し、宗家は八千三百石を領す。寛文八年宗家の時、加増ありて萬石の列に入り

寺名なりしが、のち村名となる。中世には庄名にも呼び、宇都宮の一黨こゝに占居し藥師寺氏を稱したり。藥師寺氏は小山朝政の孫、朝村を祖とす。朝村は東鑑に藥師寺左衛門尉と載せ本庄の地頭たり。【安國寺】 大字藥師寺にあり。新羅眞言宗智山派。天武天皇即位八年に建立の藥師寺の遺跡。日本三戒壇の一。弘長二年良賢藥師寺を中興して眞言宗に改む。曆應二年藥師寺を安國寺と改む。元龜元年長興に隣り本尊のみを移す。其後再建現在に至る。【下野藥師寺】 指定史蹟。安國寺境内に在り。藥師寺は奈良朝東國の戒壇として東大寺に次ぎ、筑前の觀世音寺と並び稱せられたる大寺たり。寶龜元年僧道鏡の隠せられて造藥師寺別當となりし寺なり。寺址は東西二〇米、南北三三〇米の矩形にして、東南及び西南部に土壘遺存し、寺址には所々に布目瓦散在し蓮華紋の瓦礫もあり、當時の規模大なりしを知る。【ヤクシタニ】 藥師谷。石川縣河北郡にありし村。明治四十年ほか二村と合し三谷村となる。【ヤクシド】 藥師堂。省縣矢島線の一驛(大正十一年設置)。秋田縣由利郡子吉村藥師堂にあり。【ヤクチ】 八口。大和國(奈良縣)の古地名。書紀、天武紀に大野君果安が將軍大伴吹負を破り、追ひて此の地に至り飛鳥京を窺み伏兵あらんことを畏れて軍を返す。其の位置いま詳かならず。飛鳥京

子孫相繼ぎ明治維新に至る。【天乃石立神社】 大字神生に鎮座。村社。祭神、天手力雄命。式内社。例祭、九月十六日、十一月廿七日。【丹生神社】 村社。祭神、四象護命。孝德天皇御宇の創建といふ。例祭、十月十六日。【ヤキヨ】 谷清。千葉縣印旛郡にありし村。大正二年水治村に合併す。【ヤク】 夜久。丹波國(京都府)の古地名。和名抄に天田郡夜久郷見ゆ。いま同郡に上・中・下夜久野の三村あり。夜久郷は凡そ此地に當る。【夜久】 筑前國(福岡縣)の古地名。延喜兵部省式に筑前國夜久郡馬十五疋と見え、大宰府住居の要詳たり。その地詳かならざるも、昭和十二年八幡市に入りたる遠賀郡上津役村の役はこの郷名を襲へるものなるべし。【ヤク】 屋久島。薩南諸島の一島。種子島の西南約一八軒を距て、面積約五四〇方軒。島形は圓く、殆ど出入なき水平的鼓形なるに對し、島の中央には九州地方第一の高峰なる宮ノ浦岳(九三五米)が聳え、水田岳・愚見岳等と共に謂はゆる八重岳の群峰をなして垂直的鼓形の變化に頗る富む。これ等の山地は主として花崗岩より成り、中生層が外側に點在し水田は宮ノ浦川・水田川岸の狭狭の沖積地に限られ、狭長なる海陸臺地には甘藷が主として栽培さる。屋久杉の名は著れば海抜一〇〇〇—一五〇〇米の山腹に最

もよく繁茂し、その互木密林をなすも、現在は国有林となれるため島民の經濟には關係薄く、耕地の狭小なることも原因して漁業の發達を促す。串に各河口は流れ好適なる小漁港を提供し、飛魚・鰯・鯖の漁獲多く、専ら乾魚に製造せられ、中にも栗生の鰯節は著る。行政上は鹿兒島縣鹿毛郡に屬し、上屋久・下屋久の二村に分かれ、首邑は東北岸の宮ノ浦(上屋久村内)なり。昭和十三年、屋久島湖候所を設く。【ヤク】 掖玖。屋久島(鹿兒島縣)の古稱。また屋久・夜久・夜久・邪久・益教等に書く。【ヤク】 陽口。但馬國(兵庫縣)の古地名。和名抄諸本には二方に陽口郷を設くも高山寺本はこれを缺く。従つてこれをヤクと訓むべきか、ヤクナとすべきか、定説なし。姑くヤクに從へども、其の位置いま詳かならず。【ヤクキ】 八莖。大野村(福島縣石川郡)にあり。【ヤクシ】 藥師。奥羽山脈に屬する一峰。田澤湖岸より南東方約一七軒に當る。東側は岩手縣和賀郡内村に、西側は秋田縣仙北郡長谷田村に屬す。標高一二一四米にて、山體第三紀層より成る。北麓は和賀岳(一四四〇米)、南麓は甲山(一〇一三米)に續く。和賀川は東麓を洗ひて南流し、南西斜面より發する山川は西流し、地物川の支流玉川に合す。

【藥師岳】 尾尾山塊北端の一峯。中野寺湖の南東岸に位し、栃木縣上都賀郡西大芦村・足尾町・日光町の境界上に跨る。山體は花崗岩より成り、標高一四二〇米。北麓より發する水は北東流して大谷川に入る。北方は大谷川の谷を隔てて男體山の東斜面を望見し、北東方には大谷川に沿ふ日光町方面を下瞰す。【藥師岳】 妙高山山群の一峯。主峯妙高山の西方約八軒に當り、これと關川の上流貫川の上流を隔てて對峙す。西側は長野縣北安曇郡中土村に東側は新潟縣中頸城郡妙野澤村に屬す。標高一八〇二米。北麓は天狗原山・金山を経て焼山(二四〇〇米)・火打山(二四六二米)に連り、南に妙高山、南東方に黒崖山・飯綱山を望見し、南西方に日本北アルプスの雄峯・五岳を見渡す。

【藥師寺村】 栃木縣下野國河内郡の南部。上三川町の西南隣にて、西は下都賀郡石橋町等と隣りす。全村平地にて、東部を田川の本支流南流し水田多く一部畑地をなす。農業行はれて米を主産し、蕎麥の産もあり。陸羽街道は村の西端をかすみ、村の中央にもこれと並走する縣道あり、北隣の明治村にて東西に横はれて上三川町・石橋町に、南は茨城縣結城郡結城町に通ず。省線東北本線石橋驛(石橋町)に近く交通便なり。古くは和名抄、都賀郡高栗郷の内なるべし。もと



に近きところなるべし。  
**ヤグチ 矢口** 東京市蒲田区の町。もと在厚郷矢口町なりしが、昭和七年東京市に編入せられ、隣接の蒲田町・羽田町・六地町と共に蒲田区をなす。往昔豊島・江戸より鎌倉に至る多摩川の渡津にして正平十三年十月、足利基氏、江戸高重・升海左京亮等をして、新田義興を此地に誘殺せしめし處。いま新田神社あり、その靈を祀る。この矢口渡を以て南多摩郡稲城村大字矢野口の多摩川の渡津となすものあり、此は上野より鎌倉に向ふ街道に當る。今専ら前設盛なり。平賀源内が院本「神靈矢口の渡」を作りてより、その名世に喧傳するに至れり。

ヤクモ 八雲

【八雲町】 北海道渡島支庁渡島郡山越郡の南部。内浦湾の西岸を占め、北は長萬部村、南は渡島郡茅部郡、西は檜山支庁に界す。面積五四・一八平方町。海岸線は平滑短距離なれども遊樂部用外敷多の小河に注ぎて河口平野を連れ、八雲町の市街は遊樂部河口の三角洲上に農・牧・漁・工業の中心地として發展せり。後背地は山地をなし、西部檜山支庁との界には高峻なる分水嶺南北に連りて太櫛岳・雄針岳等一千米内外の山峯を屹立せしむ。地勢海岸に向ひて傾き海岸平野の邊縁に移る。馬鈴薯・大豆・鮭・鱒・昆布・牛・馬・乳製品等の物産あり。富町内に鐵區三〇萬餘坪を有する八雲鐵山(鐵種は金銀銅鉛亜鉛銅)あり。八雲鐵業會社

の發行に係り、昭和十年には金屬滿備鐵六、〇九四萬、二酸化滿備三三三三萬(この總價額約一三萬圓)を産出し、同年六月末の鐵夫數は一四四四人、現に重要鐵山たり。また富町内に山越鐵山(金銀山)あり、山越鐵山(金銀山)あり、いづれも昭和十年事業を開始す。省線函館本線海岸を貫き野田道・山越・八雲・黒岩(以上明治三十六年設置)・山越(明治三十七年設置)の五驛を設く。明治十年尾州藩主徳川慶勝の地に舊藩士を移して開拓せしめ、同十四年八雲村を設く。同十四年一級町村制を布き、大正八年町制を布く。この地には松前藩時代に東蝦夷地の入口として開港を設けり。これ初めは和人の入國を防ぐ爲なりしが、ロシヤ人が北邊を侵すに至り幕府の直轄領となし和人を居住せしむることがロシヤ人の警備に役立つとなし、文政元年開港を撤廢せり。【八雲舊土人部落】 遊樂部にあり。内浦湾の沿岸遊樂部預に矮小の茅葺點在し、戸數約二〇、男約五〇人女約五〇人にて漁業を主とし農業をも營む。【徳川農場】 明治十年舊尾州藩徳川慶勝が舊區授産の目的を以て渡道し無償附與を受けし官有地を開墾せるに始まる。地積約五一方町、これに従事する農家二百四戸一千四百餘人、大豆・燕麥・馬鈴薯等を生産す。(註人工肥料場) 宇・セイウキョウを在す。【アトキンス式肥料盆を用ひ】 一千萬粒の肥料に堪ふ。(諏訪神社) 大字山越内に鎮座。郷社。祭神、建御名方

命。文化四年福山の入某の創建せる所に於て、爾來此地の鎮守たり。一名、諏訪明神。例祭、六月二十一日。(八雲神社) 宇砂藩部に鎮座。郷社。祭神日本武尊。宇迦之御魂神等三柱を合祀す。明治十九年愛知縣より移住せる人々によりて創祀せられ、爾來當地の氏神とす。神殿・拜殿・幣殿・神饌所等を具ふ。【八雲村】 京都府丹波國加佐郡の中部。舞鶴市の西方山良川口近く兩岸に跨る村なり。由良川は村の中央を南北に貫通し神樂層の小平地川岸に沿ふ。本村の主要生産地帯にして、農業・養蠶業行はる。由良川は古來氾濫甚だしく沿岸の諸村爲に水害に悩む。本村亦其一なり。川の兩側は何れも山地にして、其の大部分は古生層より成るも、東方山地は閃綠岩分布す。この附近は東方舞鶴灣との分水嶺となり山形急なり。本村は舞鶴要地帯に屬す。國道は福知山より來り本村大字八田にて宮津街道と分れ、舞鶴要港を経て若狭に至る。宮津街道は由良川左岸を南北に通じ、由良を経て宮津に至る。省線宮津線また舞鶴より來り由良川右岸を下り宮津に至り、村内に東雲驛(大正十三年設置)を設く。本村は古の國分寺の地といはる。寺地は大字中山とも又和江ともいはる。延喜式麻呂神社は由良川左岸、舊丸八江村の大字丸田にあり。もと丸田・八田・和江の三ヶ村由良川左岸に並びを合併して丸八江村と改稱し、昭和三年更に由良川右岸の東雲村と合併し

て八雲村となる。

【八雲山】 一に五創山とも云ふ。讚岐國の北端、瀬戸内海に突出する一牛島の中部に位し、高松市の東方約九軒に當る。香川縣木田郡本禮村の北嶺にして、北面は庵治村に延ぶ。標高三七〇米。西麓は横ノ浦に臨み、彼岸の熔岩臺地屋島と對し、東麓は志度灣に臨る。北東方には瀬戸内海に浮ぶ小豆島を始め大小數多の島々を望見す。この山中腹迄は松樹鬱蒼と茂れども山頂部は山岳露出し、その尖峯を一劍・二劍と稱し、五劍に及びしがその中一峯は寶永年の大地震のため崩壞し、今は四峯を残すのみ。第一劍は最高峯にして海に最も近く、瀬戸内海の大觀

を比較的便なり。明治四十五年一月、日吉・吉壽の二村を合して本村を建つ。(八雲の靈) 指定天然記念物。大字日別所宇上河原にあり。根廻り周圍二・五米に及ぶ藤の老樹にして、有数の古木なり。

【ヤクモ】 八雲 八雲鐵山(鐵種は金銀銅鉛亜鉛銅)あり。八雲鐵業會社

【ヤクリ】 八雲 八雲鐵山(鐵種は金銀銅鉛亜鉛銅)あり。八雲鐵業會社

【ヤクリ】 八雲 八雲鐵山(鐵種は金銀銅鉛亜鉛銅)あり。八雲鐵業會社

を一時に収め、その規模の盛あり。山頂に八雲寺あり。弘法大師の草創と傳へ、又その聖天は靈驗あらたかりとて參拜者多し。寺より三〇〇米の地に源氏ヶ峯及び奇觀峯の展望あり。源氏ヶ峯の山麓には安徳天皇の一時行在所となし給へる六萬寺あり。この近くに江戸時代の儒者柴野栗山の宅址残る。尙ほ南東麓志度町には謡曲「海女」の傳説にて名高き志度寺あり。この山には山麓より八雲寺まで八雲登山鐵道のケーブルカー通じ、それより安易なる徒歩にて建頂せらる。

【八雲登山鐵道】 私設鋼索鐵道。香川縣木田郡本禮村にあり。八雲登山口驛より發し八雲山上驛に至る。全長〇・七町。省線と非連帯にして動力は電氣、軌間は一・〇六七米なり。

【ヤケ】 夜間 肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に菊池郡夜間郷あり、諸本夜間に作るも高山寺本によりて訂正す。其の地今詳ならず。或は菊池郡戸崎村・花房村の邊なるべし。

【ヤケ】 燒 一に熊澤山とも云ふ。田澤湖畔の北東方約二五町、秋田縣鹿角郡宮川村と仙北郡田澤村との境上に跨る二重式火山。最高點一三六六米。基底は新第三紀層に屬す。外輪山は南北八〇〇米、東西六〇〇米に互る楕圓形噴火口を圍み、その中に中央火口丘鬼ヶ城峙ち、火口原湖湯沼横はる。湯沼の附近には硫氣孔多く硫黃堆積し、その硫黃は採出せらる。中

【ヤクリ】 八雲 八雲鐵山(鐵種は金銀銅鉛亜鉛銅)あり。八雲鐵業會社

【ヤサカ】 八雲 八雲鐵山(鐵種は金銀銅鉛亜鉛銅)あり。八雲鐵業會社

【ヤクリ】 八雲 八雲鐵山(鐵種は金銀銅鉛亜鉛銅)あり。八雲鐵業會社

【ヤクリ】 八雲 八雲鐵山(鐵種は金銀銅鉛亜鉛銅)あり。八雲鐵業會社

【ヤサカ】 八雲 八雲鐵山(鐵種は金銀銅鉛亜鉛銅)あり。八雲鐵業會社

【ヤクリ】 八雲 八雲鐵山(鐵種は金銀銅鉛亜鉛銅)あり。八雲鐵業會社

【ヤサカ】 八雲 八雲鐵山(鐵種は金銀銅鉛亜鉛銅)あり。八雲鐵業會社

【ヤクリ】 八雲 八雲鐵山(鐵種は金銀銅鉛亜鉛銅)あり。八雲鐵業會社

【ヤサカ】 八雲 八雲鐵山(鐵種は金銀銅鉛亜鉛銅)あり。八雲鐵業會社

【ヤクリ】 八雲 八雲鐵山(鐵種は金銀銅鉛亜鉛銅)あり。八雲鐵業會社

【ヤサカ】 八雲 八雲鐵山(鐵種は金銀銅鉛亜鉛銅)あり。八雲鐵業會社

【ヤクリ】 八雲 八雲鐵山(鐵種は金銀銅鉛亜鉛銅)あり。八雲鐵業會社

【ヤサカ】 八雲 八雲鐵山(鐵種は金銀銅鉛亜鉛銅)あり。八雲鐵業會社

【ヤクリ】 八雲 八雲鐵山(鐵種は金銀銅鉛亜鉛銅)あり。八雲鐵業會社

【ヤサカ】 八雲 八雲鐵山(鐵種は金銀銅鉛亜鉛銅)あり。八雲鐵業會社

【ヤクリ】 八雲 八雲鐵山(鐵種は金銀銅鉛亜鉛銅)あり。八雲鐵業會社

【ヤサカ】 八雲 八雲鐵山(鐵種は金銀銅鉛亜鉛銅)あり。八雲鐵業會社

【ヤクリ】 八雲 八雲鐵山(鐵種は金銀銅鉛亜鉛銅)あり。八雲鐵業會社

【ヤサカ】 八雲 八雲鐵山(鐵種は金銀銅鉛亜鉛銅)あり。八雲鐵業會社

【ヤクリ】 八雲 八雲鐵山(鐵種は金銀銅鉛亜鉛銅)あり。八雲鐵業會社

【ヤサカ】 八雲 八雲鐵山(鐵種は金銀銅鉛亜鉛銅)あり。八雲鐵業會社

【ヤクリ】 八雲 八雲鐵山(鐵種は金銀銅鉛亜鉛銅)あり。八雲鐵業會社

【ヤサカ】 八雲 八雲鐵山(鐵種は金銀銅鉛亜鉛銅)あり。八雲鐵業會社



嶺をなし、小起伏の臺地をなし数多の村落は孤立村落をなす。村は従つて殆ど水田を缺く。村の南は廣津村、東は早川を隔て、更級郡大岡村あれども皆本村と類似の景観をなす。耕地面積五五〇町、内田六〇町、畑四九〇町、桑畑一六五町等にして全面積に對する耕地率は一五%なり。この地古くは日敏領の内とす。

【八坂村】山城國(京都府)の古地名。和名抄に愛宕郡八坂郷見ゆ。賀茂川の左岸にして東山の西麓。いま八坂神社あり。その地いま京都市東山区祇園より清水に至る間なり。【八坂村】山口縣周防國佐波郡の北部。東は都濃郡、西は吉敷郡に界し、北に楠野村、南に出雲村あり。面積八八・〇二平方町。地形東西に長き大村にして、高鉢山(七七一七米)・白石山(五四一七米)・日暮山(六九四米)等の山峯相連りて四周を繞らし、村内概ね山地に蔽はる。佐波川の上流山間を南流し、流域の河谷に耕地拓く。農業・林業行はれ、米・麥・蕎麥・粟・木村・木炭等の産あり。縣道川岸に通じ省線山口線仁保驛へバス通ず。古くは和名抄、佐波郡日敏領の内にして、大字引谷は蓋しその遺稱なるべし。(佐波川關水)指定史蹟。大字船路にあり。文治二年東大寺再建に當り周防國を同寺に寄進せられ、大勧進重源及び宋人陳和朝等同國に下り佐波郡の山間より料材を伐採せり。而して料材はすべて佐波川の流を利用し之を下せしが、同川水淺きを以

て凡そ百十八箇處河川の殆ど全部を堰止めその一隅に幅約三間の關水(流材道)を作りて流木せり。いま關水の多數は破壊せられたれど第一第二の關水はよく保存せらる。(八幡宮)大字船路字下庄に鎮座。神社。祭神、應神天皇・玉祖神。社傳に寛文二年の創建なりと。例祭、八月十六日。

【八坂村】大分縣豊後國遠見郡の東北部。杵築町の西に隣接し、八坂川に釣る。北部・西部及び南境附近は丘陵性なれども概して平坦なる高地地をなし、東部及び南部に平地發達す。八坂川は中央を東流して杵築町に入りて別府灣に注ぐ。地味頗る豊饒にして米・麥・七島蘭の産に富む。曇表の特産あり。縣道は中央を横斷し、省線日豊本線は西方より東部中部に於て南走し杵築驛(明治四十四年設置)を置く。同驛より社線國東鐵道が分れて東走し八坂驛(大正十一年設置)を置く。此地は北杵築村と共に古くは和名抄、遠見郡八坂郷に當り、弘安國田坂に八坂庄二百町と録し宇佐宮領たり。江戸時代は村内は日出藩領・杵築藩領・幕領に三分せらる。江戸末期の醫家として夙に名聲ありし薩長左衛門(贈從五位)はこの地の人なり。(阿蘇社)大字野添に鎮座。神社。健甕龍神外十一柱を祀る。地方の古社にして、大友・松平の兩氏等領主・藩主の崇敬あり。地方の人亦篤く信仰す。(千光寺)臨濟宗妙心寺派。喜山と號す。應永三年、杵築城主藤原顯直、祖傳道福

のため一字を創せしに始まる。當初、喜山東照寺と稱せしも元禄十二年徳川氏を仰りて千光寺と改號す。本尊は藥師如來。寺内に經塚あり。

【八坂村】千葉縣東葛飾郡にありし村。昭和十二年に廢して、船橋市に編入す。

【彌榮村】京都府丹波國竹野郡の南部。丹後半島の基部に位し、村の中央を丹後半島の主川竹野川貫通し、流域は丹後に於ける耕地帯なり。此の流域は一の斷層線の通る所なり。竹野川流域は昭和三年三月七日北但大地震に際し大被害を蒙せし事は吾人の尙耳に新なる所なり。東西の山地には花崗岩、北部に第三紀安山岩の地層あり、東方の金剛童子山最も高く六百余米を示す。米は年額約一萬三千余石に及び竹野郡の四割を占め、丹後第一の米産村、産産亦首位に在り。養蠶亦盛にして、其收獲高は丹後に於ける第二位にあり。然し本村の主要生産は絹織物にて、丹後縮緬の年産額三百萬圓に近く、新築の中心地たり。交通なほ便ならず、竹野川に沿ふ峠山・間人間の通路の開發は古かるべし。和名抄鳥取郡の故地にて、村内の大字鳥取は其の遺稱なり。また式内清谷神社も村内大字清谷に鎮座し、また式内深田神社は大字黒部に、同式内久爾原神社は大字國久に、奈良神は船木にそれら鎮座あり、以つて本村開發の速きを知らるを得べし。中世以降變遷あり、幕末に於ては峠山領其の他に所

屬し明治維新に至る。町村制實施の際、鳥取・吉野・清谷・深田の四ヶ村となりしも、昭和八年二月一日これら四ヶ村を合併し新に彌榮村を建つ。

【彌榮村】岩手縣陸中國西磐井郡の東部。一關町の東南約一軒。東は北上川を隔てて東磐井郡に接す。北境は海拔二四米にして、西境には中山峠(一一〇米)あり、全村概して丘陵地をなし、北上川は西北方より來り、村の東境を南流す。沿岸に精耕地あり。米・麥・大豆・小豆等を産す。道路は村の中部を略東西に通じ、東北方省線大船渡線陸中門崎驛へは約四軒あり。

【矢崎】神奈川縣橋本郡にありし村。昭和二年横濱市に入る。

【岩作】愛知縣愛知郡にありし村。明治三十九年本村外三村を廢して長久手村を置く。

【下地】千葉縣下地國海上郡の西南部。旭町の南隣にて、九十九里濱の北東部に臨み、面積六・九六平方町の小村なり。九十九里濱沿岸平地の東北の一部を占め、中部より北部にかけては水田多く他は畑地をなす。農業行はれて米・麥を産し養蠶・養蠶も行はる。海岸は單調なる砂濱をなし、鰯の漁漁業行はる。縣道は中央を横走し、東は飯岡町(約三・五軒)に通じ、又これと分れて北走するものは旭町に通じバスの便あり。旭町には省線總武本線旭町驛あり。大正三年足川村を本村へ編入す。

ヤサト

【八里村】茨城縣常陸國那珂郡の西北部。西は栃木縣芳賀郡・那須郡と隣りす。八溝山地の一部を占め、全村高度約三百米前後の山地にて、森林多く木材の産あり。山間の耕地には農業行はれて、大麥・小麥・粟・粟類を主産し、殊に粟類は産額十數萬圓に上る。特産物には西ノ内紙あり。縣道は南方那珂川沿岸地方、及び西方栃木縣那須郡島山町に通ず。古くは朝妻郷の内なり。江戸末期の勤王家中村貞介(贈正五位)はこの地の人なり。

【八郷村】三重縣伊勢國三重郡の東北部。四日市市の北方約二軒に位し、北は桑名郡及び其西の員辨郡に界す。北部及び南部は丘陵地をなし中央へ傾斜し、中部には東流する朝明川ありて沿岸に平地發達す。肥沃にして米・麥・蕎麥の産多く、工業類著しく外に畜産・林産・蠶産あり。縣道及び社線三岐鐵道は中央を横斷し、後者は平津驛・登生驛(共に昭和六年設置)を置き、平津より分れて西北方へ向ふ縣道あり。自動車の往來も繁く交通の便よし。古くは和名抄、朝明郡大金郷の内とす。大字壹生は一に加用にて作り塞址あり。富田氏の屬家にて永祿中、春日部時家これに居り千草氏の與黨たりと。(德積神社)大字廣水に鎮座。神社。祭神、德日命・伊香我色命。創建年代詳かならず。本地に居住せる德積氏が祖神を祀りしもの。もと川島大明神と云ひ十七ヶ村の總社とせられたり。延喜の制

國幣の小社に列す。例祭、九月十五日。

【八澤村】岩手縣陸中國西磐井郡の南部。千厩町の南に接す。北上山地の南部に位し、東南境に黄金山(四八二米)・保呂羽山(四六二米)、西境に烏森山麓え、全村概ね山地をなし、黄海岸は村の中西部を南に貫流す。耕地少きも米・麥・大豆・馬鈴薯を産す。道路は村の中部を南北に通じ、省線大船渡線千厩驛へはバスの便あり。古くは和名抄、磐井郡沙澤郷の内なるべく、中世の黄海岸に當る如し。

【矢澤村】岩手縣陸中國西磐井郡の南部。花巻町の東に接し、東及び南は和賀郡に接す。北上山地の西斜面に屬し、東境は海拔約二〇〇米にして四方に傾斜し、西部は北上平野に屬し稍平坦なり。北上川は村の西北及び西境を南流し、猿ヶ石川は東南方より來り村の西部を西北に流れて北上川に合す。米・麥・大豆・馬鈴薯等を産す。釜石街道は村の中部を東西に通じ、花巻町へはバスの便あり。省線釜石線矢澤驛・小山田驛(共に大正二年設置)を置く。村内に前九年の役に源義家が鞍を掛けしと傳ふる鞍掛岩あり。(矢澤神社)矢澤に鎮座。神社。祭神、大穴牟遲命外一神。大同二年創立、由緒不詳。例祭、五月十九日。

【八澤村】福島縣磐城國相馬郡の東部。鹿島町の北に隣り、東は太平洋に面す。福島縣の濱通りに屬し、西北より東南に互りて段丘をなし、南部

は置野川流域に屬して平坦なり。東北部に八澤浦あり。沿岸に低濕地あり。村の生産は農業を主とし、沿海には漁業行はる。米・蕎麥・鮮魚を産す。陸前濱街道は村の西北部を南北に通じ、南方省線常磐線鹿島驛へはバスの便あり。

【八澤木村】秋田縣羽後國平鹿郡の西北部。大森町の西に隣り北は仙北郡、西は由利郡に接す。面積六・三七七町。出羽丘陵の地にて、西部に保呂羽山(四三八米)・北境に野軍山(三四〇米)、南部には釣峯山(二九七米)等あり、全村丘陵起伏す。雄物川の一支流西部に發源して村の中部を西南に流れ、南岸に耕地拓く。村の生産は農業を主とするも、炭焼を本業及び副業とするものあり。米・木炭・木材を産す。概して生活し易きも一朝冷害を蒙る時は平地農村より打撃大なり。道路は村の中部を略東西に通じ、東方省線奥羽本線横手驛へはバスの便あり。社線横莊鐵道は上溝(昭和六年設置)・八澤木(昭和三年設置)の二驛を置く。中世は庄名に呼ばれ八澤木庄と稱せり。(波字志別神社)大字八澤木に鎮座。神社。祭神、安閑天皇。式内社。例祭、八月十五日。

【夜市村】山口縣周防國都濃郡の西南部。福川町の西北に連り、東は富岡町、西南は戸田村、北は佐波郡に界す。面積一・五八平方町。南境を夜市川東南流し、沿岸に平地展けたるも、他は概ね山地にして、北方に漸高す。中央山麓

地より南部平地にかけて耕地拓く。總農村にして米・麥・蕎麥等を産す。南部を縣道貫通し省線山陽本線戸田驛(明治四十四年設置)あり。古くは和名抄、都濃郡平野郷の内とす。村名はもと矢地と書せしも、往々誤記して矢地となるを忌みて夜市に改めたり。陶磁質の埴地たり。(鷹原八幡宮)宇宮尾に鎮座。神社。祭神、應神天皇・仲哀天皇外五神。例祭、陰曆八月十六日。

【八鹽】鬼石町(群馬縣多野郡)。

【彌次ノ湯】指宿町(鹿児島縣指宿郡)。

【八島】大和國(奈良縣)の古地名。和名抄に添上郡八島郷あり。道徳天皇崇道天皇八島陵あり。其の地いま添上郡東市村に當り、その大字に八島あり、郷名の遺稱とす。

【屋島】香川縣讃岐國木田郡の北部。瀬戸内海に突出せる半島形の地區にして三方海に臨み、南は古高松村に接し、東は瀬ノ浦を隔て、本體村・庵治村と相對し、西は一帯海に濱し、西南は高松市と木太村を隔つ。地積南北に長く大部分は丘陵をなし平地少し。地味概ね肥沃なれど、山麓の緩斜地に於て僅少の耕地を有するのみ。山勢南より北に流れ、南は相引川の溝渠を以て陸地に接し、北部は海中に突出して長崎の鼻となる。廣袤東西三・四四二軒、南北五・四五軒、面積一



○・四一方軒、戸數一一二五、人口五六二八(昭和十年)。屋島は標高二九三米、南北に長き丘陵にして、頂上平坦、四圍は絶壁をなし、屋根形の臺地を形成す、頂上は二嶺に分れ俗に北嶺、南嶺と稱す。山頂は含輝石斜方輝石安山岩(噴火岩質安山岩)より成り、下部に基盤の花崗岩質地露出す。島の北端長崎鼻は黒雲母花崗岩なれど、他は重に閃雲花崗岩より成り地形は緩斜面を呈す。山頂の安山岩は絶壁をなし、舊登山道には板敷階梯よく露はれ、北嶺には柱状節理発達す。前者は俗に疊石と稱し、西行法師の此地に杖を引き「やどりしてこゝに假寐の疊石月は今宵の主なりけり」と詠ぜしを以て知らる。南嶺山頂西端の獅子之靈巖も同様に偶然に形成せられし妙巖なり。後者は早く石材として利用せられ、採石址は大洞窟をなす。是により屋島は基盤たる花崗岩質地の上に噴火岩質岩(古銅安山岩)が内海の階層に誘引せられて基盤(花崗岩)を破りて一帯を被覆せしものにして更に階層並に侵蝕作用を受け、現象を呈するに至りしものなることを知る。この地は實に最典型的なるメサ(熔岩臺地)なりと稱せらる。この地は和名抄、山田郡高松郷の内に在り、古く先史民族の居住地たりしが如く、屋島山頂を始め、山麓方面には先史時代の遺跡を發見し得、尙ほ山麓には古墳も少なからず。屋島小學校附近・屋島西麓並に北端長崎鼻附近の如き是にして、長崎鼻の古墳の如きは

銅鏡・銅劍の發見を傳へ、石器時代より將に金石併用時代・原史時代と民族の發達ありしを察し得らる。傳説としても早く神代に遡り得べく、西麓の鶴羽神社は鶴草葺不合葺御降臨地にして、豊玉姫八尋御産殿の遺跡なりと傳へ、屋島の名稱の如きも形態説以外にこの傳説により八尋殿に因みての名なりとも稱せらる。日本書紀天智天皇六年條には「榮大和國高安城・讚岐國山田郡屋島城・對馬金田城」とありて、屋島の名の古きを察し得。また、早く城郭として利用されしをも窺ひ得。また軍團も置かれ、屋島の東側濠入を横浦と稱するはこの屋島軍團に發せしを察せしむ。奈良時代より宗教上信仰の靈域として、寺塔建立せらる。屋島寺の起源にして、唐僧鑑真開基。最初北嶺に在りしを、弘仁中弘法大師により今の地に移さる。古義眞言宗、南無山千光院と稱し、四國八十八箇所第八十四番の札所たり。御詠歌は「あづさ弓屋島の宮に詣てつつ祈りかけて勇むも屋島のふ」といふ。境内には貞徳の鐘(銘、貞徳二年癸未十月廿六日)、相生鐘、仰之碑、可正鐘、瑠璃寶池(血の池)等由緒あるもの多く、書院の庭は白色凝灰岩露出し、雪隠の名高し。元暦頃には源平合戦の地となり、東殿に「元暦二年二月十六日庚午關東軍兵爲追討平家赴讚岐國：平家者結陣於兩所内府以讚岐國屋島爲城郭」と云ひ、合戦に關する遺跡は嶺の東側に觀られ、殊に南嶺の古嶺より眺むる時其の史跡手

にとる許なり。源義經が兩軍の氣を望みたりと稱する源氏ヶ峯、安徳天皇行宮址と傳ふる六萬寺をはじめ、同行宮北橋門たる總門址、佐藤關信戦死の地たる射落畑並に其の墓、同關信戦死の際其甲に關係せし洲崎寺、源平盛衰記に傳ふる義經弓流の遺跡、那須與市宗高の扇的的を射る際神明に祈願せし新岩・駒立石など一望の中に在り。尙ほ當時安徳天皇行宮の址と傳ふる安徳天皇社、並に豊行天皇の皇子神徳王御墓をも拜し得。また寛政の鴻巣柴野山邸宅址たる粟山堂をも眺め得。單に史跡のみならず、屋島山頂は内海の展望絶佳、殊に北嶺北端よりの眺望最宜しく、觀光の客四時絶えず。畏くも明治三十五年には皇太子殿下(大正天皇)大正十一年十一月には攝政宮殿下(今上天皇陛下)御登山。大正十二年には久通宮殿下御登山、北嶺北端の亭を遊鶴亭と御命名あり。南嶺の北端は明治三十年村雲尼公によりて古嶺と御命名あり、尙ほ南嶺南部の亭は昭和九年五月梨本宮殿下によりて龍吟亭と御命名ありたり。昭和七年九月には大宇東湯元・西湯元の地と共に瀬戸内海國立公園の一部に入ることとなり、同年十一月には史蹟天然記念物に指定せらる。屋島と庵治村との間は良灣入をなし、源平時代の軍港として利用されしのみならず、古くより船場として用ゐられ、貞觀年中宇佐より男山(御瀨宮)の際、風波のため此處に御入船ありしと傳ふ、いま大宇屋島に鎮ります大宮

神社はこれを物語る。かくて屋島は東西兩側に船場を有し、東を立石港、西を浦生港と稱し、帆船の碇泊地をなす。屋島は従來西湯元・東湯元・屋島の三小村分立し居りしが、明治維新後、西湯元は喜多郷に、東湯元村・屋島村は高松郷に分別し、明治四年西湯元村は五大區一小區となり、東湯元村及び屋島村は四大區一小區となり、明治十二年には山田郡に屬し、同二十三年五月町村制の施行により、以上合併して湯元村となり、大正九年一月屋島村と改め、尋で昭和八年屋島町となる。屋島町は地勢山岳性にて平地少きため、耕地少く、田地一三八九反、畑六三〇四反を有するに過ぎず、又水産業も盛ならず、現今のところ米・麥以外には果樹並に標草の栽培を奨励し、副産として養蠶・養蠶・養蠶田の奨励をも怠ららず。従て農業よりも工業に向ふ必要あり、殊に沿岸は淺海廣く發達せるを以て鹽田の利用行はれ、寶曆五年村の梶原堂山の決死的努力により始めて鹽田開設せられ、爾來漸次發達し村の西南・東南並に南部一帯は鹽田となり、反別八四六反に上り、六八萬餘圓の産額を挙げ、本町に於ける第一の主要産業をなす。此他、醸造(酒・醬油)・製菓・瓦をはじめ、近時はマダネシヤム並にエタニツトパイプ(耐火土管)の製造も經營せられ、帆船により縣内を始め、阪神にも輸送せらる。本町は高松市に近く存在し、國立公園として觀光地となりしを以て、近時高松市よりの觀光

道路工事竣工、交通頗る便となりしのみならず、登山にはケーブルカーの設備あり(昭和二年三月創設)、山上には縣營の屋島遊覽道路開け、また山麓を一周する道路の改修成り、省線高松本線の屋島驛(大正十四年設置)は南隣高松村に置かれ、高松・志度間を往來する社線四國水力電氣は町内に湯元・屋島グラウンド前・屋島登山口の三驛(何れも明治四十四年設置)を置き、交通甚だ便利なり。尙島の兩側なる浦生並に立石兩港も近時改修せられ、此處を中心として帆船の出入あり、庵治の石村を始め、鹽・石炭・鹽田砂等を運搬す。此他屋島の名跡として挙げべきものは縣社屋島神社・郷社八幡神社・地藏寺・長崎鼻なり。屋島神社は屋島の南麓に在り、寛文中高松藩松平頼重の建立、徳川家康を祀り、四月十七日例祭を行ふ。地藏寺は行基の開基、寶藏山華藏院と號す、屋島寺の末寺、櫻花の名所なり。長崎鼻は屋島山の北端にして海中に突出せる崎を云ふ、安政年間幕府攘夷の方針をとりし際、高松藩の砲臺を築きし處、今尙その遺跡をたむむ。

【屋島登山鐵道】私設鋼索鐵道。香川縣本田郡屋島町にあり。屋島神社前驛より起り屋島南嶺驛に終る。全長〇・八軒。省線と非運帶にして、動力は電氣、軌間は一・〇六七米とす。

【矢島町】秋田縣羽後國山形郡の中南部。本莊町の東南方約一九軒。西南端は山形

【社村】福島縣磐城國西白河郡の東南部。白河町の東南方約一〇軒。東は東白川郡に隣接す。土地東西に長く、南境を社川東流し、沿岸に耕地拓く。北部は丘陵をなし南方に傾斜す。村の生業は農牧を主とし、米・蕎麥・馬を産す。社線白河鐵道磐城金山驛へは南方約二軒あり。古くは和名抄、白河郡屋代郷の内とす。結城小峯文書に八幡社と見ゆるも或はこゝか。【社八幡神社】大字八幡に鎮座。郷社。祭神、譽田別命外十神。社傳に天喜四年源義家の建立なりと。例祭八月十五日。【社村】福井縣越前國足羽郡の西北部。福井市の西南に接し、日野川と足羽川との合流點を占め、西は日野川を境に丹生郡に、北は足羽川により東安房村に界す。村内概ね平地なるも東部・南部には低き丘陵横ばる。米の耕作行はれ米産を主とし、福井市と共に機業また盛なり。富村と隣村庭生津村に跨り嶺區二二萬餘坪を有する杉谷嶺山あり、金銀銅鑛にして昭和十年より事業を開始す。蓋し同嶺山



龍野町なり。東部および北部は臺地をなす、中央及び西部は平野をなす。西境に沿ひ加古川西南流し、北部には西流する河川ありて之に合す。米・麥類・蔬菜・葉煙草・食用産物・果樹類・果實・鶏卵および醬油・木製品・皮革製品・製菓品・紙木製品・紙製品等を産す。一方村人口密度は四七五人なり。中部の市街地を中心として縣道四通し、社線播州鐵道播磨鐵道(四方〇・五軒たらず)へはバスの連絡あり。古くは和名抄、賀茂郡川内郷の内にして、中世以降は河内社或は福田庄と稱せらる。加東郡の大地にして嘗て郡役所を置かれたり。(佐保神社)社に鎮座。縣社。祭神、天照大神・天兒屋根命・大己貴命。垂仁天皇二十三年の創建と傳ふ。例祭、十月十七日。

【社村】鳥取縣伯耆國東伯耆郡の中部。倉吉町の西に隣接す。西部は西南より東北に走る高さ五〇米餘の丘陵ありて、東に傾斜す。東部は倉吉盆地の西部を占め、天神川の支流平地の中央を貫流す。平地には耕地よく開けて農業盛なり。米・馬鈴薯等の産多く丘陵地は好牧場をなし牧牛盛に營まる。また河岸平地は長十郎梨の名産地にして、養蠶業も行はる。縣道よく發達しまた倉吉町に隣接するを以て往來繁く、省線倉吉線の上述・倉吉二驛へバスの便あり。住時は八代郷と稱せり。大字國分寺に伯耆國分寺あり。社小學校の西に接する高臺上に存し、礎石・遺瓦残存し、且つ塚塔及び土壘の址所々

に遺存す。(國體表神社)大字國分寺宇宮之峯に鎮座。郷社。祭神、大己貴命外一神。例祭、九月廿一日。〔定光寺〕曹洞宗。金地福山と號す。應永年中、源實入道の草創、開山は長應。曹洞宗常恒會地として郡内の一名刹なり。

【社村】鳥取縣因幡國八頭郡の西南部。西と北は佐治村に、東は大村・智頭町に界し、南は智頭町及び岡山縣に隣る。面積五〇・三七方軒の大村。中國山脈の主軸東西に連亘して山岳屹立し、その山間何れも北東にのびて傾斜す。東部に洗足山及びその連峯そびゆ。兩山地間の低地を東南より北方に智頭川流れ、中央溪谷を東流する支流を合す。流域は耕地拓けて農業行はれ、米・蕎麥・馬鈴薯の産あり。山地は木材・木炭を産し、また牧牛を營む。智頭川に沿うて智頭街道貫し智頭町と北方の用瀬町を連絡す。省線因美線また街道にそつて南北に走り、因幡社驛(大正十二年設置)を設く。此地古くは和名抄、知願郡美成郷の内とす。傳ふる所の據れば元祿中、大家家奥の里氏なるもの初めに製紙の業を傳へて緒を植ふ、之より紙業州内に普通すといふ。(大山神社)大字宮原に鎮座。郷社。因幡立神を祀り、大己貴命を配祀す。元慶三年從五位下に昇敘せらる。古來草野大明神とも稱し、郡中の大社にして、近郷九箇村の氏神たり。例祭、五月九日。

【八代村】茨城縣常陸國行方郡の南部。新海縣越後國中頸城郡の西部。荒川の支流矢代川の上流域を占め、新井町の西南に隣接し、西は西頸城郡名立村と界す。西及び西北は重倉山・要山・三頭山等の高度一千米内外の峻峰連り、村の大部分はその東斜面に屬し傾斜急峻なる山地をなす。妙高山の北麓より東に貫流する矢代川北半の沿岸はなだらかなる傾斜をなして東北に伸び、中頸城平野に連る。山地は概れ森林繁茂し、林産物を出し、東北部の平坦地には水田開け、米を主産す。省線信越本線山縣及び新井驛に村道通じ交通不便ならず。

ヤシロ

矢代村

【八代村】山口縣周防國鹿毛郡の北端。北より西は都濃郡に、東は玖珂郡に界し、南は高水村に接す。面積一八・八六平方軒。三郡の會合點に位し、東南端は島嶺子ヶ岳(六九七米)峙ち、村内大部分は山地なるも南部の中央に低地ひらけ耕地を存す。粟落その附近に多く、米・麥・木炭の産あり。省線山陽本線勝間驛(勝間村呼坂)は南方五軒に位しこれとバスの便あり。(八代村鶴渡來地)指定天然記念物。渡來地は海拔四〇〇米の高地に於て、四方松林繁る花崗岩丘阜にて圍まれ水田に富む。鶴の渡來棲息地は須野河内地方を除き殆ど全村に亘り、主に水田なり。鶴は鶴のみにて近年次第に増加の傾向ありて二百數十羽を算す。渡來期は十月二十四日前後、去期は三月上旬なり。渡來経路はシベリヤ東部若くは蒙古方面より日本海を渡り山陰地方を過ぐるならん。

ヤシロ

屋代

【屋代】出雲國(島根縣)の古地名。和名抄に能義郡屋代郷あり。いま能義郡島田村にある支佐布社によりて郷名とせしむ。その地は凡そ島田村・安田村の地に當る。

【屋代】出雲國(今之羽前・山形縣)の古地名。和名抄に能義郡屋代郷あり。屋代は

潮來町の西北隣にて、西南は霞ヶ浦の吐口北利根川を隔て、千葉縣香取郡新島村と界す。大部分は、低き丘陵地にて森林あり。西南部北利根川沿岸は水郷の一帯にして水田多く、これと丘陵間に畑地あり、農業行はれ米・蕎麥を主産し、特産物には漆・吹あり。また製綿・織物も行はる。縣道は潮來町及び西北麻生町に通じ何れもバスの便あり。北利根川は水運の便よく、土浦・鹿島間の汽船通す。和名抄に行方郡八代郷とあるは蓋しこの地にして、村名は其遺稱なるべし。中世相武平氏北條氏の族大字島崎に住して島崎氏を稱す。幕末の勤王家前島徳之介(贈從五位)は此地の人なり。

【八代村】埼玉縣武蔵國北葛飾郡の中央。北部。幸手町の南に隣り、東は吉田村に南は田宮村・砂戸町に、西は高野・上高野二村に夾み隣接す。地は關東平野の一部にして全村土地低平、且つ古利根川による灌漑の便よろしきを得て水田隨所に發達す。主産業は農にして米を多産し、副業的なる養蠶業また見るべきものあり。社線東武鐵道日光線の幸手驛及び同伊勢崎線の砂戸驛(南埼玉郡文間村)に近く之とバスを通じ交通比較的便なり。

【八代村】新潟縣中頸城郡にあり、荒川の支流。妙高山の北面に源を發し、東北流すること約三〇軒、高田市の東南にて本流に注ぐ。

【八代村】富山縣越中國水見郡の西北部。寶達山脈中部の地を占め、西北より北は石川縣能登國鹿島郡に隣接す。水見町の西北方約四軒にあり。東南に傾斜する丘陵地にして山林多く、中部を南流する河津もあるも平地狭く耕地に乏し。米・麥・蕎麥等の農産物のほか、林産あり。水見町より邑知湯地溝帯に出づる縣道南北に貫通し、南方省線水見線の水見驛へはバスの便あり。中世は庄名に呼ばれ、東隣に八代保と見ゆるも蓋しこととす。(磯部神社)大字磯部に鎮座。無格社。祭神、天日方奇日方命。式内社。例祭、四月五日・九月二十二日。

【八代村】兵庫縣但馬國城崎郡の南部。日高町の北に隣接す。東北方約八軒に豊岡町あり。四周山岳を繞らし西北部に大岡山(六六四米)が聳居す。中部より東流する河川ありて東隣國府村に入り朝来川に合す。村内平地乏しきも谷地に農業行はれ米・蕎麥・食用産物・蔬菜・麥類・果實等の農産あり、また鶏卵・竹製品・瓦等の産もあり。省線山陰本線江原驛(日高町)は南方二軒余にあり交通なほ便ならず。古くは和名抄、氣多郡狹沼郷の内なるべし。近世八代谷と稱す。太田文に歡喜光院領八代庄五十三町八反とあるはこととす。

【八代】伯耆國(鳥取縣)の古地名。和名抄に久米郡八代郷見ゆ。その地はいま八頭郡社村の邊をいふ。

【屋代】出雲國(島根縣)の古地名。刊本和名抄は大原郡に屋代郷を設すれどもいま高山寺本によりてこれを補ふ。その地は評かならざれどもいまの大原郡賀茂町の中か。



ヤシロ—ヤス

に出でたるものなり。其地いよ屋代村・小松町の邊に當る。

ヤシロガワ

社川村

福島縣

磐城國東白川郡の西北部。棚倉町の北に隣り、東は石川郡、北及び西は西白河郡に接す。村の西南境に富士山(四四七米)聳え、南部及び北部は丘陵をなし、中部は平坦にして、社川東北に貫流す。村の生業は農を主とし、米・蕎麦を産出す。道路は中部を南北に通じ、北方矢吹町、南方棚倉町、東北方石川町へは各バスの便あり。社川白根鐵道は金澤内線(大正五年設置)を置く。古くは和名抄、白河郡入野郷の内とす。大字上臺の鹿子山に赤館城址あり。戦國比に佐竹氏の高野郷(南郷)を略するや、赤館を以て其根城をなす。慶長・元和の際には立花・丹羽の二將の江戸幕府の賓客たるや、赤館は實に其地也なり。寛永元年棚倉城の廢せらるゝや、當城も亦廢せらる。

ヤシロタ

矢代田

新潟縣中蒲原郡

小須戸町の大字。省線信越本線の矢代田驛(明治三十年設置)あり。

ヤス

夜須

高知縣土佐國香美郡の西南部。

岸本町の東に隣接し、東は安藝郡に界し、南は土佐郡に臨む。土地東北より西南の方向に狭長なり。東南・北西の兩境には銅山の西南段の末端をなす山嶽連なり、東北半部は概ね山地なるも、その山間より出づる夜須川村の中部を西南流して土佐海に注ぎ、中流以下に三角形の平地あり。縣道四通して自動車便もよし。本郡は成務天務の朝國造を定め給へる近淡海安國が國郡制定の時、郡となり、近江國に隸したるものなるべし。持統紀七年の條に益須郡と見ゆ。和名抄は野洲郡に作り三上・敷智・服部・明見・通保・津原の六郡を置く。

野洲町

滋賀縣近江國野洲郡の南部。

野洲川に跨り守山町の東北に接す。全村地形低平にして一望の沃野をなす。全村數七〇六戸中、四八八戸が農家にして一・二八戸が商業、六三戸が工業にて其他は二七戸なり。町とは昔へ農家が多数を占め米・蕎麦・菜種・桑葉・織田用作物・茶等を産し晒の特産物あり。教信坊の始めし以來約三百年來の特産たる野洲晒は廣き芝生の晒場と清澄な水とに恵まれて發達せるものなり。東部に中山道が通ずるを初め縣道四通してバスの便よく、また省線東海道本線は東部を東北より西南に貫きて野洲驛(明治二十二年設置)あり。延喜兵部省式に野洲傳馬五疋とあるは本町邊なるべし。和名抄に野洲郷なきも或は脱漏せしものならん。また續日本紀天平十二年十二月の條に、野洲領宮の名見ゆ。これまた本町邊に擬すべきにや。古くより名邑として知られ、明治四十四年町制を布き、郡制施行以來郡役所の所在地たりき。(新川神社) 縣社。祭神、新川命。式内社。神位、仁和元年正五位上。舊稱、上新川神社。例祭、五月八日。(稻

ヤス—ヤスイ

ヤス

て耕地をなす。平地には農業行はれて米・蕎麦を産し、また野麥の促成栽培營まれ山地には木炭・木材等の林産あり。東南岸に手結岬突出して良港をなす爲漁業盛にして鮭・鱒等の漁獲大なり。最近は木製品・生糸製造等の工業も興る。海岸に並行して縣道及び社線高知鐵道貫通し、後者は夜須(昭和三年設置)・手結(大正十三年設置)・土佐住吉(昭和五年設置)の三驛を設く。また縣道上は西は後免町を経て高知市へ、東は安藝町を経て室戸岬方面へバスを通じ、交通不便ならず。手結港は手結岬の西方にありて、慶安三年野中兼山試掘し、更にまた水應元年開掘して成就せしもの。近年港口閉塞して大船を通過せざりしが、明治四十四年來、縣はその修築をなし、船舶の寄港に便する事を得たり。手結岬一帯は海水浴場として其名知らる。海濱には小磯起伏して干潮時には凹部に貯へたる潮水が自然日光に熱せられて湯の如くなり浴槽に通ず。岬端に夫婦岩ありて奇景を以て稱へらる。こゝは古昔傳説と呼び、壽永元年夜須城主夜須七郎行家、平氏の家人進進家嗣・平田俊遠に追はれ、船を頼りて紀伊に赴きし所とす。また大字手結眞行寺境内に臥龍船の老樹あり。地上一・三米の周圍一・七米、樹高一二米にして推定樹齡は七百五十年といはる。昔、夜須七郎行家が妻と二年上國に際し記念として植へたるこゝと傳へらる。(夜須城) 大字手結に址あり。鎌倉時代、夜須七郎行家居城す。行

家かてて源氏に親近なり。源頼朝の弟希義、平治の亂に平氏のために土佐に流され、長岡郡介良庄に居りしが、壽永元年九月、希義、行家と約あり、行家を訪はんと夜須城に赴く途中、平家の家人進進家嗣・平田俊遠等に、長岡郡年越山にて討たる。行家、急を聞き直に一族を率ゐる應援せんと物部川の東、野々宮に至り、希義の既に殺されしを聞き、突しく還れり。家嗣等また行家を討たんとす、行家、果敢乗船し傳説を發せんとせしも、家嗣等馳せ到り、使を遣し行家を誅殺せんとせしに、行家却て使者を斬り紀伊に航せり。尋で歸國し、後、恩賞を蒙る。(八幡宮) 大字夜須に鎮座。郡社。祭神、應神天皇。例祭、七月廿八日・十月五日。

夜須

高知縣土佐國香美郡の西南部。

岸本町の東に隣接し、東は安藝郡に界し、南は土佐郡に臨む。土地東北より西南の方向に狭長なり。東南・北西の兩境には銅山の西南段の末端をなす山嶽連なり、東北半部は概ね山地なるも、その山間より出づる夜須川村の中部を西南流して土佐海に注ぎ、中流以下に三角形の平地あり。縣道四通して自動車便もよし。本郡は成務天務の朝國造を定め給へる近淡海安國が國郡制定の時、郡となり、近江國に隸したるものなるべし。持統紀七年の條に益須郡と見ゆ。和名抄は野洲郡に作り三上・敷智・服部・明見・通保・津原の六郡を置く。

野洲町

滋賀縣近江國野洲郡の南部。

野洲川に跨り守山町の東北に接す。全村地形低平にして一望の沃野をなす。全村數七〇六戸中、四八八戸が農家にして一・二八戸が商業、六三戸が工業にて其他は二七戸なり。町とは昔へ農家が多数を占め米・蕎麦・菜種・桑葉・織田用作物・茶等を産し晒の特産物あり。教信坊の始めし以來約三百年來の特産たる野洲晒は廣き芝生の晒場と清澄な水とに恵まれて發達せるものなり。東部に中山道が通ずるを初め縣道四通してバスの便よく、また省線東海道本線は東部を東北より西南に貫きて野洲驛(明治二十二年設置)あり。延喜兵部省式に野洲傳馬五疋とあるは本町邊なるべし。和名抄に野洲郷なきも或は脱漏せしものならん。また續日本紀天平十二年十二月の條に、野洲領宮の名見ゆ。これまた本町邊に擬すべきにや。古くより名邑として知られ、明治四十四年町制を布き、郡制施行以來郡役所の所在地たりき。(新川神社) 縣社。祭神、新川命。式内社。神位、仁和元年正五位上。舊稱、上新川神社。例祭、五月八日。(稻

ヤス—ヤスイ

家かてて源氏に親近なり。源頼朝の弟希義、平治の亂に平氏のために土佐に流され、長岡郡介良庄に居りしが、壽永元年九月、希義、行家と約あり、行家を訪はんと夜須城に赴く途中、平家の家人進進家嗣・平田俊遠等に、長岡郡年越山にて討たる。行家、急を聞き直に一族を率ゐる應援せんと物部川の東、野々宮に至り、希義の既に殺されしを聞き、突しく還れり。家嗣等また行家を討たんとす、行家、果敢乗船し傳説を發せんとせしも、家嗣等馳せ到り、使を遣し行家を誅殺せんとせしに、行家却て使者を斬り紀伊に航せり。尋で歸國し、後、恩賞を蒙る。(八幡宮) 大字夜須に鎮座。郡社。祭神、應神天皇。例祭、七月廿八日・十月五日。

夜須

高知縣土佐國香美郡の西南部。

岸本町の東に隣接し、東は安藝郡に界し、南は土佐郡に臨む。土地東北より西南の方向に狭長なり。東南・北西の兩境には銅山の西南段の末端をなす山嶽連なり、東北半部は概ね山地なるも、その山間より出づる夜須川村の中部を西南流して土佐海に注ぎ、中流以下に三角形の平地あり。縣道四通して自動車便もよし。本郡は成務天務の朝國造を定め給へる近淡海安國が國郡制定の時、郡となり、近江國に隸したるものなるべし。持統紀七年の條に益須郡と見ゆ。和名抄は野洲郡に作り三上・敷智・服部・明見・通保・津原の六郡を置く。

野洲町

滋賀縣近江國野洲郡の南部。

野洲川に跨り守山町の東北に接す。全村地形低平にして一望の沃野をなす。全村數七〇六戸中、四八八戸が農家にして一・二八戸が商業、六三戸が工業にて其他は二七戸なり。町とは昔へ農家が多数を占め米・蕎麦・菜種・桑葉・織田用作物・茶等を産し晒の特産物あり。教信坊の始めし以來約三百年來の特産たる野洲晒は廣き芝生の晒場と清澄な水とに恵まれて發達せるものなり。東部に中山道が通ずるを初め縣道四通してバスの便よく、また省線東海道本線は東部を東北より西南に貫きて野洲驛(明治二十二年設置)あり。延喜兵部省式に野洲傳馬五疋とあるは本町邊なるべし。和名抄に野洲郷なきも或は脱漏せしものならん。また續日本紀天平十二年十二月の條に、野洲領宮の名見ゆ。これまた本町邊に擬すべきにや。古くより名邑として知られ、明治四十四年町制を布き、郡制施行以來郡役所の所在地たりき。(新川神社) 縣社。祭神、新川命。式内社。神位、仁和元年正五位上。舊稱、上新川神社。例祭、五月八日。(稻

ヤス

夜須

高知縣土佐國香美郡の西南部。

岸本町の東に隣接し、東は安藝郡に界し、南は土佐郡に臨む。土地東北より西南の方向に狭長なり。東南・北西の兩境には銅山の西南段の末端をなす山嶽連なり、東北半部は概ね山地なるも、その山間より出づる夜須川村の中部を西南流して土佐海に注ぎ、中流以下に三角形の平地あり。縣道四通して自動車便もよし。本郡は成務天務の朝國造を定め給へる近淡海安國が國郡制定の時、郡となり、近江國に隸したるものなるべし。持統紀七年の條に益須郡と見ゆ。和名抄は野洲郡に作り三上・敷智・服部・明見・通保・津原の六郡を置く。

野洲町

滋賀縣近江國野洲郡の南部。

野洲川に跨り守山町の東北に接す。全村地形低平にして一望の沃野をなす。全村數七〇六戸中、四八八戸が農家にして一・二八戸が商業、六三戸が工業にて其他は二七戸なり。町とは昔へ農家が多数を占め米・蕎麦・菜種・桑葉・織田用作物・茶等を産し晒の特産物あり。教信坊の始めし以來約三百年來の特産たる野洲晒は廣き芝生の晒場と清澄な水とに恵まれて發達せるものなり。東部に中山道が通ずるを初め縣道四通してバスの便よく、また省線東海道本線は東部を東北より西南に貫きて野洲驛(明治二十二年設置)あり。延喜兵部省式に野洲傳馬五疋とあるは本町邊なるべし。和名抄に野洲郷なきも或は脱漏せしものならん。また續日本紀天平十二年十二月の條に、野洲領宮の名見ゆ。これまた本町邊に擬すべきにや。古くより名邑として知られ、明治四十四年町制を布き、郡制施行以來郡役所の所在地たりき。(新川神社) 縣社。祭神、新川命。式内社。神位、仁和元年正五位上。舊稱、上新川神社。例祭、五月八日。(稻

ヤス—ヤスイ

縣道西南部低地を西北二日市町より東り、東南方甘木町方面に走りてバスを通じ、社線朝倉軌道通じて石橋驛を設け、交通便利なり。古くは夜須郡の中屋郷の内とす。明治四十一年三根・中津屋・安野の三村を合併して夜須村を建つ。村内の七板原は神功皇后の羽白鹿を討ち給ひし層岩野の地なりといふ。一に糸島郡雷山村にも層岩野の名ありといふも、地理、神功紀に合はず。(中津屋神社) 大字祇上に鎮座。郡社。祭神、神功皇后外二神。例祭、九月廿四日。

野洲

滋賀縣(近江國)十二郡の一。

野洲川及び日野川の下流域を占めて琵琶湖に臨み、對岸に滋賀郡を望む。面積一〇二方軒餘。東南部に鏡山(三三五米)・三上山(四二八米)等の丘陵性山地あるも其他は野洲川及び日野川の沖積地にて、地形極めて平坦なり。野洲川は郡の中部を西北に貫きて河道は二條に分れ、共に琵琶湖岸に小三角洲を造る。日野川は北部を西北流して湖に注ぎ、同じく小三角洲をつくり、その東西に湖の小支洲を擁す。水利の便よく且つ、土地肥沃なる爲、田畑よく發達して米・蕎麦・桑・茶・菜種等の農産物多く林産・水産物もあり。郡内は守山町・野洲町の外十一ヶ村を含み、人口密度は一方軒につき四一六八人に達す。守山町の如きは最も多く一〇八三人に達す。最も少くも三上村の一八八人なり。中山道及び省線東海道本

野洲

滋賀縣(近江國)十二郡の一。

野洲川及び日野川の下流域を占めて琵琶湖に臨み、對岸に滋賀郡を望む。面積一〇二方軒餘。東南部に鏡山(三三五米)・三上山(四二八米)等の丘陵性山地あるも其他は野洲川及び日野川の沖積地にて、地形極めて平坦なり。野洲川は郡の中部を西北に貫きて河道は二條に分れ、共に琵琶湖岸に小三角洲を造る。日野川は北部を西北流して湖に注ぎ、同じく小三角洲をつくり、その東西に湖の小支洲を擁す。水利の便よく且つ、土地肥沃なる爲、田畑よく發達して米・蕎麦・桑・茶・菜種等の農産物多く林産・水産物もあり。郡内は守山町・野洲町の外十一ヶ村を含み、人口密度は一方軒につき四一六八人に達す。守山町の如きは最も多く一〇八三人に達す。最も少くも三上村の一八八人なり。中山道及び省線東海道本

ヤス

夜須

高知縣土佐國香美郡の西南部。

岸本町の東に隣接し、東は安藝郡に界し、南は土佐郡に臨む。土地東北より西南の方向に狭長なり。東南・北西の兩境には銅山の西南段の末端をなす山嶽連なり、東北半部は概ね山地なるも、その山間より出づる夜須川村の中部を西南流して土佐海に注ぎ、中流以下に三角形の平地あり。縣道四通して自動車便もよし。本郡は成務天務の朝國造を定め給へる近淡海安國が國郡制定の時、郡となり、近江國に隸したるものなるべし。持統紀七年の條に益須郡と見ゆ。和名抄は野洲郡に作り三上・敷智・服部・明見・通保・津原の六郡を置く。

野洲町

滋賀縣近江國野洲郡の南部。

野洲川に跨り守山町の東北に接す。全村地形低平にして一望の沃野をなす。全村數七〇六戸中、四八八戸が農家にして一・二八戸が商業、六三戸が工業にて其他は二七戸なり。町とは昔へ農家が多数を占め米・蕎麦・菜種・桑葉・織田用作物・茶等を産し晒の特産物あり。教信坊の始めし以來約三百年來の特産たる野洲晒は廣き芝生の晒場と清澄な水とに恵まれて發達せるものなり。東部に中山道が通ずるを初め縣道四通してバスの便よく、また省線東海道本線は東部を東北より西南に貫きて野洲驛(明治二十二年設置)あり。延喜兵部省式に野洲傳馬五疋とあるは本町邊なるべし。和名抄に野洲郷なきも或は脱漏せしものならん。また續日本紀天平十二年十二月の條に、野洲領宮の名見ゆ。これまた本町邊に擬すべきにや。古くより名邑として知られ、明治四十四年町制を布き、郡制施行以來郡役所の所在地たりき。(新川神社) 縣社。祭神、新川命。式内社。神位、仁和元年正五位上。舊稱、上新川神社。例祭、五月八日。(稻

ヤス—ヤスイ

ヤス







設置)を置く。また縣道種益田線は村の南端を横断して、益田町にて國道に接続し、縣道津田郡茂原は津田にて國道より分岐し北仙道村を通り東仙道村にて益田郡茂原に相會す。當村生産物の首位を占むるは米にして、之を大部分とし全農産物及び同加工品を合し一〇萬圓を超ゆ。工業七八萬圓あり、之に次ぐものには養蠶・畜産・水産を掲ぐべし。蠶表は當村の特産物にして、外に遠田海岸には砂鐵を埋藏し、殊にその砂鐵にはチタニウムを含有することは注意すべく、本邦には稀なる存在とす。また遠田には白色重結土ありて副産染料或は赤瓦製造用に供せらる。なほ當村に於ては勤勞並に勞働による収入は見逃すべからざる収入として五萬圓以上ののぼる。扱て遠田字鶴ノ鼻に圓墳・方基圓墳・前方後圓墳など約五十基に及ぶ集團古墳を築したるものは誰ぞ。それは開化天皇の皇后宮都都姫命の裔たる久城族にして、大和より來れるもの、而して前記古墳の形式及び發掘されたる漢土式の銅環頭劍及び銅鏡等により、かの古墳は凡そ崇神朝より天智朝に至る間の築造と想定せらる。また遠田字上遠田に圓墳を残せるものは、久城族より後に此地に來れる漢族にして、こは大陸より直接此地に移れるにはあらずして近畿或は九州地方より來れるもの、而して之は阿知使主を祖とする坂上族なりといふ。即ち阿知使主の子都賀使主に三子あり、その三男爾波伎は朝に仕へて内藏、

職に任じ坂上内藏と稱せしが、のち内藏は奥州に赴き、更に彼或は其族が上遠田の地に來りて永住す。その子孫は今に當村に津江族として残る。爾波伎六世の孫に鼓良あり、農民の屋々早稲に苦しむに より池を造る(紀元一千三百年代)。これ恐らくは本郡に於ける最初の池なるべし。今に池堤の字名を残す。鼓良の曾孫に京宗あり、醫藥の術を學びてのち京春と名乗り樂舞のかたばら醫藥をなして遠近に名あり。築堤と云ひ醫藥と云ひ、子孫連綿今日に残る。斯くの如きにも因るか。萬壽三年五月には大海嘯あり、此時鴨島半島崩壊して遠田港に異常なる變化を來せるもの、如く、かくて遠田村民は恐れをなし低地にありし者は丘陵方面に移動す。建久三年に御神本堂高益田に移り石見守護となれるが、その七世の孫次郎左衛門兼治は遠田城主となりて遠田を開拓す。これ遠田氏の祖なり。また仙道四ツ山城主須藤忠朝の臣藤原土佐正は元龜元年四ツ山城を毛利勢に攻めせらるゝや二子と共に脱し、後年二男四郎左衛門は上津田に土着し、其男は遠田の初代庄屋となる。このほか當村成立の人的要素となりし者は、多くは中世より近世にかけての戦敗者の當地に逃れて土着したる人々なりとす。紀元二千三百年代に大島小助なるものあり。萬壽の大海嘯このかた遠田方面の耕作は何人も手を下さざりしところ、彼は沿岸に一大砂堤を築造して遂に耕地化するに至る、これ今日の字

上遠田の基とす。このため大島家は零落したるが、今日當村に傳承する人柱傳説は之に因由するものなり。天明年間當地に大領あり、之に繼みて遠田の庄屋山崎嘉兵衛、津田の庄屋矢富平三郎は農民に甘言を移せしむ。山崎氏は山崎式部大輔の子孫と云ひ矢富氏は一時美濃郡七十五箇村の割元庄屋たりしことあり。また紀元二千三百年代和佐田治兵衛なるもの豊後より關東を移殖し墨表の製造を奨励す、これ今日遠田が墨表産地たる所以なり。彼は此外に製紙や椎茸の栽培をも奨励したるが、彼が紙漉重寶なる木版の出版をなしたるは、頗る特異なる事とす。(八幡宮)津田にあり。俗に水雲島八幡といふ。郡社にて祭神は應神天皇・神功皇后・多喜理比賣命・多喜津比賣命・市杵島比賣命。元祿十六年郡落大火の際類焼し、今日の社殿は享保三年の建築に係る。恐らくは久城族の氏神なりしなるべし(例祭十月二日)。(信行庵)遠田にあり、本派本願寺末にて本尊は阿彌陀佛。赤穂義士の一人、寺坂古右衛門の開基といふ。一時廢損したるを文化五年願淨中興す。(觀音寺)津田にあり、曹洞宗永平寺派妙法寺末、本尊觀世音菩薩、殊梅和尚を開山とす。(東方寺)遠田にあり、臨濟宗東福寺派覺光寺末にて、本尊は藥師如來、覺光寺第九世開山の創建なり。(尊龍寺)津田にあり。眞宗大谷派にて本尊は阿彌陀佛。當地方の名刹にて俗名前田龍庵(覺佛)法名念西の草創に係

り、境内には徳行者前田靈の墓あり。【安田】廣島縣甲奴郡にありし村。大正元年本村外四ヶ村を廢し上川村を置く。【安田村】香川縣讚岐國小豆郡の東部。草壁町の東に位し、北は福田村に、南は前羽村に界し、東は播磨灘に、南西は内ノ海灣に面す。西北隅に聳ゆる星ヶ城山(八一七米)の山麓村の中部を東南の方向に延び東西海岸に向つて急傾す。北東部には斷崖をなす所あり、西南部には稍々廣き沖積地あり小河を流れて内ノ海灣に注ぐ。流域には耕地拓けて麥・豆類・米等を産し、丘陵地には蜜柑類の栽培あり。沿岸にては漁業行はる。また素懸・醬油の製造行はる。主邑は西南部にひらけ、縣道通じ西方土庄町へパスを通す。古く附近諸村と共に草壁庄と稱せらる。西北境上の星ヶ城山は小豆島中第一の高峯とす。興國年中、備前の入佐々木信風ここに城きて吉野朝に應ぜしが、正平二年細川頼之のために攻められ城遂に陥る。【安田町】高知縣土佐國安藝郡の南部。東は田野町に隣接し、西は伊尾木・川北二村を隔てて安藝町に近く、北は中山村に界し、南は土佐河に臨む。面積一六・八四方軒。北には高取數百木の諸山聳えて何れも南方に山脚を伸し海岸に向つて低下しその先きに砂灘地を開く。中央には安田川南流し流域に沖積平地を開く。温暖なる氣候に恵まれて農牧盛なり。米・繭の産多く野菜・果實の栽培をなしたる

牧牛を營む。山地は林産に富み木炭・木材の産あり。沿岸は漁業を營み蠶・蠟等の漁獲あり、また遠く捕鯨に出漁するものもあり。市街は安田川右岸に開け漁港をなす。海岸に沿ひて安藝町より來る縣道は町にて方向をかへて河川右岸に沿ひて北走し中山村に至る。對岸には林用軌道南走し、河口にて東部海岸を田野町に至る。室戸町・高知市にパスの便あり。また海上は土佐沿岸汽船寄港す。古くは和名抄、安藝郡安田郷の内にして、中世安田莊(文永十年金剛頂寺文書)と云ふ。村名は蓋しその遺稱とす。大正十四年町制を布く。幕末の勤王家柏原省三(贈從五位)・柏原賴吉(贈正五位)・近藤次郎太郎(贈正五位)・宮田賴吉(贈從五位)・豊永芥馬(贈從五位)および江戸末期の僧侶にして儒者として名聲ありし岡本孝浦(贈正五位)は共に此の地の人なり。【神樂神社】大字唐ノ濱に鎮座。縣社にして祭神大山祇命。相殿に天照大神・天兒屋根命・應神天皇を配祀す。大同年間、空海の草創に係ると傳へ中世神樂寺と稱し、本尊に十一面觀音を安置し、四國二十七番の靈場たりしと。三代實錄に伊奈地祇神とあるは即ち當社なり。例祭、五月二十八日・十月二十八日。境内に樟あり。本樹は地上・一米の周圍六・一米、樹高一五米、推定樹齡は五百年なり。【須賀神社】大字東島に鎮座。郷社。祭神、建速須佐之男命。例祭十月十五日。【八幡宮】大字安田字八幡に鎮座。郷社。

ヤスタ——ヤスタ

祭神、豊田天皇外二神。例祭、十月十五日。(神樂寺)大字唐ノ濱にあり。眞言宗。四國八十八所第二十七番の札所。大同年間空海の創建と傳ふ。御詠歌「み佛の誓の心かうの峯やいくばの地獄たひありとも」【安田川】高知縣安藝郡にある川。水源は神巴屋山(千本峠)の南麓にして、これより南流し、東方天狗森・鐘ヶ龍森・高善寺等の山背と西方安田川山・桑ノ木山・八杉森等の山背の間を流れ、馬路・中山等の山村を貫く。この附近は明所山事件にて有名なる森林にて、東方魚梁瀬の官行林に織き、杉・檜等の良材を産出する。別所より下流兩岸には比高六〇—一〇〇米の段丘ありて、畑作行はる。河岸は下流に於て著しく西方を侵蝕し、東側に緩斜面を發達せしめ、安田町に於て、土佐灣に注ぐ。流域約三〇軒。【保田村】和歌山縣紀伊國有田郡の西北部。箕島町の東に接して有田川に跨り、南西は紀伊水道に臨み、北は海草郡に界す。北部には長峯山脈の西部の明神山(三五六米)聳え、その南麓に沿ひて村の中央を有田川が西流す。沿岸には平野開け殊に南岸に廣し。東南部にも二・三〇米程の丘陵あり西々南に延びて南境を限り西端は石ノ鼻となる。西南部には稍々小丘ありて海に迫る。田畑よく拓けて米産多し、北部・南部の斜面地は一面の蜜柑畑なり。また本村は紀州除蟲菊の本場にして、排水よき砂質壤土の質鳥・保

田の平野は晩春より初夏にかけて見渡す限り白布を敷きつめたが如き除蟲菊の花盛となる。やがて花が満ち初むる七月には老いも若きも終日花を摘む。明治十九年一袋の種子より發育せる除蟲菊は水田の裏作として有田郡本場に全国的に播まれるものにして、本村は實に斯業の一大大中心地たり。除蟲菊は當地方産のもの外、全国各地より本村及び箕島町(集まり、大日本除蟲菊會社その他の工場にて採取製香・蚤取粉、または種々の驅蟲劑に加工精製せられて内外の市場へ賣捌かれる。有田川南岸には縣道が走り、北岸には省線紀勢西線が通過して西方一・五軒に箕島驛、東方一軒餘には紀伊宮島驛あり。和名抄に在田郡須佐郷とあるは、本村邊を稱せしもの。また保田は庄名にも呼ばれ、保田庄の名は建仁・嘉禎・弘長等の文書に見え、弘長の文書には地頭左衛門尉宗業とあり。また正應二年湯淺家結番次第にも保田庄を載せれば即ち湯淺の一族なるを知るべし。(須佐神社)大字千田に鎮座。縣社。祭神、素戔鳴命。延喜の制、名神大社に列し、月次・新嘗の兩祭に預る。平城天皇大同元年、神封十戸を賜はる。神階は貞觀元年、從五位下に進めらる。古來土俗觀難除の神として崇敬特に厚く、建武二年楠木正成、慶長六年淺野幸長等社領若干を寄進せりと云ふ。徳川頼宣、正保四年この地を領して以來、社殿の修造成り且つ大祭日定めらる。社寶の太刀(徳川吉宗寄進)一口は

現に國寶に指定せらる。例祭、十月十四日。(白鳥神社)郷社。祭神、日本武尊。式内社。例祭四月十日。(星尾郡都美)星尾郡財天神光寺附近の椋林中にあり。明惠紀州遺蹟郡都美(指定史蹟)の一とす。臺石ありて左の銘文あるも實蹟は失はれたり。建仁三年癸十一月十九日造立之(梵字) 瀧惠善 正月廿九日 嘉禎二年申 春日大明神 比丘喜海護記 御託宣之處 【ヤスタケ】安武村 福岡縣筑後國三浦郡の北隅。筑後川の左岸に位し、東は久留米市の西南部に接し、北及び西は筑後川を隔てて佐賀縣三養基郡に界す。全村地形低平にして北境に沿ひて西流する筑後川は西境にてS字形に東南折し更に西南に向ひ村境は之に沿ふ。水田多く米産豊かにして麥・繭・蠶等をも産す。東部には縣道および社線大川鐵道が控めて横貫し、後者の安武驛(大正元年設置)あり、中央には久留米市と城島町とを結ぶ縣道が東北より西南に貫き、交通至便なり。古くは和名抄、三瀬郡島養郷の内とす。



ヤスナ 安那(郡) 備後國(廣島縣)

の古郡名。吉備の穴國が大化改新の際郡となりて備後國に隸せるものか。安那は即ち穴を延べて二字とせるものにて、後世或は誤つてヤスナと訓するに至る。和名抄は夜須奈と註し大家・高道・三輪・拔屋・大坂の五郷及び驛家一を管す。明治三十一年十月深津郡と合して深安郡を建つ。

ヤスナガ 保永

【保永】 愛知縣南設楽郡にありし村。明治三十九年本村外八ヶヶ村を合して作手村を置く。

ヤスノ 安野

【安野村】 廣島縣安藝國山縣郡の南端。加計町の東南に接し、太田川の北岸に沿ふ。東は安佐郡、南は佐伯郡に界し、北は都谷村に接す。面積三一・六五平方軒。北境には大丸峯(七八九米)聳え、南境を太田川東南流す。一小川中央を南流して太田川に合し河岸に小平地を有するも、他は概ね山地にして、森林地をなす。農業・林業行はれ、米・麥・繭・木炭等を産す。太田川に沿うて縣道通加計町・可部町へバス便あり。

ヤスハラ 安原

【安野】 福岡縣朝倉郡にありし村。明治四十一年本村外二村を合して夜須村を新置す。

【安原村】 石川縣加賀國石川郡の西部。金澤市の西方約六軒、西北は日本海に濱す。面積六・五九平方軒の小村。北方岸川口の南よりつづく砂丘(高さ一〇—二〇米)海岸に近く連なり、その外側は平直なる砂濱をなす。砂丘の内側は加賀平野の一部にして平坦肥沃なる耕作地開け、概ね農業を主とし米を主産す。金石町—松任町間の縣道は村の中部を縦貫して、バスの便あり、これより伸びて金澤市へも縣道通交通便なり。古くは和名抄、石川郡加賀郡の地にして、壽永年間、源平戦風の舊蹟とす。

【安原村】 和歌山縣紀伊國海草郡の南部。西南郡は海南市の西北隅に接し、西は紀三井寺町に隣る。西北は和歌山市と三田村を隔つ。西境に名草山、南部・東南部にも小丘あるも、中部以北は和歌川の支流の流域平地、南部は西流する魚川の沿岸平地にして田畑よく折げ、米・繭等の産多く、柑橘を特産とし、また輪織物を出す。上熊野街道東南部を掠めて過ぎ、省線紀勢西線は西南隅を掠め四方約一軒に紀三井寺あり。東北部には社線と和歌山線道が掠めて過ぎ。附近町村と共に要塞地帯の一部なり。大字松原は昔の阿備の柏原の地にして武内宿禰誕生の中の一の井あり。傍に碑を建てて、武内宿禰誕生井と刻す。舊藩時代に四圍に垣を築し、井を鎖して夜に汲むを許さず、公子誕生の際は、この井水を産湯に用ゆる

ヤハラカミニシ 安原上西村

【安原上西村】 和歌山縣紀伊國海草郡の南部。西は紀伊郡に隣接す。東北は磯江村に、南は徳島縣に隣接す。面積二八・二二平方軒。讃岐山脈の北面に位置し南境に大龍山(九四四米)・龍王山(一〇五七米)等の山岳聳立して土地高峻なり。溪谷の諸水は中央部に集りて香東川となり、北隅より磯江村に出づ。寛

を例とせり。井の深さ水面まで三尺水深四尺許、水常に清く澄みて如何なる時も濁ることなしといふ。

ヤハラカミヒガシ 安原上東

【安原上東】 香川縣香川郡にありし村。大正七年香川郡と改稱す。

ヤスマン 安満嶽

【安満嶽】 一に安萬嶽。長崎縣肥前國北松浦郡平戸島の西北部、中野・獅子雨村の境に聳ゆる山。標高五一四米。

ヤスミス 安水

【安水】 滋賀縣犬上郡にありし村。明治二十五年龜山村と改む。

ヤスムロ 安室

【安室】 兵庫縣飾磨郡にありし村。昭和十一年姫路市に入る。

ヤセ 八瀬

【八瀬村】 京都府山城國愛宕郡の東南隅。八瀬童子で有名。八瀬村は京都市の東北郊外にあり。比叡山西側の階層屋下、八瀬川の流域に南北に走る階層谷にして、V字形の谷底を占む。本村は比叡山及び其の西方丹波高原の山地を其の境とし、僅かに右雨山地の中央に南北に延びる八瀬川峡谷に狭少の地積平地を見るに過ぎず。従つて農耕地少く、村經濟の大部分は木材・薪炭の生産に根柢を置く。近年八瀬山電線及び比叡登山ケーブル等の開通に伴ひ、比叡登山客の吞吐口となり、その八瀬驛附近には遊園地・旅館・料亭等を設け、又ケーブル終點四明驛驛附近は、遊樂地として利用せられ

【八瀬村】 京都府愛宕郡八瀬村を流るる川。京都市左京區に入りて高野川となり賀茂川に合す。また矢野川に作り往昔は夏結を朝廷に献上せり。

ヤタ 八田

【八田】 上野國(群馬縣)の古地名。和名抄に多胡郡八田郷あり。其の地いま多野郡吉井町・入野村の邊に當る。吉井町の大字に矢田あり、郷名の轉なるべし。

ヤタ 矢田

【矢田】 愛知縣の古地名。和名抄に下道郡八田郷あり、也多と訓す。いま吉備郡に備田村あり、これ郷名の遺稱なるべきか。

ヤタ 矢田

【矢田】 愛知縣の古地名。和名抄に下道郡八田郷あり、也多と訓す。いま吉備郡に備田村あり、これ郷名の遺稱なるべきか。



文武天皇の勅を奉じて建立し、僧徒を請じて供養の導師とすといふ。奥州の僧安珍、熊野に詣でんとして當國牟婁郡葛砂の庄司清司の家に宿す。其家の女清姫その美貌に懇想し、夫婦ならんことを迫る。安珍即ち參詣の願を遂げてのち其意に従ふべしと伴り、其歸路に及びて清姫の門前を走り過ぐ。彼女覺りて大に恨み大蛇となりて安珍を追跡す。安珍當寺に逃れて救を求め、梵鐘中に匿る。大蛇到りて鐘を纏ふや炬火焼上り大蛇また妻を消したり。寺僧驚き鐘中を檢せしに、安珍は已に焼死してたゞ白骨を殘せるのみなりしと傳ふ。往時は庄園百八十餘町を有し坊舎十八宇ありて寺門頗る隆盛なりしが、中世衰頽す。慶長六年領主淺野氏寺領若干を寄す。いま新西國三十三番第五番札所たり。本堂・仁王門・前堂本尊木造千手觀音立像一軀(藤原期の優作)等は國寶たり。

**ヤタ 屋田** 肥前國(佐賀縣)の古地名。和名抄に安父郡屋田郷あり、その地今詳かならざるも、三妻基郡島崎町の邊に當るか。

**ヤタ 谷田** 埼玉縣北足郡にありし村。昭和七年浦和町に編入し、浦和町は同九年市制を布く。

**ヤタ 箭田村** 岡山縣備中國吉備郡の中南部。高梁川の支流小田川の下流に沿ひ、本支合流地の西方約二軒に位す。面積七・四五平方町。地形稍南北に延び、北部には高さ三百米、南部は二百米内外の

山地盛り、中央を小田川東流し流域に廣き平地を形成し、北岸に耕地多し。米・麥・蕎麥・粟等を産す。山陽街道中央を東西に通し、南北に縣道を分岐す。岡山市へバスの便あり。古くは和名抄、下道郡八田郷の地に於て、村名は蓋しその轉訛なるべし。前太平記に天慶四年伊豫の海賊純友、備中八田の城に押寄せし由見ゆ。或は此地か。(箭田大塚古墳) 指定史蹟。矢砂に在り。八幡山の麓に築かれし圓墳にして長さ約一二米の義道を経て西大なる支室あり、奥行約八米、幅約三米、高さ約四米にして奥壁一枚石なり。この古墳より多数の出土遺物あり。地敷約三百五十點に達す。(吉備真備墓) 字箭田天神山と稱する小丘上に在り。元祿年間この地より枯骨を發見し、弘化四年伊東長寛の墓石を建てしものなり。(吉備備) 古義直宗。天平七年吉備備備の創建。本尊藥師佛に行基作、眞備の念持佛と傳ふ。

**ヤタイジン 矢大臣山** 阿武隈山地の一峯。平市の北西方三二軒前後、福島縣石城郡川前村と田村郡龍根村・夏井村の境上に峙つ。標高九六五米、山麓片麻岩より成る。夏井川は北西方より來り南麓を洗ひて南東流す。川に沿ひ磐城街道と省線勢越東線並び通す。

**ヤタカ 彌高** 岡山市の南西方約二五軒。岡山縣吉備郡都井田村の西部にあり。山妻略半圓形をなす。標高三〇〇餘米に過ぎ

ざれども、南方は低地をなすを以て、山頂より瀬戸内海の眺望佳なり。雪ふれば彌高の山の梢にはまた冬ながら花咲きにけり。藤原行盛。

**ヤタカワ 谷田川村** 福島縣磐城郡田村郡の西南部。守山町の東に隣りし南は石川郡に接す。阿武隈山地の西斜面に屬し、東南境に雲水峠(六七七米)聳えて西北方に傾斜し、東部・北部また丘陵をなし、谷田川は村の南部を西流し、沿岸に耕地拓く。米・麥・粟・蕎麥・粟・馬を産す。道路は村の南部を東西に通じ東南方小野新町、西南方岩瀬郡須賀川町へは各バスの便あり。省線本郡線通じ谷田川驛(昭和四年設置)を置く。本村の地は指定史蹟宇津峯の一部を占む。

**ヤタキ 矢瀧山** 矢瀧城山とも云ふ。江川下流の北方に當り、島根縣鹿野郡湯里村と邑智郡北村との境上に跨る山。標高六三八米。この地祖式式部元勝の居りし地なりと云ふ。北方に降路坂の山路東西に通す。

**ヤタケ 矢嶽** 省線肥後線の一驛(明治四十二年設置)。熊本縣球磨郡藍田村大畑にあり。我國最初のループ線のある處として知らる。※大畑

**ヤタケ 矢岳嶺山** 小佐々村(長崎縣北松浦郡) ↓小佐々村(長崎縣北松浦郡)

**ヤタコ 矢田郷村** 石川縣能登國鹿島郡の東部。七尾町の東南に隣接す。東南半は寶達山脈の末端なる高さ三

あり。古くは和名抄、江前郡八田郷の内とす。

**ヤタへ 矢田部村** 茨城縣常陸國鹿島郡の東南部。利根川下流の北岸に在り。波崎町の西北隣にあり。東北は鹿島灘に臨み、南は利根川を隔てて、千葉縣香取郡・海上郡と相對す。全村平地にて畑地多し。米・蕎麥を産し、また枇杷・桃・柿・葡萄・南瓜等の産出多し。海岸は單調平直なる砂濱をなす。縣道は利根川沿ひに西北より東南に走りて波崎町に通じ、主要部落はこれに沿ひて發達す。利根川一帯水運の便良く、對岸千葉縣香取郡豊里村との間に渡船の便あり。古くは和名抄、鹿島郡松浦郷の内とす。もとこの邊一帯一帯沙丘をなし、俗に常陸の沙山と稱せられたり。

**ヤタへ 谷田部町** 茨城縣常陸國筑波郡の南部。東は稻敷郡と隣す。大部分低き臺地をなすも、東部及び西部には臺地間に、南北に帯狀の低地あり。これは東南方半久沼に續く低地にて、大部分沼田をなす。臺地は畑地をなして所々林を交ふ。農業は米・小麦・大豆を産し、製粉・製材等も行はる。主要部落は町の中央、臺地上に發達し、縣道は之より四方に通す。そのうち東北方新治郡土浦町、西方結城郡海道町に通ずるものはバスの便あり。谷田部の名は遠く仁徳帝の御宇に起るといふ。而して古くは専ら八田と記せしが近世谷田部と稱す。元

滿濟鳴鐘。伊許保止神等九柱を祀りす。藩主前田氏の崇敬篤く、また近郊の聲信深きものあり。

**ヤタテ 矢立** 秋田縣秋田郡(青森縣南津輕郡)の古地名。和名抄に安父郡屋田郷あり、その地今詳かならざるも、三妻基郡島崎町の邊に當るか。

**ヤタテ 矢立村** 秋田縣秋田郡(青森縣南津輕郡)の古地名。和名抄に安父郡屋田郷あり、その地今詳かならざるも、三妻基郡島崎町の邊に當るか。

**ヤタテ 矢立** 秋田縣秋田郡(青森縣南津輕郡)の古地名。和名抄に安父郡屋田郷あり、その地今詳かならざるも、三妻基郡島崎町の邊に當るか。

**ヤタテ 矢立** 秋田縣秋田郡(青森縣南津輕郡)の古地名。和名抄に安父郡屋田郷あり、その地今詳かならざるも、三妻基郡島崎町の邊に當るか。

**ヤタテ 矢立** 秋田縣秋田郡(青森縣南津輕郡)の古地名。和名抄に安父郡屋田郷あり、その地今詳かならざるも、三妻基郡島崎町の邊に當るか。

**ヤタテ 矢立** 秋田縣秋田郡(青森縣南津輕郡)の古地名。和名抄に安父郡屋田郷あり、その地今詳かならざるも、三妻基郡島崎町の邊に當るか。

**ヤタテ 矢立** 秋田縣秋田郡(青森縣南津輕郡)の古地名。和名抄に安父郡屋田郷あり、その地今詳かならざるも、三妻基郡島崎町の邊に當るか。



地にして、いま神戸市兵庫の邊に當る。〔八部〕 備中國(岡山縣)の古地名。和名抄に賀夜部八部郷あり、也多倍と訓す。八田部の部曲民の居りし處。いま吉備郡總社町の地に當ると云ふ。

ヤチ 八千 周防國(山口縣)の古地名。和名抄に吉敷郡八千郷あり。延喜兵部省式に周防國八千郷馬二十疋とあり。山陽道に沿ふ大野なり。郷域はいま吉敷郡陶・名田島・大道・錦・錢司等の諸村に互るも、譯は大道に在りしなるべし。

ヤチ 八知村 三重縣伊勢國一志郡の西南部。雲出川上流に跨り西北部は名賀郡に接し、西々北方約一三軒に名賀町あり。西境には東北より西南に山岳相連りて尻ヶ岳・大洞山等は標高一〇〇〇米に近し、山地は東方へ傾斜し南部も北斜面をなす。東境にも山地南北に連り六―七百米の高度を有す。中央東部には北流する雲出川上流あり、北部に於て東北に向ひ隣村竹原村に出づ。低地乏しく耕地少きも、繭・米・麥・茶等の農産物を産し工業・林産もあり又畜産をも出す。河谷に沿ひて省線名松線通過し伊勢鎌倉・伊勢八知・比津の三驛(何れも昭和十年設置)を置く。

ヤチ 谷地町 山形縣羽前國西村山郡の東北部。赤河江町の東北方約六軒。東は最上川を隔てて北村山郡に接す。面積一八・五一方軒。山形盆地の西縁に屬し、西北部に丘陵ある外、全町概ね平坦にして水田拓く。最上川は東部を北流し、用

て南方海上郡旭町に通ず。小見川町・旭町へはバスの便あり。小見川町には省線成田線小見川驛(昭和六年設置)あり。この地古くは和名抄、海上郡麻郷の内なるべし。鹿島治亂記原本に鹿島五郎左衛門景幹は永正九年壬申十月、越州米野井にて合戦討死すと見ゆ。米野井は蓋し大字米ノ井の地なり。

ヤツ 谷津 下河津村(静岡縣賀茂郡)の南東部。富士火山帯の南端。同火山帯中富士山に次ぐ標高を有する一大火山にして、長野・山梨兩縣境上を南北に延び、東側は長野縣南佐久郡と山梨縣北佐久郡の諸村に、西側は長野縣諏訪郡の諸村に屬す。南方は日本南アルプスの駒ヶ岳・鳳凰山と相對し、北西方は蓼科山及び霧ヶ峯火山に連り、東南は甲府盆地に向つて優美なる裾野を曳き、西方は諏訪湖畔に廣大なる山麓を延ぶ。この山は第三紀の末より第四紀洪積期の末にかけて、釜無・千曲の兩斷層間に於ける太古紀層の一大裂罅に沿ひて噴出せる二重式火山にして、外輪山中央火口丘・寄生火山より形成せらる。基底は古生層にして外輪山は橄欖石・輝石・安山岩及び輝石・安山岩より成り、成層圓錐火山をなし、その山頂部は著しく開析せられ、夏澤峠(最高點二二九二米)以南に南より北にかけて、編笠岳(二五二四米)・西岳(二二六四米)・權現岳(二七八六米)・阿彌陀岳(二八〇七米)・赤岳(二八九九米)・横岳(二八三〇米)・碓氷岳(二七四〇米)・峰

ノ峰目(二五六七米)等の八岳聳立し、山名も亦これより出づ。これ等諸峯は半圓狀に並び立ち、西方に開くカルデラ狀の破谷の周縁をなし、山頂部は裾野狀を呈し、内縁は殆んど絶壁に等しく急傾斜をなすも、外縁は緩徐なる對數曲線を描きて廣大なる裾野に續く。阿彌陀岳は中央火口丘にして諸峯の時々中央に位し、輝石・安山岩及び角閃輝石・安山岩より成る成層火山たり。碓氷岳は外輪山の北東側上部に寄生する火山にして、橄欖石・輝石・安山岩より成り、山頂に小火口址を留む。以上の如き構成なれどもその活動期を去ること久しく従つて徒然甚しく、山容破壊せられ、もとは一帯の火山なりしも、今は全く孤峯の如き形觀を有す。裾野は東・南・西の三方に廣がり、諏訪郡に廣がるを泉平、佐久郡に廣がるを海之日平、甲州側のものを見平と呼ぶ。東麓の水は千曲川に集まりて北西流し、富士川の上支釜無川は南西麓の水を集めて東南流し、西麓の水は上川又は宮川に入りて諏訪湖に注ぐ。この山の植物景觀を見るに頗るその種類に恵まれ、山頂に概ね針葉樹の原始林にて掩られ、山腹・裾野は草原をなし、特に南東山腹なる美森(一五四三米)には高樹の大群落あり、我國有数の鶴岡の名所をなす。高山植物に於ても誠に品種豊かにして珍種極品多く、ヤツガサ・ムグラ・リンネサウ・ヤツガサ・タケツノブ・ヒメリンドウ・ヒメセンブリ・ウツモグサ・ムカゴエキノコト

保倉川の本支流と放水路とに圍まれたる細長き海岸漁村なり。土地平坦にして背後には水田あるも海岸は平直なる砂濱にして概ね漁業に従事す。西南隅は直江津港に面し近海漁船・運送船の碇泊地なり。省線信越本線及び北陸道は村内を西南―東北に縱走し前者の黒井驛(大溝村)・犀潟驛(湯野)に近し。大字東濱は其の名稱より推想せば或は古代倭因等の置かれし地にや。延喜式には當國倭因料九千東と見ゆ。明治天皇明治十一年北陸東海御臨幸の御この地にて御小休遊ばさる。

ヤチマタ 八街町 千葉縣下總國印旛郡の南部。北は酒井町と隣し、東は山武郡の一部に接す。面積大にして五三・五五平方軒あり。町の殆ど大部分は臺地にて、森林・原野多き大畑地あり。農業盛んにて、麥・米の産多し、養蠶桑菜と繭を多産す。その他養蠶も行はる。主要産物は町の東部に發達し、縣道はこれより四方に通じ、北は成田町、西北は佐倉町、東南は山武郡成東町、南は同東金町に通じ、東金町へはバスの便あり。省線武本線は中央を東南に走り、東部に八街驛(明治三十年設置)を置き、同驛より社線成田鐵道北走して三里塚に通じ、村内に東八街驛・古込驛(共に昭和五年設置)を置く。この地は昔小間子・柳澤二牧の地にして、明治二年原中の沃土を拓きしに始り漸次成功し、五年にして終に八街村生る。大正八年町制を布く。當地の開墾者にして、明治維新東討討伐の際に

多額の軍資金を献納せし西村郡司(贈從五位)は此地の人なり。明治天皇、明治十五年千葉縣下行幸の際この地にて御野立遊ばされ、いまその地は明治天皇丹尾臺御野立所として指定史蹟たり。

ヤチヨ 八千代村 徳島縣阿波國美馬郡の西部。中田町の南に位し、東は備山村に、南は一字村に界し、西は三好郡に隣接す。石鏡山脈中に位し、南部は高車一千米餘の峻岳連立して聳立し高峻なる山村をなし平地少し。山間谷地を耕作して米・麥・繭等を産す。林産豊富なり。中田町へは約六軒バスの便あり。もと中田奥山村と稱せしが、大正六年八千代村と改稱す。

ヤチワ 八千把村 熊本縣肥後國八代郡の西部。八代町の東北に接し西北は八代海に臨む。八代平野の一部を占めて全村地形極めて低平なり。日置川は東部を北流し北境に出でて西北に流れ八代海に入る。耕地廣く米・麥を主産す。八代町と東北方約四方面とを結ぶ縣道は東部を通過す。省線鹿児島本線八代驛は南方約一軒にあり。

ヤツ 八都村 千葉縣下總國香取郡の中部。小見川町の南隣にて、南は府馬町西は栗源町に接す。西半は丘陵地にて森林多く、東半は北方利根川時に續く平地の一部にて水田多く一帯の地をなす。農業行はれて米を主産し繭の産もあり。養蠶・養蠶も行はる。縣道は小見川町及び西北方佐原町に通じ、また南隣府馬町を

本線長坂驛より大泉村各戸を過ぎ、權現岳を経て赤岳等に至る。驛より赤岳山頂迄約九時間行程。この他中央本線小淵澤驛或は富士見驛より編笠岳を経て赤岳にも至り得らる。從走路は概して明瞭なるも、赤岳以南はその以北に比し稍困難なり。尙從走路には赤岳石室の外に大キレット小屋・編笠小屋等ありて適當なる宿營地をなす。

ヤツオ 八尾町 富山縣越中國礪波郡の南部。神通川の一支出田川に沿ひ、富山平野の南奥を占む。町は東・南・西の三方を飛騨高地北端をなす丘陵に圍まれたる井田川の谷合にあり、面積僅かに一方軒。略南北に長き矩形をなす。井田川は本町にて上流諸川を合流す。即ち西南隅にて室牧・野嶺の兩河合し西境を北流し更に東を流る。久慈須川・別荘川を町内にて會流し、富山平野に入る。町は古來養蠶・製糸を以て榮え、生糸の産額は百萬圓を突破し最も主要なるものなり。また製材・製紙・製綿・織工その他の工業は近時水力電氣の利用と相俟り頗る活氣を呈し、新興工業都市の面目を示すに至れり。その他農産・水産・畜産も多少あり、附近諸村の産物集散地として商業又繁盛なり。省線高山本線は本町を通過し越中八尾驛を隣村保内村に置く。また縣道集合し小田温泉その他近郊に通ずるバスの便あり。この地古くは和名抄礪波郡大山部の内なるべし。八尾は名義谷尾なるべし。民話小原節の本場として

ラキチラン等は特に名高し。又動物に於ても珍しきものあり、特に高山蝶ミヤマシロアブ・ヒメヒナドリ・タカネヒカゲ・ベニヒカゲ等、高山植物の間を翹々と舞ふ。又山腹の諸所には温泉水湧出し、西側山腹一四〇〇米―一八〇〇米の高所には温ノ湯・親湯・明治湯・湯ノ湯・赤岳温泉等、東面山腹約二二〇〇米には本澤温泉等數多くの温泉・硫黄泉分布し、遊樂地乃至登山根據地としてその名を知る。山頂より展望は雄大廣闊にして、南方に南アルプス、南方に中央アルプス、北西方に淺間山の噴煙を望み、北東方に上・信・武・甲の群山を眺め、南東方に麗華宮岳を仰ぐ。登山口は頗る多く、その主なるものを舉ぐれば左の如し。行程往復概ね二日を要す。(小諸口) 信越線小諸驛にて小海線に乘換へ、北東麓なる松原御驛下車、それより約五時間徒歩、本澤温泉に至りて一泊す。翌日碓氷岳北方鞍部なる夏澤峠最高點に至り、南登して碓氷岳に達し、更に横岳を経て赤岳に着す。赤岳は八ヶ岳の最高峯にして、山頂部に木造小祠並びに小屋赤岳石室あり。横岳は八ヶ岳中最も峭拔にして小突起十餘も連立し、突起上にそれれ、神佛を祀る。本澤温泉より赤岳迄約四時間行程なり。

〔茅野口〕 西麓なる中央本線茅野驛より祖原を横切り、赤岳驛泉下まで自動車、それより斜面を東方に登高す、赤岳山頂迄約四軒なり。(長坂口) 南麓なる中央

保倉川の本支流と放水路とに圍まれたる細長き海岸漁村なり。土地平坦にして背後には水田あるも海岸は平直なる砂濱にして概ね漁業に従事す。西南隅は直江津港に面し近海漁船・運送船の碇泊地なり。省線信越本線及び北陸道は村内を西南―東北に縱走し前者の黒井驛(大溝村)・犀潟驛(湯野)に近し。大字東濱は其の名稱より推想せば或は古代倭因等の置かれし地にや。延喜式には當國倭因料九千東と見ゆ。明治天皇明治十一年北陸東海御臨幸の御この地にて御小休遊ばさる。

ヤチマタ 八街町 千葉縣下總國印旛郡の南部。北は酒井町と隣し、東は山武郡の一部に接す。面積大にして五三・五五平方軒あり。町の殆ど大部分は臺地にて、森林・原野多き大畑地あり。農業盛んにて、麥・米の産多し、養蠶桑菜と繭を多産す。その他養蠶も行はる。主要産物は町の東部に發達し、縣道はこれより四方に通じ、北は成田町、西北は佐倉町、東南は山武郡成東町、南は同東金町に通じ、東金町へはバスの便あり。省線武本線は中央を東南に走り、東部に八街驛(明治三十年設置)を置き、同驛より社線成田鐵道北走して三里塚に通じ、村内に東八街驛・古込驛(共に昭和五年設置)を置く。この地は昔小間子・柳澤二牧の地にして、明治二年原中の沃土を拓きしに始り漸次成功し、五年にして終に八街村生る。大正八年町制を布く。當地の開墾者にして、明治維新東討討伐の際に

多額の軍資金を献納せし西村郡司(贈從五位)は此地の人なり。明治天皇、明治十五年千葉縣下行幸の際この地にて御野立遊ばされ、いまその地は明治天皇丹尾臺御野立所として指定史蹟たり。

ヤチヨ 八千代村 徳島縣阿波國美馬郡の西部。中田町の南に位し、東は備山村に、南は一字村に界し、西は三好郡に隣接す。石鏡山脈中に位し、南部は高車一千米餘の峻岳連立して聳立し高峻なる山村をなし平地少し。山間谷地を耕作して米・麥・繭等を産す。林産豊富なり。中田町へは約六軒バスの便あり。もと中田奥山村と稱せしが、大正六年八千代村と改稱す。

ヤチワ 八千把村 熊本縣肥後國八代郡の西部。八代町の東北に接し西北は八代海に臨む。八代平野の一部を占めて全村地形極めて低平なり。日置川は東部を北流し北境に出でて西北に流れ八代海に入る。耕地廣く米・麥を主産す。八代町と東北方約四方面とを結ぶ縣道は東部を通過す。省線鹿児島本線八代驛は南方約一軒にあり。

ヤツ 八都村 千葉縣下總國香取郡の中部。小見川町の南隣にて、南は府馬町西は栗源町に接す。西半は丘陵地にて森林多く、東半は北方利根川時に續く平地の一部にて水田多く一帯の地をなす。農業行はれて米を主産し繭の産もあり。養蠶・養蠶も行はる。縣道は小見川町及び西北方佐原町に通じ、また南隣府馬町を

本線長坂驛より大泉村各戸を過ぎ、權現岳を経て赤岳等に至る。驛より赤岳山頂迄約九時間行程。この他中央本線小淵澤驛或は富士見驛より編笠岳を経て赤岳にも至り得らる。從走路は概して明瞭なるも、赤岳以南はその以北に比し稍困難なり。尙從走路には赤岳石室の外に大キレット小屋・編笠小屋等ありて適當なる宿營地をなす。

ヤツオ 八尾町 富山縣越中國礪波郡の南部。神通川の一支出田川に沿ひ、富山平野の南奥を占む。町は東・南・西の三方を飛騨高地北端をなす丘陵に圍まれたる井田川の谷合にあり、面積僅かに一方軒。略南北に長き矩形をなす。井田川は本町にて上流諸川を合流す。即ち西南隅にて室牧・野嶺の兩河合し西境を北流し更に東を流る。久慈須川・別荘川を町内にて會流し、富山平野に入る。町は古來養蠶・製糸を以て榮え、生糸の産額は百萬圓を突破し最も主要なるものなり。また製材・製紙・製綿・織工その他の工業は近時水力電氣の利用と相俟り頗る活氣を呈し、新興工業都市の面目を示すに至れり。その他農産・水産・畜産も多少あり、附近諸村の産物集散地として商業又繁盛なり。省線高山本線は本町を通過し越中八尾驛を隣村保内村に置く。また縣道集合し小田温泉その他近郊に通ずるバスの便あり。この地古くは和名抄礪波郡大山部の内なるべし。八尾は名義谷尾なるべし。民話小原節の本場として

ラキチラン等は特に名高し。又動物に於ても珍しきものあり、特に高山蝶ミヤマシロアブ・ヒメヒナドリ・タカネヒカゲ・ベニヒカゲ等、高山植物の間を翹々と舞ふ。又山腹の諸所には温泉水湧出し、西側山腹一四〇〇米―一八〇〇米の高所には温ノ湯・親湯・明治湯・湯ノ湯・赤岳温泉等、東面山腹約二二〇〇米には本澤温泉等數多くの温泉・硫黄泉分布し、遊樂地乃至登山根據地としてその名を知る。山頂より展望は雄大廣闊にして、南方に南アルプス、南方に中央アルプス、北西方に淺間山の噴煙を望み、北東方に上・信・武・甲の群山を眺め、南東方に麗華宮岳を仰ぐ。登山口は頗る多く、その主なるものを舉ぐれば左の如し。行程往復概ね二日を要す。(小諸口) 信越線小諸驛にて小海線に乘換へ、北東麓なる松原御驛下車、それより約五時間徒歩、本澤温泉に至りて一泊す。翌日碓氷岳北方鞍部なる夏澤峠最高點に至り、南登して碓氷岳に達し、更に横岳を経て赤岳に着す。赤岳は八ヶ岳の最高峯にして、山頂部に木造小祠並びに小屋赤岳石室あり。横岳は八ヶ岳中最も峭拔にして小突起十餘も連立し、突起上にそれれ、神佛を祀る。本澤温泉より赤岳迄約四時間行程なり。